

2010(平成22)年9月 実施

第39回 足立区政に関する世論調査

定住性／区のイメージ・地域活動／「ビューティフル・ウィンドウズ運動」／小・中学校教育／
郷土博物館／「あだち広報」／日常の区民生活／保健・医療・高齢者福祉施策／
区政／区政への区民の意見の反映／人権



2011(平成23)年3月

足立区

はじめに

平成22年9月に、区内3千人の皆様を対象に実施いたしました世論調査の結果がまとまりましたので、ご報告申し上げます。

「暮らしやすさ」は85.7%と調査が始まった平成13年以降最高の値となりました。また「都市開発」「自然・緑化対策」が以前に比べて進んだとの回答が上位になりました。さらに、今後は「高齢者支援」「交通対策」「子育て支援」などに力を入れて欲しいとの区民要望も上位をしめています。

交通の利便性向上などにより、都市の機能面の評価が内外で高まり、人口増加や民間投資の増大につながっています。今後は単なる「便利さ」に加え、暮らしに対する安心感・満足感をより一層高めるための施策の充実が求められます。区民の皆様のニーズに真摯に耳を傾けながら、区政発展の新たなステップを着実に登ってまいりたいと考えます。今後ともぜひ区政にご理解とご参画をお願い申し上げます。

平成23年3月

足立区長 近藤 やすい

目 次

はじめに

I 調査の概要	3
II 調査結果の要約	13
III 調査結果の分析	21
1 定 住 性	
(1) 地域の暮らしやすい点、暮らしにくい点	25
(2)-1 区の図書館について、使いにくいと感じる理由	37
(2)-2 区の体育施設について、使いにくいと感じる理由	40
(3) 総合的な暮らしやすさ	43
(4) 定住・移転意向	47
(4)-1 区外に転出したいと感じる理由	52
2 区のイメージ/地域活動	
(1) 区に対する愛着や誇りにつながるもの	55
(2) 区に対する気持ち	60
(3) 足立区のイメージアップへの意向	70
(4) 地域活動の参加状況	74
(5) 参加した地域活動の認知経路	77
(6) 地域活動への参加意向	80
3 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」	
(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度	89
(2) 実践している「ビューティフル・ウィンドウズ運動」	92
(2)-1 防犯対策を始めたきっかけ	95
(3) 地域の変化についての評価	98
(3)-2 地域の変化についての評価	111
(4) 足立区の治安についてのイメージ	121
(5) 区内での犯罪被害経験	125

4	小・中学校教育	
(1)	小・中学校教育への関心	131
(2)	区の小・中学校教育へのイメージ	135
(3)	足立区の小・中学校教育で良くなってきたと思うこと	151
(4)	教育施策の認知度	156
5	郷土博物館	
(1)	「郷土博物館」における新展示の認知度	171
(2)	今後期待する郷土博物館の事業	174
6	「あだち広報」	
(1)	「あだち広報」を読んでいる程度	181
(2)	「あだち広報」でよく読む内容	184
(3)	「あだち広報」の“読みやすさ”についての不満点	189
(4)	「あだち広報」で今後充実してほしい内容	192
(5)	今後期待する広報媒体	198
7	日常の区民生活	
(1)	環境のために心がけていること	205
(2)	災害に備えていること	207
(3)	「洪水など浸水被害」に備え意識していること	210
(4)	「クーリング・オフ」制度の認知度	214
(5)	「クーリング・オフ」制度の認知内容	216
8	保健・医療/高齢者福祉施策	
(1)	保健と医療について	221
(2)	高齢者福祉施策の認知度	223

9	区 政	
(1)	区政に対する満足度	231
(2)	以前と比べてよくなったと思う区の取り組み	236
(3)	今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み	240
(4)	区の取り組みについての評価・印象	247
(5)	区政への参加・協力意向	260
10	区政への区民の意見の反映	
(1)	区政への区民の意見の反映について	267
(2)	区政への区民の意見の反映について(各項目ごと)	271
(2)-2	区政への区民の意見の反映について(各項目ごと)	284
(3)	意見を言うことのできる場の利用意向	294
(4)	区政へ意見を言うことができる場を利用しようと思わない理由	298
11	人 権	
(1)	人権についての関心	303
(2)	男女の地位の平等感/不平等を感じる場面	306
IV	使用した調査票	311

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

2 調査の内容

- (1) 定 住 性
- (2) 区 の イ メ ー ジ / 地 域 活 動
- (3) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (4) 小 ・ 中 学 校 教 育
- (5) 郷 土 博 物 館
- (6) あ だ ち 広 報
- (7) 日 常 の 区 民 生 活
- (8) 保 健 ・ 医 療 / 高 齢 者 福 祉 施 策
- (9) 区 政
- (10) 区 政 へ の 区 民 の 意 見 の 反 映
- (11) 人 権

3 調査の設計

- | | |
|--------------|----------------------|
| (1) 調 査 地 域 | 足立区全域 |
| (2) 調 査 対 象 | 足立区在住の満20歳以上の男女個人 |
| (3) 標 本 数 | 3,000サンプル |
| (4) 調査対象者の抽出 | |
| 抽 出 台 帳 | 足立区住民基本台帳・外国人登録原票 |
| 抽 出 方 法 | 単純無作為抽出法 |
| (5) 調 査 期 間 | 平成22年9月6日～平成22年9月30日 |
| (6) 調 査 機 関 | 株式会社 総合企画 |

ブロック区分



表1 ブロック-町丁目対応表

ブロック名	地区町丁目名
第 1 ブロック	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第 2 ブロック	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第 3 ブロック	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町、西新井栄町三丁目
第 4 ブロック	西新井栄町一丁目～二丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第 5 ブロック	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第 6 ブロック	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目、東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第 7 ブロック	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第 8 ブロック	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目、保木間二丁目(12番を除く)、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第 9 ブロック	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間二丁目(12番のみ)、保木間三丁目～五丁目
第 10 ブロック	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第 11 ブロック	西新井一丁目～七丁目、谷在家一丁目、西伊興町、古千谷一丁目(7、12、13、18番地)、栗原三丁目～四丁目、西伊興一丁目～二丁目、伊興一丁目～三丁目、西竹の塚一丁目～二丁目(1～7番[4番21・23・24の一部・26、7番20の一部・21～22を除く])
第 12 ブロック	鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、谷在家二丁目～三丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第 13 ブロック	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目(4～5、8～11、14～17番地)、古千谷二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、西竹の塚二丁目(4番21・23・24の一部・26、7番20の一部・21～22、8～17番)、入谷町、伊興四丁目～五丁目、西伊興町、西伊興三丁目～四丁目、東伊興一丁目～四丁目、舎人町、舎人公園、伊興本町一丁目～二丁目

4 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配布郵送回収法(督促状1回)
 (2) 調査票 IV章の調査票を使用

5 回収結果

- (1) 標本数 3,000票
 (2) 有効回答数 1,579票 有効回収率 52.6%
 (3) 回収不能数 1,421票 回収不能率 47.4%
 (4) 地域別回収結果

	20歳以上人口 (構成比)	標本数	有効回収数 (有効回収率)
区全体	553,461人 (100.0%)	3,000票	1,579票 (52.6%)
第1ブロック	62,339人 (11.3%)	336	172 (51.2%)
第2ブロック	37,917人 (6.9%)	206	101 (49.0%)
第3ブロック	35,717人 (6.5%)	194	90 (46.4%)
第4ブロック	45,650人 (8.2%)	251	131 (52.2%)
第5ブロック	52,022人 (9.4%)	283	152 (53.7%)
第6ブロック	59,933人 (10.8%)	325	173 (53.2%)
第7ブロック	45,531人 (8.2%)	246	133 (54.1%)
第8ブロック	35,816人 (6.5%)	195	115 (59.0%)
第9ブロック	27,032人 (4.9%)	147	72 (49.0%)
第10ブロック	47,887人 (8.7%)	259	140 (54.1%)
第11ブロック	35,329人 (6.4%)	192	102 (53.1%)
第12ブロック	29,668人 (5.4%)	161	90 (55.9%)
第13ブロック	38,620人 (7.0%)	205	108 (52.7%)

(20歳以上人口は平成22年4月1日現在)

6 報告書の見方

- (1) 各項目のはじめに質問項目と共に示してある単純集計のnは、回答者数のことである。質問に対する回答は、1つの場合や2つ以上、いくつでもよい場合(複数回答)などがあるが、複数回答の場合、合計比は100%を超えることがある。
- (2) 百分比はnを100%として算出し、本文および図表中では原則として小数第2位を四捨五入して小数第1位まで示した。図表中の「0」または「0.0」は四捨五入の結果を示し、「-」は皆無の結果を示している。このため、百分比の合計が100%に満たない、あるいは上回る場合がある。また、2つ以上の選択肢の合計値がグラフと文中との間で誤差が生じる場合もある。
- (3) 標本誤差

この調査の標本誤差(サンプル誤差)はおおよそ下表のとおりである。標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、①比率算出の基数(n)、および②回答の比率(P)によって異なる。

$$b = 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差 (単純無作為抽出の場合)
 N = 母集団数(足立区の20歳以上人口)
 n = 比率算出の基数(回答数)
 P = 回答の比率

回答の 比率(P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,579	±1.5%	±2.0%	±2.3%	±2.5%	±2.5%
1,000	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
800	±2.1%	±2.8%	±3.2%	±3.4%	±3.5%
600	±2.4%	±3.2%	±3.7%	±3.9%	±4.0%
400	±2.9%	±3.9%	±4.5%	±4.8%	±4.9%
200	±4.2%	±5.5%	±6.4%	±6.8%	±6.9%
100	±5.9%	±7.8%	±9.0%	±9.6%	±9.8%

注) 1. 上表は $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$ として算出した。

2. この表の見方は次のとおりである。「ある設問に対する回答者数が1,579人であり、その設問の選択肢に対する回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.5%以内である。」

(4) 分類に使用した項目の定義

質問に対して、分類(表側)に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域ブロック別 …………… (13カテゴリー)
- ② 性別 …………… (2カテゴリー)
- ③ 性・年代別 …………… (12カテゴリー)
- ④ ライフステージ別 …………… (7カテゴリー)
 - ・ 独身期 …………… 40歳未満の独身者
 - ・ 家族形成期 …………… 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・ 家族成長前期 …………… 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - ・ 家族成長後期 …………… 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・ 家族成熟期 …………… 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・ 高齢期 …………… 本人が65歳以上の人
 - ・ その他 …………… 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ 住居形態別 …………… (8カテゴリー)
- ⑥ 職業別 …………… (11カテゴリー)
- ⑦ 就労(就学)場所別 …………… (5カテゴリー)
- ⑧ 居住年数別 …………… (5カテゴリー)

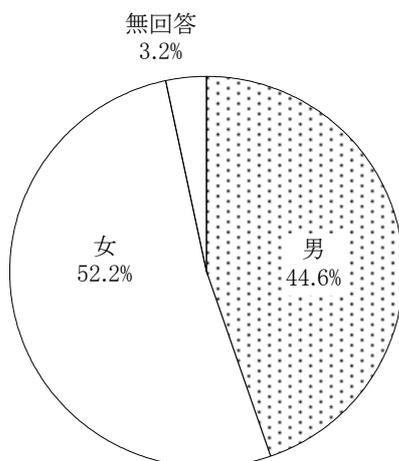
※本文中、表側に使用した項目の回答者数が少ない選択肢は誤差が大きいため、分析の対象としていない場合がある。

なお、本報告書にはクロス集計表は含まれていない。

標本構成

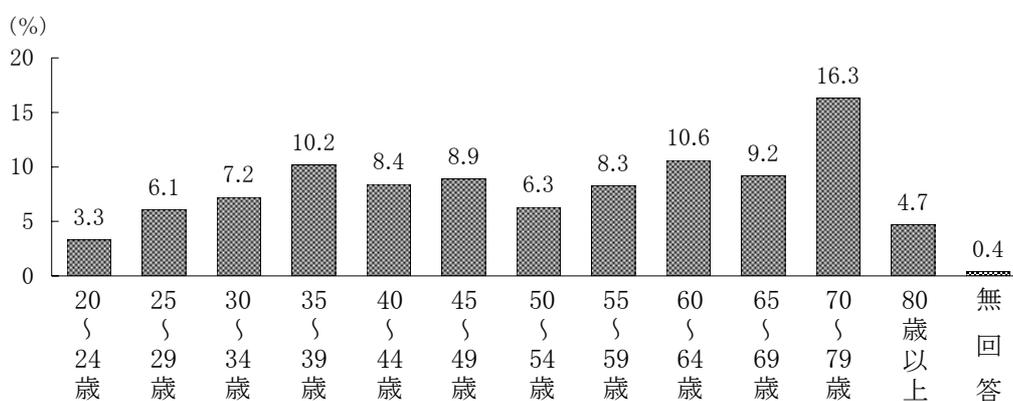
F1 性別

(n=1,579)



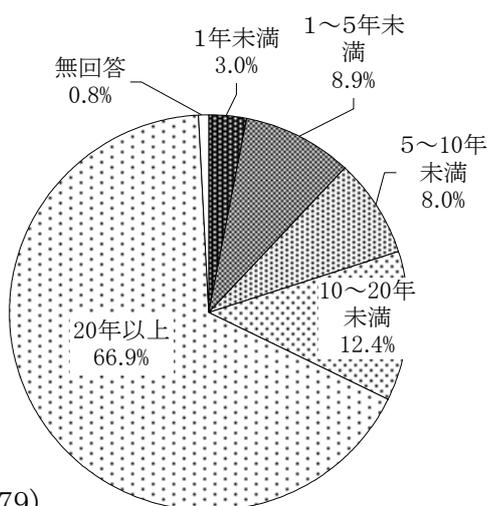
F2 年齢

(n=1,579)



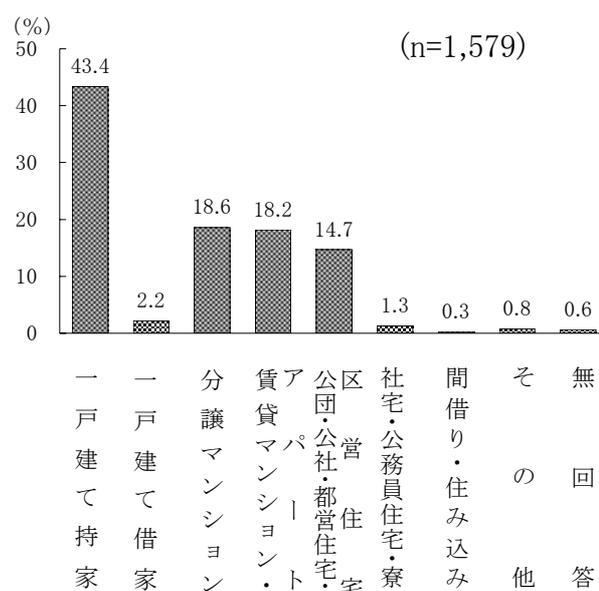
F3 居住年数

(n=1,579)

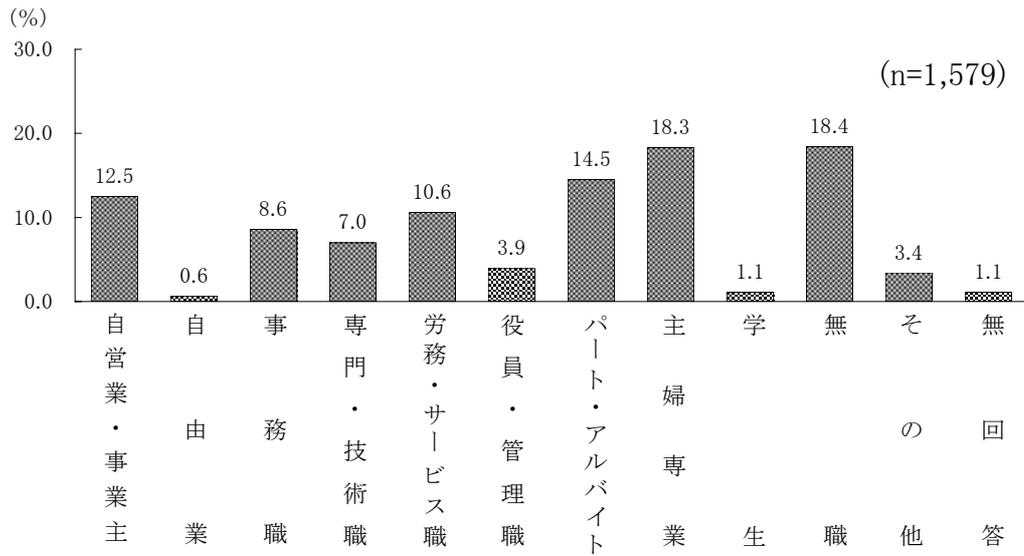


F4 住居形態

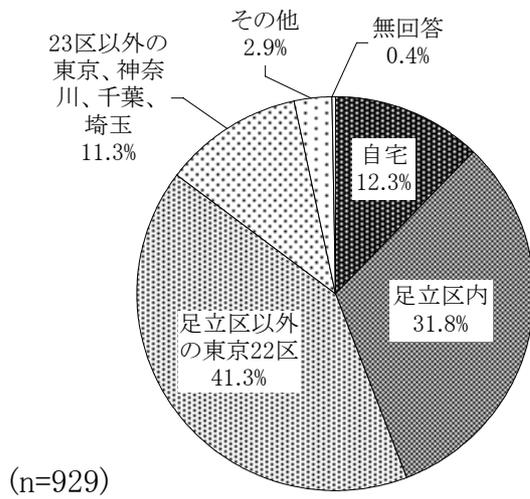
(n=1,579)



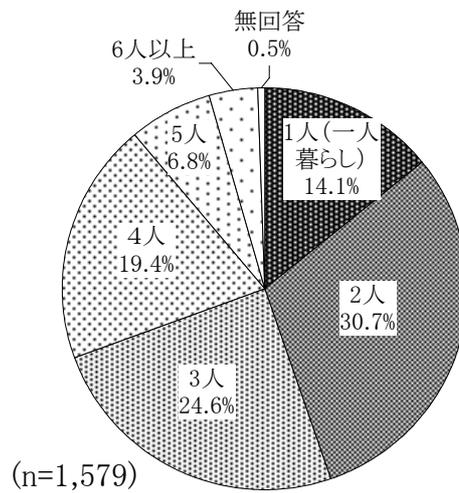
F5 職業



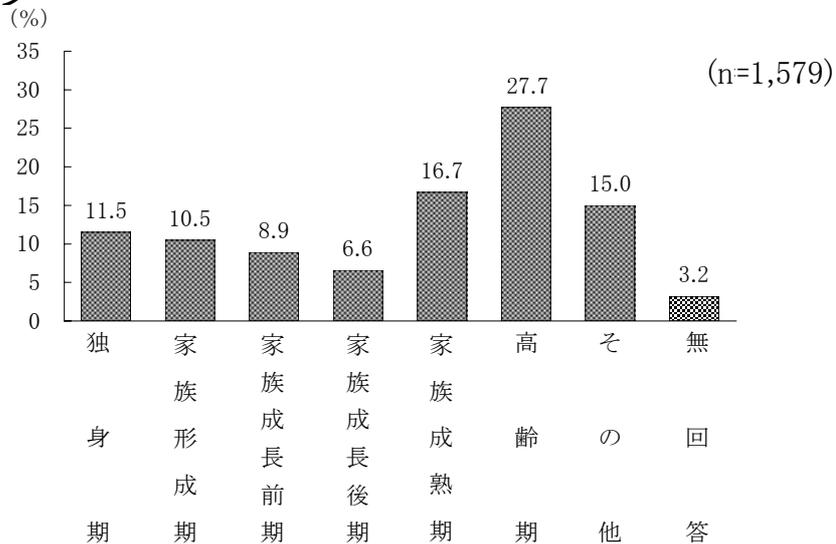
F6 就労(就学)場所



F7 同居家族人数



F8 ライフステージ



Ⅱ 調査結果の要約

調査結果の要約

1 定住性

(1)今住んでいる地域の暮らしやすい点については、「普段の買い物が便利」が55.2%と最も高く、次いで「公園や緑が多い」が44.0%、「通勤や通学などの交通の便がよい」が35.0%、「物価が安い」「医者や病院の便がよい」がそれぞれ26.9%の順となっている。この中で、第2位となっている「公園や緑が多い」は、平成21年度調査と比べ、5.8ポイント下降しており、その他にも「通勤や通学などの交通の便がよい」や、「物価が安い」も平成21年度調査と比べ、4~5ポイント下降している。一方、暮らしにくい点は、「治安がわるい」が26.0%と最も高く、次いで「体育施設(体育館やプールなど)が利用しにくい」が22.1%、「文化施設(図書館やホールなど)が利用しにくい」が18.2%の順となっている。平成21年度調査と比較してみると、「通勤や通学などの交通の便がわるい」は4.8ポイント、「医者や病院の便がわるい」は4.7ポイント下降している。また、各項目について「暮らしやすい」から「暮らしにくい」を差し引いた数値は、「普段の買い物」、「公園や緑」で30ポイント以上のプラスになっており、この面では暮らしやすいと考える人が多いことがうかがえる一方、「治安」「体育施設」では10ポイント以上のマイナスで、この項目では暮らしにくいと考える人が多いことがうかがえる。

(2-1)区の図書館について使いにくいと感じる理由は、「図書館のある場所が遠い」が60.6%で最も高い。次いで「読みたい本がない」が27.2%、「閲覧席が少なく、落ち着いて本が読めない」が21.6%と続いている。

(2-2)区の体育施設について使いにくいと感じる理由は、「体育施設のある場所が遠い」が69.6%で最も高い。次いで「どんな施設・事業があるのかわからない」が29.5%、「スポーツ教室やイベントなど参加したい事業が少ない」が20.6%と続いている。

(3)今住んでいるところが「暮らしやすい」と感じている人は23.9%であり、これに「どちらかといえば暮らしやすい」の61.7%とあわせた《暮らしやすい》は全体の85.7%を占めている。一方、「暮らしにくい」(2.1%)と「どちらかといえば暮らしにくい」(11.0%)をあわせた《暮らしにくい》は13.0%である。平成21年度調査と比較すると、《暮らしやすい》の割合は3ポイント上昇しているが、《暮らしやすい》の85.7%は、質問を始めた平成13年以降、最高となっている。

(4)区内に「ずっと住み続けたい」(37.1%)と「当分は住み続けたい」(39.9%)をあわせた《定住意向》が77.0%を占めている。「区外に転出したい」という《移転意向》は8.5%であるが、一方で「わからない」と回答した人も13.9%みられる。平成21年度調査と比較すると《定住意向》は1.2ポイント下降、《移転意向》は2.5ポイント上昇しているが、大きな差はみられない。

(4-1)区外に転出したい理由について、《移転意向》者に聞いてみると「区のイメージがよくないから」が45.5%で最も高い。次いで「治安が悪いから」が38.1%、「交通の便が悪いから」が36.6%と続いている。移転意向の理由としては、家が手狭であることや持ち家でないといった生活環境の要因よりも、イメージや治安といった要因の方がやや多いということが示唆された。

2 区 の イ メ ー ジ / 地 域 活 動

(1)区に対する愛着や誇りにつながるものについては、「公園、地域学習センターなどの公共施設」が16.9%で最も高い。次いで「神社やお寺などの歴史的建造物」が14.2%、「定期的に開催されるお祭りやイベント」が13.9%と続いている。また、「特にない」は27.9%を示している。

(2)区に対する気持ちについては、「足立区に愛着をもっている」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた《そう思う》が64.7%を示し、6割強の区民が足立区に対する愛着をもっていることを示している。一方、「足立区に誇りをもっている」「足立区を人に勧めたい」では、《そう思わない》が4割を超えている。

(3)足立区のイメージ(印象)をよくしたい意向は、《そう思う》が86.1%を示し、8割以上の区民が足立区のイメージを良くしたいと考えている。

(4)地域活動の参加状況では、「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」が28.1%で最も高く、次いで「区が主催する各種イベント、催し物」が18.0%、「地域の文化サークルや体育サークルなどの活動」が10.2%と続いている。一方、「特にない」も50.2%にのぼっている。

(5)参加した地域活動の認知経路については、「町会・自治会の回覧板」が40.1%で最も高い。次いで「あだち広報・公社ニュースときめき」が36.6%となっている。

(6)今後参加したい地域活動については、「町会・自治会の運営に関する活動」が14.6%で最も高い。次いで「自然や家族、地域の健康づくりを支援する活動」が13.0%、「高齢者の支援に関する活動」が12.7%と続いている。

3 「 ビ ュ ー テ ィ フ ル ・ ウ イ ン ド ウ ズ 運 動 」

(1)「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知っており、活動を実践している」は3.3%、「知っているが、特に何も行ってない」は10.8%であり、これに「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」(12.7%)をあわせた《知っている》は26.8%を占めている。一方、「知らない」は69.7%にのぼり、7割弱の区民にはまだ認知されていないことが示されている。

(2)実践しているビューティフル・ウィンドウズ運動では、「駐輪場の利用(自転車を放置しない)」が30.0%で最も高く、次いで「ひったくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする」が21.1%、「あいさつなどの声掛け運動」が16.2%と続いている。一方、「無回答」も34.5%にのぼっており、これは活動を行っていない層と考えられる。

(2-1)防犯対策を始めたきっかけについては、「治安が悪化したと感じたから」が51.3%で最も高い。次いで「自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から」が37.1%と続いている。平成21年と比較すると、「自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から」が6ポイント上昇、「いろいろな防犯設備があるのを知ったから」は3.5ポイント下降している。

(3)お住まいの地域における変化について、「明らかに減っている」と「どちらかといえば減っている」をあわせた《減っている》は、「ゴミやたばこのポイ捨て」で47.1%、「放置自転車」で48.4%にのぼり、他の項目より

高い。

(3-2)お住まいの地域における変化については、「明らかに増えている」と「どちらかといえば増えている」をあわせた《増えている》が「まちなかの花や緑」で37.1%を示し、「防犯パトロール」で29.2%を示している。また、「あいさつなどの声掛け運動」においては、「以前と変わらない」が67.1%を占めている。

(4)足立区の治安についてのイメージ(印象)は、「よくない」と「どちらかといえば良くない」をあわせた《良くない》が45.9%を示し、約5割弱の区民が足立区の治安のイメージをよくないと考えている。

(5)自分自身や身近な人で、足立区内で犯罪にあったことがあるかについては、「自転車盗などの軽犯罪にのみあったことがある」が50.0%と半数を占め、次いで「一度もない」(39.6%)、「重大な犯罪に巻き込まれたことがある」(6.3%)となっている。「自転車盗などの軽犯罪にのみあったことがある」と「重大な犯罪に巻き込まれたことがある」をあわせた、《ある》は56.3%となっている。

4 小・中学校教育

(1)小・中学校教育への関心度は、「非常に関心がある」(21.7%)と、「やや関心がある」(31.9%)をあわせた《関心がある》は53.6%を示し、半数以上の区民が小・中学校教育に関心を持っていることがうかがえる。

(2)小・中学校教育に関する各項目についてのイメージでは、「部活動が活発に行われている」や「学校が地域に開かれている」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた《そう思う》が3割台を示している。一方、「子どもたちの学力が高い」では、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた《そう思わない》が6割弱にのぼり、「子どもたちの体力が強い」では、《そう思わない》が4割を超えている。

(3)小・中学校教育で良くなってきたと思うことは、「学校が地域に開かれた存在になった」が11.8%で最も高く、次いで「部活動などで好成績を収める子どもが増えた」が10.9%、「給食の質が上がった」が10.8%と続いている。一方、「わからない」も47.1%にのぼっている。

(4)教育施策に関する認知度は、「放課後子ども教室」で「内容まで知っている」が13.2%と他施策よりも高く、「名前だけ知っている」の22.1%をあわせた《知っている》は35.3%を示し、3割強の区民に認知されている。一方、「魚沼自然教室」では「知らない」が70.9%と各施策の中で最も高く、7割の区民に認知されていない。

5 郷土博物館

(1)「郷土博物館」における新展示について、「すでに郷土博物館に行ったので知っている」は4.9%、「郷土博物館には行っていないが、知っている」は9.4%であり、これらをあわせた新展示自体の認知率は14.4%となっている。さらに「博物館自体は知っているが、展示が新しくなったことは知らなかった」(35.1%)をあわせた、博物館自体の認知率は49.5%となり、区民の5割弱が郷土博物館を認知していることが示されている。

(2)今後期待する博物館の事業では、「子ども向けイベント(工作教室など)」が24.6%で最も高く、次いで

「特別展・企画展」が19.8%、「史跡巡りなどの野外講座」の18.7%、「郷土資料の収集と保存」が17.8%となっている。一方、「無回答」も21.9%にのぼり、これは特に期待するものがない層と解釈できる。

6 あだち広報

(1)「あだち広報」を読んでいる程度では、「興味のある記事だけを読んでいる」が47.2%で最も高く、「ほとんどの記事を読んでいる」(24.0%)と「見出しだけをながめる程度」(17.5%)をあわせた《読んでいる》は88.7%となり、9割弱は「あだち広報」を何らかの形で読んでいる。平成19年でも同様の項目について聞いており、結果を比較すると《読んでいる》は3.3ポイント下降、一方、「ほとんど読まない」は3.1ポイント上昇している。

(2)あだち広報でよく読まれている内容は、「お知らせ記事(講座・イベント情報)」が52.5%で最も高く、次いで「お知らせ記事(区の制度関係)」が51.8%、「まちの見どころ(区の施設や史跡などの紹介)」が37.2%と続いている。

(3)「あだち広報」の“読みやすさ”への不満点では、「全体の印象が堅い」が15.1%で最も高く、次いで「活字が小さい」が10.3%、「カラーページが少ない」が6.9%と続いている。一方、「特にない」は50.5%にのぼっており、平成19年度調査と比較すると8.7ポイント下降している。

(4)「あだち広報」で今後充実してほしい内容は、「お知らせ記事(講座・イベント情報)」が42.9%で最も高く、次いで「お知らせ記事(区の制度関係)」が41.7%、「まちの見どころ(区の施設や史跡などの紹介)」が39.9%と続いており、問23のあだち広報でよく読む内容での上位項目と同様の傾向であることから、よく読まれている内容の充実が望まれていることが示唆されている。

(5)今後期待する広報媒体では、「広報紙(あだち広報)」が63.6%で最も高く、次いで「足立区公式ホームページパソコン版」が23.7%、「ケーブルテレビ足立で放映中の区提供番組」が20.3%と続いている。平成19年度調査と比較すると、「広報紙(あだち広報)」は10.4ポイント下降、「足立区公式ホームページパソコン版」では3.4ポイント下降している。

7 日常の区民生活

(1)環境のために心がけていることでは、「ごみと資源の分別を実行している」が87.0%で最も高く、次いで「ごみやすいがらのポイ捨てはしていない」が77.5%、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」が54.9%となっている。平成21年度調査と比較すると、「ごみやすいがらなどのポイ捨てはしない」が7.3ポイント増、「マイバッグなどを使うなどして、不要なレジ袋を断っている」が5.3ポイント増の一方、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は5.9ポイント減となっている。

(2)災害に備えていることでは、「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」が54.0%で最も高く、次いで「自宅に消火器を備えている」が32.4%、「非常食・飲料水を備蓄している」が30.0%

となっている。一方、「特にない」も17.8%にのぼっている。平成21年度調査と比較すると、「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」が2.9ポイント下降、「非常持ち出し品をまとめている」が5.2ポイント下降している。

(3)「洪水など浸水被害」に備え意識していることでは、「台風や雷雨などの気象情報に注意している」が53.2%で最も高く、次いで「非常食・飲料水を備蓄している」が24.8%、「非常持ち出し品をまとめている」が19.3%となっている。一方、「特に意識していない」は25.5%にのぼっている。

(4)「クーリング・オフ」の認知度では、「ある程度知っている」が49.7%で最も高く、「内容まで知っている」(13.6%)と「名前だけは知っている」(22.4%)をあわせた《知っている》は85.7%となり、8割を超える区民は「クーリング・オフ」の制度を認知していることが示されている。平成21年度調査と比較すると、認知度に大きな変化は見られない。

(5)「クーリング・オフ制度」の認知内容では、「消費者が契約後、一定期間内であれば無条件で契約解除できる」が91.9%で最も高く、次いで「期間は、8日間(取引によっては20日間)である」が58.8%、「対象取引は、法律や約款などに定めがある場合に限る」が23.0%となっている。

8 保健・医療 / 高齢者福祉施策

(1)保健と医療については、「毎年健康診断を受けている」が57.3%で最も高く、次いで「自分の健康について心配なことがある」が42.0%、「安心して受診できる医療機関が身近にある」が31.5%と続いている。

(2)高齢者福祉に関する施策の認知度について、「成年後見制度」では「内容まで知っている」が13.8%で他施策よりも高く、「名前だけ知っている」の35.2%をあわせた《知っている》は49.0%を示し、5割弱の区民に認知されている。一方、「地域福祉権利擁護事業」では「知らない」が74.2%、「認知症サポーター」でも「知らない」が72.0%にのぼり、7割以上の区民に認知されていない。

9 区政

(1)区政に対する満足度について、「満足」が4.6%、「やや満足」が37.0%で、これらをあわせた《満足層》は41.6%である。また「不満」の8.0%と「やや不満」の17.4%をあわせた《不満層》は25.3%である。平成21年度調査と比較すると、《満足層》は51.8%から41.6%へ10.2ポイント下降しているとともに、《不満層》も28.3%から25.3%へ3ポイント下降している。

区政に対する満足度が平成21年度調査から10.2ポイント下降した背景として以下のことが考えられる。

平成20年3月30日に新線(日暮里・舎人ライナー)が開業したが、21年の調査では新線開通による利便性の向上によって、開通したエリアに関わるブロックにおいて大きなポイントの上昇が見られた。しかし、22年の調査に関しては新線開通による利便性の向上が所与の条件となったため、平成21年に上昇したポイントからの下降が見られたことなどである。

また、22年度調査に関しては、「無回答」の割合も平成21年度調査よりも10.2ポイント上昇しており、

そのことが満足層又は不満層の数値の低下に寄与している可能性がある。

(2)以前と比べてよくなったと思う区の取り組みをあげてもらったところ、「都市開発」(35.3%)が最も高く、次いで「自然・緑化対策」(31.2%)、「交通対策」(28.0%)、「資源環境対策」(23.5%)、「情報提供」(15.2%)の順となっている。

(3)今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを3つまであげてもらったところ、「高齢者支援」が36.2%と最も高く、次いで「交通対策」が27.8%、「子育て支援」が20.3%の順となっている。

(4)区の取り組みについては、「区の情報を容易に知ることができる」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた《そう思う》が59.3%を示し、約6割の区民が区の取り組みを評価していることを示している。また、「景観・街並みが魅力的になってきている」「快適で安全なまちづくりが進められている」においても、《そう思う》が5割を超えている。一方、「区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている」では「わからない」が58.7%にのぼっている。

(5)区政への参加・協力意向では、「積極的に参加・協力したい」が4.4%、「ある程度は参加・協力したい」が50.0%で、これらを合わせた《参加・協力したい》は54.3%である。また「参加・協力したくない」の3.0%と「あまり参加・協力したくない」の10.1%を合わせた《参加・協力したくない》は13.1%である。平成21年度調査との比較では、大きな差はみられない。

10 区政への区民の意見の反映

(1)区政への区民の意見の反映については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた《そう思う》が21.3%、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた《そう思わない》が24.8%を示し、やや《そう思わない》の方が高くなっている。一方、「わからない」が42.7%にのぼっている。平成21年度調査と比較すると、《そう思う》は2.7ポイント下降している。

(2-1)区政への区民の意見の反映については、「交通の新規開通や市街地開発など、区が区民生活の便宜を積極的に図ってくれている」で、《そう思う》が41.1%を示し、都市開発の側面では4割の区民が区の取り組みを評価している。一方、「「区民の声」や「パブリックコメント制度」、「区役所各課のEメール」など意見を言うことができる」や「区民の意見を反映させる流れが明確である」では、「わからない」が5割を超えている。

(2-2)区政への区民の意見の反映については、全体として肯定的な意見は少なく、「区政に不満がなく、区民の意見を区がおおむね理解していると思う」では、《そう思わない》が29.6%を示している。また、「出した意見に対し、きちんと返答がもらえる」や「出した意見に対し、きちんと改善がなされている」では、「わからない」が5割を超えている。

(3)意見を言うことのできる場の利用意向では、「機会があったら利用したい」が60.9%で最も高く、「ぜひ利用したい」(3.9%)をあわせた《利用したい》は64.9%となっている。一方、「あまり利用したくない」と「まったく利用したくない」をあわせた《利用したくない》は25.1%となっている。平成21年度調査と比較すると《利用したくない》は3.6ポイント下降している。

(4)意見を言うことできる場を利用しようと思わない理由では、「言いたい意見はあるが、意見を言っても変わらないと思うから」が39.9%で最も高く、次いで「特に言いたい意見がないから」が38.9%、「言いたい意見はあるが、面倒だから」が18.7%と続いている。平成21年度調査と比較すると、「言いたい意見はあるが、意見を言っても変わらないと思うから」は3.3ポイント上昇している。

11 人権

(1)人権についての関心度は、「非常に関心がある」(18.9%)と、「やや関心がある」(42.5%)をあわせた《関心がある》は61.4%を示し、6割を超える区民が人権に関心を持っている。平成21年度調査と比較すると、《関心がある》は4.9ポイント下降している。

(2)男女の地位の平等感に関しては、《男性のほうが優遇》が49.7%を占める一方で、《女性のほうが優遇》は11.0%にとどまった。また、「平等」は20.1%となっている。また、どちらかが優遇されていると答えた人に優遇されている場面について聞くと、「職場」が44.3%と最も高くなっており、次いで「社会通念や習慣・しきたりなど」が35.0%となっている。

Ⅲ 調査結果の分析

1 定 住 性

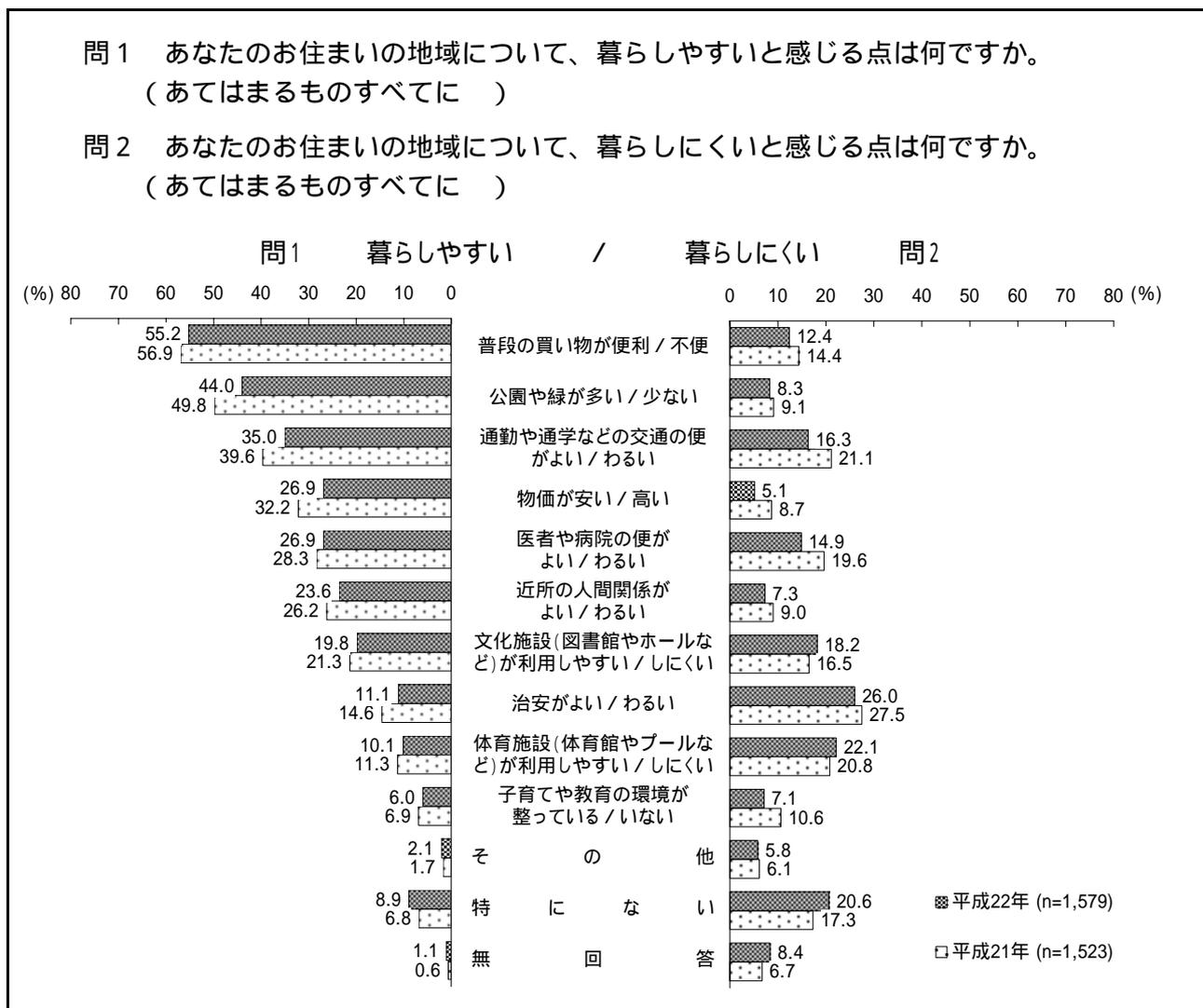
-
- (1) 地域の暮らしやすい点、暮らしにくい点
 - (2)-1 区の図書館について、使いにくいと感じる理由
 - (2)-2 区の体育施設について、使いにくいと感じる理由
 - (3) 総合的な暮らしやすさ
 - (4) 定住・移転意向
 - (4)-1 区外に転出したいと感じる理由
-

1 定住性

(1) 地域の暮らしやすい点、暮らしにくい点

暮らしやすい点は「普段の買い物が便利」が最も高い

暮らしにくい点は「治安がわるい」が最も高い



今住んでいる地域の暮らしやすい点については、「普段の買い物が便利」が55.2%と最も高く、次いで「公園や緑が多い」が44.0%、「通勤や通学などの交通の便がよい」が35.0%、「物価が安い」「医者や病院の便がよい」がそれぞれ26.9%の順となって続いている。この中で、第2位となっている「公園や緑が多い」は、平成21年度調査と比べ、5.8ポイント下降しており、その他にも「通勤や通学などの交通の便がよい」や、「物価が安い」も平成21年度調査と比べ、4～5ポイント下降している。一方、暮らしにくい点は、「治安がわるい」が26.0%と最も高く、次いで「体育施設(体育館やプールなど)が利用しにくい」が22.1%、「文化施設(図書館やホールなど)が利用しにくい」が18.2%の順となっている。平成21年度調査と比較してみると、「通勤や通学などの交通の便がわるい」は4.8ポイント、「医者や病院の便がわるい」は4.7ポイント下降している。また、各項目について「暮らしやすい」から「暮らしにくい」を差し引いた数値は、「普段の買い物」、「公園や緑」で30ポイント以上のプラスになっており、この面では暮らしやすいと考える人が多いことがうかがえる一方、「治安」「体育施設」では10ポイント以上のマイナスで、この項目では暮らしにくいと考える人が多いことがうかがえる。

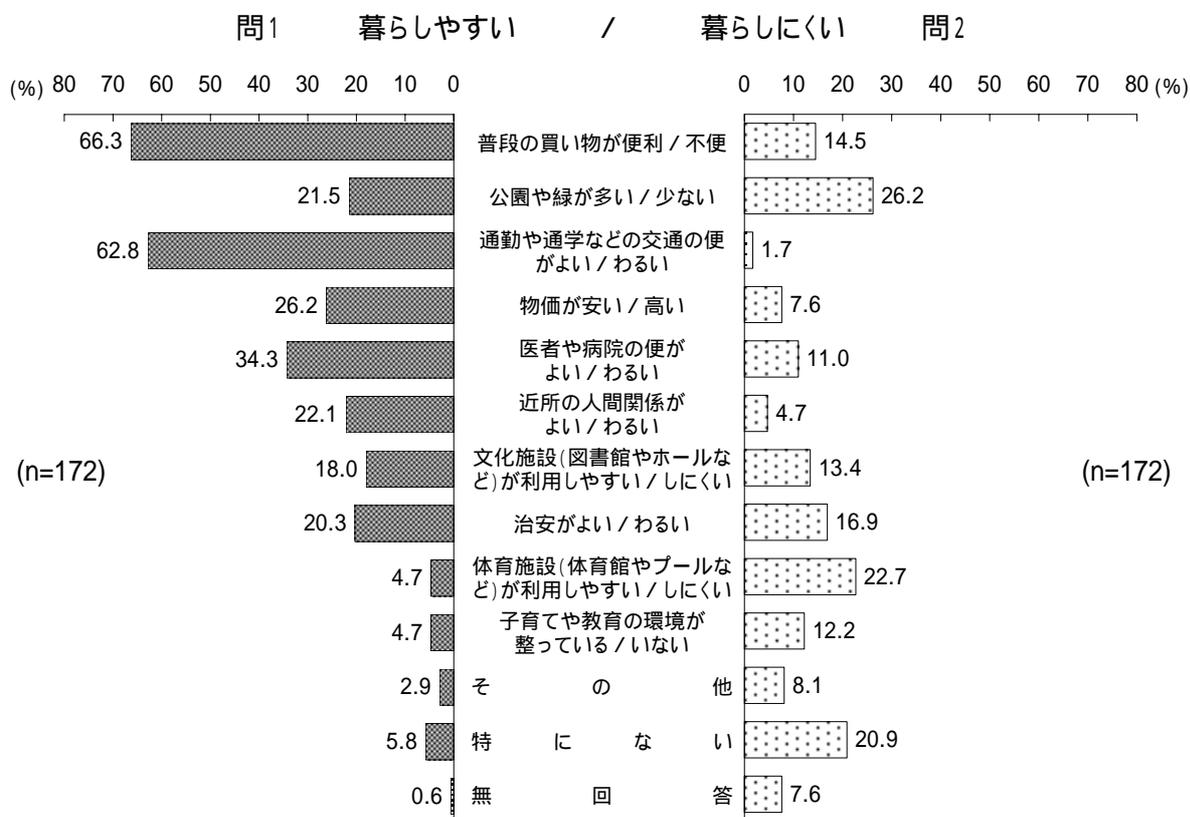
地域ブロック別に暮らしやすい点・暮らしにくい点を見ると、図1 - 1 - 1のとおりである。

暮らしやすい点で「普段の買い物が便利」では第4ブロックが73.3%と最も高く、第3ブロックでも70.0%と高い一方、第2ブロックでは33.7%と最も低くなっている。第2位の「公園や緑が多い」は第13ブロックが64.8%と最も高い一方、第1ブロックでは21.5%と最も低い。第3位の「通勤や通学などの交通の便がよい」は第1ブロックが62.8%で最も高い一方、第7、9、12ブロックでは10%台で低くなっている。

暮らしにくい点では、全体で第1位の「治安がわるい」は、第5、8、10、13ブロックで30%台を示しており、第2位の「体育施設(体育館やプールなど)が利用しにくい」は第2ブロックが36.6%で、第3位の「文化施設(図書館やホールなど)が利用しにくい」は第6ブロックが30.1%で最も高い。

図 1 - 1 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (地域ブロック別)

< 第1ブロック >

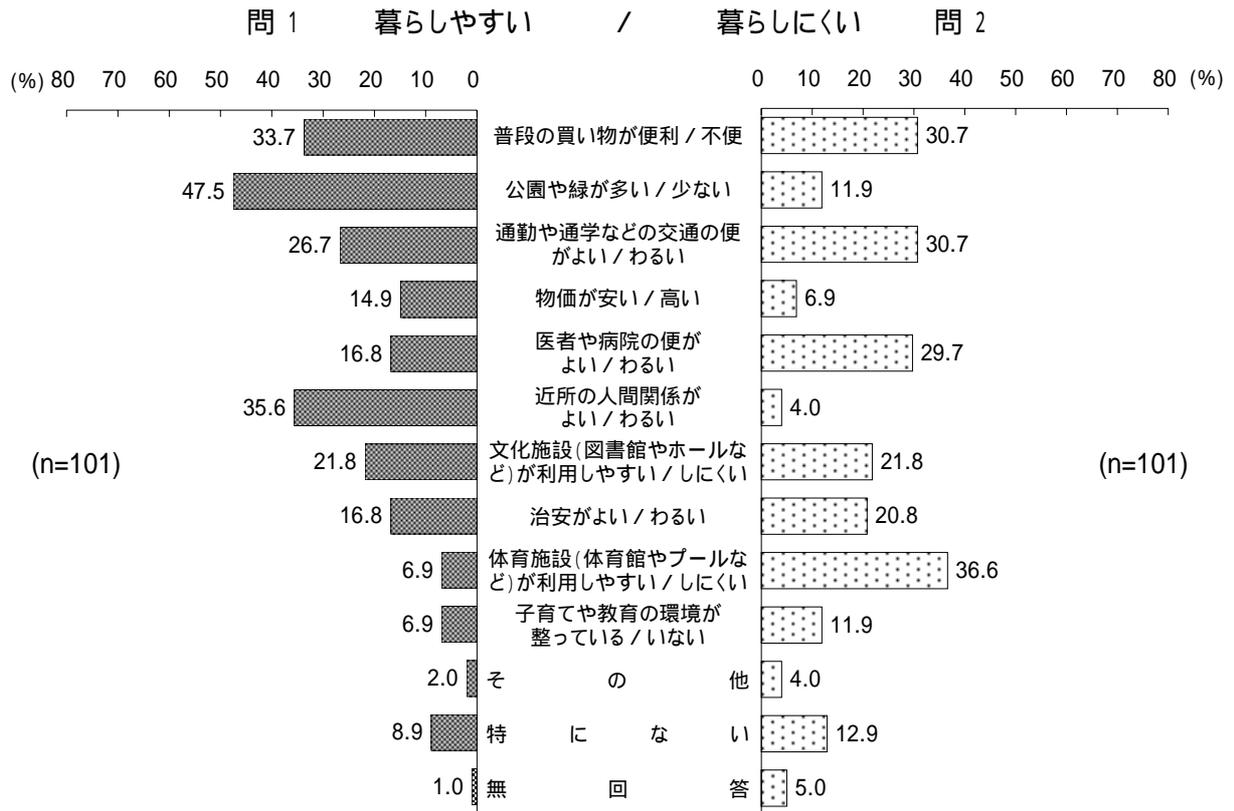


ブロック区分



図 1 - 1 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (地域ブロック別) - つづき -

< 第2ブロック >



< 第3ブロック >

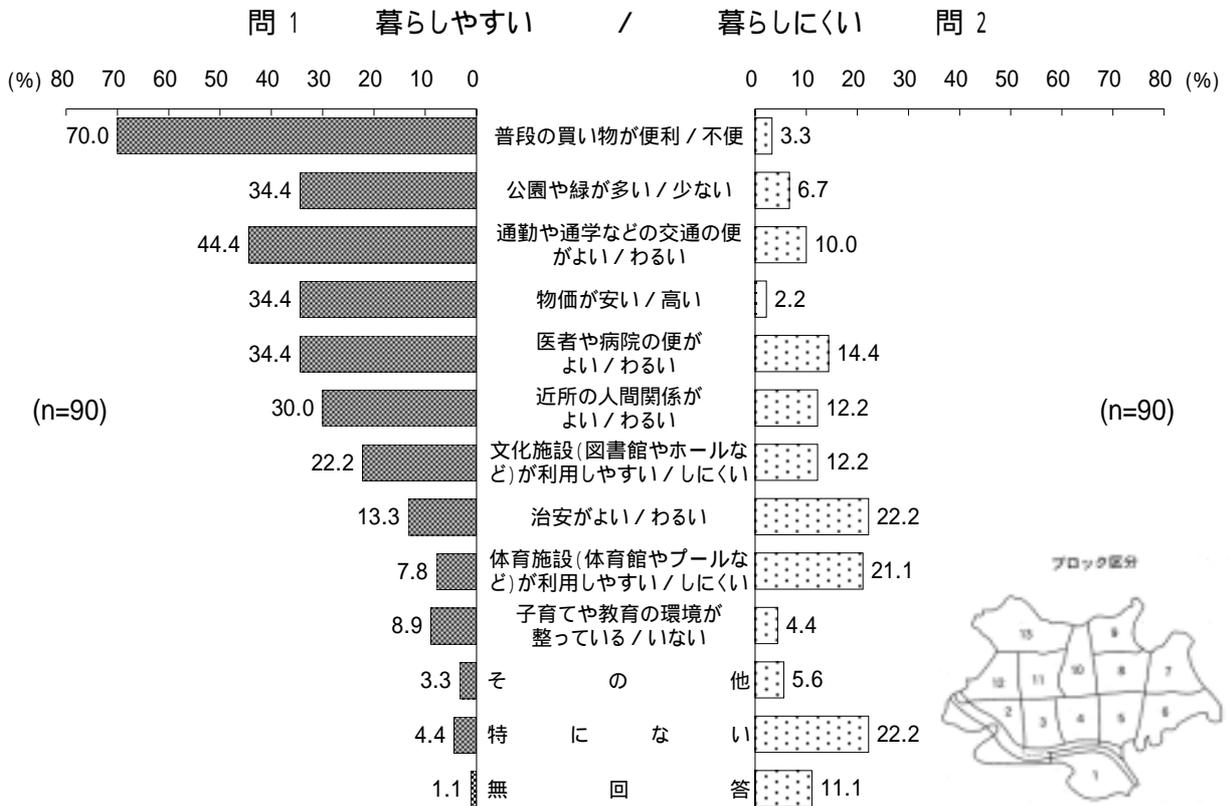
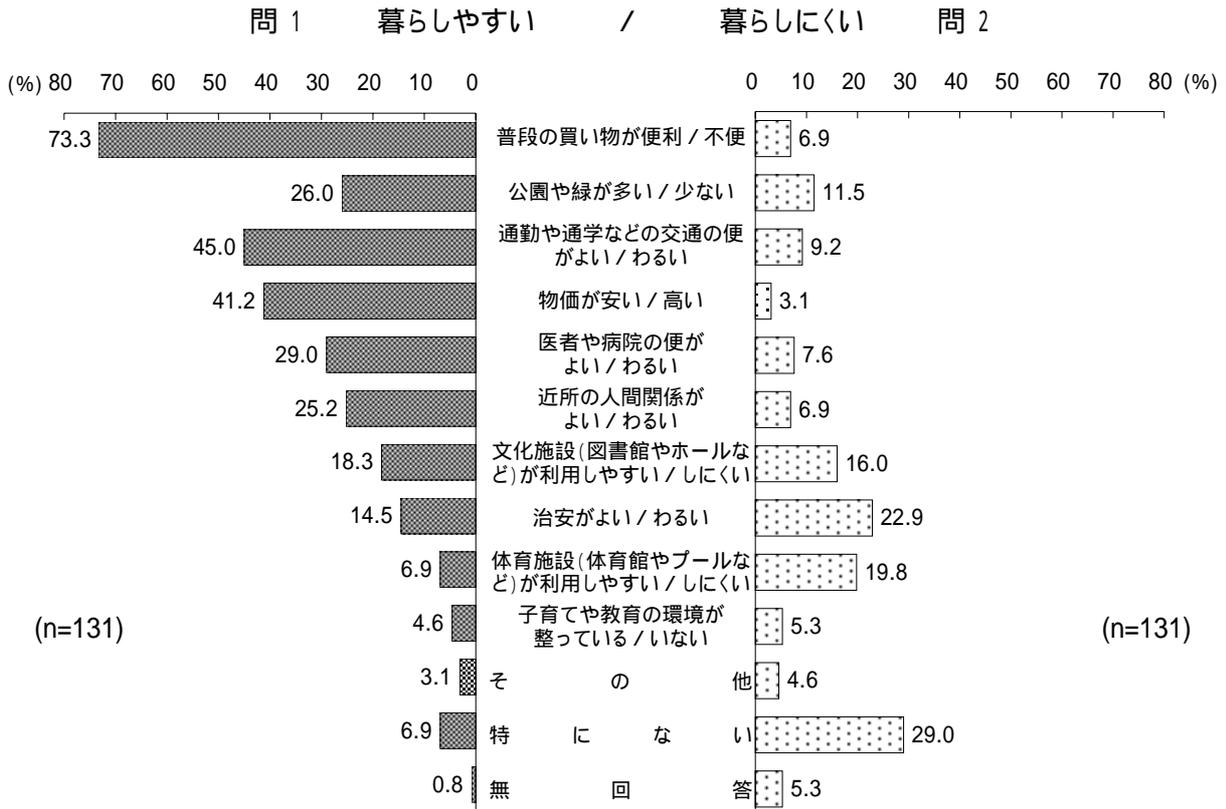


図 1 - 1 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (地域ブロック別) - つづき -

< 第4ブロック >



< 第5ブロック >

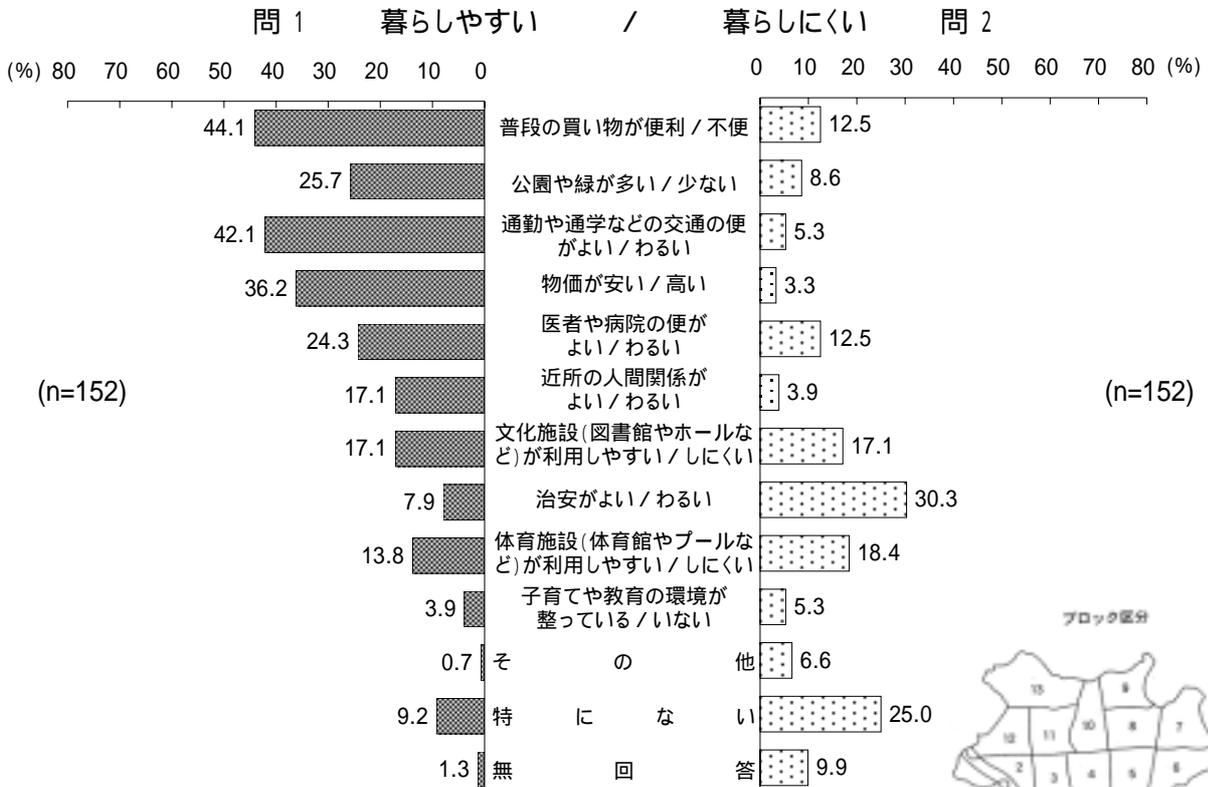


図 1 - 1 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (地域ブロック別) - つづき -

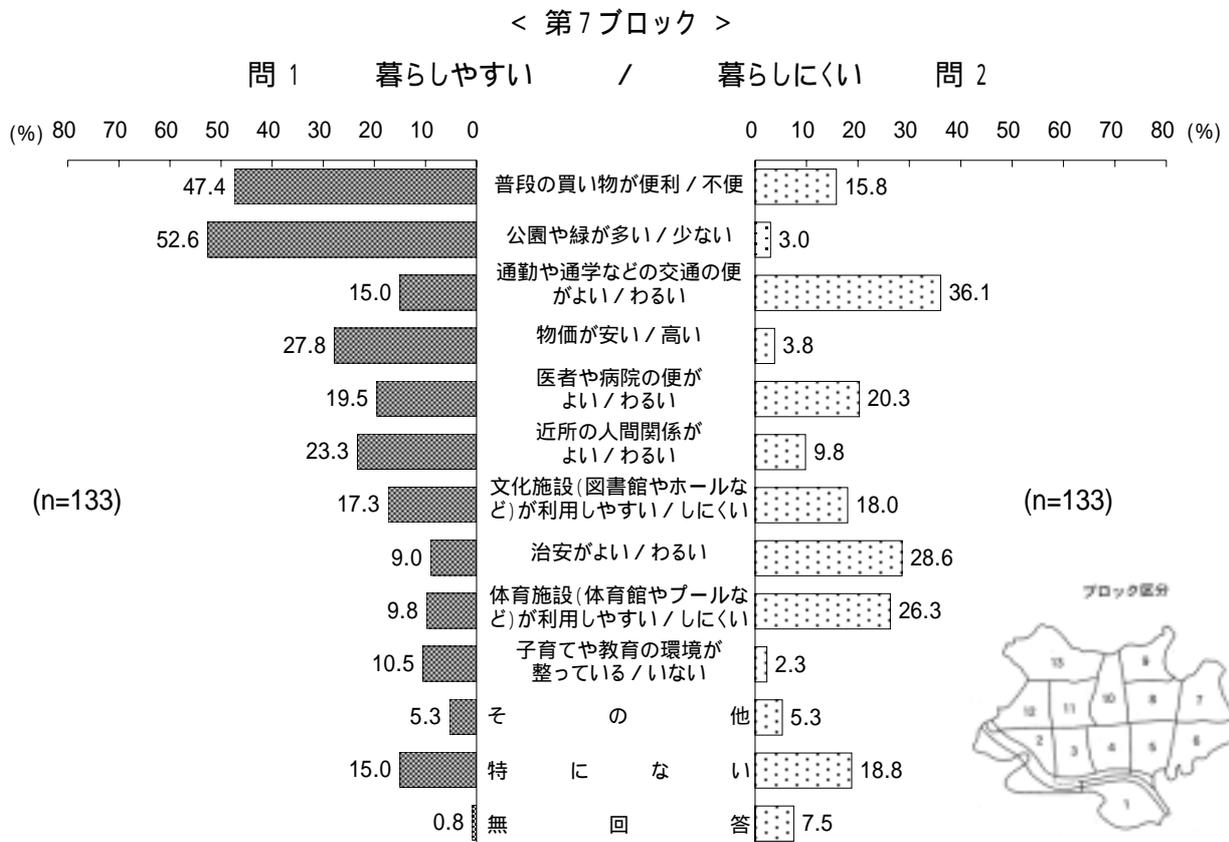
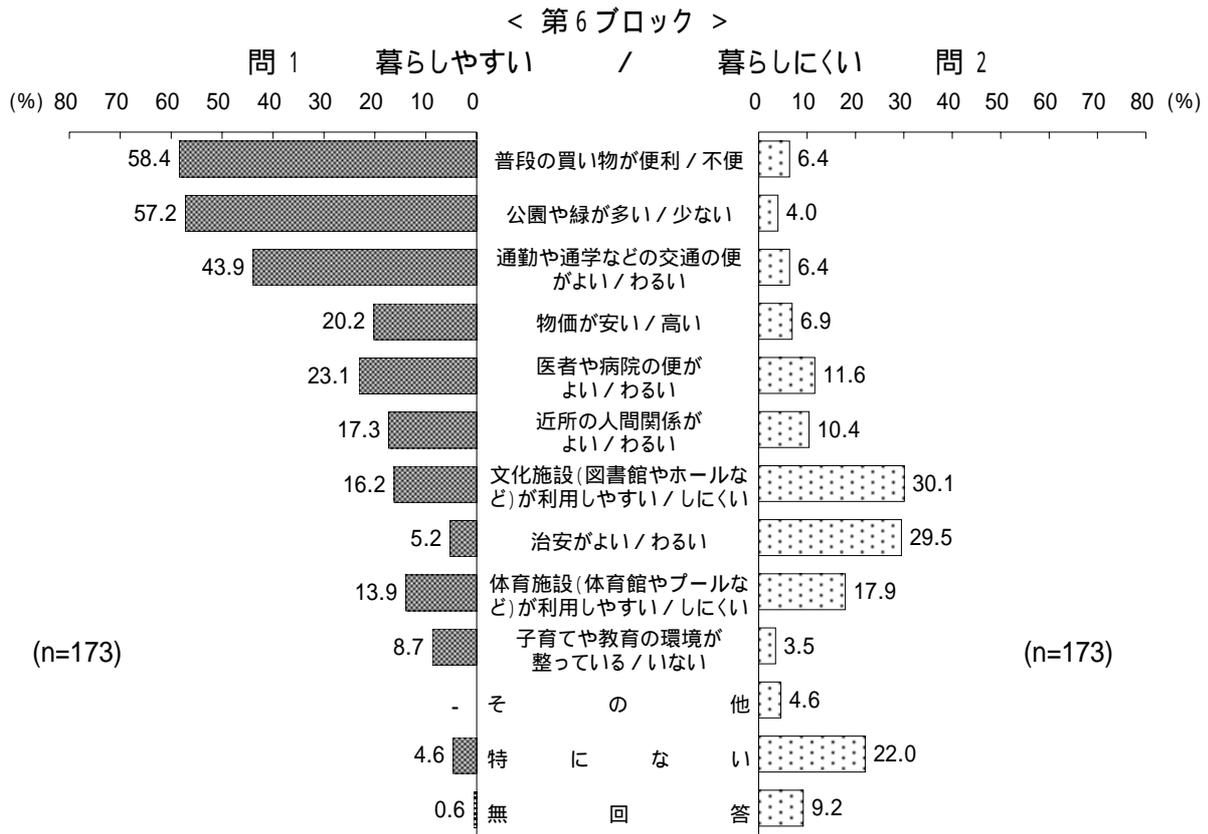
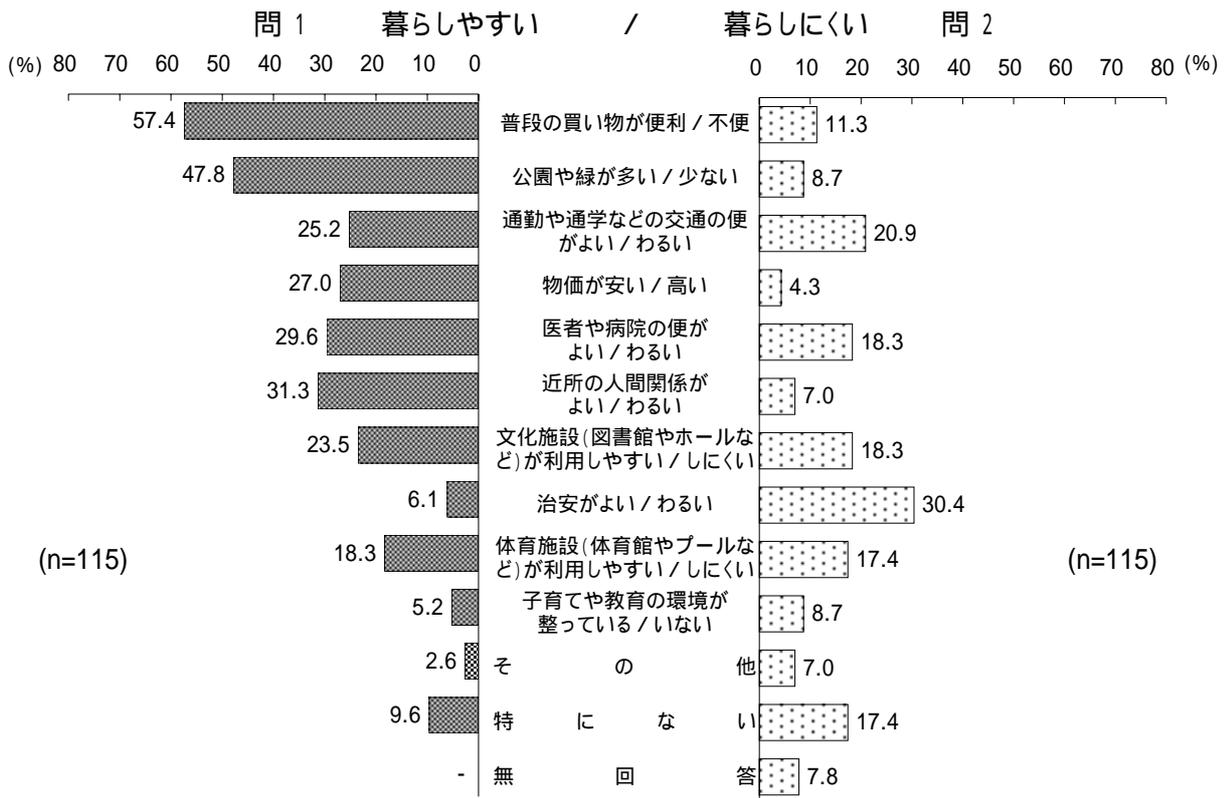


図 1 - 1 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (地域ブロック別) - つづき -

< 第8ブロック >



< 第9ブロック >

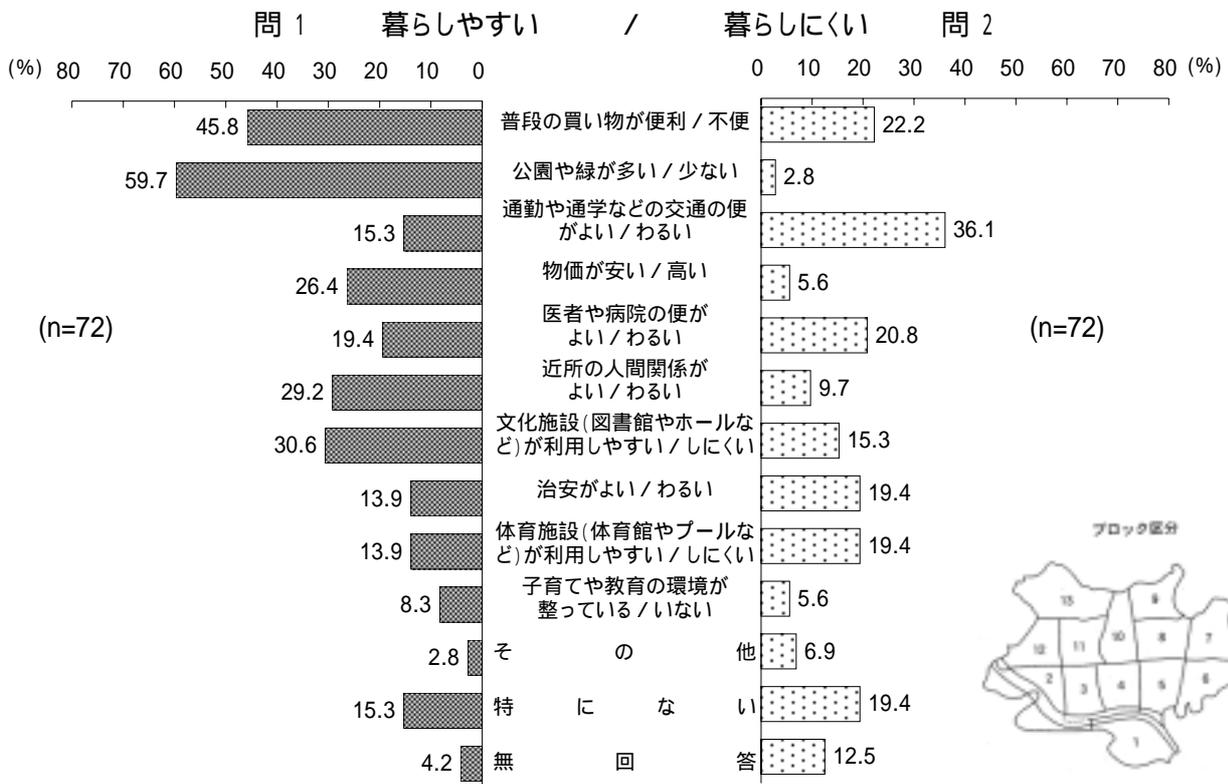


図 1 - 1 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (地域ブロック別) - つづき -

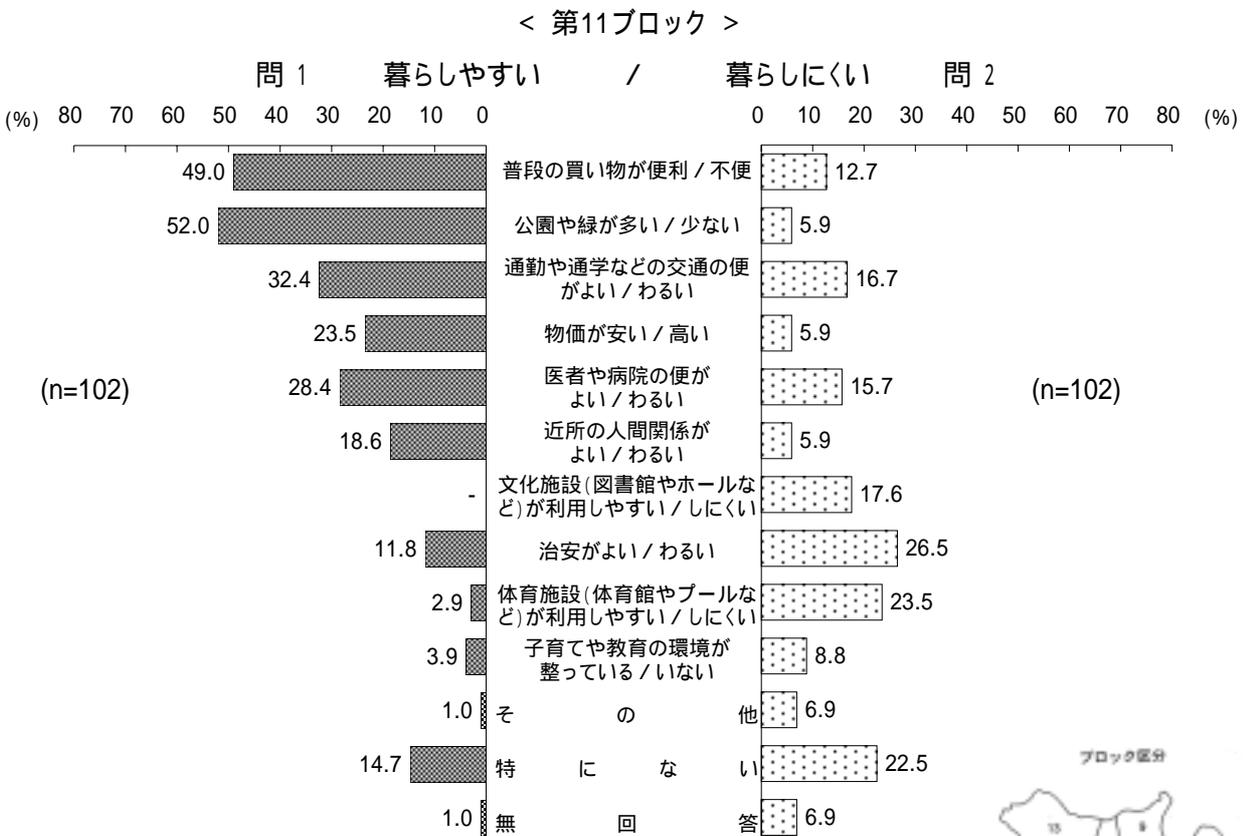
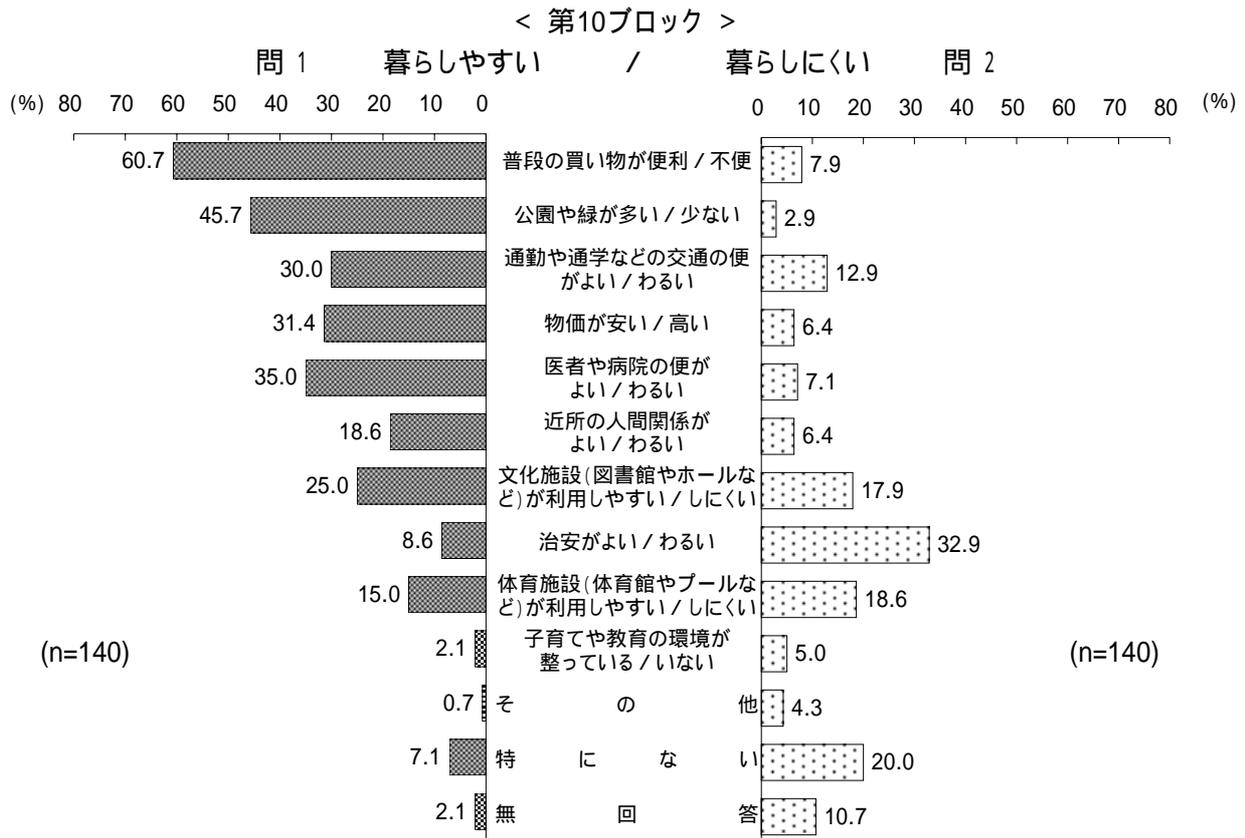
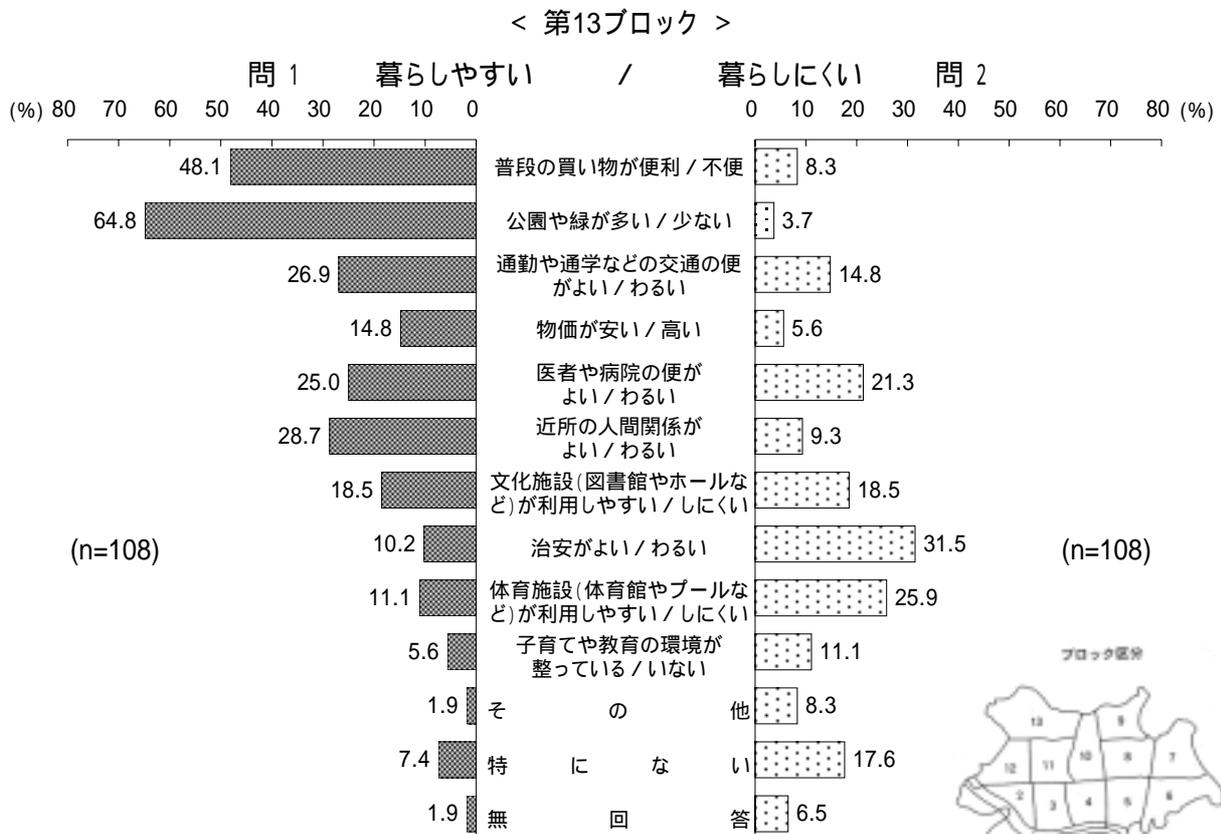
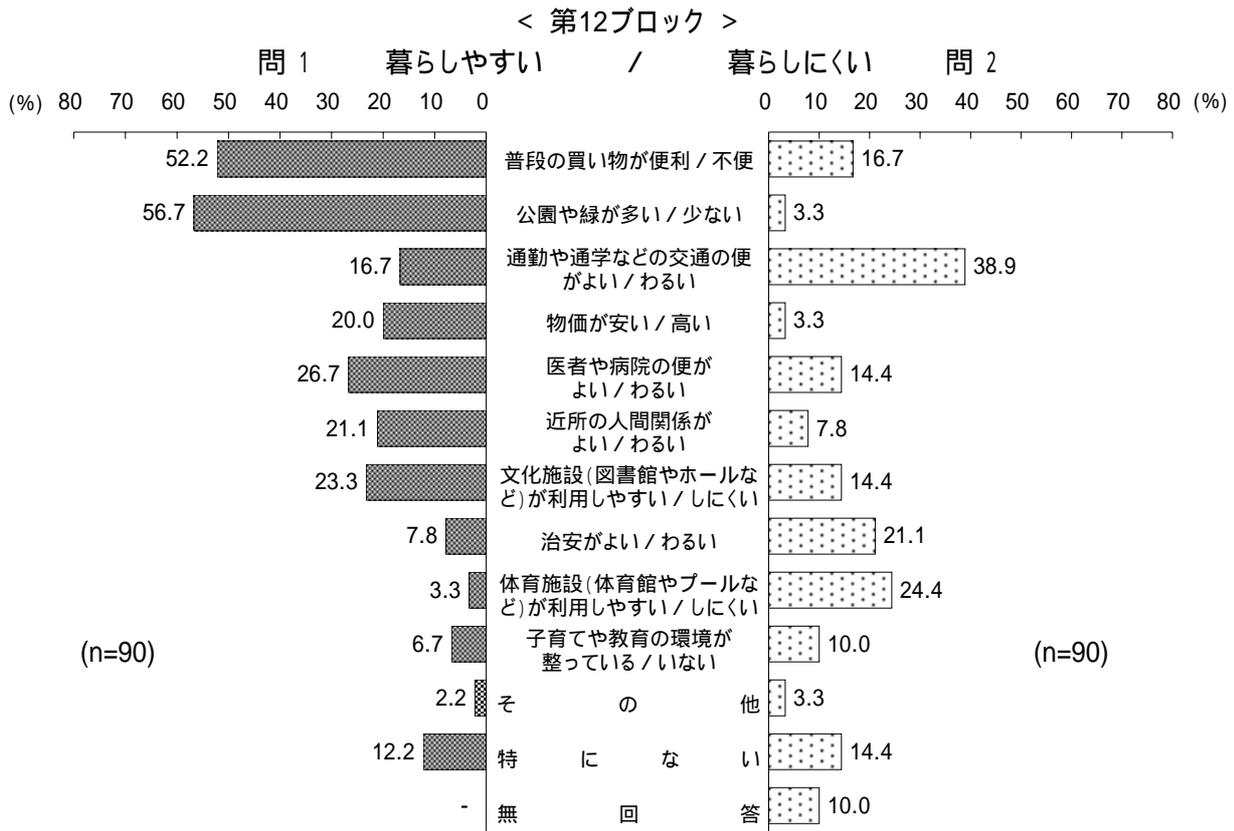


図 1 - 1 - 1 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (地域ブロック別) - つづき -



性・年代別に暮らしやすい点をみると、図1 - 1 - 2のとおりである。

第1位の「普段の買い物が便利」は女性50代(68.6%)が最も高く、女性60代においても60.1%と60%を超えており、女性の比較的高年齢層で高い傾向にある。第2位の「公園や緑が多い」は女性30代(55.0%)が最も高い。第3位の「通勤や通学などの交通の便がよい」は男性では30代(43.7%)と50代(43.6%)、女性では40代(41.8%)、女性50代(42.1%)で、高くなっている。

暮らしにくい点では、第1位の「治安がわるい」は男性30代(42.0%)が最も高く、女性30代(40.9%)、女性40代(41.1%)でも40%を超え、高くなっている。また、男女ともに年代が上がるにつれ低下する傾向がある。

図 1 - 1 - 2 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (性・年代別)

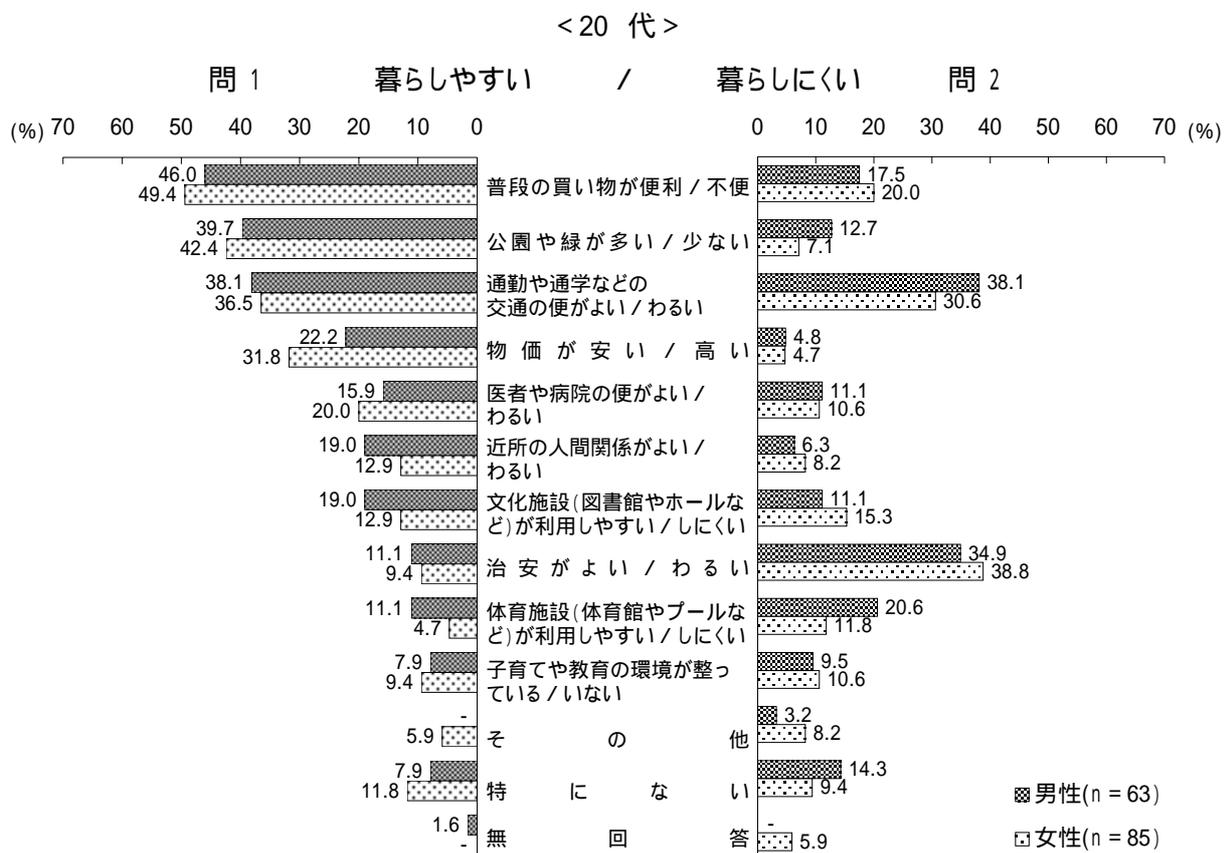


図 1 - 1 - 2 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (性・年代別) - つづき -

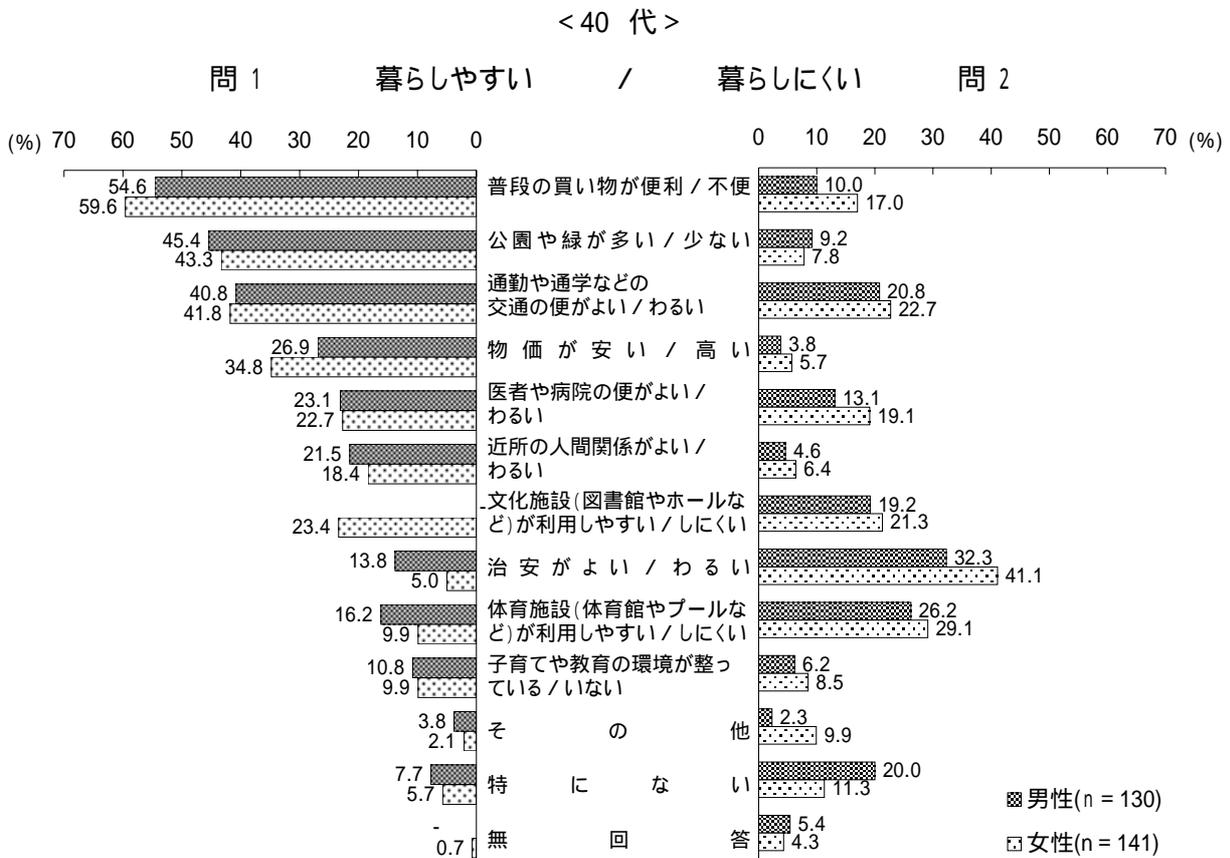
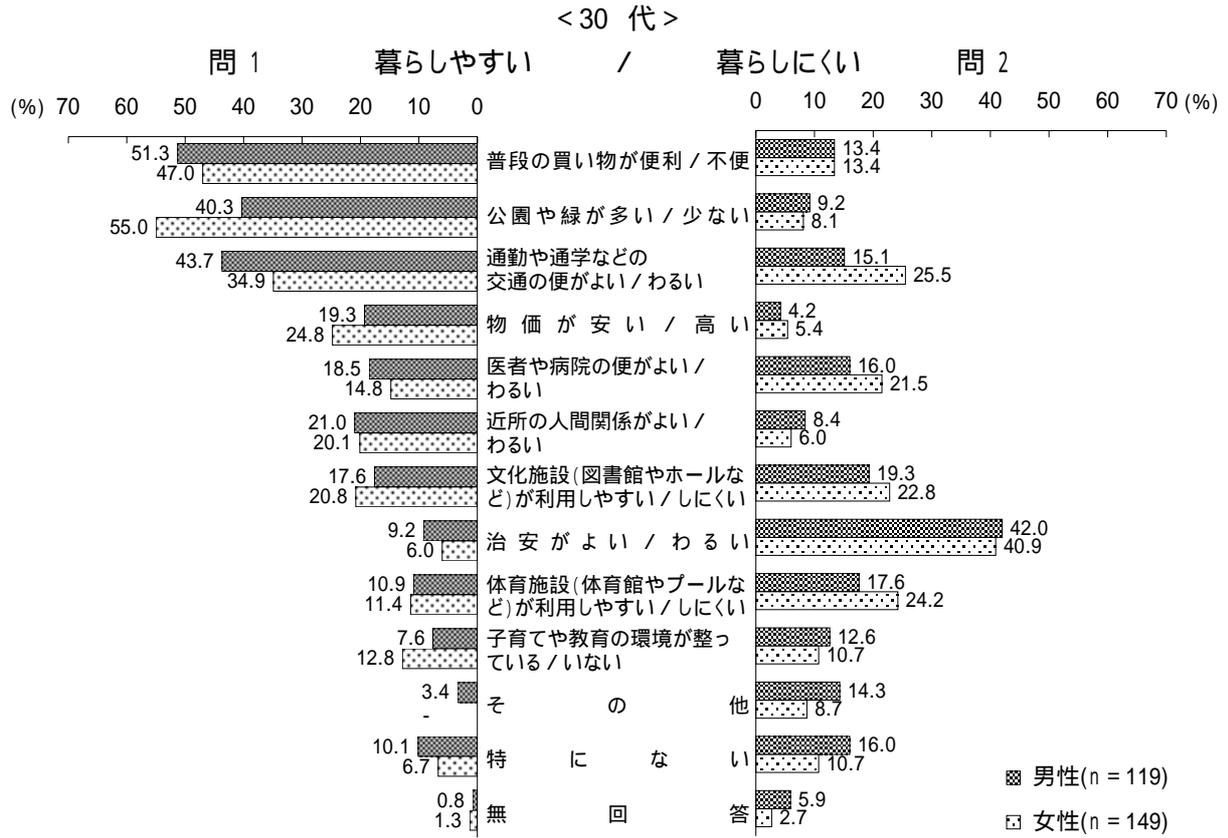


図 1 - 1 - 2 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (性・年代別) - つづき -

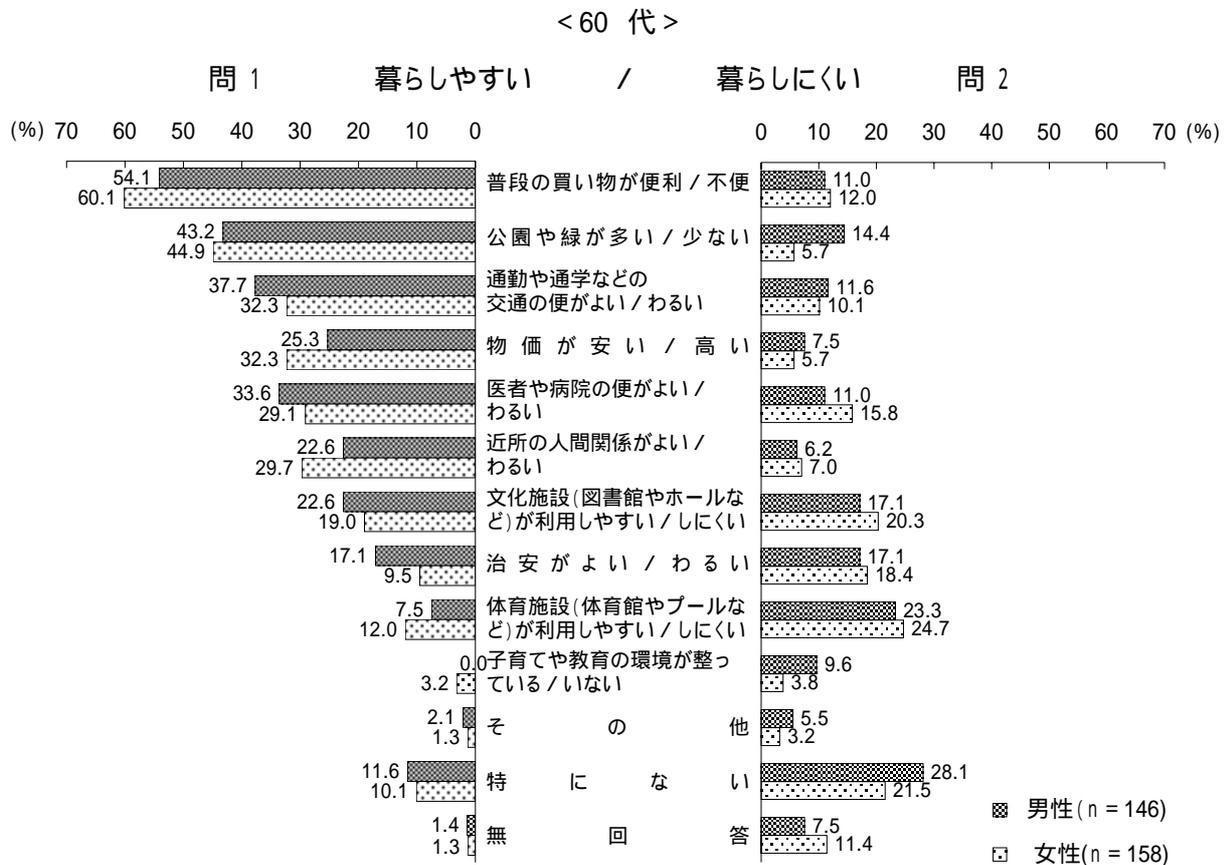
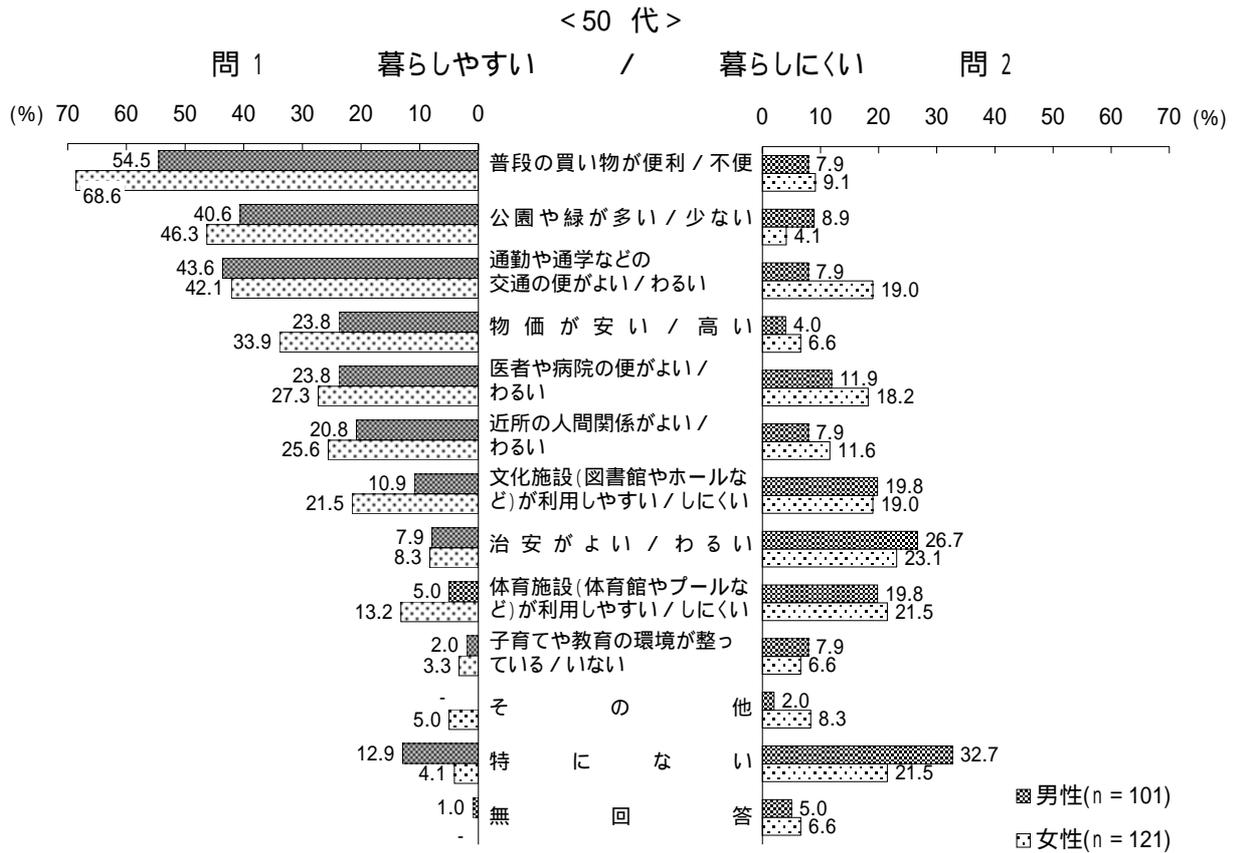
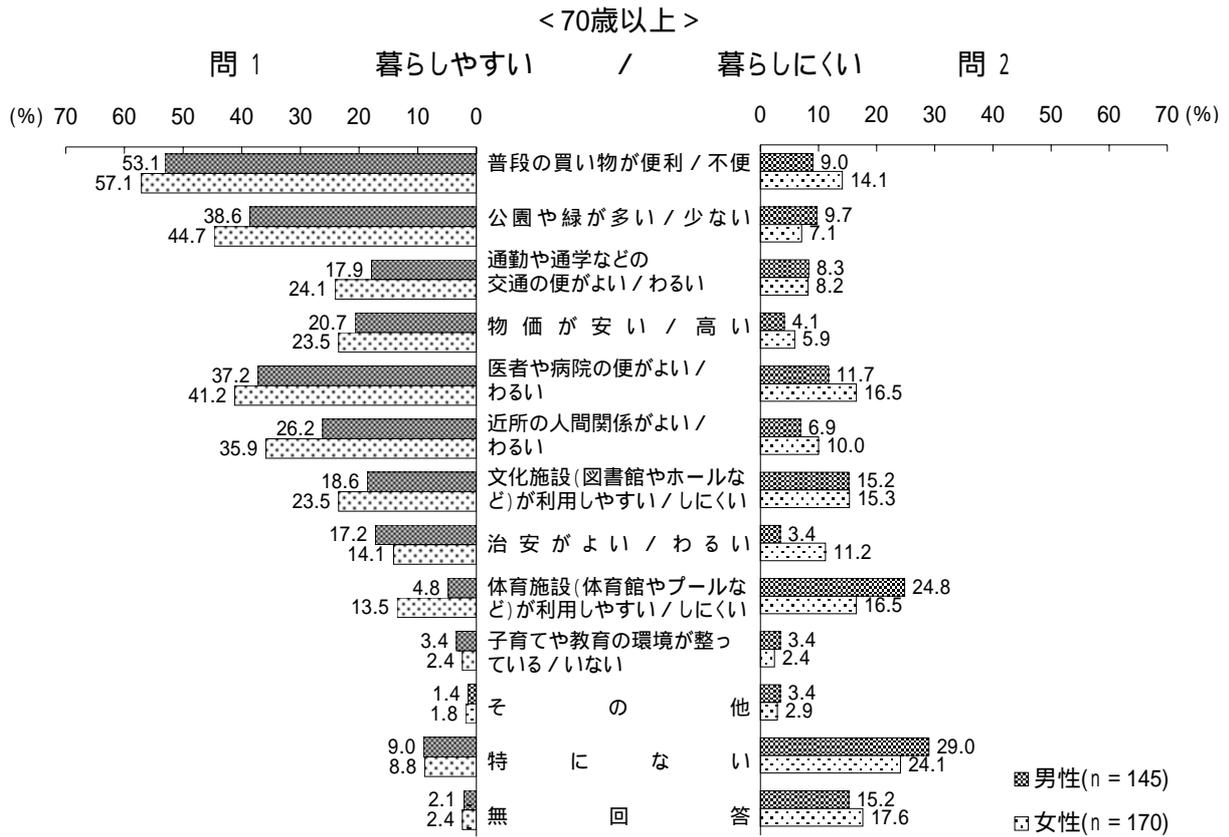
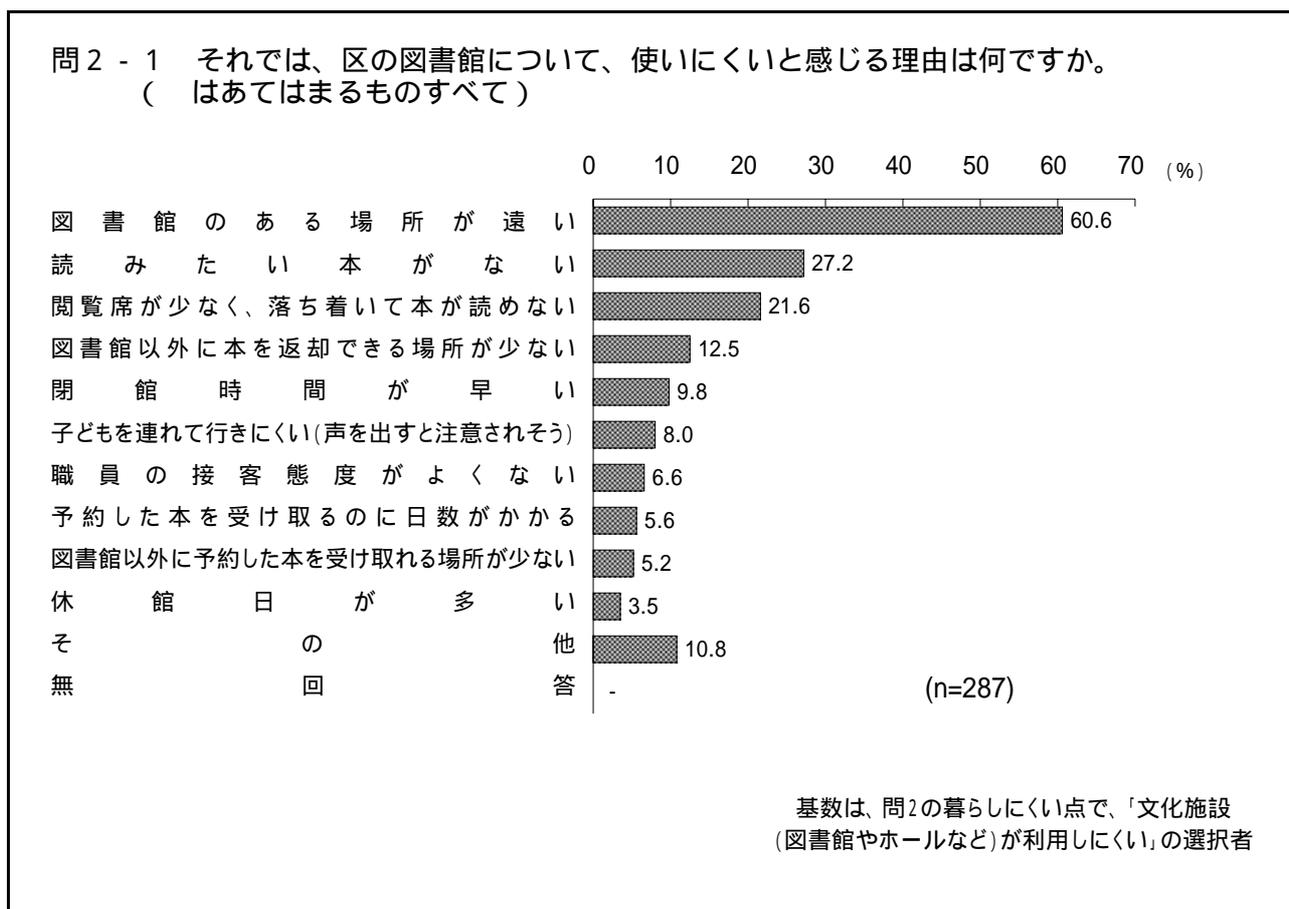


図 1 - 1 - 2 暮らしやすい点・暮らしにくい点 (性・年代別) - つづき -



(2) - 1 区の図書館について、使いにくいと感じる理由

「図書館のある場所が遠い」が60.6%で最も高い



区の図書館について使いにくいと感じる理由は、「図書館のある場所が遠い」が60.6%で最も高い。次いで

「読みたい本がない」が27.2%、「閲覧席が少なく、落ち着いて本が読めない」が21.6%と続いている。

上位4位を地域ブロック別にみると、図1 - 2 - 1のとおりである。

「図書館のある場所が遠い」では、第1ブロック(73.9%)、第3ブロック(72.7%)、第9ブロック(72.7%)で70%を超えている(ただし、それぞれ基数が少ないため参考値とする)。

さらに、上位4位を性・年代別にみると、図1 - 2 - 2のとおりである。

「図書館のある場所が遠い」では、男性では30代(69.6%)、女性では50代(69.6%)が、それぞれ最も高くなっている。「読みたい本がない」においては、男女ともに40代(男性40代:36.0%、女性40代:33.3%)で高くなっている(20代は基数が少ないため分析から除外)。「閲覧席が少なく、落ち着いて本が読めない」では、男女ともに40代(男性40代:40.0%、女性40代:30.0%)で高くなっており、40代を頂点にした山型の傾向になっている。

図 1 - 2 - 1 区の図書館について使いにくい理由【上位4位】(地域ブロック別)

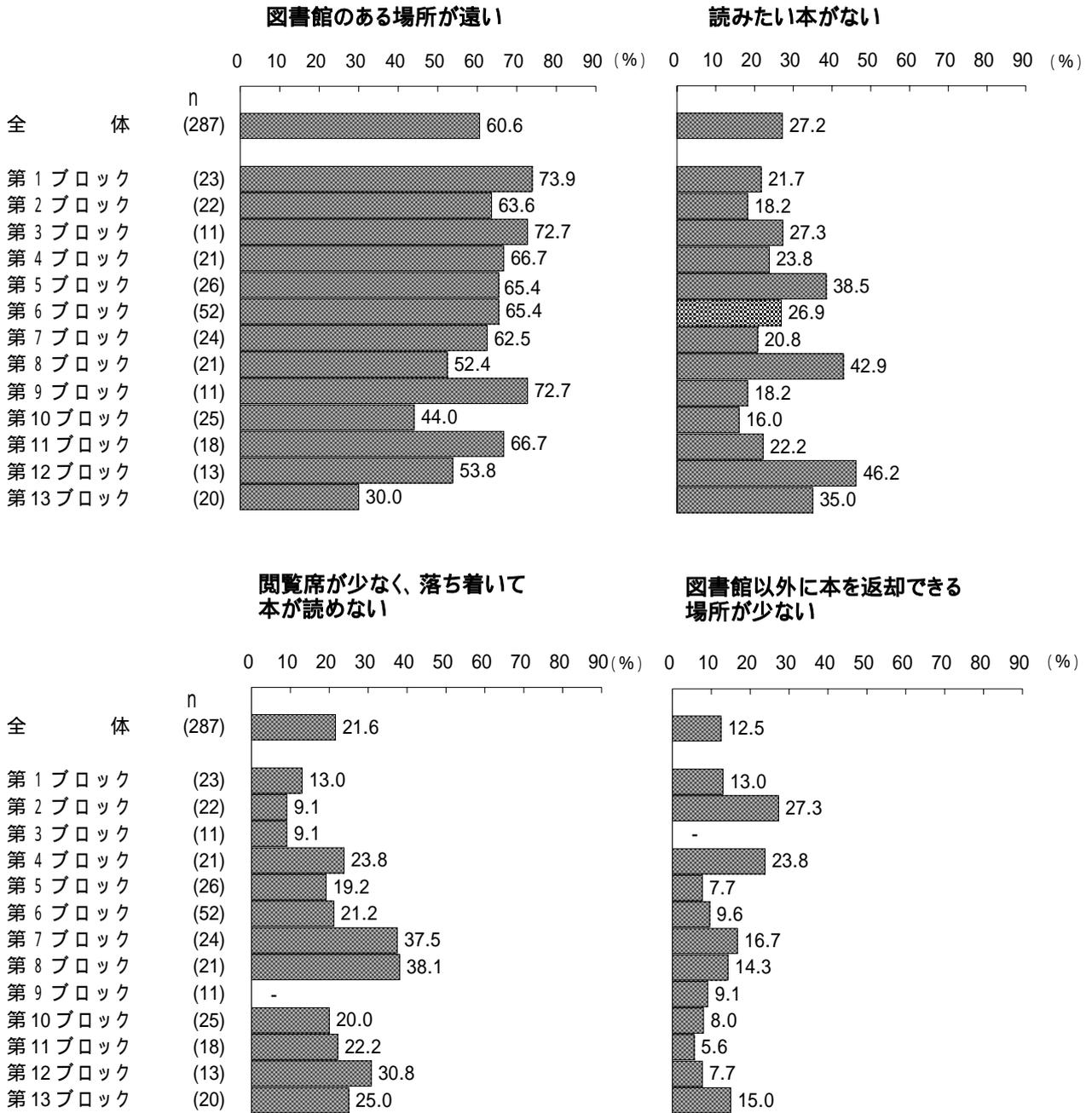
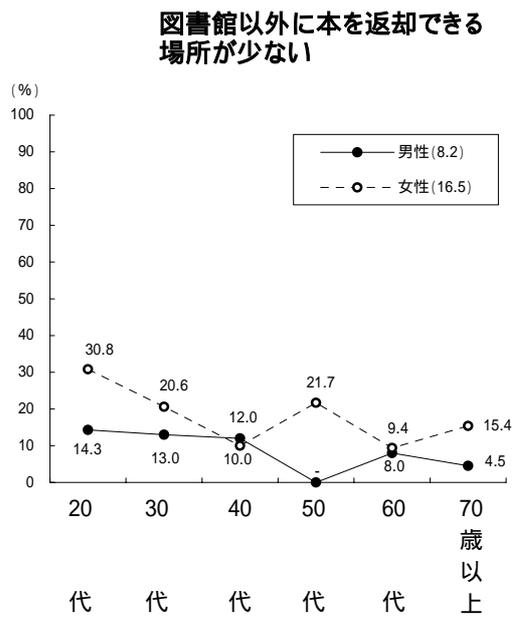
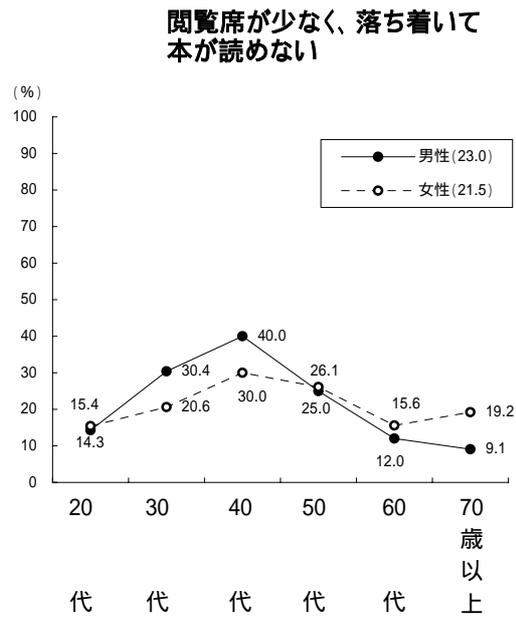
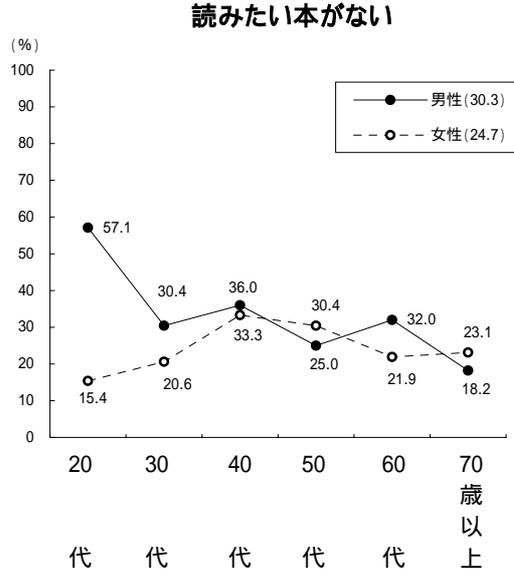
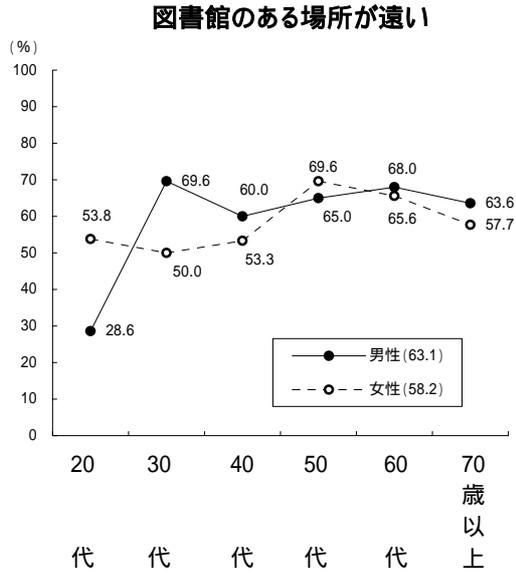


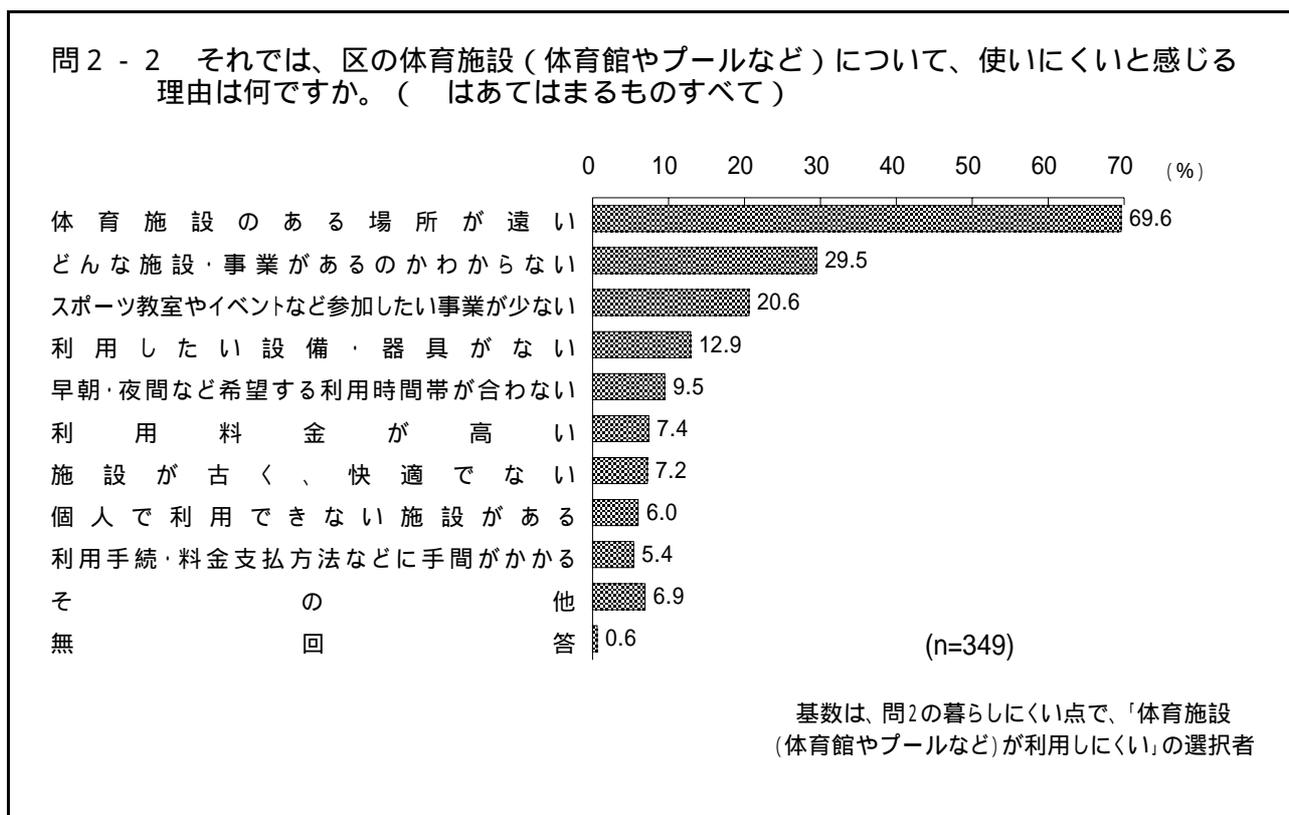
図 1 - 2 - 2 区の図書館について使いにくい理由【上位4位】（性・年代別）



：()内の数値は男女それぞれの全体を示す

(2) - 2 区の体育施設について、使いにくいと感じる理由

「体育施設のある場所が遠い」が69.6%で最も高い



区の体育施設について使いにくいと感じる理由は、「体育施設のある場所が遠い」が69.6%で最も高い。次いで「どんな施設・事業があるのかわからない」が29.5%、「スポーツ教室やイベントなど参加したい事業が少ない」が20.6%と続いている。

上位4位を地域ブロック別にみると、図1 - 3 - 1のとおりである。

「体育施設のある場所が遠い」では、第2ブロック(83.8%)、第12ブロック(100.0%)、第13ブロック(85.7%)で80%を超え、高くなっている。

さらに、上位4位を性・年代別にみると、図1 - 3 - 2のとおりである。

「体育施設のある場所が遠い」では、全体的に男性の方が女性よりも高い傾向にあり、特に男性40代、50代、60代では80%を超えている。また女性の中では女性50代(73.1%)が最も高く、男女とも50代を頂点とする山型の傾向を示している。「どんな施設・事業があるのかわからない」においても、全体的に男性の方が女性よりも高い傾向にあり、男性では30代(42.9%)、70歳以上(44.4%)、女性でも30代(33.3%)、70歳以上(35.7%)が高くなっている。「スポーツ教室やイベントなど参加したい事業が少ない」では、女性では比較的若い世代である30代(22.2%)、40代(26.8%)で、男性では中高年である50代以上で20%を超え、高くなっている(20代は基数が少ないため分析から除外)。

図 1 - 3 - 1 区の体育施設について使いにくい理由【上位4位】(地域ブロック別)

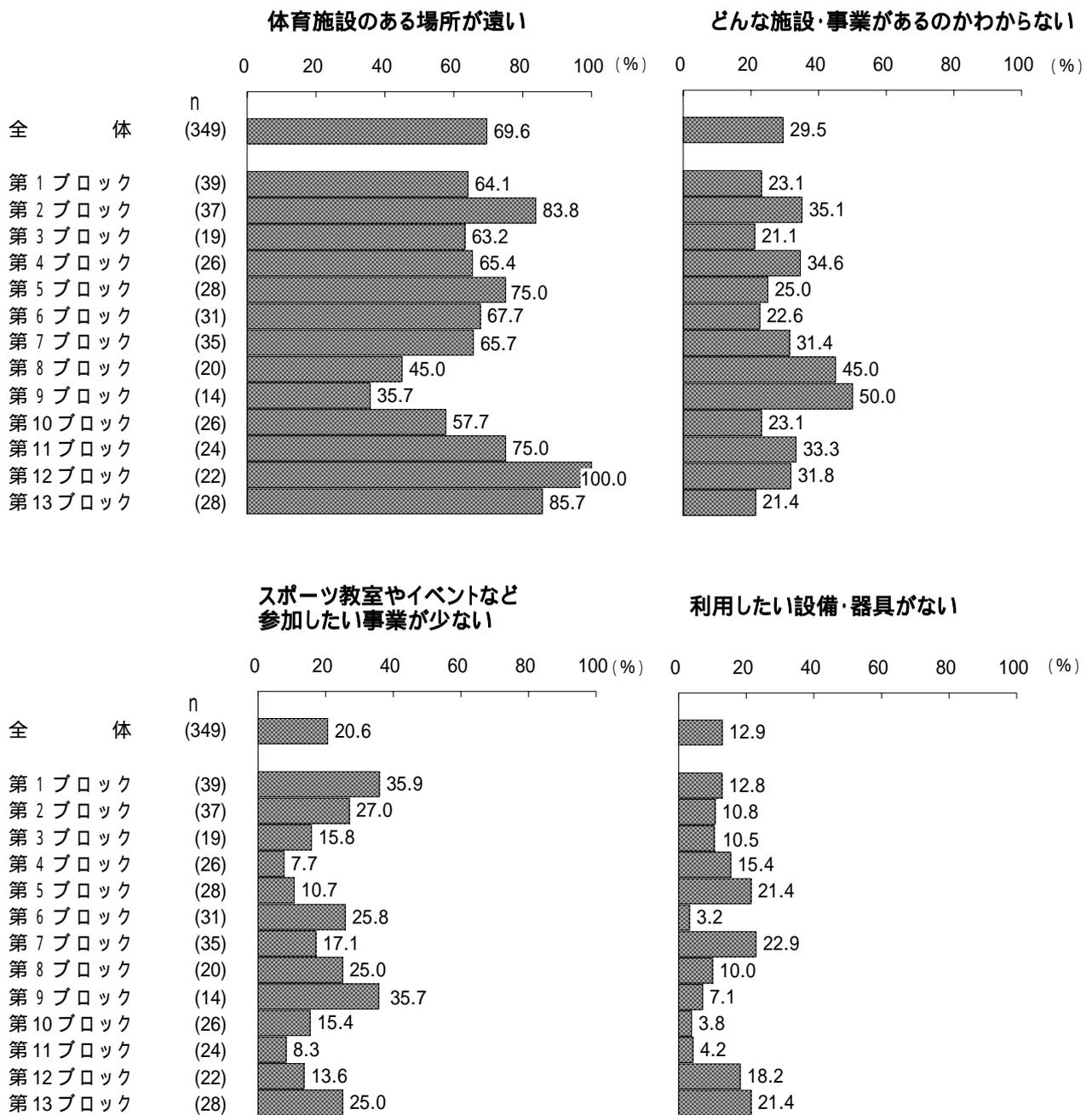
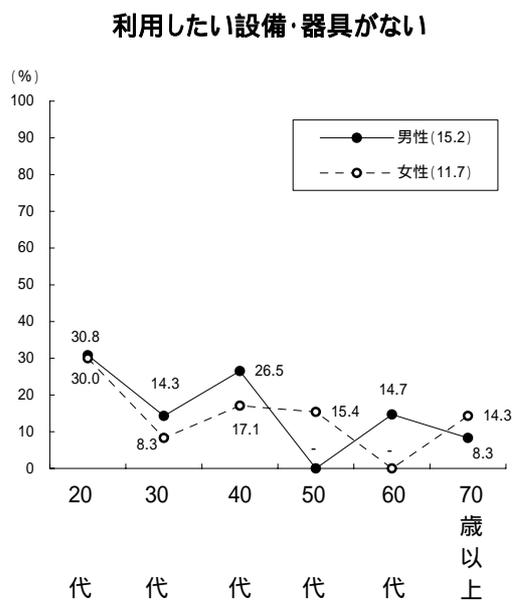
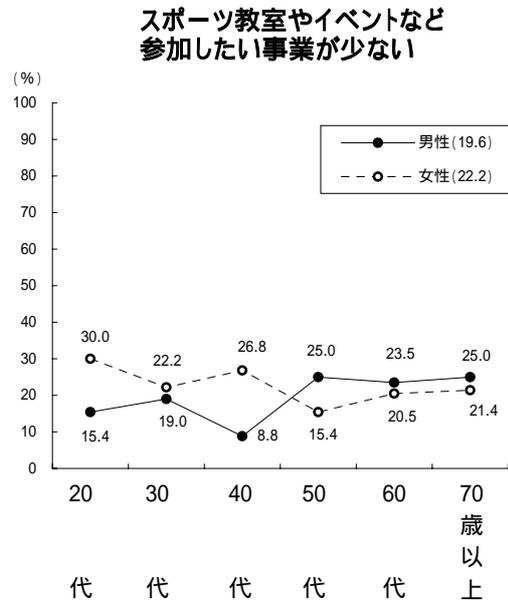
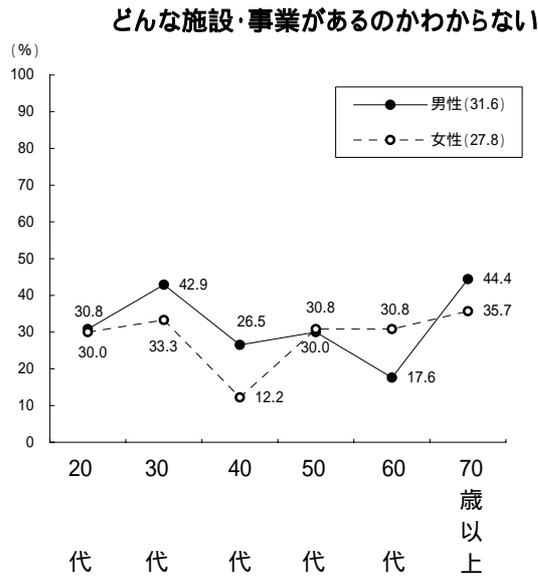
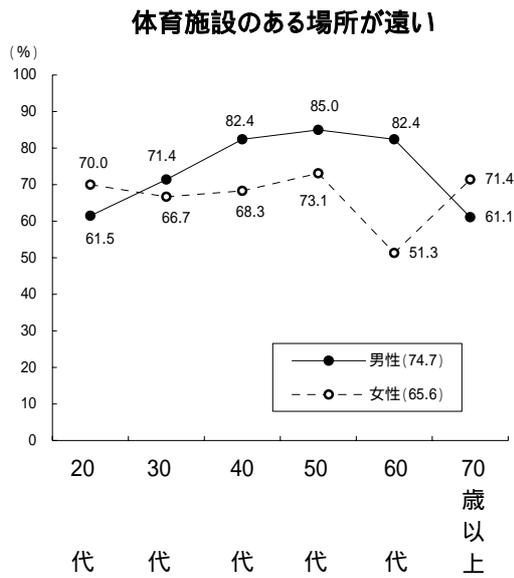


図 1 - 3 - 2 区の体育施設について使いにくい理由【上位4位】（性・年代別）

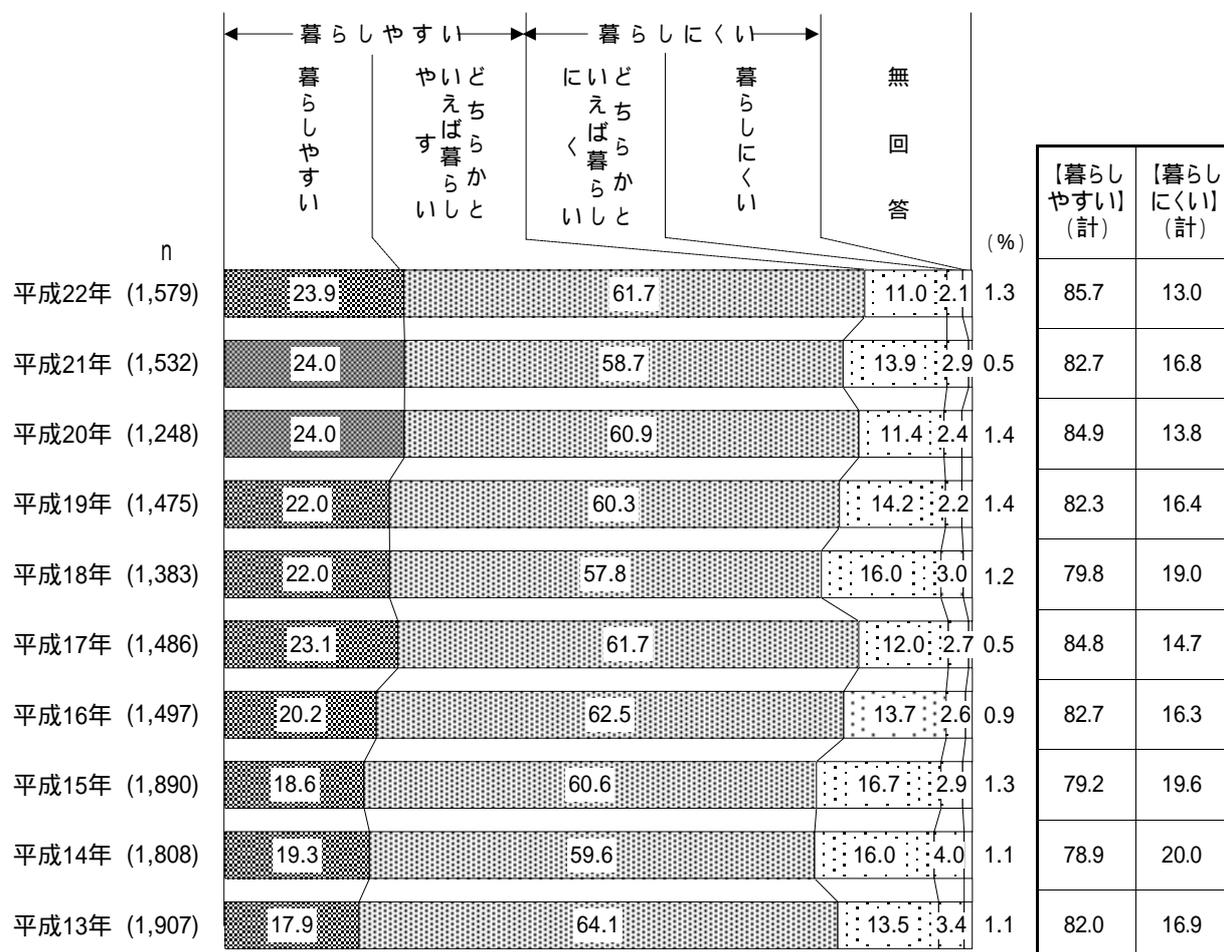


:()内の数値は男女それぞれの全体を示す

(3) 総合的な暮らしやすさ

《暮らしやすい》と感じている人が85.7%で平成13年以降最高に

問3 それでは、以上のことを踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。(は1つだけ)



今住んでいるところが「暮らしやすい」と感じている人は23.9%であり、これに「どちらかといえば暮らしやすい」の61.7%とあわせた《暮らしやすい》は全体の85.7%を占めている。一方、「暮らしにくい」(2.1%)と「どちらかといえば暮らしにくい」(11.0%)をあわせた《暮らしにくい》は13.0%である。

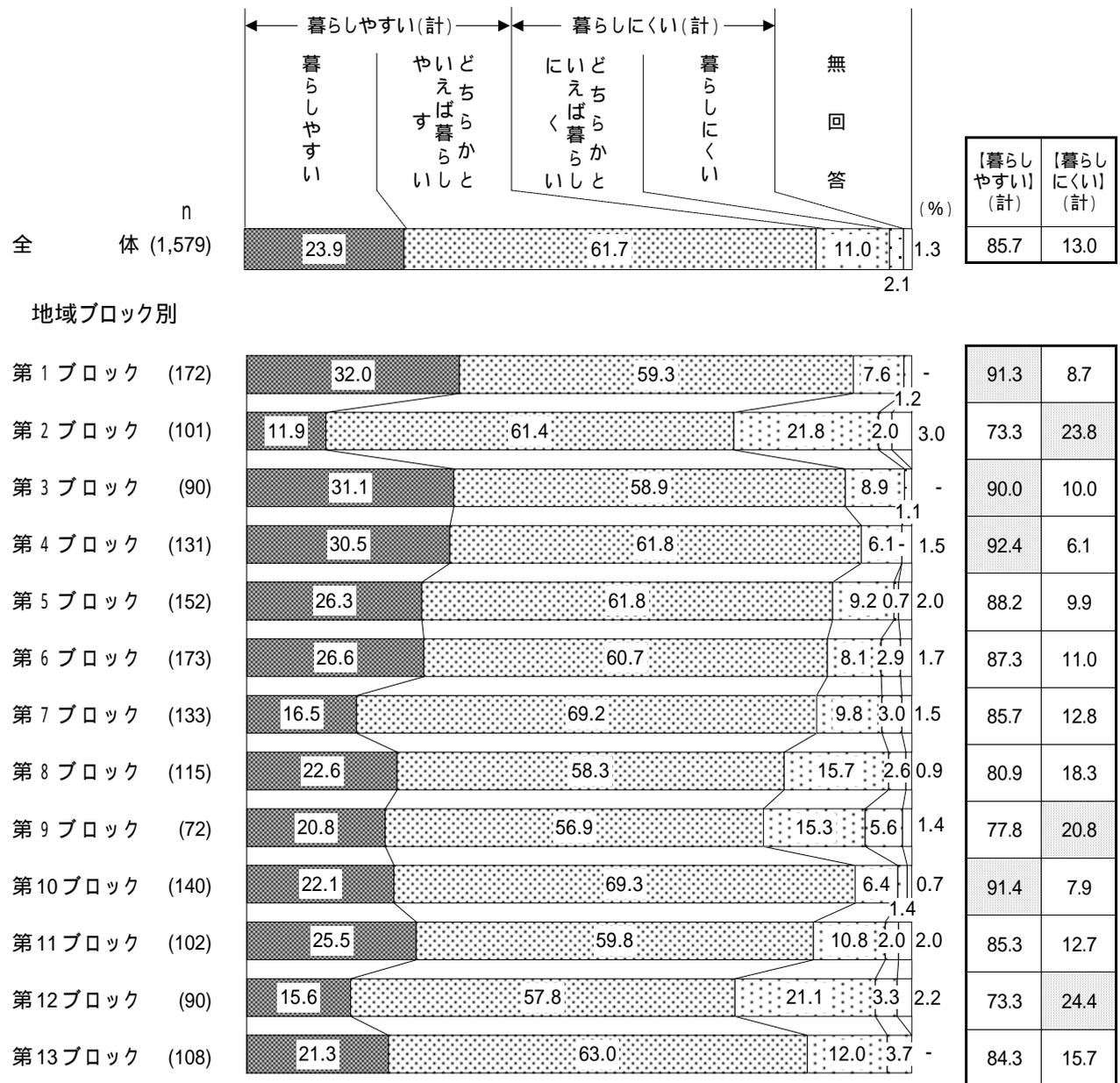
平成21年度調査と比較すると、《暮らしやすい》の割合は3ポイント上昇しているが、《暮らしやすい》の85.7%は、質問を始めた平成13年以降、最高となっている。

地域ブロック別にみると、図1-4-1のとおりである。

《暮らしやすい》が90%を超えるブロックは、第1、第3、第4、第10ブロックである。

一方、《暮らしにくい》では、第12ブロックが24.4%と最も高く、第2ブロック(23.8%)、第9ブロック(20.8%)でも20%を超えている。

図 1 - 4 - 1 総合的な暮らしやすさ (地域ブロック別)

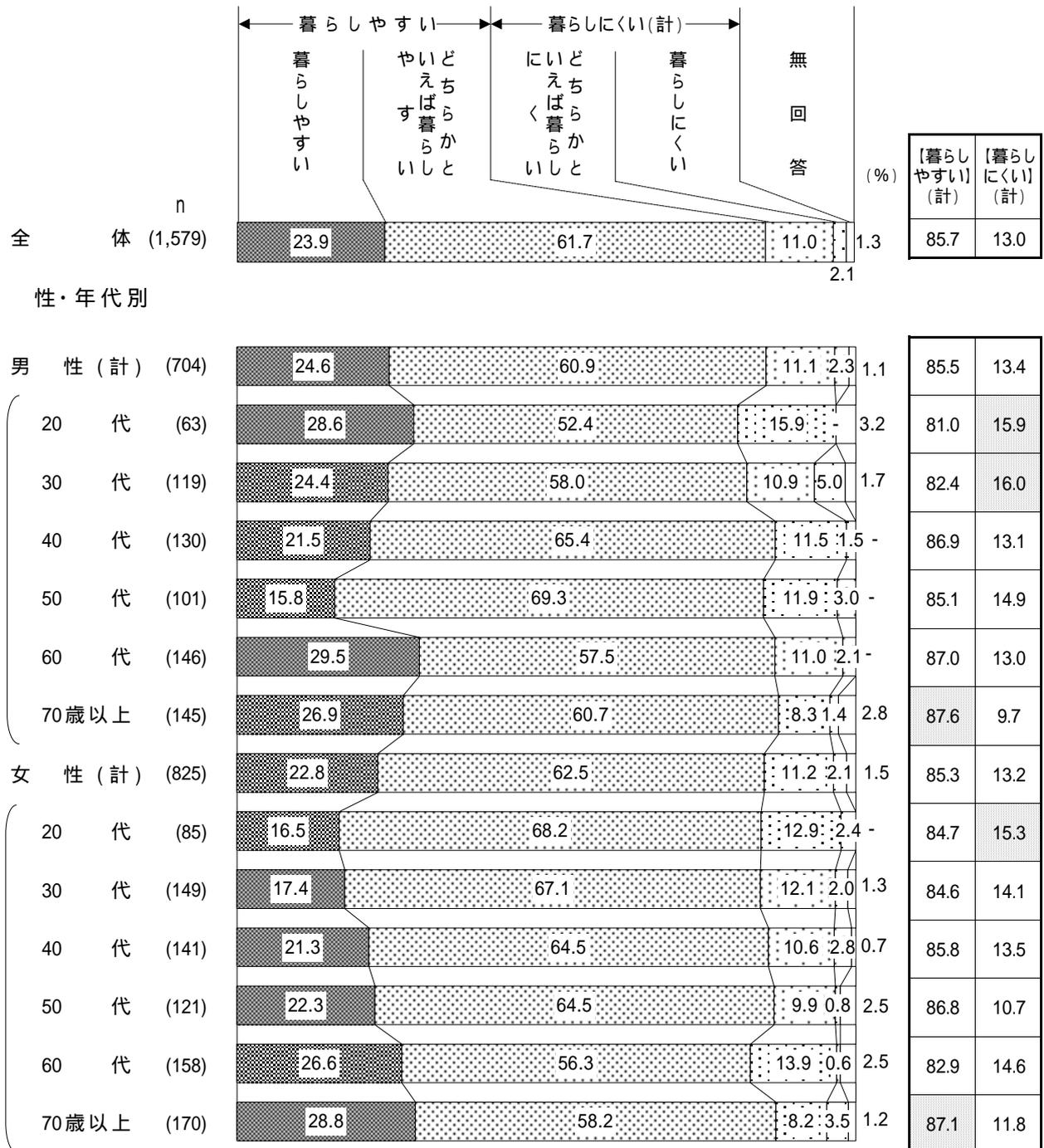


性・年代別にみると、図1-4-2のとおりである。

《暮らしやすい》は男性では70歳以上(87.6%)、女性でも70歳以上(87.1%)が最も高い。

《暮らしにくい》は男性20代、30代、女性の20代で15%を超え、他世代よりやや高い傾向にある。

図 1 - 4 - 2 総合的な暮らしやすさ (性・年代別)



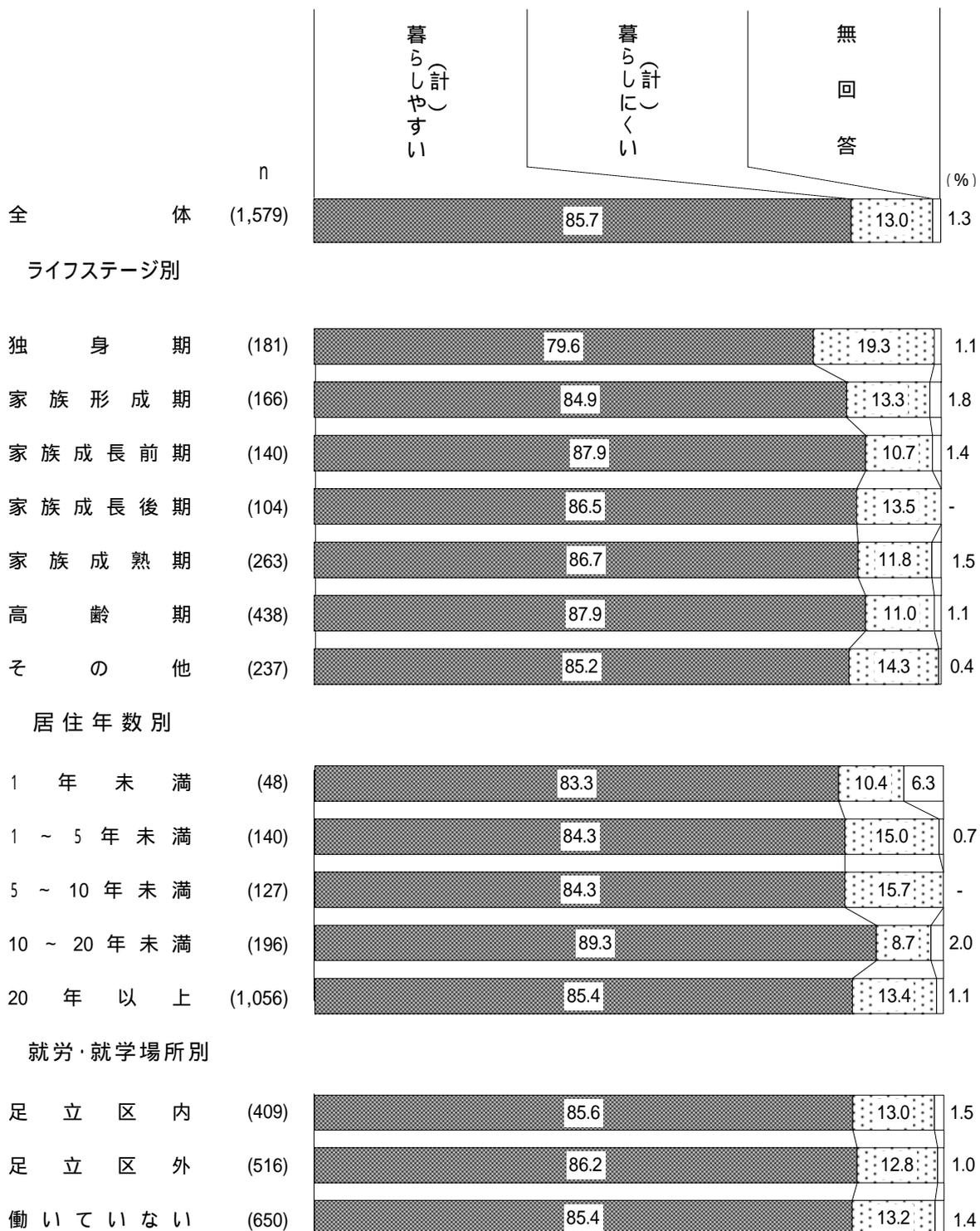
ライフステージ別、居住年数別、就労・就学場所別にみると、図1 - 4 - 3のとおりである。

ライフステージ別では《暮らしやすい》が「家族成長前期」と「高齢期」でともに87.9%と最も高い。一方で《暮らしにくい》は「独身期」で19.3%と最も高くなっている。

居住年数別では、《暮らしやすい》が「10～20年未満」で89.3%と最も高くなっている。

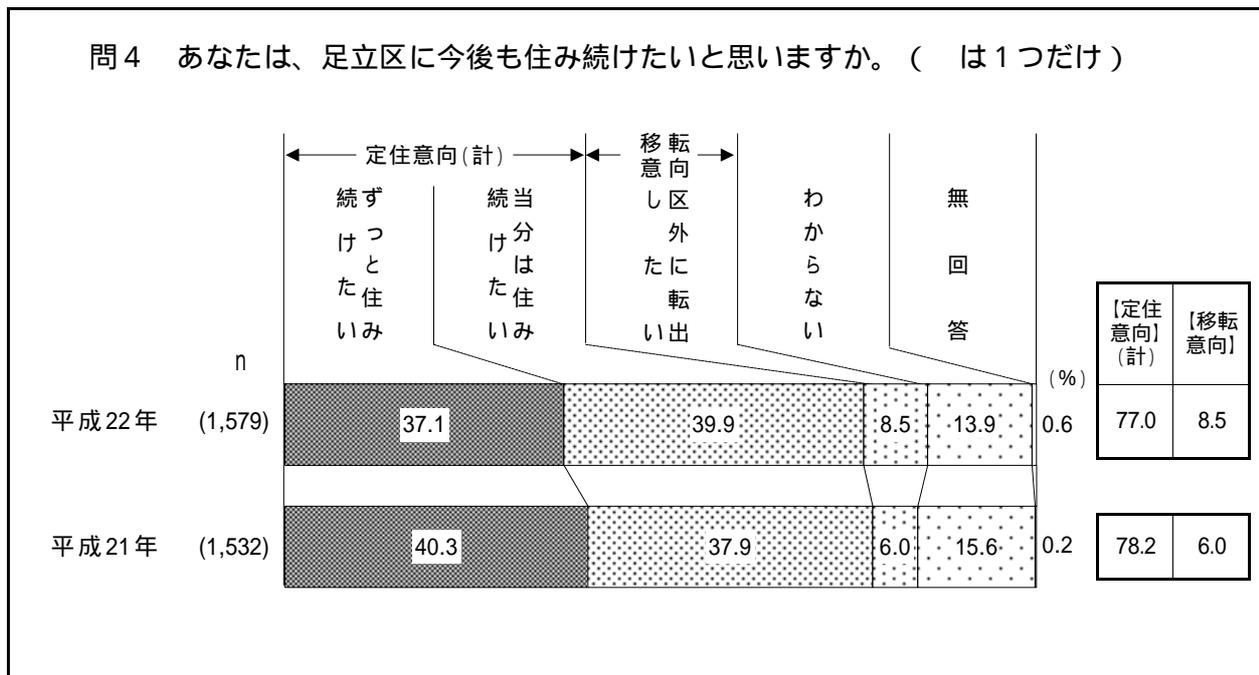
就労・就学場所別では、《暮らしやすい》がいずれも85%を超えており、特別な傾向は見られない。

図 1 - 4 - 3 総合的な暮らしやすさ（ライフステージ別、居住年数別、就労・就学場所別）



(4) 定住・移転意向

77%の区民が《定住意向》をもっている



区内に「ずっと住みたい」(37.1%)と「当分は住みたい」(39.9%)をあわせた《定住意向》が77.0%を占めている。「区外に転出したい」という《移転意向》は8.5%であるが、一方で「わからない」と回答した人も13.9%みられる。

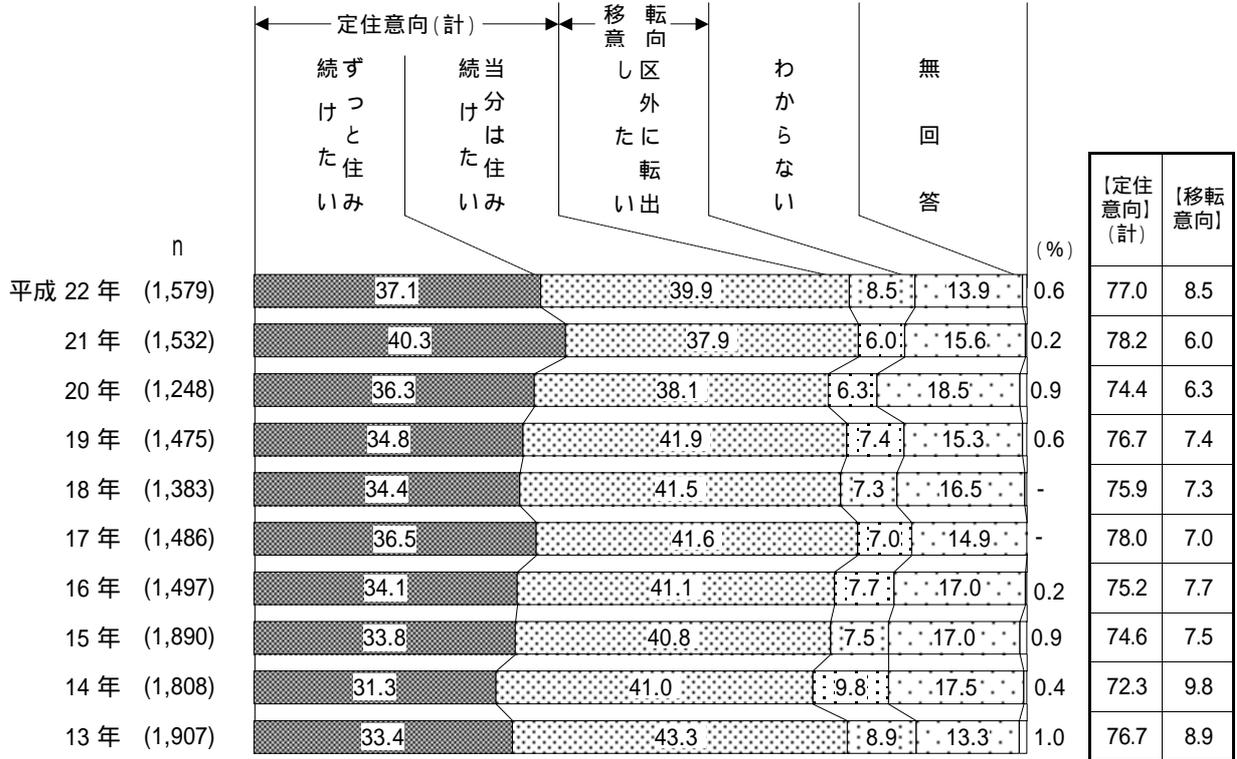
平成21年度調査と比較すると《定住意向》は1.2ポイント下降、《移転意向》は2.5ポイント上昇しているが、大きな差はみられない。

各実施年別にみると、図1-5-1のとおりである。平成13年以降、《定住意向》は70%台をゆるやかに推移しており、《移転意向》も6%～8%台を行き来しており、大きな変化は見られない。

図 1 - 5 - 1 定住・移転意向（経年変化）

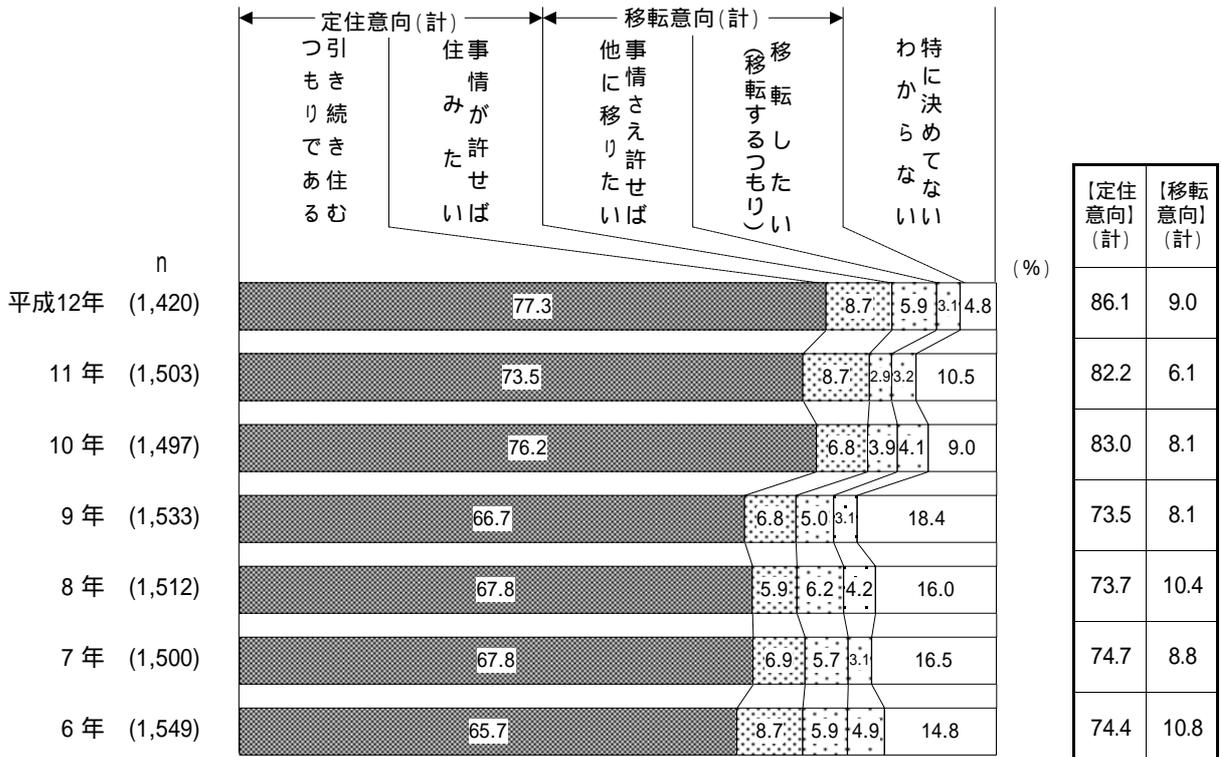
（平成13年以降 郵送配布郵送回収法）

問5 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。（は1つ）



（平成12年まで 訪問面接法）

問 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。この中から1つお答えください。（は1つ）

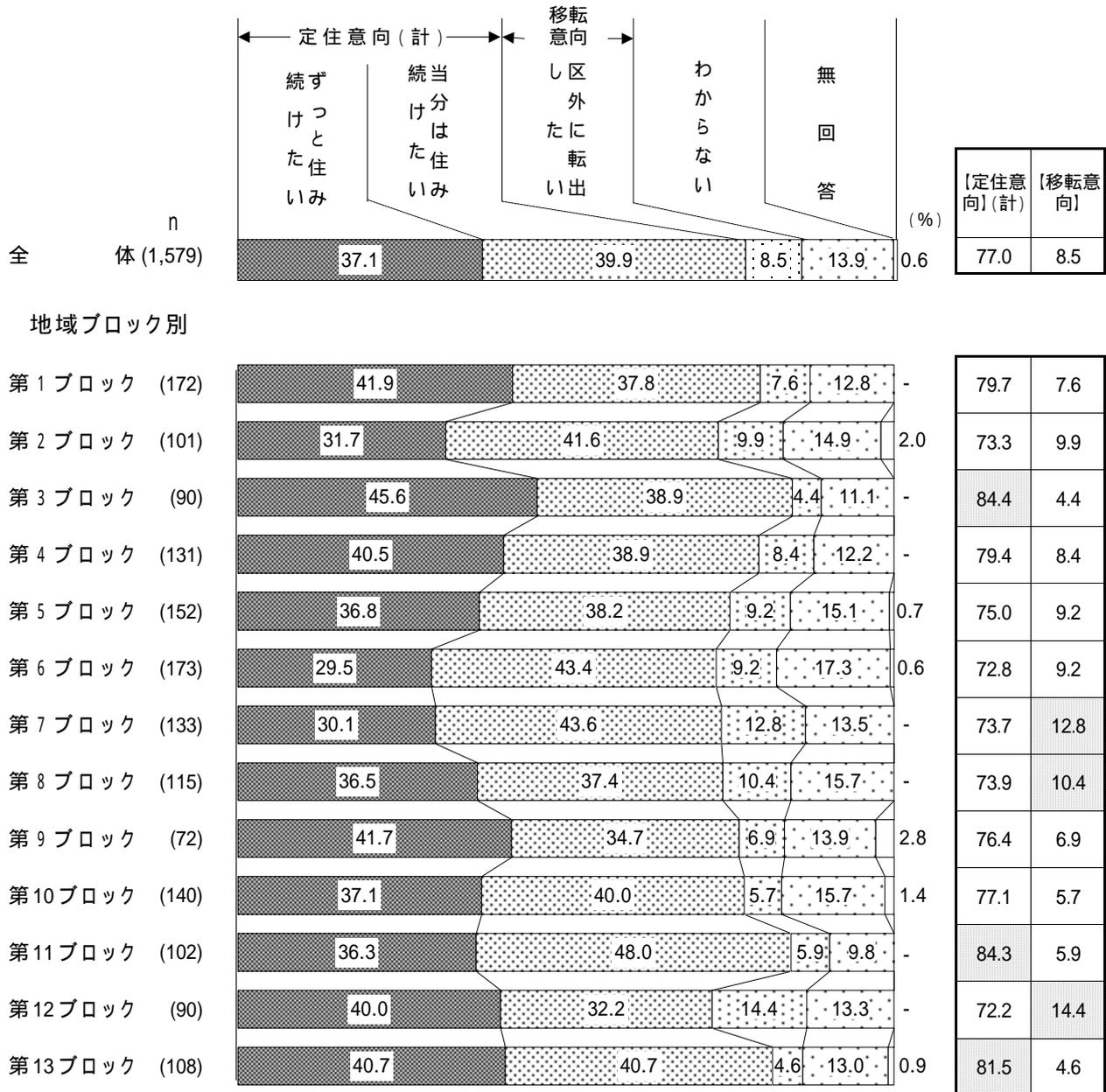


（注）平成12年までと平成13年以降では、調査方法（平成12年までは訪問面接法、13年以降は郵送配布郵送回収法）、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

地域ブロック別にみると、図1-5-2のとおりである。

《定住意向》が80%を超えるブロックは、第3、第11、第13ブロックである。一方、《移転意向》は第12ブロックが14.4%と最も高く、第7、第8ブロックでも10%を超えている。

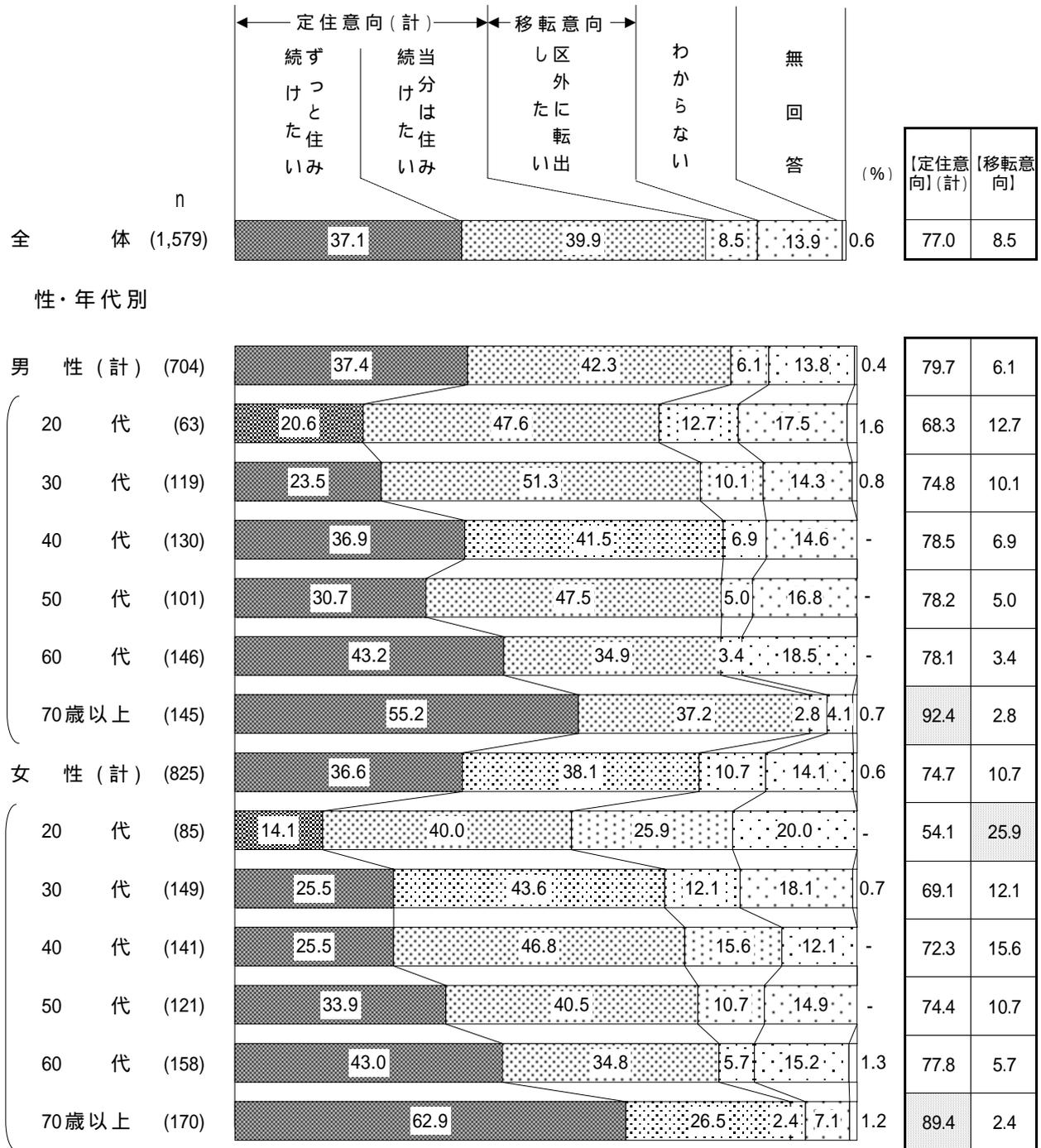
図 1 - 5 - 2 定住意向（地域ブロック別）



性・年代別にみると、図1-5-3のとおりである。

〔定住意向〕は男性では70歳以上(92.4%)、女性においても70歳以上(89.4%)が最も高く、それぞれ9割前後にのぼり、年代が高くなるにつれ〔定住意向〕も上昇する傾向にある。また、〔移転意向〕は女性の方が男性よりも全体的に高く、特に女性20代では25.9%に達している。

図 1 - 5 - 3 定 住 意 向 (性 ・ 年 代 別)



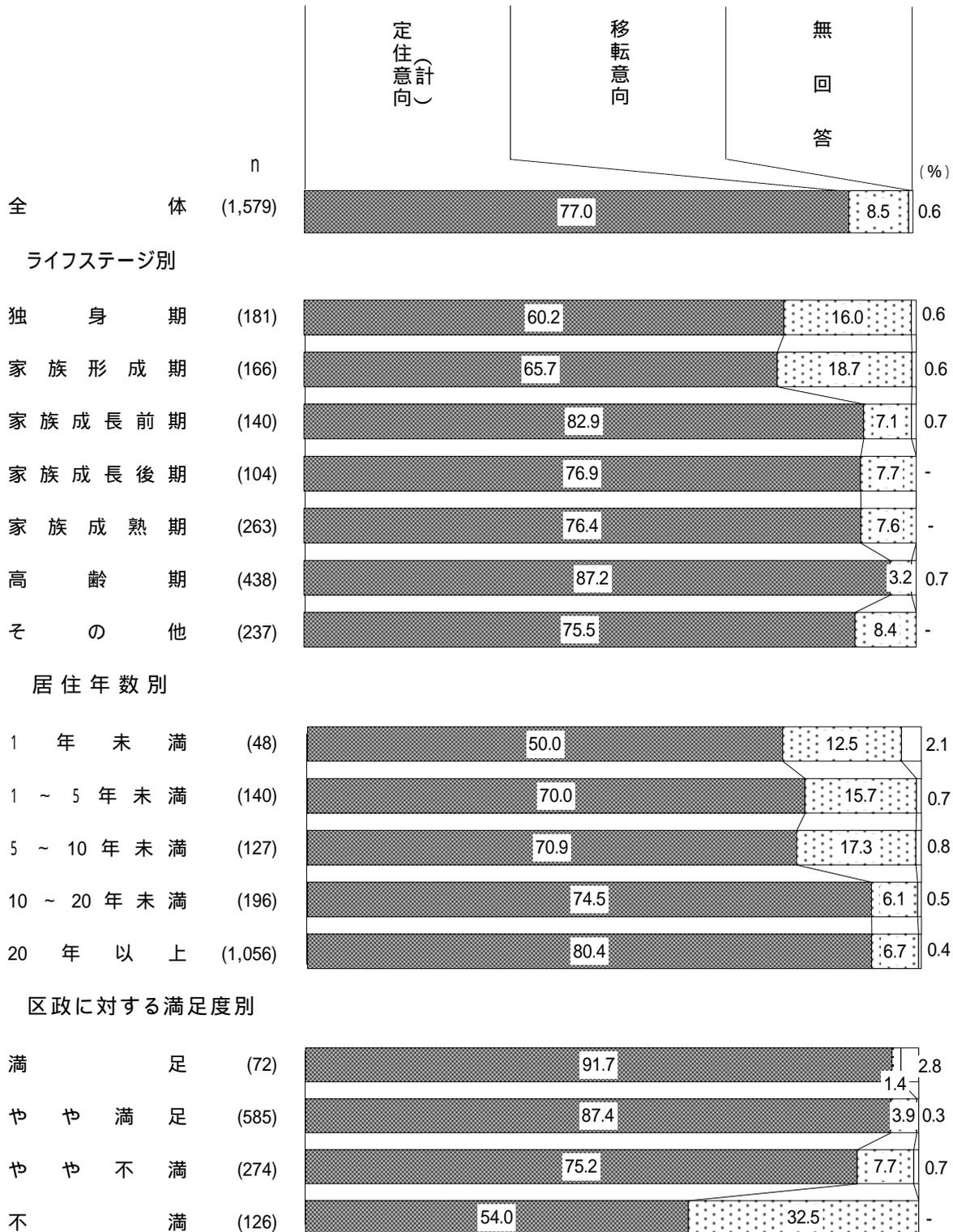
ライフステージ別、居住年数別、区政に対する満足度別にみると、図1 - 5 - 4のとおりである。

ライフステージ別では《定住意向》が「高齢期」で87.2%と最も高い。一方で《移転意向》は「家族形成期」で18.7%と最も高く、次いで「独身期」の16.0%と続いている。

居住年数別では、《定住意向》が「20年以上」で80.4%と最も高くなっており、居住年数が長くなるにつれ、《定住意向》も上昇する傾向にある。

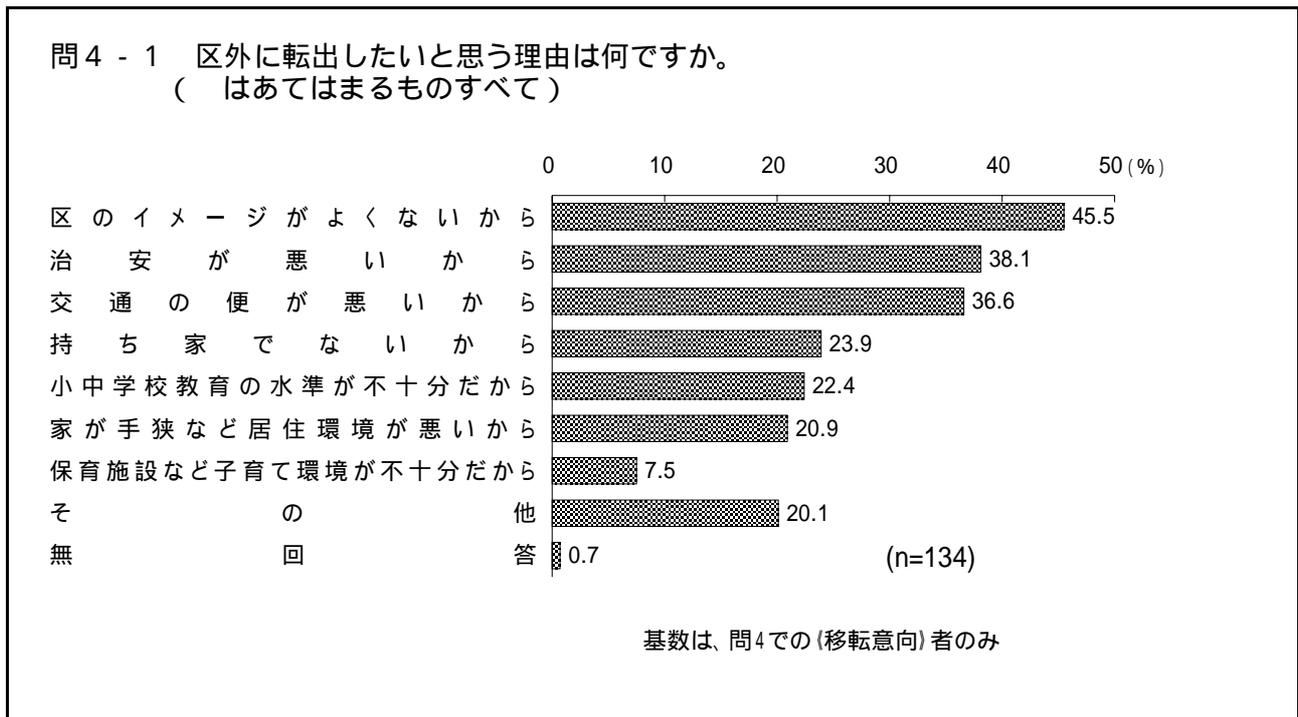
区政に対する満足度別では、《定住意向》が「満足」で91.7%にのぼり、最も高い。一方、《移転意向》は「不満」で32.5%と突出して高くなっている。

図 1 - 5 - 4 定住意向（ライフステージ別、居住年数別、区政に対する満足度別）



(4) - 1 区外に転出したいと感じる理由

「区のイメージがよくないから」が45.5%で最も高い



区外に転出したい理由について、(移転意向)者に聞いてみると「区のイメージがよくないから」が45.5%で最も高い。次いで「治安が悪いから」が38.1%、「交通の便が悪いから」が36.6%と続いている。移転意向の理由としては、家が手狭であることや持ち家でないといった生活環境の要因よりも、イメージや治安といった要因の方がやや多いということが示唆された。

なお、(移転意向)者が全体として少ないため、ブロック別や性・年代別などの分析は割愛する。

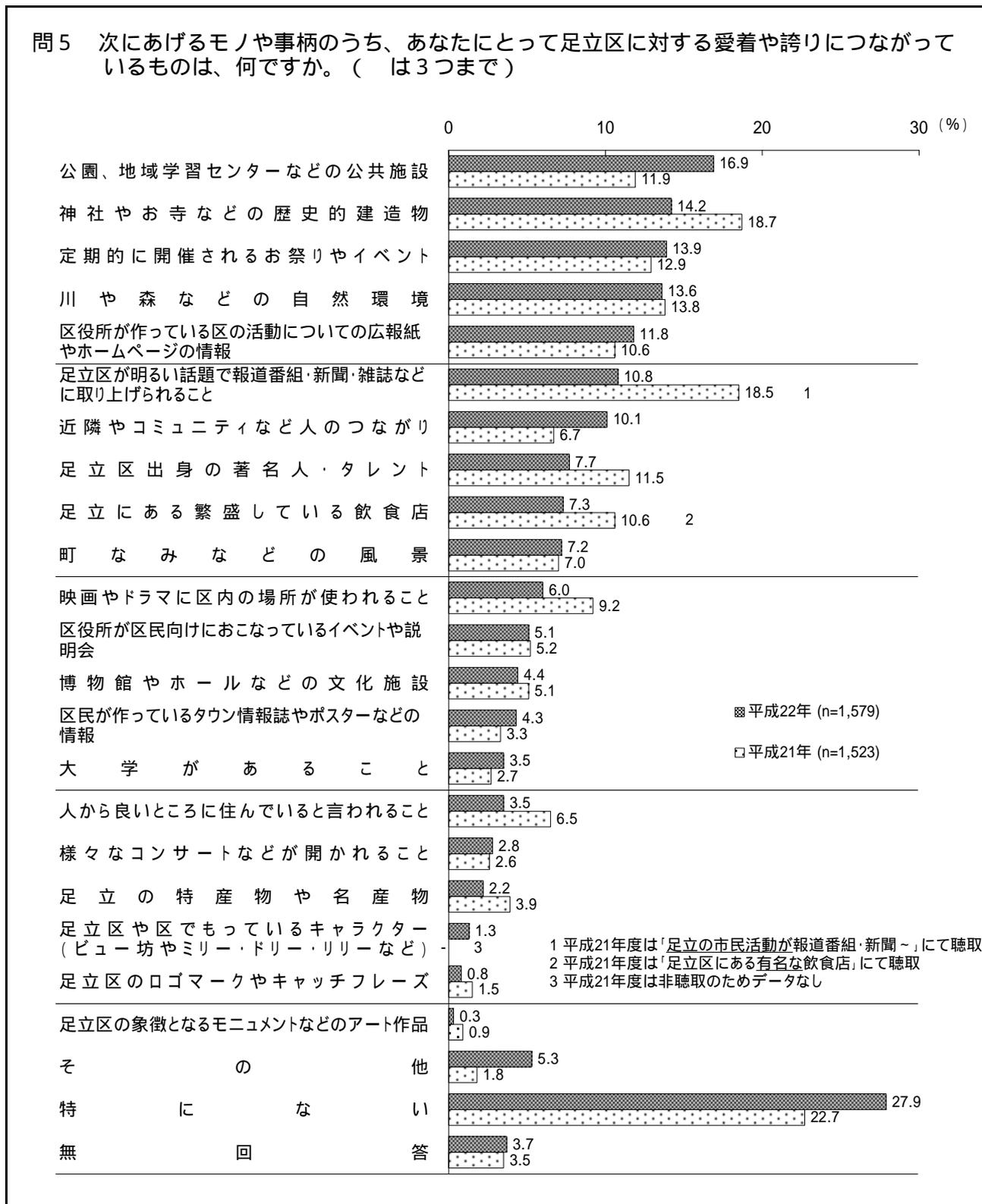
2 区のイメージ / 地域活動

-
- (1) 区に対する愛着や誇りにつながるもの
 - (2) 区に対する気持ち
 - (3) 足立区のイメージアップへの意向
 - (4) 地域活動の参加状況
 - (5) 参加した地域活動の認知経路
 - (6) 地域活動への参加意向
-

2 区のイメージ/地域活動

(1) 区に対する愛着や誇りにつながるもの

「公園、地域学習センターなどの公共施設」が16.9%で最も高い



区に対する愛着や誇りにつながるものについては、「公園、地域学習センターなどの公共施設」が16.9%で最も高い。次いで「神社やお寺などの歴史的建造物」が14.2%、「定期的に行われるお祭りやイベント」が13.9%と続いている。また、「特にない」は27.9%を示している。

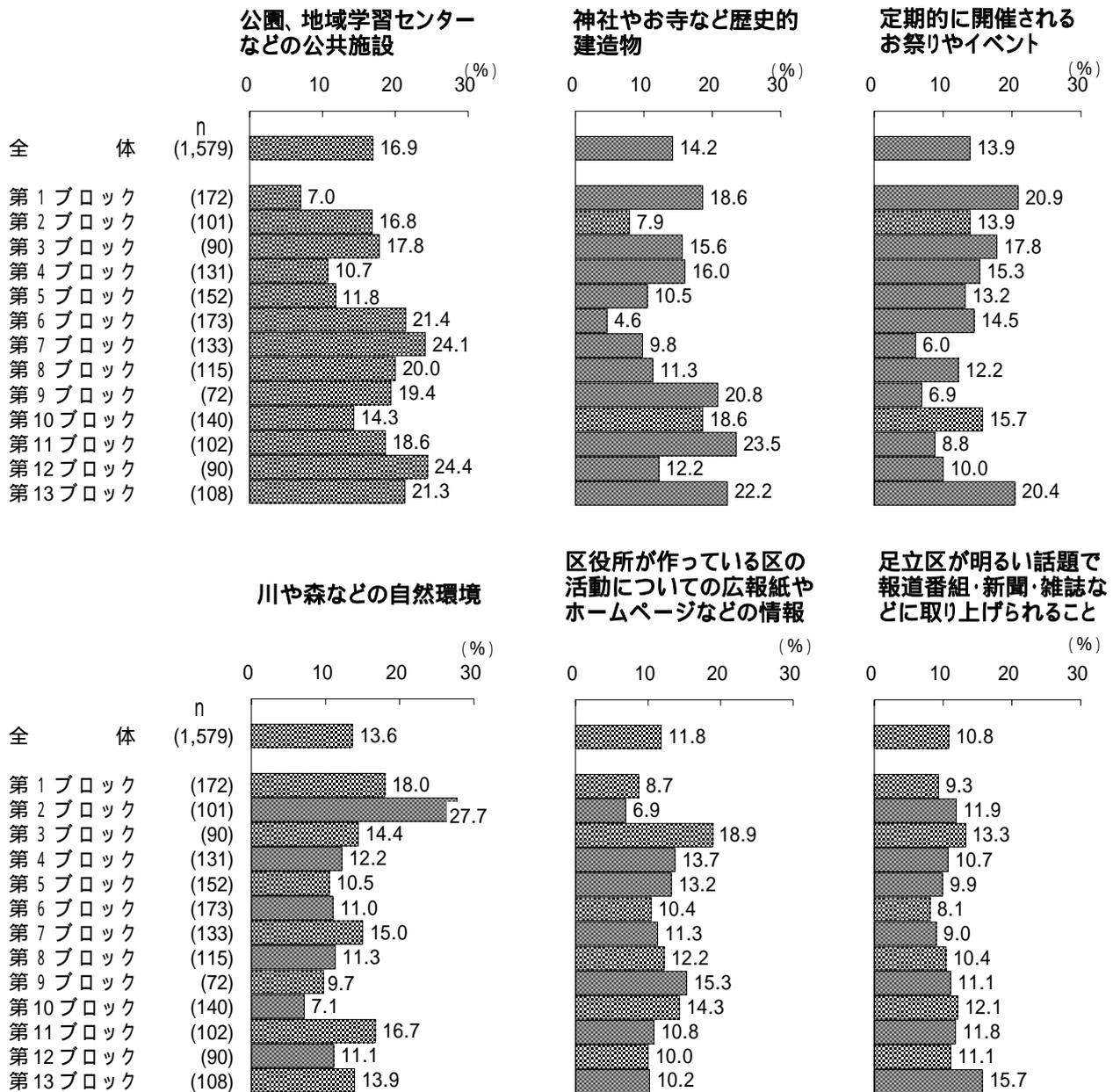
なお、平成21年度調査においては、「神社やお寺など歴史的建造物」(18.7%)が最も高く、以下の「足立の市民活動が報道番組・新聞・雑誌などに取り上げられること」(18.5%)、「川や森などの自然環境」(13.8%)などとなっている。

上位6項目を地域ブロック別にみると、図2-1-1のとおりである。

「公園、地域学習センターなどの公共施設」では第7、第12ブロックで24%台と、他ブロックより高くなっている。「神社やお寺など歴史的建造物」では第9、第11、第13ブロックで20%を超えている。

また、「定期的に行われるお祭りやイベント」では第1ブロック(20.9%)、第13ブロック(20.4%)で20%を超え高くなっており、「川や森などの自然環境」では、第2ブロックで27.7%と突出して高い。

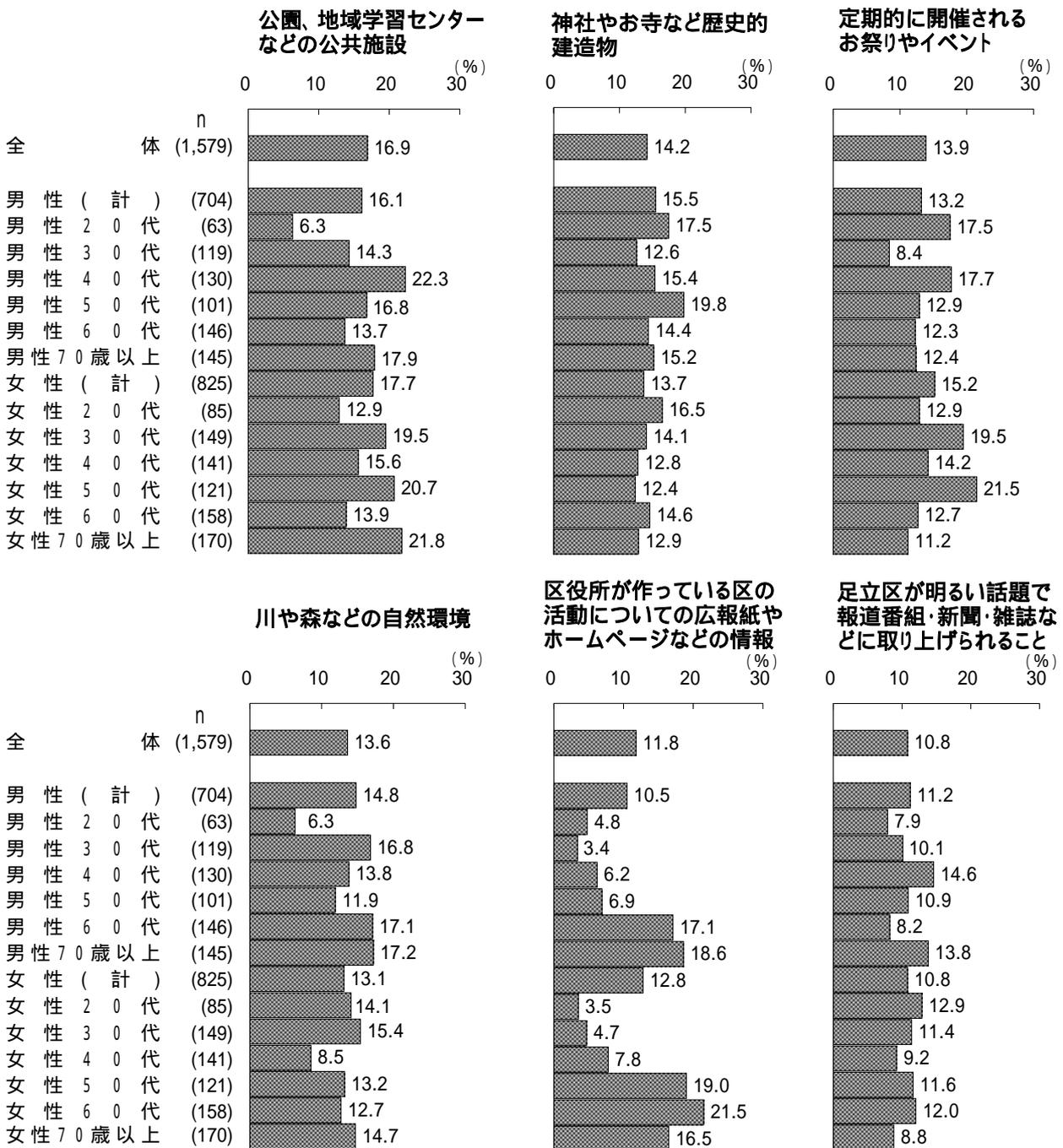
図2-1-1 区に対する愛着や誇りにつながるもの【上位6位】(地域ブロック別)



上位6項目を性・年代別にみると、図2 - 1 - 2のとおりである。

「公園、地域学習センターなどの公共施設」では男性40代(22.3%)が最も高くなっており、女性50代(20.7%)、女性70歳以上(21.8%)でも2割を超えている。「神社やお寺など歴史的建造物」では男性50代が19.8%と最も高い。また、「定期的に関催されるお祭りやイベント」では、全体的に男性よりも女性の方が高い傾向にあり、女性50代が21.5%と最も高くなっている。「川や森などの自然環境」では、男性60代以上で17%台を示し、他世代よりもやや高くなっている。「区役所が作っている区の活動についての広報紙やホームページなどの情報」では、年代が高くなるにつれ割合も高くなる傾向にあり、女性60代での21.5%が最も高い。

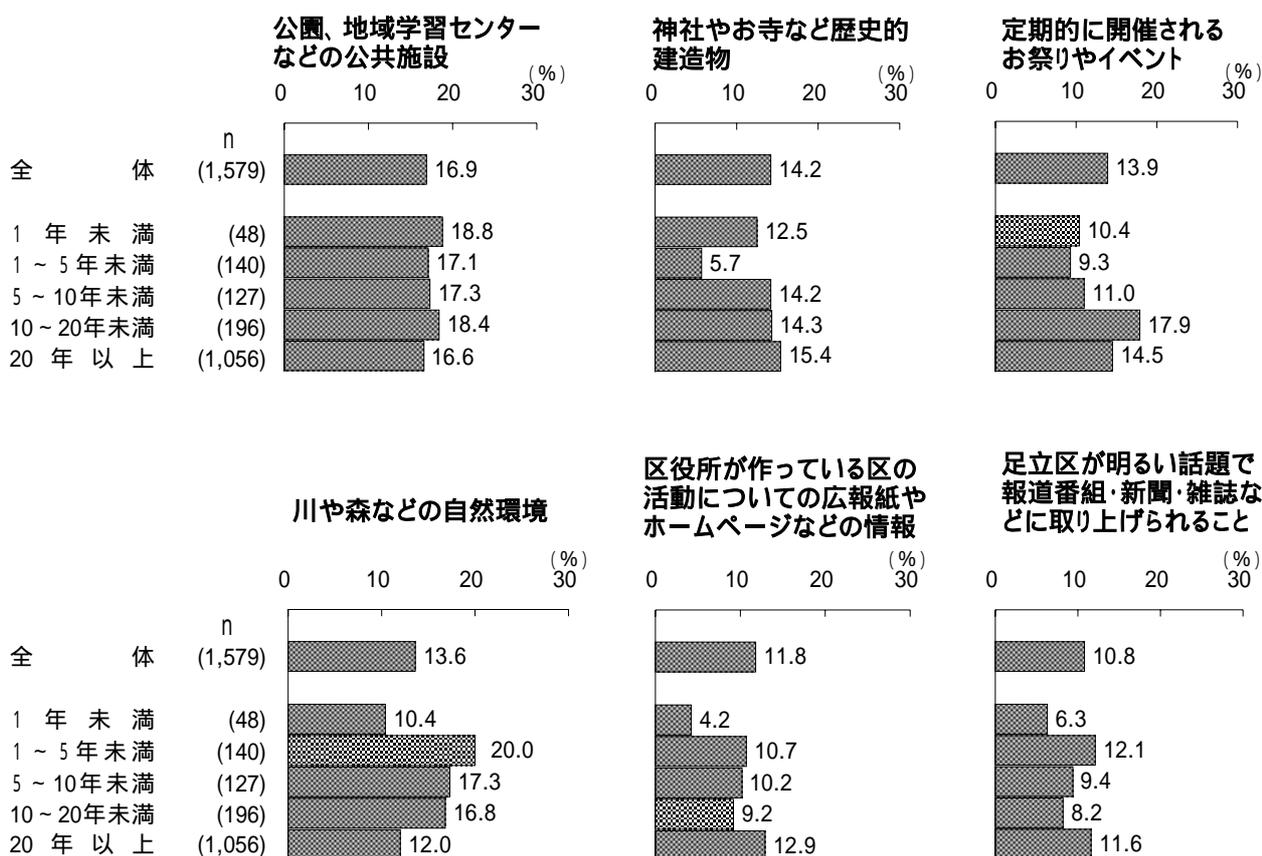
図2 - 1 - 2 区に対する愛着や誇りにつながるもの【上位6位】(性・年代別)



上位6項目を居住年数別にみると、図2-1-3のとおりである。

「定期的に行われるお祭りやイベント」では、居住年数が長くなるにつれ割合も上昇する傾向にあり、「10～20年未満」では17.9%と最も高くなっている。一方、「川や森などの自然環境」では「1～5年未満」で20.0%と最も高くなっており、短・中期居住者での割合が高い傾向にある。

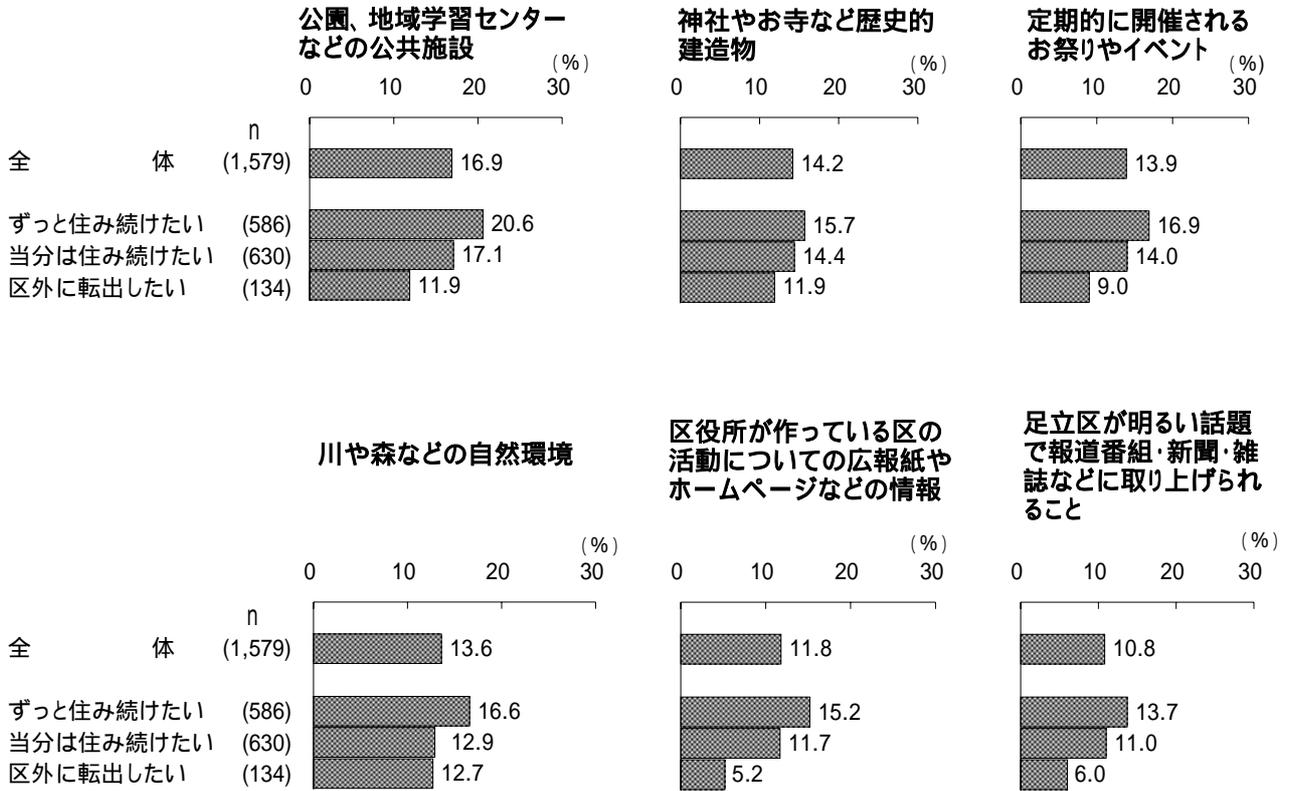
図2-1-3 区に対する愛着や誇りにつながるもの【上位6位】(居住年数別)



上位6項目を定住意向別にみると、図2 - 1 - 4のとおりである。

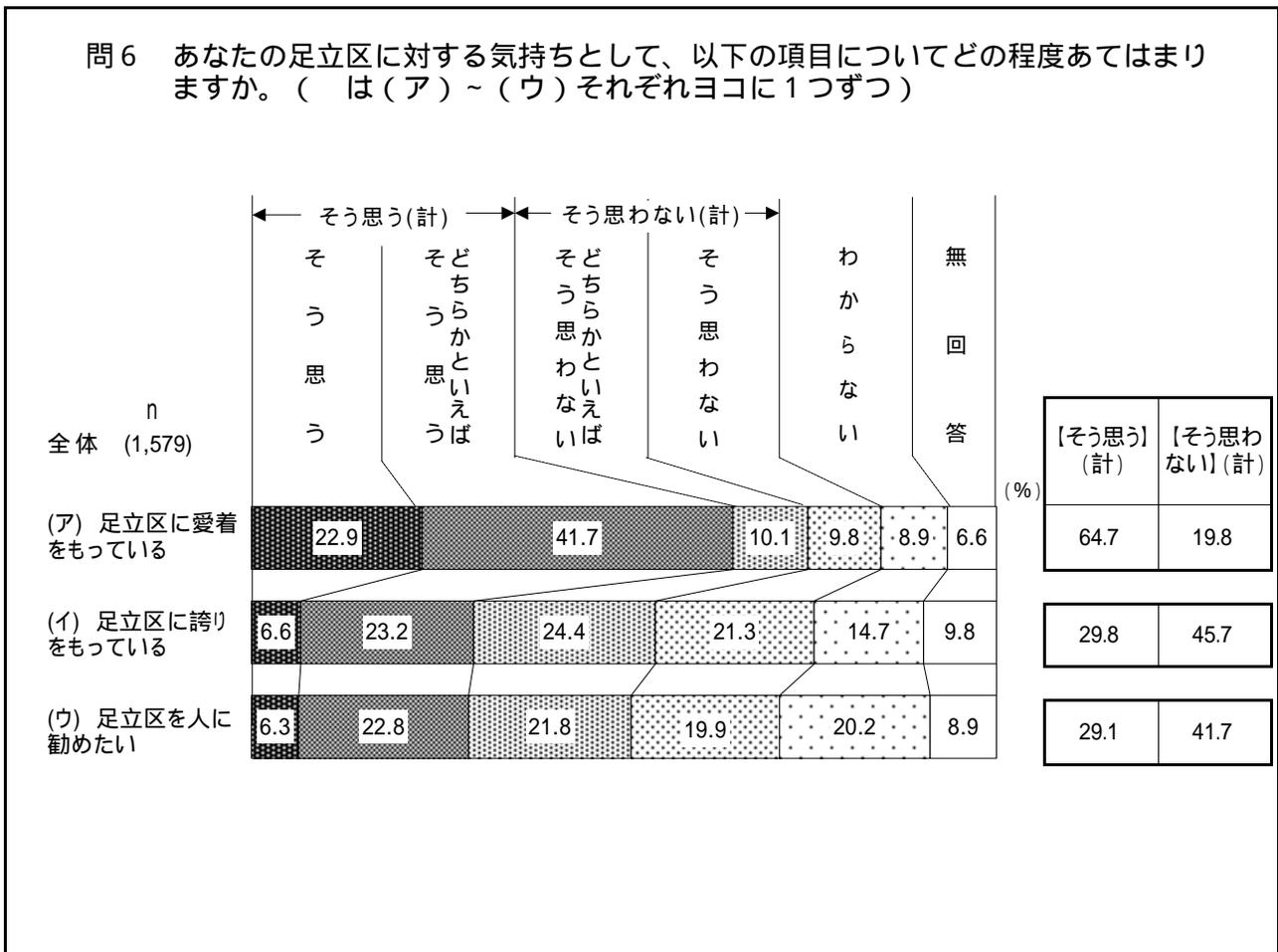
上位6項目に共通して、定住意向が強くなるほど各項目での割合は上昇する傾向にある。「公園、地域学習センターなどの公共施設」では「ずっと住みたい」で20.6%と最も高く、他の項目においても「ずっと住みたい」においては、他層よりも高くなる傾向にある。

図 2 - 1 - 4 区に対する愛着や誇りにつながるもの【上位6位】(定住意向別)



(2) 区に対する気持ち

6割強の区民が足立区に愛着をもっている



区に対する気持ちについては、「(ア)足立区に愛着をもっている」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた〈そう思う〉が64.7%を示し、6割強の区民が足立区に対する愛着をもっていることを示している。一方、「(イ)足立区に誇りをもっている」「(ウ)足立区を人に勧めたい」では、〈そう思わない〉が4割を超えている。

「(ア)足立区に愛着をもっている」をブロック別でみると図2-2-1のとおりである。

「(ア)足立区に愛着をもっている」では、第1、第10、第11ブロックで〈そう思う〉が70%を超え、他ブロックより高い。また、同項目を性・年代別でみると図2-2-2のとおりである。

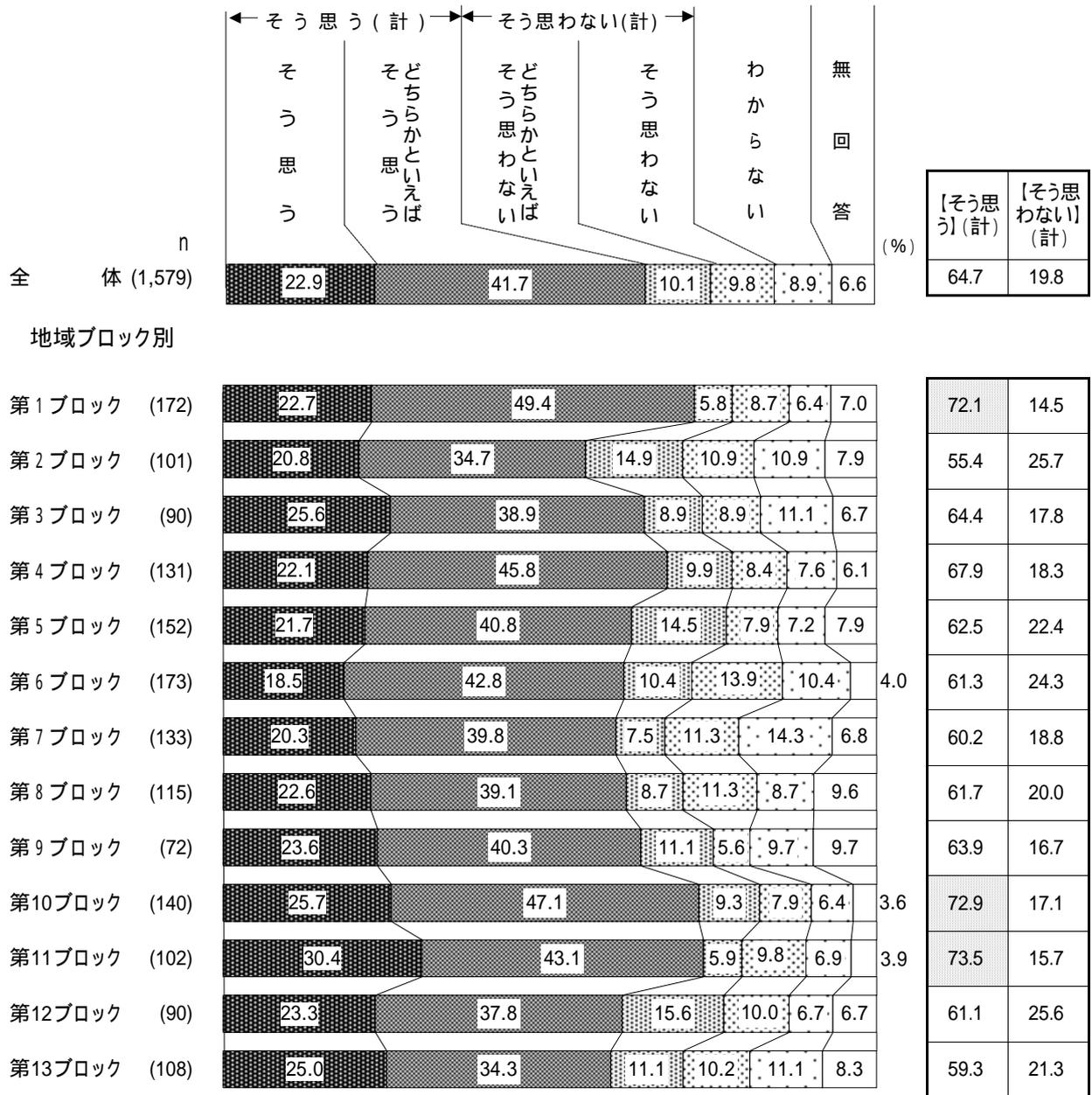
全体的に女性よりも男性の方が〈そう思う〉割合が高く、男性70歳以上で〈そう思う〉が74.5%と最も高くなっている。また、男性20代(71.4%)、男性50代(71.3%)でも7割を超え高くなっている。また、女性の中では、女性20代が68.2%で最も高くなっており、男女ともに20代は愛着をもっている割合が比較的高いといえる。

また、同項目を居住年数、定住意向別でみると図2-2-3のとおりである。

居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ、愛着を持っていると答える割合が上昇しており、「20年以上」では〈そう思う〉の割合が70.9%を示し、最も高い。また、定住意向別では、定住意向が強くなるにつれ、愛着を持っていると答える割合も上昇し、「ずっと住み続けたい」では〈そう思う〉の割合が80.4%と最も高くなっている。

図 2 - 2 - 1 区に対する気持ち (地域ブロック別)

(ア)足立区に愛着をもっている



ブロック区分



図 2 - 2 - 2 区に対する気持ち (性・年代別)

(ア)足立区に愛着をもっている

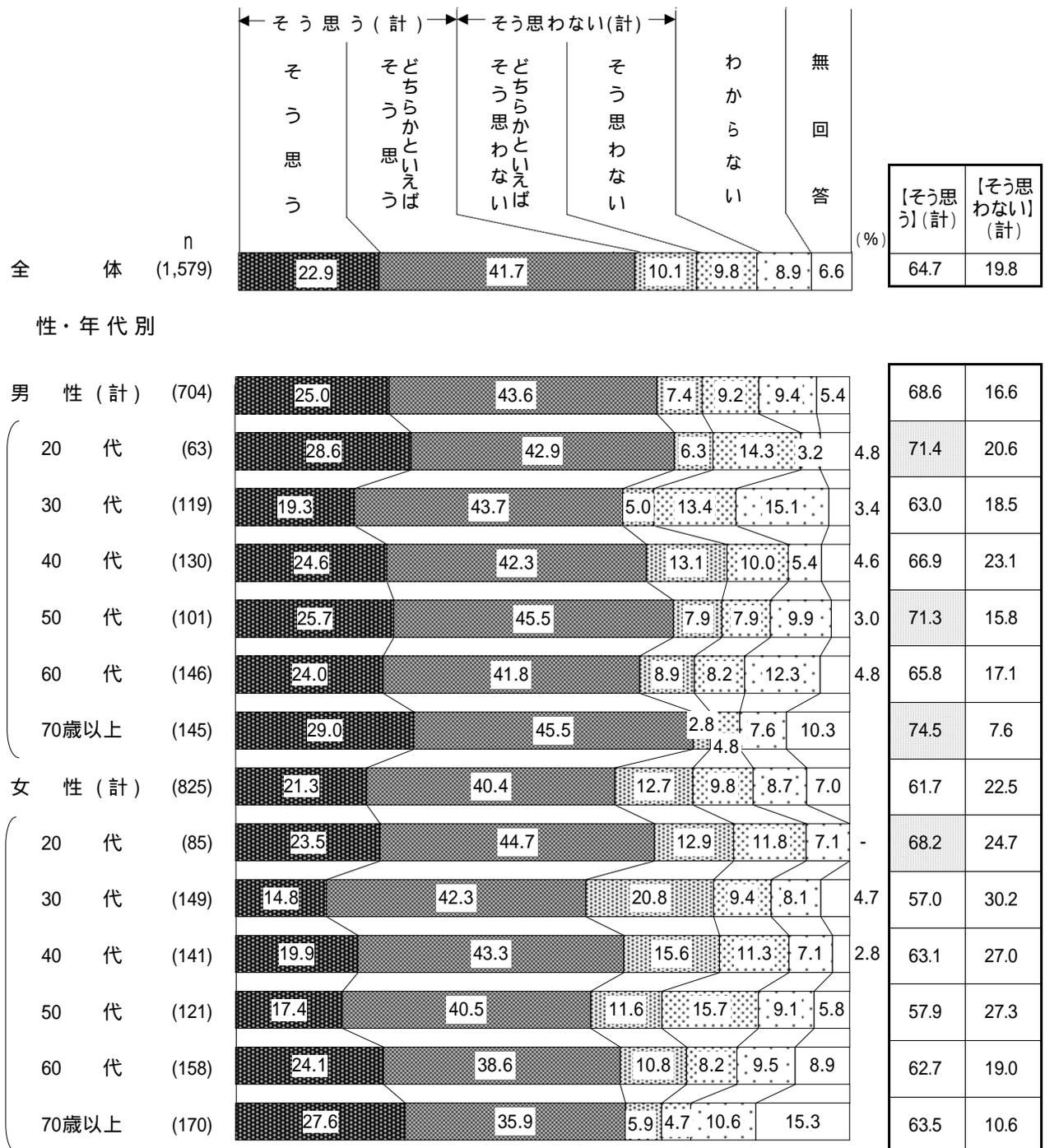
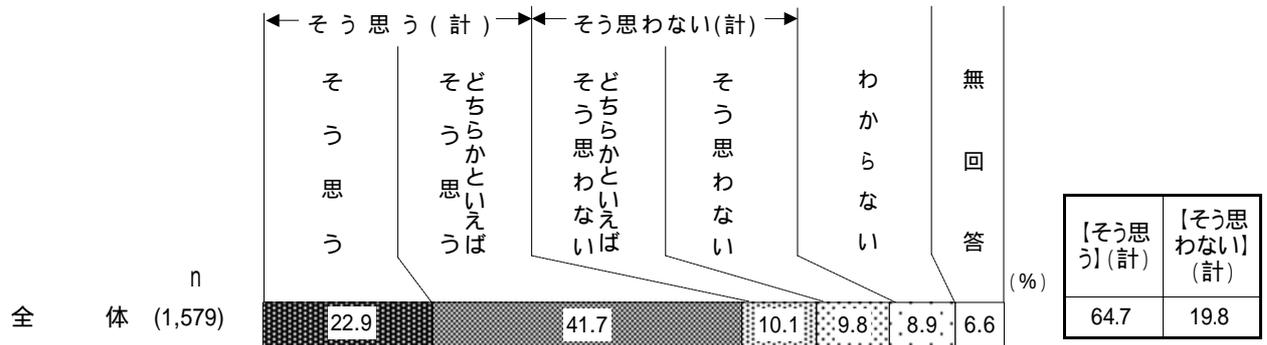
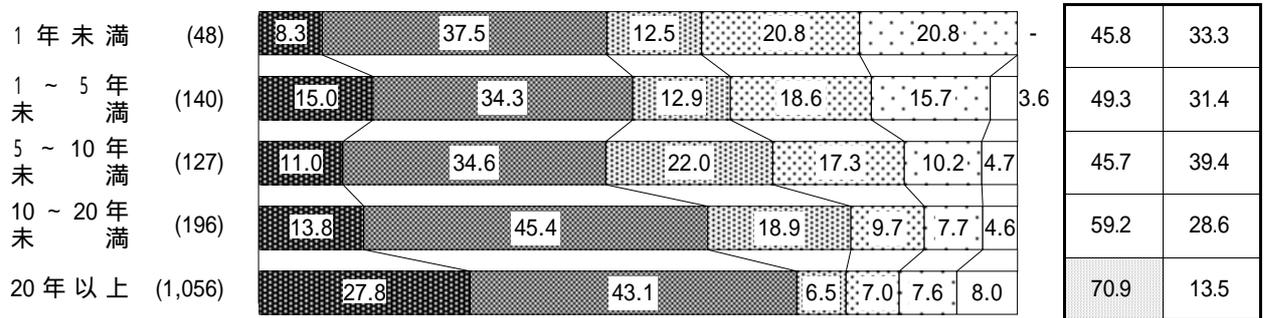


図 2 - 2 - 3 区に対する気持ち (居住年数、定住意向別)

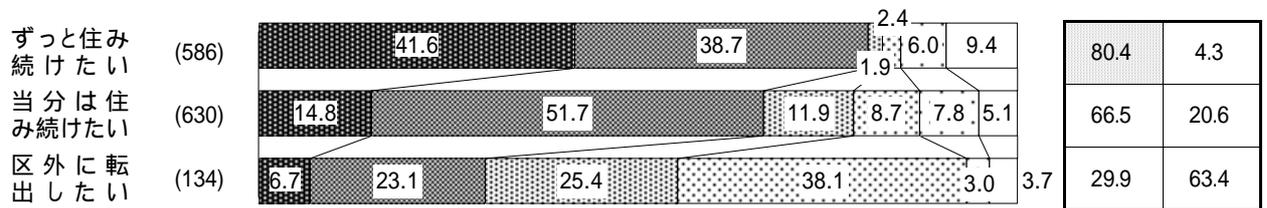
(ア)足立区に愛着をもっている



居住年数別



定住意向別

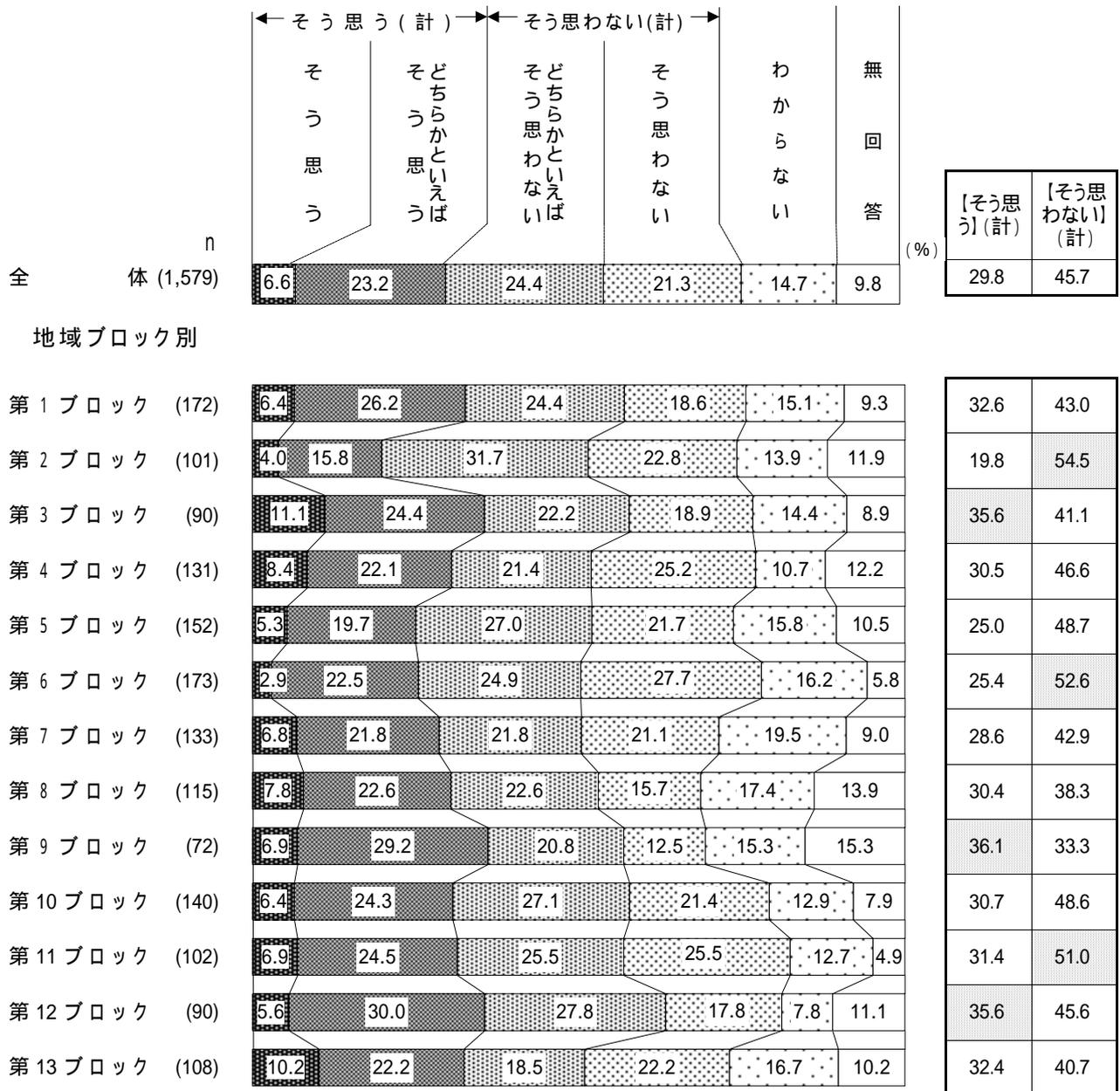


「(イ)足立区に誇りをもっている」を地域ブロック別にみると、図2-2-4のとおりである。

《そう思う》は第3、第9、第12ブロックで35%前後と比較的高く、《そう思わない》は第2、第6、第11ブロックで50%を超えている。

図 2 - 2 - 4 区に対する気持ち (地域ブロック別)

(イ)足立区に誇りをもっている



ブロック区分

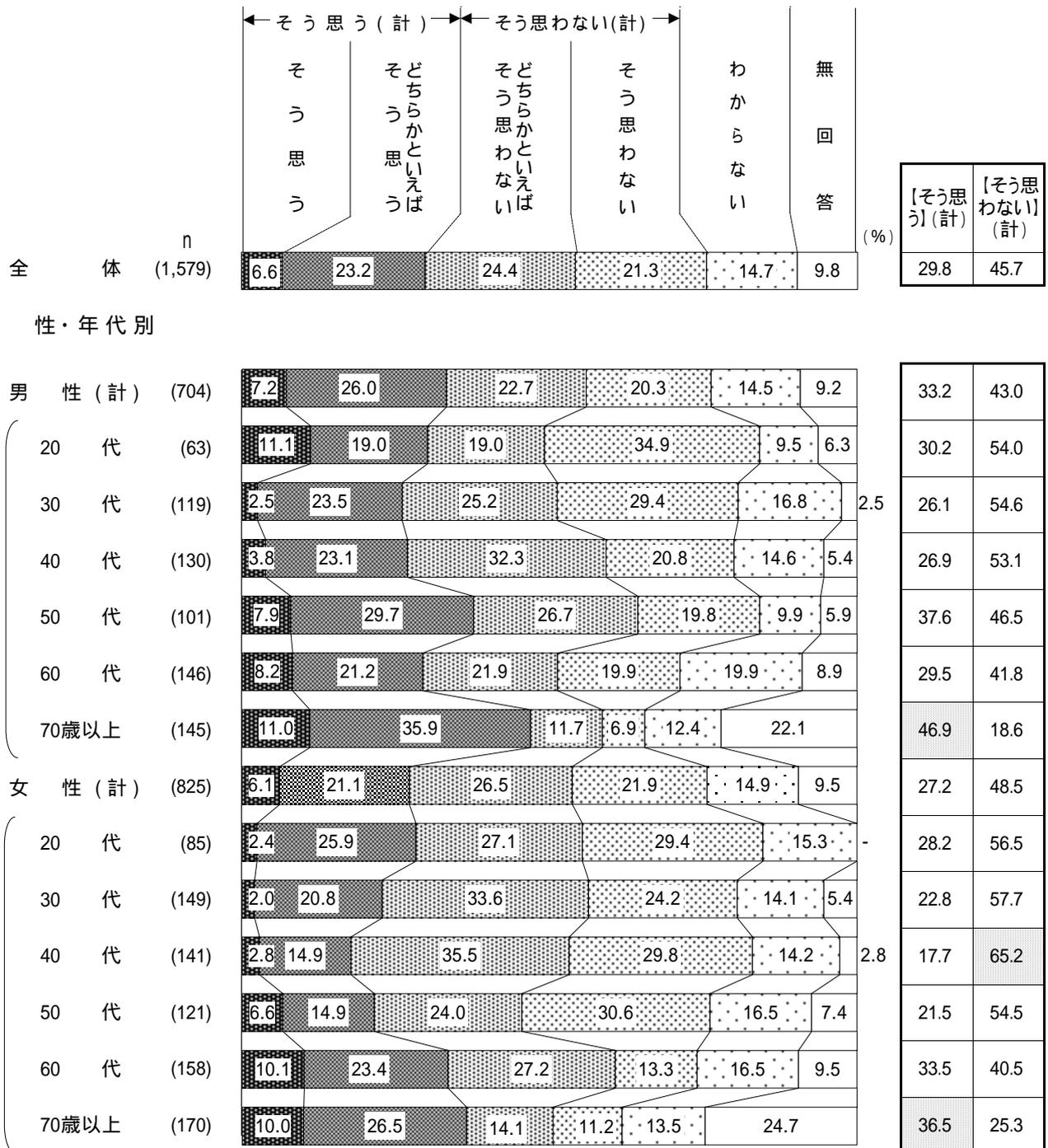


「(イ)足立区に誇りをもっている」を性・年代別にみると、図2-2-5のとおりである。

《そう思う》は年代が上がるにつれ、上昇する傾向となっており、男性70歳以上で46.9%と最も高く、女性でも70歳以上の36.5%が最も高くなっている。一方、《そう思わない》は、全体的に女性の方が男性よりも高くなっており、女性40代では65.2%にのぼっている。

図 2 - 2 - 5 区に対する気持ち (性・年代別)

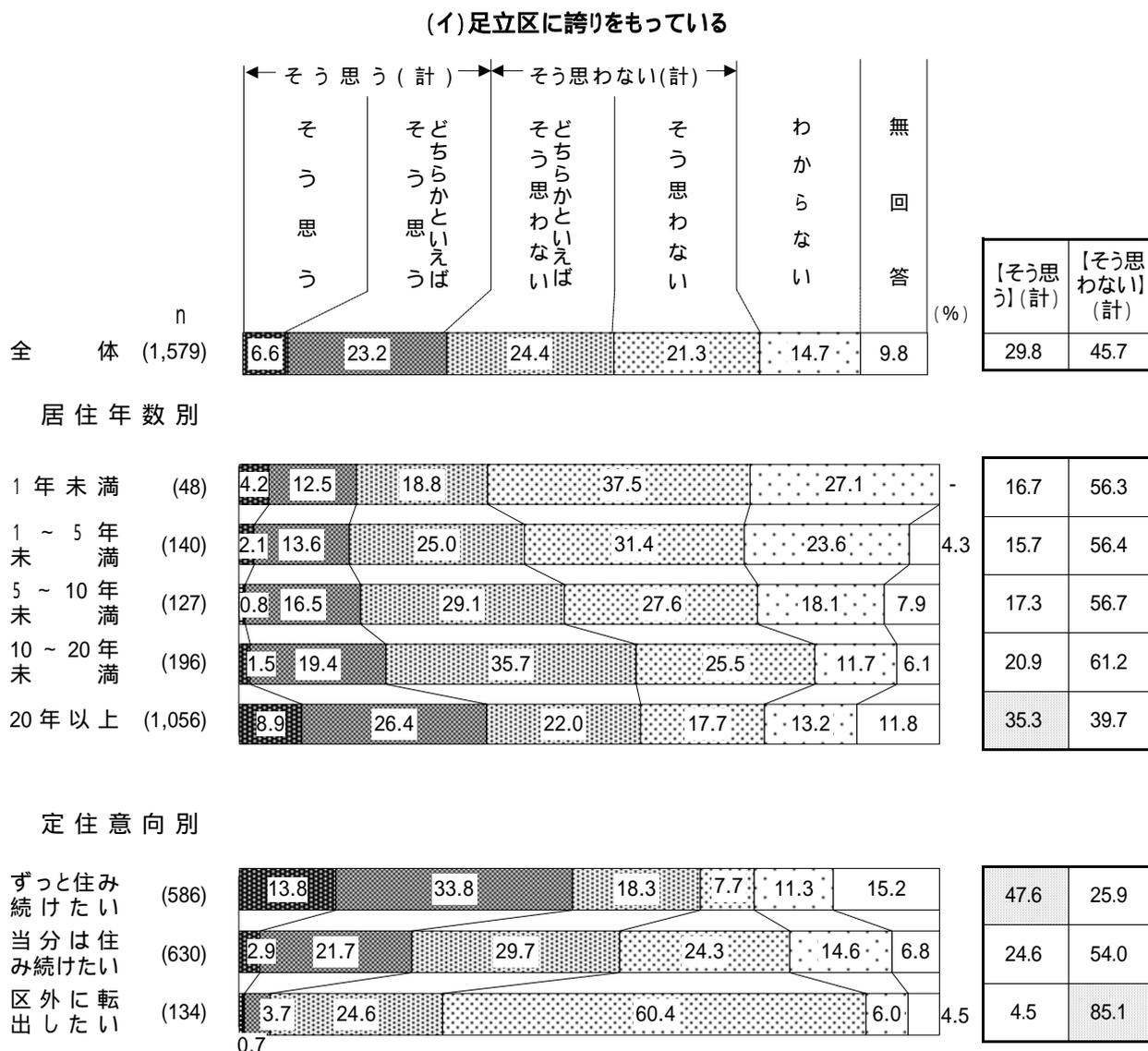
(イ)足立区に誇りをもっている



「(イ)足立区に誇りをもっている」を居住年数、定住意向別にみると、図2-2-6のとおりである。

居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ、誇りをもっていると答える割合が上昇しており、「20年以上」では(そう思う)の割合が35.3%を示し、最も高い。また、定住意向別では、定住意向が強くなるにつれ、誇りを持っていると答える割合も上昇し、「ずっと住み続けたい」では(そう思う)の割合が47.6%と最も高くなっている。一方で、「区外に転出したい」では(そう思わない)の割合が85.1%にのぼっており、突出して高い。

図 2 - 2 - 6 区に対する気持ち (居住年数、定住意向別)

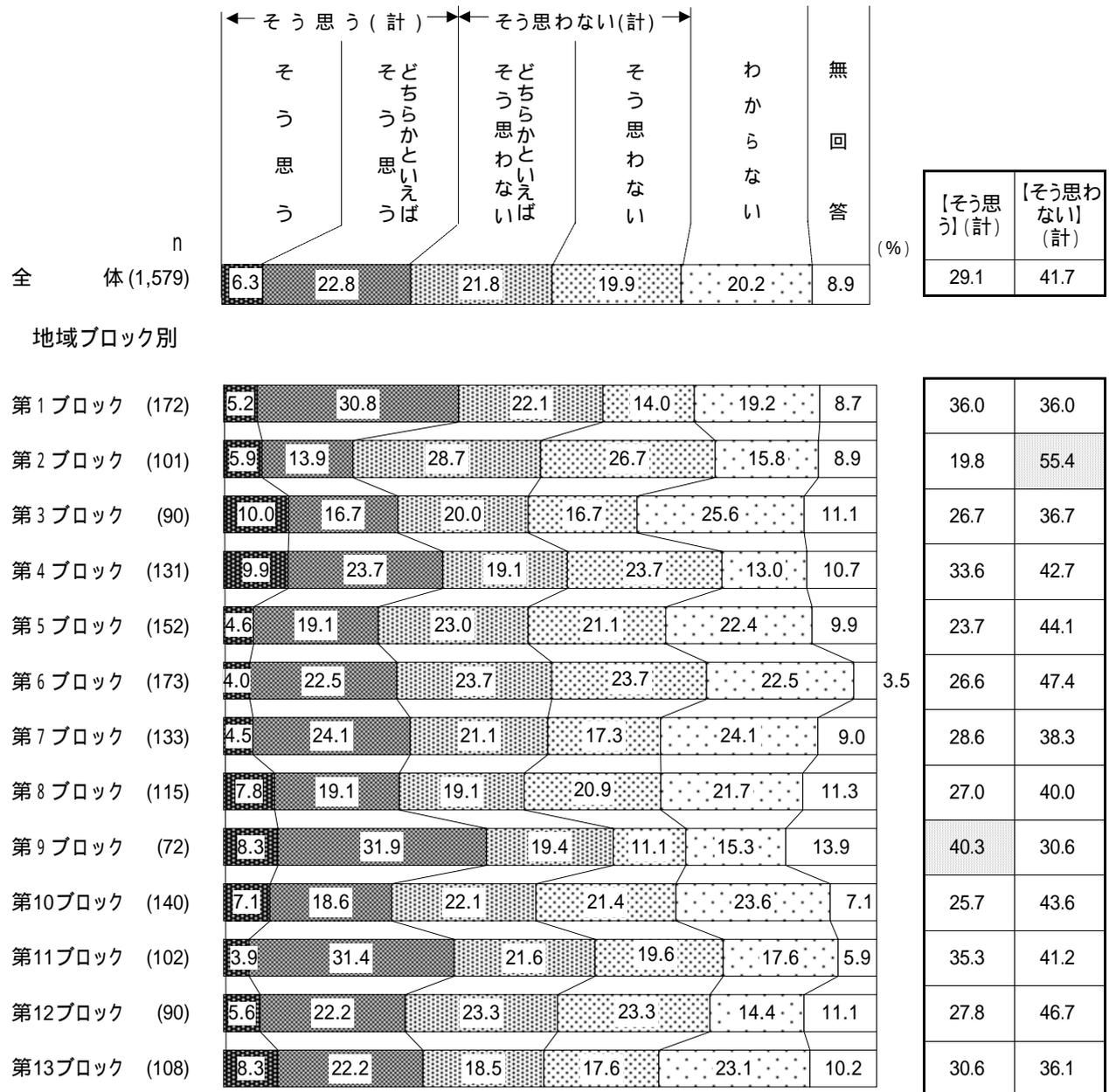


「(ウ)足立区を人に勧めたい」を地域ブロック別にみると、図2-2-7のとおりである。

《そう思う》は第9ブロックで40.3%と4割を超えて最も高く、《そう思わない》は第2ブロックで55.4%と最も高くなっている。

図 2 - 2 - 7 区に対する気持ち (地域ブロック別)

(ウ)足立区を人に勧めたい



ブロック区分

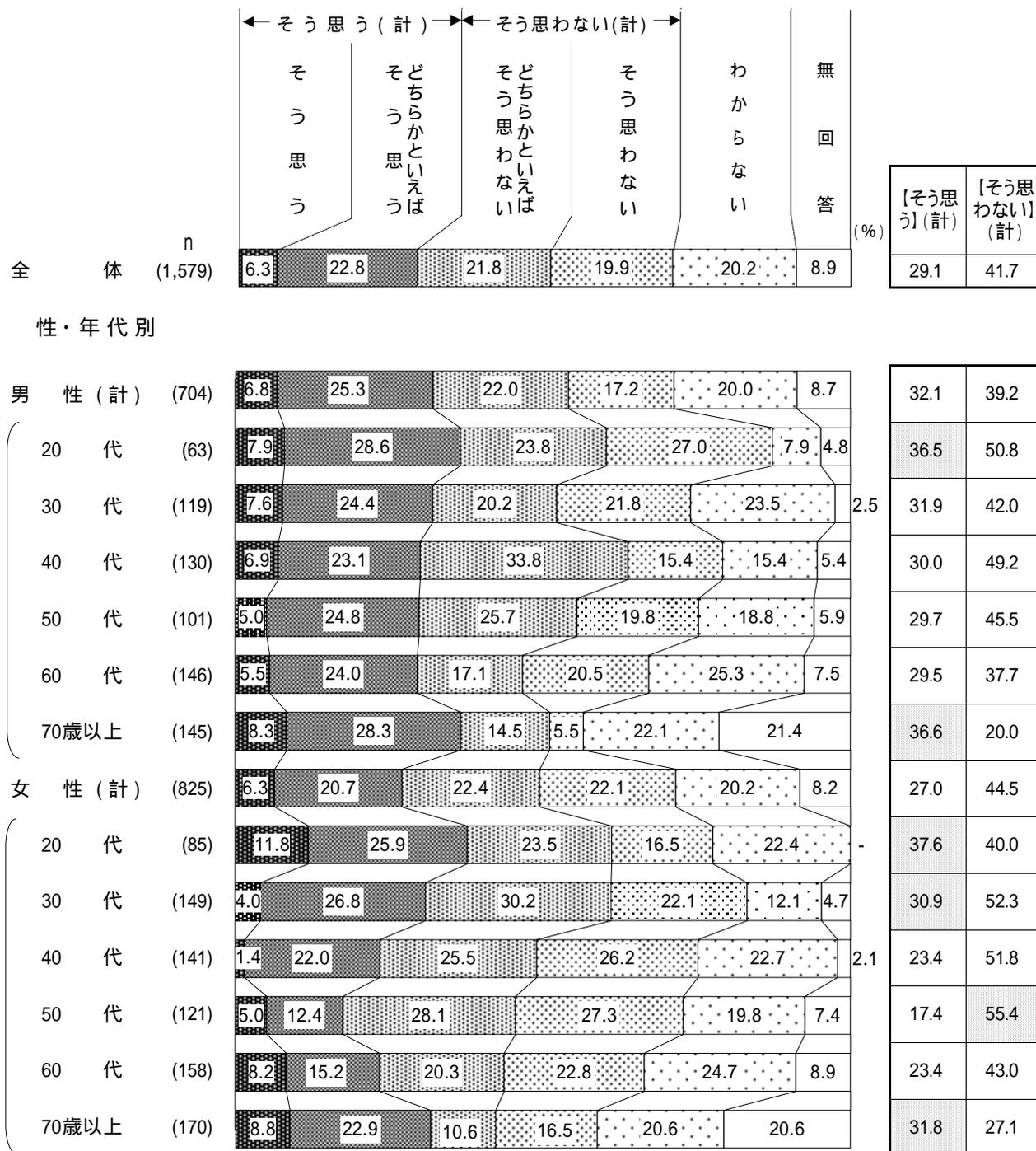


「(ウ)足立区を人に勧めたい」を性・年代別にみると、図2 - 2 - 8のとおりである。

《そう思う》は男女ともに20代、70歳以上が高く、40代、50代が低くなるV字型の傾向を示している。男性では20代(36.5%)、70歳以上(36.6%)が36%台で高く、女性では20代が37.6%で最も高く、次いで70歳以上(31.8%)、30代(30.9%)が3割を超えている。一方、《そう思わない》は、全体的に女性の方が男性よりも高くなっており、女性50代では55.4%にのぼっている。

図 2 - 2 - 8 区 対 する 気 持 ち (性 ・ 年 代 別)

(ウ)足立区を人に勧めたい

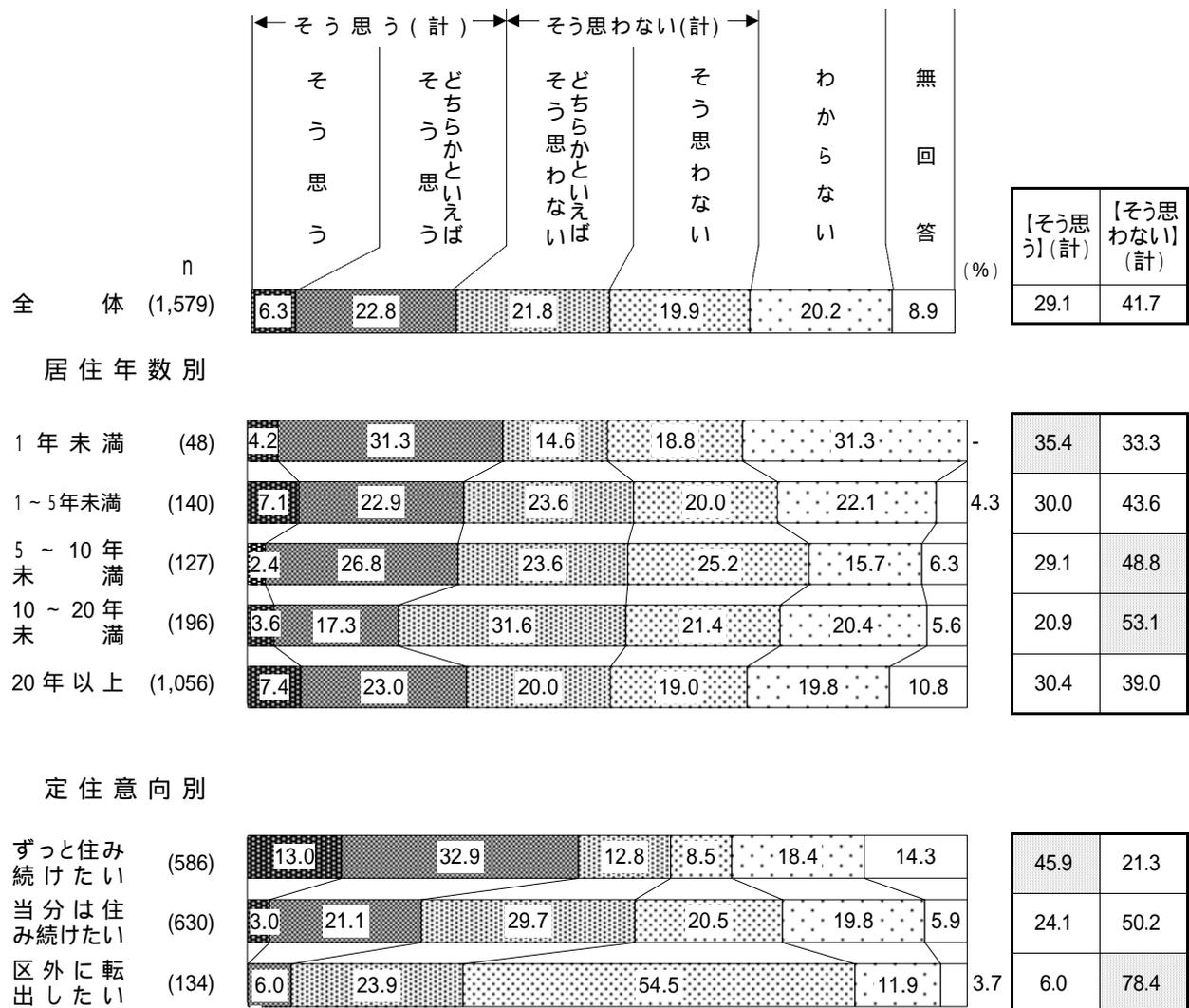


「(ウ)足立区を人に勧めたい」を居住年数、定住意向別にみると、図2-2-9のとおりである。

居住年数別では、「1年未満」で「(そう思う)」の割合が35.4%と最も高く、「1～5年未満」(30.0%)、「20年以上」(30.4%)においても3割を超えている一方、「(そう思わない)」は、「10～20年未満」(53.1%)、「5～10年未満」(48.8%)で高くなっている。また、定住意向別では、「ずっと住み続けたい」では「(そう思う)」の割合が45.9%と最も高くなっている一方で、「区外に転出したい」では「(そう思わない)」の割合が78.4%にのぼっている。

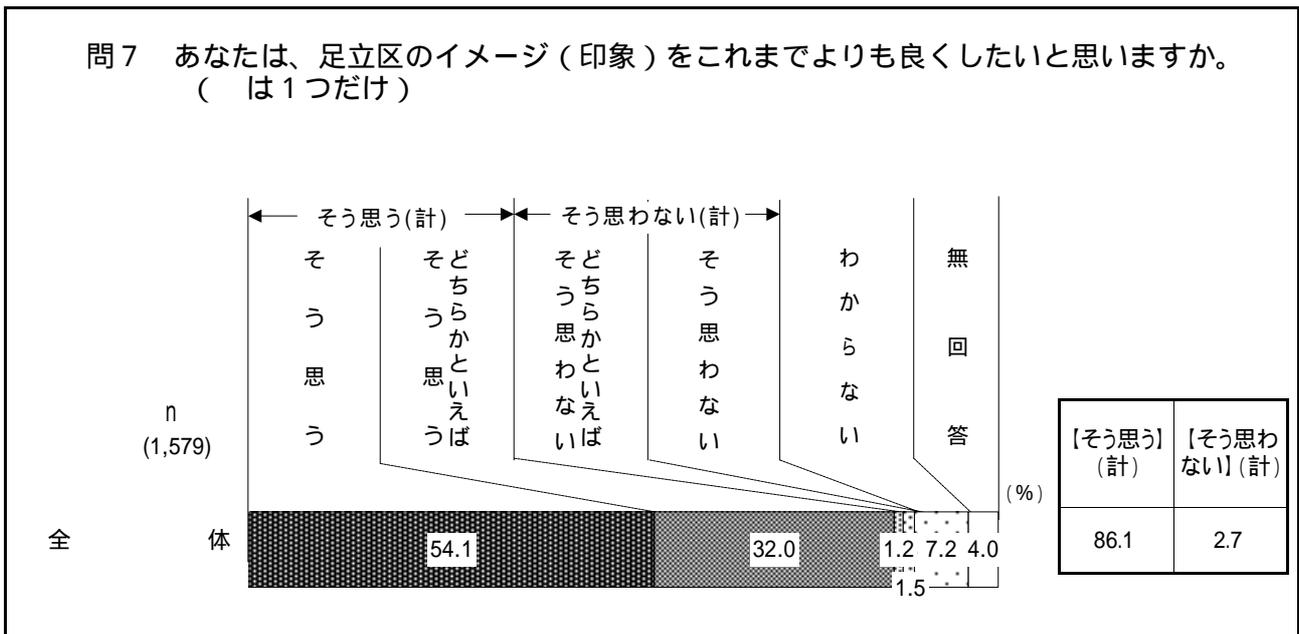
図 2 - 2 - 9 区に対する気持ち (居住年数、定住意向別)

(ウ)足立区を人に勧めたい



(3) 足立区のイメージアップへの意向

8割の区民が足立区のイメージアップを求めている



足立区のイメージ(印象)をよくしたい意向は、《そう思う》が86.1%を示し、8割以上の区民が足立区のイメージを良くしたいと考えている。

地域ブロック別でみると図2-3-1のとおりである。

《そう思う》では、第12ブロックが最も高く、90%にのぼっており、第6、第8、第10ブロックにおいても87~88%台と高くなっている。

性・年代別でみると図2-3-2のとおりである。

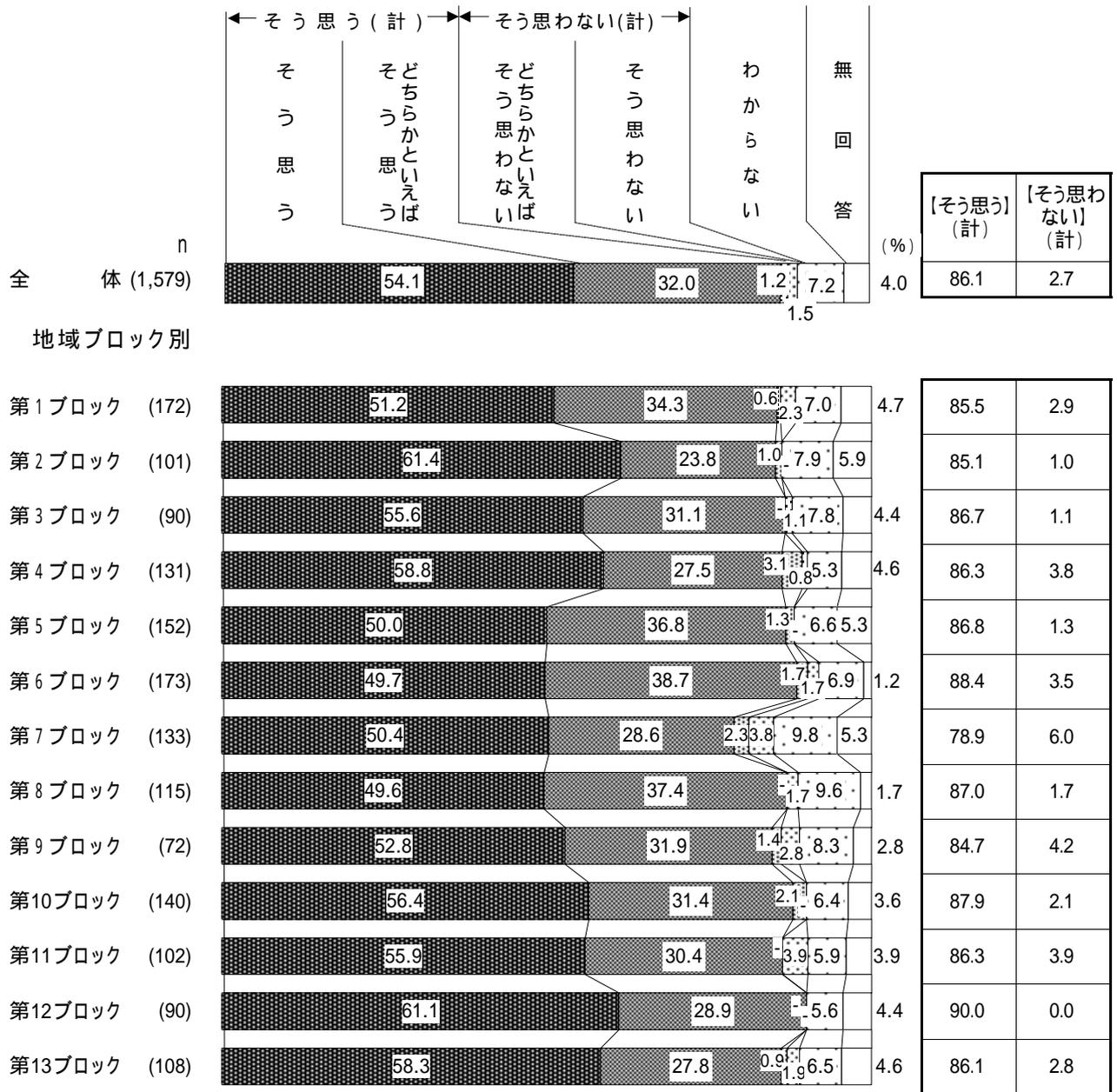
男性では50代で《そう思う》が92.1%、女性では30代で91.9%と9割を超え最も高い。

居住年数、定住意向別でみると図2-3-3のとおりである。

居住年数別では、「10~20年未満」で《そう思う》の割合が88.3%と最も高く、「1年未満」では《そう思う》の割合が77.1%となっており、7割台で最も低い。

また、定住意向別では、定住意向が強くなるにつれ、《そう思う》と答える割合もやや上昇する傾向にあり、「区外に転出したい」では《そう思わない》が11.9%と高くなっている。

図 2 - 3 - 1 区イメージアップへの意向 (地域ブロック別)



ブロック区分



図 2 - 3 - 2 区イメージアップへの意向 (性・年代別)

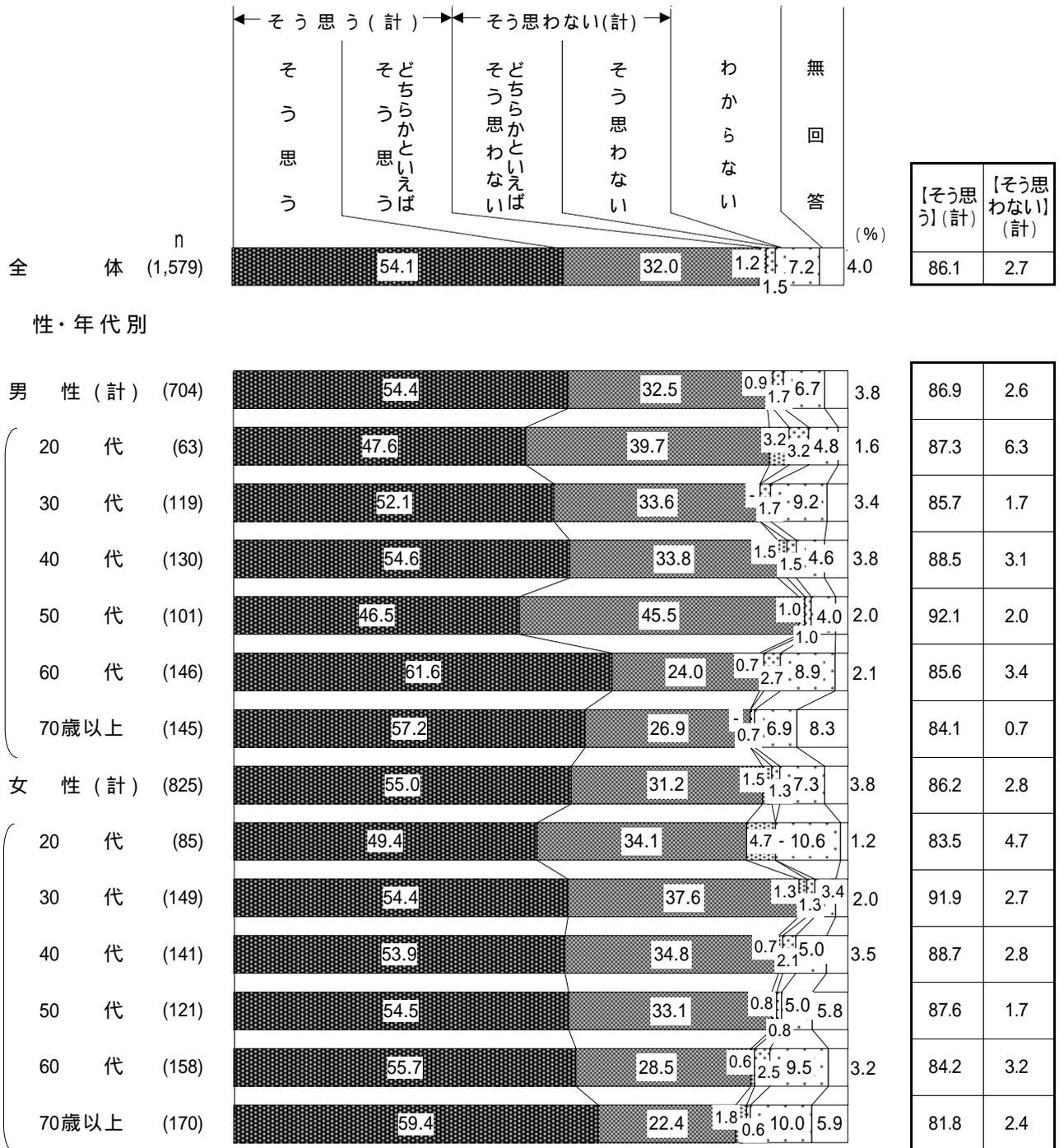
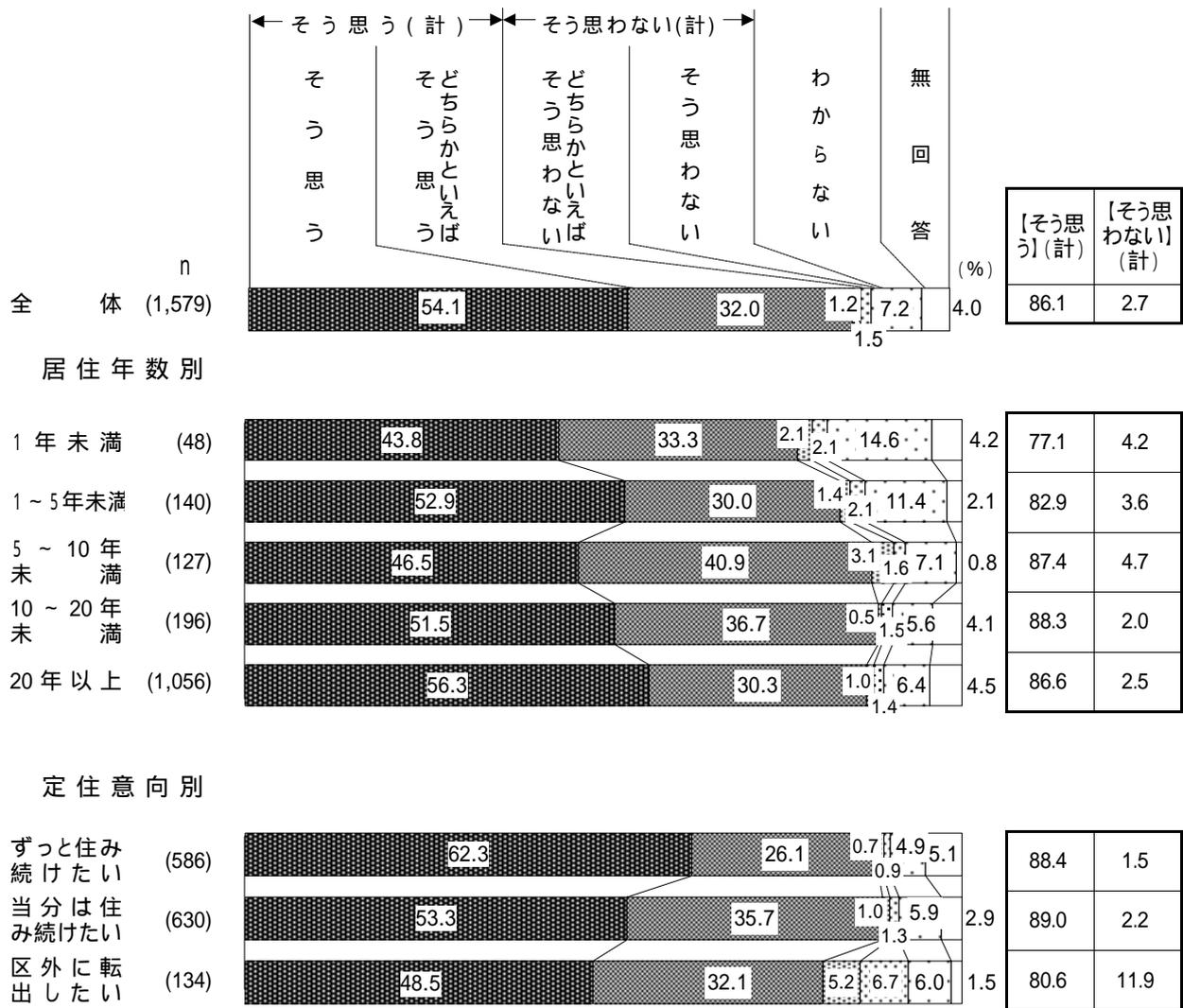
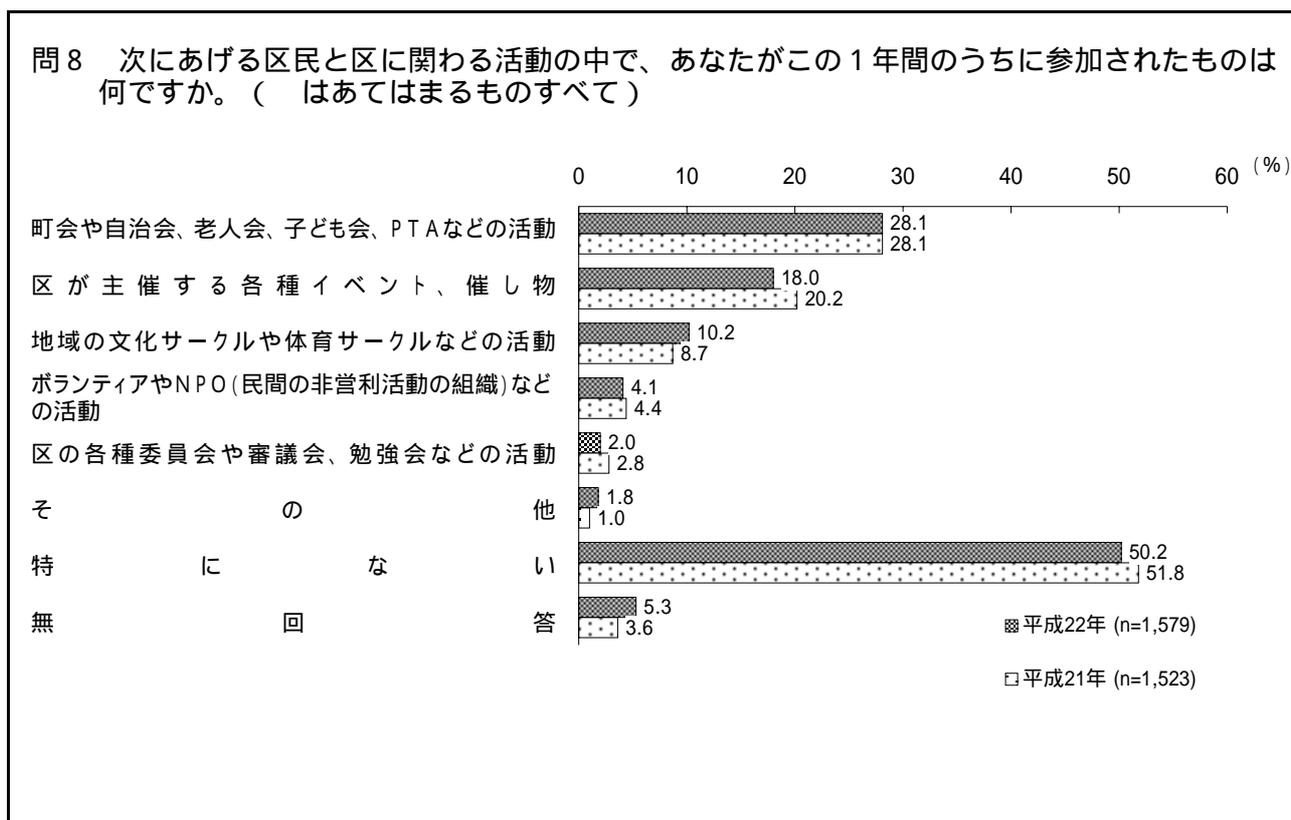


図 2 - 3 - 3 区イメージアップへの意向 (居住年数、定住意向別)



(4) 地域活動の参加状況

「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」が28.1%で最も高い



地域活動の参加状況では、「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」が28.1%で最も高く、次いで「区が主催する各種イベント、催し物」が18.0%、「地域の文化サークルや体育サークルなどの活動」が10.2%と続いている。一方、「特にな」も50.2%にのぼっている。

地域ブロック別にみると、図2-4-1のとおりである。

「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」では、第9ブロックで37.5%と最も高く、次いで第2ブロック(34.7%)、第12ブロック(32.2%)となっている。また、「区が主催する各種イベント、催し物」では第3、第9、第13ブロックがそれぞれ22.2%と最も高くなっている。

性・年代別にみると、図2-4-2のとおりである。

各項目で、全体的に女性の方が男性よりも高い傾向にあり、「町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動」においては、男性では70歳以上が36.6%、女性では40代が36.9%と最も高くなっている。また男女とも20代はそれぞれ4.8%、11.8%と、他の世代と比べると極端に低くなっている。また、「区が主催する各種イベント、催し物」においては、男性では男性40代が20.8%、女性では60代(24.7%)、70歳以上(21.8%)と、それぞれ20%を超え高くなっている。

図 2 - 4 - 1 地域活動の参加状況【上位4位】(地域ブロック別)

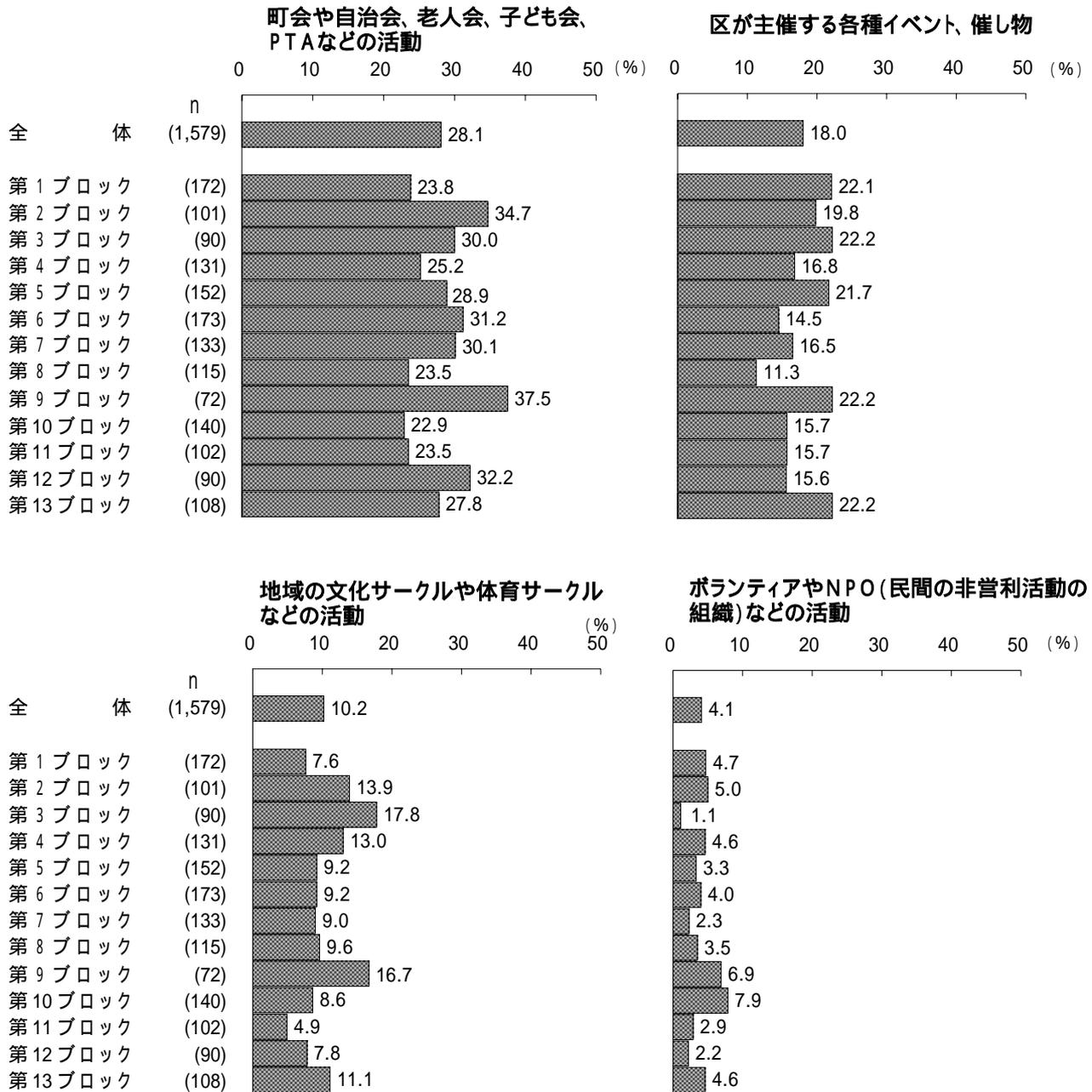
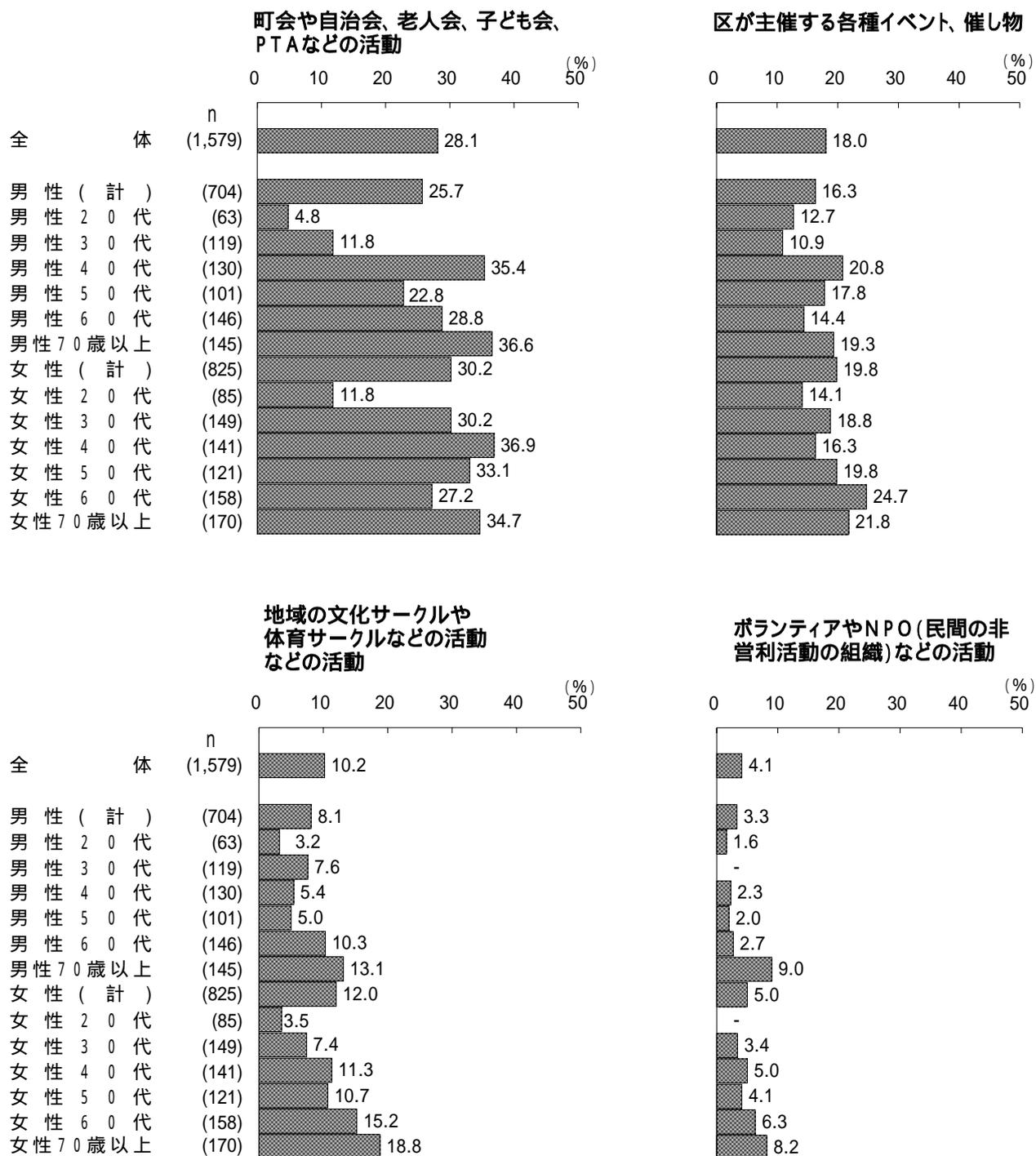
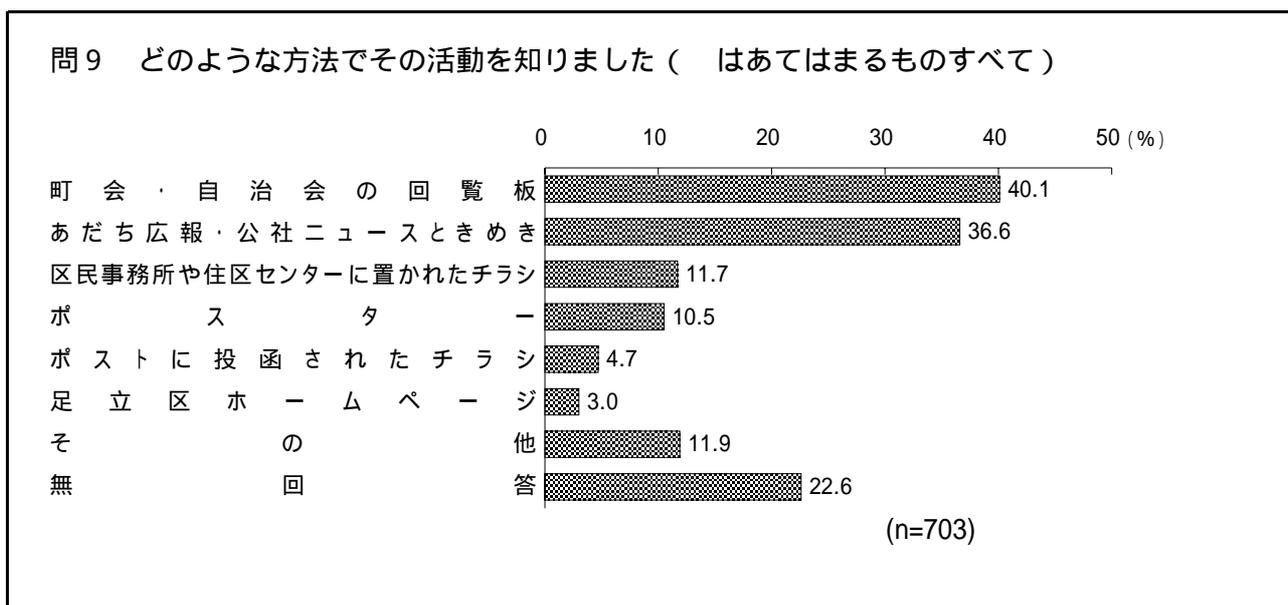


図 2 - 4 - 2 地域活動の参加状況【上位4位】(性・年代別)



(5) 参加した地域活動の認知経路

「町会・自治会の回覧板」が40.1%で最も高い



参加した地域活動の認知経路については、「町会・自治会の回覧板」が40.1%で最も高い。次いで「あだち
広報・公社ニュースときめき」が36.6%となっている。

地域ブロック別にみると、図2-5-1のとおりである。

「町会・自治会の回覧板」では、第2、第3ブロックでそれぞれ50%を超え、高くなっている。また、「あだち広報・公社ニュースときめき」では、第3ブロックで44.2%と最も高くなっており、第1、第4、第7、第10ブロックでもそれぞれ40%を超えて高くなっている。

性・年代別にみると、図2-5-2のとおりである。

「町会・自治会の回覧板」では、男性、女性ともに年代が上がるにつれて上昇する傾向が見られ、男性70歳以上では49.4%、女性70歳以上でも48.5%と5割弱にのぼり最も高くなっている。また、「あだち広報・公社ニュースときめき」では、全体的に女性の方が男性よりも高い傾向があり、女性では60代で51.9%と5割を超え最も高く、20代(47.6%)や70歳以上(46.4%)でも高くなっている。男性では60代から上昇し、70歳以上で唯一43.0%と4割を超えている。

図 2 - 5 - 1 参加した地域活動の認知経路【上位4位】(地域ブロック別)

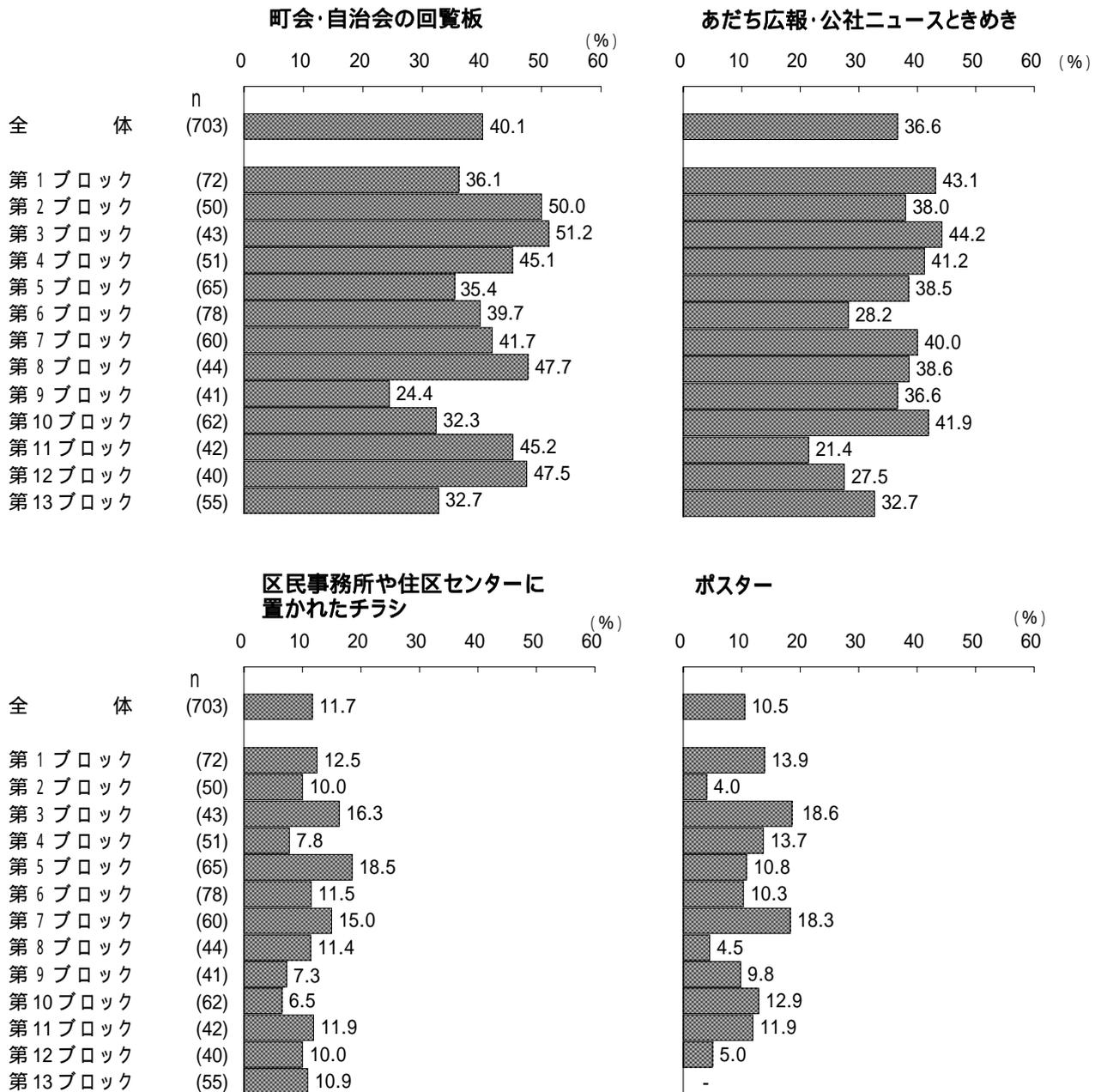
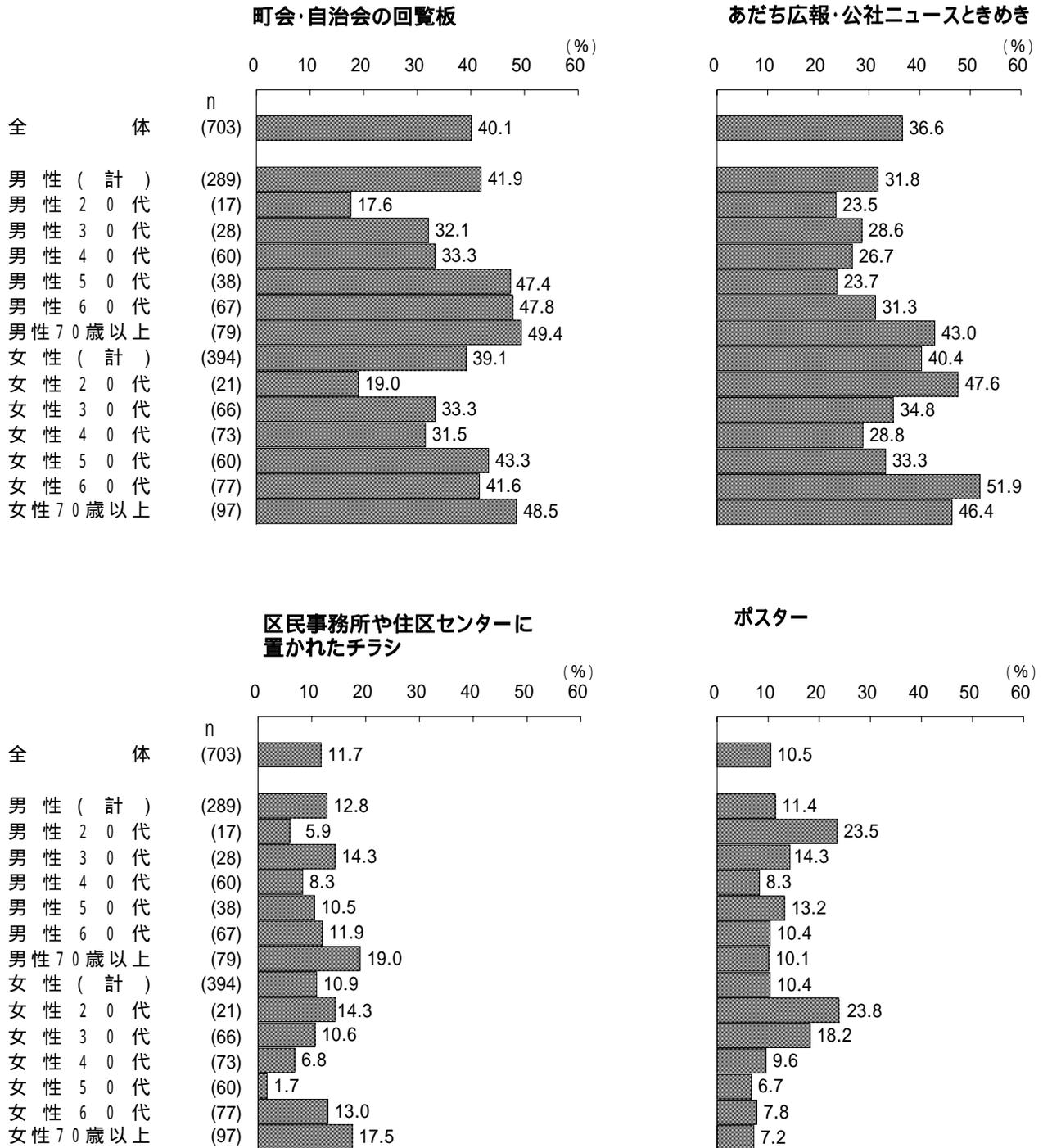
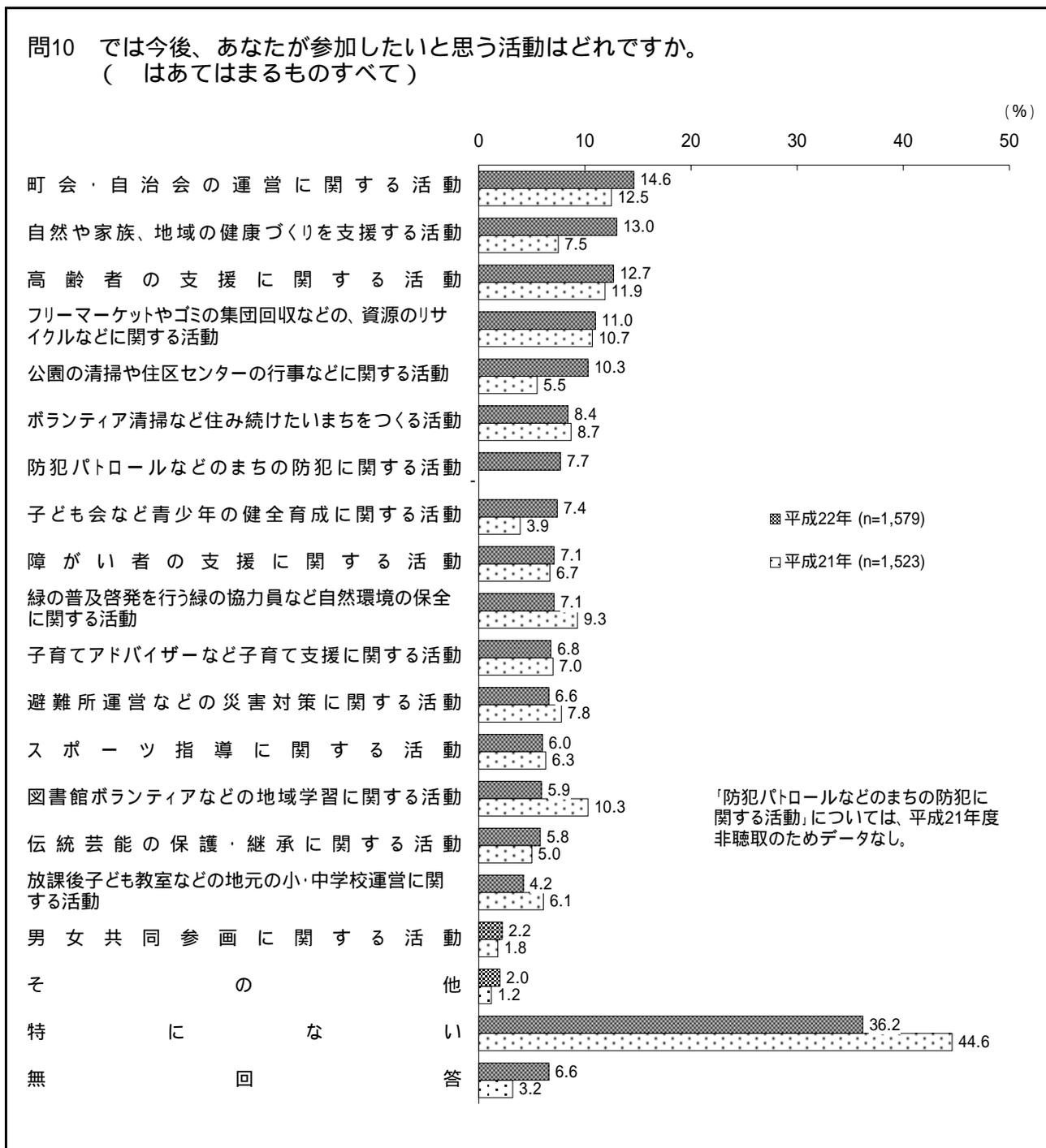


図 2 - 5 - 2 参加した地域活動の認知経路【上位4位】(性・年代別)



(6) 地域活動への参加意向

「町会・自治会の運営に関する活動」が14.6%で最も高い

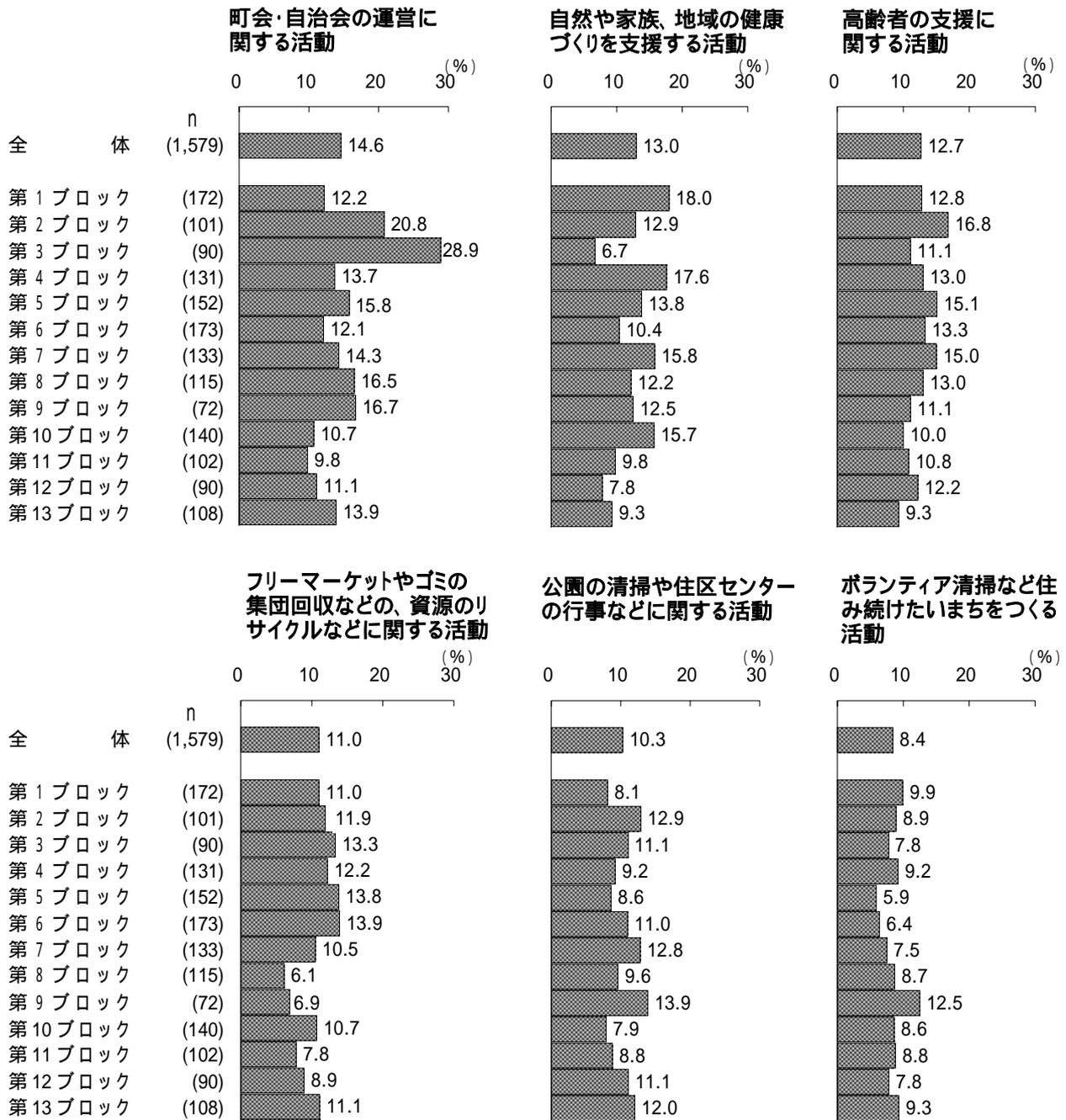


今後参加したい地域活動については、「町会・自治会の運営に関する活動」が14.6%で最も高い。次いで「自然や家族、地域の健康づくりを支援する活動」が13.0%、「高齢者の支援に関する活動」が12.7%と続いている。

上位6項目を地域ブロック別にみると、図2-6-1のとおりである。

「町会・自治会の運営に関する活動」では第3ブロックの28.9%が最も高く、第2ブロックでも20.8%と2割を超えている。「自然や家族、地域の健康づくりを支援する活動」では、第1ブロックで18.0%と最も高く、次いで第4ブロックの17.6%となっている。

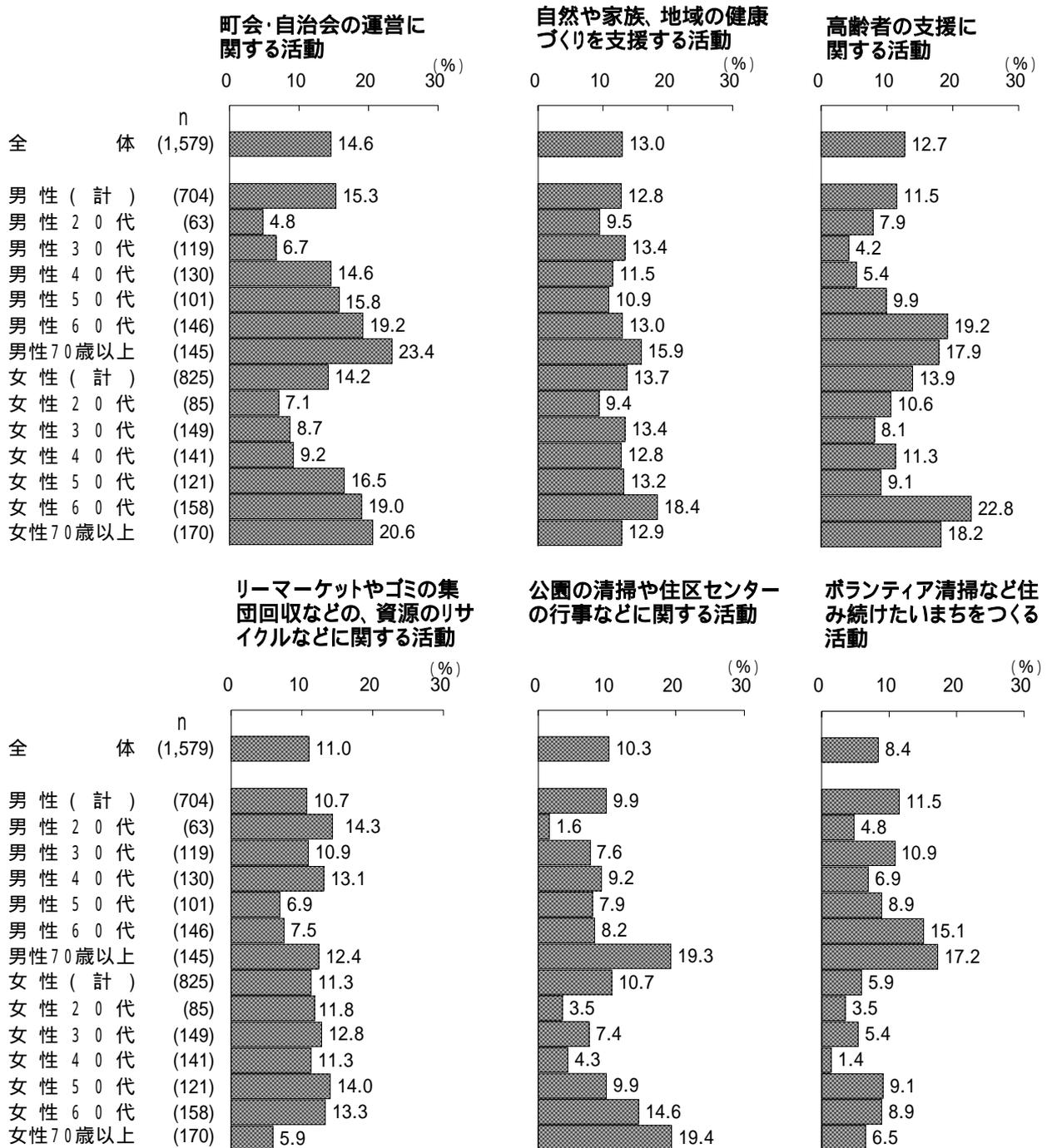
図2-6-1 地域活動への参加意向【上位6位】(地域ブロック別)



上位6項目を性・年代別にみると、図2-6-2のとおりである。

「町会・自治会の運営に関する活動」では男女ともに年代が上がるにつれ上昇する傾向にあり、男性では70歳以上(23.4%)、女性でも70歳以上(20.6%)で最も高くなっている。また、「高齢者の支援に関する活動」においても、高年齢層ほど割合は高くなる傾向があり、男女とも60歳以上で2割前後となり他世代よりも高くなっている。

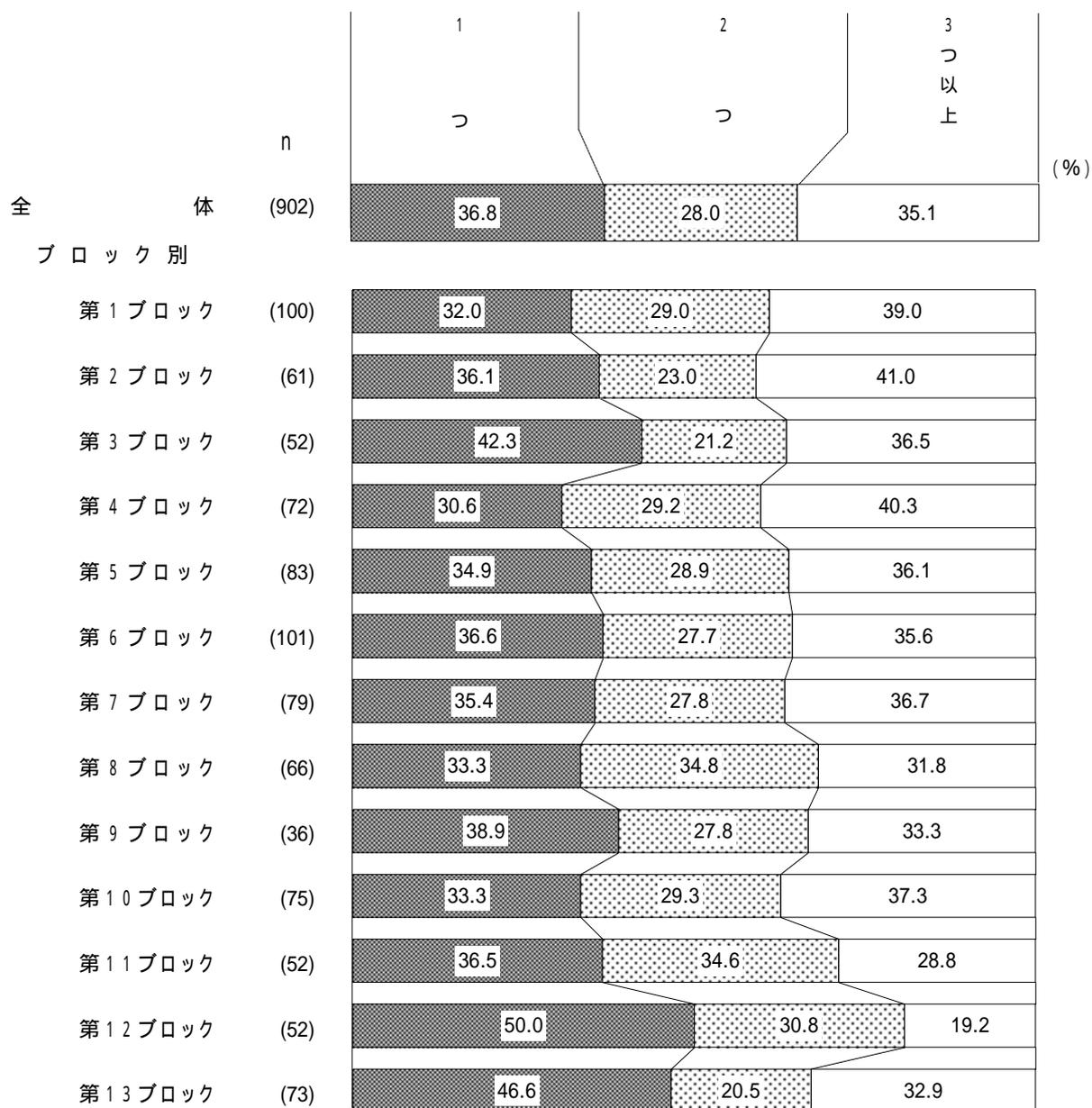
図2-6-2 地域活動への参加意向【上位6位】(性・年代別)



参加意向のある地域活動の数を、地域ブロック別にみると、図2 - 6 - 3のとおりである。

第2、第4ブロックでは参加したいと思う活動の数が3つ以上ある割合が4割を超え、他ブロックよりも高い。一方で第12ブロックでは参加したいと思う活動の数が1つである割合が5割に達し、最も高い。

図 2 - 6 - 3 参加したいと思う活動の数（地域ブロック別）



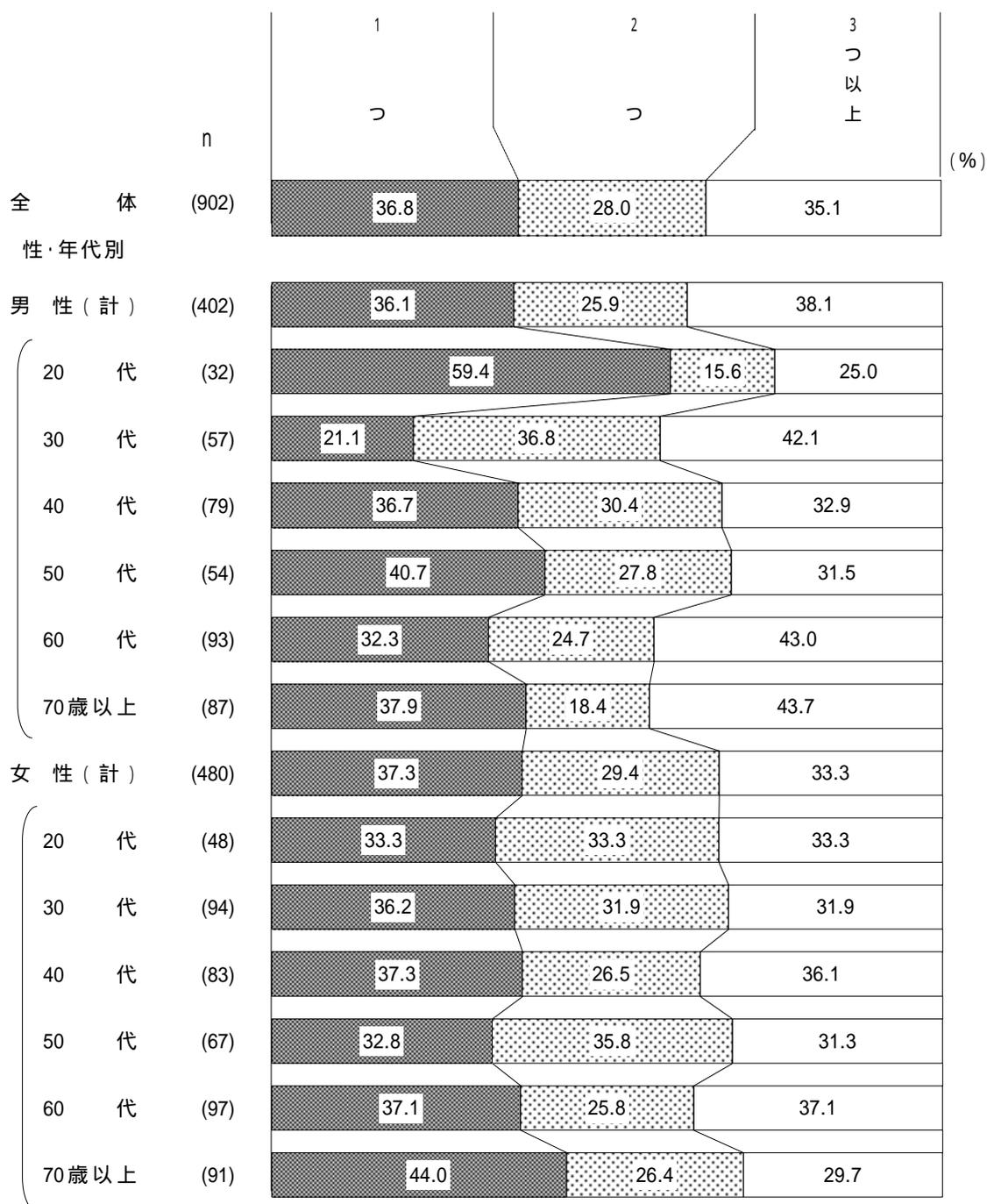
参加意向のある地域活動の数を、性・年代別にみると、図2 - 6 - 4のとおりである。

男性では、参加したいと思う活動の数が3つ以上である割合が70歳以上で43.7%、60代で43.0%、30代で42.1%と高くなっている。

男性20代では参加したいと思う活動の数が1つである割合が59.4%と6割弱にのぼり、突出して高い。

一方、女性では70歳以上でも参加したいと思う活動の数が1つである割合が44.0%となっており、他世代よりも高くなっている。

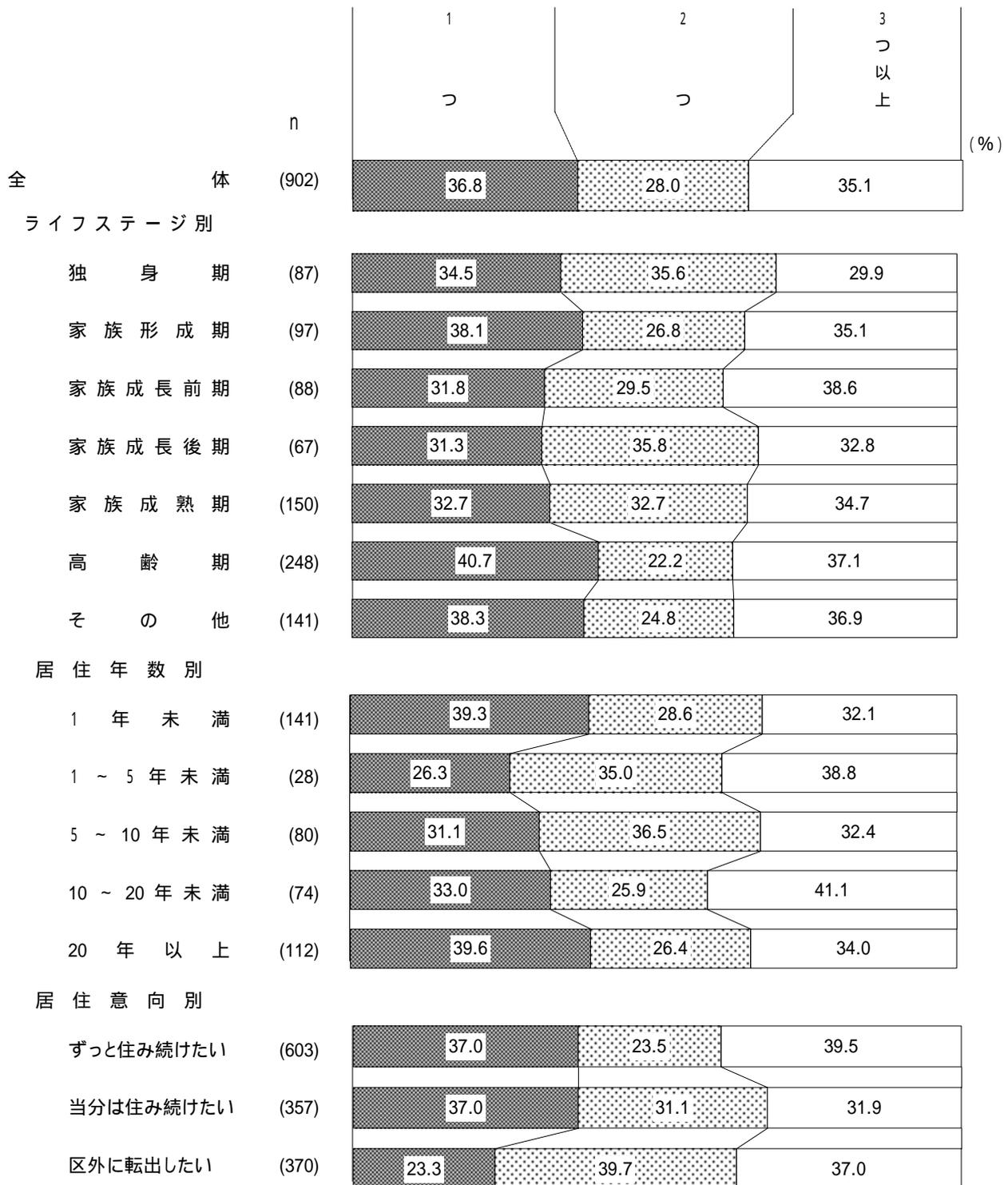
図 2 - 6 - 4 参加したいと思う活動の数（性・年代別）



参加意向のある地域活動の数を、ライフステージ、居住年数、居住意向別にみると、図2 - 6 - 5のとおりである。ライフステージ別では、「家族成長前期」で参加したいと思う活動の数が3つ以上である割合が38.6%、居住年数別では「10～20年未満」が41.1%と、他のライフステージや居住年数よりも高い。

一方、ライフステージ別の「高齢期」では参加したいと思う活動の数が1つである割合が約4割を示し、居住年数別の「1年未満」「20年以上」においても約4割で高くなっている。

図2 - 6 - 5 参加したいと思う活動の数（ライフステージ、居住年数、居住意向別）



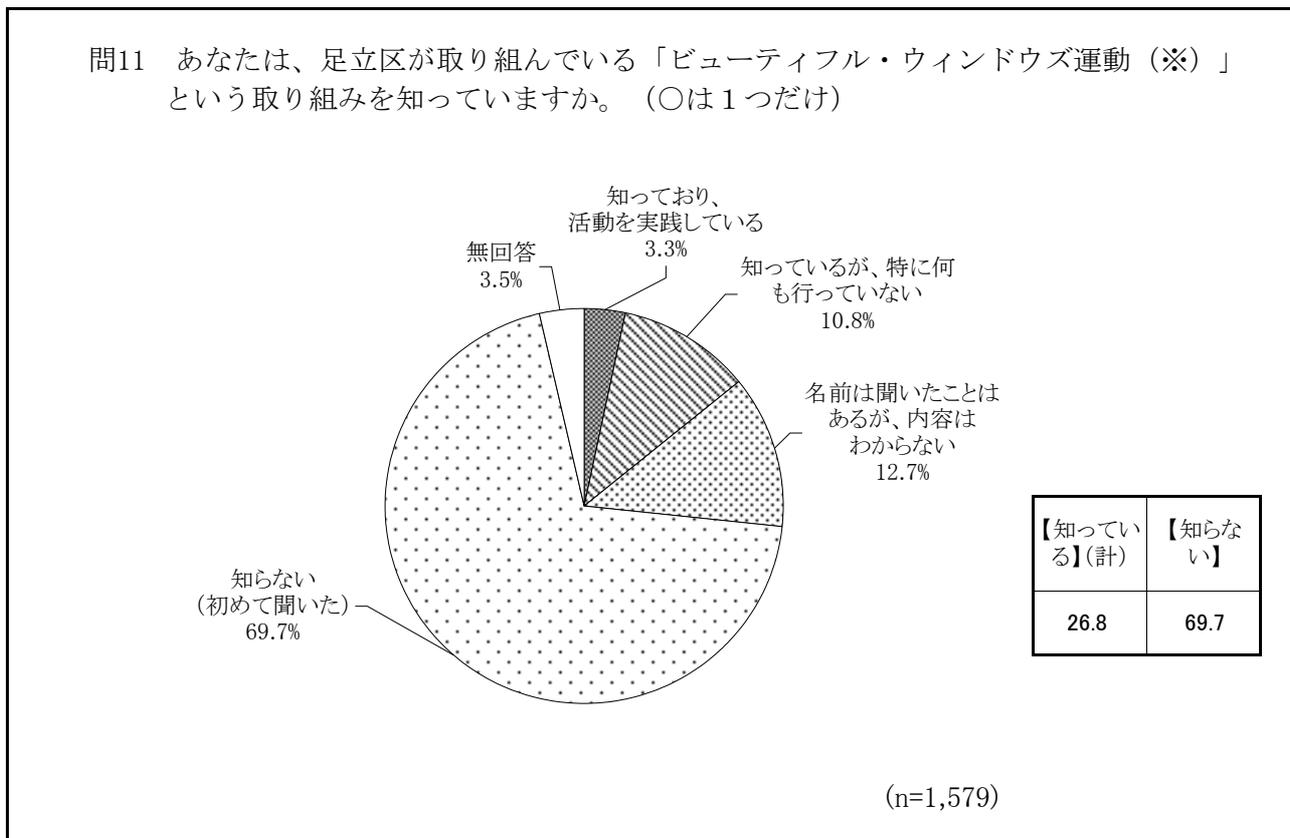
3 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」

-
- (1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度
 - (2) 実践している「ビューティフル・ウィンドウズ運動」
 - (2)-1 防犯対策を始めたきっかけ
 - (3) 地域の変化についての評価
 - (4) 足立区の治安についてのイメージ
 - (5) 区内での犯罪被害経験
-

3 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」

(1) 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度

■ 運動を「知っている」者は26.8%



「ビューティフル・ウィンドウズ運動」について、「知っており、活動を実践している」は3.3%、「知っているが、特に何も行ってない」は10.8%であり、これに「名前は聞いたことはあるが、内容はわからない」(12.7%)をあわせた《知っている》は26.8%を占めている。一方、「知らない」は69.7%にのぼり、7割弱の区民にはまだ認知されていないことが示されている。

地域ブロック別で見ると図3-1-1のとおりである。

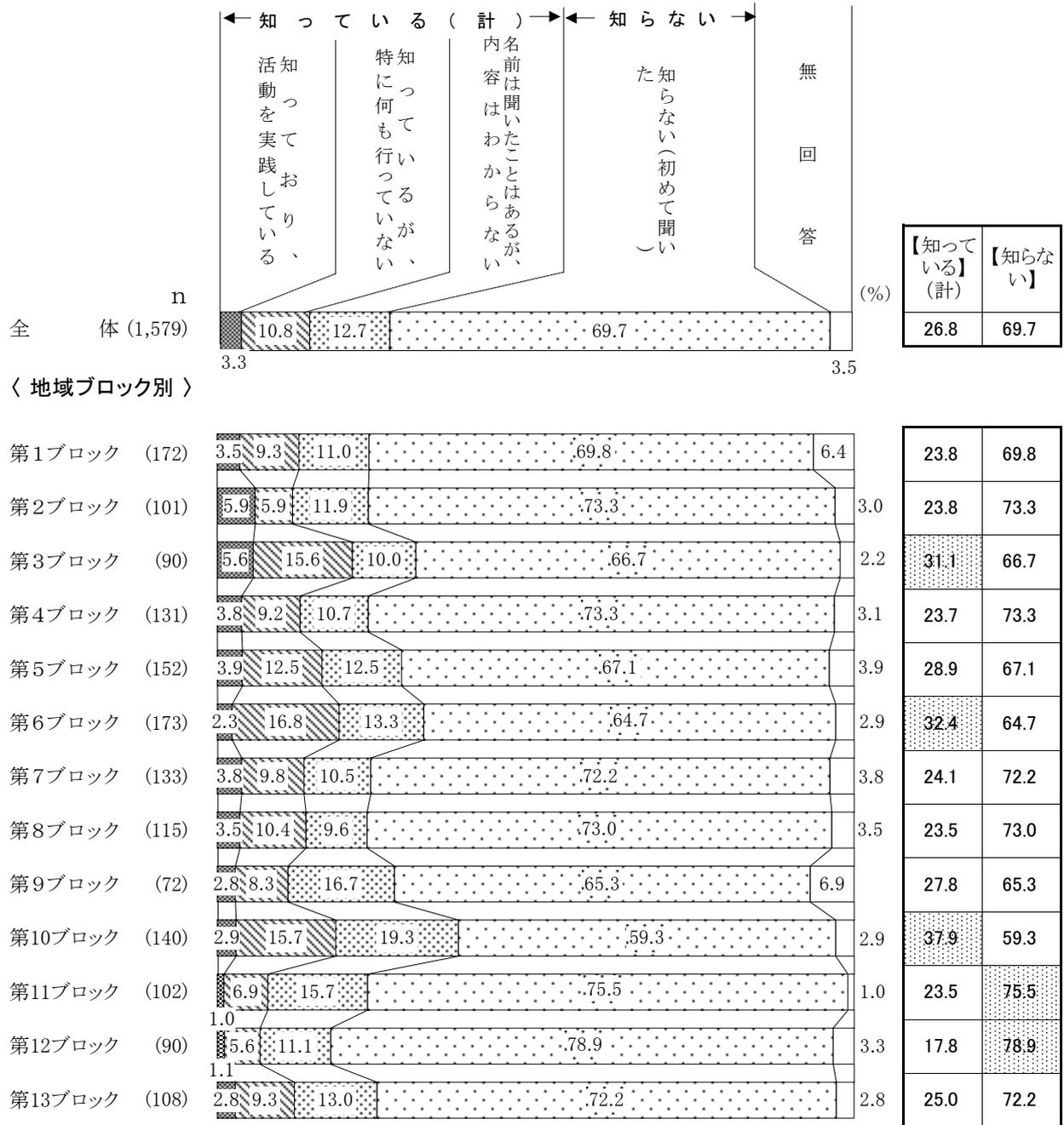
《知っている》では、第10ブロックが最も高く37.9%にのぼっており、第3、第6ブロックにおいてもそれぞれ30%を超え、次いで高くなっている。一方、「知らない」は第11、第12ブロックでそれぞれ75.5%、78.9%と75%を超え、他ブロックよりも高い。

性・年代別で見ると図3-1-2のとおりである。

男女ともに60代以上で、《知っている》の割合が高く、男性70歳以上では41.4%で最も高く、「知っており活動を実践している」という活動実践層も8.3%と最も高い。また、女性においても、70歳以上が38.8%で女性の他世代よりも高くなっている。一方で、「知らない」は若い世代で高く、男性20代、30代、女性20代で80%を超え、他世代よりも認知率が低いことがうかがえる。

※ 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」…「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止していこうという足立区独自の運動で、警視庁や区民と協働してまちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進している。

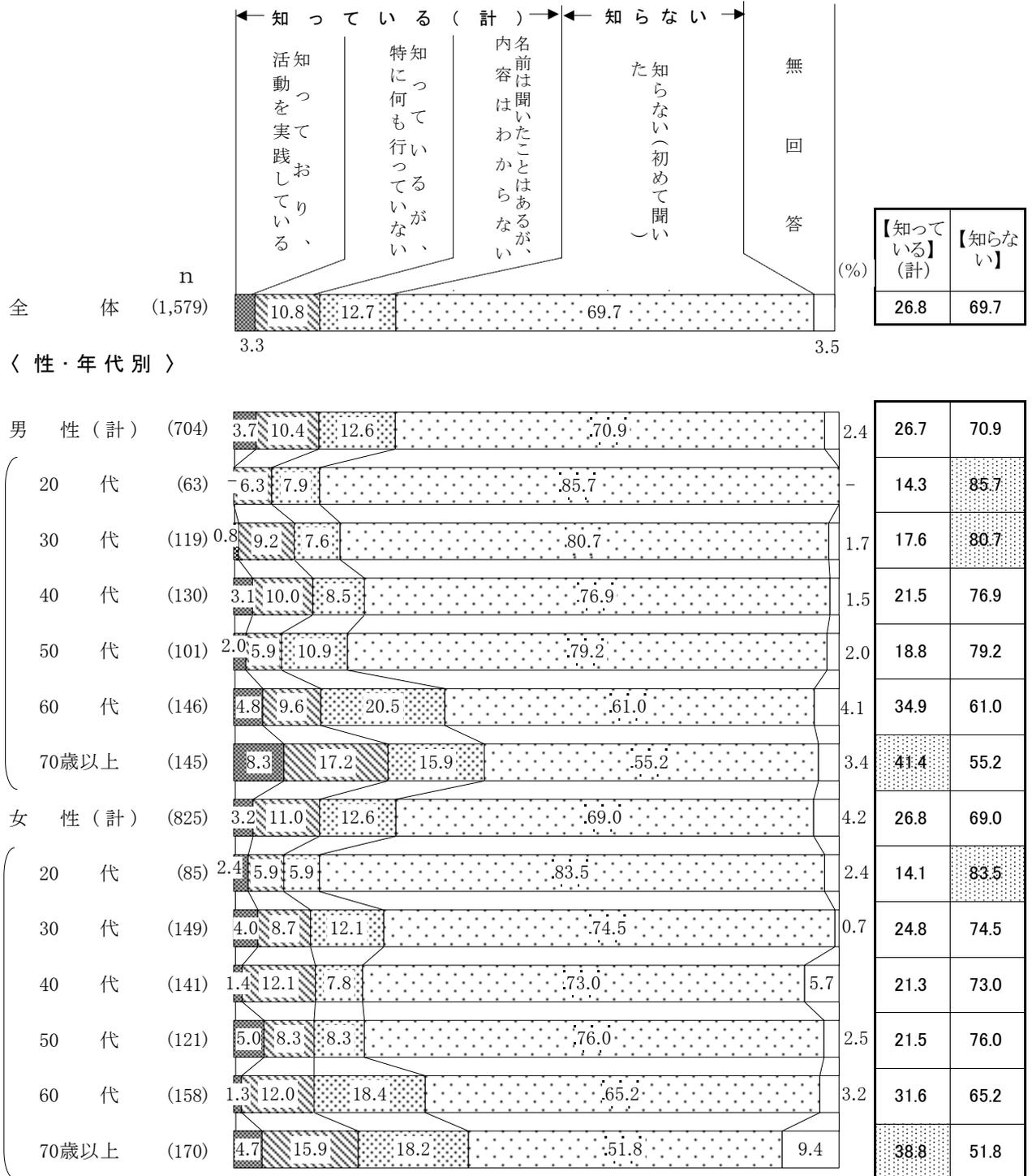
図 3-1-1 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度（地域ブロック別）



ブロック区分

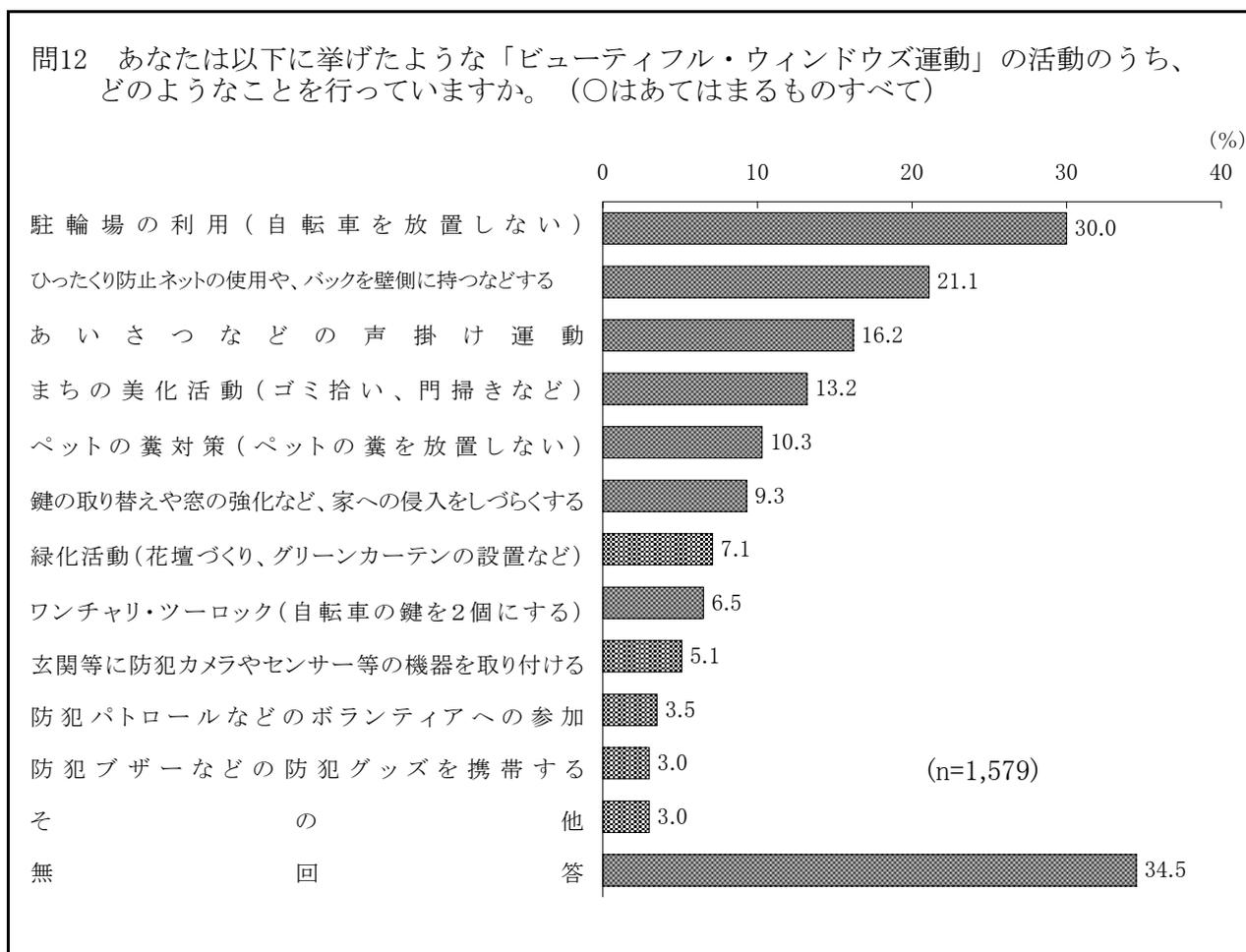


図 3-1-2 「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知度（性・年代別）



(2) 実践している「ビューティフル・ウィンドウズ運動」

■「駐輪場の利用(自転車を放置しない)」が30.0%で最も高い



実践しているビューティフル・ウィンドウズ運動では、「駐輪場の利用(自転車を放置しない)」が30.0%で最も高く、次いで「ひったくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする」が21.1%、「あいさつなどの声掛け運動」が16.2%と続いている。一方、「無回答」も34.5%にのぼっており、これは活動を行っていない層と考えられる。地域ブロック別にみると、図3-2-1のとおりである。

「駐輪場の利用(自転車を放置しない)」では、第13ブロックで36.1%と最も高く、次いで第3ブロックの34.4%と続いている。また、「ひったくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする」では第9ブロックが27.8%と最も高くなっており、「あいさつなどの声掛け運動」では第2ブロックが28.7%と突出して高い。また「まちの美化活動(ゴミ拾い、門掃きなど)」でも第2ブロックが最も高い。

性・年代別にみると、図3-2-2のとおりである。

上位3項目においては、全体的に女性の方が男性よりも高い傾向にあり、「駐輪場の利用(自転車を放置しない)」において、女性では30代で51.0%と5割を超えている。「ひったくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする」においては、男性の実施率は1割前後である一方、女性では女性50代で41.3%にのぼり、女性30代、40代、60代でも3割を超えていることから、ひったくりへの防犯意識の高さがうかがえる。「あいさつなどの声掛け運動」では女性60代で22.2%と唯一2割を超え、最も高い。

図 3-2-1 実践している「ビューティフル・ウィンドウズ運動」【上位6位】(地域ブロック別)

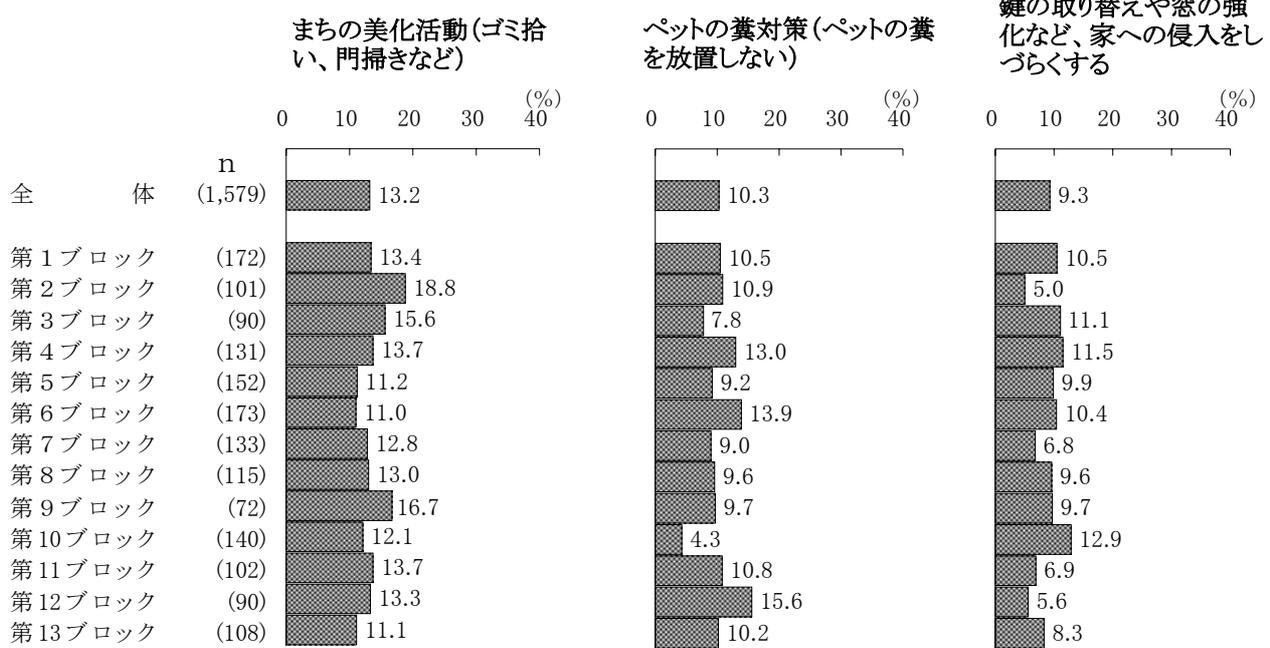
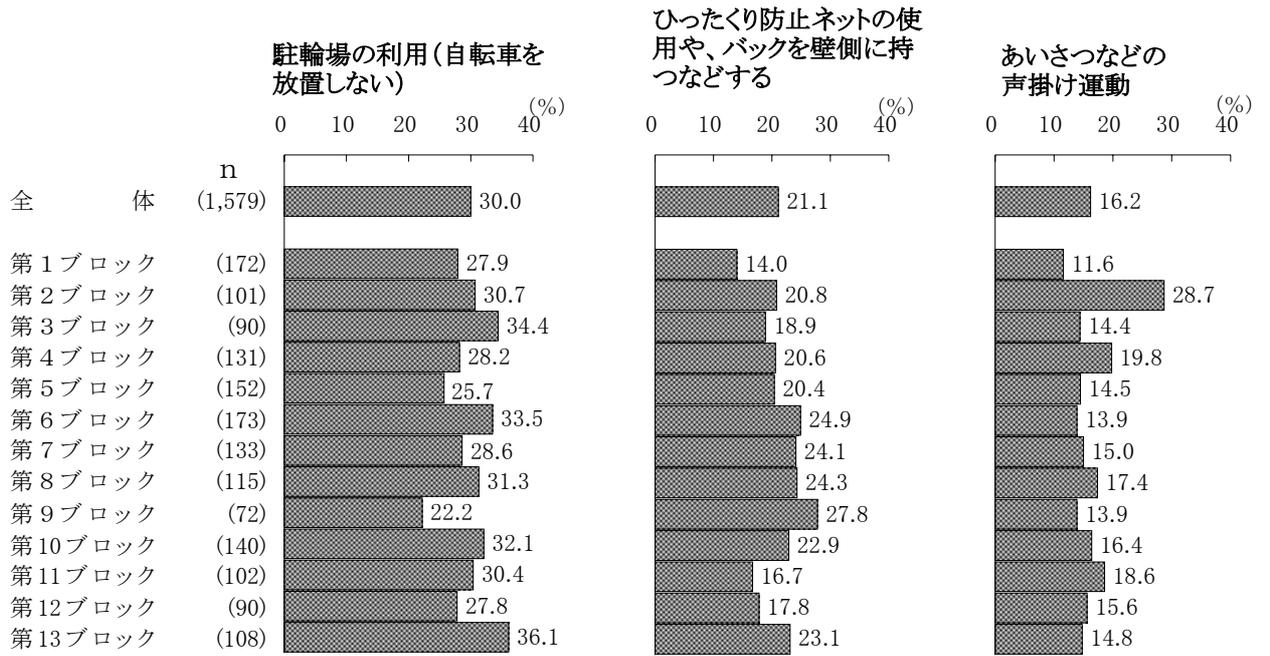
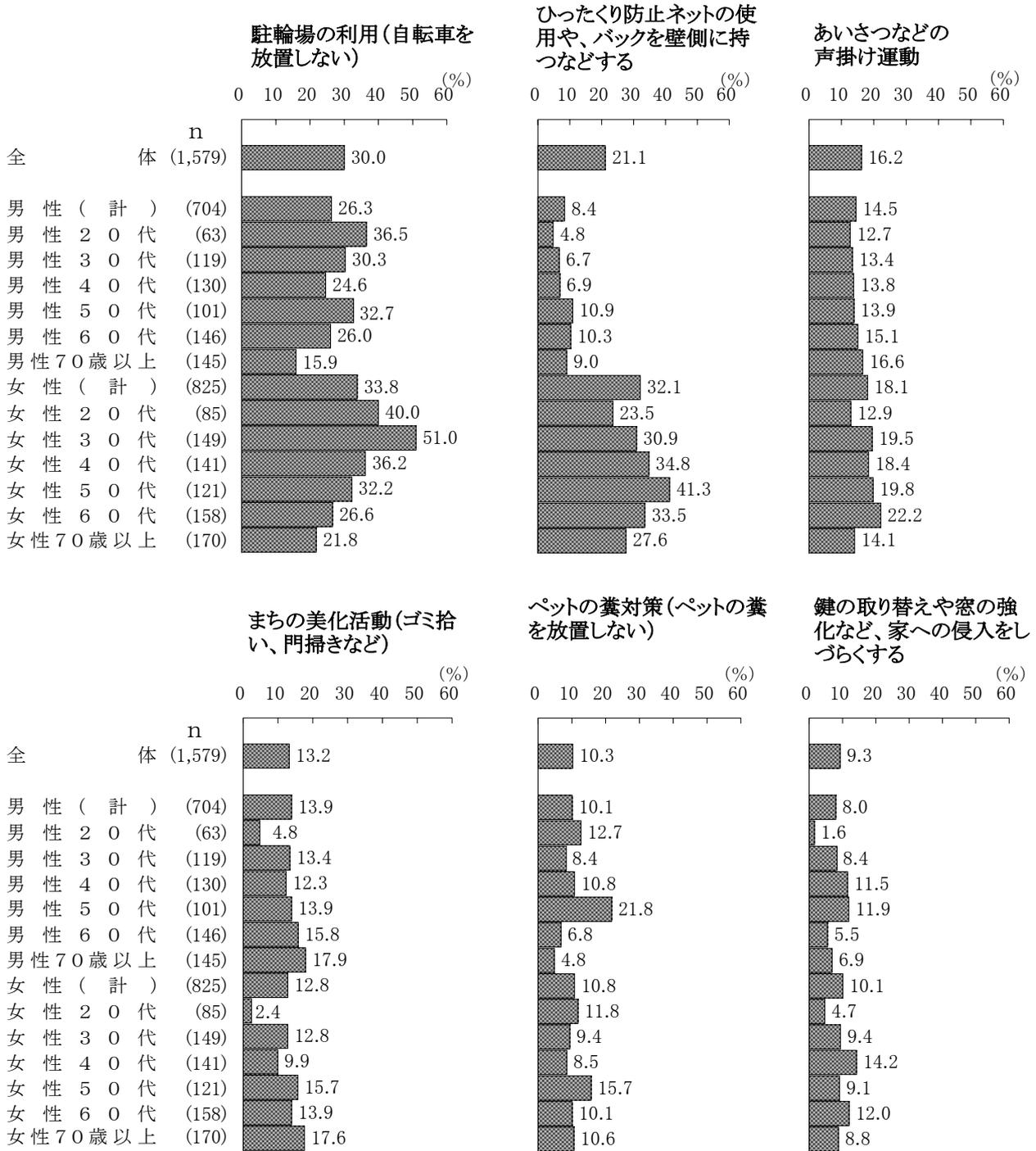
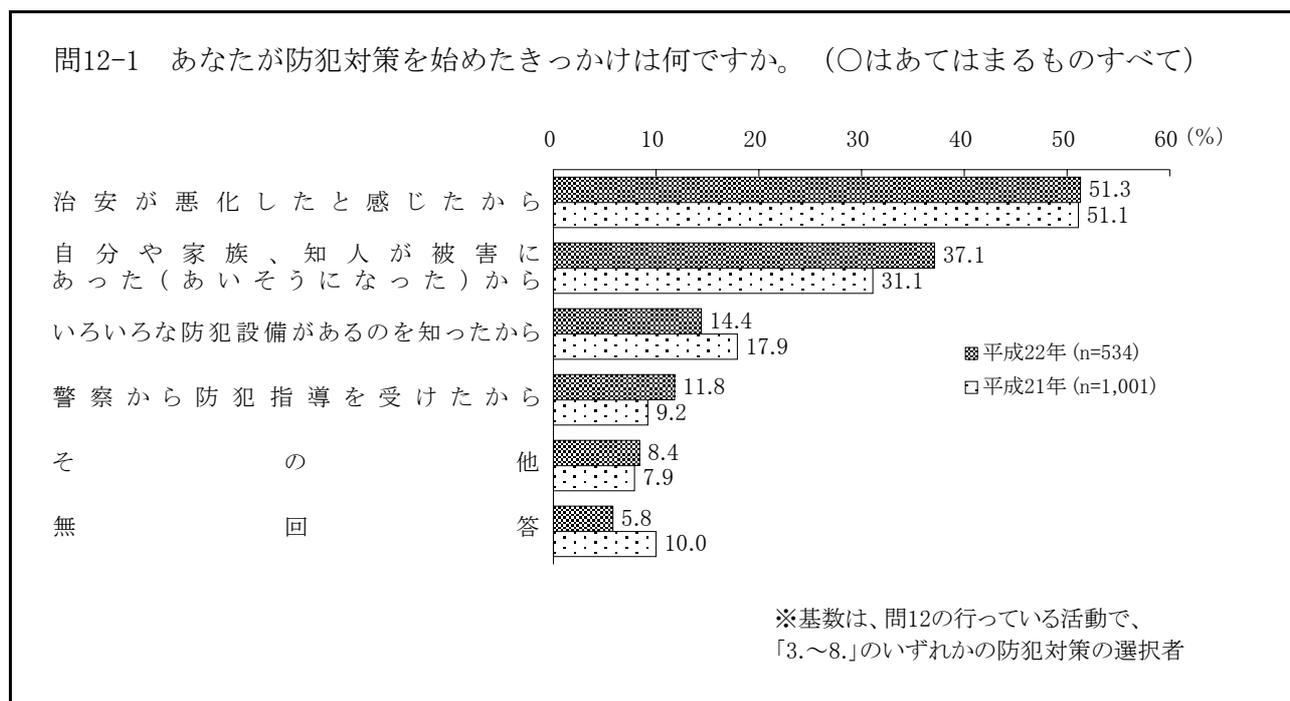


図 3-2-2 実践している「ビューティフル・ウィンドウズ運動」【上位6位】(性・年代別)



(2)－1 防犯対策を始めたきっかけ

■「治安が悪化したと感じたから」が50%を超え、最も高い



防犯対策を始めたきっかけについては、「治安が悪化したと感じたから」が51.3%で最も高い。次いで「自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から」が37.1%と続いている。平成21年と比較すると、「自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から」が6ポイント上昇、「いろいろな防犯設備があるのを知ったから」は3.5ポイント下降している。

地域ブロック別にみると、図3-3-1のとおりである。

「治安が悪化したと感じたから」では、第13ブロックの61.5%が6割を超え最も高く、第10、第12ブロックでもそれぞれ55%を超え、高くなっている。また、「自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から」では、第10ブロックで48.8%と最も高くなっており、第2、第5ブロックでもそれぞれ40%を超えて、他ブロックより高くなっている。

性・年代別にみると、図3-3-2のとおりである。

「治安が悪化したと感じたから」では、男女とも20代が最も高く、それぞれ66.7%、63.3%を示しており、男女30代や男性50代、女性60代でも高い傾向にある。また、「自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から」では、全体的に女性の方が男性よりも高い傾向があり、女性60代では53.1%と5割を超え、最も高い。

図 3-3-1 防犯活動を始めたきっかけ【上位4位】(地域ブロック別)

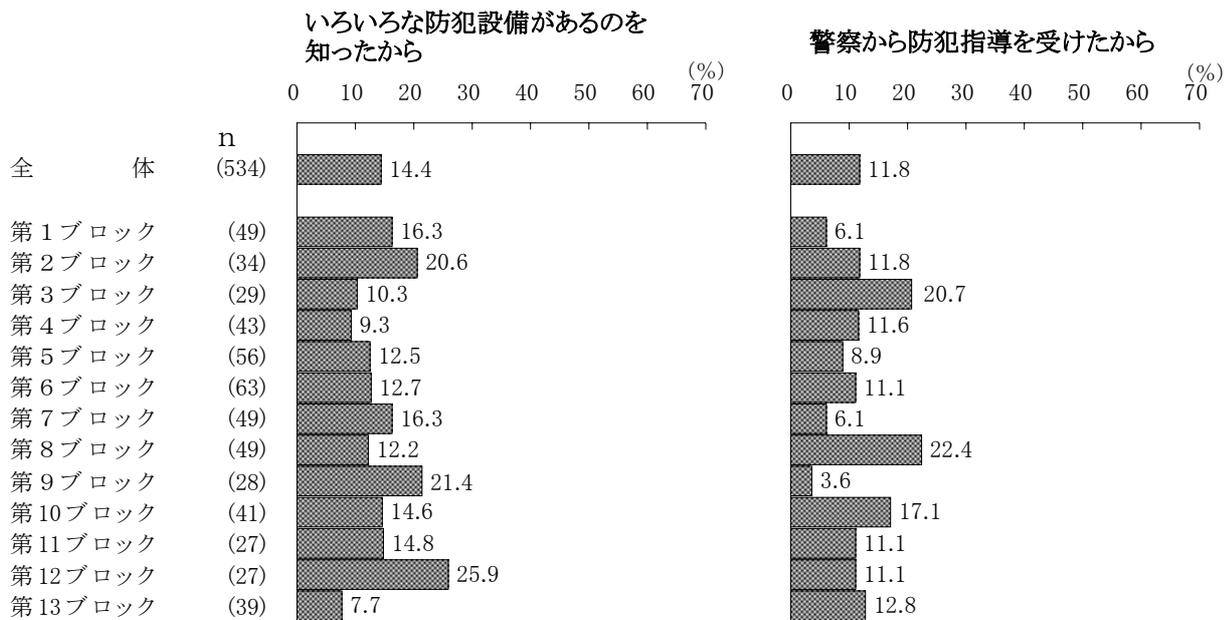
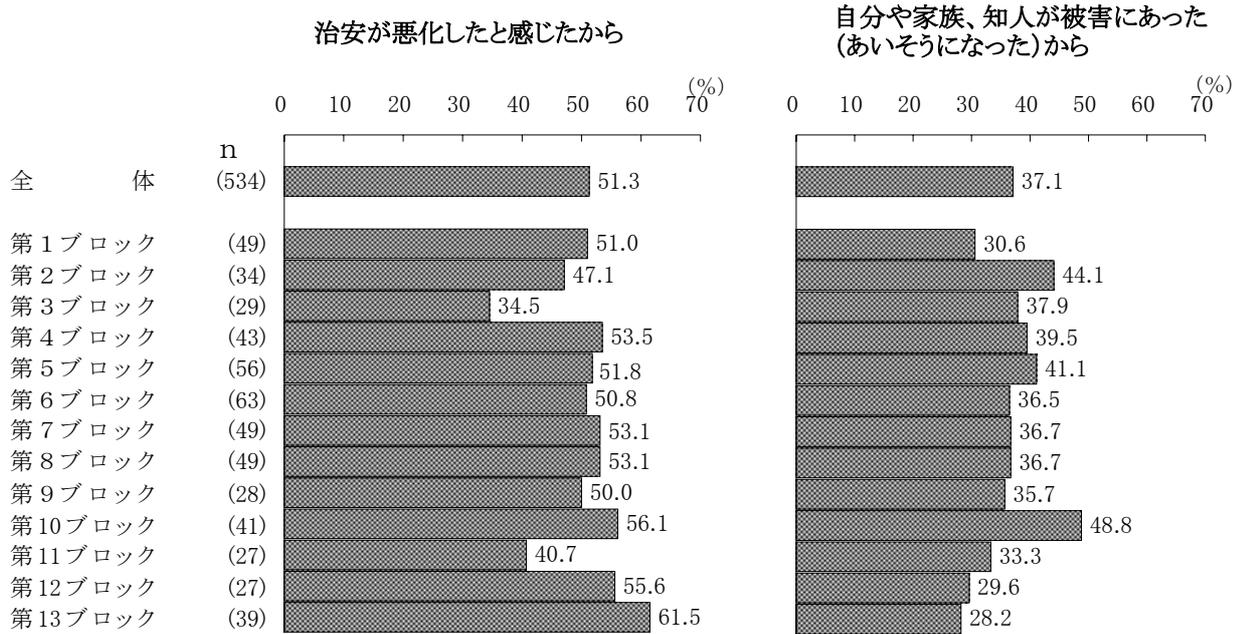
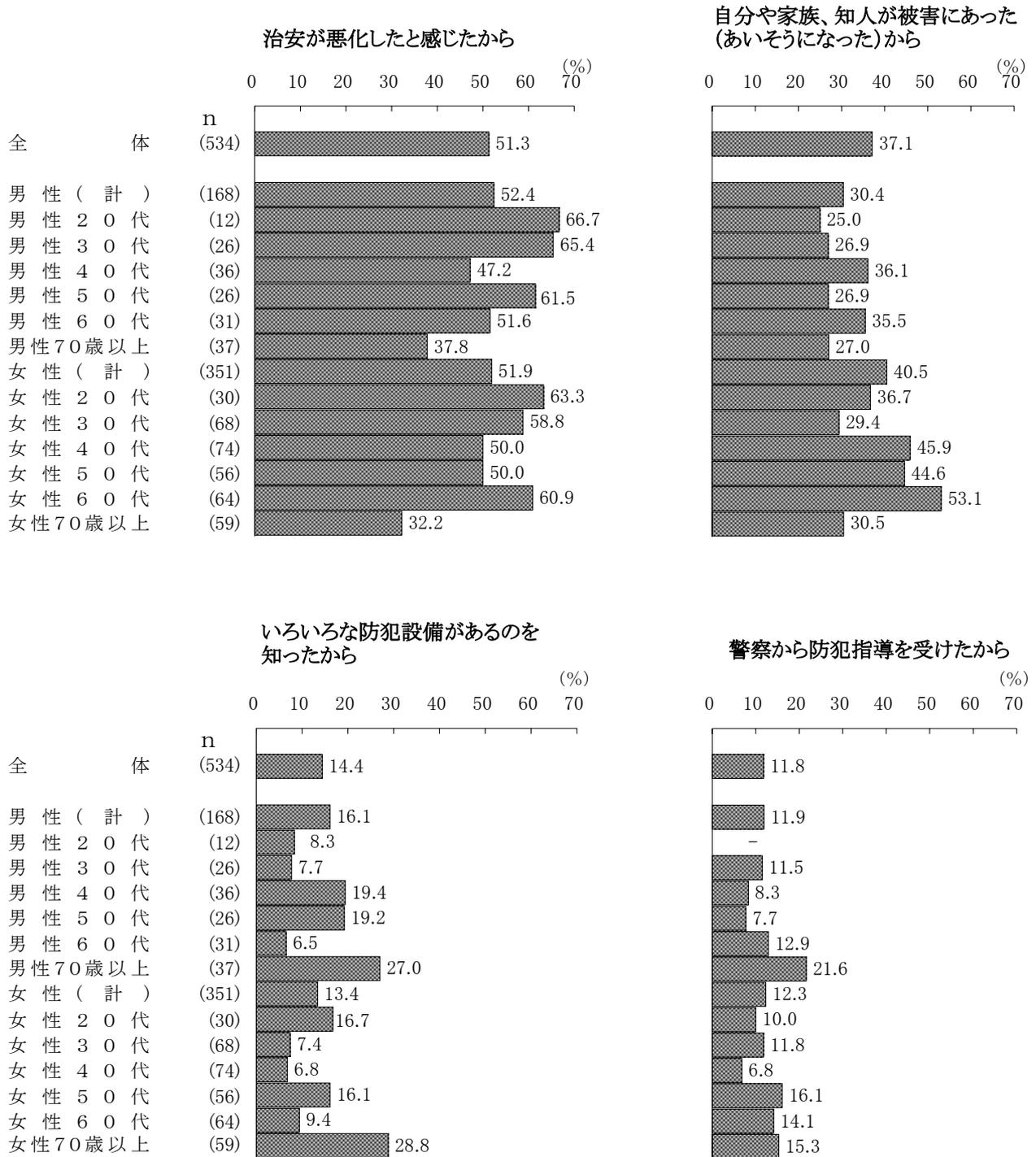
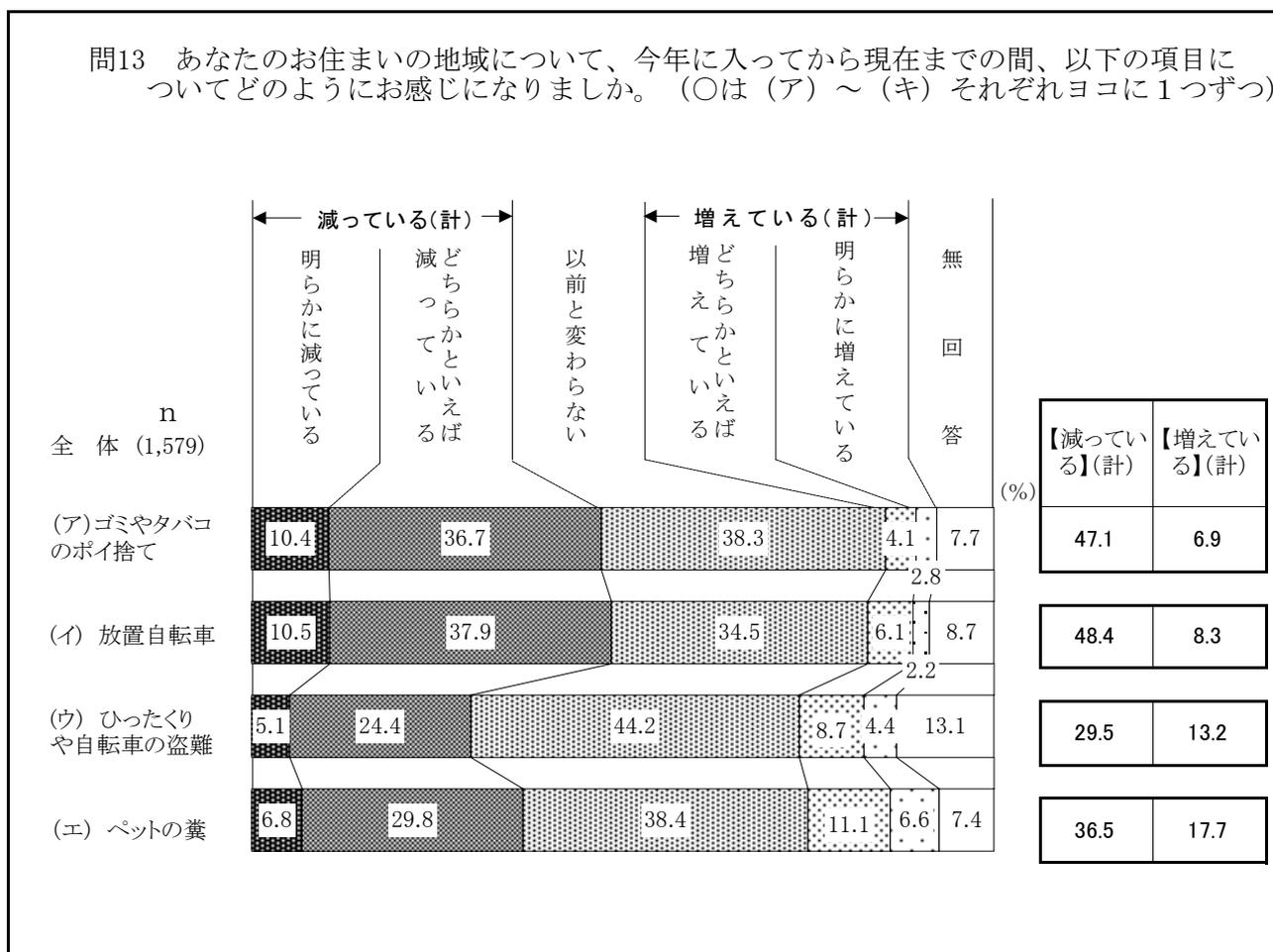


図 3-3-2 防犯活動を始めたきっかけ【上位4位】(性・年代別)



(3) 地域の変化についての評価

■ 5 割弱の区民がゴミやタバコのポイ捨て、放置自転車は減っていると感じている



お住まいの地域における変化について、「明らかに減っている」と「どちらかといえば減っている」をあわせた《減っている》は、「(ア) ゴミやタバコのポイ捨て」で47.1%、「(イ) 放置自転車」で48.4%にのぼり、他の項目より高い。

「(ア) ゴミやタバコのポイ捨て」を地域ブロック別でみると図3-4-1のとおりである。

「(ア) ゴミやタバコのポイ捨て」は、第1、第4、第10ブロックで《減っている》が50%を超え、他ブロックより高い。一方、《増えている》は第3、第9ブロックで13%台を示し、他ブロックよりも高い。

また、同項目を性・年代別でみると図3-4-2のとおりである。

男女ともに年代が上がるにつれ《減っている》割合が高くなる傾向があり、女性60代では《減っている》が59.5%と6割近くにのぼり、すべての世代の中で最も高く、男性でも50代以上で5割を超えている。

また、同項目を居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別でみると図3-4-3のとおりである。

居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ、《減っている》と答える割合が上昇しており、「20年以上」では《減っている》の割合が50.6%を示し、最も高い。また、定住意向別では、定住意向が強くなるにつれ、《減っている》とする割合も上昇し、「ずっと住み続けたい」では《減っている》の割合が53.1%で最も高くなっている。さらに区のイメージ別においては、足立区の治安についてのイメージがよいほど、《減っている》とする割合も上昇する傾向があり、「どちらかといえば良い」では、《減っている》は59.7%、「良い」では59.3%と6割弱にのぼる。

図 3-4-1 地域の変化（地域ブロック別）

(ア) ゴミやタバコのポイ捨て

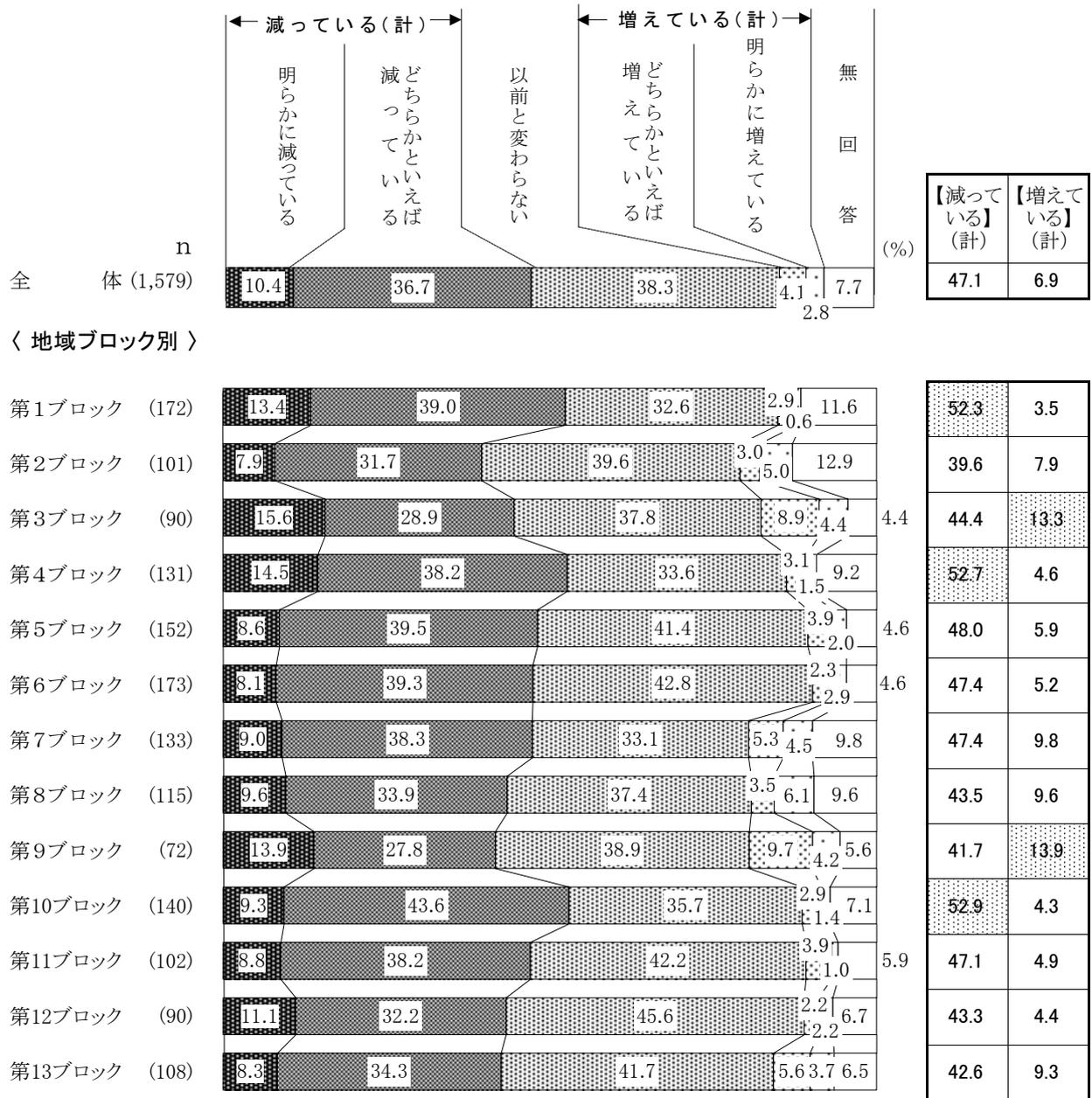


図 3 - 4 - 2 地域の変化（性・年代別）

(ア) ゴミやタバコのポイ捨て

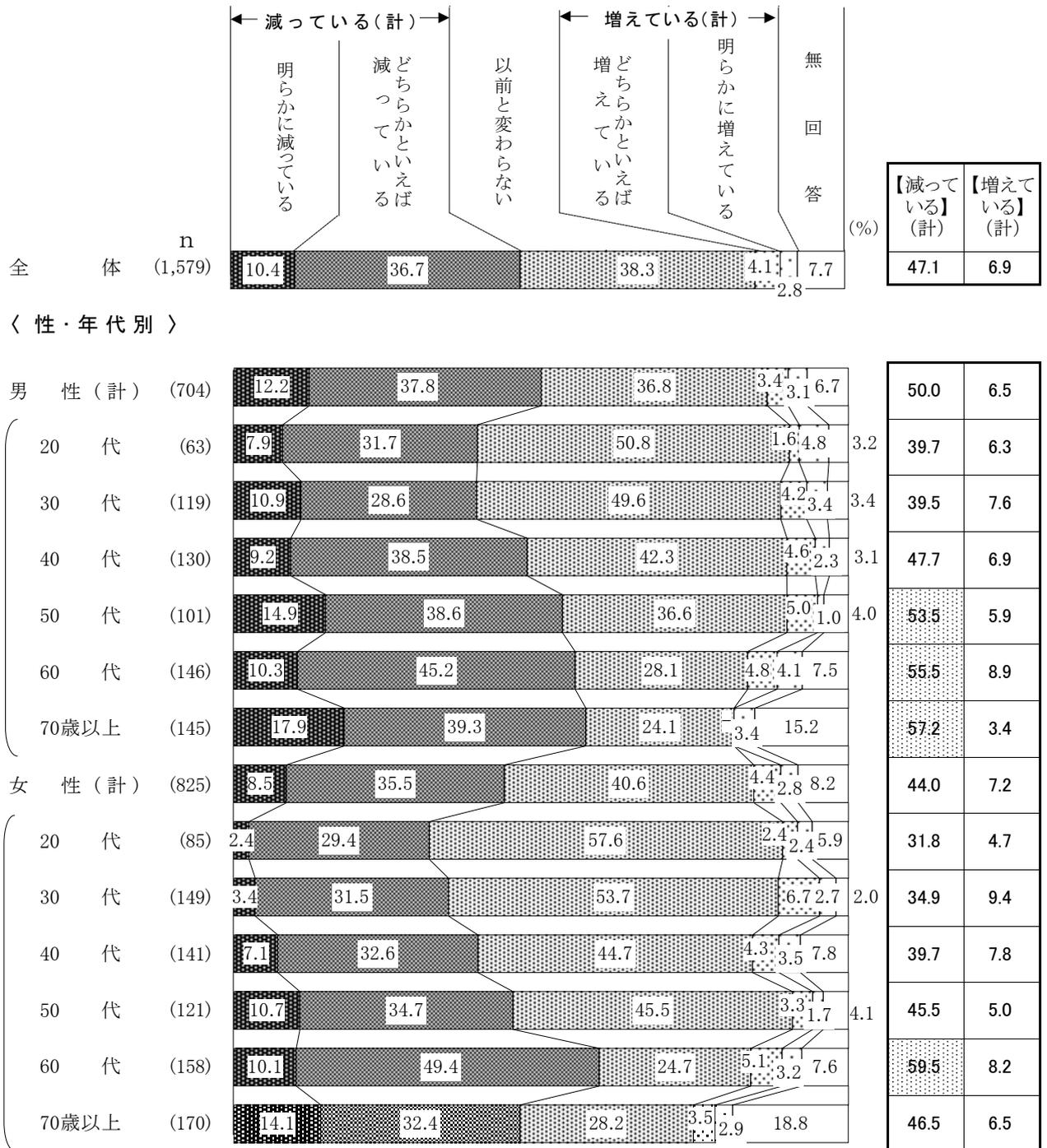
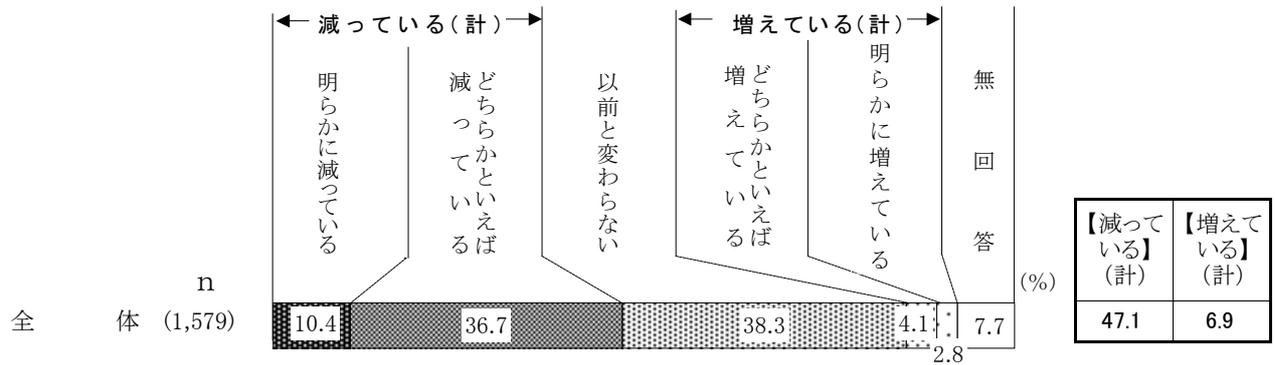
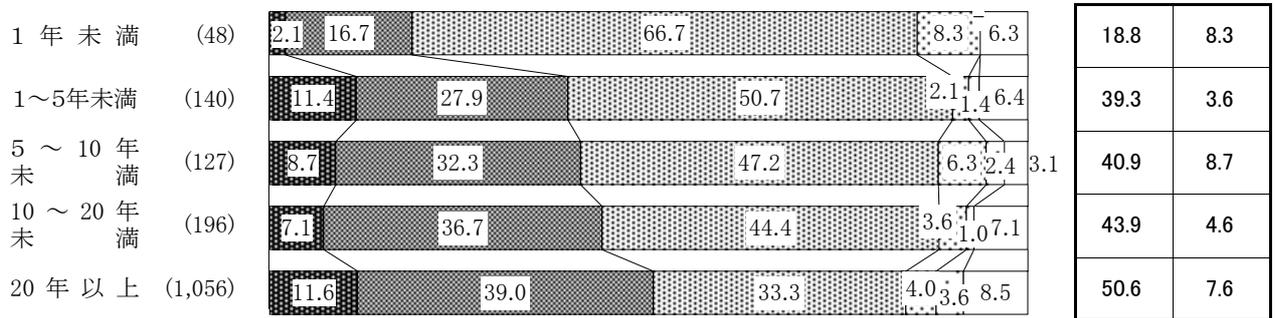


図 3-4-3 地域の変化（居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別）

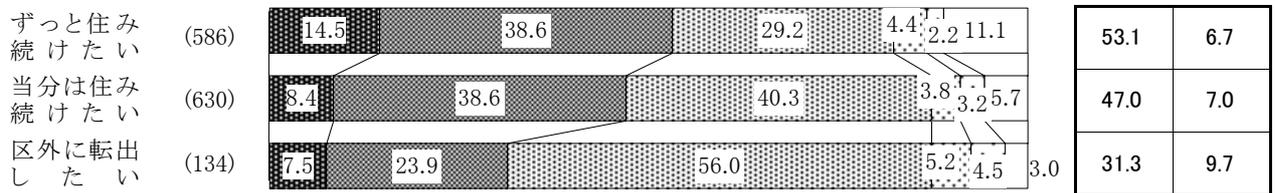
(ア) ゴミやタバコのポイ捨て



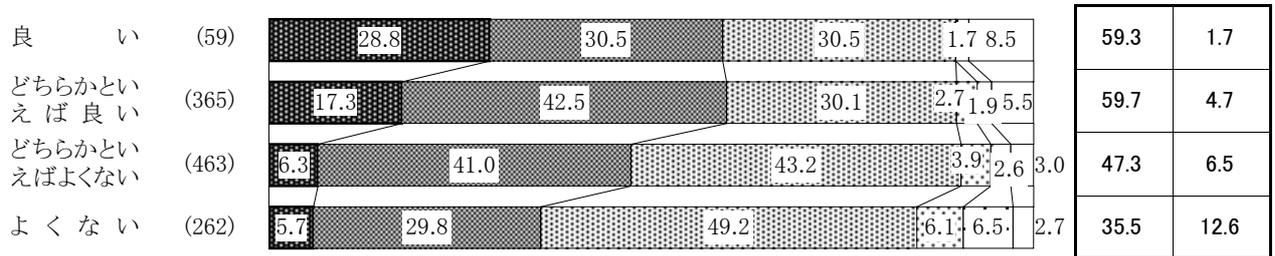
〈 居住年数別 〉



〈 定住意向別 〉



〈 区の治安についてのイメージ別 〉

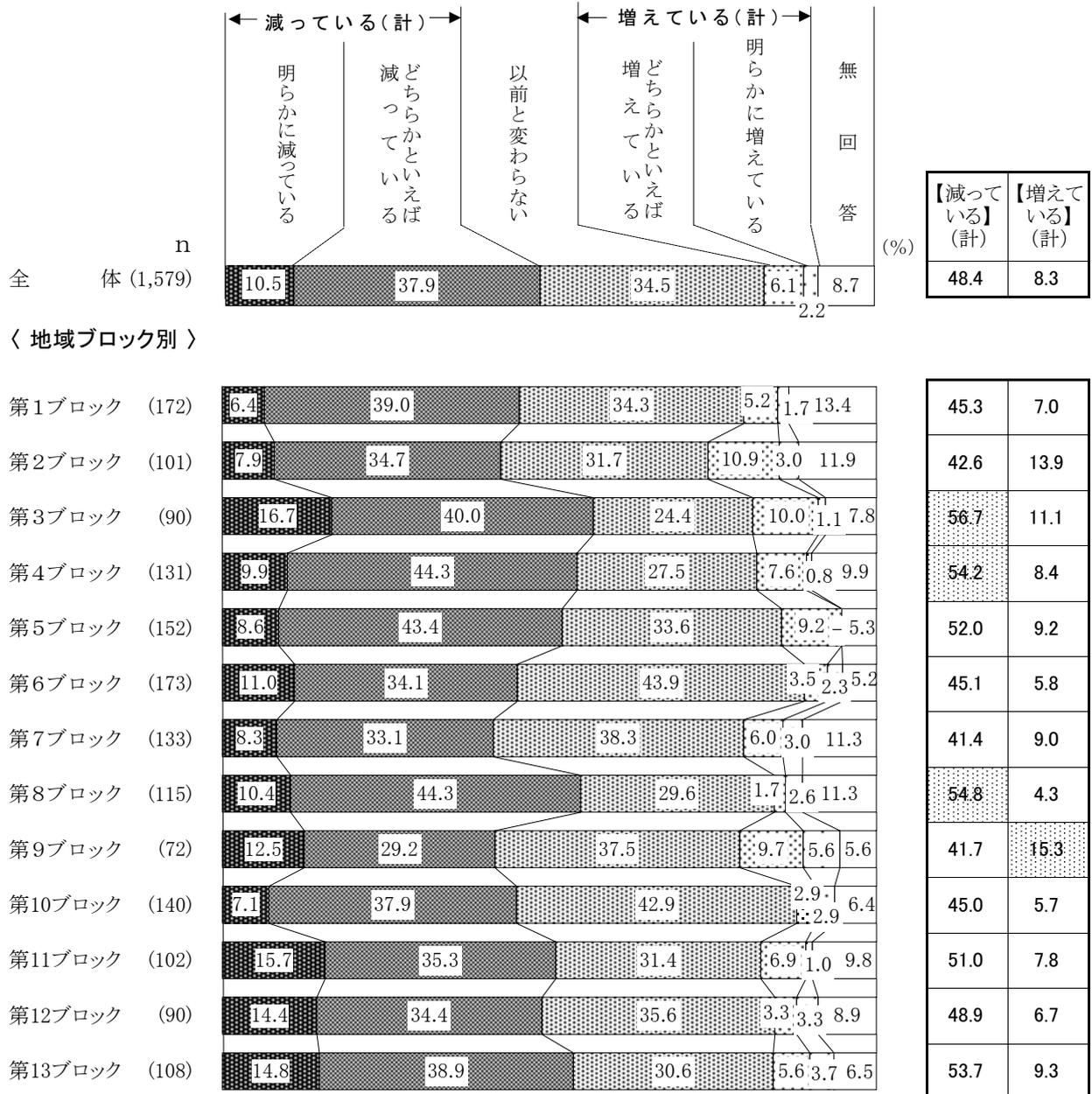


「(イ) 放置自転車」を地域ブロック別で見ると図3-4-4のとおりである。

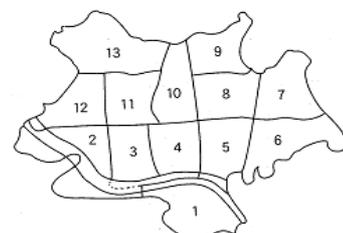
「(イ) 放置自転車」は、第3ブロックで《減っている》が56.7%と最も高く、第4、第8ブロックでもそれぞれ54.2%、54.8%と高くなっている。一方、《増えている》では第9ブロックで15.3%と最も高くなっている。

図 3 - 4 - 4 地域の変化（地域ブロック別）

(イ) 放置自転車



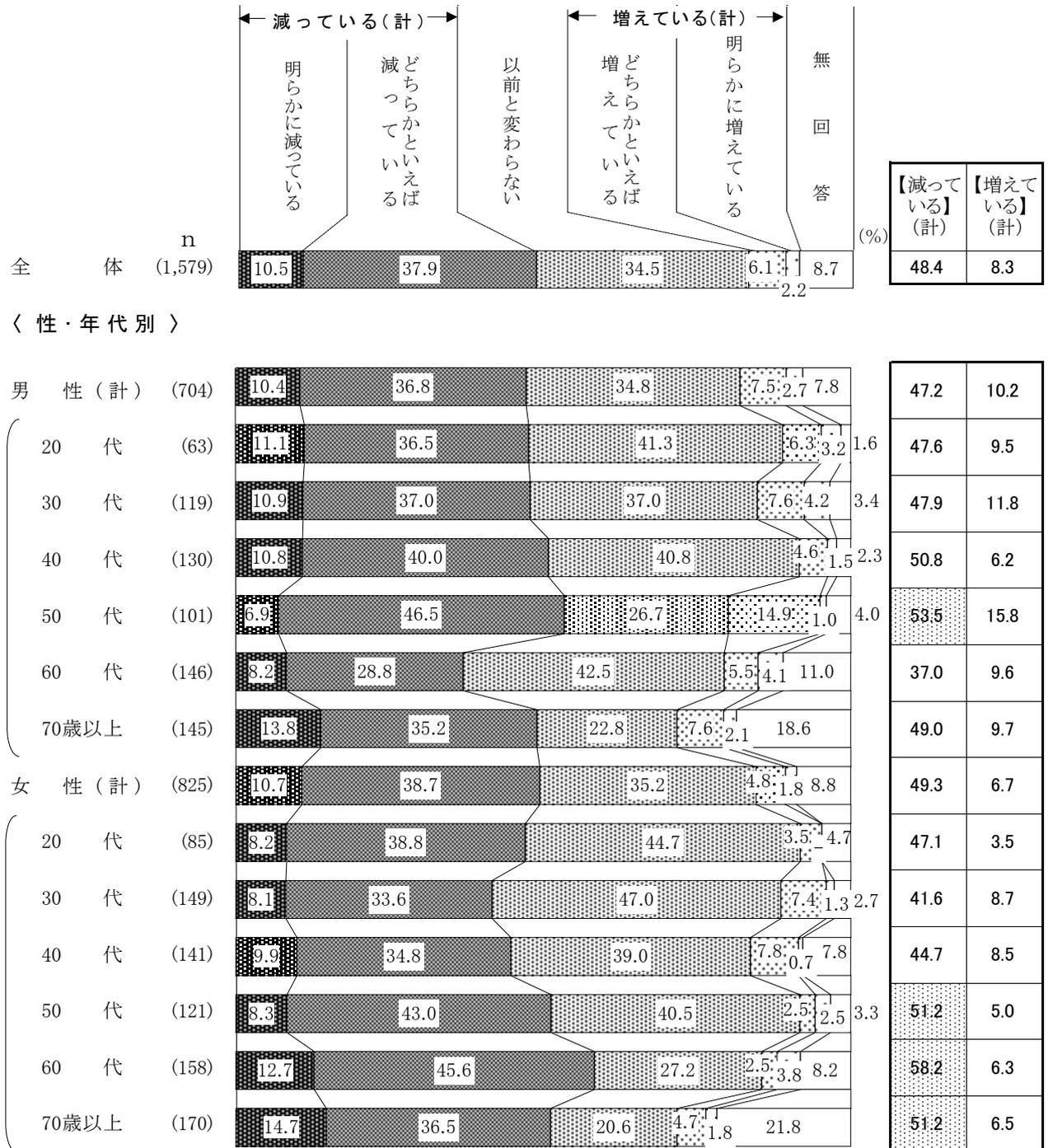
ブロック区分



「(イ)放置自転車」を性・年代別で見ると図3-4-5のとおりである。

「(イ)放置自転車」においては、女性60代で《減っている》の割合が58.2%で最も高く、女性50代、70歳以上でもそれぞれ51.2%と高くなっている。また、男性では50代が53.5%と最も高くなっている。

図 3 - 4 - 5 地 域 の 変 化 (性 ・ 年 代 別)
(イ)放置自転車

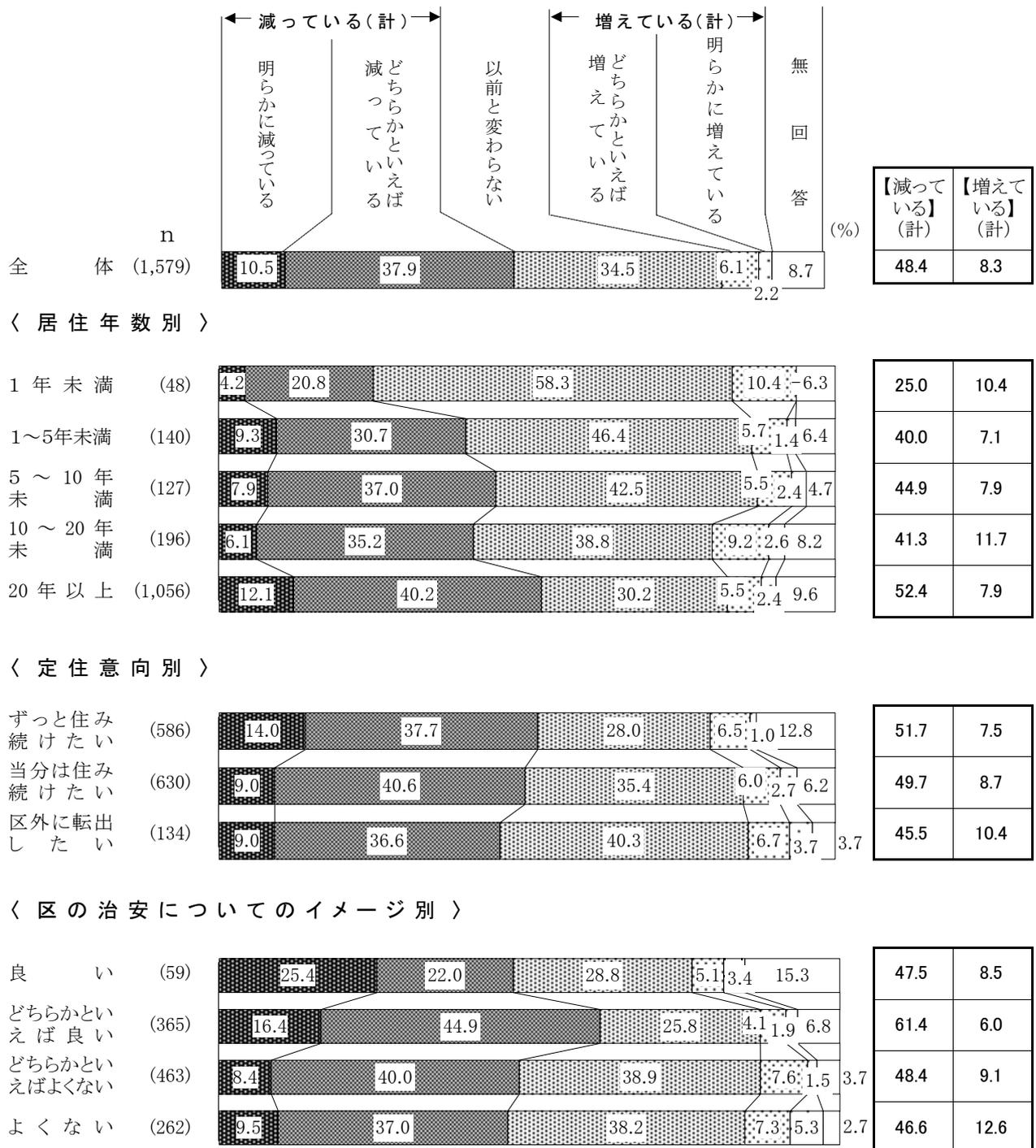


「(イ) 放置自転車」を居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別でみると図3-4-6のとおりである。

居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ、「減っている」が上昇する傾向があり、「20年以上」では「減っている」の割合が52.4%で最も高い。また、定住意向別では、定住意向が強くなるにつれ、「減っている」と認識する割合も上昇し、「ずっと住み続けたい」では「減っている」の割合が51.7%で最も高くなっている。さらに区のイメージ別においては、足立区の治安についてのイメージとの関係でみると、「どちらかといえば良い」で「減っている」の割合が61.4%と突出して高くなっている。

図 3-4-6 地域の変化（居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別）

(イ) 放置自転車

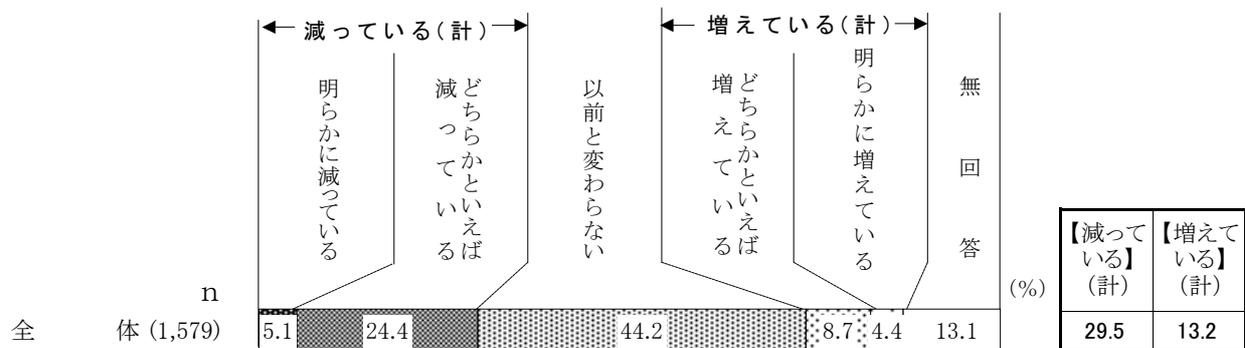


「(ウ) ひったくりや自転車の盗難」を地域ブロック別でみると図3-4-7のとおりである。

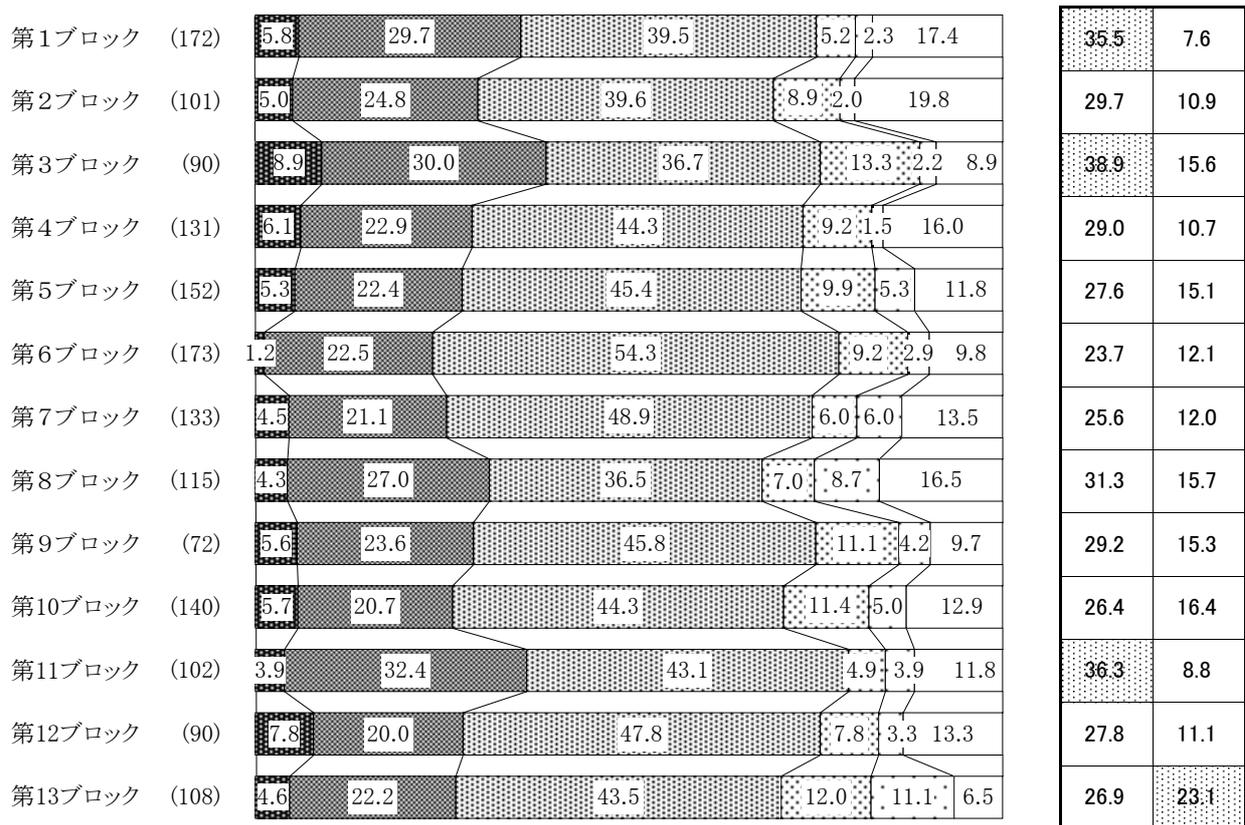
「(ウ) ひったくりや自転車の盗難」では、第3ブロックで《減っている》が38.9%と最も高く、第1、第11ブロックでもそれぞれ35.5%、36.3%と35%を超えている。一方、《増えている》では第13ブロックで23.1%と、唯一2割を超え最も高くなっている。

図 3 - 4 - 7 地域の変化（地域ブロック別）

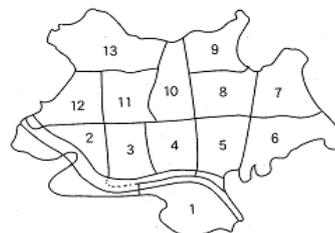
(ウ) ひったくりや自転車の盗難



〈地域ブロック別〉



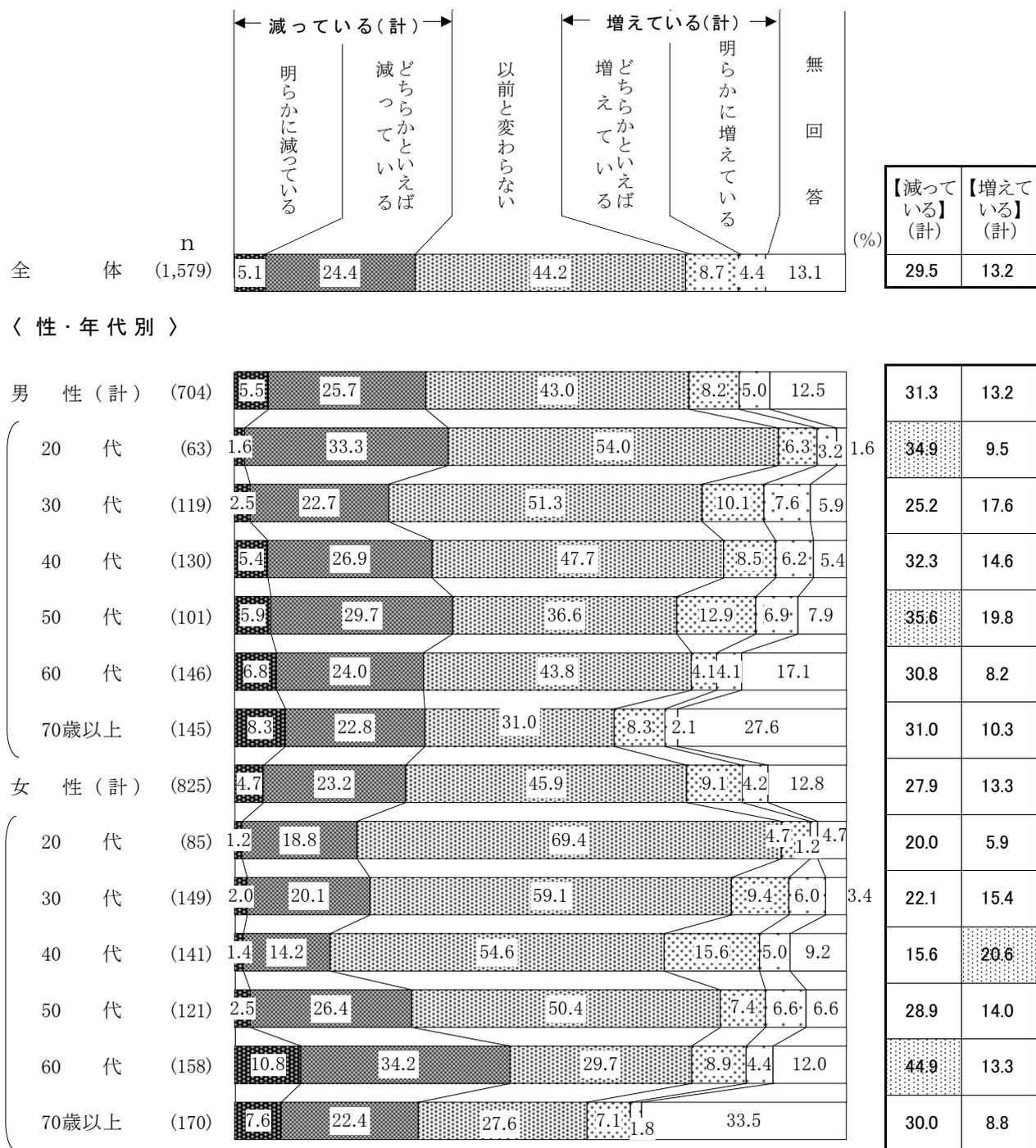
ブロック区分



「(ウ) ひったくりや自転車の盗難」を性・年代別で見ると図3-4-8のとおりである。

「(ウ) ひったくりや自転車の盗難」においては、女性60代で《減っている》の割合が44.9%で最も高く、男性では50代が35.6%、20代で34.9%と高くなっている。一方、《増えている》では女性40代の20.6%が最も高い。

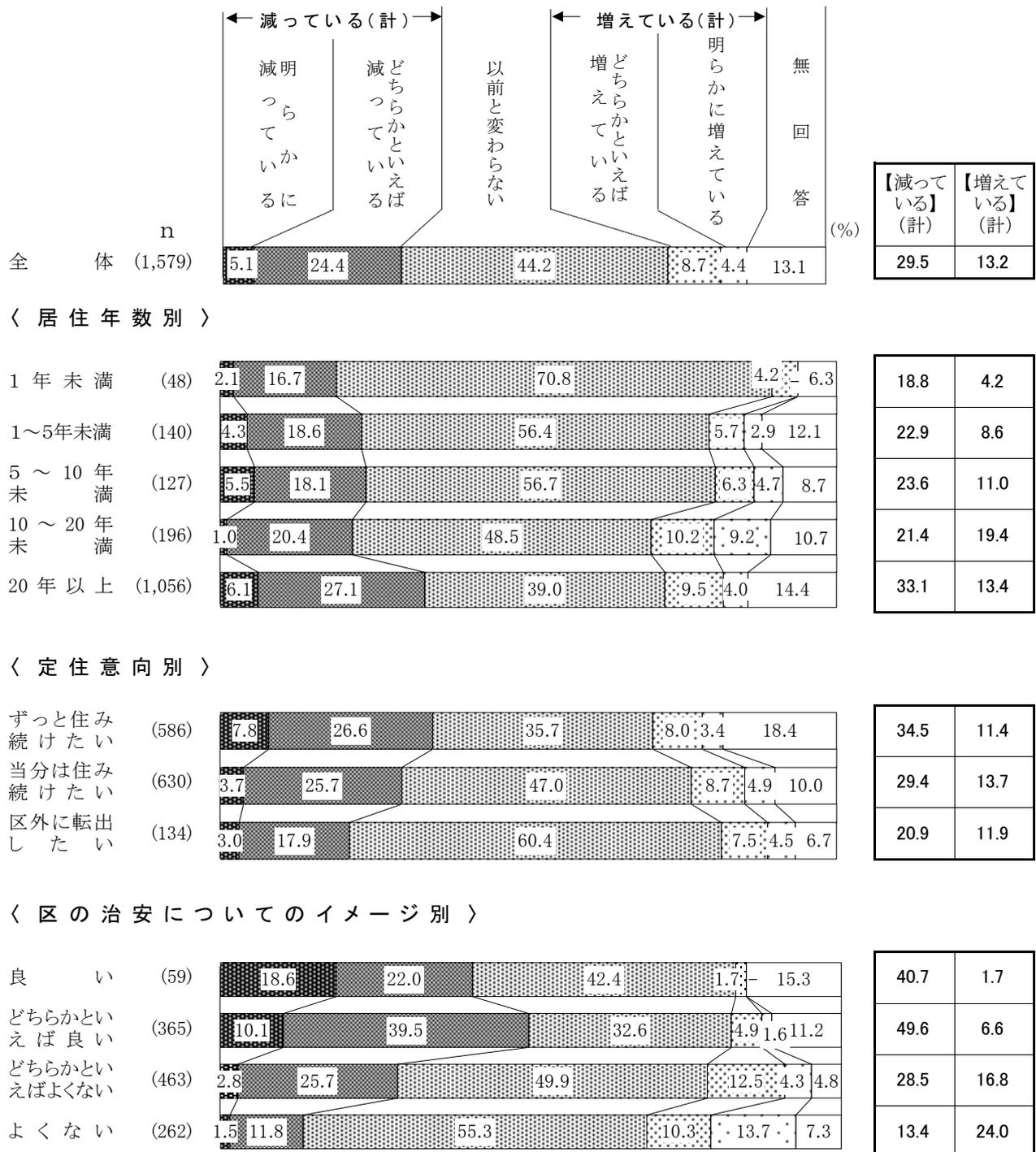
図 3 - 4 - 8 地域の変化（性・年代別）
(ウ) ひったくりや自転車の盗難



「(ウ) ひったくりや自転車の盗難」を居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別でみると図3-4-9のとおりである。居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ、《減っている》と答える割合が上昇する傾向があり、「20年以上」では《減っている》の割合が33.1%を示し、最も高い。また、定住意向別では、定住意向が強くなるにつれ、《減っている》と認識する割合も上昇し、「ずっと住み続けたい」では《減っている》の割合が34.5%で最も高くなっている。さらに区のイメージ別においては、足立区の治安についてのイメージがよいほど、《減っている》と認識する割合も上昇する傾向があり、「どちらかといえば良い」においては《減っている》は49.6%と約5割にのぼり、「良い」でも40.7%を示している。

図 3-4-9 地域の変化（居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別）

(ウ) ひったくりや自転車の盗難

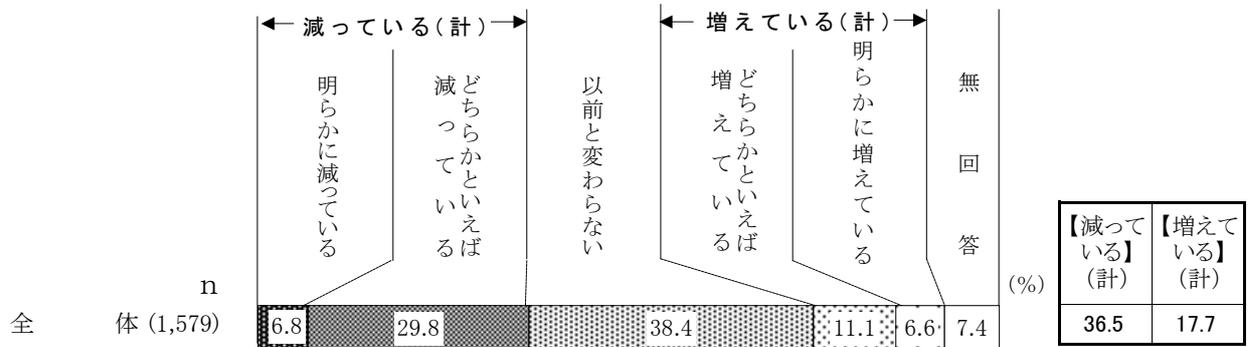


「(エ)ペットの糞」を地域ブロック別でみると図3-4-10のとおりである。

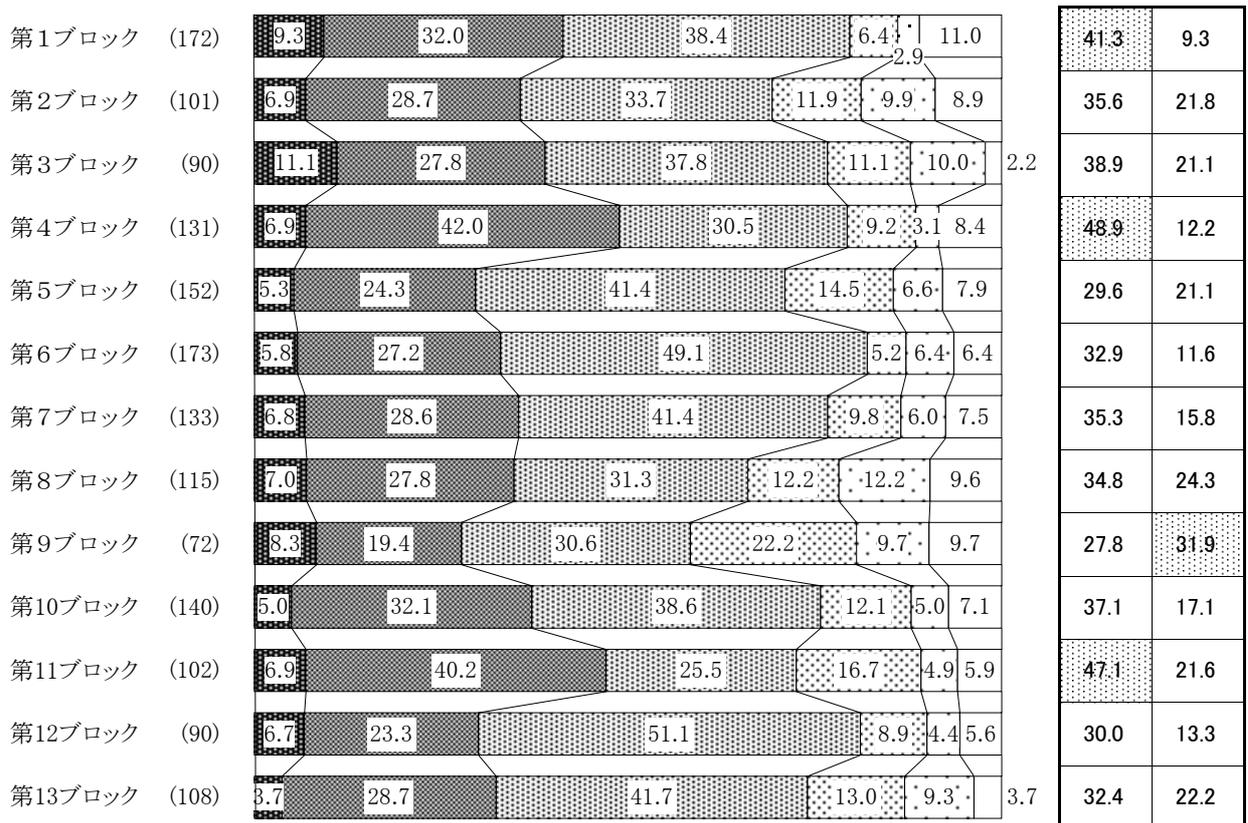
「(エ) ペットの糞」では、第4ブロックで《減っている》が48.9%と最も高く、第1、第11ブロックでもそれぞれ41.3%、47.1%と4割を超えて、高くなっている。一方、《増えている》では第9ブロックで31.9%と、唯一3割を超え最も高くなっている。

図 3 - 4 - 1 0 地 域 の 変 化 （ 地 域 ブ ロ ッ ク 別 ）

(エ)ペットの糞



〈 地域ブロック別 〉



ブロック区分

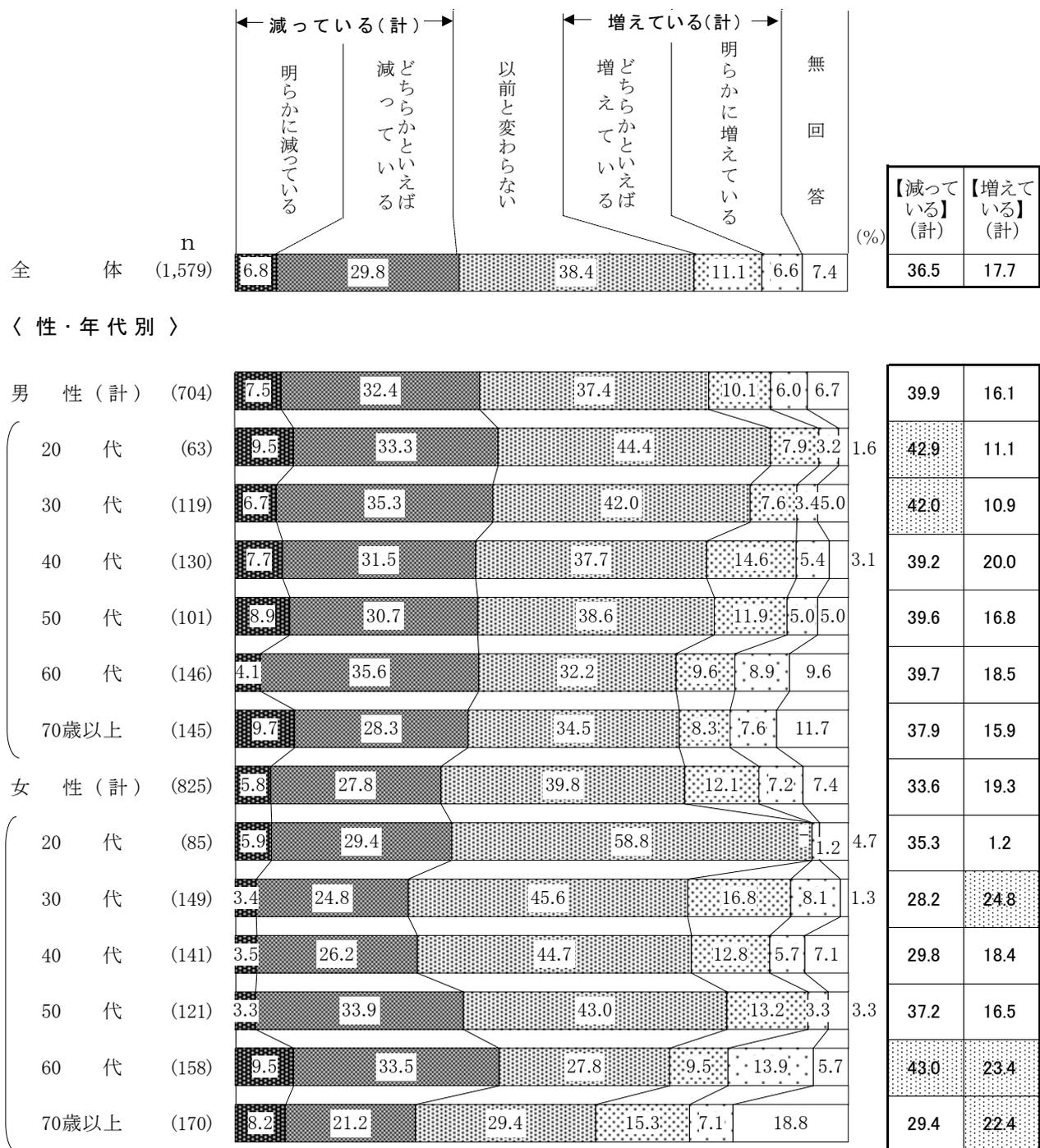


「(エ)ペットの糞」を性・年代別で見ると図3-4-11のとおりである。

「(エ)ペットの糞」においては、男性20代、男性30代、女性60代で《減っている》の割合が4割を超えており他の世代より高くなっている。一方、《増えている》では女性30代、60代以上でやや高くなっている。

図 3 - 4 - 1 1 地 域 の 変 化 (性 ・ 年 代 別)

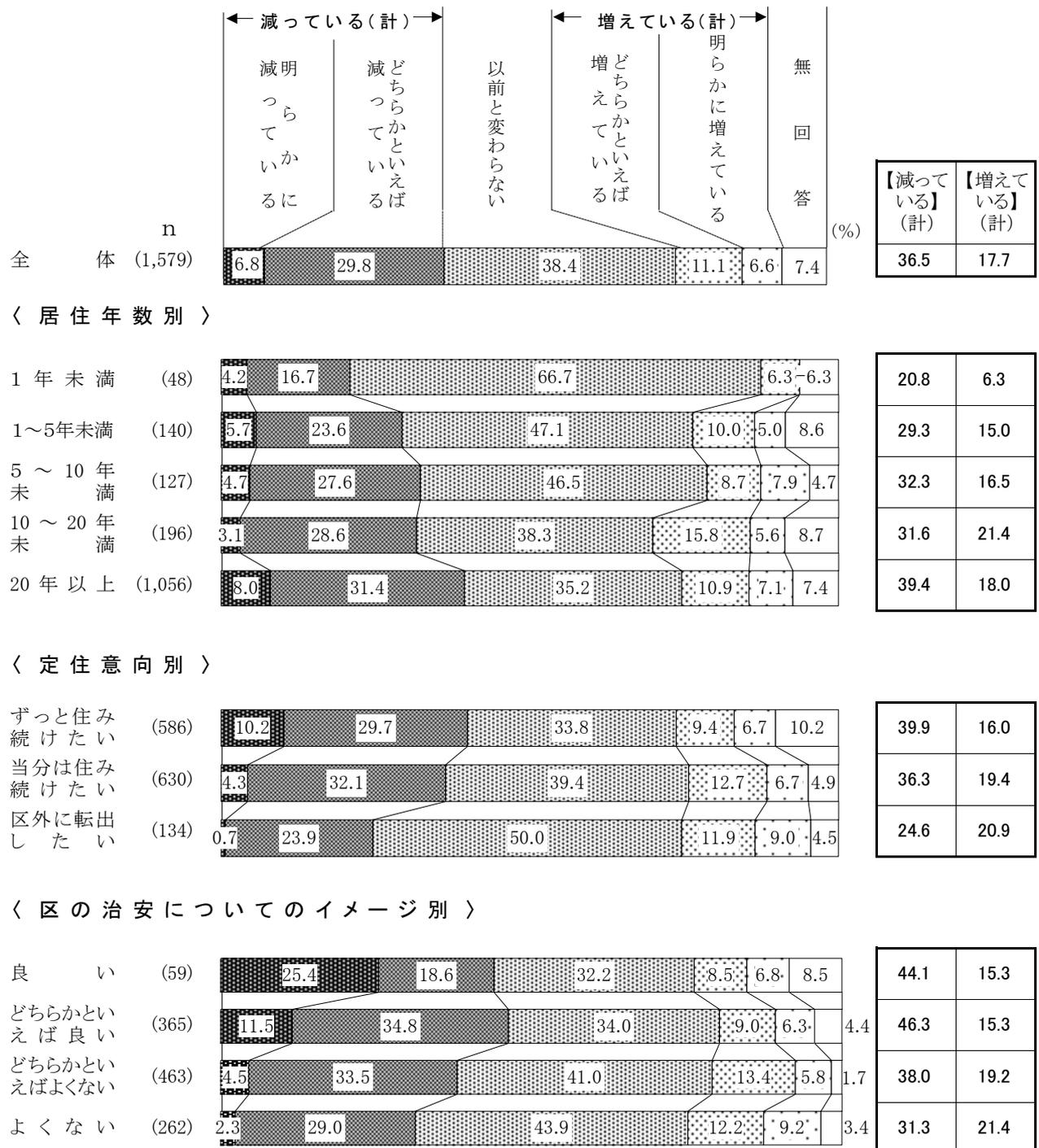
(エ)ペットの糞



「(エ) ペットの糞」を居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別でみると図3-4-12のとおりである。居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ、《減っている》と答える割合が上昇する傾向があり、「20年以上」では《減っている》の割合が39.4%を示し、最も高い。また、定住意向別では、定住意向が強くなるにつれ、《減っている》と認識する割合も上昇し、「ずっと住み続けたい」では《減っている》の割合が39.9%で最も高くなっている。さらに区のイメージ別においては、区の治安についてのイメージがよいほど、《減っている》と認識する割合も上昇する傾向があり、「どちらかといえば良い」では《減っている》は46.3%にのぼり、「良い」でも44.1%を示している。

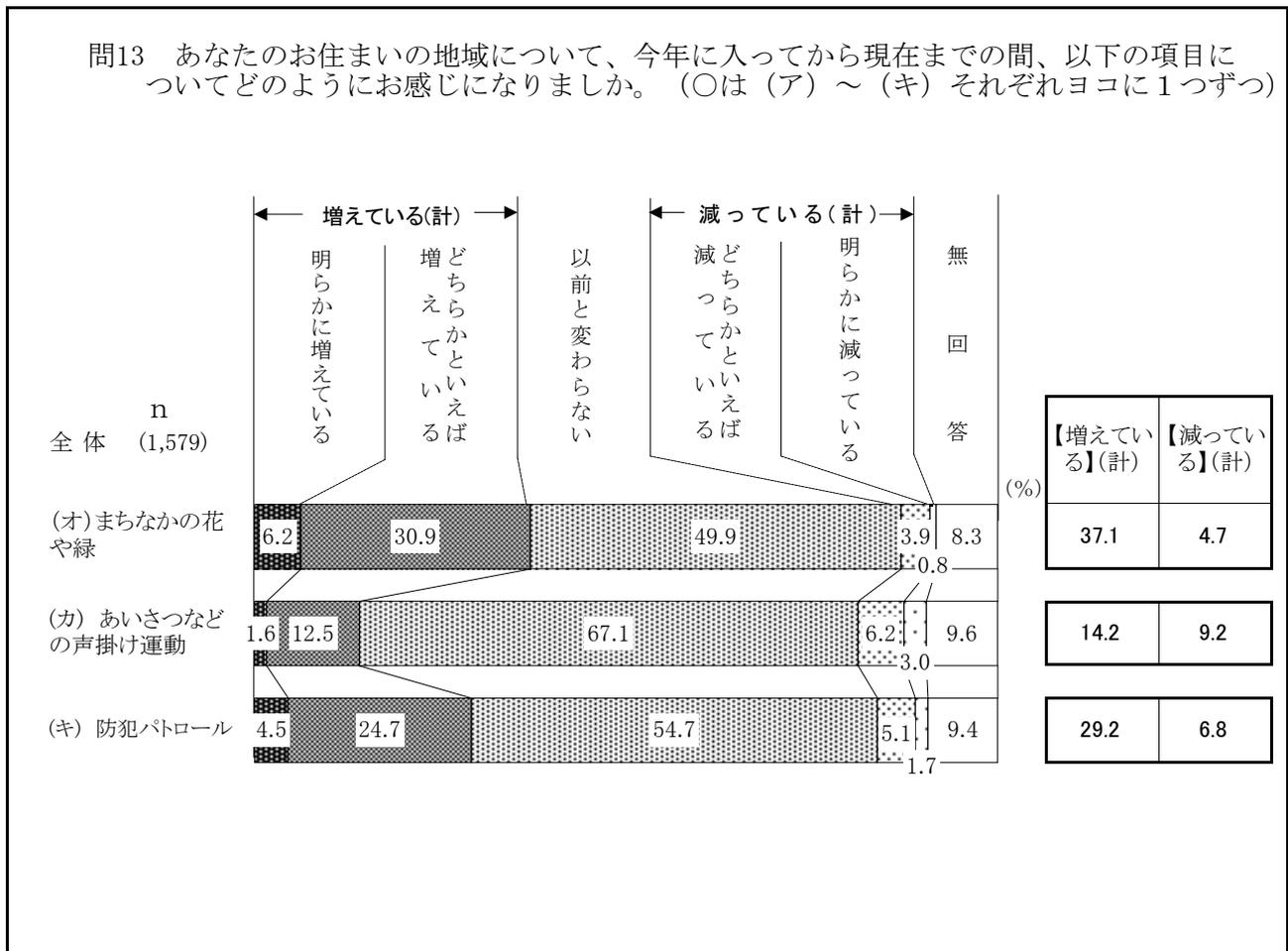
図 3-4-12 地域の変化（居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別）

(エ) ペットの糞



(3)－2 地域の変化についての評価

■ 3割前後の区民がまちなかの花や緑や防犯パトロールが増えていると感じている



お住まいの地域における変化については、「明らかに増えている」と「どちらかといえば増えている」をあわせた《増えている》が「(オ)まちなかの花や緑」で37.1%を示し、「(キ)防犯パトロール」で29.2%を示している。また、「(カ)あいさつなどの声掛け運動」においては、「以前と変わらない」が67.1%を占めている。「(オ)まちなかの花や緑」を地域ブロック別でみると図3-4-13のとおりである。

「(オ)まちなかの花や緑」では、第11ブロックで《増えている》が52.9%と、特に高くなっている。また、同項目を性・年代別でみると図3-4-14のとおりである。

全体的に女性の方が男性よりも《増えている》とする割合が高く、女性の50代、60代では45%前後にのぼっており、他の年代よりも高い。

また、同項目を居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別でみると図3-4-15のとおりである。居住年数別では、《増えている》が「5～10年未満」で38.6%、「20年以上」が38.3%と高い。また、定住意向別では、定住意向が強くなるにつれ、《増えている》と認識する割合も上昇し、「ずっと住み続けたい」では《増えている》の割合が43.0%で最も高くなっている。さらに区のイメージ別においては、区の治安について「どちらかといえば良い」で《増えている》の割合が48.8%と高くなっている。

図 3-4-13 地域の変化（地域ブロック別）

(オ)まちなかの花や緑

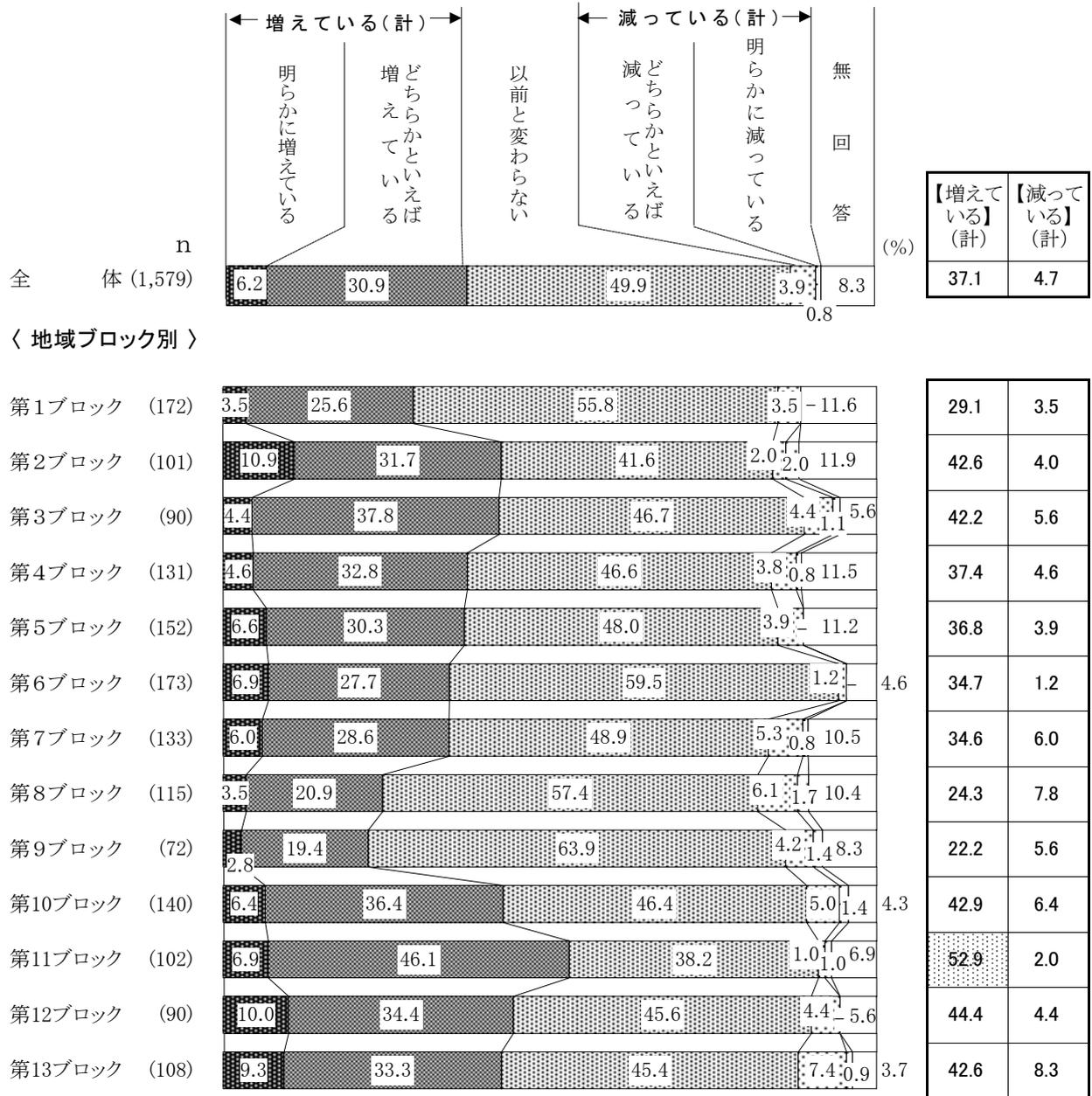


図 3 - 4 - 1 4 地 域 の 変 化 (性 ・ 年 代 別)

(オ) まちなかの花や緑

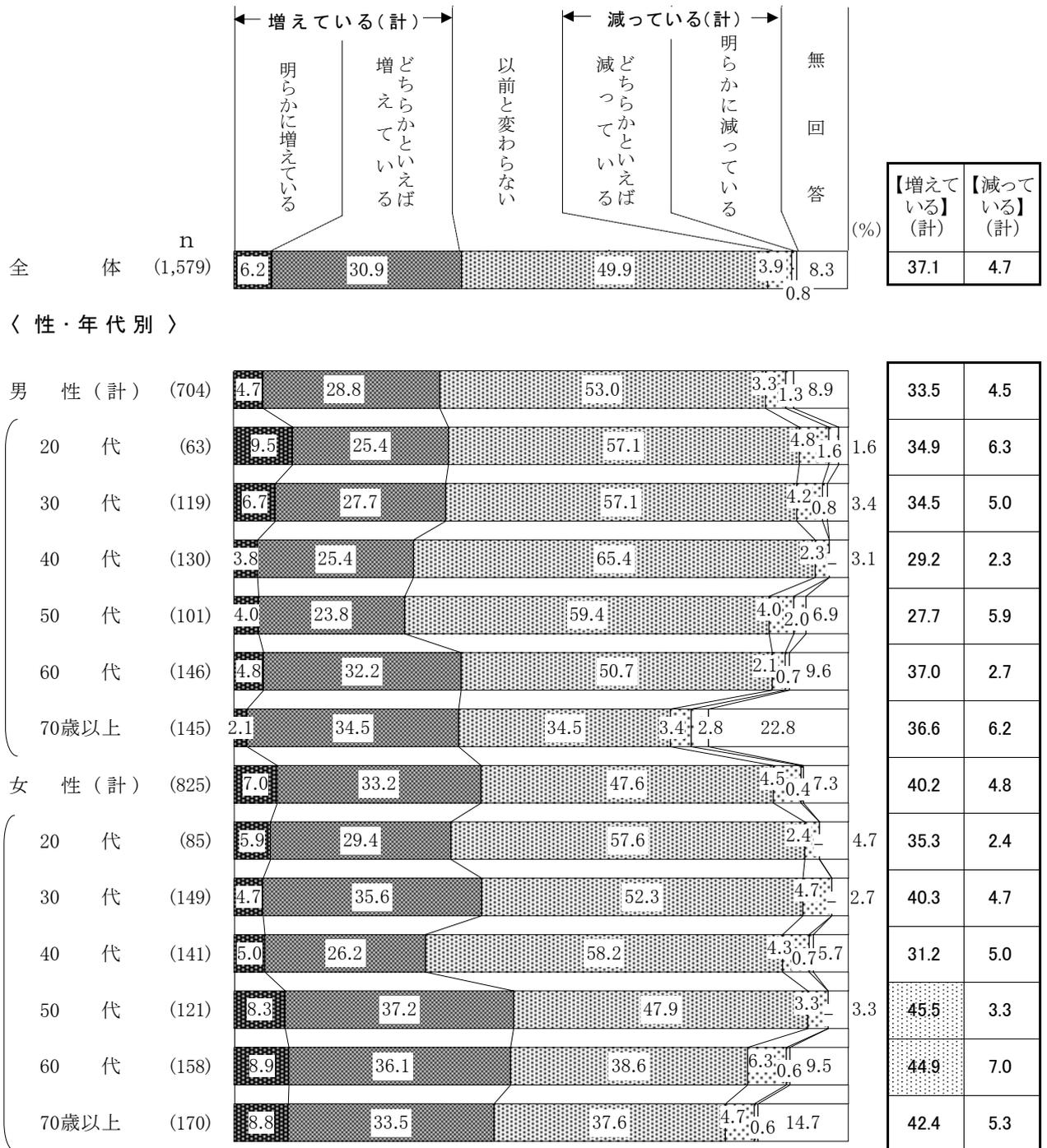
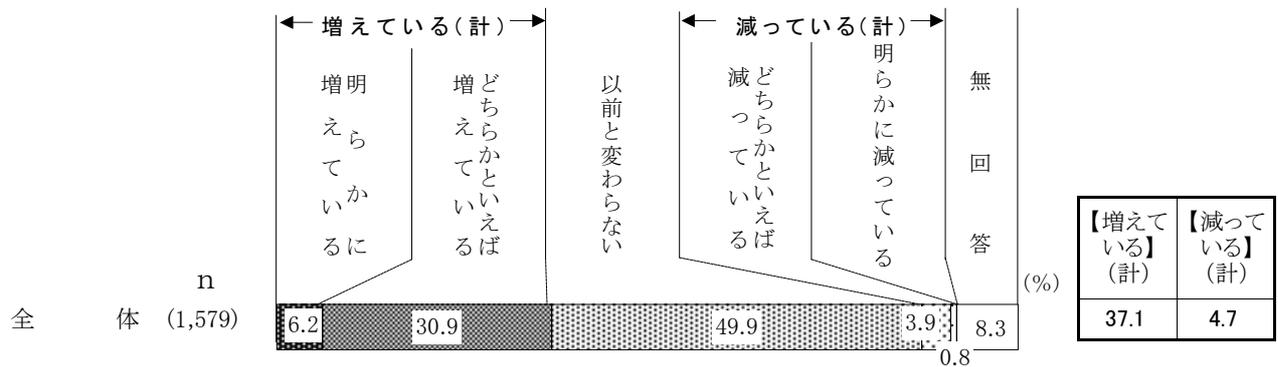


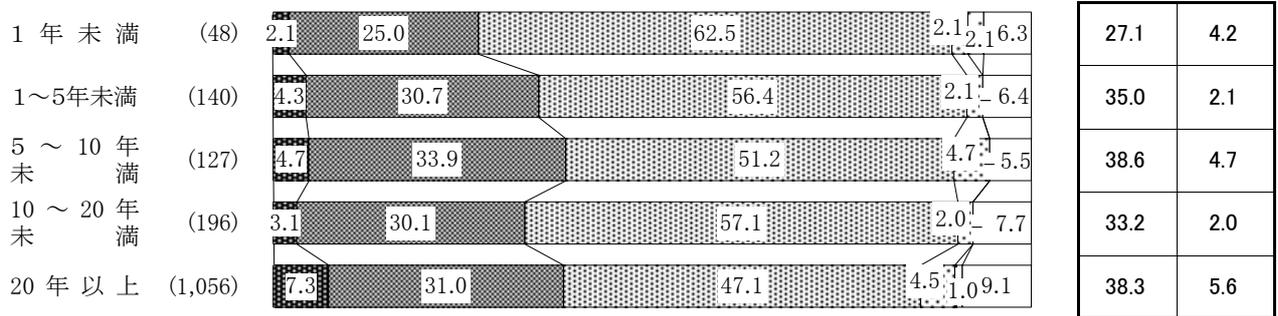
図 3-4-15 地域の変化（居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別）

(オ)まちなかの花や緑

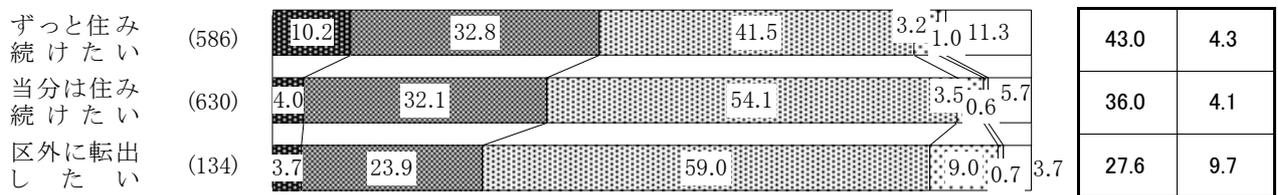


全体 (1,579)

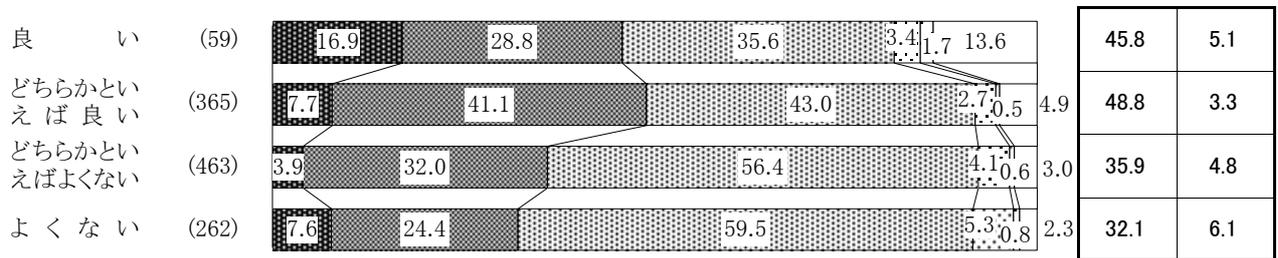
〈居住年数別〉



〈定住意向別〉



(区の治安についてのイメージ別)

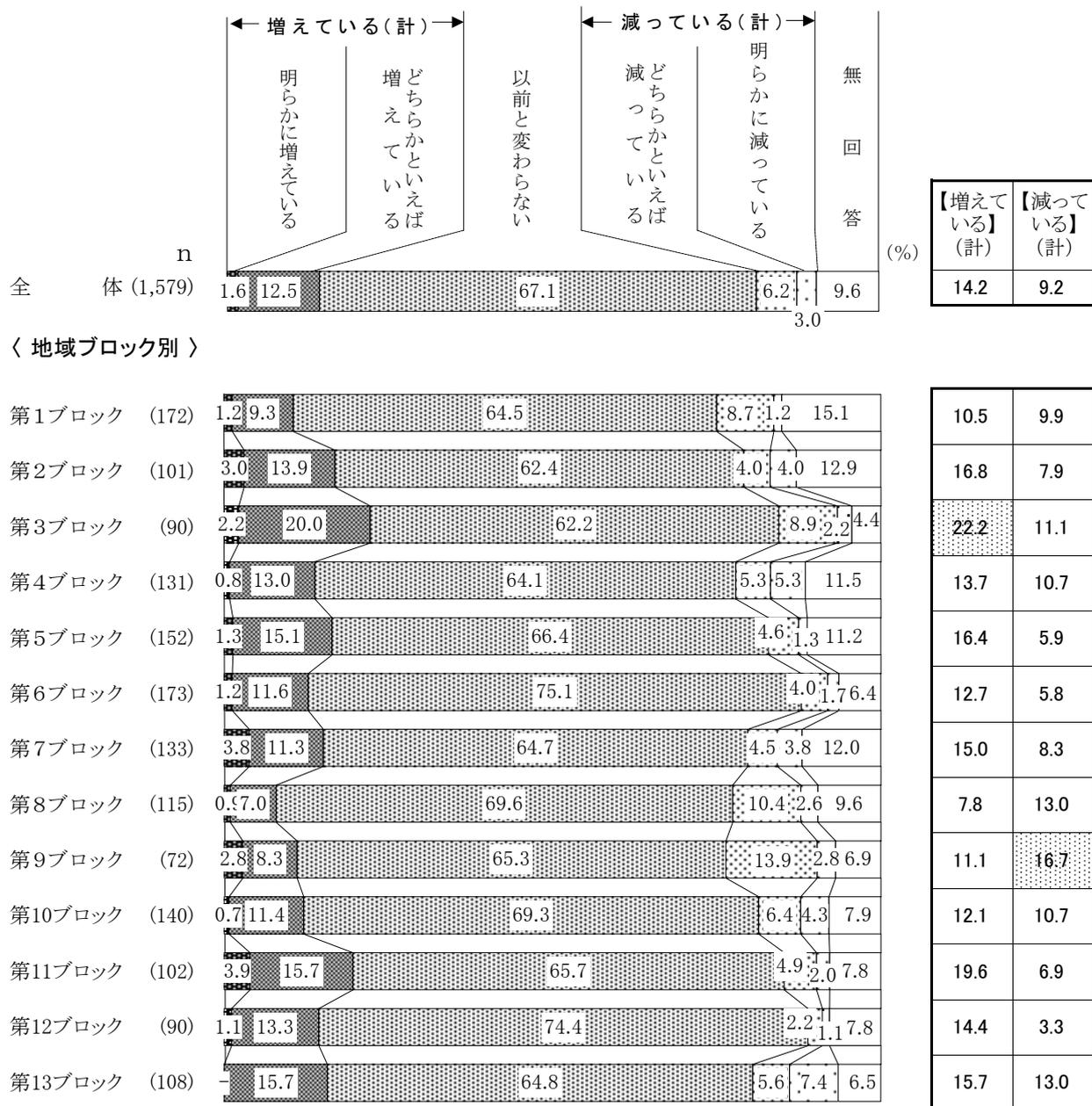


「(カ)あいさつなどの声掛け運動」を地域ブロック別で見ると図3-4-16のとおりである。

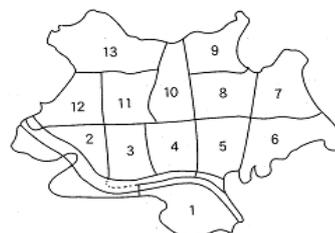
「(カ)あいさつなどの声掛け運動」では、第3ブロックで《増えている》が22.2%と最も高くなっている。一方、《減っている》は第9ブロックが16.7%と最も高い。

図 3 - 4 - 1 6 地 域 の 変 化 （ 地 域 ブ ロ ッ ク 別 ）

(カ)あいさつなどの声掛け運動



ブロック区分

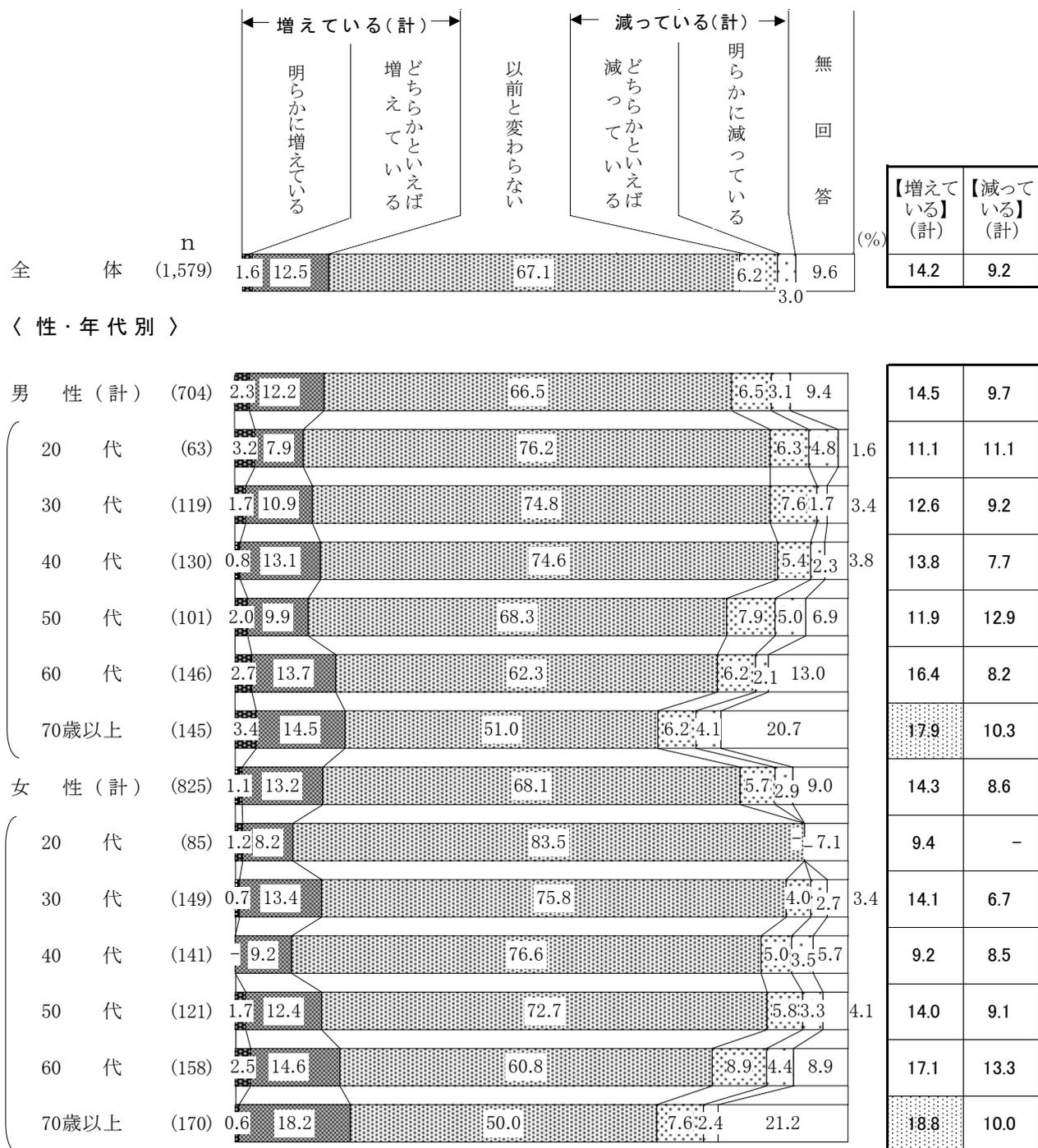


「(カ)あいさつなどの声掛け運動」を性・年代別で見ると図3-4-17のとおりである。

「(カ)あいさつなどの声掛け運動」においては、「増えている」の割合が年代とともに、やや上昇する傾向があり、男女とも70歳以上で最も高くなっている。

図 3 - 4 - 1 7 地 域 の 変 化 (性 ・ 年 代 別)

(カ)あいさつなどの声掛け運動

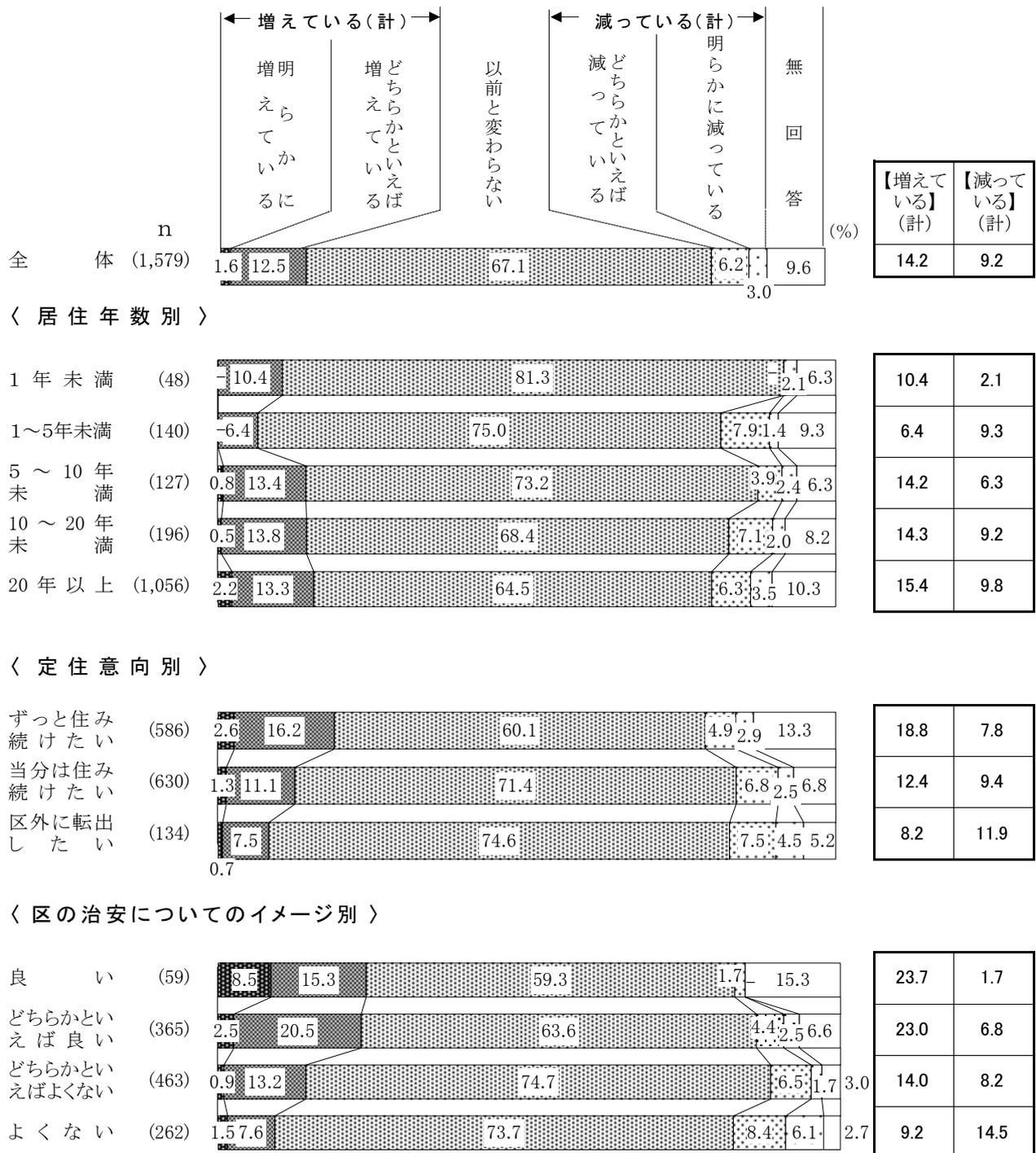


「(カ)あいさつなどの声掛け運動」を居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別でみると図3-4-18のとおりである。居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ、「増えている」と認識する割合もやや上昇する傾向があり、「20年以上」では15.4%と最も高い。定住意向別では、定住意向が強くなるにつれ、「増えている」と認識する割合も上昇し、「ずっと住み続けたい」では「増えている」の割合が18.8%と最も高い。

さらに区の治安についてのイメージ別においては、イメージがよいほど「増えている」の割合も上昇する傾向があり、「良い」においては「増えている」は23.7%で最も高い。

図 3-4-18 地域の変化（居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別）

(カ)あいさつなどの声掛け運動

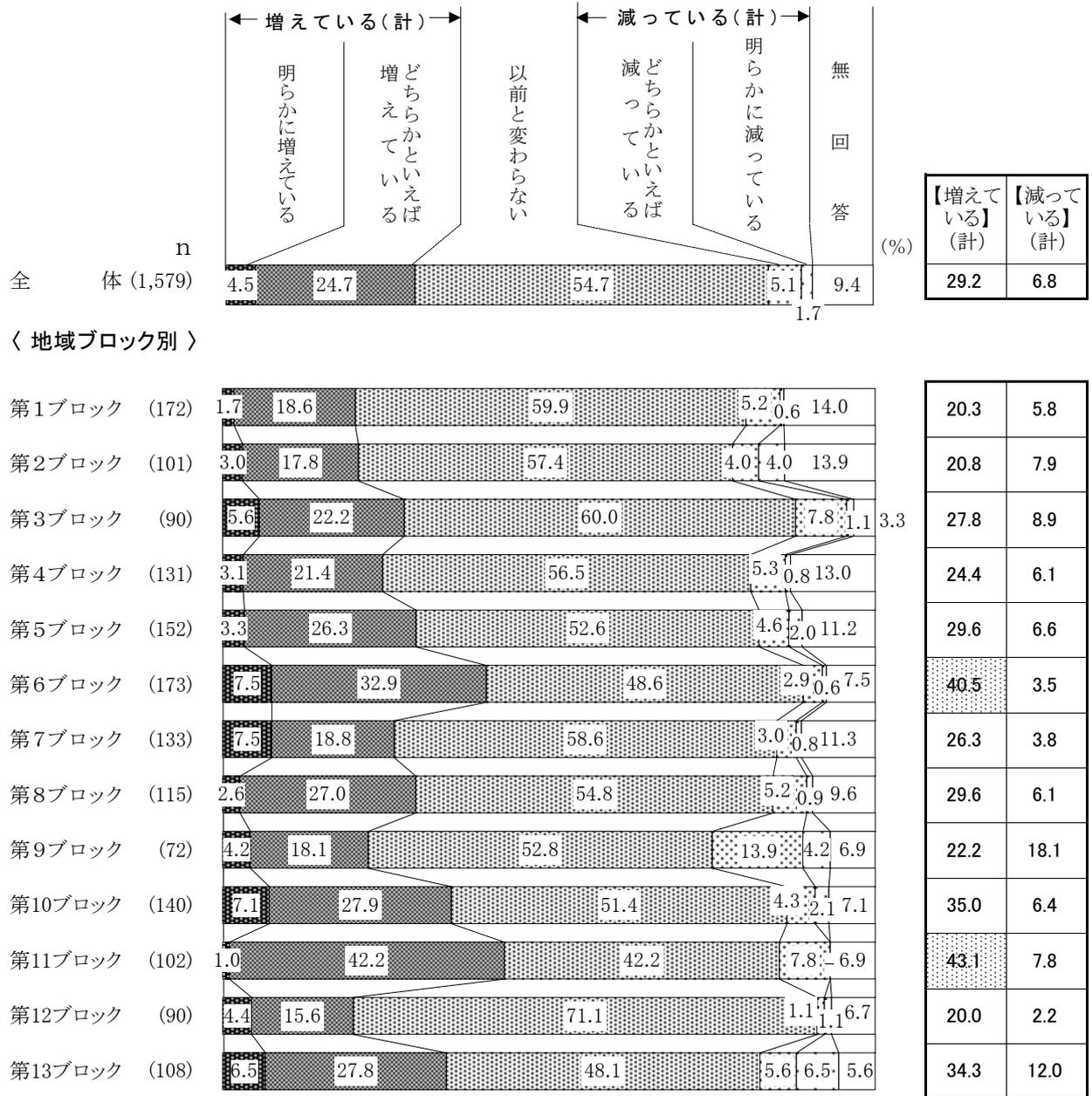


「(キ)防犯パトロール」を地域ブロック別で見ると図3-4-19のとおりである。

「(キ)防犯パトロール」は、第11ブロックで《増えている》が43.1%と最も高く、第6ブロックでも40.5%と4割を超えている。

図 3 - 4 - 1 9 地 域 の 変 化 （ 地 域 ブ ロ ッ ク 別 ）

(キ)防犯パトロール



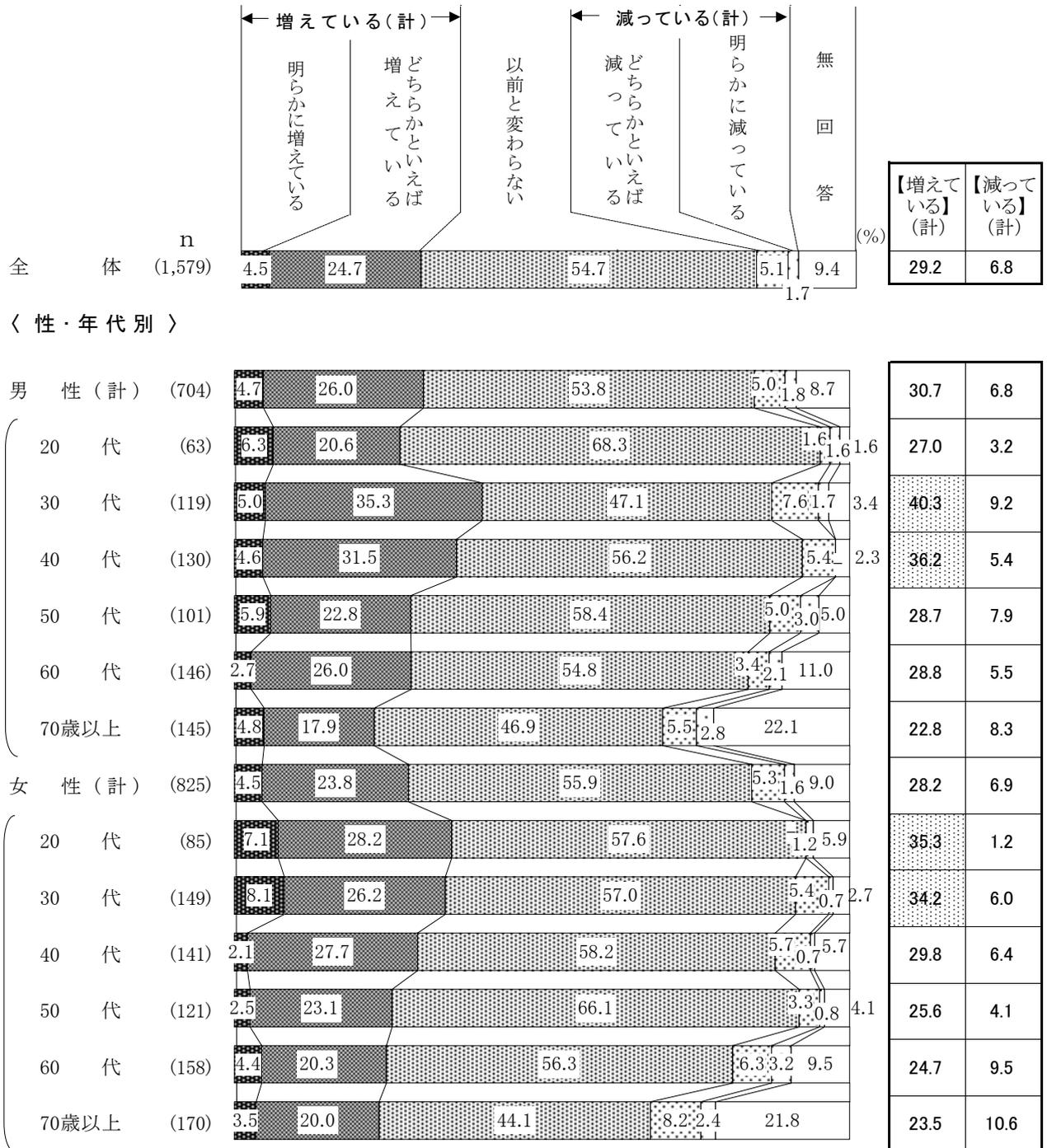
ブロック区分



「(キ)防犯パトロール」を性・年代別で見ると図3-4-20のとおりである。

「(キ)防犯パトロール」においては、男性30代で《増えている》の割合が40.3%と最も高く、男性40代、女性20代、女性30代でそれぞれ35%前後にのぼっている。

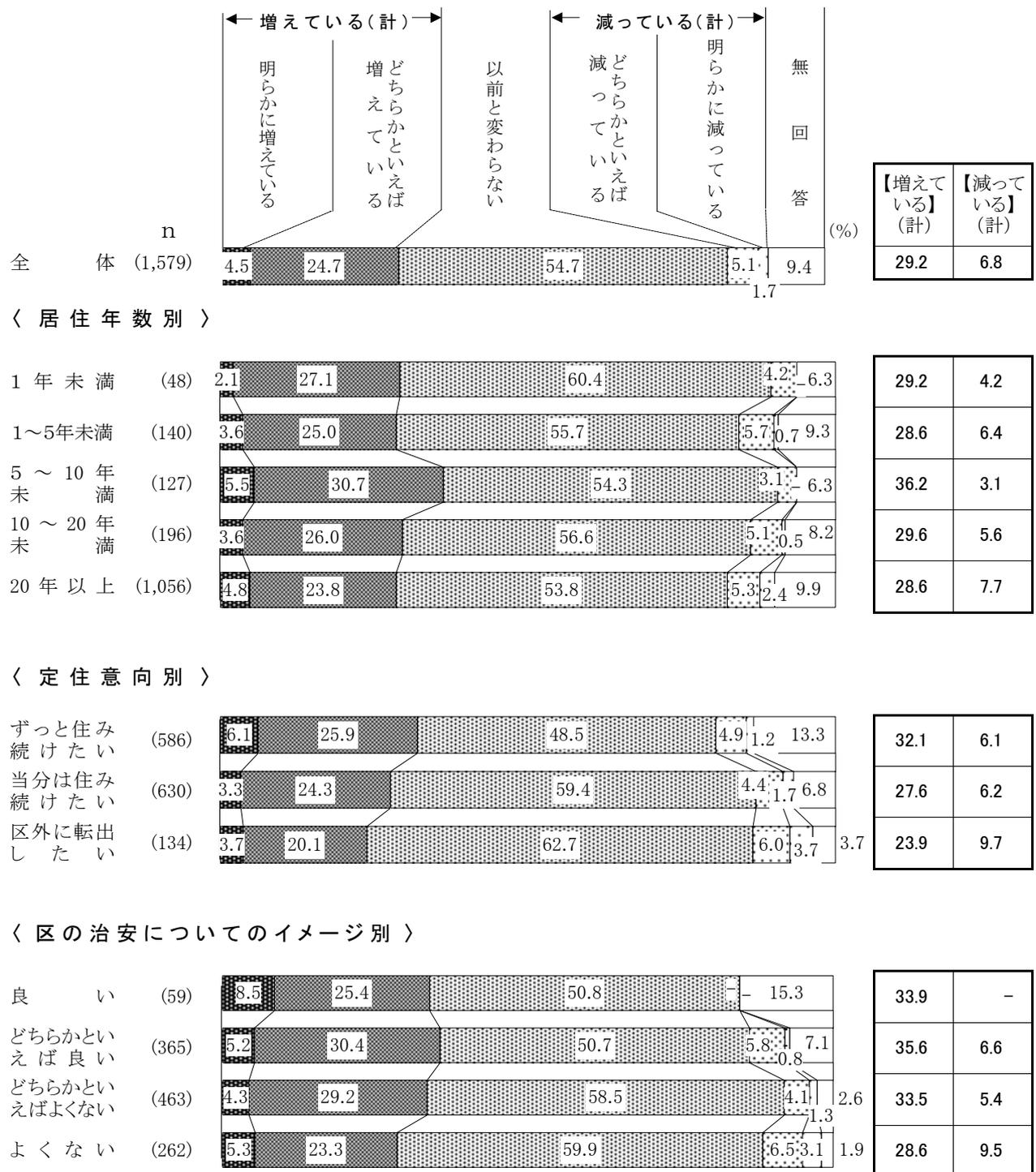
図 3 - 4 - 2 0 地 域 の 変 化 (性 ・ 年 代 別)
(キ)防犯パトロール



「(キ)防犯パトロール」を居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別でみると図3-4-21のとおりである。定住意向別では、定住意向が強くなるにつれ、《増えている》と認識する割合も上昇し、「ずっと住み続けたい」では《増えている》の割合が32.1%で最も高い。

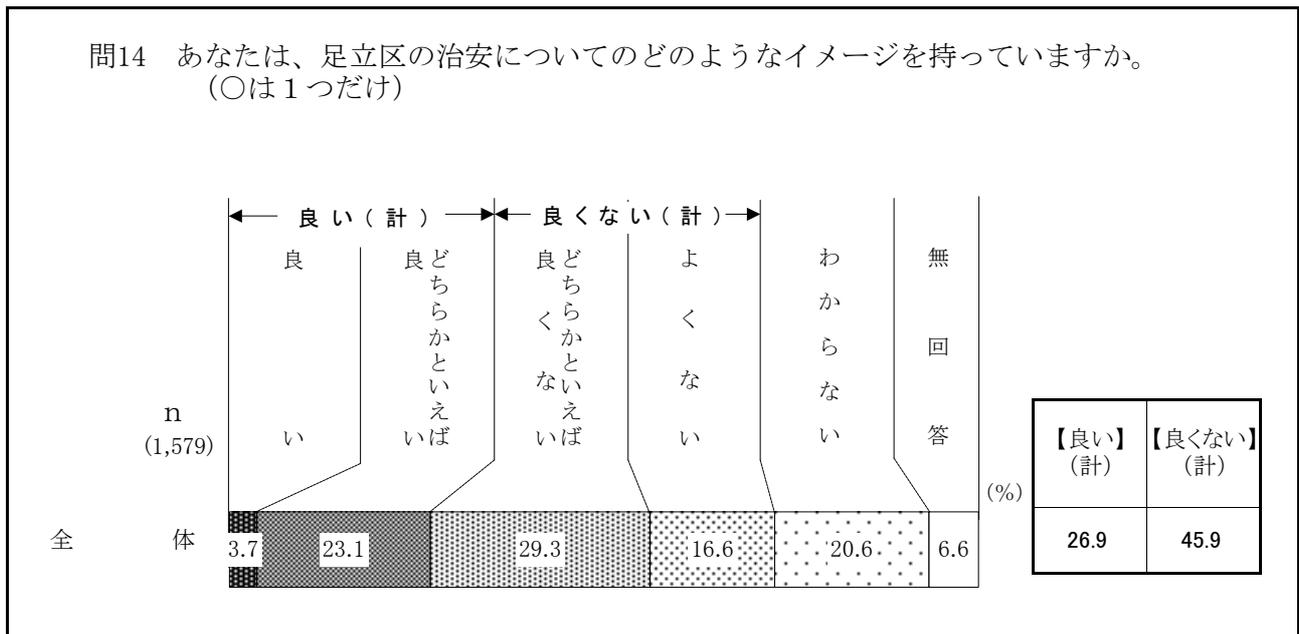
図 3-4-21 地域の変化（居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別）

(キ)防犯パトロール



(4) 足立区の治安についてのイメージ

■ 45.9%の区民が足立区の治安イメージを「良くない」としている



足立区の治安についてのイメージ(印象)は、「よくない」と「どちらかといえば良くない」をあわせた《良くない》が45.9%を示し、約5割弱の区民が足立区の治安のイメージをよくないと考えている。

地域ブロック別で見ると図3-5-1のとおりである。

《良い》では、第1ブロックが37.2%と最も高く、第3、第9ブロックにおいてもそれぞれ33.3%と次いで高くなっている。一方、《良くない》では、第7ブロックが最も高く54.1%にのぼり、第5、第6、第11、第13ブロックでもそれぞれ5割を超えている。

性・年代別で見ると図3-5-2のとおりである。

男女ともに、年代が上がるにつれ《良い》とする割合も上昇する傾向があり、全体的には女性の方が男性よりも《良くない》とする割合が高い。《良い》では男女ともに70歳以上で最も高く、それぞれ40%を超えている。《良くない》では女性の20代、30代、40代、男性30代でそれぞれ6割を超えており、主に女性の若・中年層で治安のイメージがよくないことがうかがえる。

居住年数、定住意向、犯罪被害経験別で見ると図3-5-3のとおりである。

居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ《良い》とする割合が上昇する傾向があり、「20年以上」では《良い》の割合が30.0%と最も高い。また、定住意向別では、移転意向が強くなるにつれ、《よくない》と答える割合も上昇し、「区外に転出したい」では76.1%を示し、8割弱が治安を「よくない」と考えていることがわかる。

犯罪被害経験別では、自分や身近な人における犯罪の被害経験が重くなるにつれ、治安のイメージも《よくない》とする割合が高くなっており、「重大な犯罪に巻き込まれたことがある」では《よくない》は64.6%を示している。

図 3-5-1 区の治安についてのイメージ（地域ブロック別）

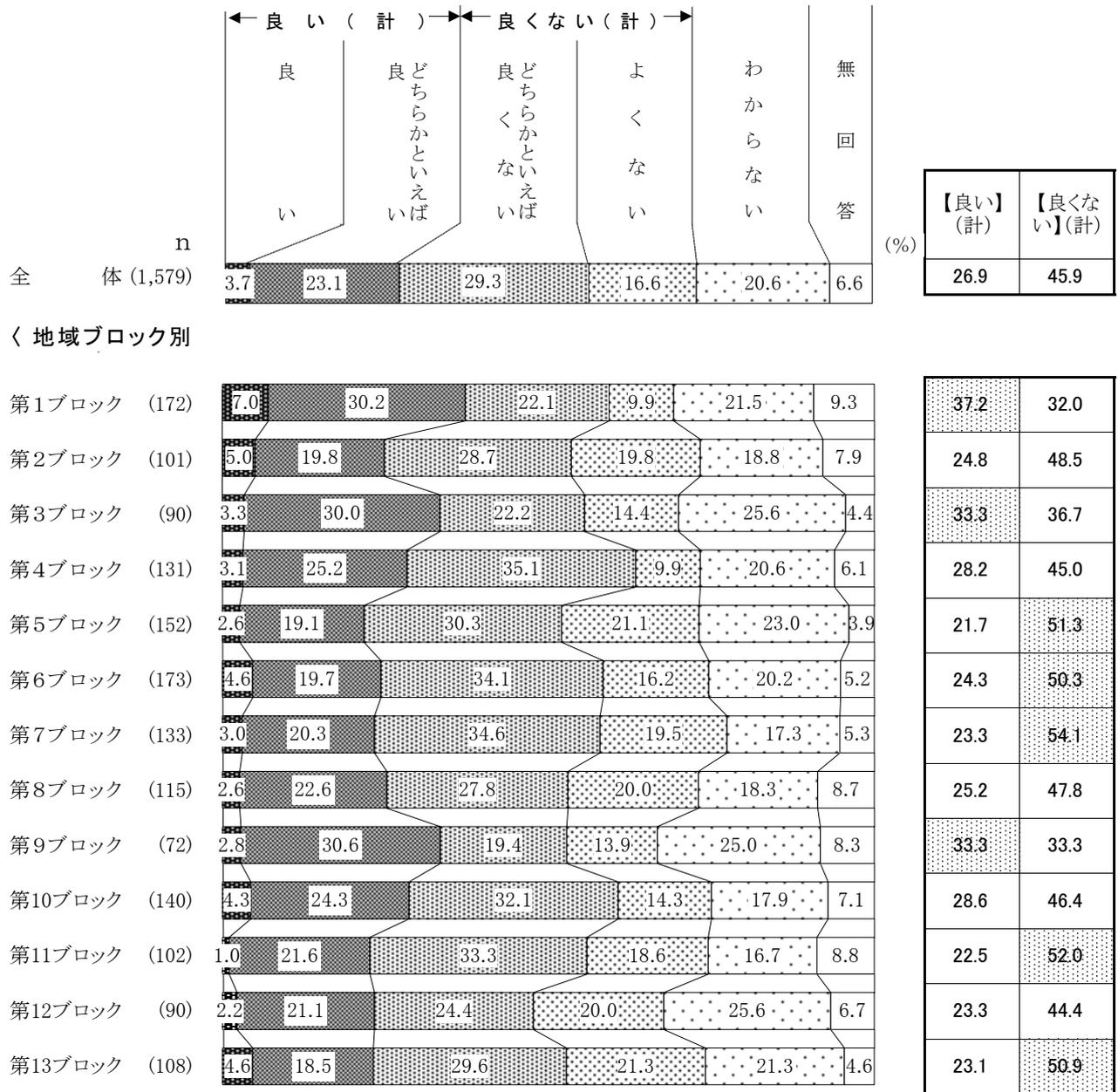


図 3-5-2 区の治安についてのイメージ（性・年代別）

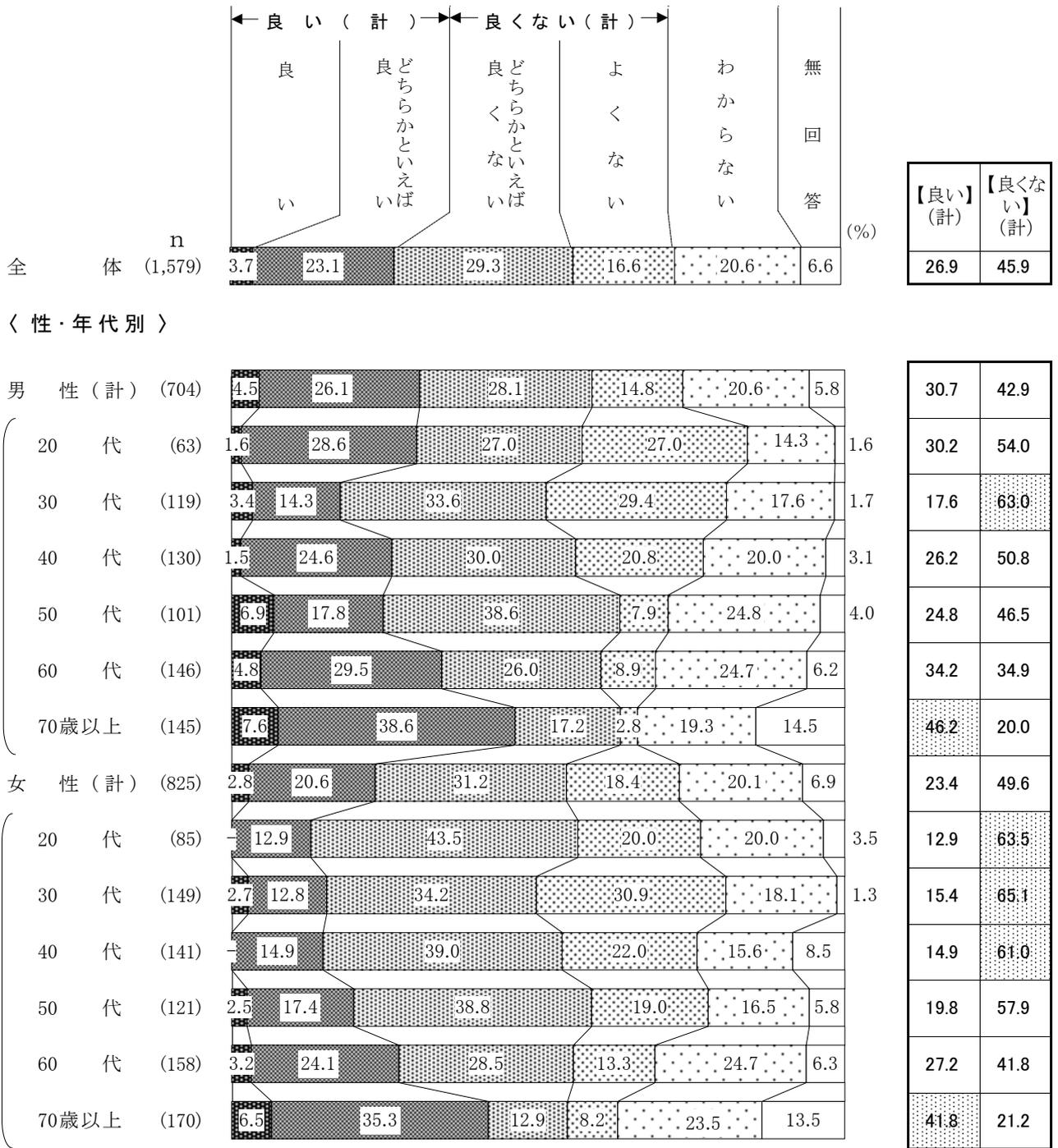
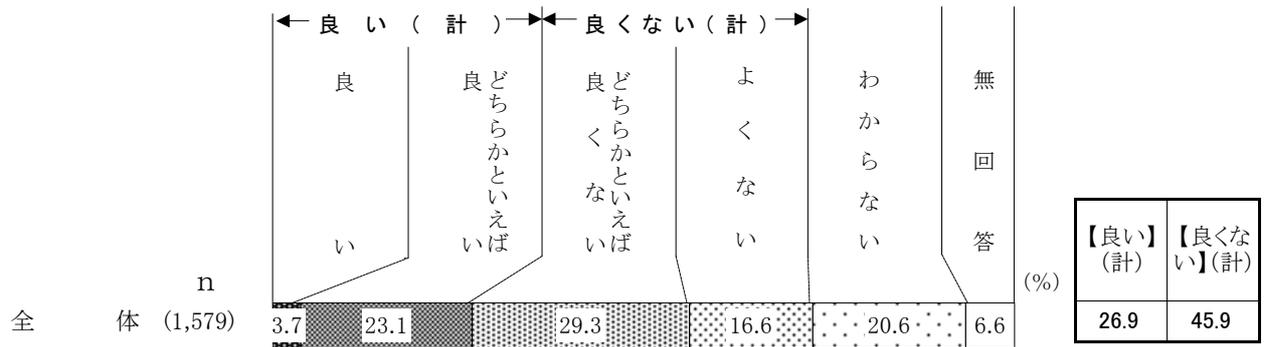
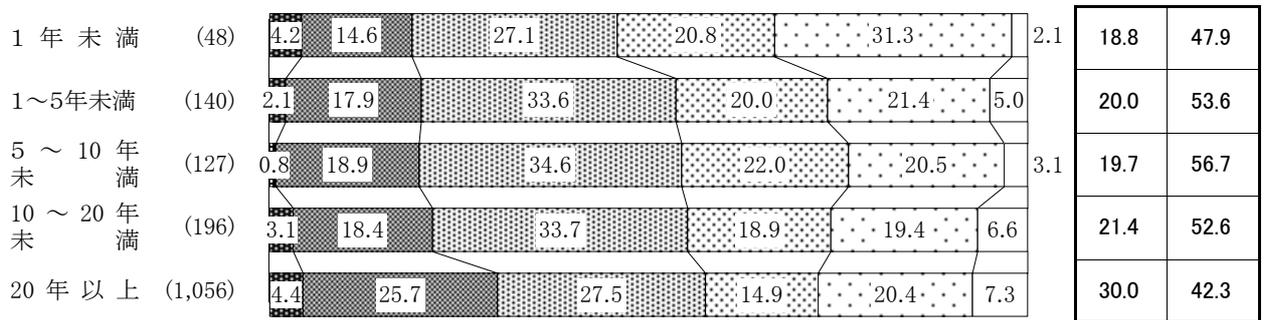


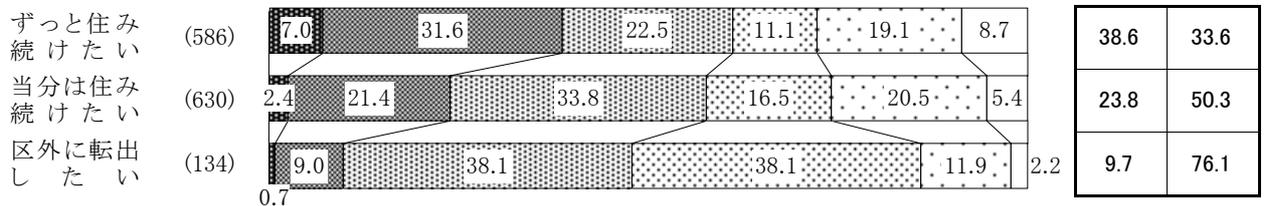
図 3-5-3 区の治安についてのイメージ(居住年数、定住意向、犯罪被害経験別)



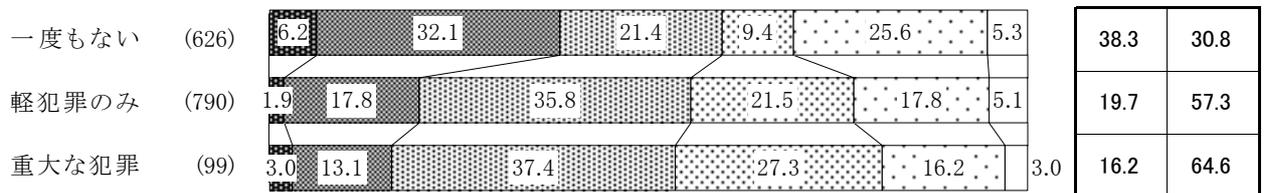
〈 居住年数別 〉



〈 定住意向別 〉



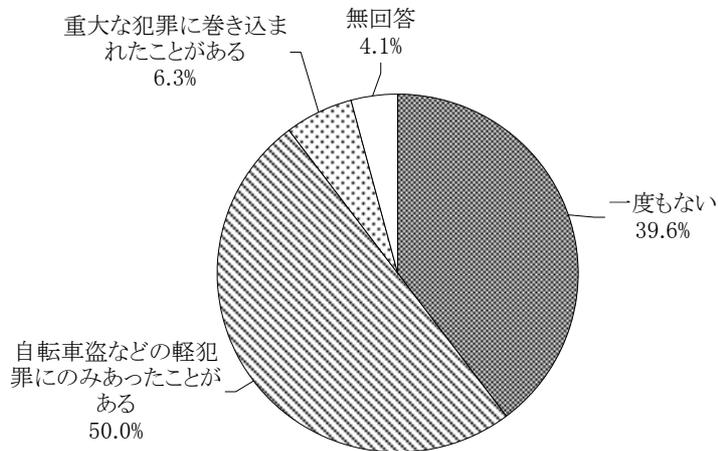
〈 犯罪被害経験別 〉



(5) 区内での犯罪被害経験

■ 「軽犯罪にのみあったことがある」区民が5割、「一度もない」も約4割

問15 あなたやあなたの身近な人で、足立区内で実際に犯罪に巻き込まれたり、危険な目にあったりしたことはありますか。(〇は1つだけ)



(n=1,579)

自分自身や身近な人で、足立区内で犯罪にあったことがあるかについては、「自転車盗などの軽犯罪にのみあったことがある」が50.0%と半数を占め、次いで「一度もない」(39.6%)、「重大な犯罪に巻き込まれたことがある」(6.3%)となっている。「自転車盗などの軽犯罪にのみあったことがある」と「重大な犯罪に巻き込まれたことがある」をあわせた、「ある」は56.3%となっている。

地域ブロック別で見ると図3-6-1のとおりである。

《ある》では、第13ブロックが64.8%で最も高くなっており、第3、第7、第8ブロックにおいてもそれぞれ6割以上を示している。

性・年代別で見ると図3-6-2のとおりである。

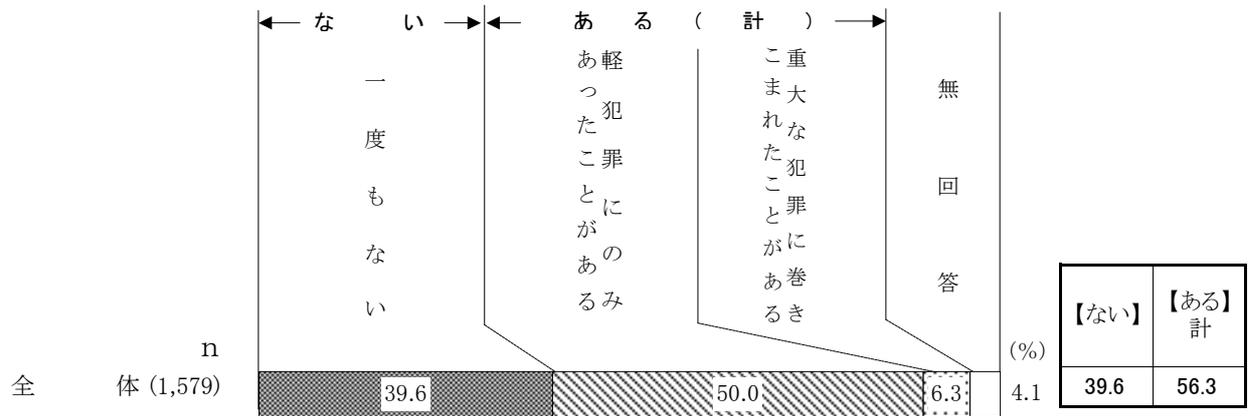
全体的に女性の方が男性よりも《ある》の割合が高く、女性50代では71.9%と7割を超えている。また女性30代、40代、男性40代、50代においても、《ある》はそれぞれ6割を超えている。また、男女とも年代が上がるにつれ、「一度もない」とする割合が上昇する傾向にあり、男女とも70歳以上が最も高く、それぞれ61.4%、50.0%と半数以上が犯罪被害の経験がないと回答している。

居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別で見ると図3-6-3のとおりである。

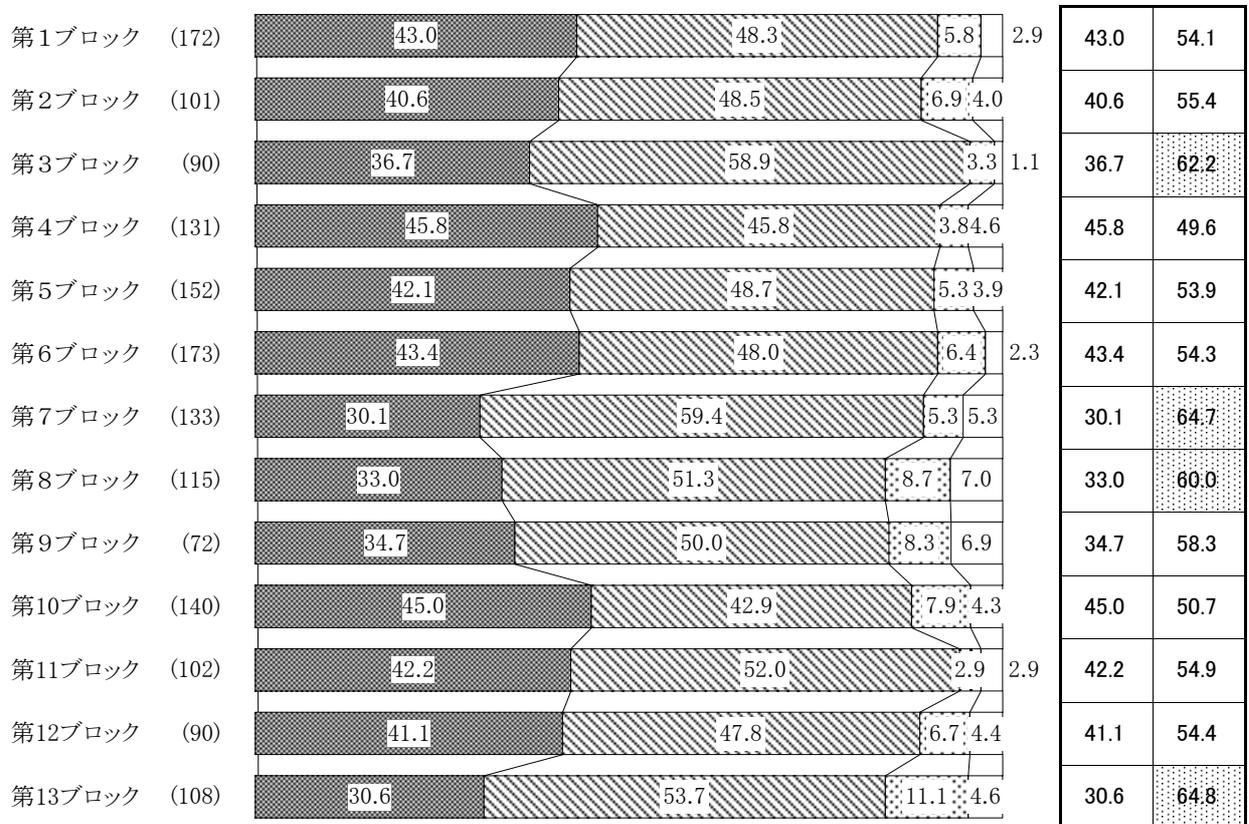
居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ、《ある》の割合が上昇しており、「20年以上」では《ある》の割合が61.5%と最も高い。また、定住意向別では、移転意向が強くなるにつれ、《ある》の割合も上昇し、「区外に転出したい」では67.2%が、なんらかの犯罪被害経験があると回答している。

区の治安についてのイメージ別では、区の治安に対するイメージが悪いほど、《ある》の割合が上昇しており、「よくない」では、犯罪被害経験が《ある》の割合が75.2%となっている。

図 3 - 6 - 1 区内での犯罪被害経験（地域ブロック別）



〈地域ブロック別〉



ブロック区分

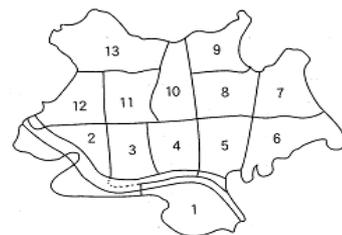
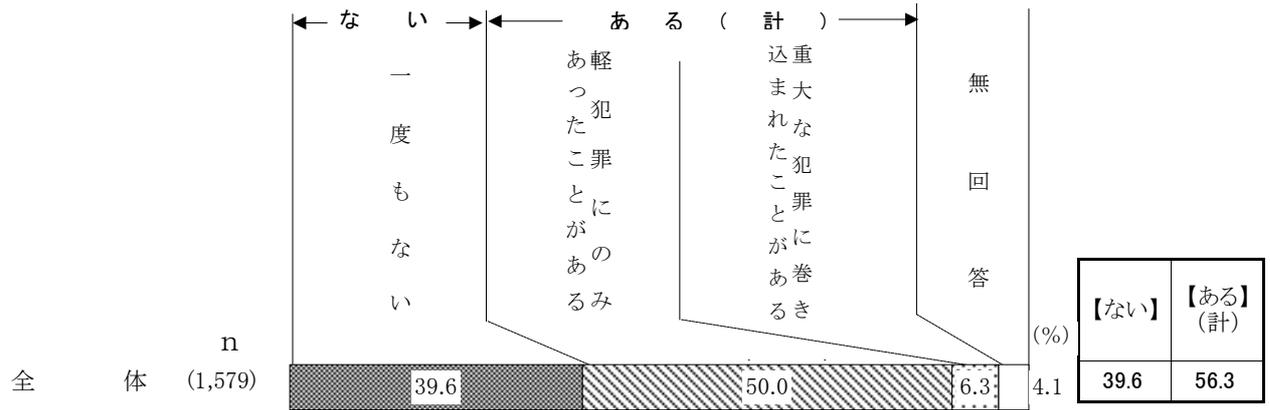


図 3 - 6 - 2 区内での犯罪被害経験（性・年代別）



〈性・年代別〉

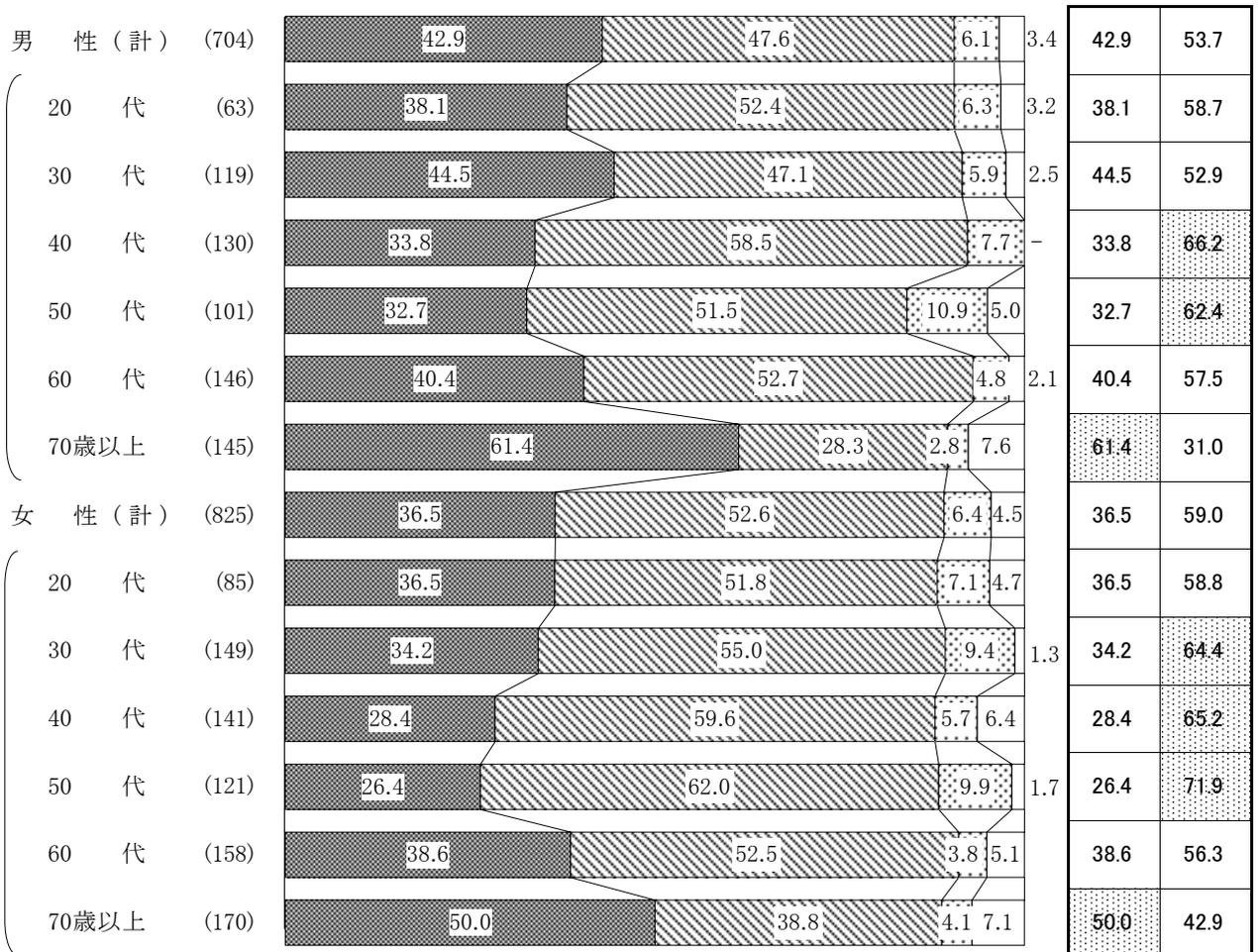
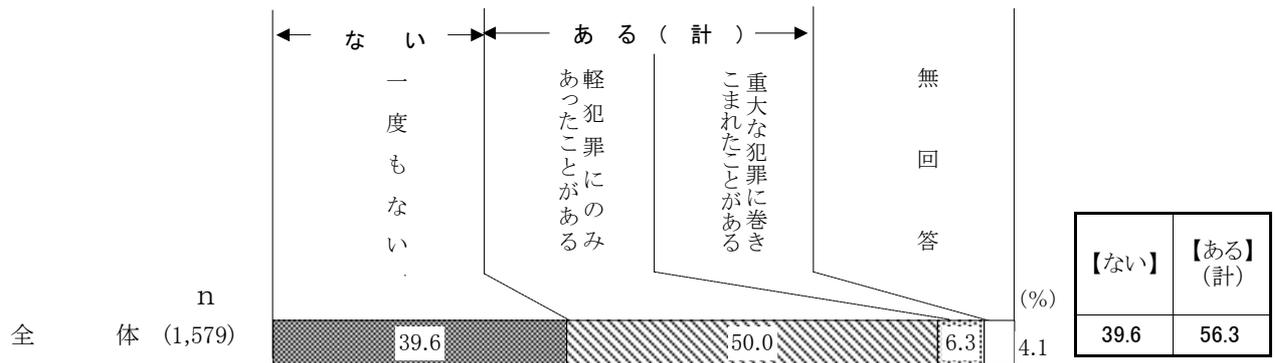
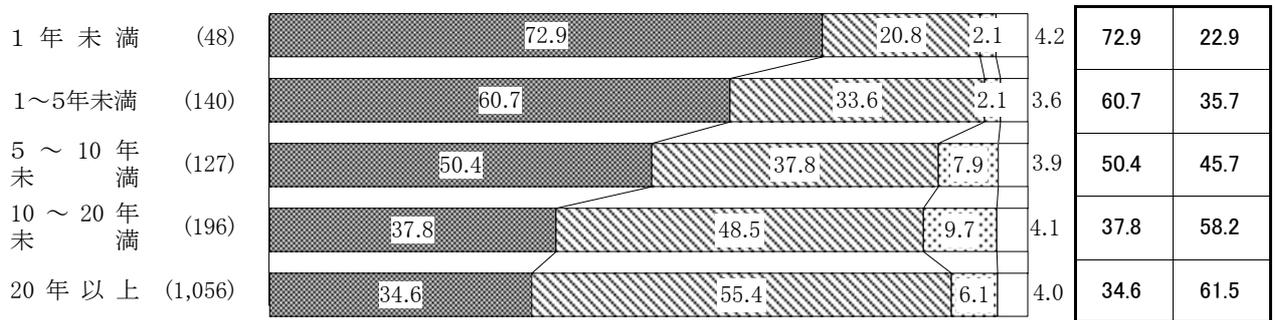


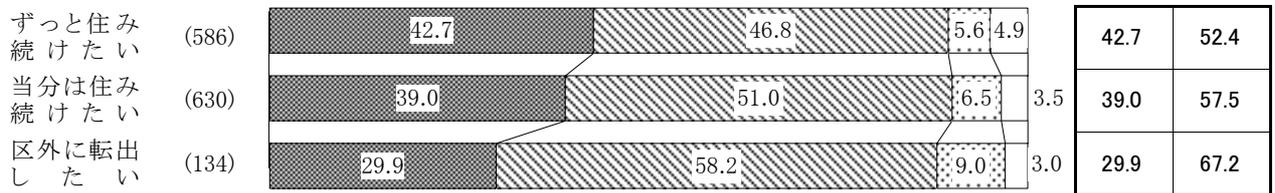
図 3-6-3 区内での犯罪被害経験（居住年数、定住意向、区の治安についてのイメージ別）



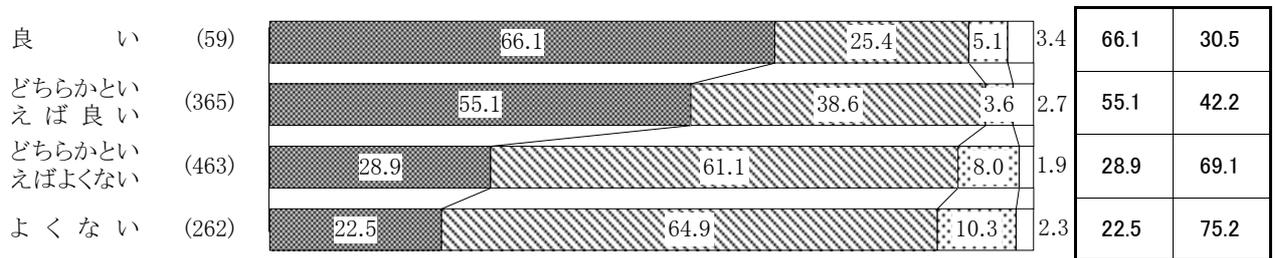
〈 居住年数別 〉



〈 定住意向別 〉



〈 区の治安についてのイメージ別 〉



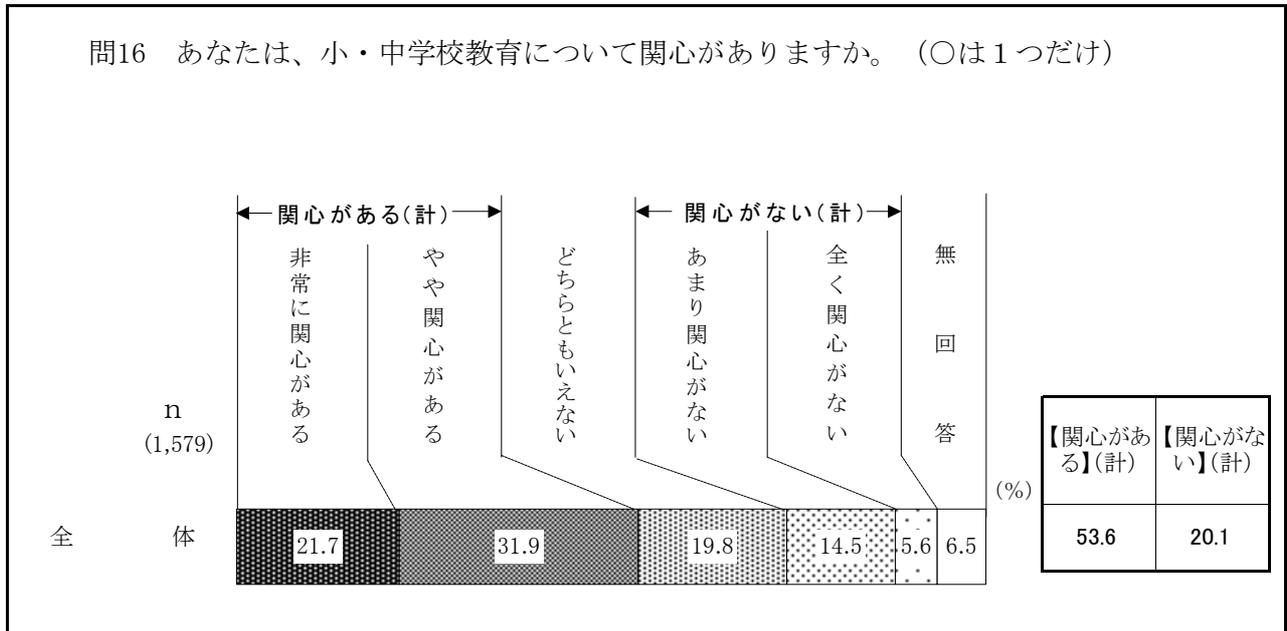
4 小・中学校教育

-
- (1) 小・中学校教育への関心
 - (2) 区の小・中学校教育へのイメージ
 - (3) 足立区の小・中学校教育で良くなってきたと思うこと
 - (4) 教育施策の認知度
-

4 小・中学校教育

(1) 小・中学校教育への関心

■ 約5割の区民が小・中学校教育に関心を持っている



小・中学校教育への関心度は、「非常に関心がある」(21.7%)と、「やや関心がある」(31.9%)をあわせた《関心がある》は53.6%を示し、半数以上の区民が小・中学校教育に関心を持っていることがうかがえる。

地域ブロック別でみると図4-1-1のとおりである。

《関心がある》では、第13ブロックの59.3%が最も高く、次いで第7ブロックの58.6%となっている。

性・年代別でみると図4-1-2のとおりである。

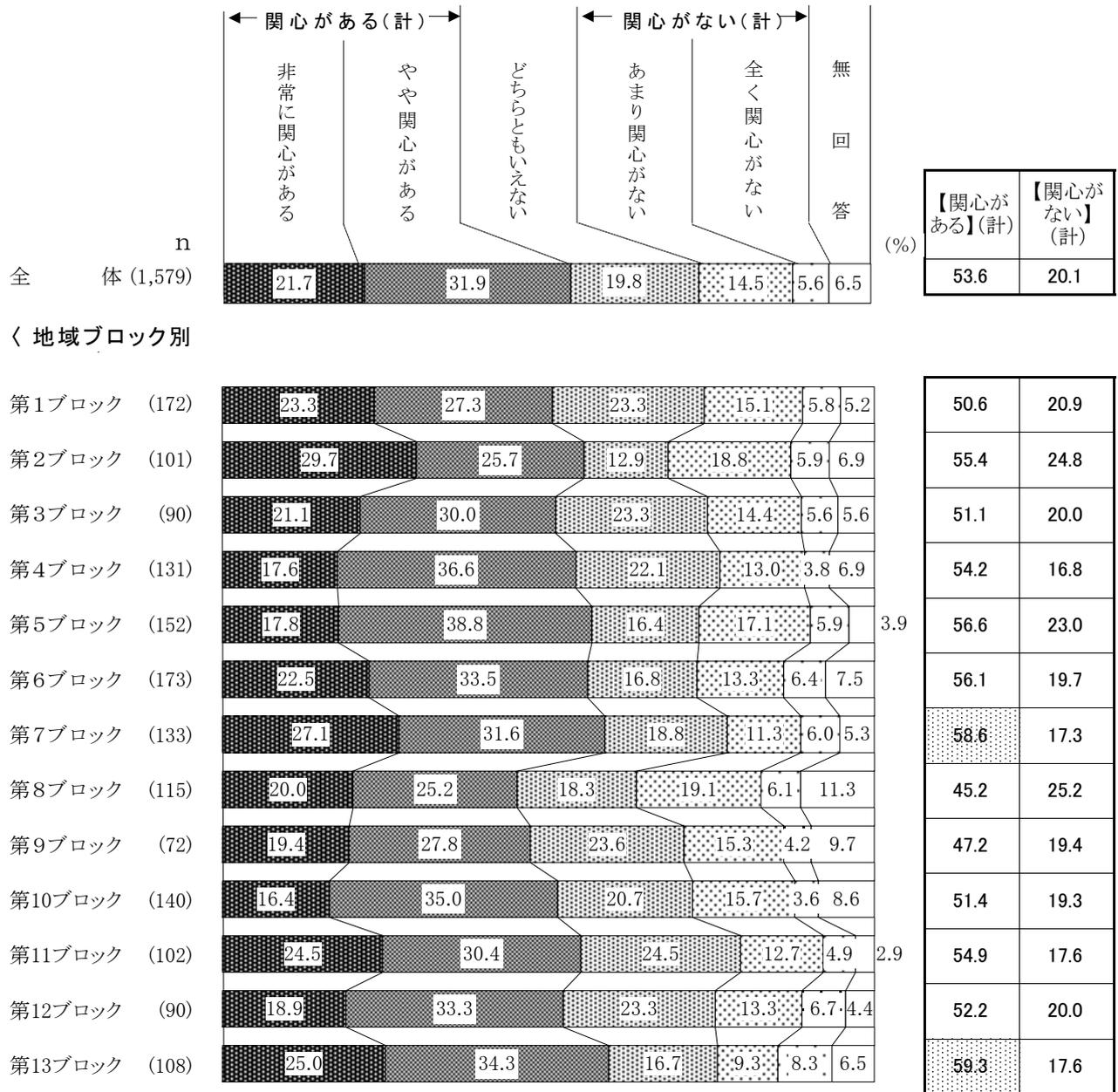
《関心がある》は、男性では40代(67.7%)、女性では30代(75.8%)、40代(64.5%)が60%以上を示し、他の世代よりも高くなっており、子育て世代における小・中学校教育への関心の高さがうかがえる。

ライフステージ、居住年数、就労・就学場所別でみると図4-1-3のとおりである。

ライフステージ別では、「家族成長前期」で《関心がある》の割合が90.7%と最も高く、「家族形成期」、「家族成長後期」においても約7割となっており、子育てに携わるライフステージにおいて高くなっている。

就労・就学場所別では、足立区内に就労や就学場所がある「足立区内」で、《関心がある》は60.6%と最も高い。

図 4-1-1 小・中学校教育への関心（地域ブロック別）



ブロック区分

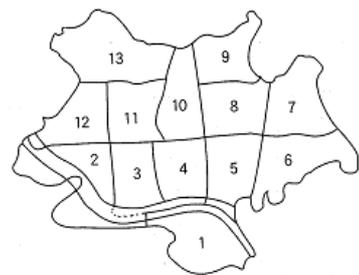


図 4-1-2 小・中学校教育への関心（性・年代別）

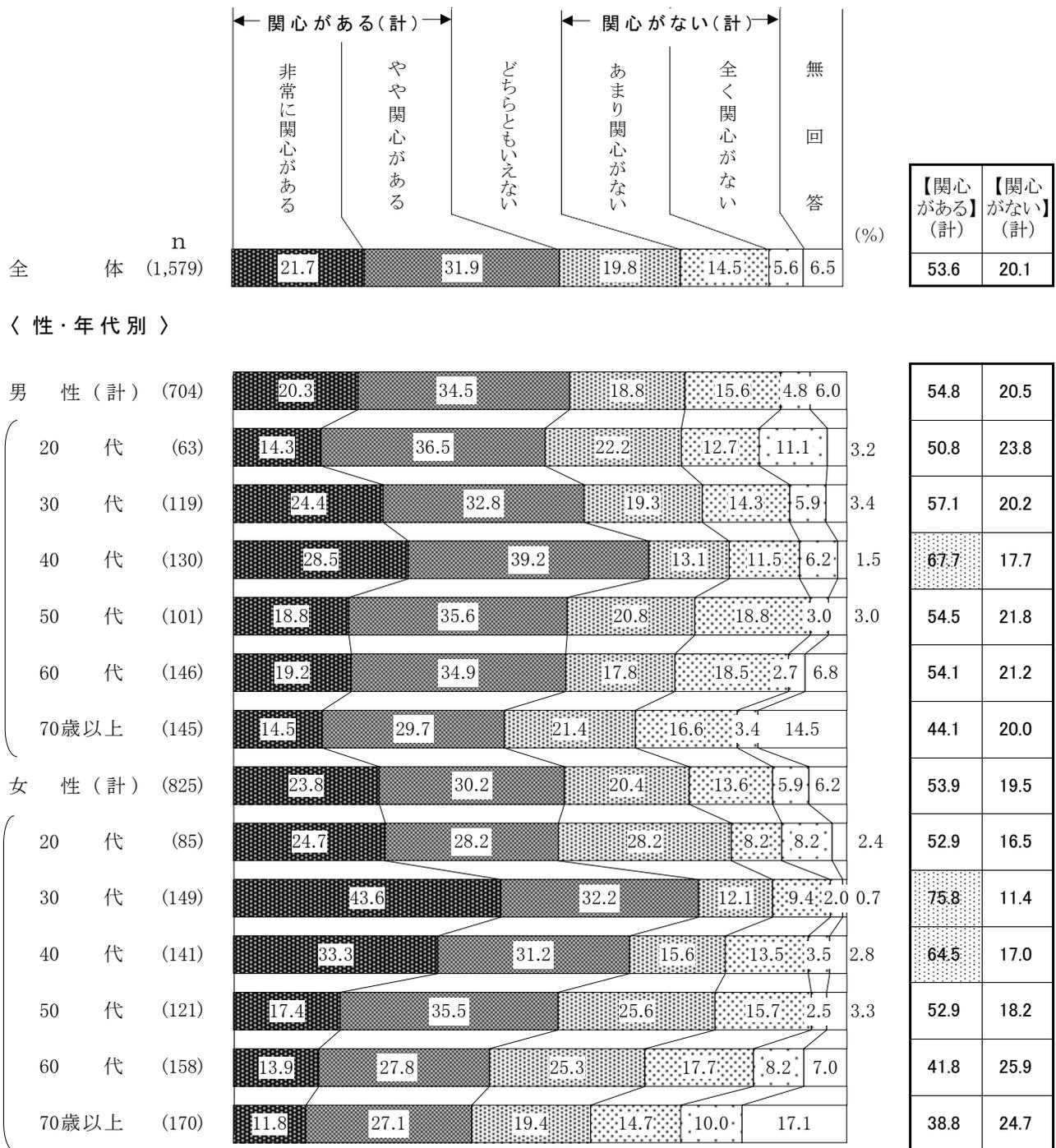
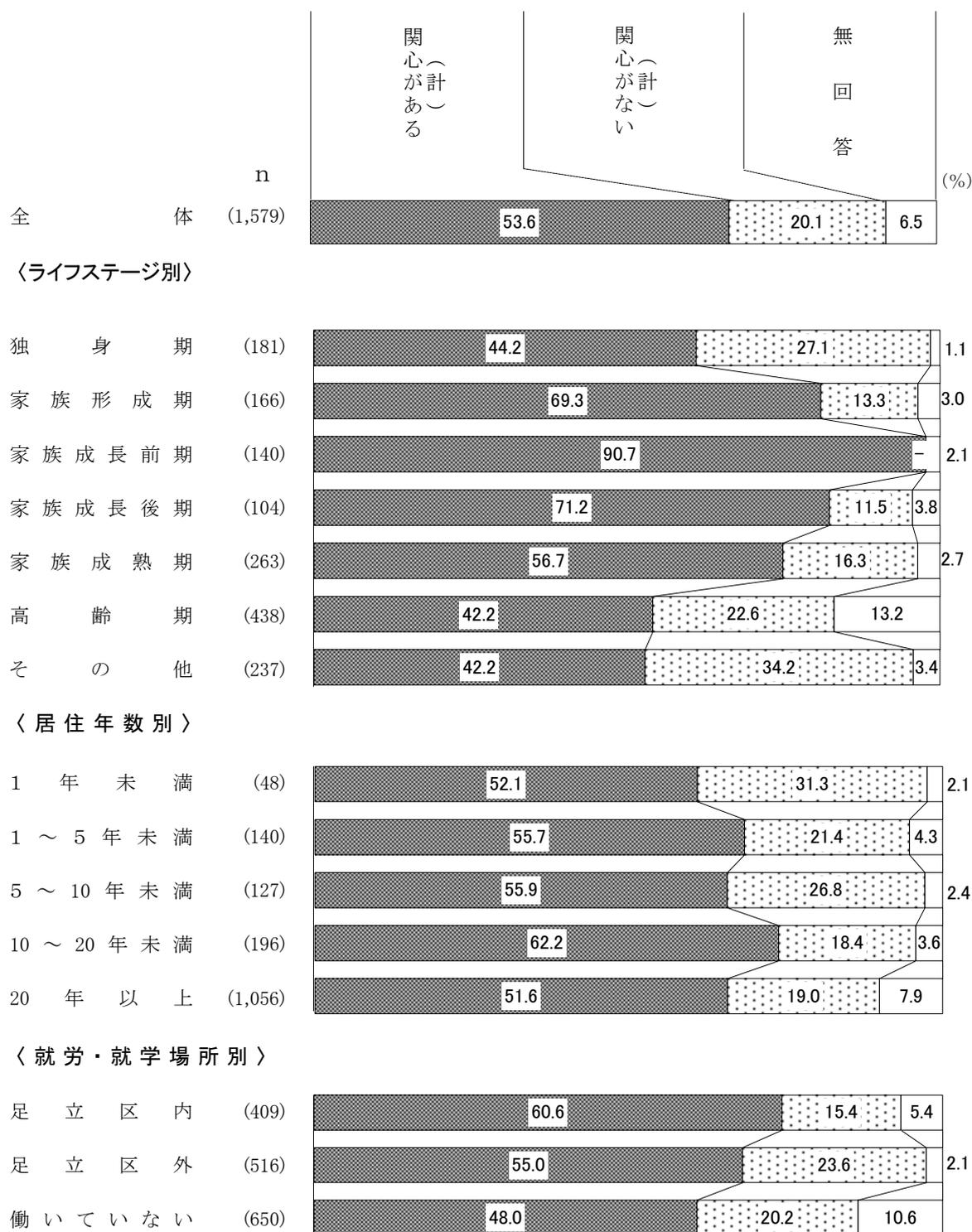
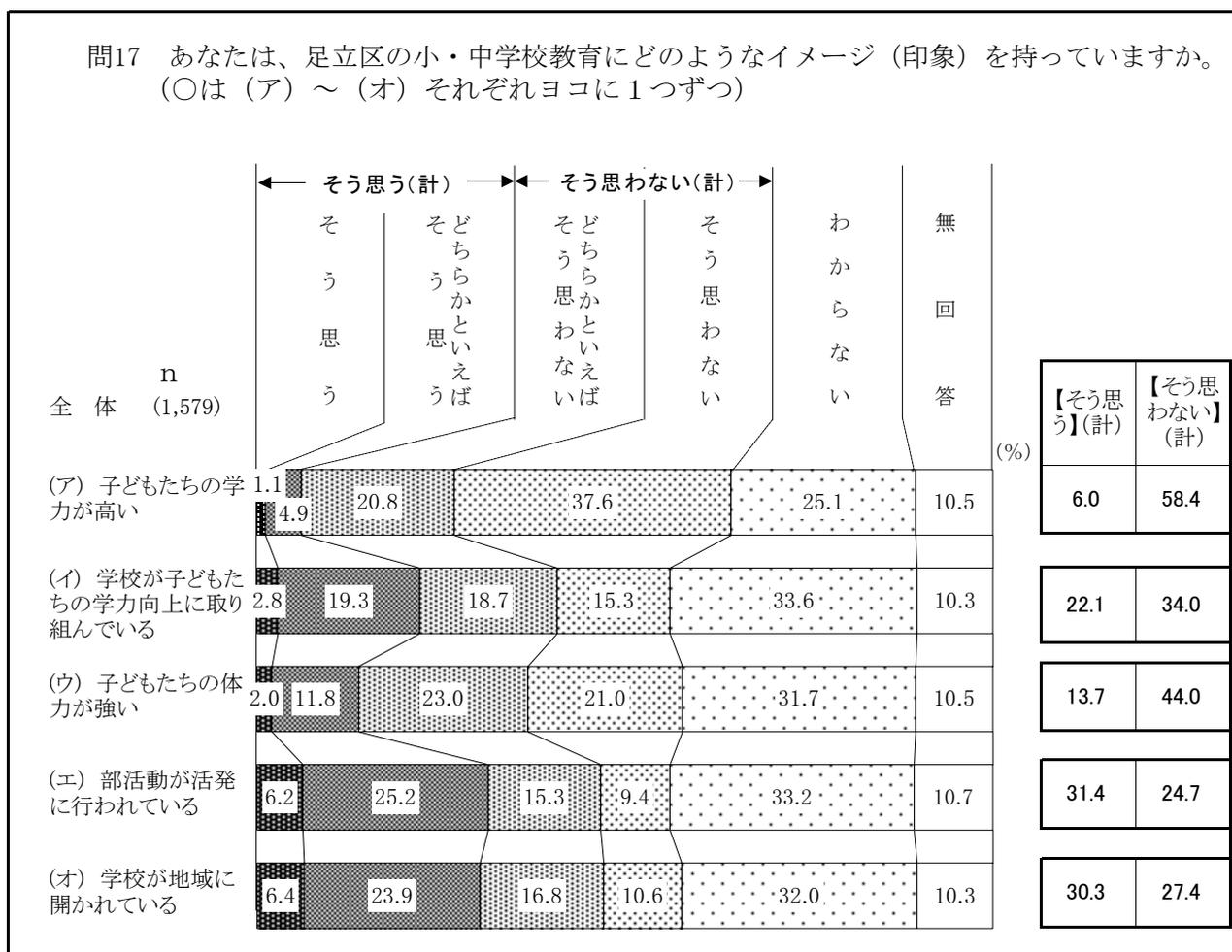


図 4-1-3 小・中学校教育への関心(ライフステージ別、居住年数別、就労・就学場所別)



(2) 区の小・中学校教育へのイメージ

■ 3割が「部活動が活発」「学校が地域に開かれている」との印象をもっている



小・中学校教育に関する各項目についてのイメージでは、「(エ)部活動が活発に行われている」や「(オ)学校が地域に開かれている」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた《そう思う》が3割台を示している。一方、「(ア)子どもたちの学力が高い」では、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた《そう思わない》が6割弱にのぼり、「(ウ)子どもたちの体力が強い」では、《そう思わない》が4割を超えている。

「(ア)子どもたちの学力が高い」を地域ブロック別でみると図4-2-1のとおりである。

「(ア)子どもたちの学力が高い」では、第5、第7、第10、第12ブロックで《そう思わない》が60%を超え、他ブロックより高い。また、同項目を性・年代別でみると図4-2-2のとおりである。

女性30代で《そう思わない》が75.2%と最も高く、次いで女性40代(74.5%)、男性40代(73.1%)、女性50代(71.1%)と続いており、小・中学校教育に関心のある子育て世代で高くなっている。

また、同項目をライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別でみると図4-2-3のとおりである。

ライフステージ別では、「家族成長前期」「家族成長後期」で《そう思わない》が8割を超え、「家族形成期」や「家族成熟期」でもそれぞれ7割を超えている。小・中学校教育への関心度別では、関心度が高いほど、《そう思わない》とする傾向があり、「非常に関心がある」で《そう思わない》が77.3%と最も高くなっている。

図 4-2-1 小・中学校教育へのイメージ（地域ブロック別）

(ア)子どもたちの学力が高い

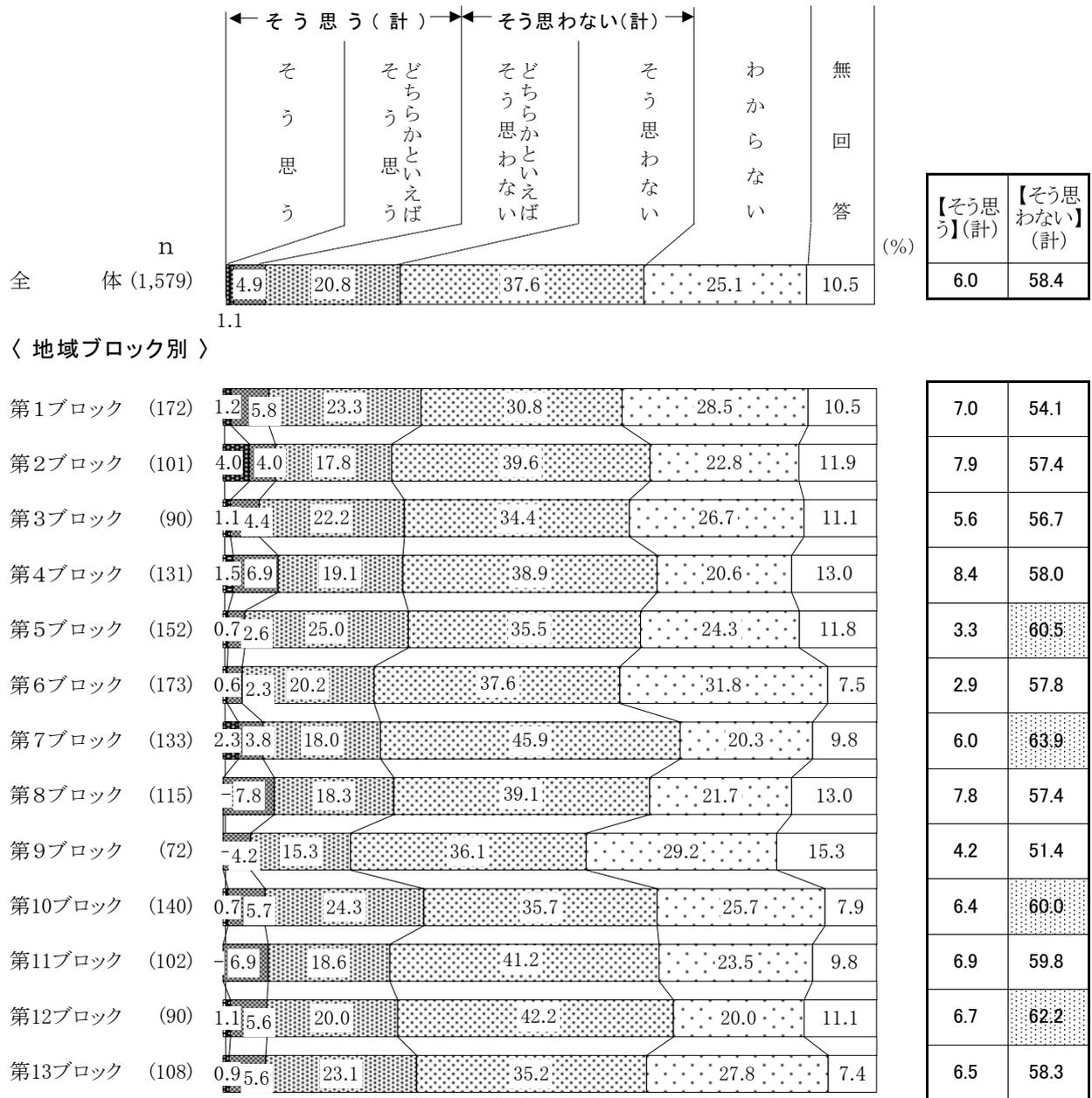


図 4-2-2 小・中学校教育へのイメージ(性・年代別)

(ア)子どもたちの学力が高い

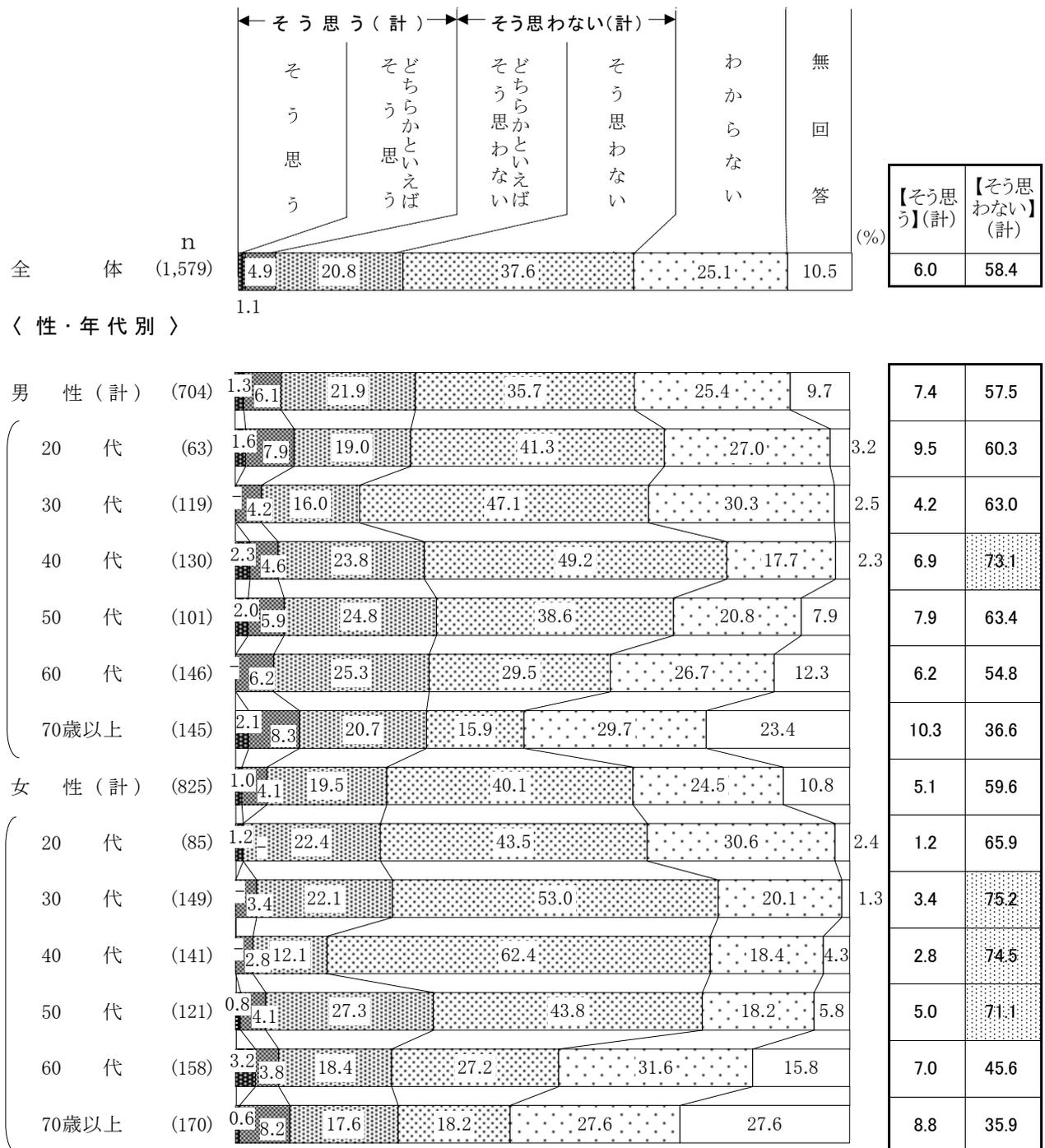
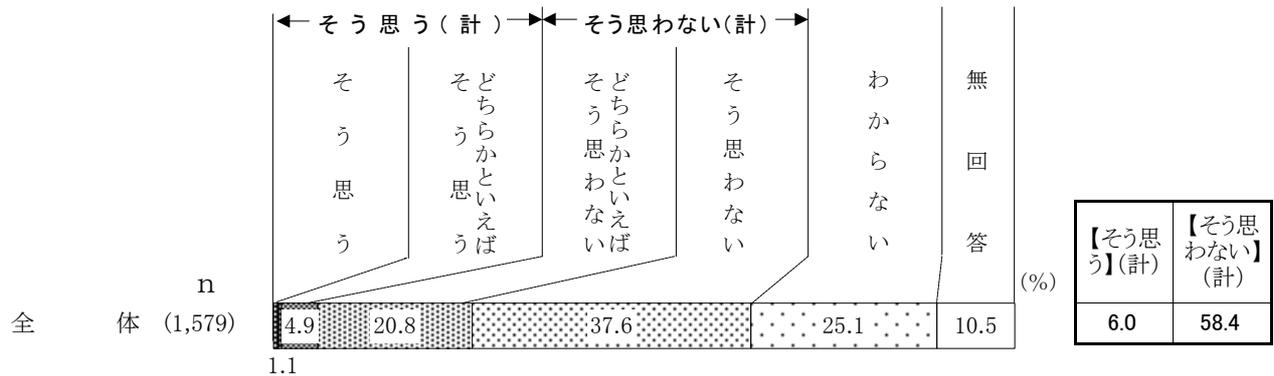
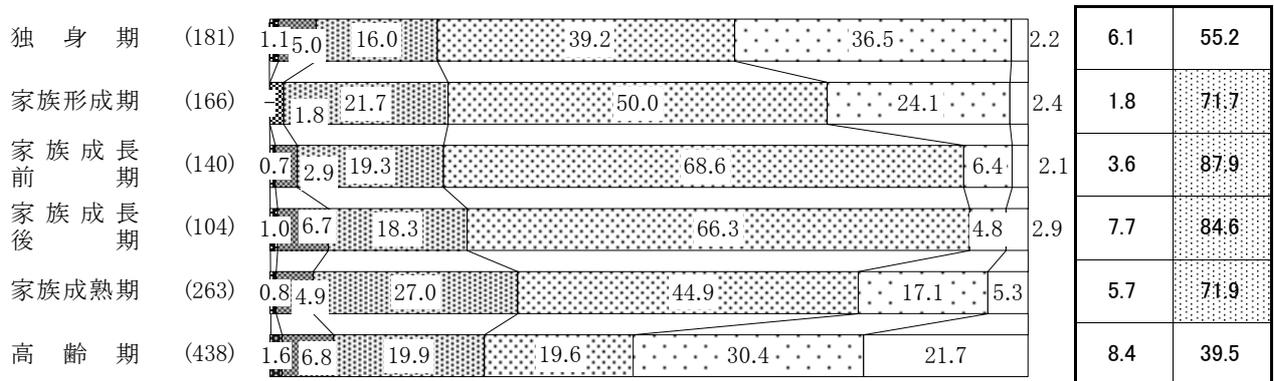


図 4-2-3 小・中学校教育へのイメージ
(ライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別)

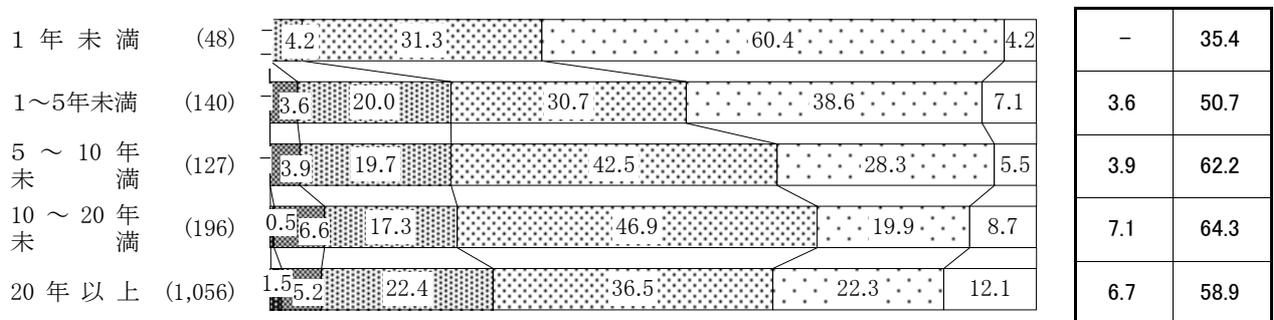
(ア) 子どもたちの学力が高い



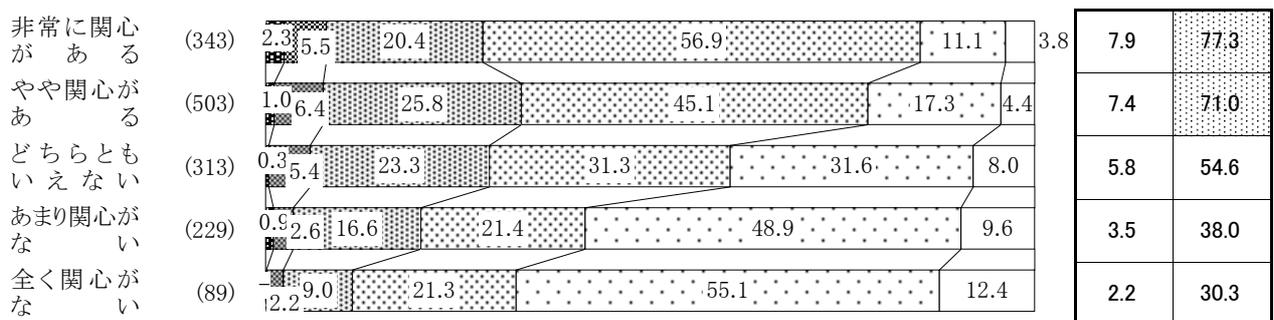
〈ライフステージ別〉



〈居住年数別〉



〈小・中学校教育への関心度別〉

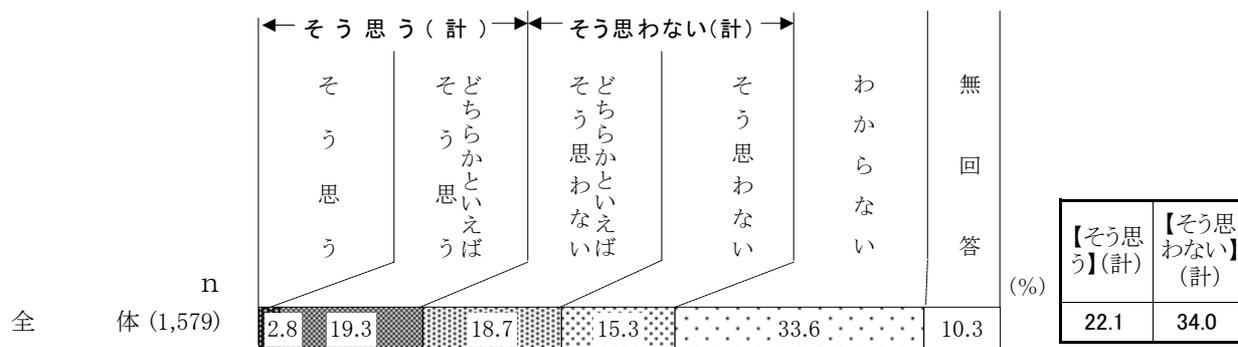


「(イ)学校が子どもたちの学力向上に取り組んでいる」を地域ブロック別でみると図4-2-4のとおりである。

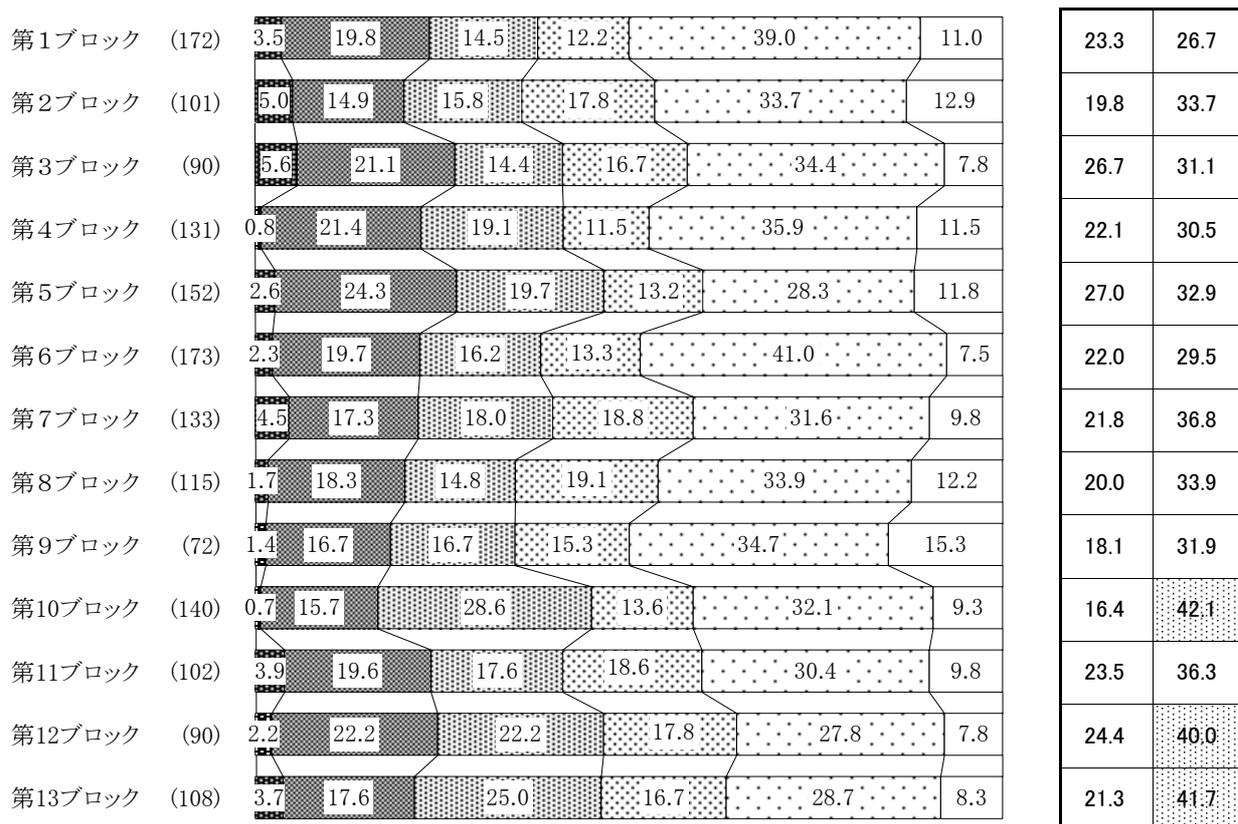
「(イ)学校が子どもたちの学力向上に取り組んでいる」では、第10、第12、第13ブロックで《そう思わない》が40%を超え、他ブロックより高い。

図 4-2-4 小・中学校教育へのイメージ（地域ブロック別）

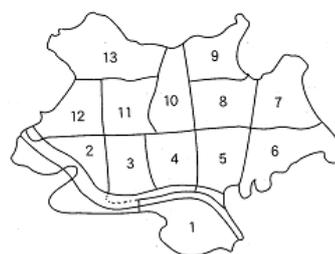
(イ)学校が子どもたちの学力向上に取り組んでいる



〈地域ブロック別〉



ブロック区分

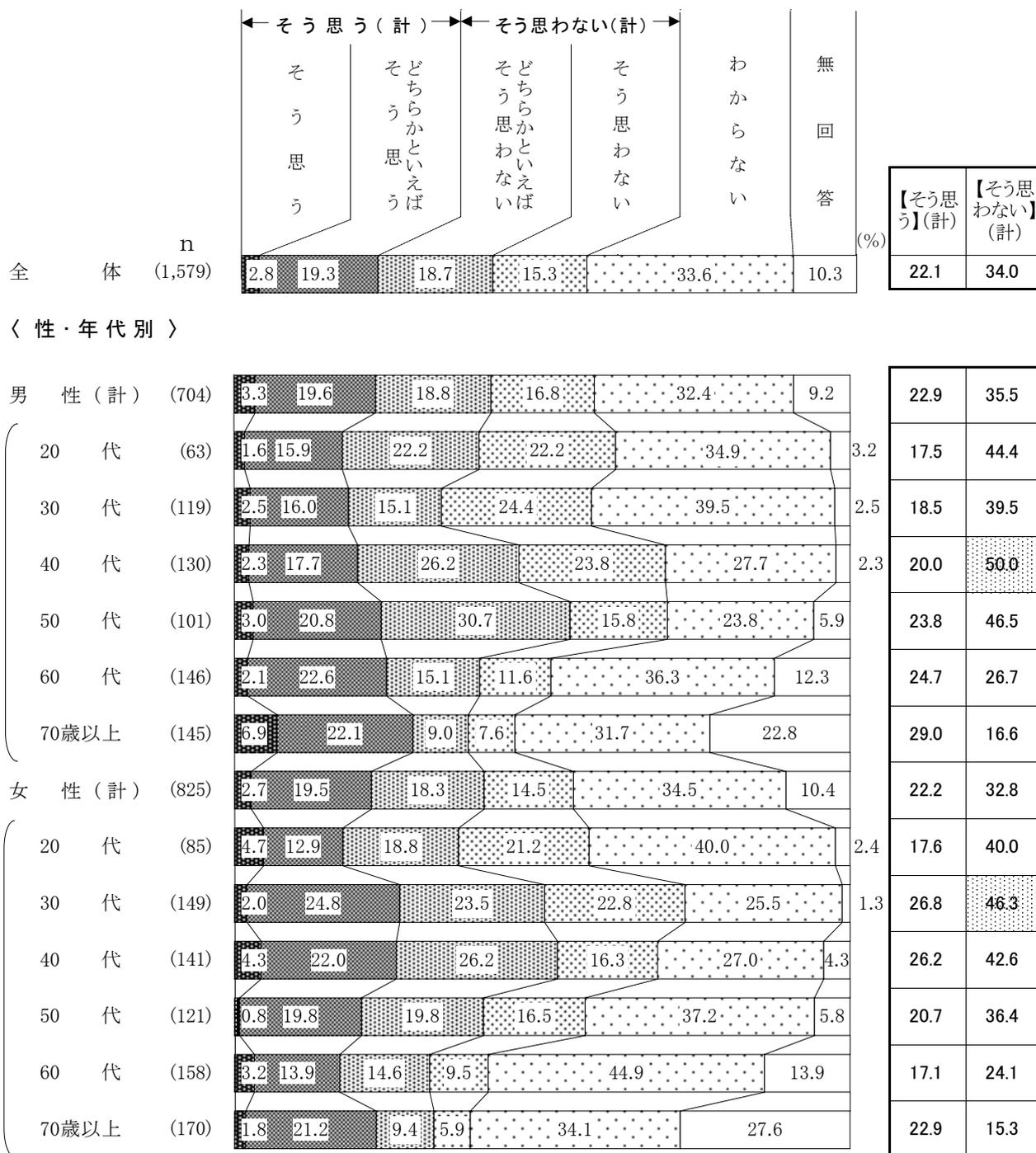


「(イ)学校が子どもたちの学力向上に取り組んでいる」を性・年代別で見ると図4-2-5のとおりである。

男性においては40代で《そう思わない》が50.0%と最も高く、女性においては30代が46.3%で最も高い。

図 4-2-5 小・中学校教育へのイメージ(性・年代別)

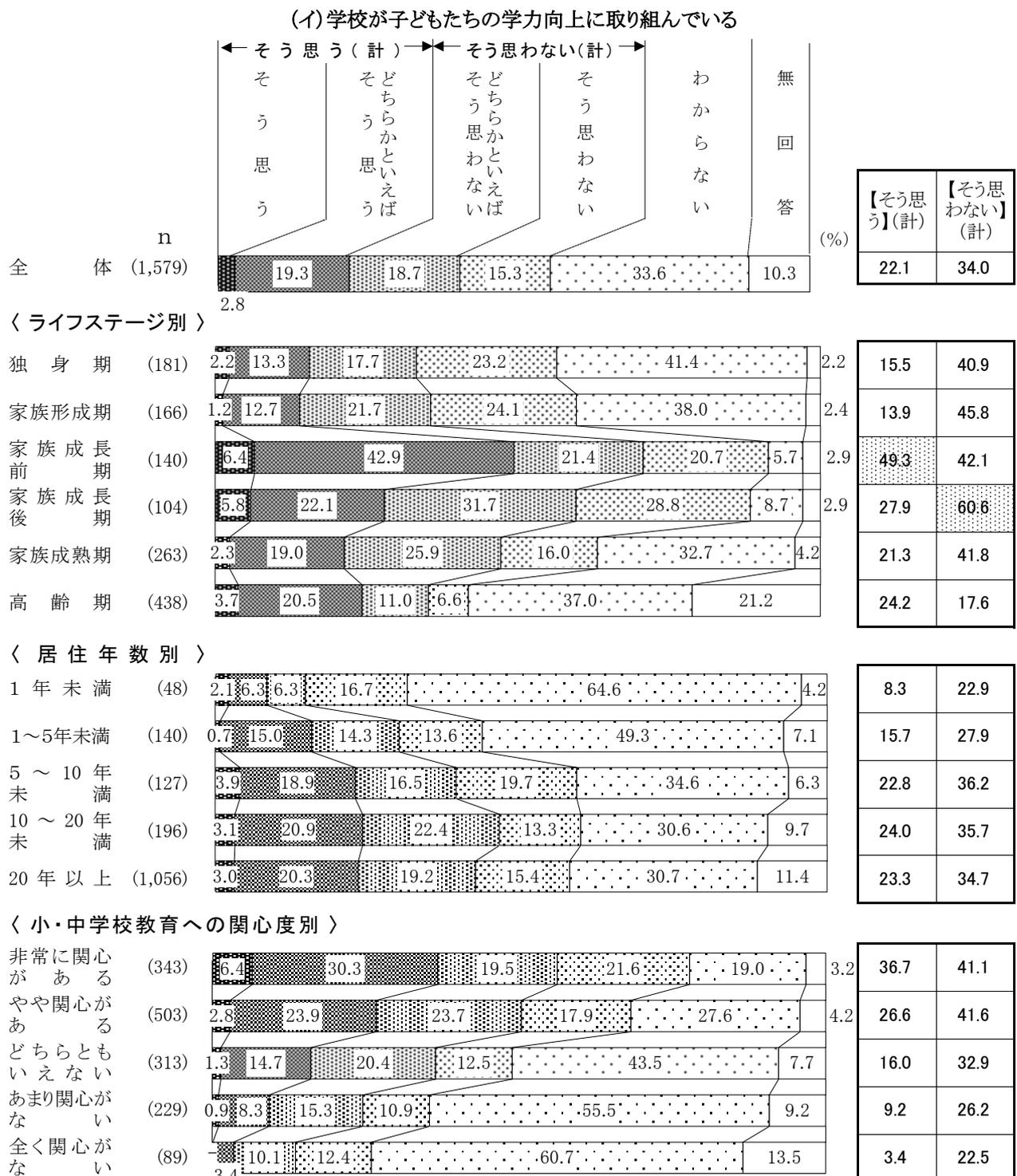
(イ)学校が子どもたちの学力向上に取り組んでいる



「(イ)学校が子どもたちの学力向上に取り組んでいる」をライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別でみると図4-2-6のとおりである。ライフステージ別では、現在、子どもを小・中学校に通わせている「家族成長前期」のステージで、《そう思う》が49.3%と最も高くなっており、学校の学力向上への取り組みが一定程度理解されていることがうかがえる。一方、《そう思わない》では「家族成長後期」のステージで60.6%と6割を超えて最も高くなっている。

小・中学校教育への関心度別では、関心が強くなるほど《そう思う》の割合が高くなり、「非常に関心がある」層では36.7%が《そう思う》と評価している。他方、《そう思わない》も41.1%となっており、学校の学力向上への取り組みに対する評価は二分されていることがうかがえる。

図 4-2-6 小・中学校教育へのイメージ(ライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別)

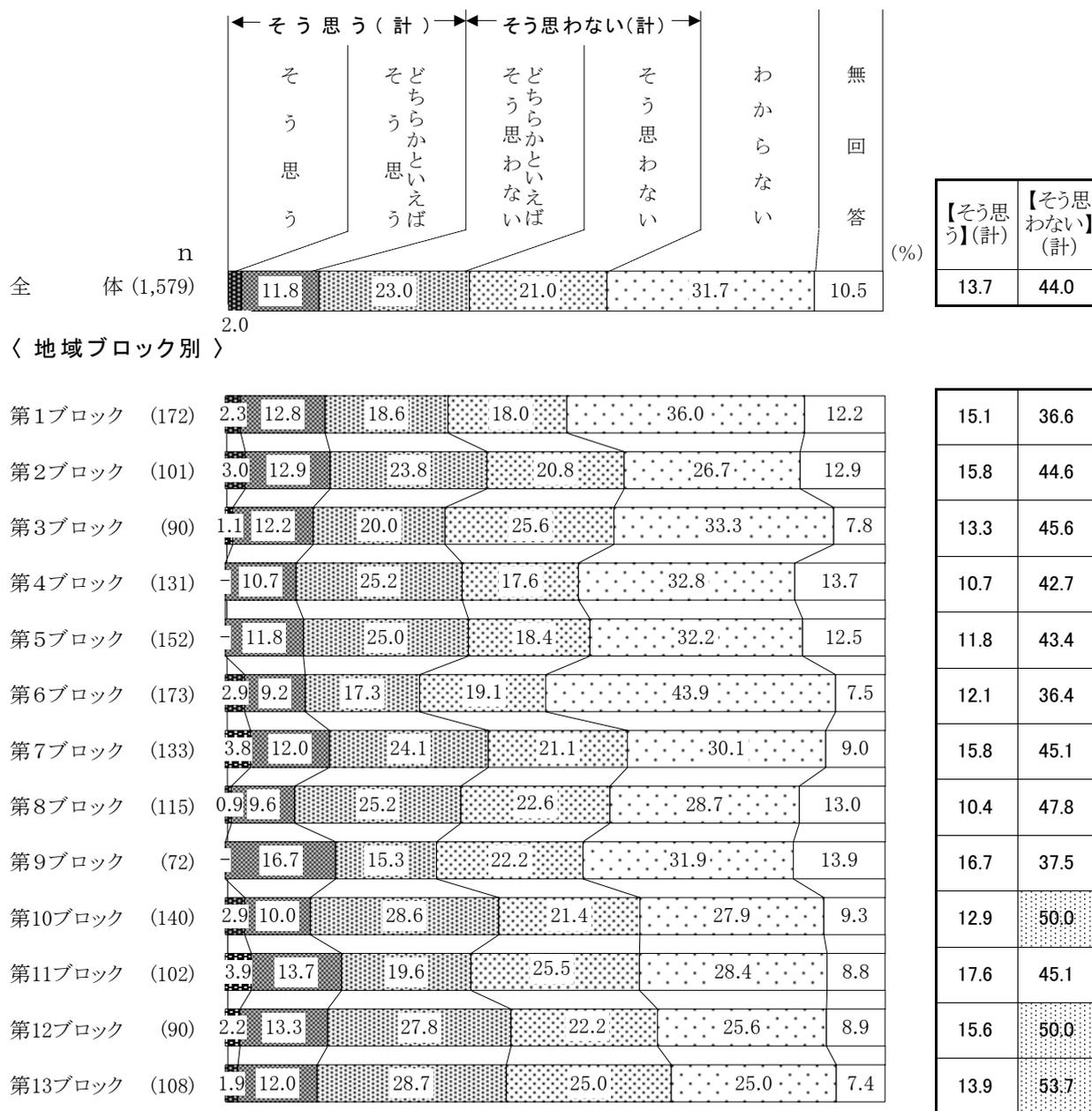


「(ウ)子どもたちの体力が強い」を地域ブロック別で見ると図4-2-7のとおりである。

「(ウ)子どもたちの体力が強い」では、「《そう思う》」は、各ブロックとも10%台となっている。また、「《そう思わない》」は、第10、第12、第13ブロックで50%を超え、他ブロックより高くなっている。

図 4-2-7 小・中学校教育へのイメージ (地域ブロック別)

(ウ)子どもたちの体力が強い



ブロック区分

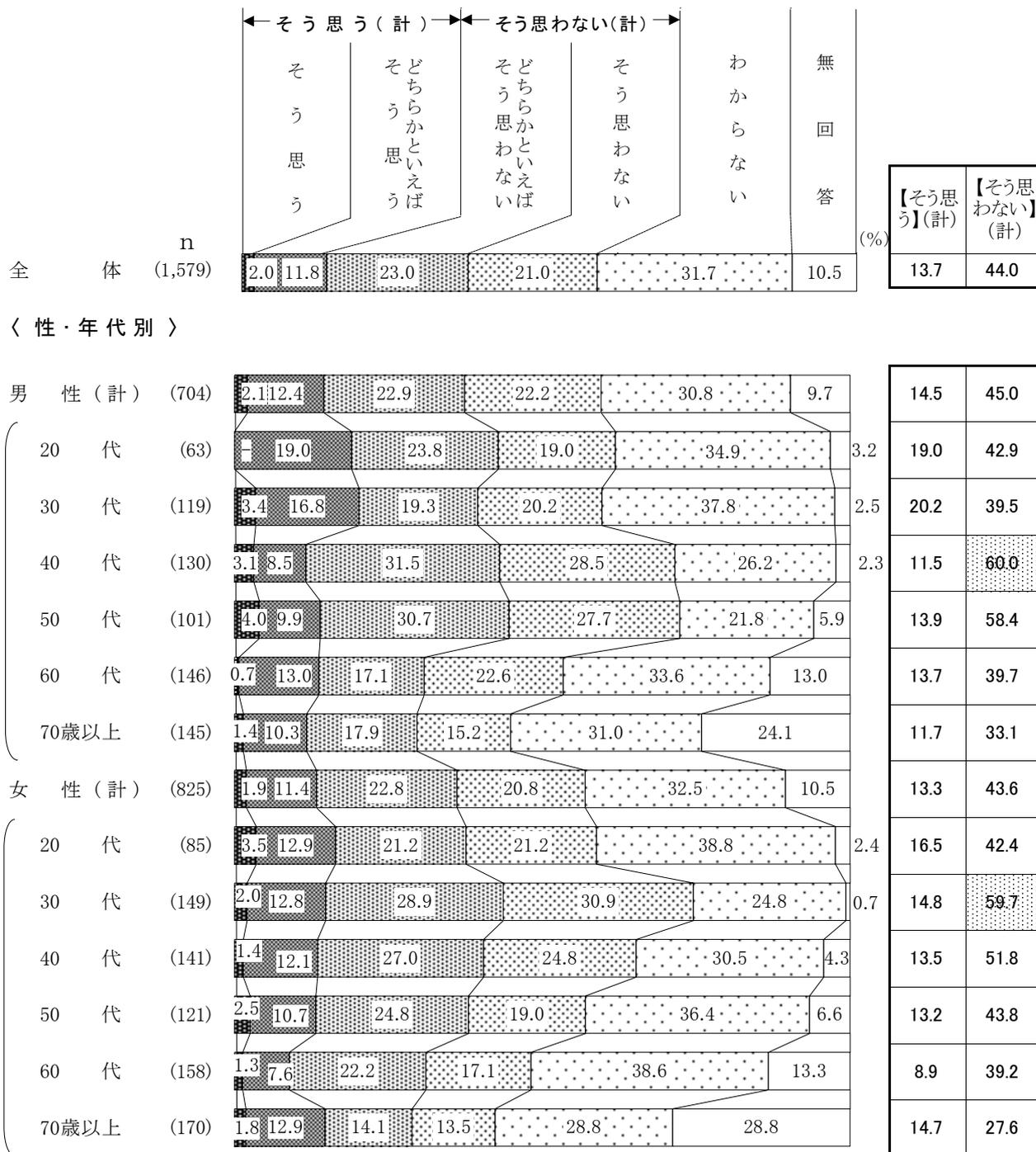


「(ウ)子どもたちの体力が強い」を性・年代別で見ると図4-2-8のとおりである。

男性においては、40代で《そう思わない》が60.0%と最も高く、女性においては30代が59.7%と最も高くなっている。

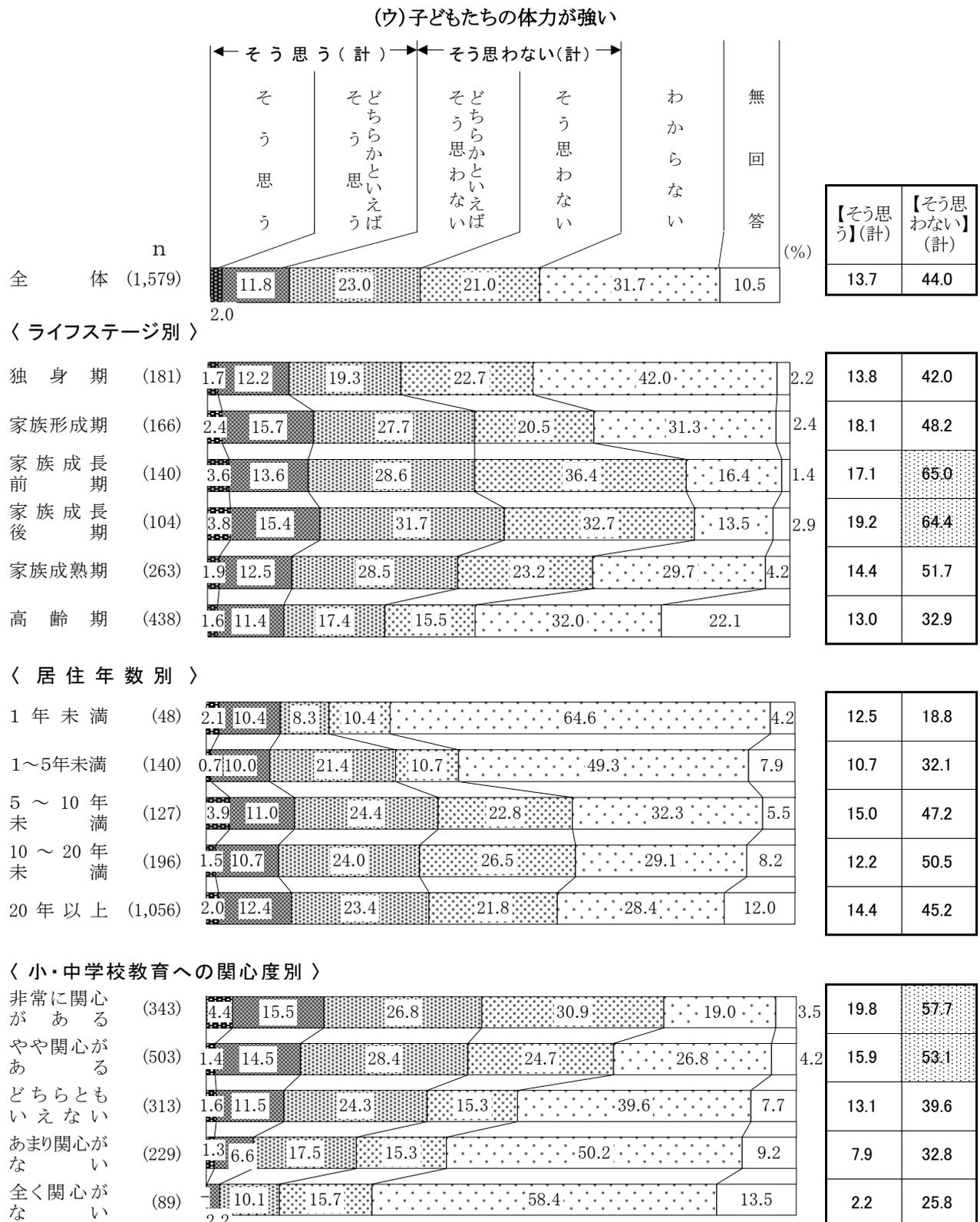
図 4-2-8 小・中学校教育へのイメージ(性・年代別)

(ウ)子どもたちの体力が強い



「(ウ)子どもたちの体力が強い」をライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別で見ると図4-2-9のとおりである。ライフステージ別では、「家族成長前期」と「家族成長後期」でそれぞれ《そう思わない》が6割を超えており、実際に子どもを小・中学校に通わせている、また、最近まで通わせていた親の世代で子どもたちの体力が強いとは思わない人が多い傾向にある。小・中学校教育への関心度別では、関心が強くなるほど《そう思わない》とする割合が高くなる傾向があり、「非常に関心がある」や「やや関心がある」で、5割を超えている。

図 4-2-9 小・中学校教育へのイメージ(ライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別)

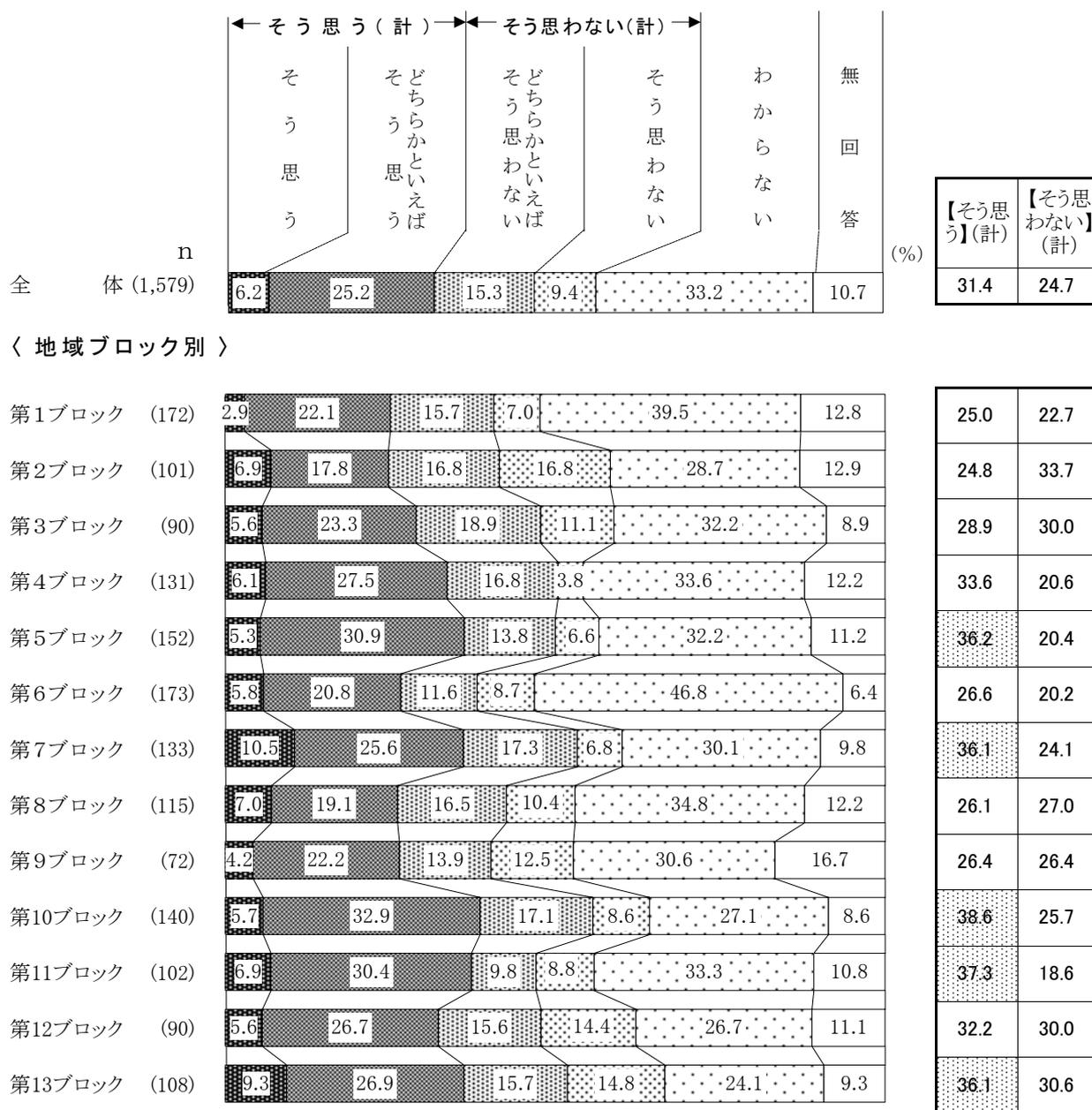


「(エ)部活動が活発に行われている」を地域ブロック別で見ると図4-2-10のとおりである。

「(エ)部活動が活発に行われている」では、第10ブロックで《そう思う》が38.6%で最も高く、第5、第7、第11、第13ブロックでも36%～37%台を示し、他ブロックよりやや高い。

図 4-2-10 小・中学校教育へのイメージ（地域ブロック別）

(エ)部活動が活発に行われている



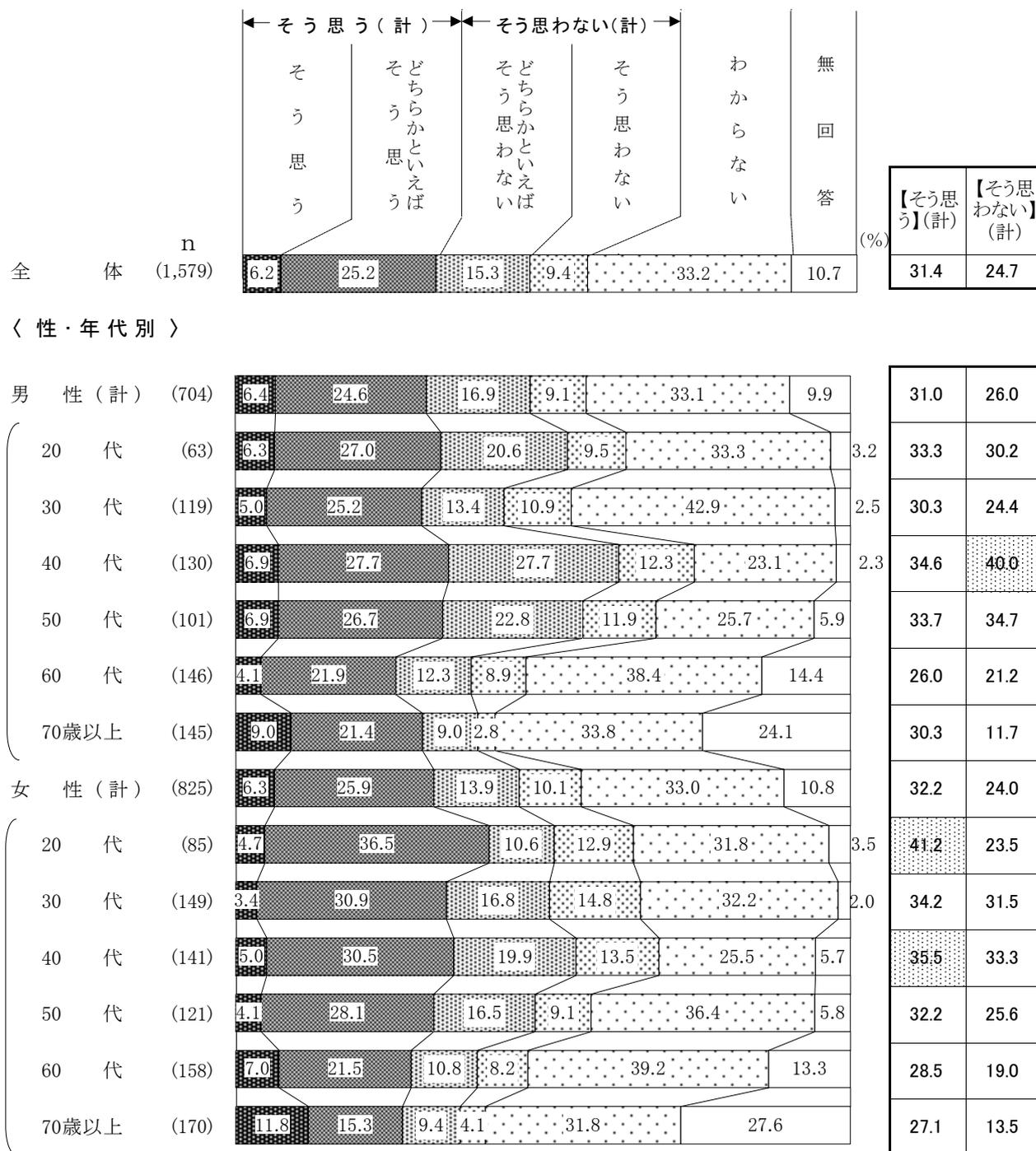
ブロック区分



「(エ)部活動が活発に行われている」を性・年代別で見ると図4-2-11のとおりである。

女性20代で《そう思う》が41.2%と最も高く、次いで女性40代(35.5%)が続いている。一方、《そう思わない》では男性40代が40.0%で最も高くなっている。

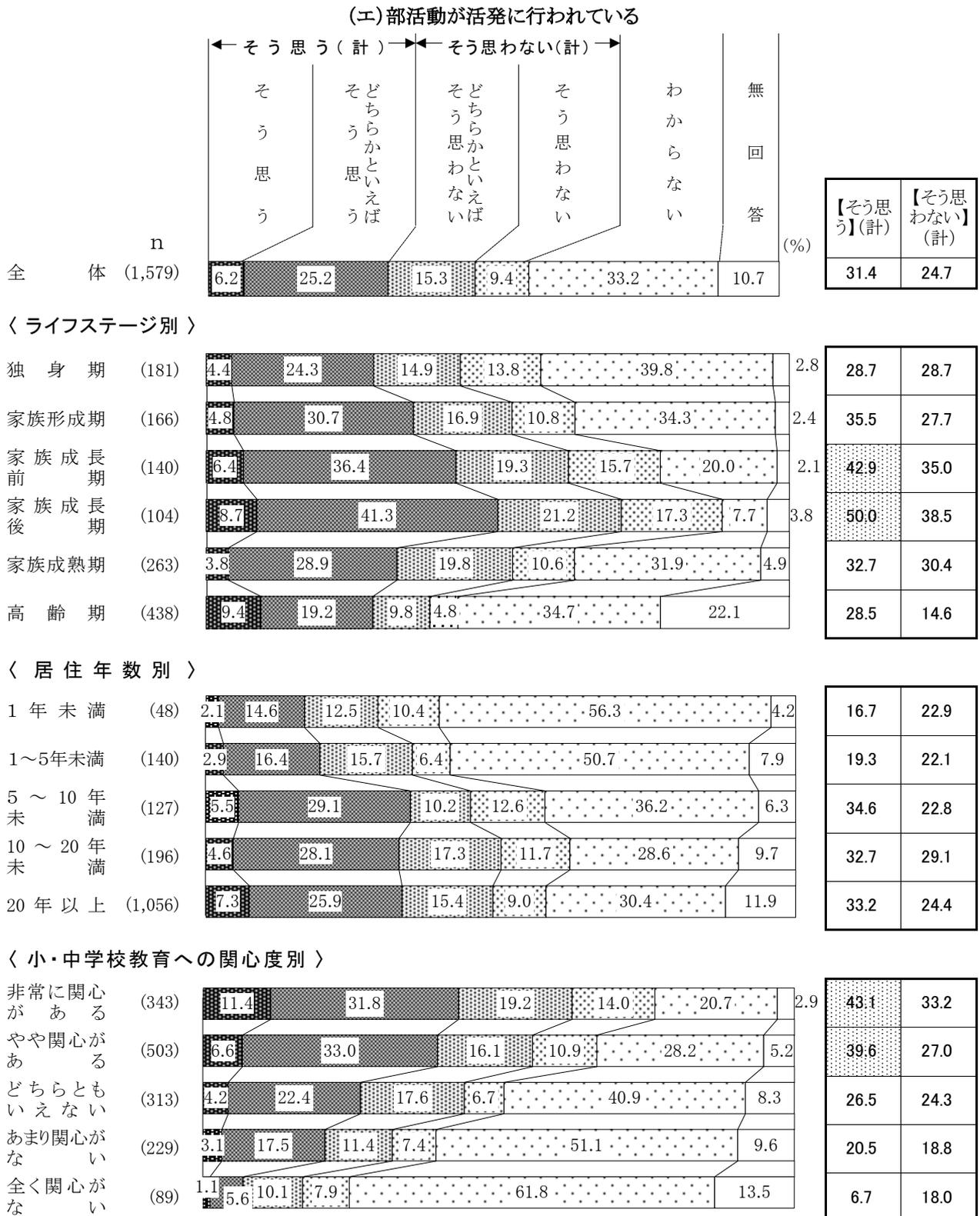
図 4 - 2 - 1 1 小・中学校教育へのイメージ(性・年代別)
(エ)部活動が活発に行われている



「(エ)部活動が活発に行われている」をライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別で見ると図4-2-12のとおりである。ライフステージ別では、「家族成長後期」で《そう思う》が50.0%と5割を示し、「家族成長前期」でも42.9%と高くなっている。

小・中学校教育への関心度別では、「非常に興味がある」層で《そう思う》が43.1%、「やや興味がある」層で39.6%と高くなっている。現在子どもを小・中学校に通わせている、また、最近まで通わせていた親の世代では、小・中学校で部活動が活発に行われていると評価している人が多いことがわかる。

図 4-2-12 小・中学校教育へのイメージ(ライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別)

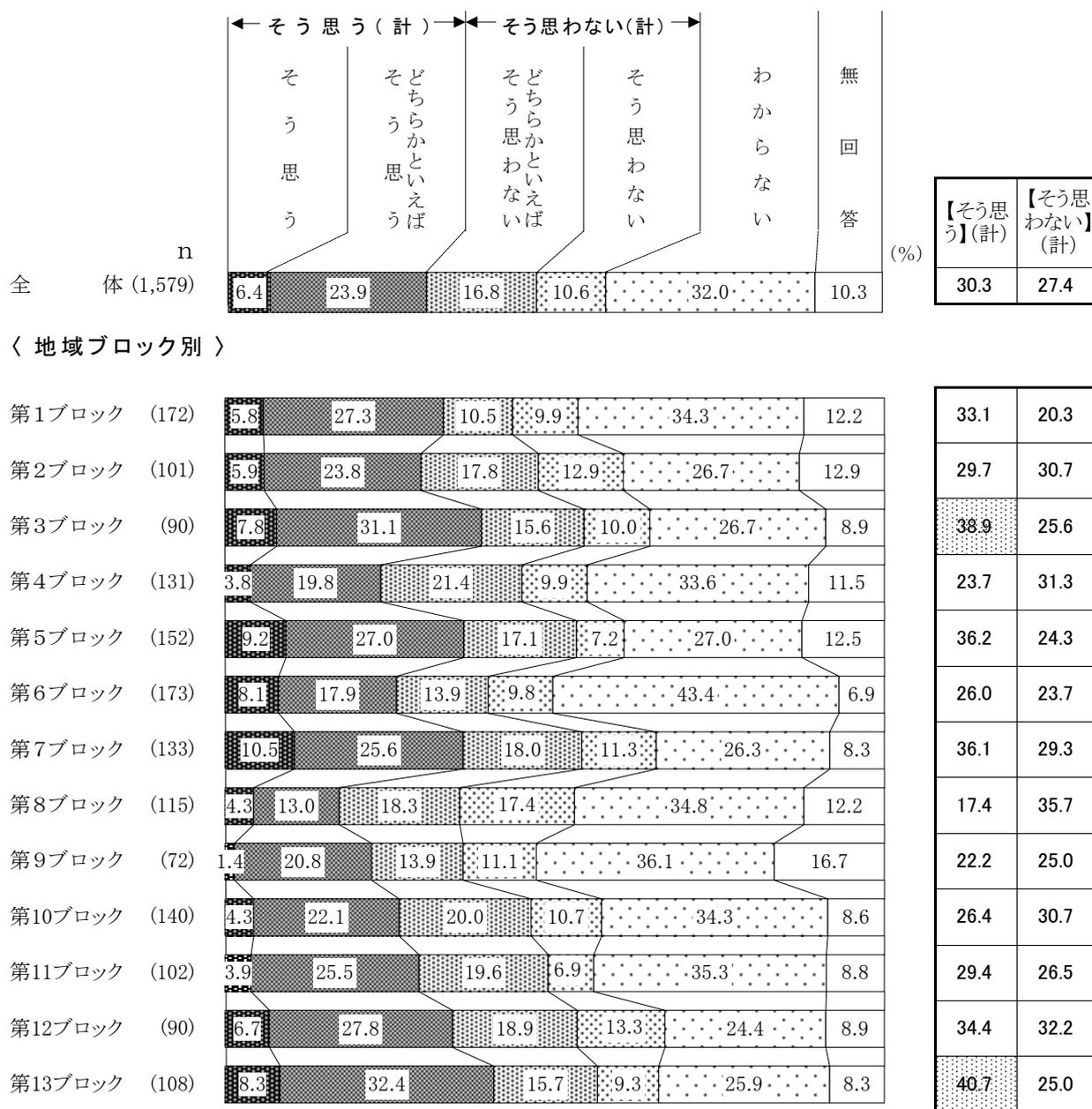


「(オ) 学校が地域に開かれている」を地域ブロック別で見ると図4-2-13のとおりである。

「(オ) 学校が地域に開かれている」では、第13ブロックで《そう思う》が40.7%で最も高く、唯一4割を超えており、次いで第3ブロックが38.9%と高い値を示している。

図 4-2-13 小・中学校教育へのイメージ（地域ブロック別）

(オ) 学校が地域に開かれている



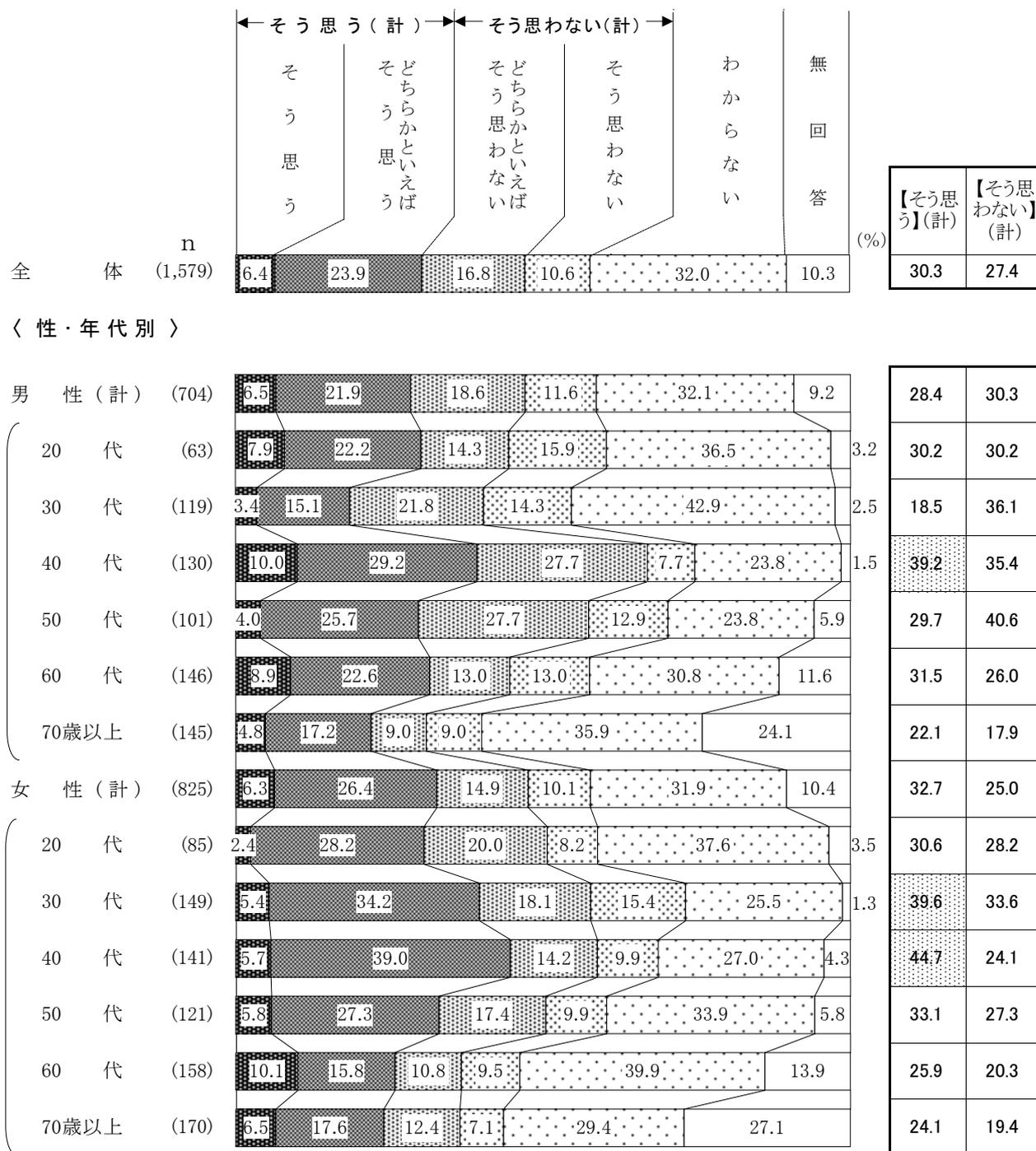
ブロック区分



「(オ)学校が地域に開かれている」を性・年代別で見ると図4-2-14のとおりである。

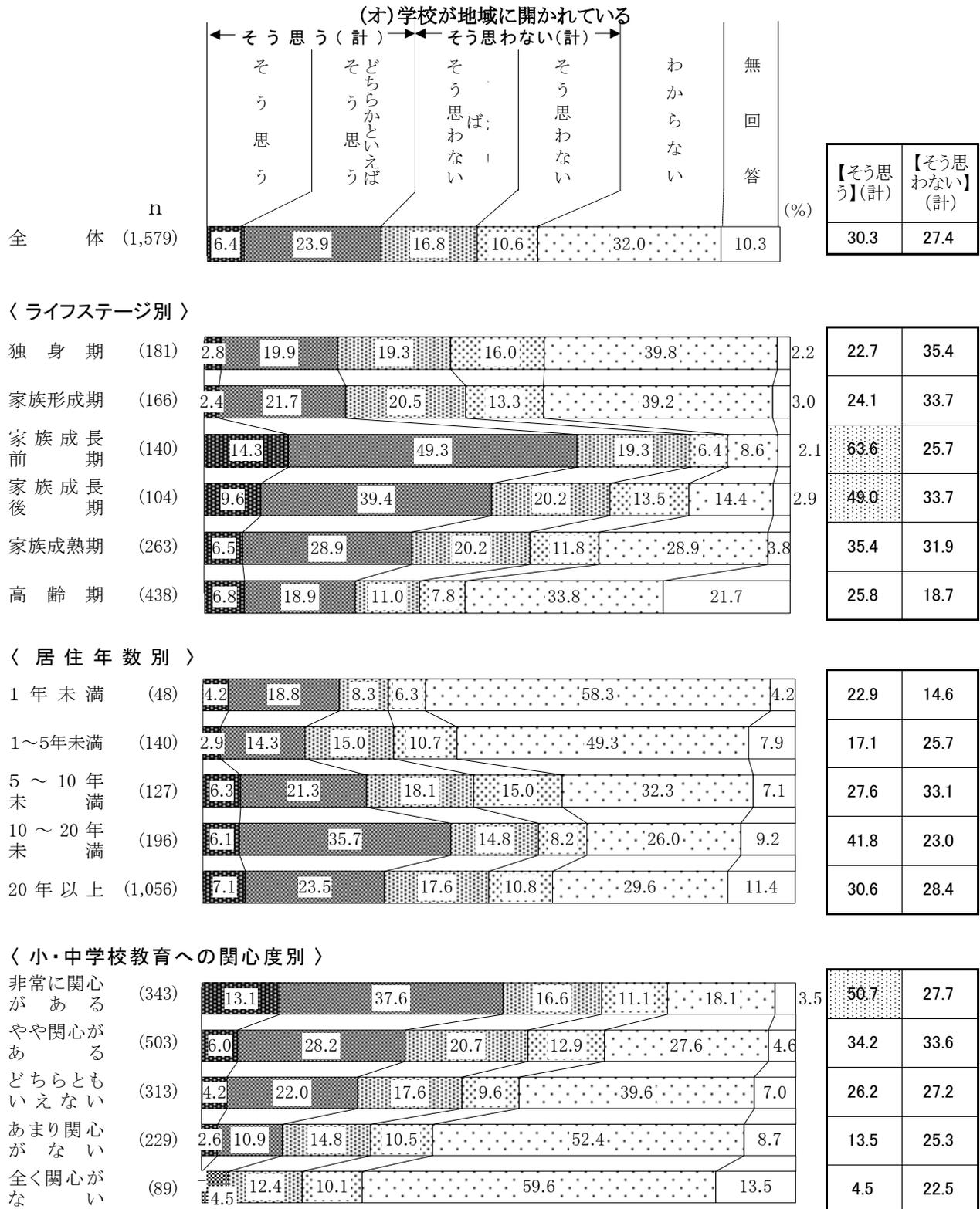
全体的に女性の方が男性よりも《そう思う》とする割合が高い。男女とも40代で《そう思う》が最も高く、それぞれ4割前後となっている。女性では30代でも39.6%と4割近くに達している。

図 4 - 2 - 1 4 小・中学校教育へのイメージ(性・年代別)
(オ)学校が地域に開かれている



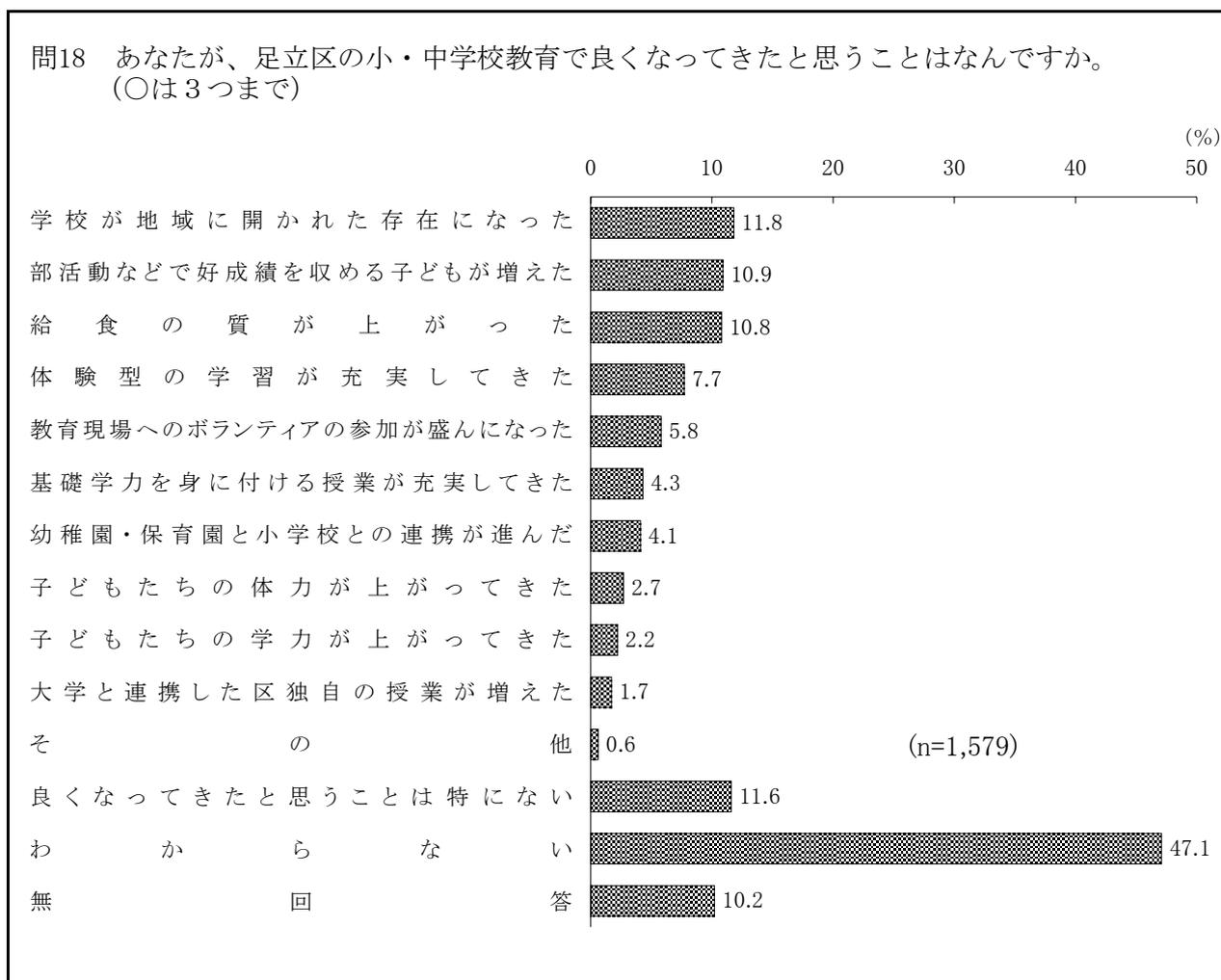
「(オ)学校が地域に開かれている」をライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別で見ると図4-2-15のとおりである。ライフステージ別では、「家族成長前期」で《そう思う》が63.6%と最も高く、「家族成長後期」でも49.0%と5割弱を示している。子どもを小・中学校に通わせている、また、最近まで通わせていた親の世代では、学校と地域のかかわりに関する情報に触れる機会が多いことを示しているものと思われる。小・中学校教育への関心度別では、「非常に関心がある」で《そう思う》が50.7%と5割を超え、最も高くなっている。

図 4-2-15 小・中学校教育へのイメージ(ライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別)



(3) 足立区の小・中学校教育で良くなってきたと思うこと

■「わからない」が47.1%と最も高い



小・中学校教育で良くなってきたと思うことは、「学校が地域に開かれた存在になった」が11.8%で最も高く、次いで「部活動などで好成績を収める子どもが増えた」が10.9%、「給食の質が上がった」が10.8%と続いている。一方、「わからない」も47.1%にのぼっている。

地域ブロック別にみると、図4-3-1のとおりである。

「学校が地域に開かれた存在になった」では、第13ブロックで17.6%と最も高く、次いで第5ブロック(16.4%)、第3ブロック(15.6%)と続いている。また、「部活動などで好成績を収める子どもが増えた」では第11、第13ブロックがそれぞれ15.7%、13.9%と高くなっている。

性・年代別にみると、図4-3-2のとおりである。

「学校が地域に開かれた存在になった」では、男女とも40代で最も高くなっている。また、「給食の質が上がった」では、女性30代、40代で約20%と高くなっており、小・中学校に子どもを通わせている母親世代で「給食の質」への取り組みが評価されていることが示唆される。

図 4-3-1 小・中学校教育で良くなってきたと思うこと【上位6位】(地域ブロック別)

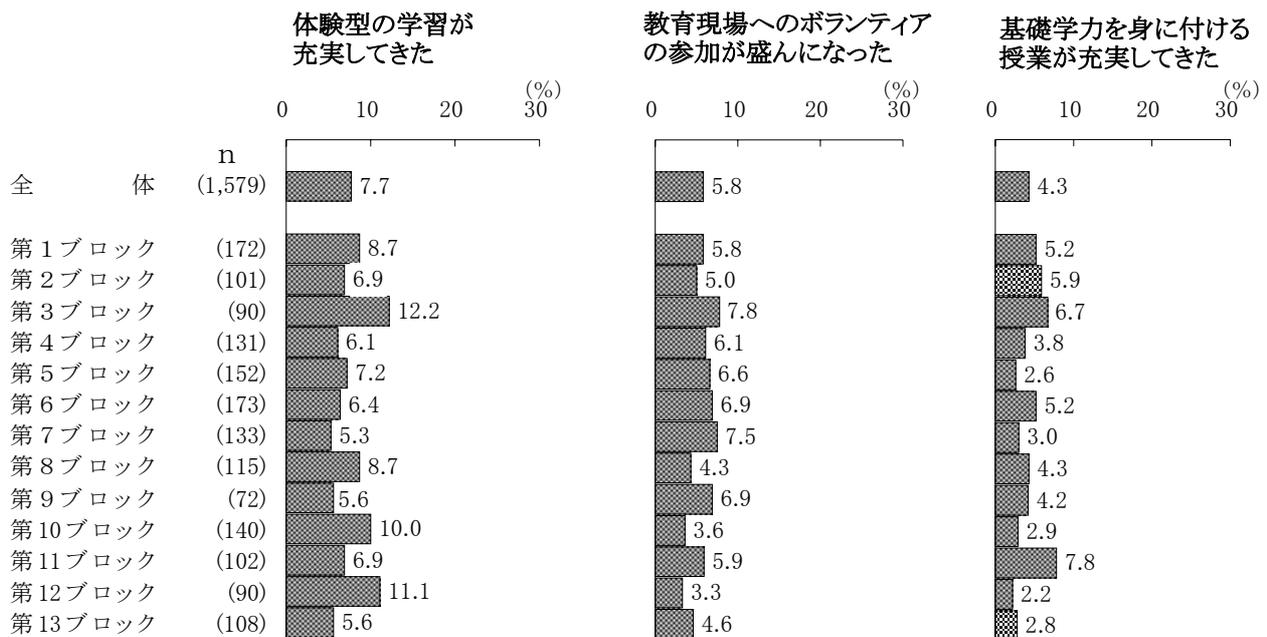
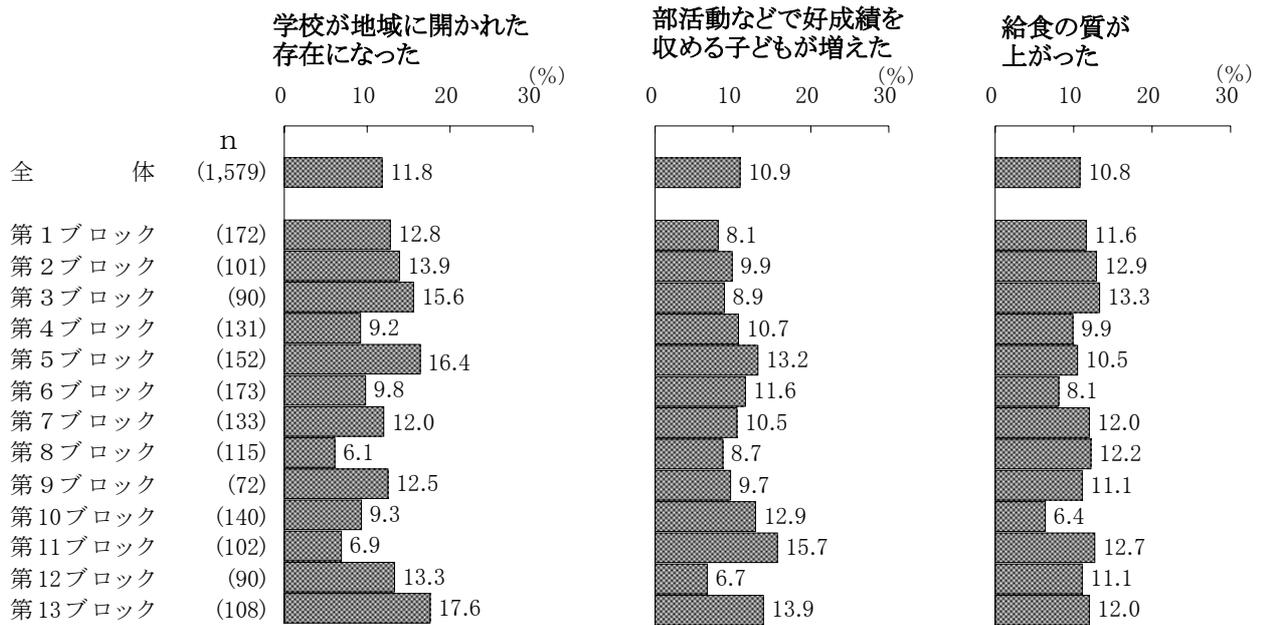
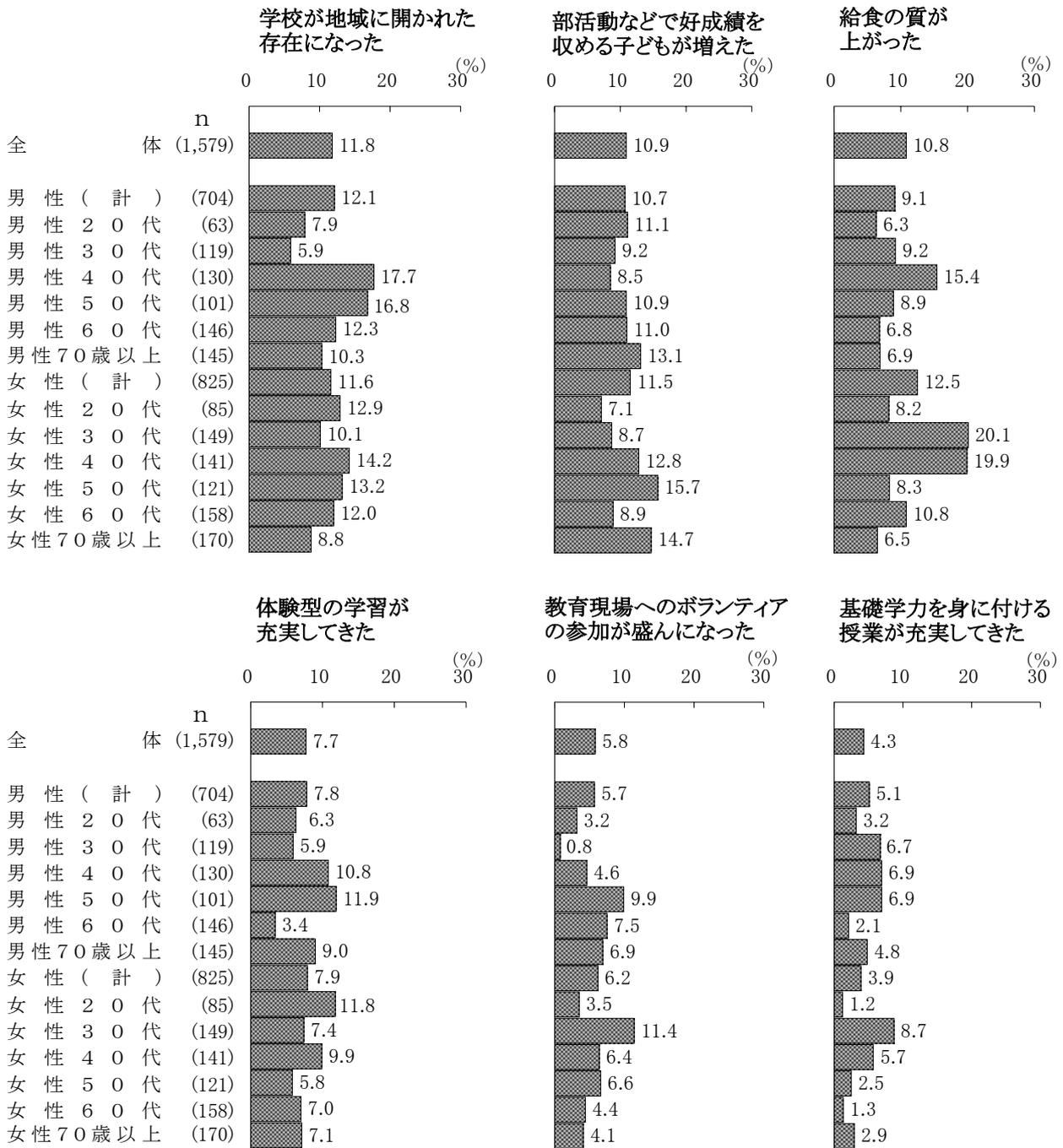


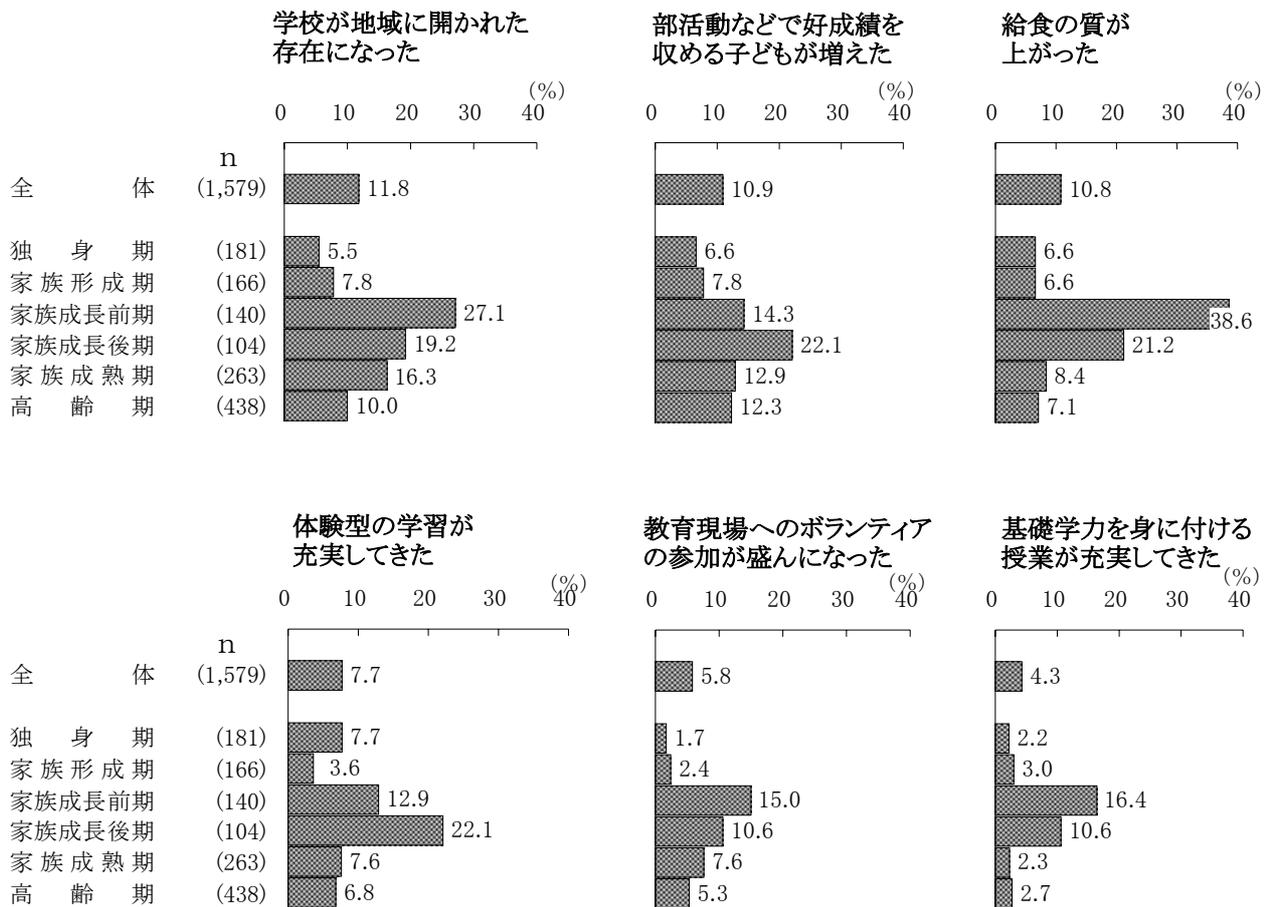
図 4-3-2 小・中学校教育で良くなってきたと思うこと【上位6位】(性・年代別)



また、上位6項目をライフステージ別にみると、図4-3-3のとおりである。「学校が地域に開かれた存在になった」では「家族成長前期」が、「部活動などで好成績を収める子どもが増えた」では「家族成長後期」が最も高い。また、「給食の質が上がった」では「家族成長前期」が38.6%と最も高い。

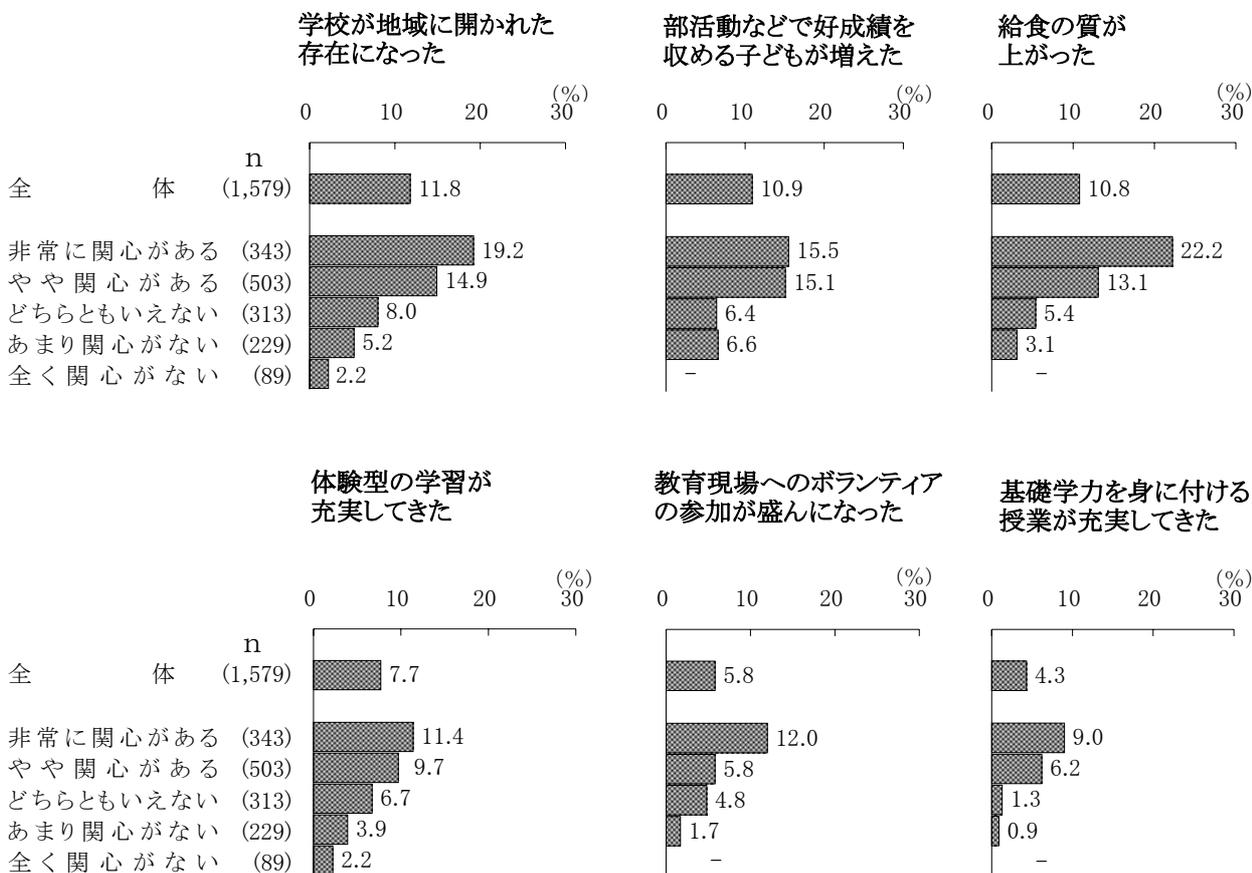
子どもを小・中学校に通わせている、また、最近まで通わせていた親の世代では、学校教育に関する情報量が多いことが推測されるが、そのなかでも取り組み内容などによって評価が異なっていることがうかがえる。

図 4-3-3 小・中学校教育で良くなってきたと思うこと【上位6位】(ライフステージ別)



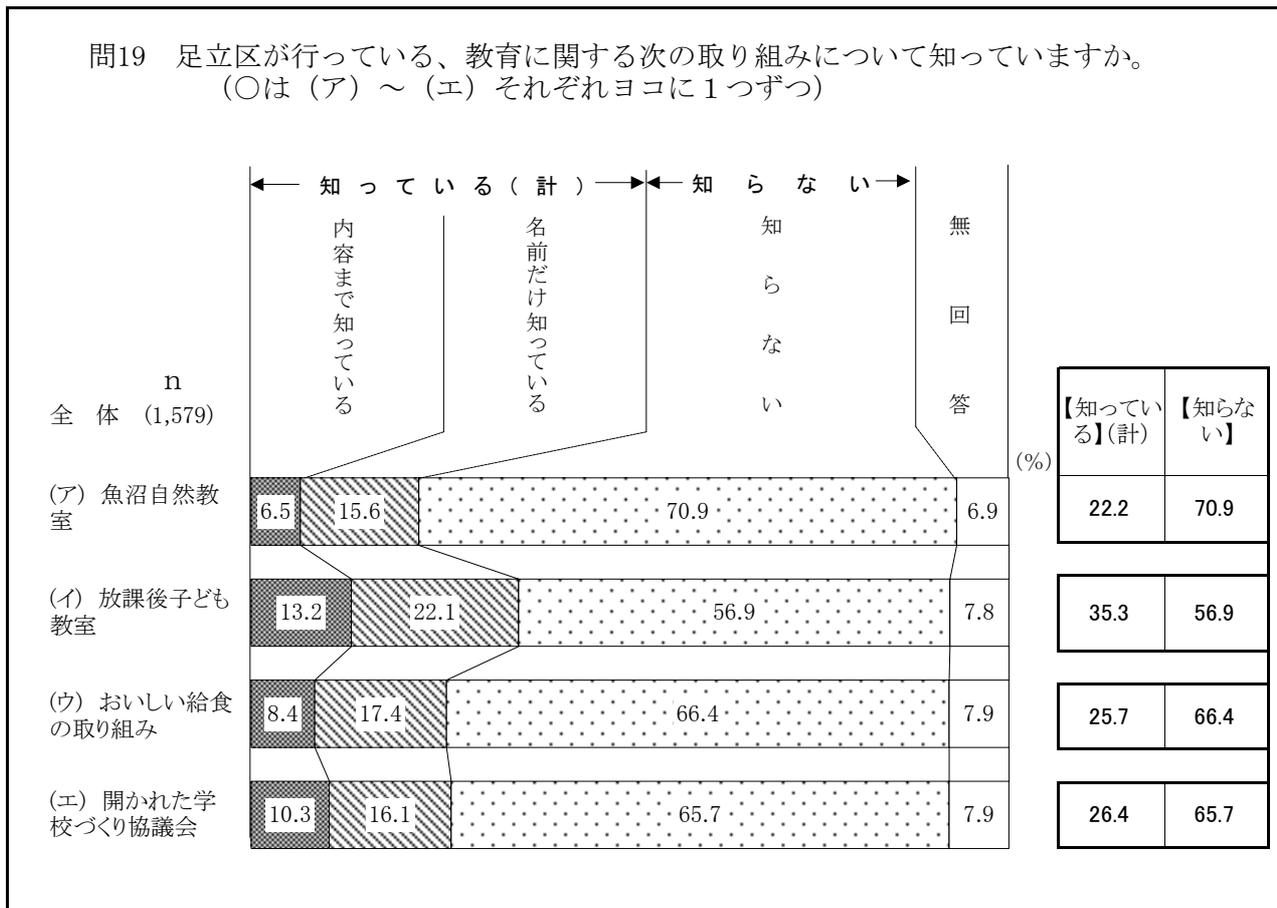
また、上位6項目を小・中学校教育への関心度別にみると、図4-3-4のとおりである。どの項目においても、小・中学校教育への関心が高いほど割合は上昇しており、「学校が地域に開かれた存在になった」では19.2%、「給食の質が上がった」では22.2%と「非常に関心がある」層が最も高くなっている。

図 4-3-4 小・中学校教育で良くなってきたと思うこと【上位6位】
(小・中学校教育への関心度別)



(4) 教育施策の認知度

■ 各教育施策の中で、「放課後子ども教室」が認知度が高い



教育施策に関する認知度は、「(イ)放課後子ども教室」で「内容まで知っている」が13.2%と他施策よりも高く、「名前だけ知っている」の22.1%をあわせた《知っている》は35.3%を示し、3割強の区民に認知されている。一方、「(ア)魚沼自然教室」では「知らない」が70.9%と各施策の中で最も高く、7割の区民に認知されていない。「(ア)魚沼自然教室」の認知度を地域ブロック別でみると図4-4-1のとおりである。

「(ア)魚沼自然教室」は、第3ブロックで《知っている》が34.4%で3割を超え、最も高い。一方、「知らない」は第4ブロックで77.9%と8割弱を示し、最も高い。また、同項目を性・年代別でみると図4-4-2のとおりである。男性では60代で《知っている》が30.8%と最も高く、女性では40代で31.2%と最も高くなっている。一方、男女とも20代で「知らない」が最も高く、それぞれ95.2%と84.7%を示している。

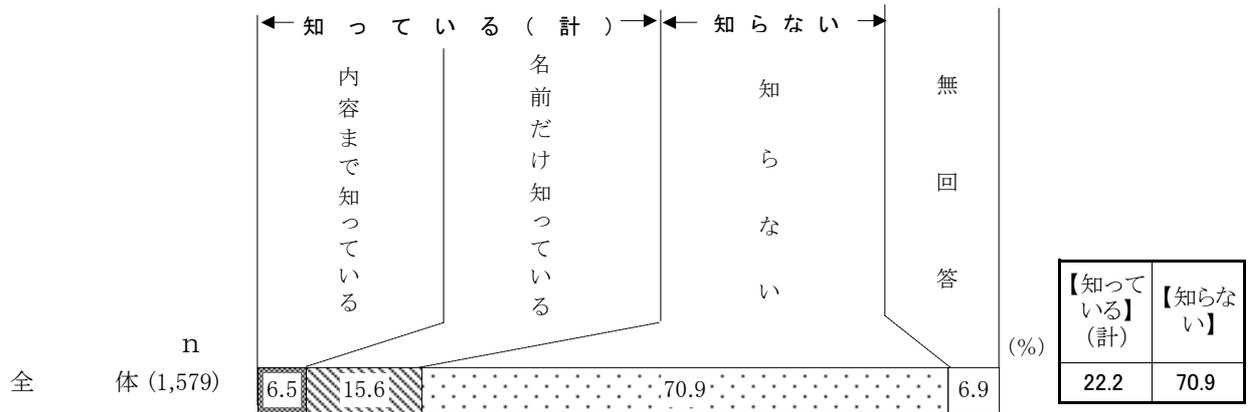
また、同項目をライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別でみると図4-4-3のとおりである。

ライフステージ別では、「家族成長前期」で《知っている》が45.7%と最も高く、「家族成長後期」でも39.4%と4割弱を示す一方、「独身期」や「家族形成期」では「知らない」が9割を超えている。

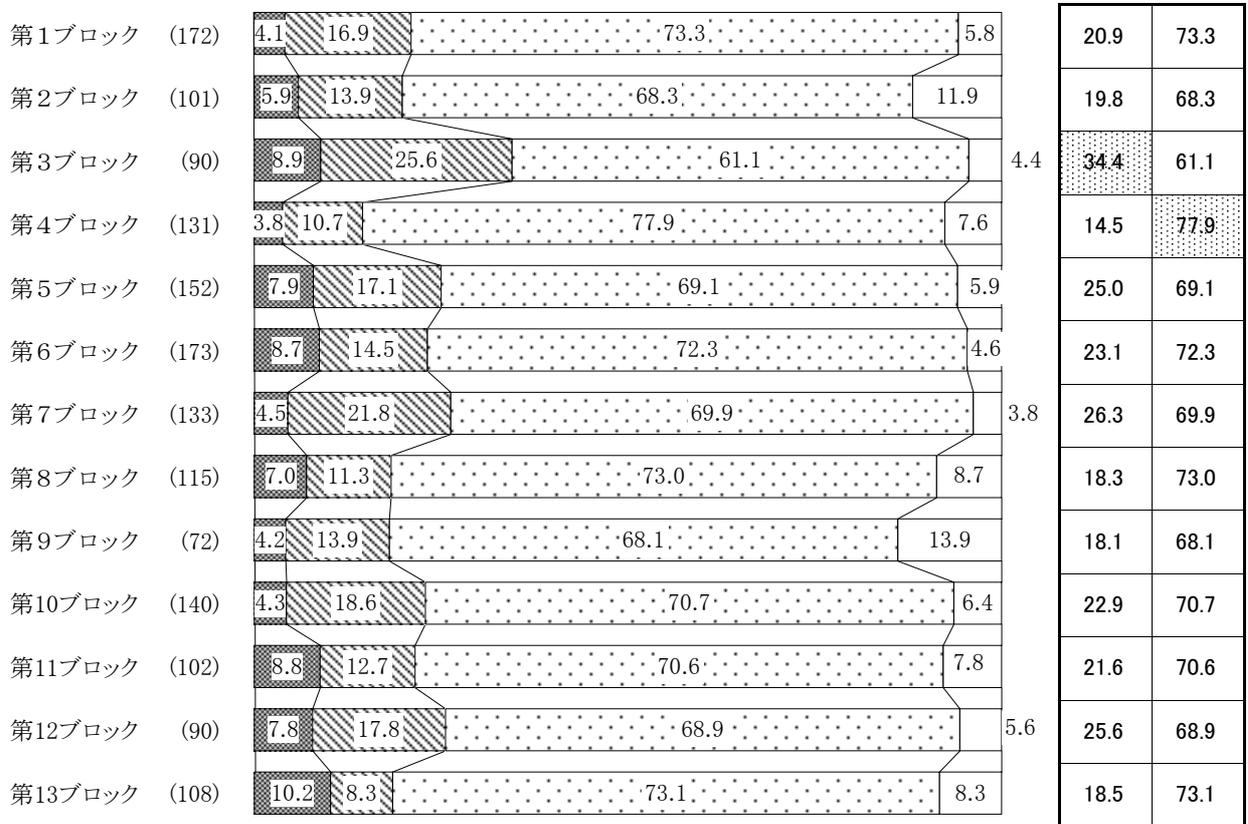
居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ、認知率が上昇する傾向があり、「10～20年未満」では《知っている》の割合が25.0%で最も高い。一方、「1年未満」では「知らない」が9割にのぼる。また、小・中学校教育への関心度別では、関心が強いほど認知率も高くなり、「非常に関心がある」では《知っている》が33.5%で最も高い。

図 4 - 4 - 1 教育施策の認知度（地域ブロック別）

(ア)魚沼自然教室



〈地域ブロック別〉



ブロック区分

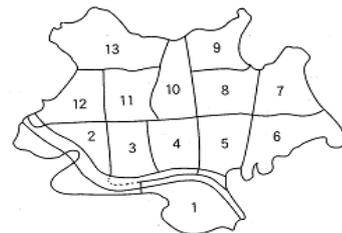


図 4 - 4 - 2 教育施策の認知度（性・年代別）

(ア)魚沼自然教室

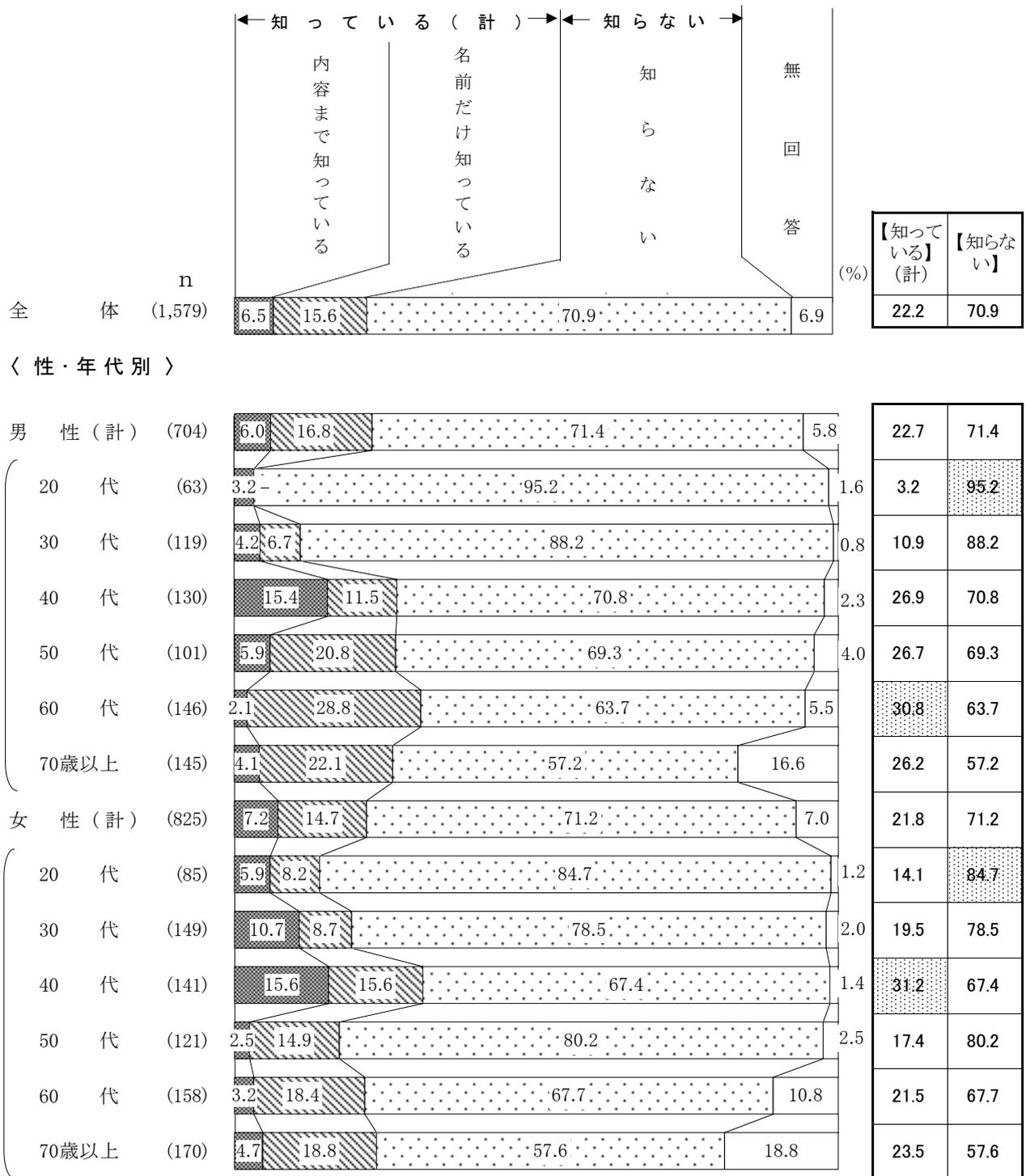
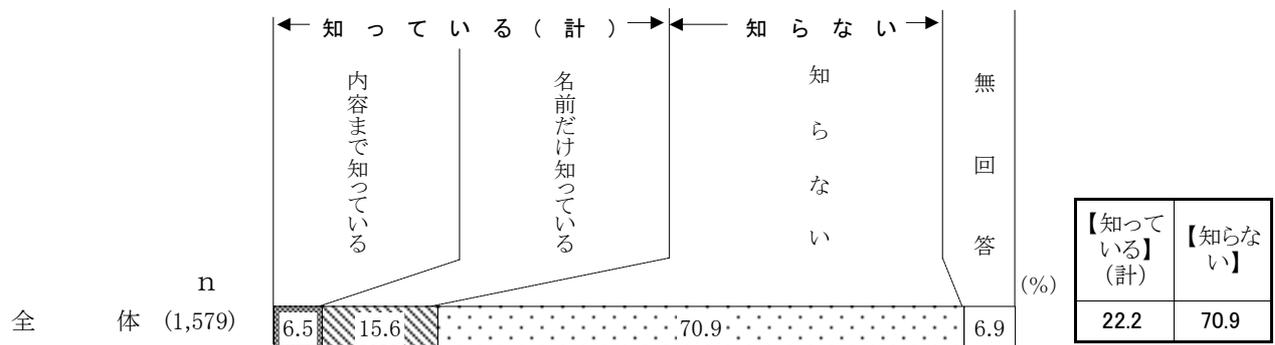
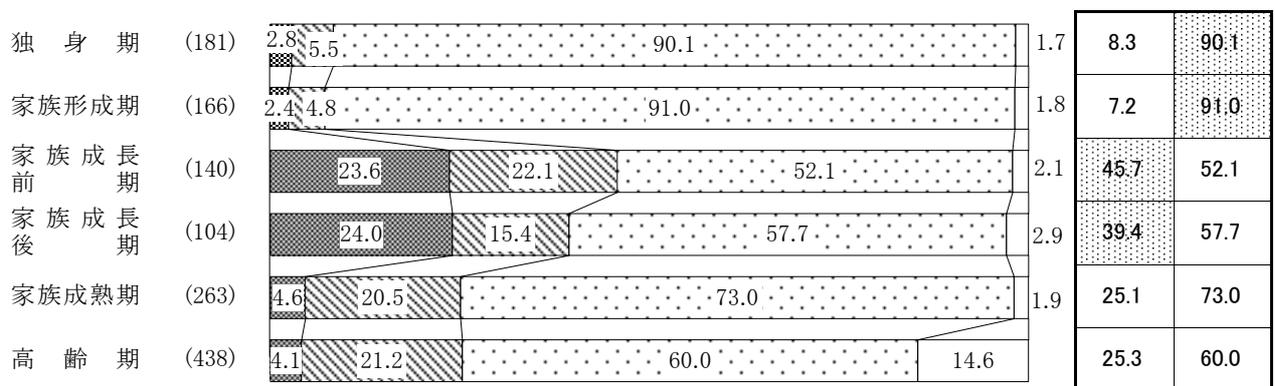


図 4-4-3 教育施策の認知度（ライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別）

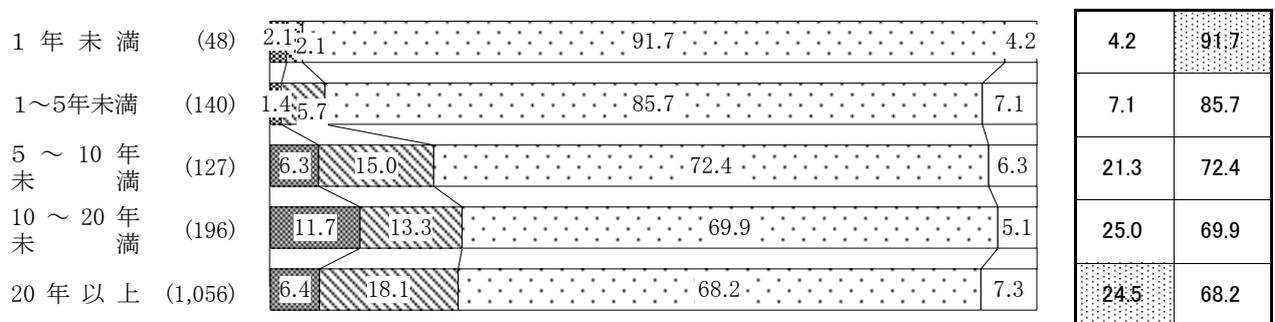
(ア)魚沼自然教室



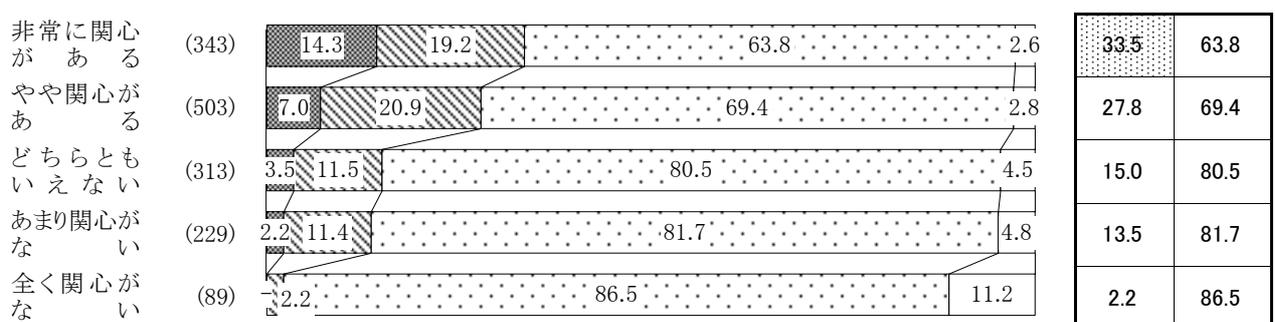
〈 ライフステージ別 〉



〈 居住年数別 〉



〈 小・中学校教育への関心度別 〉

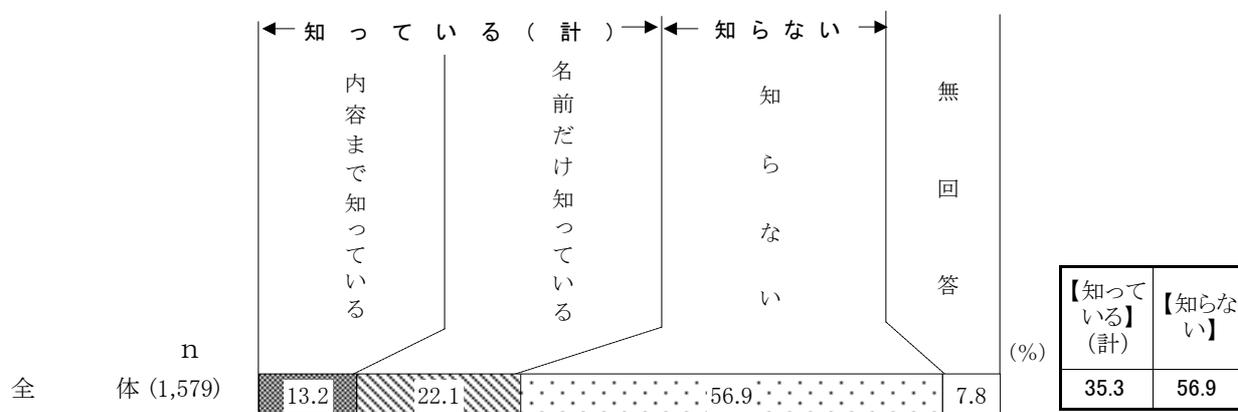


「(イ)放課後子ども教室」の認知度を地域ブロック別で見ると図4-4-4のとおりである。

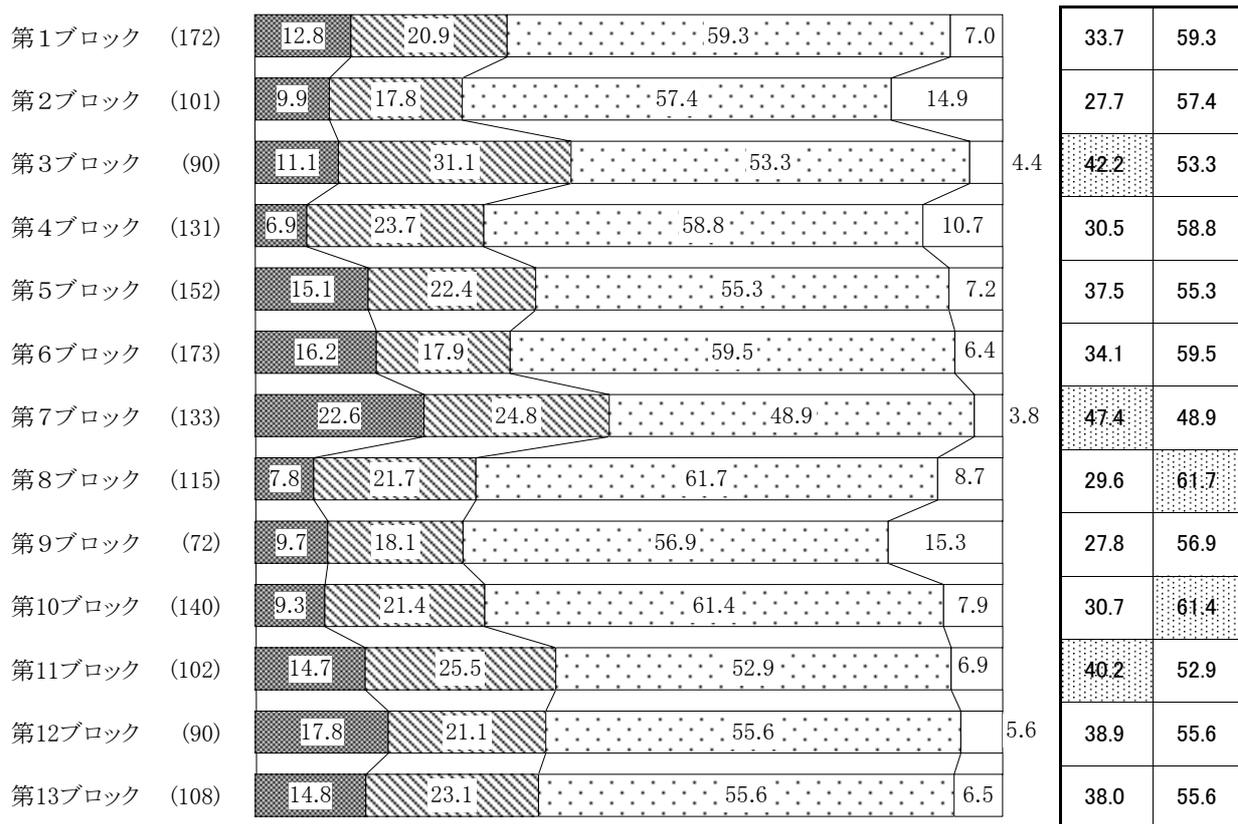
「(イ)放課後子ども教室」は、第7ブロックで《知っている》が47.4%と最も高く、第3、第11ブロックでも4割を超えている。一方、第8、第10ブロックでは「知らない」が6割を超えている。

図 4 - 4 - 4 教育施策の認知度（地域ブロック別）

(イ)放課後子ども教室



〈地域ブロック別〉



ブロック区分

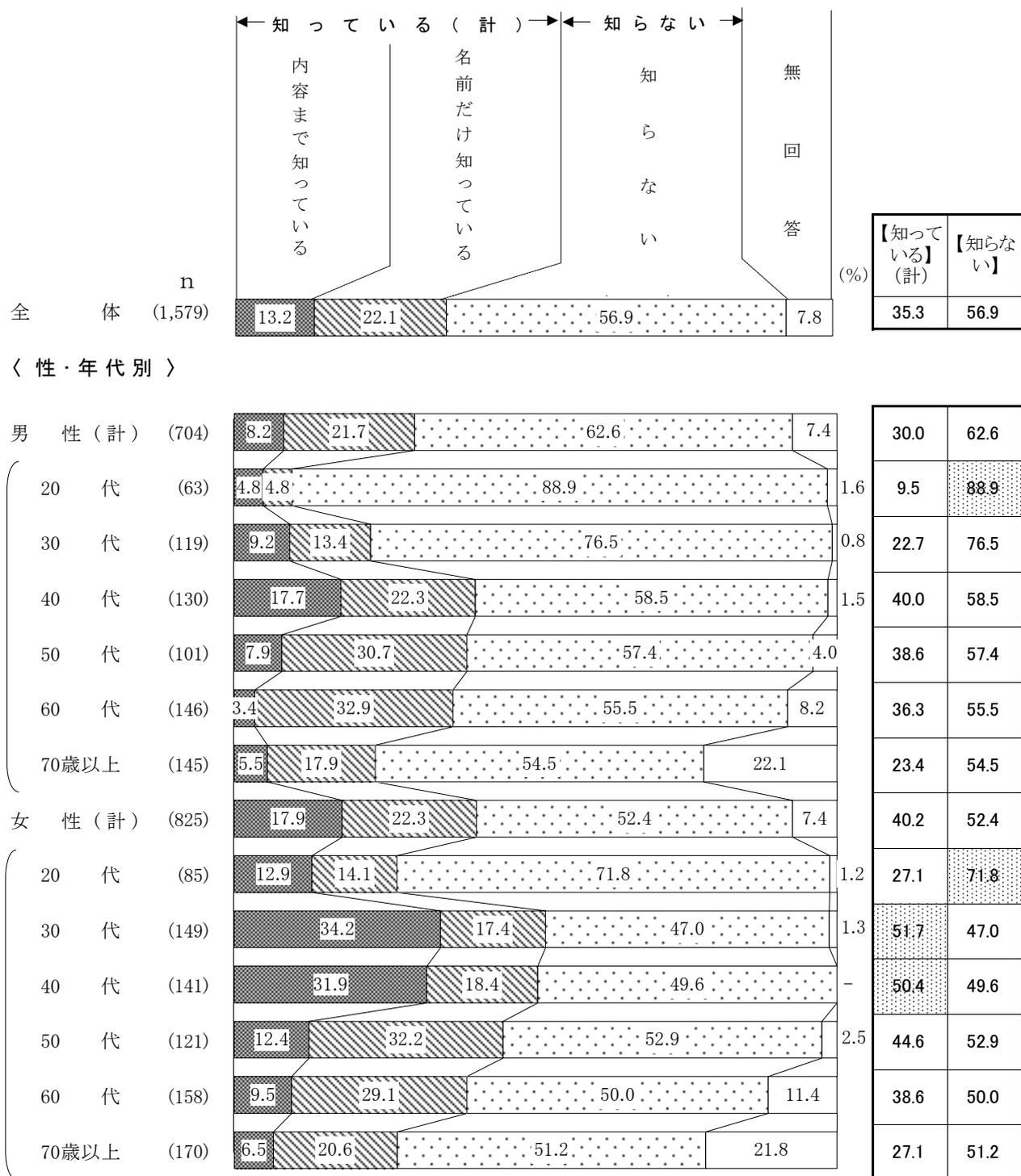


「(イ)放課後子ども教室」の認知度を性・年代別でみると図4-4-5のとおりである。

全体的に女性の方が男性よりも認知率が高く、女性の中では30代で51.7%と最も高く、40代でも50.4%と5割を超えている。一方、男女とも20代で「知らない」が最も高く、それぞれ88.9%と71.8%を示している。

図 4 - 4 - 5 教育施策の認知度（性・年代別）

(イ)放課後子ども教室

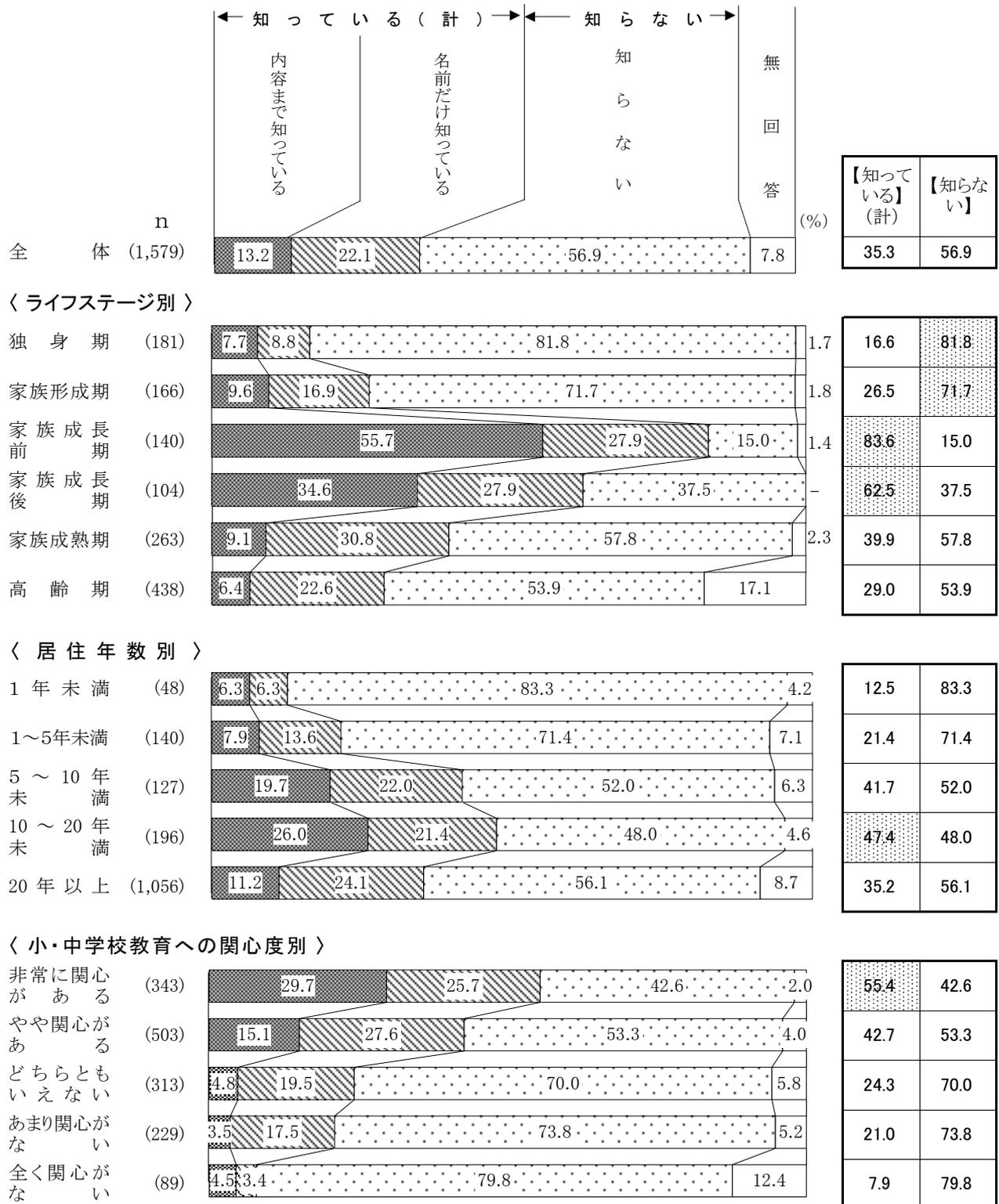


「(イ)放課後子ども教室」の認知度をライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別でみると図4-4-6のとおりである。ライフステージ別では、「家族成長前期」で《知っている》が83.6%と最も高く、「家族成長後期」でも62.5%と6割を超える一方、「独身期」や「家族形成期」では「知らない」が7割から8割にのぼっている。

居住年数別では、「10～20年未満」で《知っている》が47.4%と最も高い。また、小・中学校教育への関心度別では、関心が強いほど認知率も高くなり、「非常に関心がある」では《知っている》が5割を超えている。

図 4-4-6 教育施策の認知度（ライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別）

(イ)放課後子ども教室

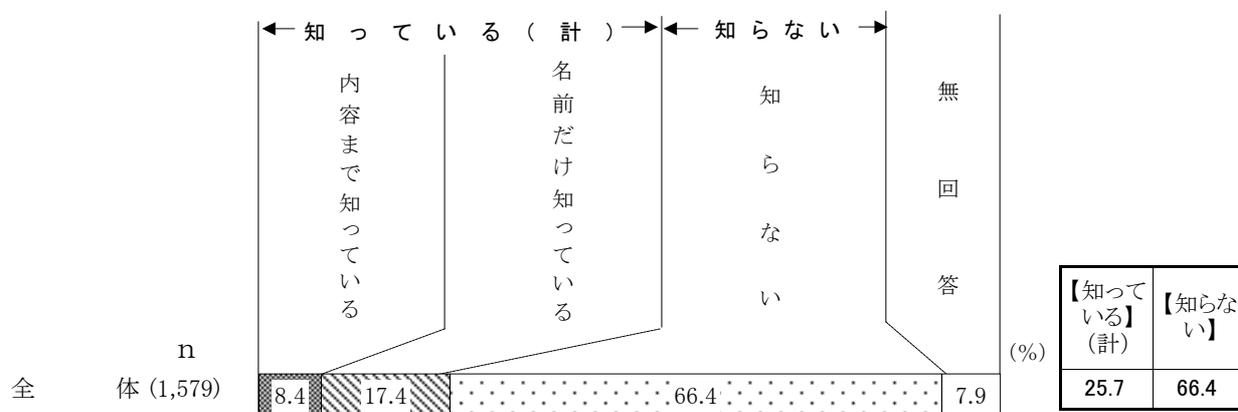


「(ウ)おいしい給食の取り組み」の認知度を地域ブロック別でみると図4-4-7のとおりである。

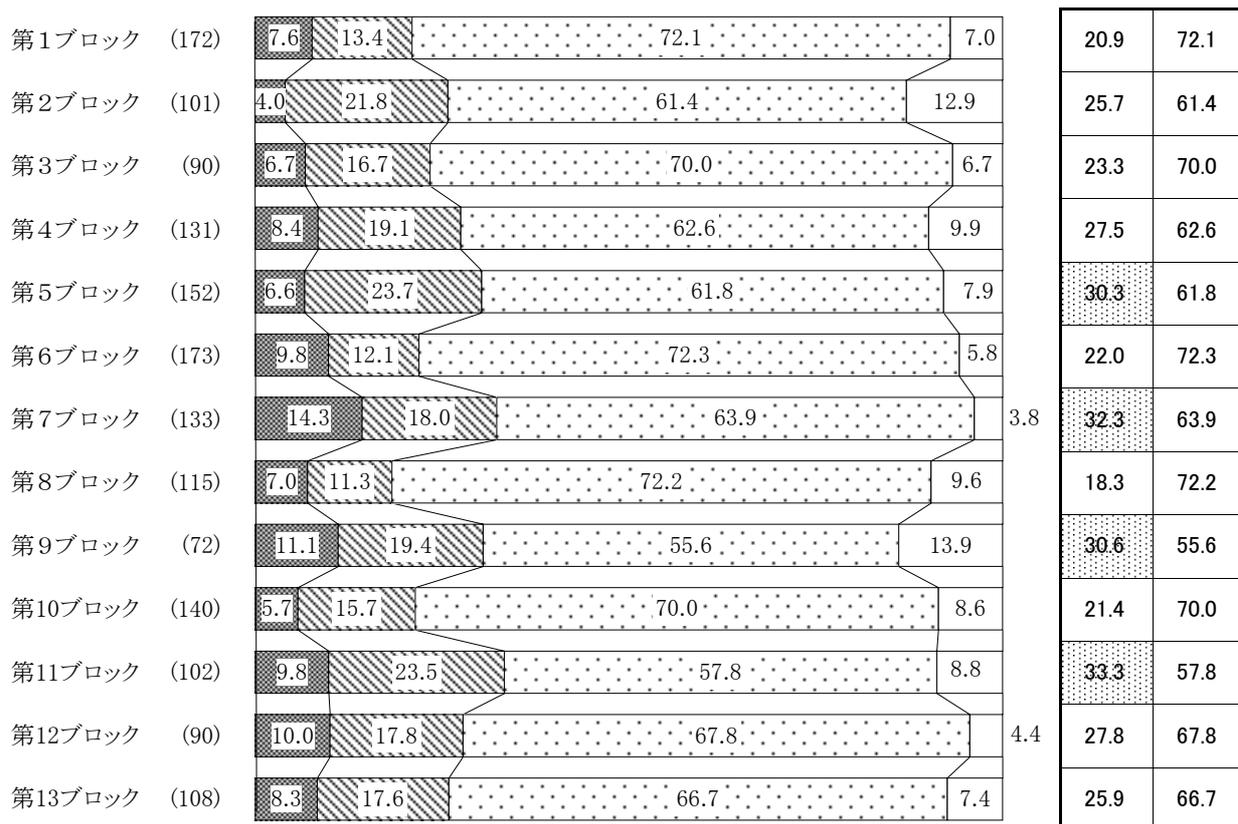
「(ウ)おいしい給食の取り組み」では、第11ブロックで《知っている》が33.3%と最も高く、第5、第7、第9ブロックでも3割を超えている。

図 4 - 4 - 7 教育施策の認知度 (地域ブロック別)

(ウ)おいしい給食の取り組み



〈地域ブロック別〉



ブロック区分

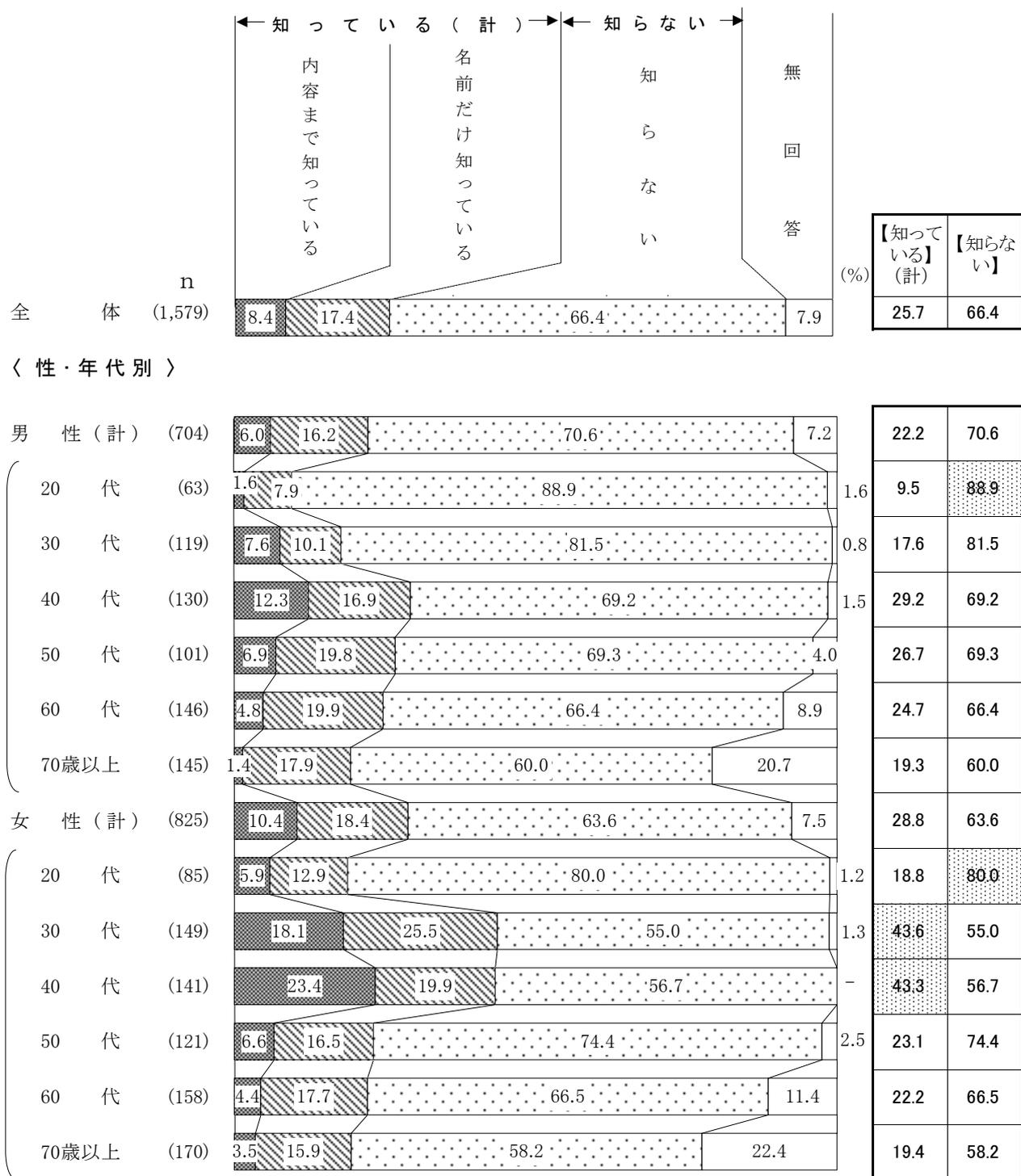


「(ウ)おいしい給食の取り組み」の認知度を性・年代別で見ると図4-4-8のとおりである。

全体的に女性の方が男性よりも認知率が高い傾向があり、女性では30代で43.6%と最も高く、40代でも43.3%と4割を超えており、高くなっている。一方、男女とも20代で「知らない」が最も高く、それぞれ88.9%と80.0%を示している。

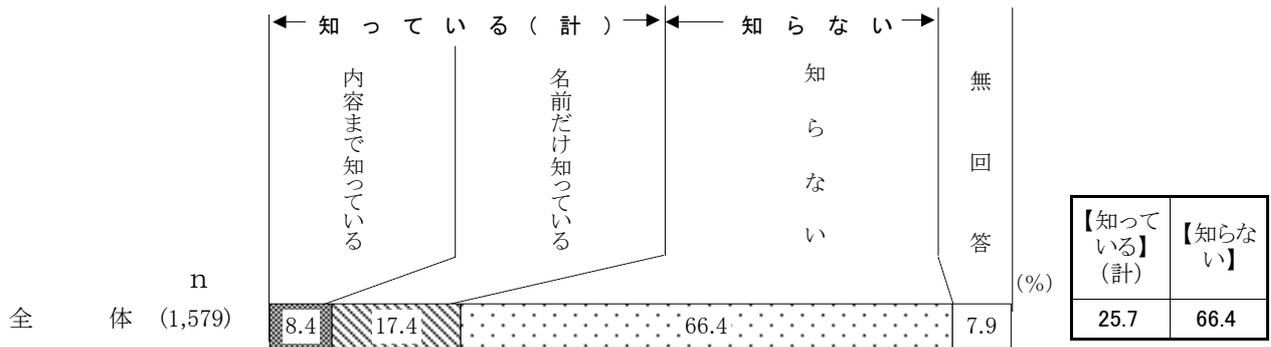
図 4 - 4 - 8 教育施策の認知度（性・年代別）

(ウ)おいしい給食の取り組み

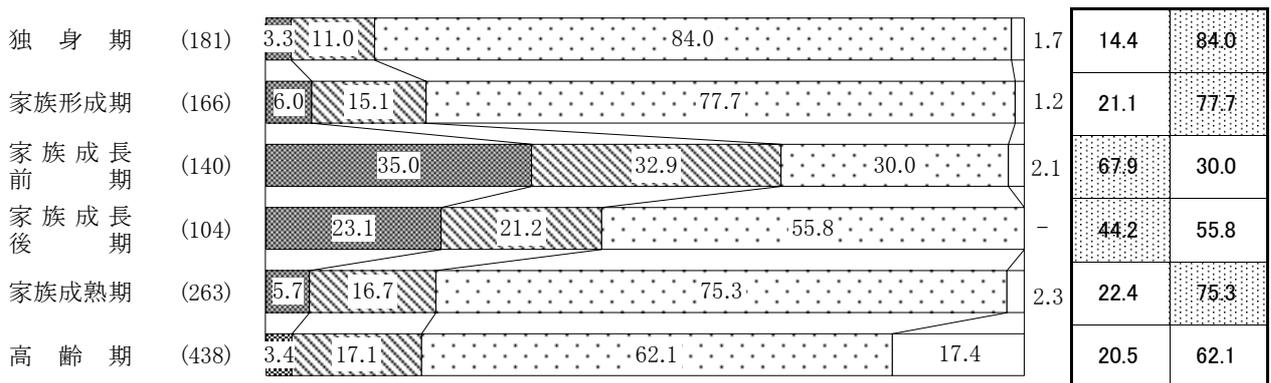


「(ウ)おいしい給食の取り組み」の認知度をライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別でみると図4-4-9のとおりである。ライフステージ別では、「家族成長前期」で《知っている》が67.9%と最も高く、「家族成長後期」でも4割を超えている。さらに、「家族成長前期」では「内容まで知っている」が3割を超え、高い理解度がうかがえる。一方、「独身期」「家族形成期」「家族成熟期」では「知らない」が7割から8割にのぼっている。小・中学校教育への関心度別では、関心が強いほど認知率も高くなり、「非常に関心がある」では《知っている》が45.8%で最も高くなっている。

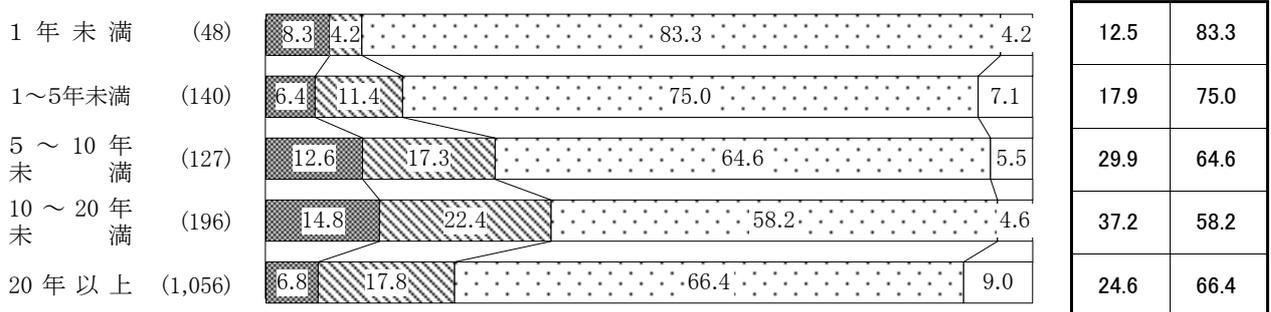
図 4-4-9 教育施策の認知度（ライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別）
(ウ)おいしい給食の取り組み



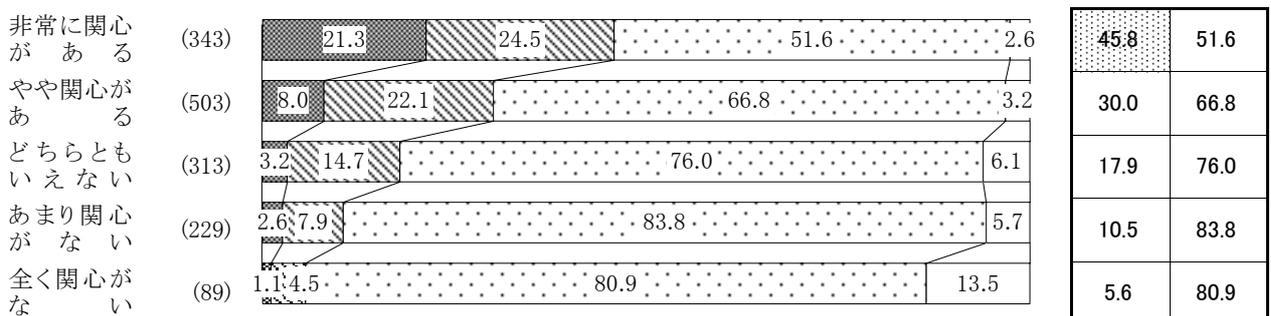
〈ライフステージ別〉



〈居住年数別〉



〈小・中学校教育への関心度別〉

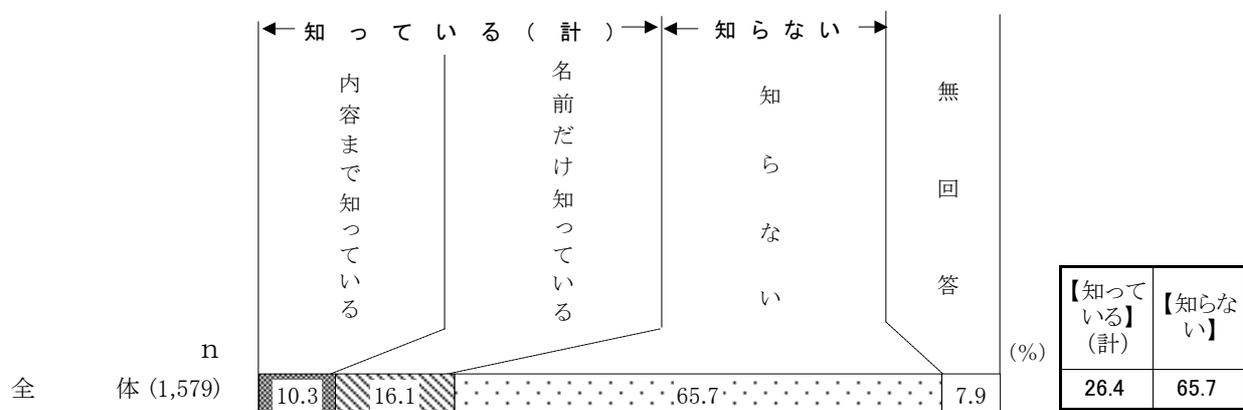


「(エ)開かれた学校づくり協議会」の認知度を地域ブロック別で見ると図4-4-10のとおりである。

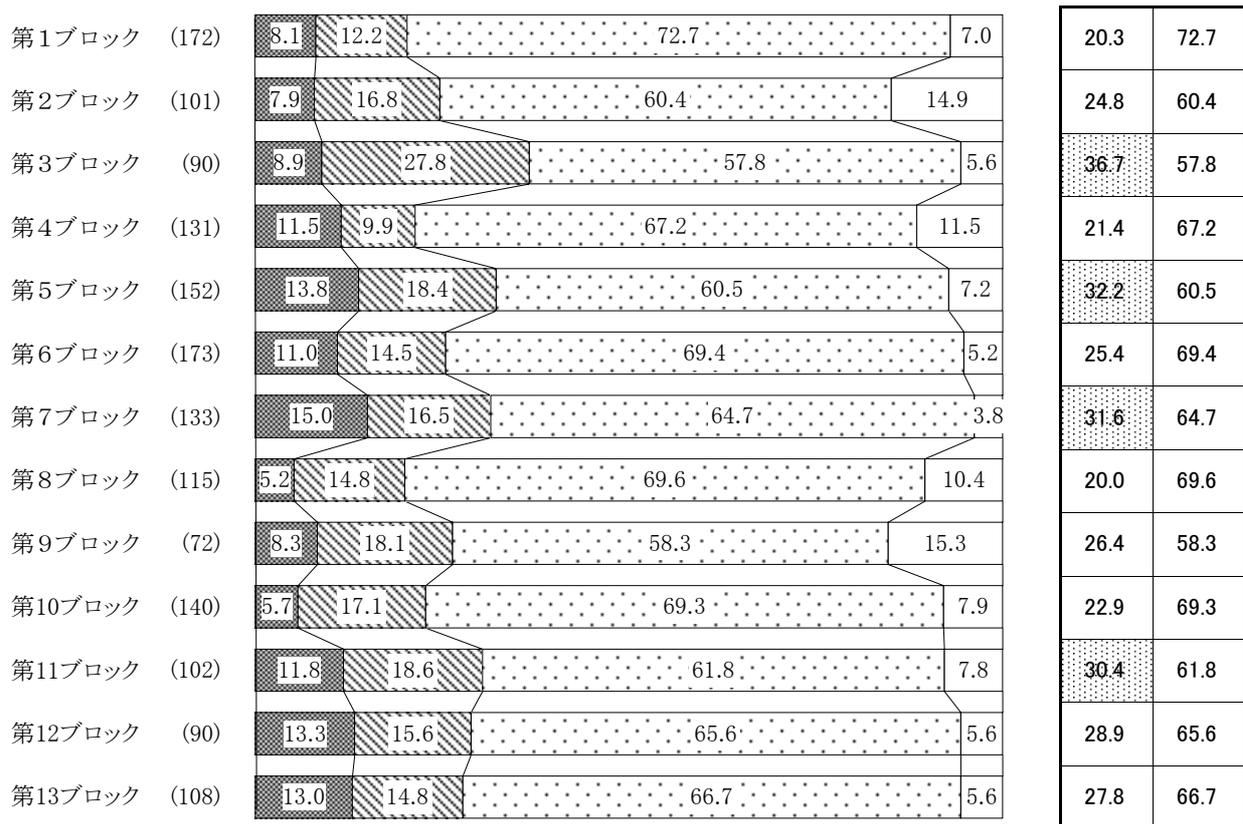
「(エ)開かれた学校づくり協議会」では、第3ブロックで《知っている》が36.7%と最も高く、第5、第7、第11ブロックでも3割を超えている。

図 4 - 4 - 1 0 教育施策の認知度（地域ブロック別）

(エ)開かれた学校づくり協議会



〈地域ブロック別〉



ブロック区分

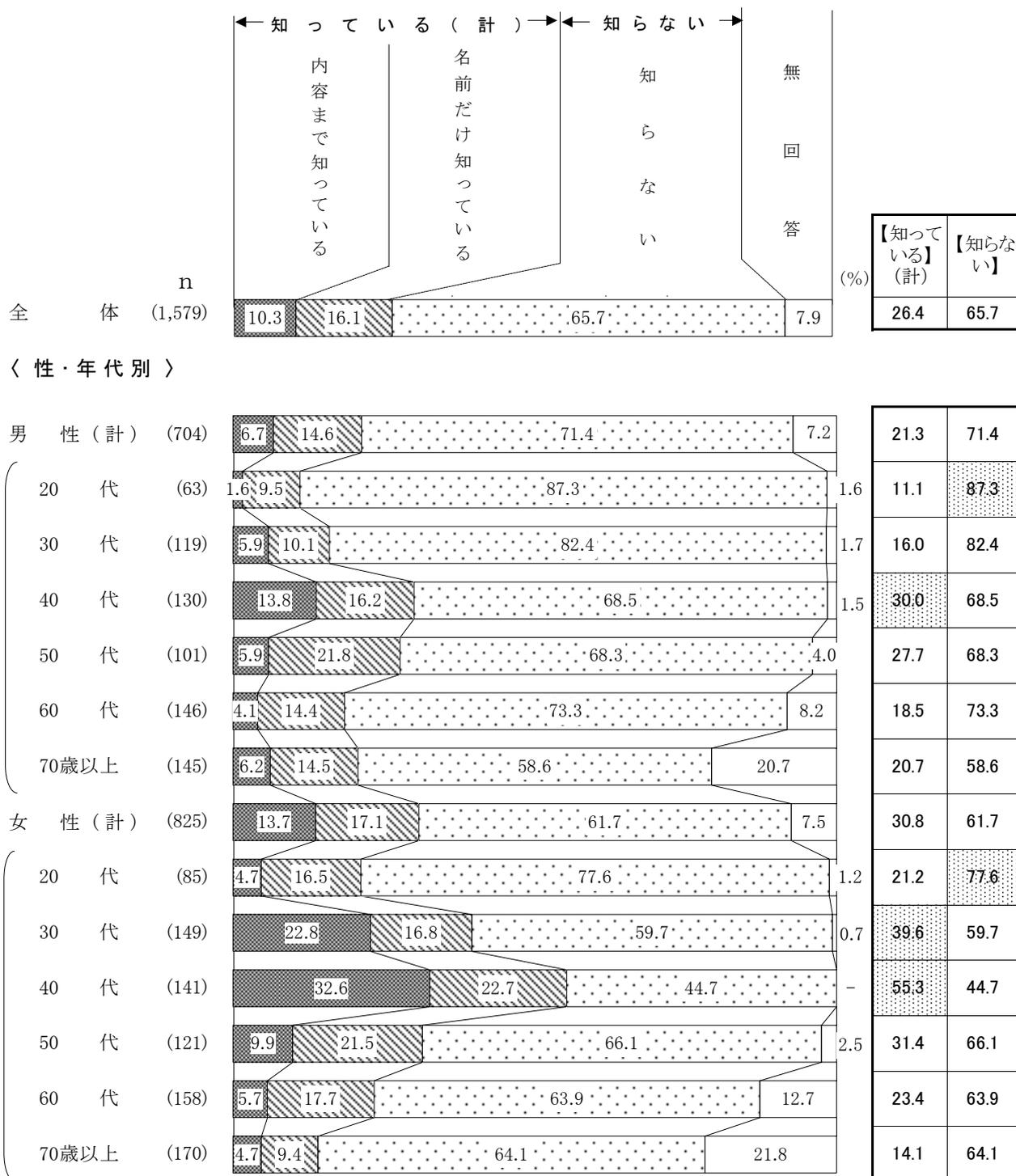


「(エ)開かれた学校づくり協議会」の認知度を性・年代別で見ると図4-4-11のとおりである。

全体的に女性の方が男性よりも認知率が高い傾向にあり、女性では40代で《知っている》が55.3%と最も高く、30代でも39.6%と4割弱を示し、高くなっている。男性では40代で30.0%と最も高くなっている。一方、男女とも20代で「知らない」が最も高く、それぞれ87.3%と77.6%を示している。

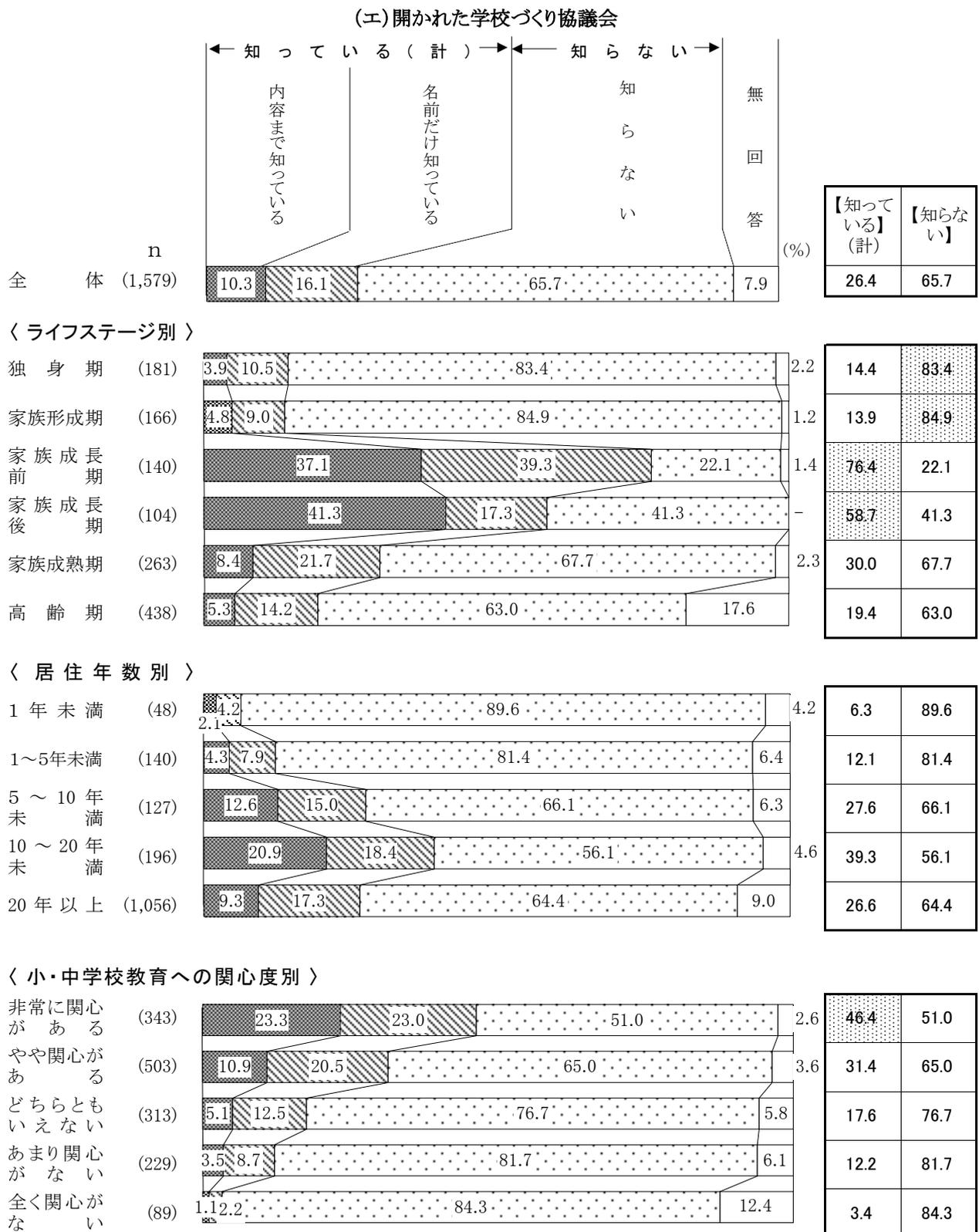
図 4 - 4 - 1 1 教育施策の認知度（性・年代別）

(エ)開かれた学校づくり協議会



「(エ)開かれた学校づくり協議会」の認知度をライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別でみると図4-4-12のとおりである。ライフステージ別では、「家族成長前期」で《知っている》が76.4%と最も高く、「家族成長後期」でも6割弱を示している。また、「家族成長前期」「家族成長後期」とも「内容まで知っている」が4割前後を示しており、高い理解度がうかがえる。一方、「独身期」「家族形成期」では「知らない」が8割を超えている。小・中学校教育への関心度別では、関心が強いほど認知率も高くなり、「非常に関心がある」では《知っている》が46.4%と最も高くなっている。

図 4-4-12 教育施策の認知度（ライフステージ、居住年数、小・中学校教育への関心度別）



5 郷 土 博 物 館

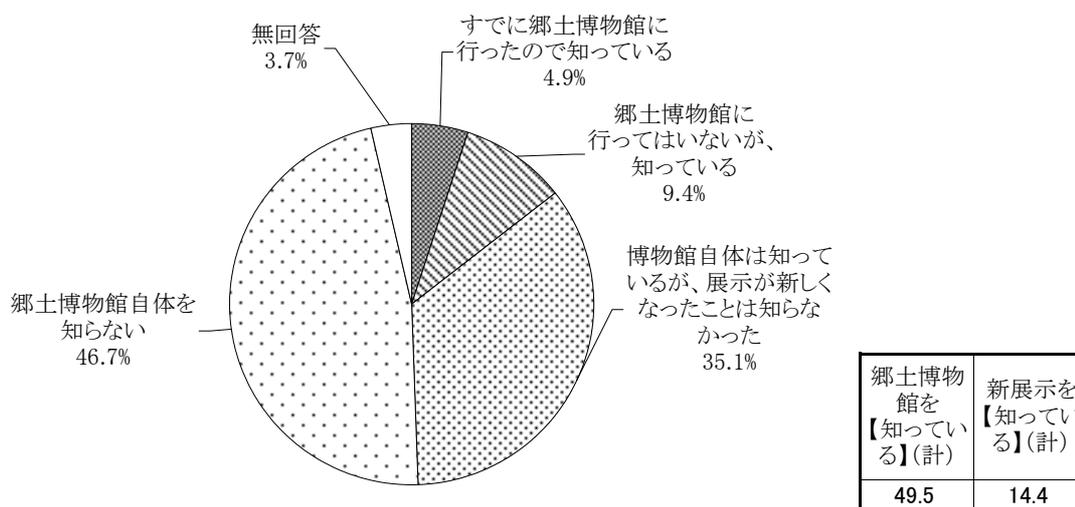
-
- (1) 「郷土博物館」における新展示の認知度
 - (2) 今後期待する郷土博物館の事業
-

5 郷土博物館

(1) 「郷土博物館」における新展示の認知度

■ 新展示を知っている者は1割程度

問20 郷土博物館は、平成20（2008）年に、宿場模型や祭りの山車を飾っていた展示から、パソコンを置いたホールや都営住宅模型の展示などへ新しくしましたが、ご存知ですか。（○は1つだけ）



(n=1,579)

「郷土博物館」における新展示について、「すでに郷土博物館に行ったので知っている」は4.9%、「郷土博物館には行っていないが、知っている」は9.4%であり、これらをあわせた新展示自体の認知率は14.4%となっている。さらに「博物館自体は知っているが、展示が新しくなったことは知らなかった」（35.1%）をあわせた、博物館自体の認知率は49.5%となり、区民の5割弱が郷土博物館を認知していることが示されている。

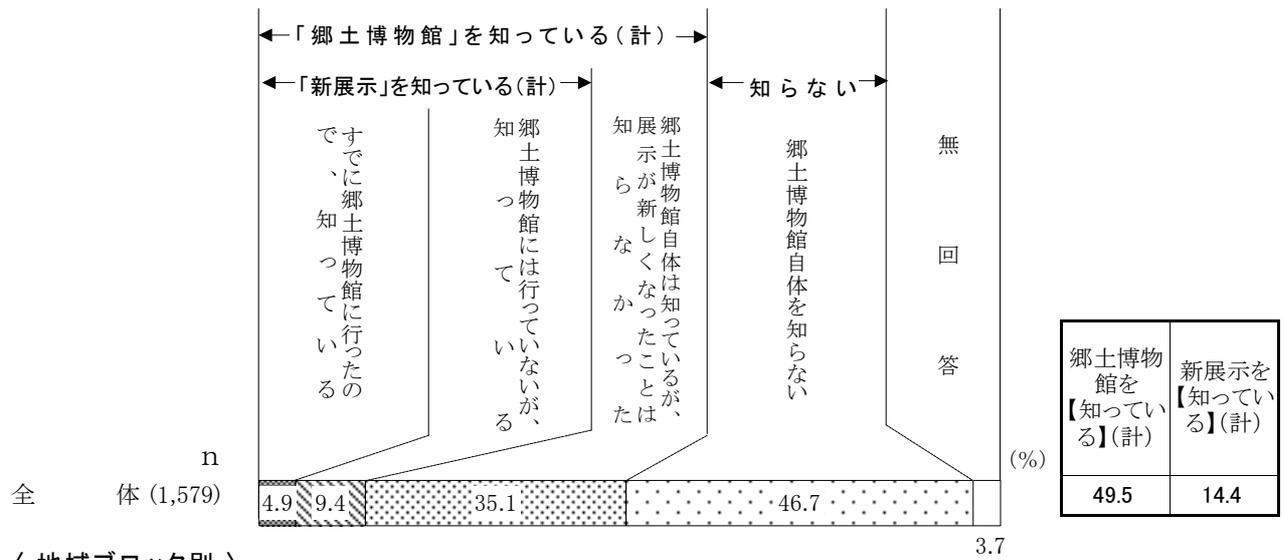
地域ブロック別でみると図5-1-1のとおりである。

《新展示について知っている》では、第7ブロックが25.6%で最も高く、次いで第6ブロックにおいても21.4%と2割を超えて高くなっている。また、《郷土博物館について知っている》においても、第7ブロックで91.7%と9割を超え、突出して高い。これは、郷土博物館が第7ブロック内にあるという地理的要因によるものと考えられる。

性・年代別でみると図5-1-2のとおりである。

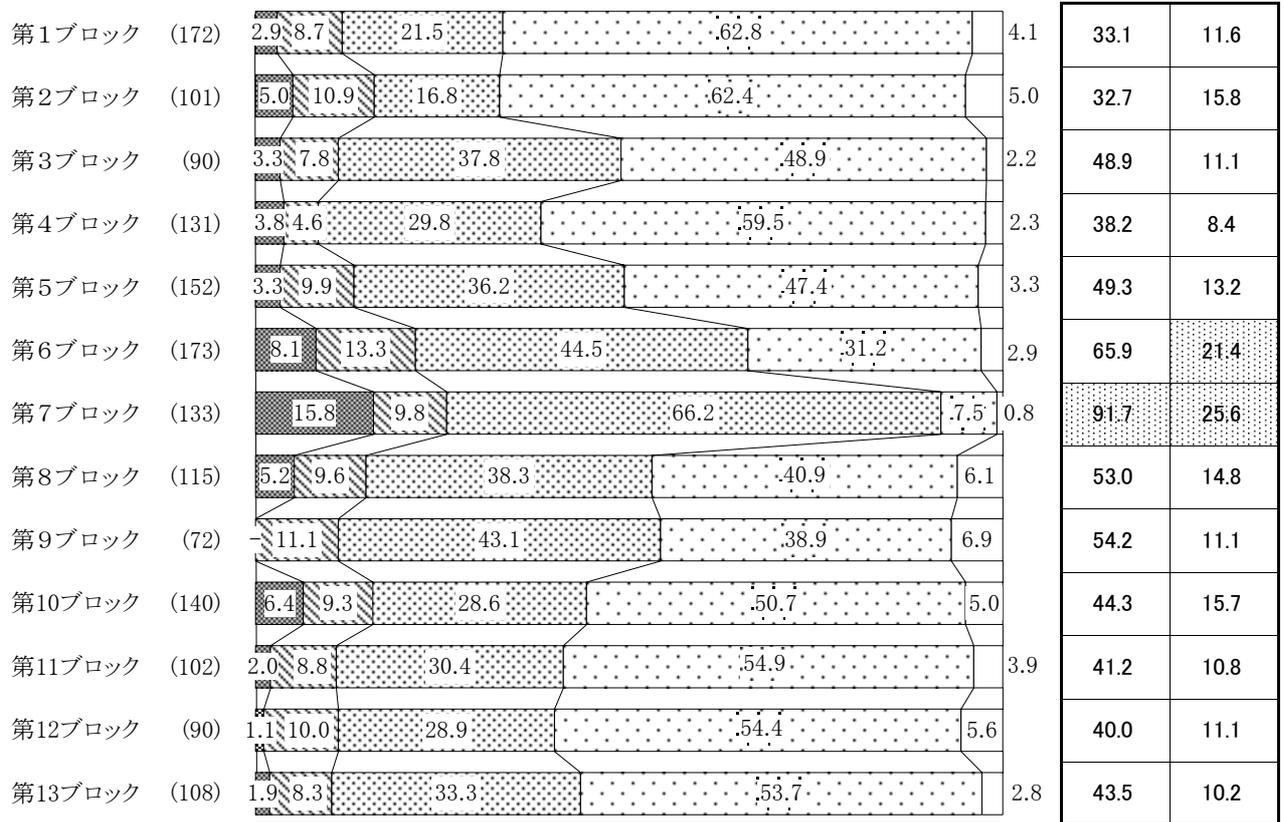
《新展示について知っている》は、男女ともに70歳以上がそれぞれ最も高く、男性70歳以上では17.9%、女性70歳以上では22.4%となっている。《郷土博物館について知っている》では女性40代の61.0%が全世代の中で最も高く、男性の中では70歳以上の54.5%が最も高くなっている。

図 5-1-1 「郷土博物館」新展示の認知度（地域ブロック別）



全体 (1,579)

〈地域ブロック別〉



ブロック区分

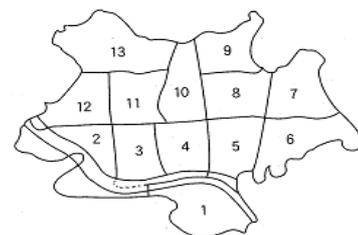
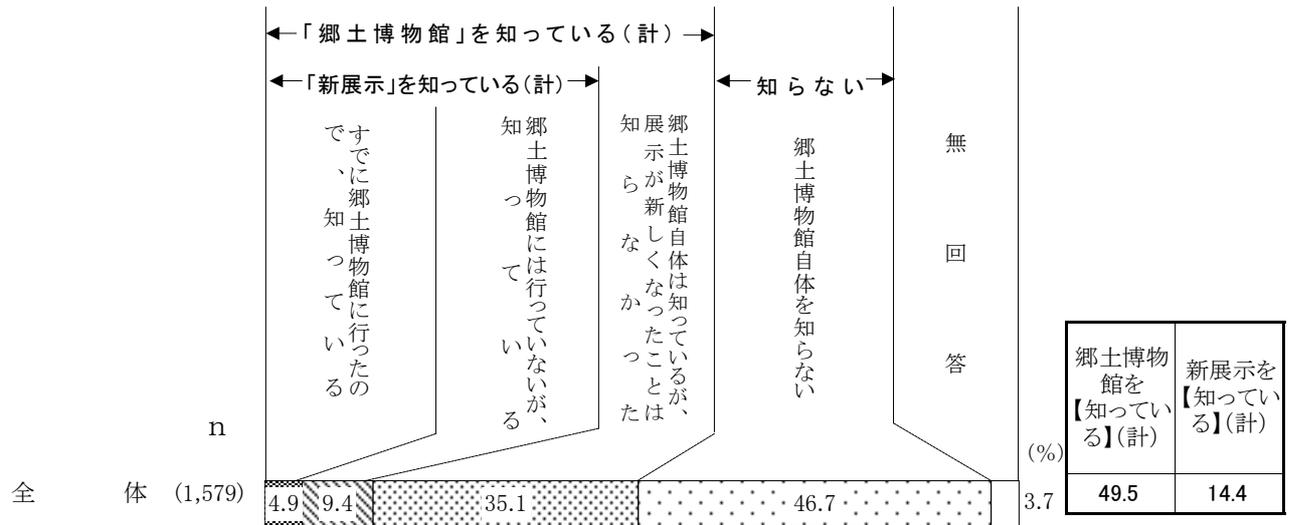
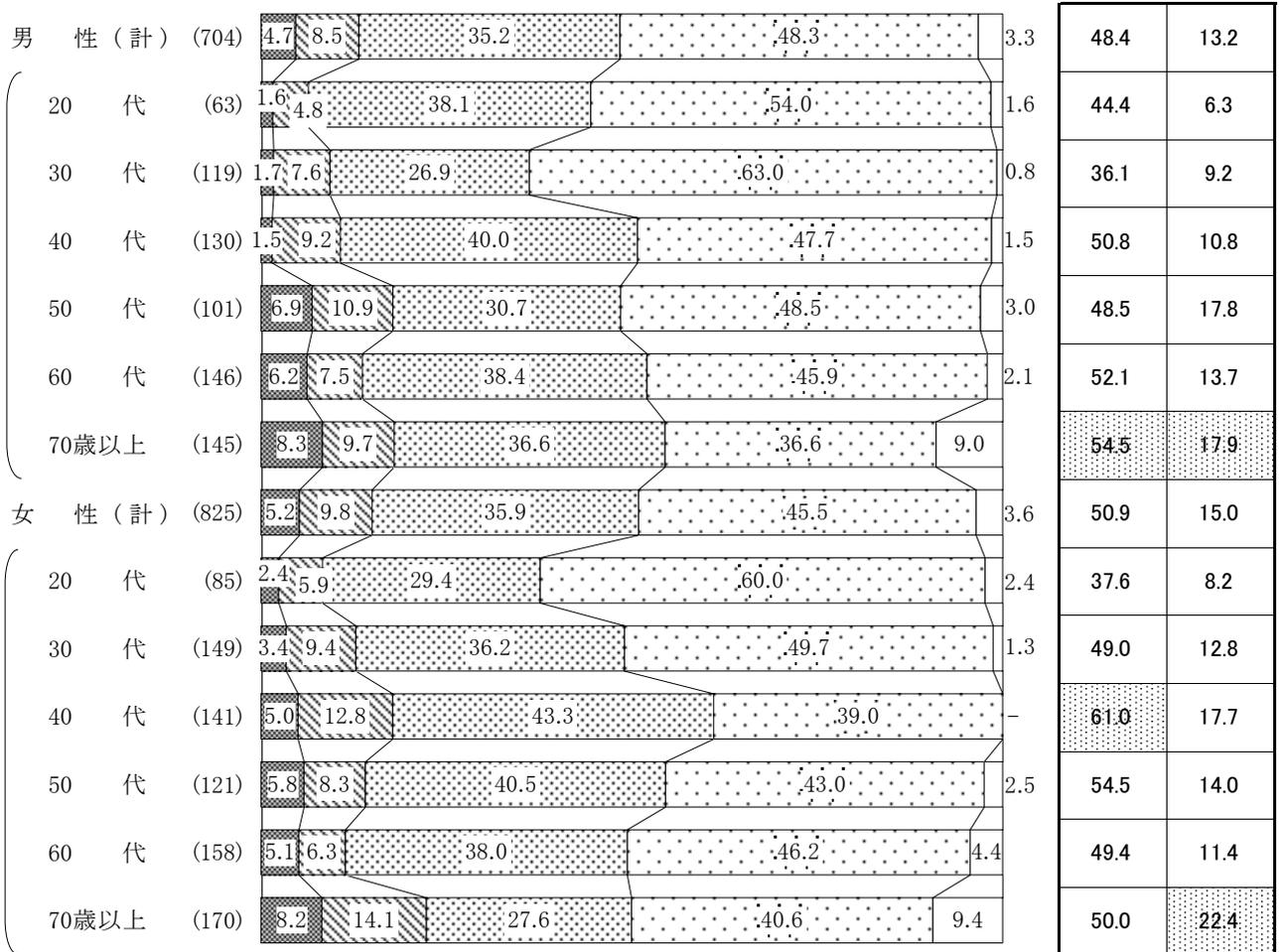


図 5-1-2 「郷土博物館」新展示の認知度（性・年代別）

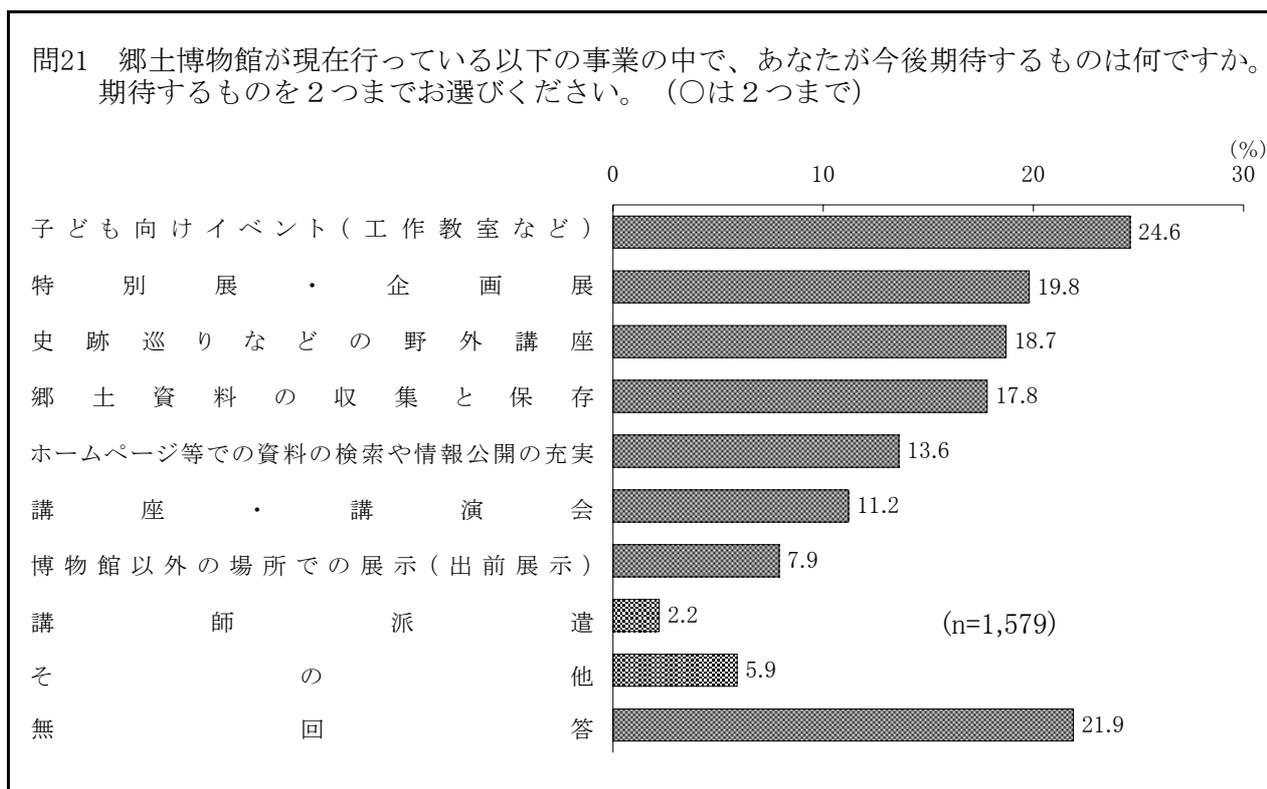


〈 性・年代別 〉



(2) 今後期待する郷土博物館の事業

■「子ども向けイベント(工作教室など)」が24.6%で最も高い



今後期待する博物館の事業では、「子ども向けイベント(工作教室など)」が24.6%で最も高く、次いで「特別展・企画展」が19.8%、「史跡巡りなどの野外講座」の18.7%、「郷土資料の収集と保存」が17.8%となっている。一方、「無回答」も21.9%にのぼり、これは特に期待するものがない層と解釈できる。上位6項目について地域ブロック別にみると、図5-2-1のとおりである。

「子ども向けイベント(工作教室など)」では、第2ブロックが33.7%と最も高く、第7ブロックが33.1%と続いている。また、「特別展・企画展」においては第7ブロックの30.1%が最も高く、唯一3割を超えている。

性・年代別にみると、図5-2-2のとおりである。

「子ども向けイベント(工作教室など)」では、全体的に男性より女性の方が割合が高く、女性の中では30代の51.0%が最も高く、20代の47.1%が続いている。また、男性の中でも30代を中心に、比較的若い世代の割合が高いことから、子どもをもつ親世代からの期待が高いことがうかがえる。「特別展・企画展」においては、男性50代が28.7%と最も高く、次いで男性40代、女性40代で高くなっている。「史跡巡りなどの野外講座」では、女性70歳以上の29.4%が最も高く、男性60代、女性60代でも割合が高いことから、比較的高年齢層での期待が高いことが示された。

ライフステージ別にみると、図5-2-3のとおりである。

「子ども向けイベント(工作教室など)」では、「家族成長前期」が69.3%と7割弱を示し、突出して高いことから、小中学校の子どもを持つ親からの要望の高さがうかがえる。「特別展・企画展」においては「家族成長後期」や「独身期」で3割前後、「史跡巡りなどの野外講座」においては「高齢期」が23.7%で最も高くなっている。

図 5-2-1 今後期待する郷土博物館の事業【上位6位】(地域ブロック別)

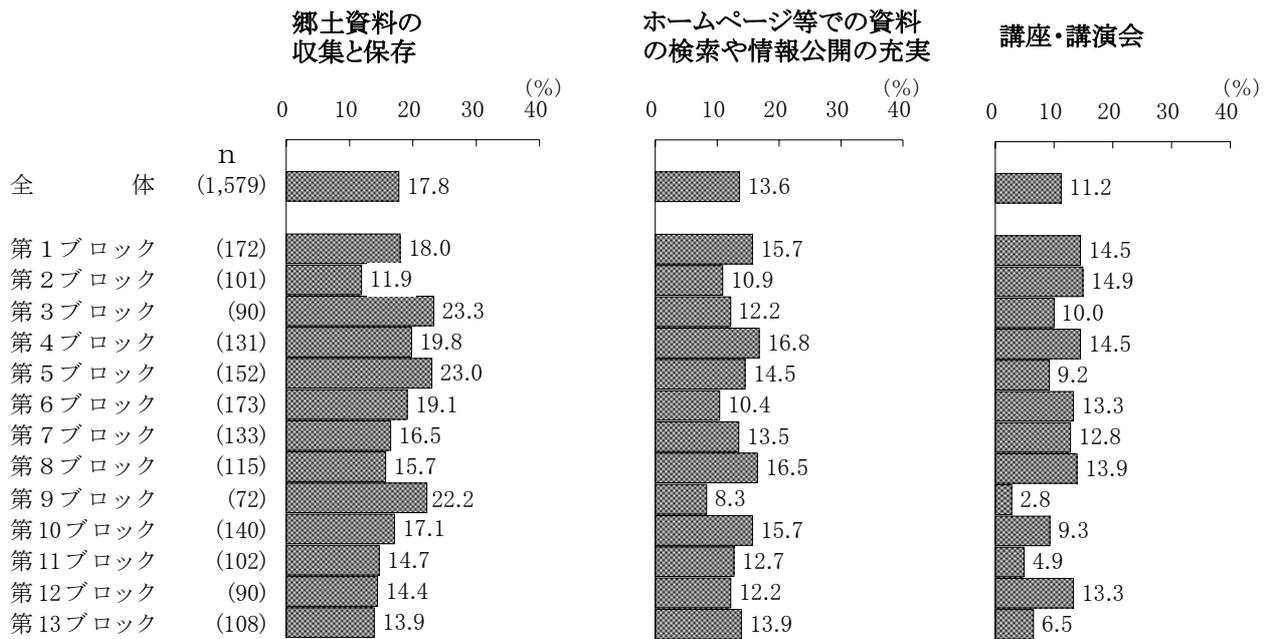
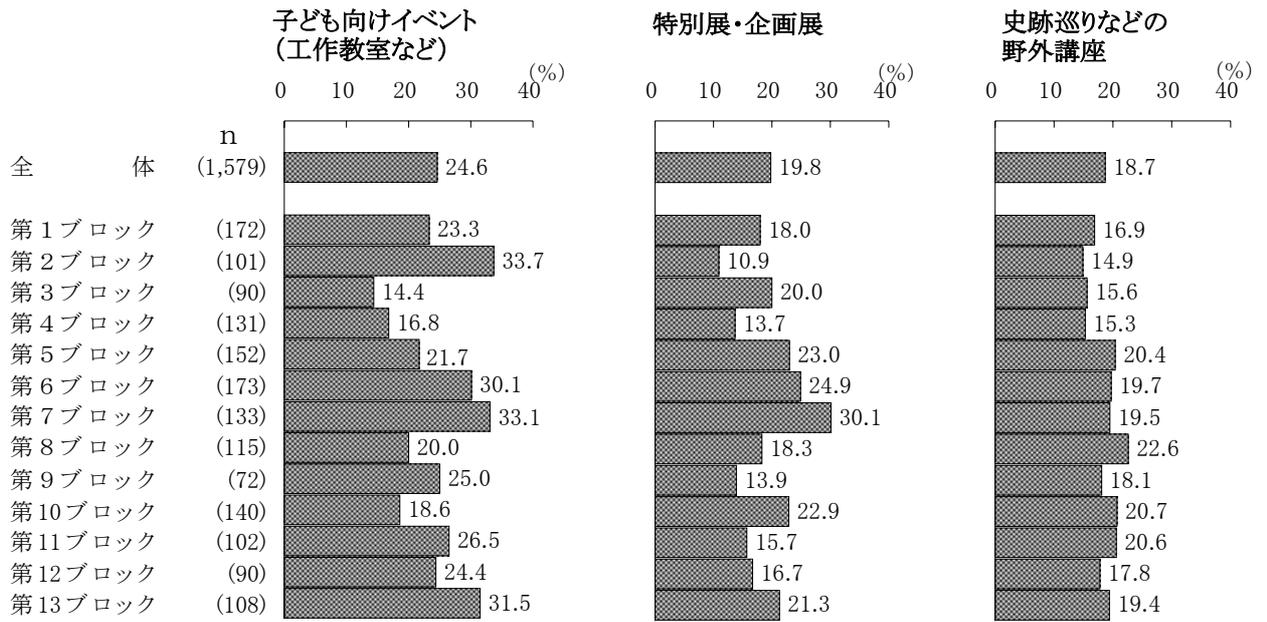


図 5-2-2 今後期待する郷土博物館の事業【上位6位】(性・年代別)

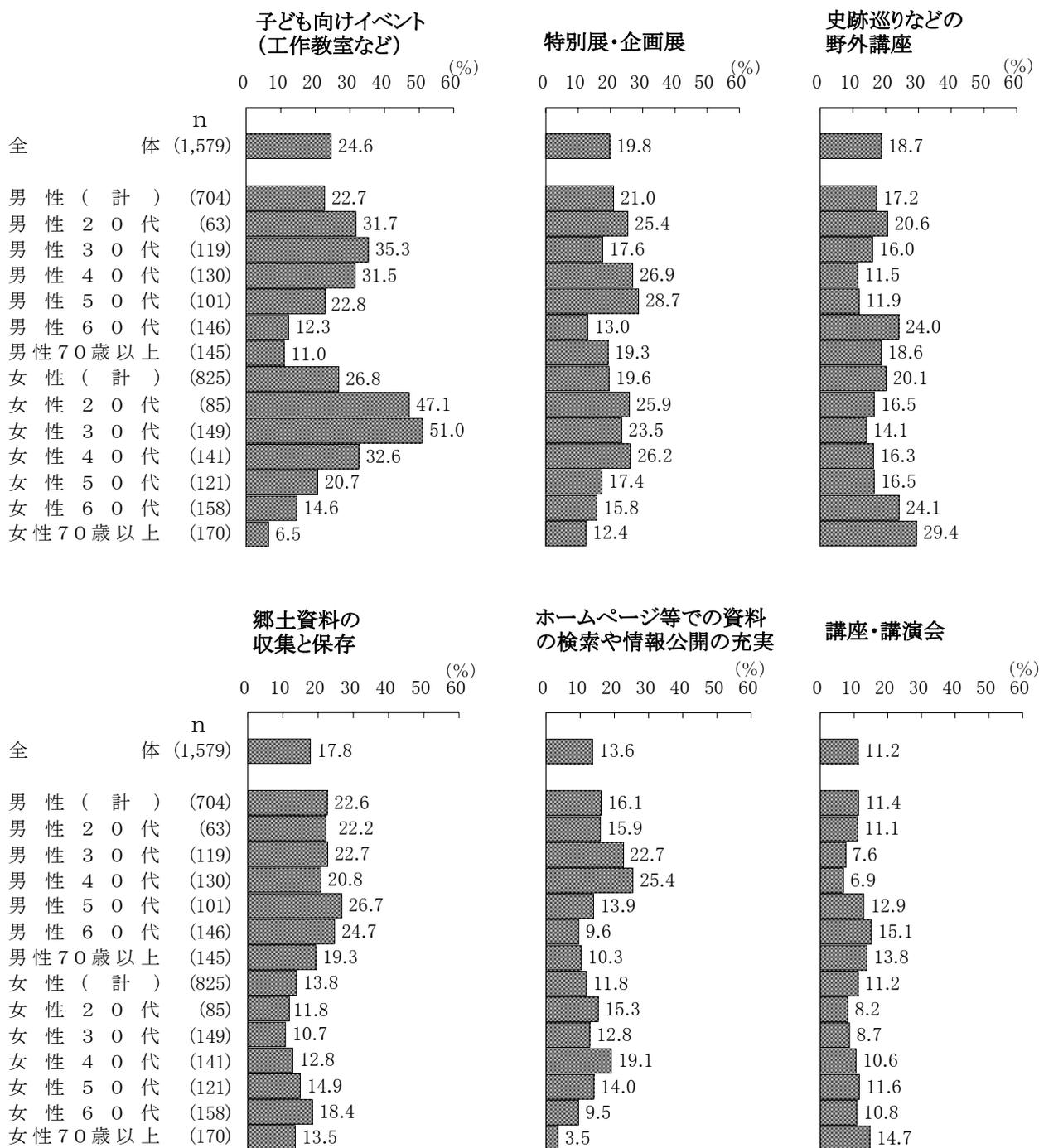
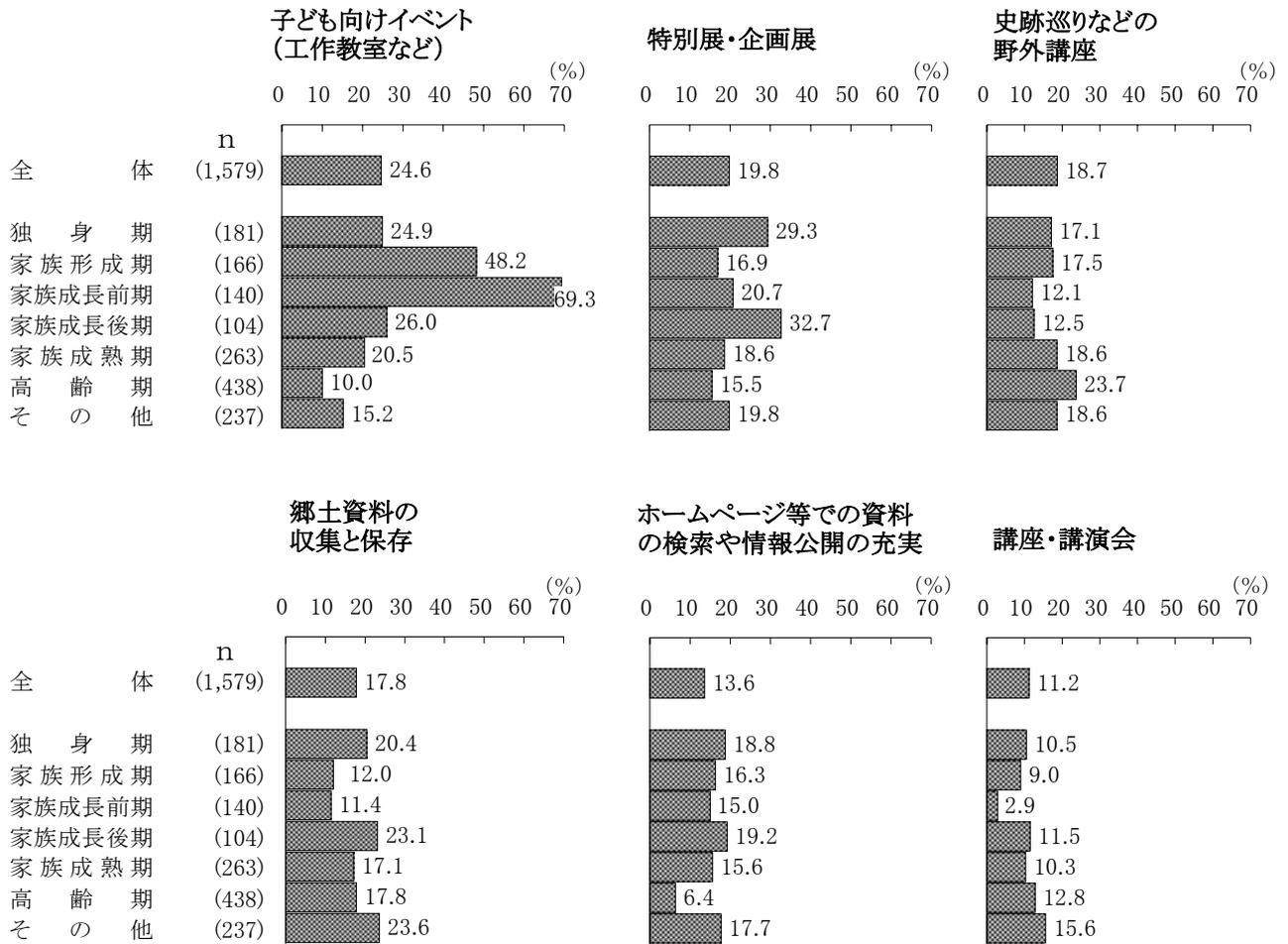


図 5-2-3 今後期待する郷土博物館の事業【上位6位】(ライフステージ別)



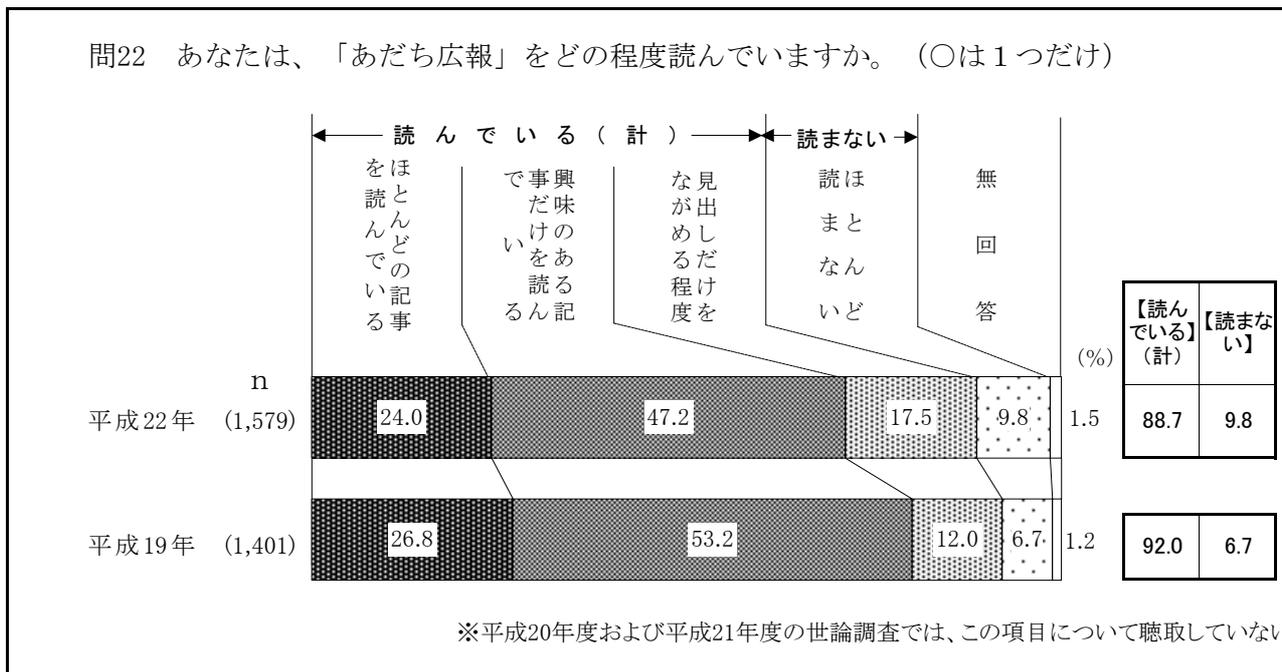
6 「あだち広報」

-
- (1) 「あだち広報」を読んでいる程度
 - (2) 「あだち広報」でよく読む内容
 - (3) 「あだち広報」の“読みやすさ”についての不満点
 - (4) 「あだち広報」で今後充実してほしい内容
 - (5) 今後期待する広報媒体
-

6 「あだち広報」

(1) 「あだち広報」を読んでいる程度

■ 88.7%の区民が「あだち広報」を読んでいる



「あだち広報」を読んでいる程度では、「興味のある記事だけを读んでいる」が47.2%で最も高く、「ほとんどどの記事を読んでいる」(24.0%)と「見出しだけをながめる程度」(17.5%)をあわせた《読んでいる》は88.7%となり、9割弱は「あだち広報」を何らかの形で读んでいる。

平成19年でも同様の項目について聞いており、結果を比較すると《読んでいる》は3.3ポイント下降、一方、「ほとんど読まない」は3.1ポイント上昇している。

性・年代別でみると図6-1-1のとおりである。

「ほとんどどの記事を読んでいる」は男女ともに年代が上がるにつれ割合が上昇する傾向にあり、男女ともに70歳以上で最も高く、女性70歳以上では41.8%と4割にのぼる。また、「ほとんど読まない」は若い世代になるほど割合が高くなる傾向があり、男女とも20代で最も高い。男性20代では39.7%となり4割弱はほとんど读んでいない。区政に対する満足度、定住意向、区政への参加意向別でみると図6-1-2のとおりである。区政に対する満足度別では、満足度が高い層ほど《読んでいる》割合は上昇する傾向が見られる。

定住意向別では、定住意向が強い層ほど《読んでいる》割合や「ほとんどどの記事を読んでいる」割合は上昇し、「ずっと住み続けたい」では「ほとんどどの記事を読んでいる」が31.1%にのぼっている。一方、「区外に転出したい」では「ほとんど読まない」が17.9%で最も高くなっている。

区政への参加意向別では、「積極的に参加・協力したい」や「ある程度は参加・協力したい」層では、《読んでいる》が9割程度となっている一方、「あまり参加・協力したくない」層では8割弱、「参加・協力したくない」層では7割に達していない。

図 6-1-1 「あだち広報」を読んでいる程度（性・年代別）

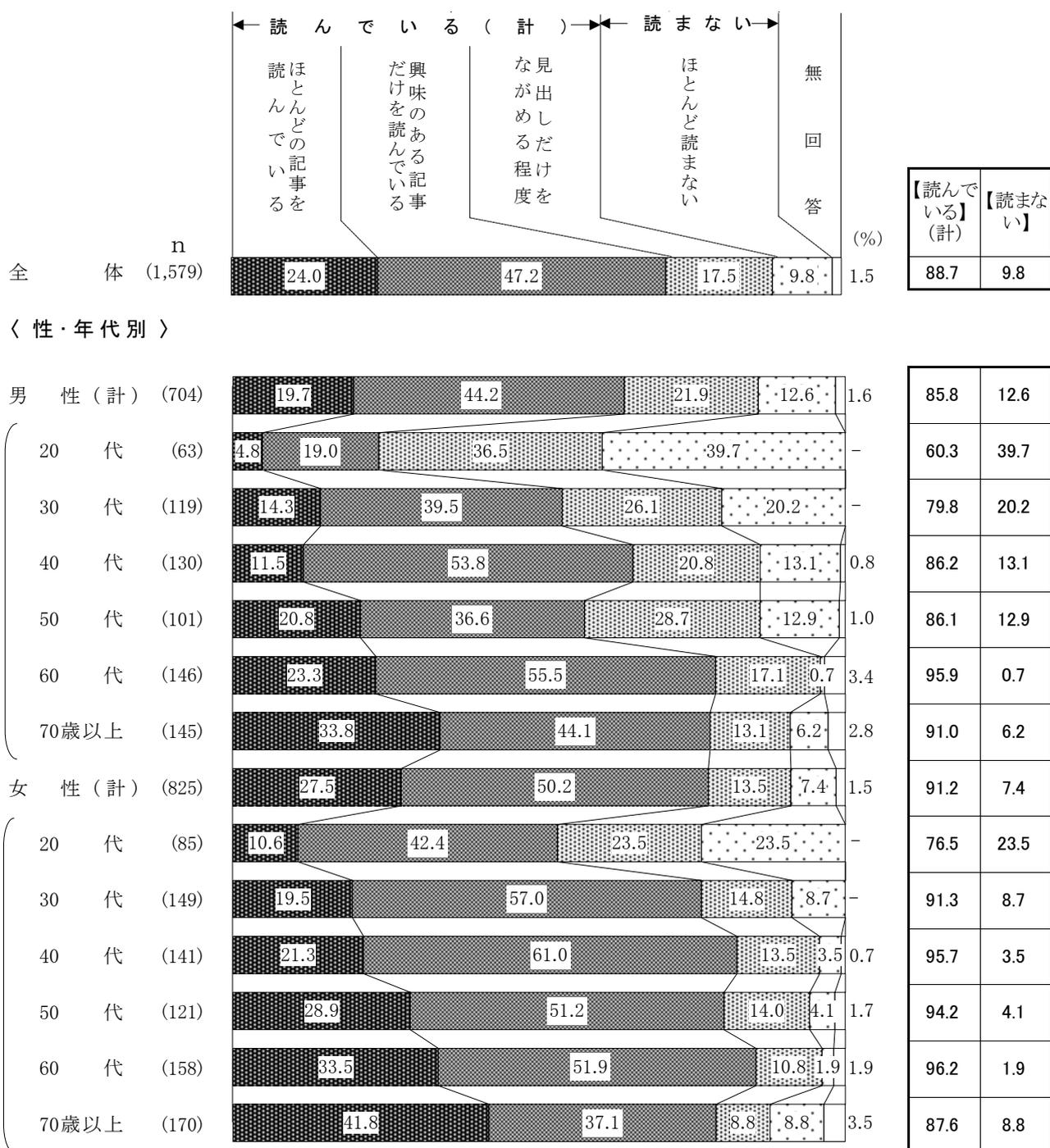
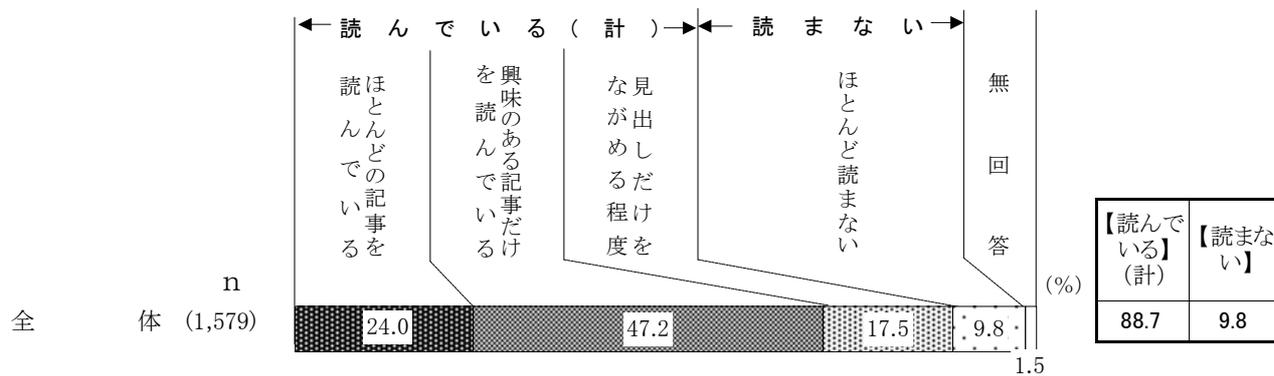
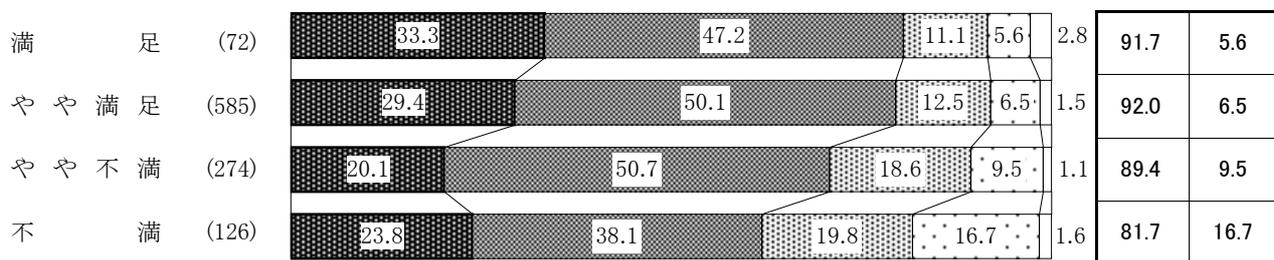


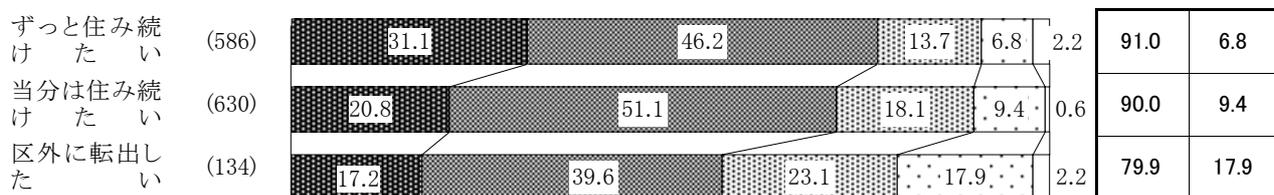
図 6-1-2 「あだち広報」を読んでいる程度(区政に対する満足度、定住意向、区政への参加意向別)



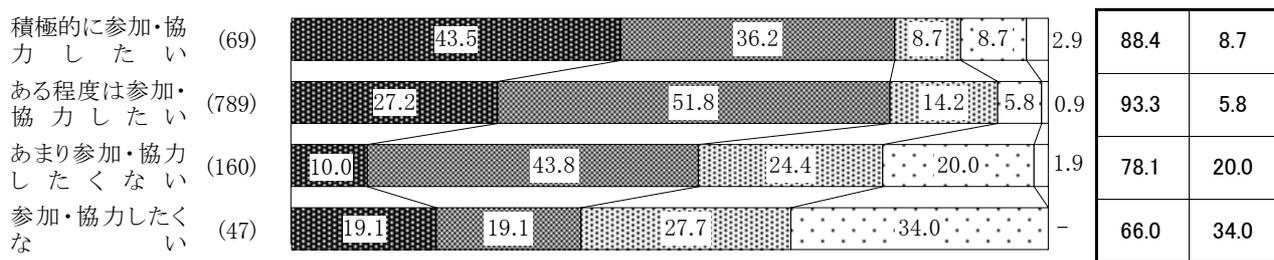
〈 区政に対する満足度別 〉



〈 定住意向別 〉

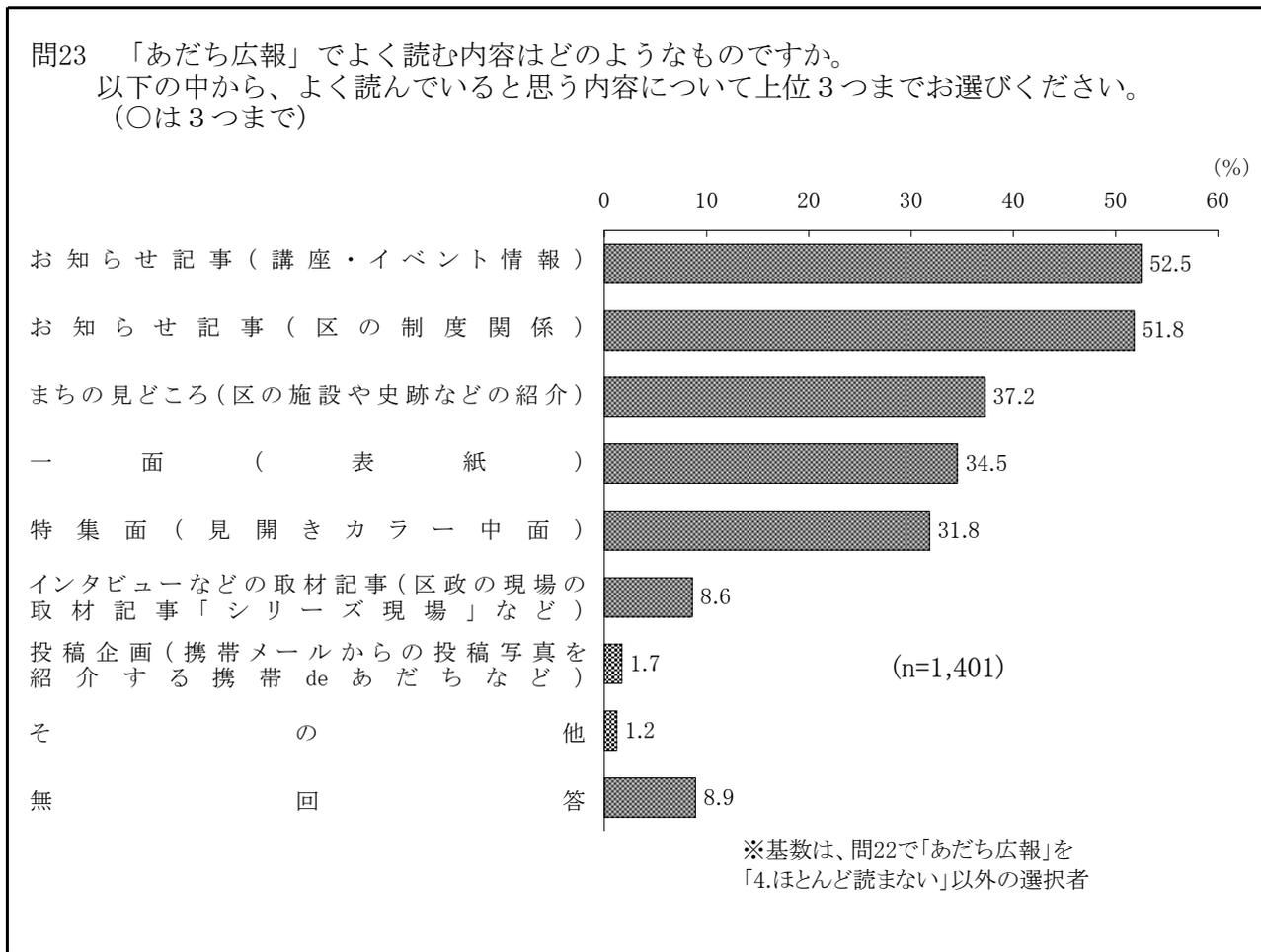


〈 区政への参加意向別 〉



(2) 「あだち広報」でよく読む内容

■よく読まれている内容は「お知らせ記事」(講座・イベント情報、区の制度関係)

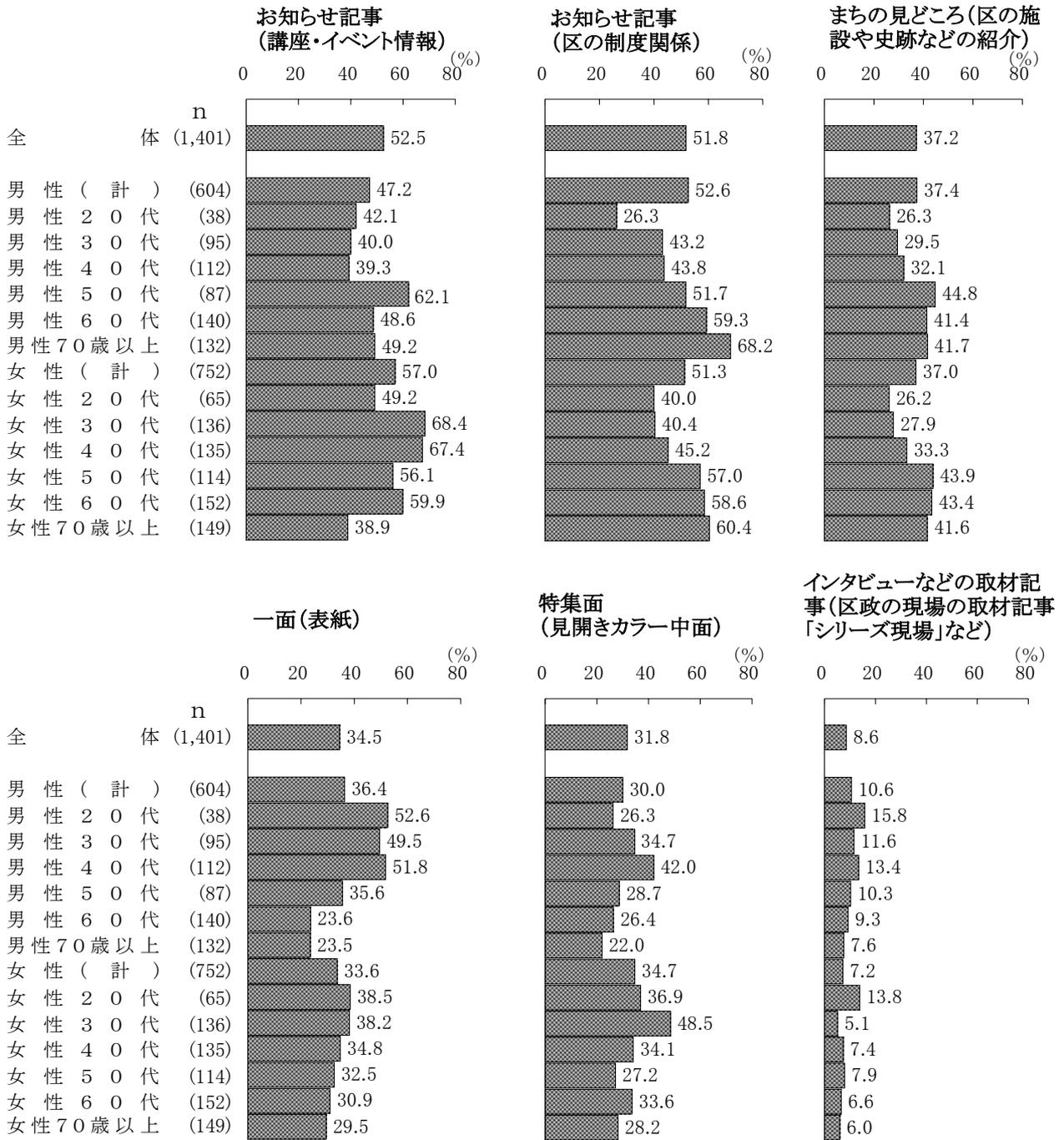


あだち広報でよく読まれている内容は、「お知らせ記事(講座・イベント情報)」が52.5%で最も高く、次いで「お知らせ記事(区の制度関係)」が51.8%、「まちの見どころ(区の施設や史跡などの紹介)」が37.2%と続いている。

性・年代別にみると、図6-2-1のとおりである。

「お知らせ記事(講座・イベント情報)」においては、全体的に女性の方が男性より高く、女性30代40代では7割弱となっている。また、「お知らせ記事(区の制度関係)」においては、男女ともに年代が上がるにつれ割合が上昇する傾向あり、男女とも70歳以上で最も高く、それぞれ68.2%、60.4%を示している。「まちの見どころ(区の施設や史跡などの紹介)」では、男女とも中高年層での割合が高くなっており、男女とも50代以上で4割を超えている。「一面(表紙)」では男女とも若い世代で割合が高く、男性の20代(52.6%)、40代(51.8%)では5割を超えている。

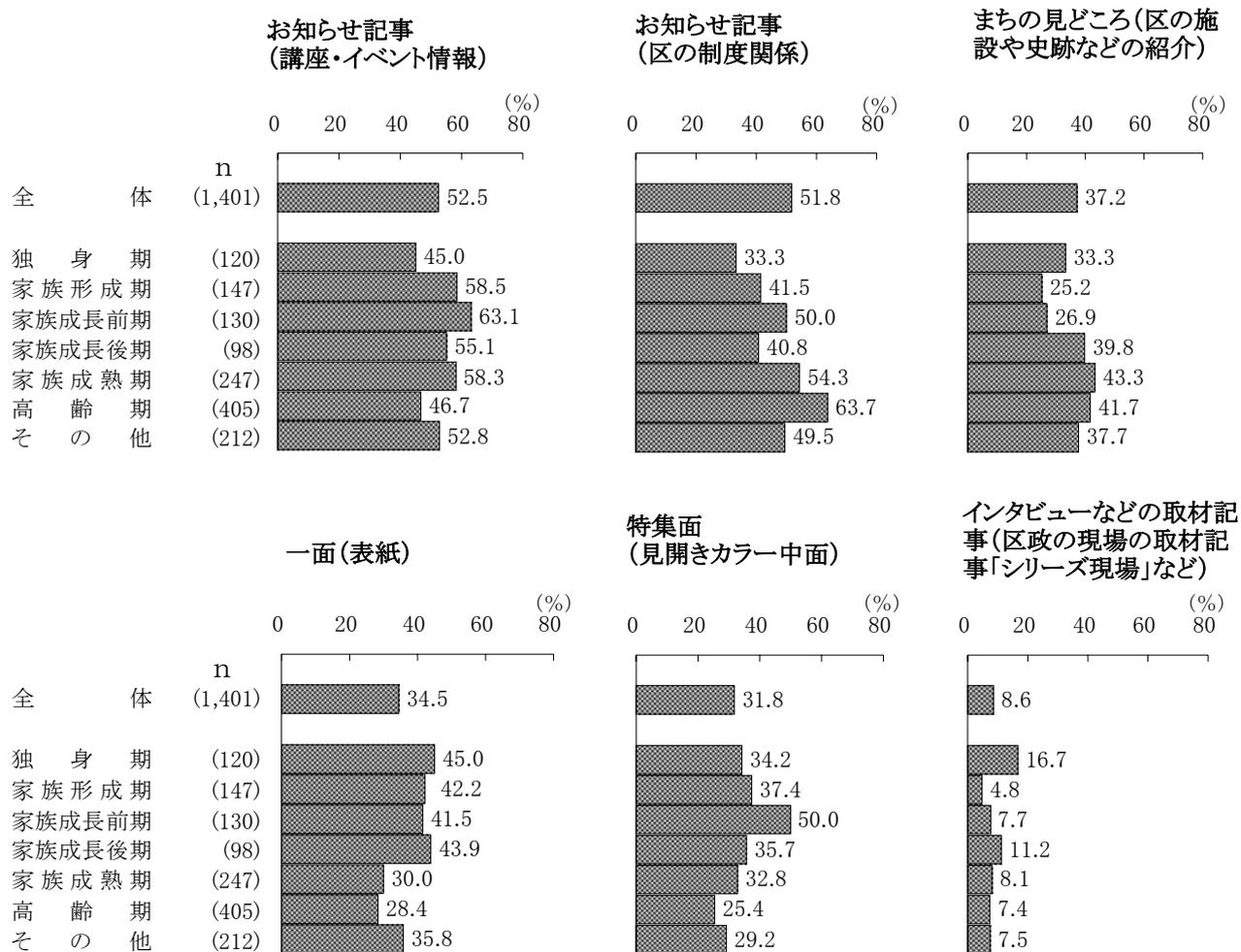
図 6-2-1 「あだち広報」でよく読む内容【上位6位】(性・年代別)



上位6項目をライフステージ別にみると、図6-2-2のとおりである。

「お知らせ(講座・イベント関係)」では、「家族成長前期」で63.1%と6割を超え、他ライフステージより高い。「お知らせ(区の制度関係)」では「高齢期」の63.7%が最も高い。「まちの見どころ(区の施設や史跡などの紹介)」では、「家族成熟期」と「高齢期」で4割を超えて高く、「一面(表紙)」では「独身期」で45.0%となっており、最も高い。

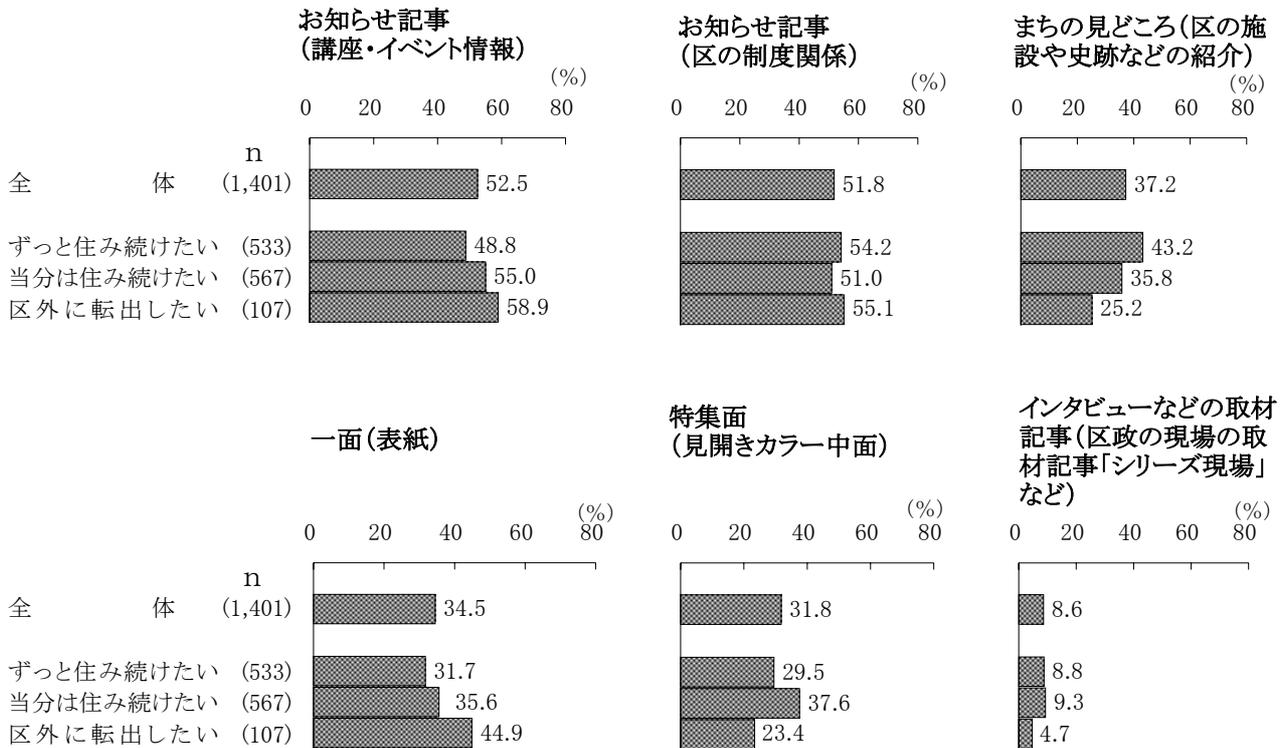
図 6-2-2 「あだち広報」でよく読む内容【上位6位】(ライフステージ別)



上位6項目を定住意向別にみると、図6-2-3のとおりである。

「お知らせ記事(講座・イベント情報)」では、「区外に転出したい」で最も高く58.9%となっている。「まちの見どころ(区の施設や史跡などの紹介)」では定住意向が強くなるにつれ割合も高くなり、「ずっと住み続けたい」においては43.2%と最も高くなっている。

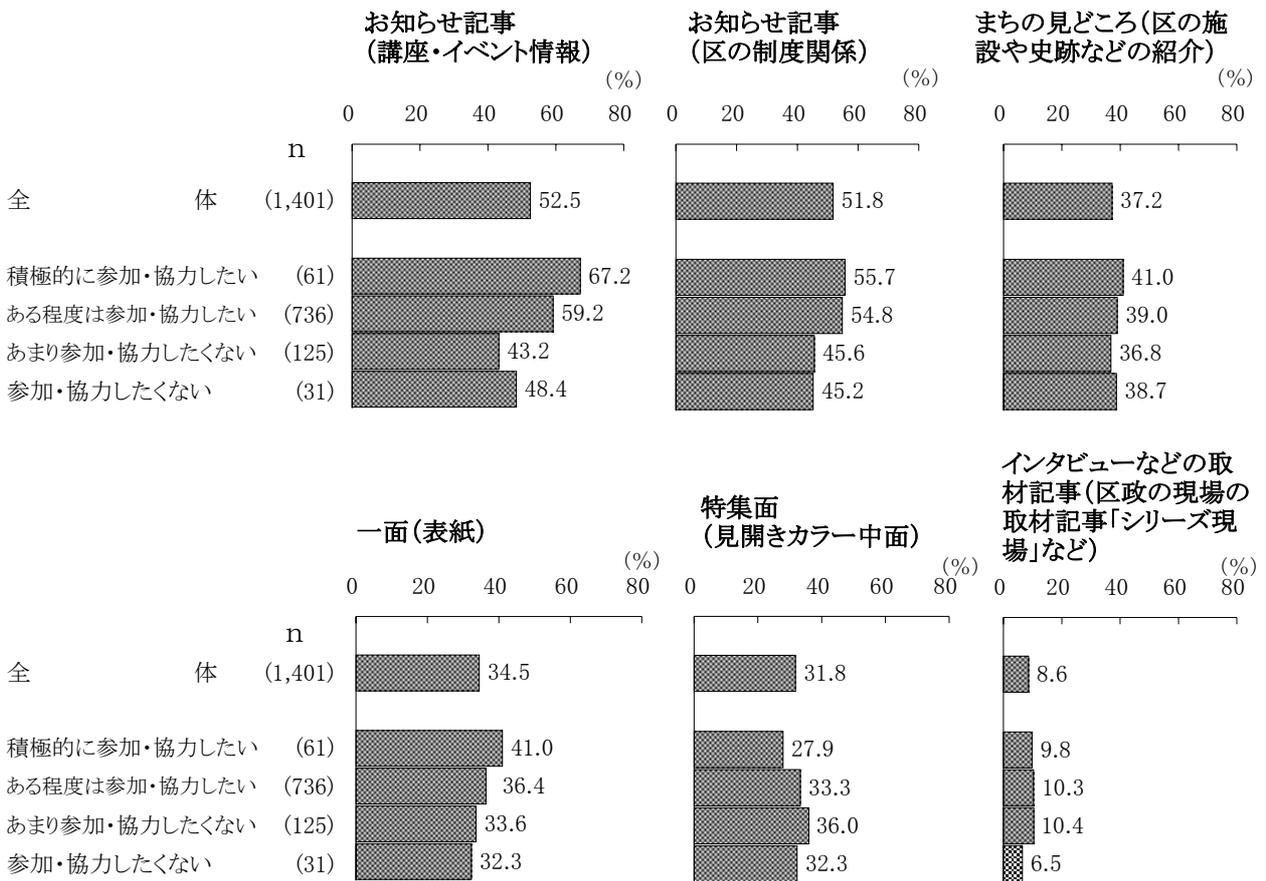
図 6-2-3 「あだち広報」でよく読む内容【上位6位】(定住意向別)



上位6項目を区政への参加意向別にみると、図6-2-4のとおりである。

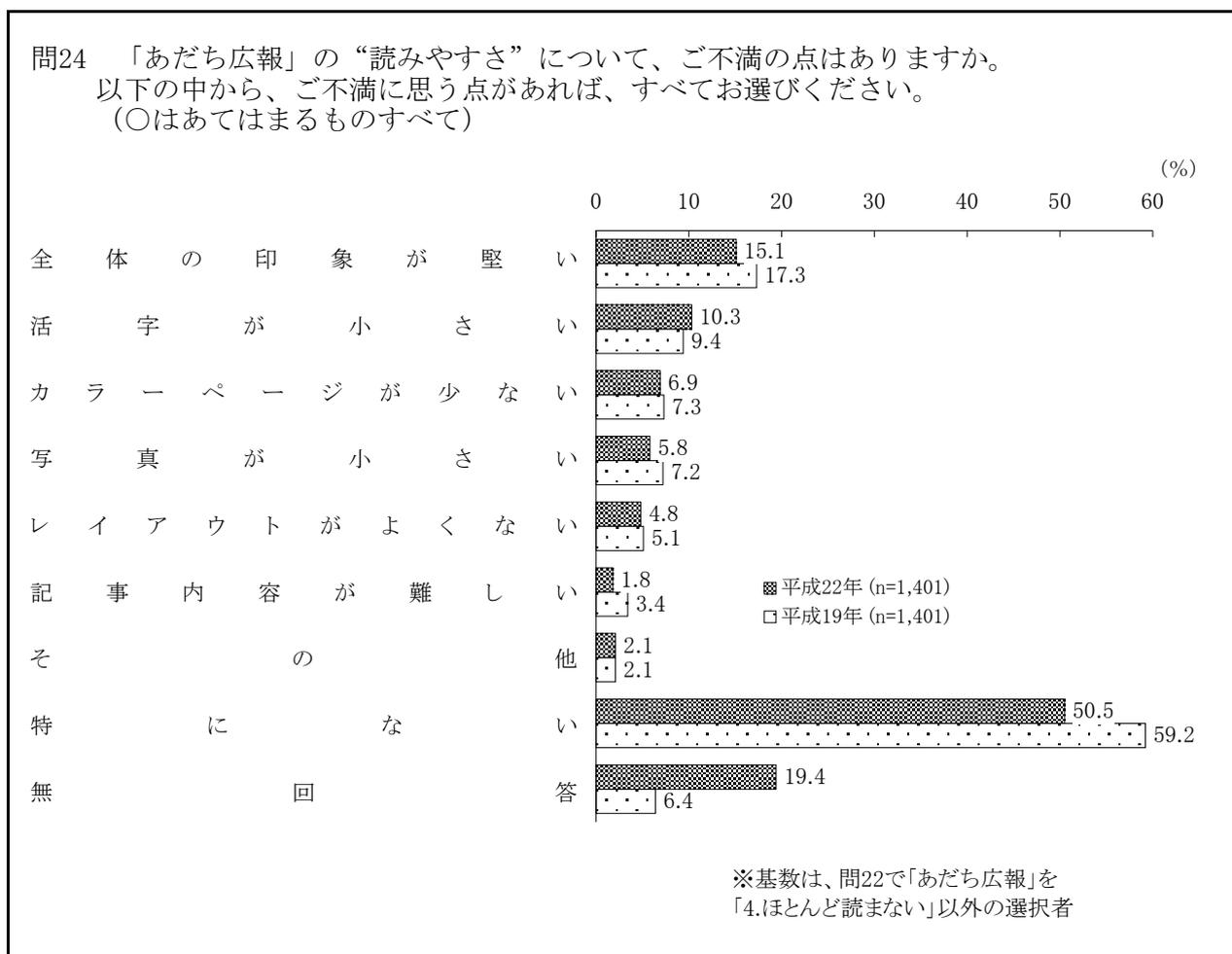
「お知らせ記事(講座・イベント情報)」や「お知らせ記事(区の制度関係)」、「一面(表紙)」では、区政参加意向が強くなるほど「よく読む」割合が上昇する傾向も見られ、「積極的に参加・協力したい」人の67.2%が「お知らせ(講座・イベント情報)」をよく読むとしている。

図 6-2-4 「あだち広報」でよく読む内容【上位6位】(区政への参加意向別)



(3) 「あだち広報」の“読みやすさ”についての不満点

■「全体の印象が堅い」が15.1%で最も高い

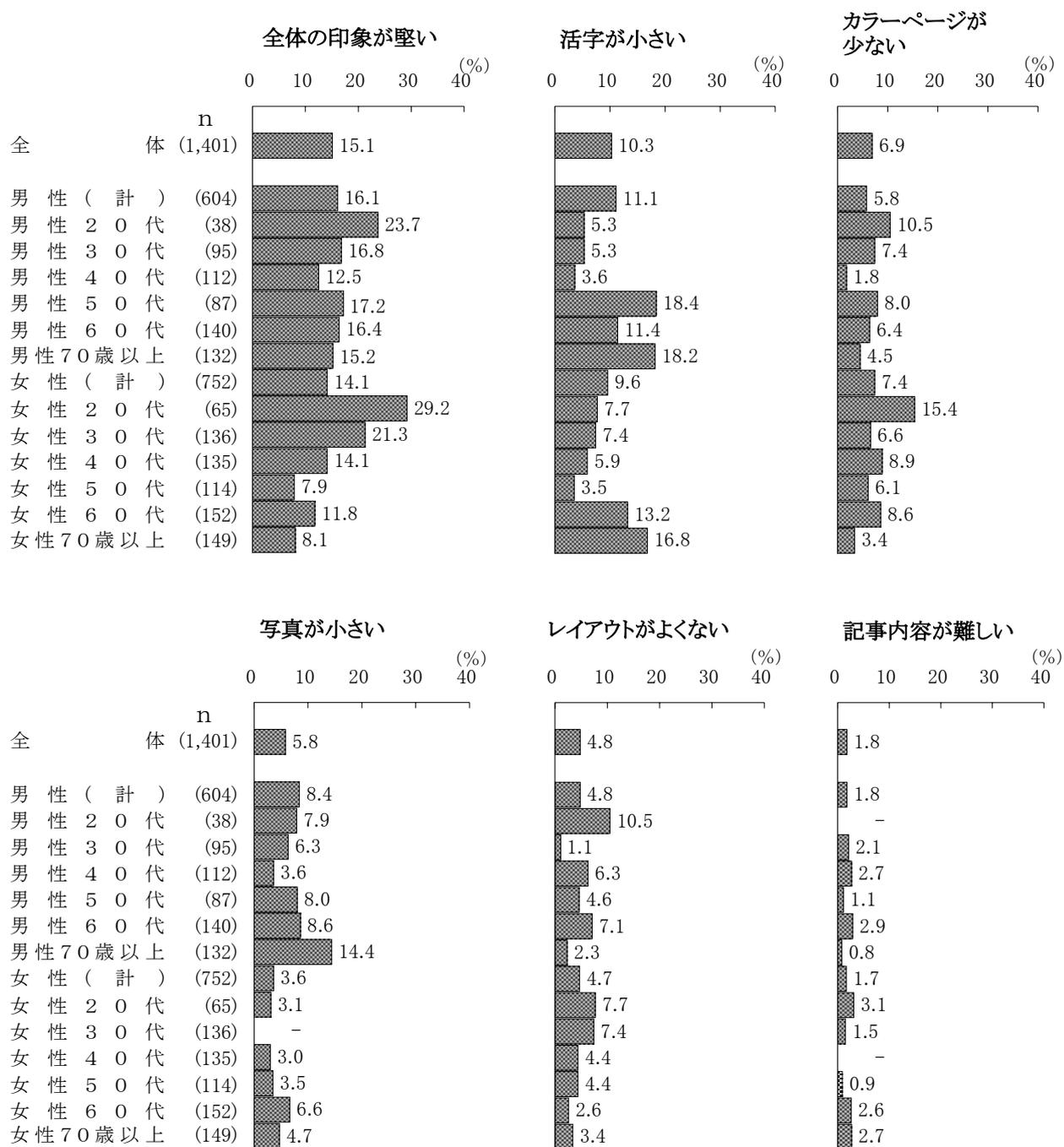


「あだち広報」の“読みやすさ”への不満点では、「全体の印象が堅い」が15.1%で最も高く、次いで「活字が小さい」が10.3%、「カラーページが少ない」が6.9%と続いている。一方、「特にない」は50.5%にのぼっており、平成19年度調査と比較すると8.7ポイント下降している。

性・年代別にみると、図6-3-1のとおりである。

「全体の印象が堅い」では、世代が若くなると割合が増える傾向にあり、男女とも20代で最も高くなっており、男性20代(23.7%)、女性20代(29.2%)で20%台を示している。「活字が小さい」では中高年齢層での割合が高く、男性50代、70歳以上、女性70歳以上で16%～18%台となっている。また、「カラーページが少ない」では女性20代が15.4%で最も高くなっている。

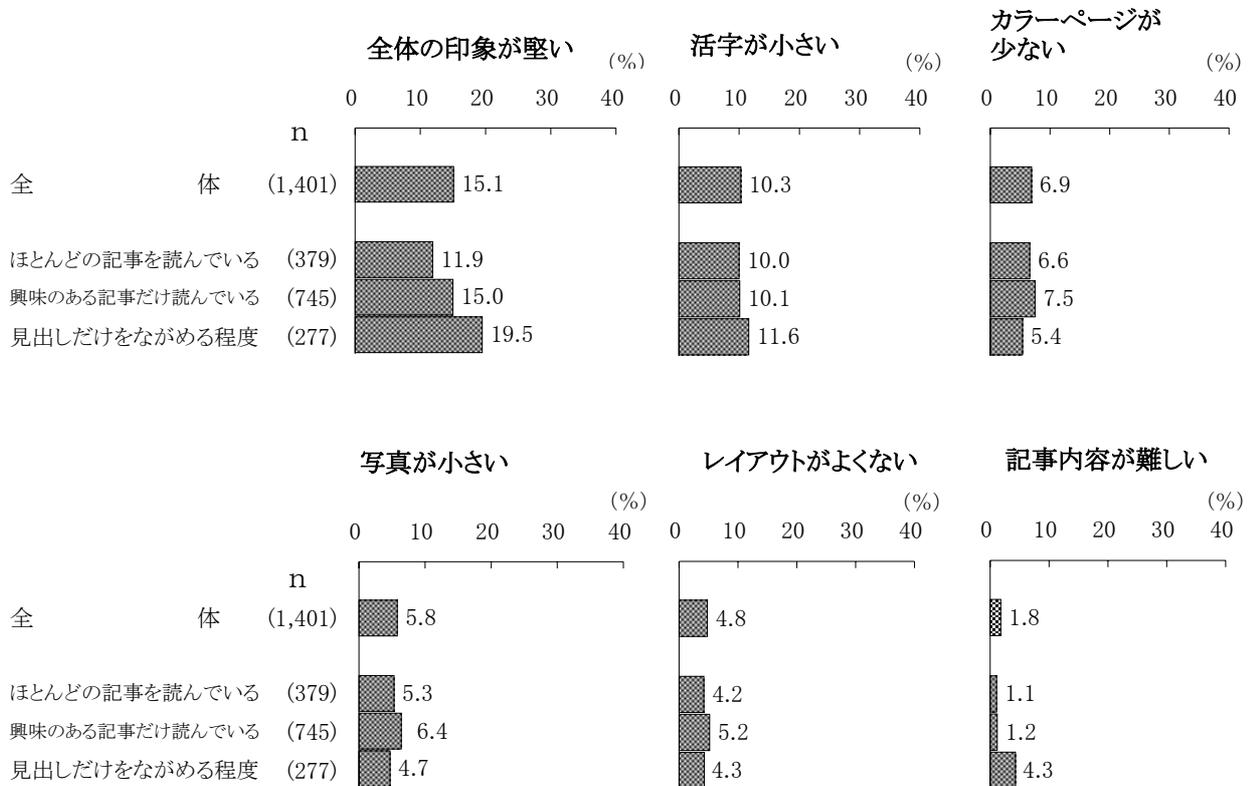
図 6-3-1 「あだち広報」の“読みやすさ”についての不満点【上位6位】(性・年代別)



上位6項目をあだち広報を読んでいる程度別にみると、図6-3-2のとおりである。

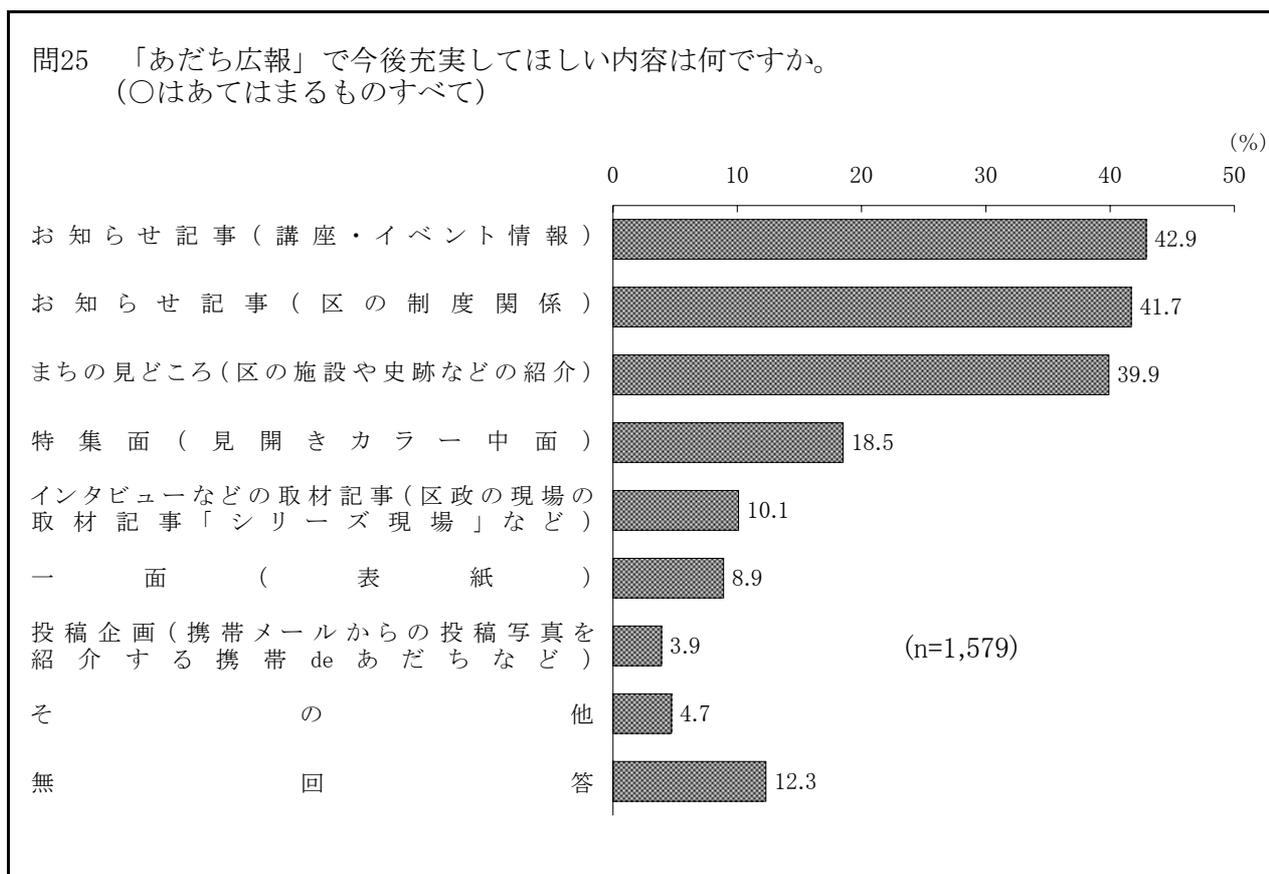
「全体の印象が堅い」では、「見出しだけをながめる程度」と答えた人のうちの19.5%と最も高くなっている。

図 6-3-2 「あだち広報」の“読みやすさ”についての不満点【上位6位】
(あだち広報を読んでいる程度別)



(4) 「あだち広報」で今後充実してほしい内容

■「お知らせ記事」などよく読まれている内容への要望が高い

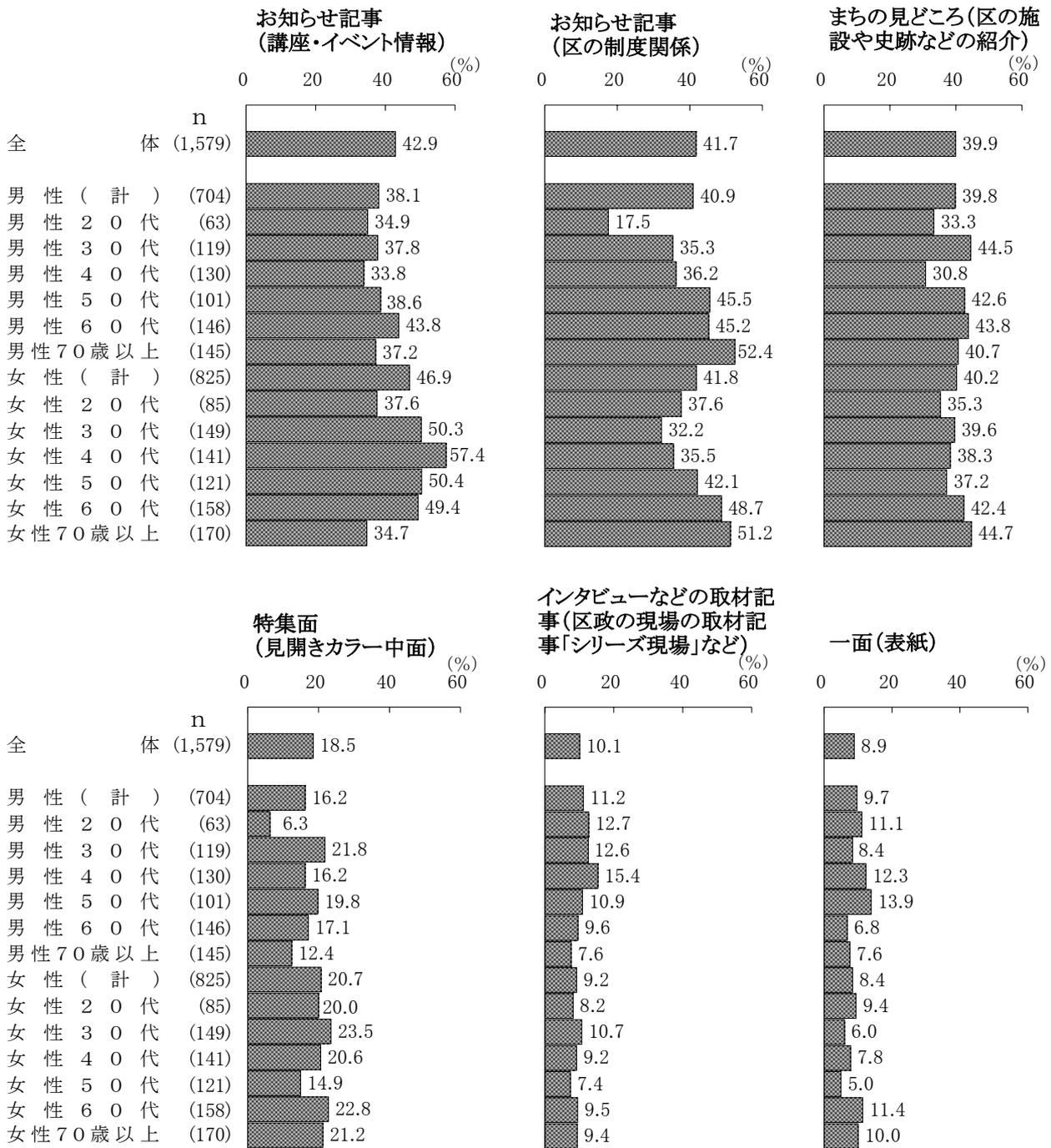


「あだち広報」で今後充実してほしい内容は、「お知らせ記事(講座・イベント情報)」が42.9%で最も高く、次いで「お知らせ記事(区の制度関係)」が41.7%、「まちの見どころ(区の施設や史跡などの紹介)」が39.9%と続いており、問23のあだち広報でよく読む内容での上位項目と同様の傾向であることから、よく読まれている内容の充実が望まれていることが示唆されている。

性・年代別にみると、図6-4-1のとおりである。

「お知らせ記事(講座・イベント情報)」では、全体的に女性の方が男性よりも割合が高く、女性40代では57.4%と最も高くなっており、女性30代、50代でも5割を超えている。「お知らせ(区の制度関係)」では年代が上がるにつれ割合も上昇する傾向があり、男女とも70歳以上で50%を超え、最も高くなっている。これらの傾向も問23のよく読む内容と同様であり、内容の充実を望んでいるのは該当項目をよく読んでいる層といえる。

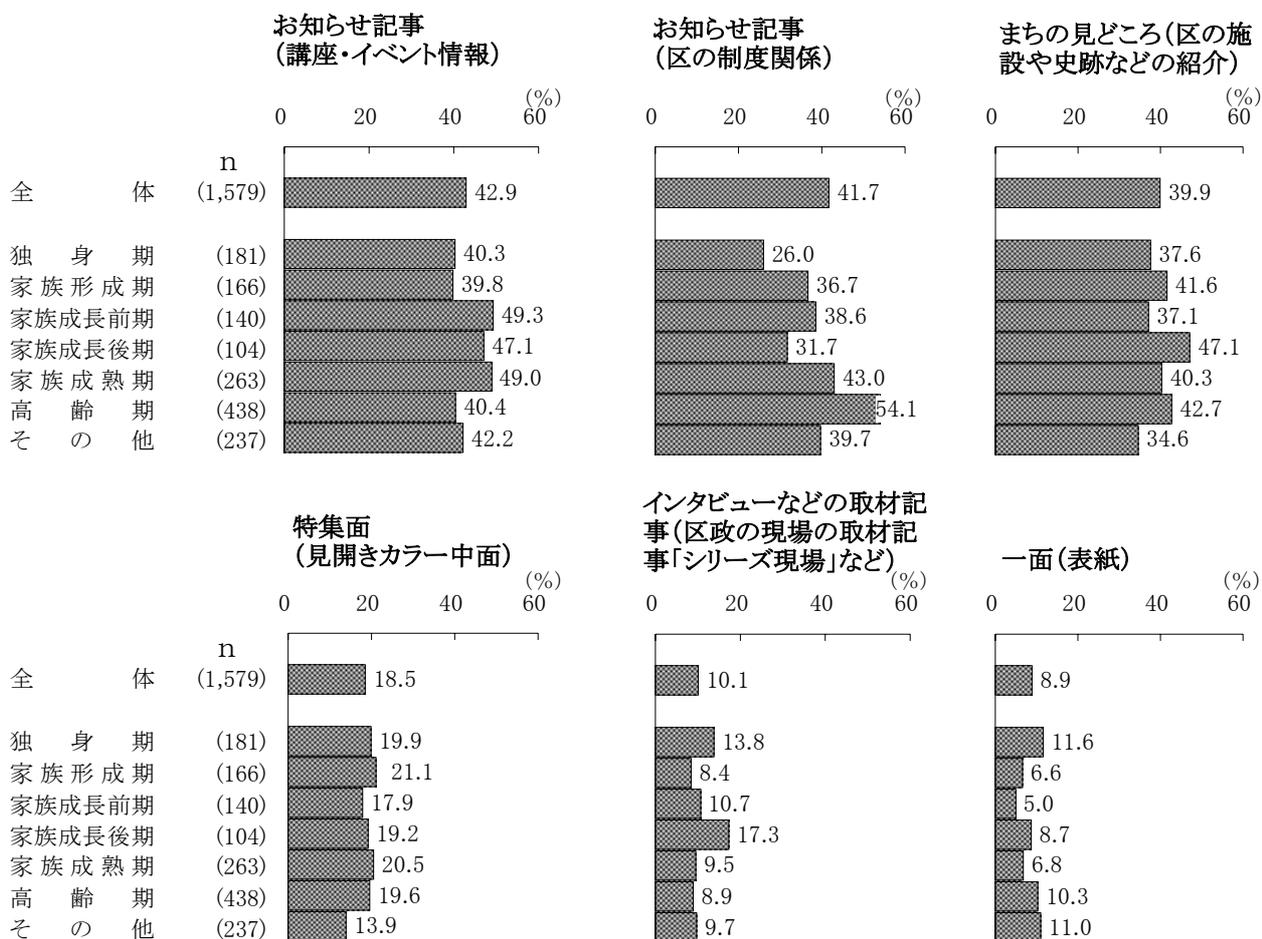
図 6-4-1 「あだち広報」で今後充実してほしい内容【上位6位】(性・年代別)



上位6項目をライフステージ別にみると、図6-4-2のとおりである。

「お知らせ記事(講座・イベント情報)」では、「家族成長前期」「家族成熟期」で49%台を示し、高い。「お知らせ記事(区の制度関係)」では「高齢期」で54.1%と最も高くなっており、それぞれの記事をよく読むと思われる年代の人は、自ら関心を持つ記事を充実させてほしいという意向も高いと考えられる。

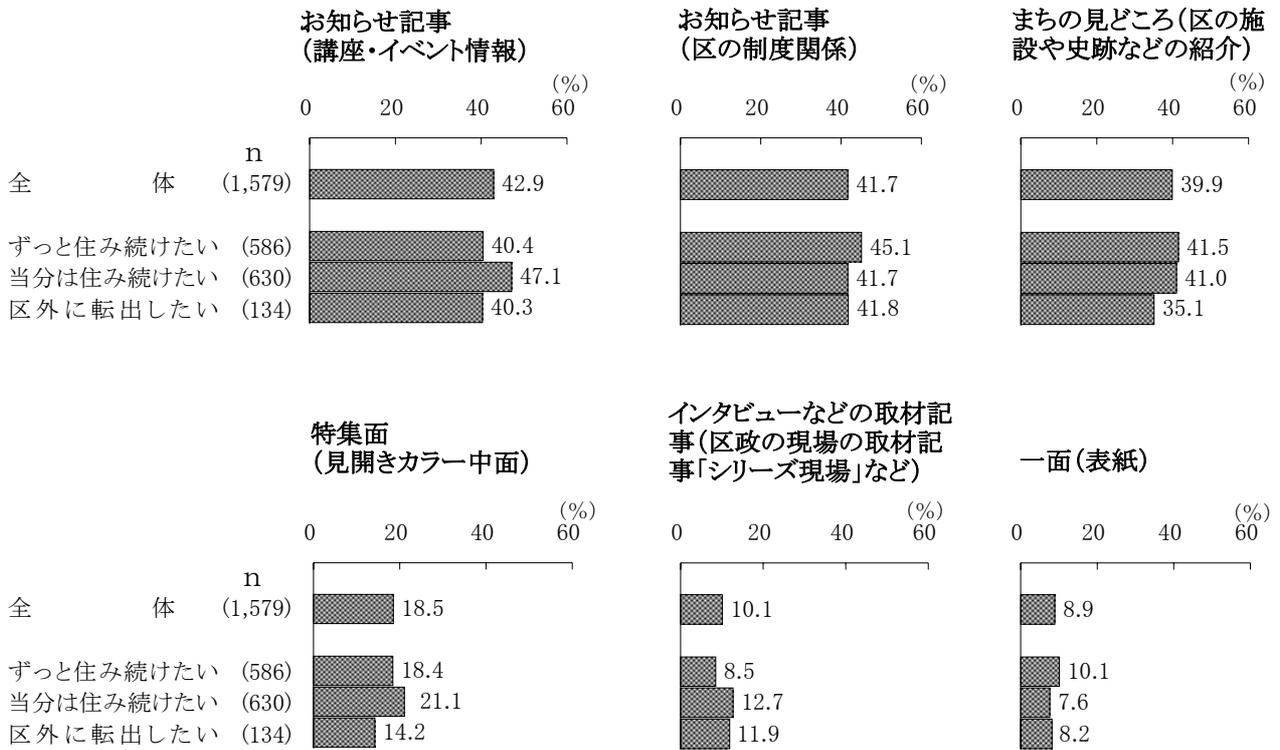
図 6-4-2 「あだち広報」で今後充実してほしい内容【上位6位】(ライフステージ別)



上位6項目を定住意向別にみると、図6-4-3のとおりである。

「お知らせ記事(講座・イベント情報)」は「当分は住み続けたい」で47.1%と最も高く、「お知らせ記事(区の制度関係)」は「ずっと住み続けたい」で45.1%と最も高くなっている。

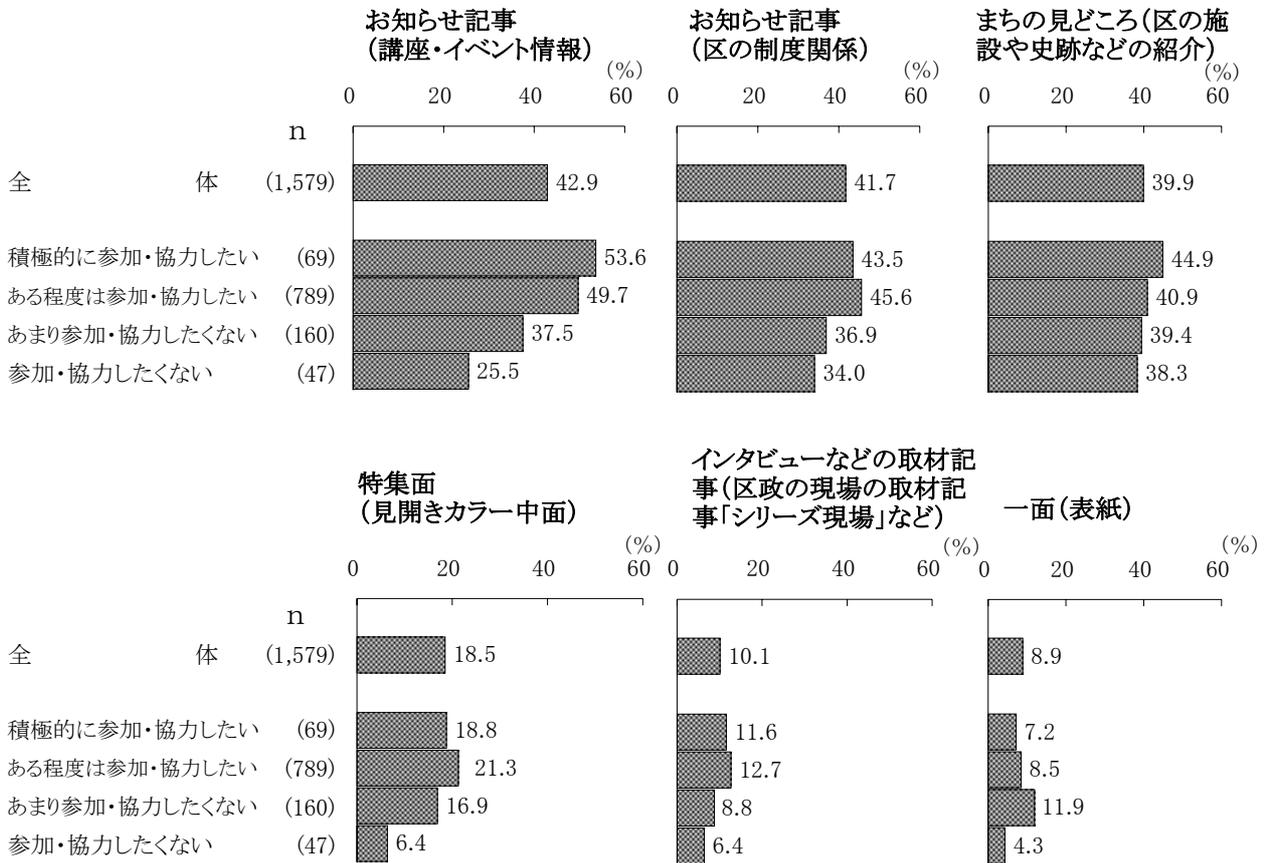
図 6-4-3 「あだち広報」で今後充実してほしい内容【上位6位】(定住意向別)



上位6項目を区政への参加意向別にみると、図6-4-4のとおりである。

上位3項目では、区政への参加意向が強くなるほど割合は上昇する傾向にあり、「積極的に参加・協力したい」意向の人の53.6%が「お知らせ記事(講座・イベント情報)」の充実を求めている。

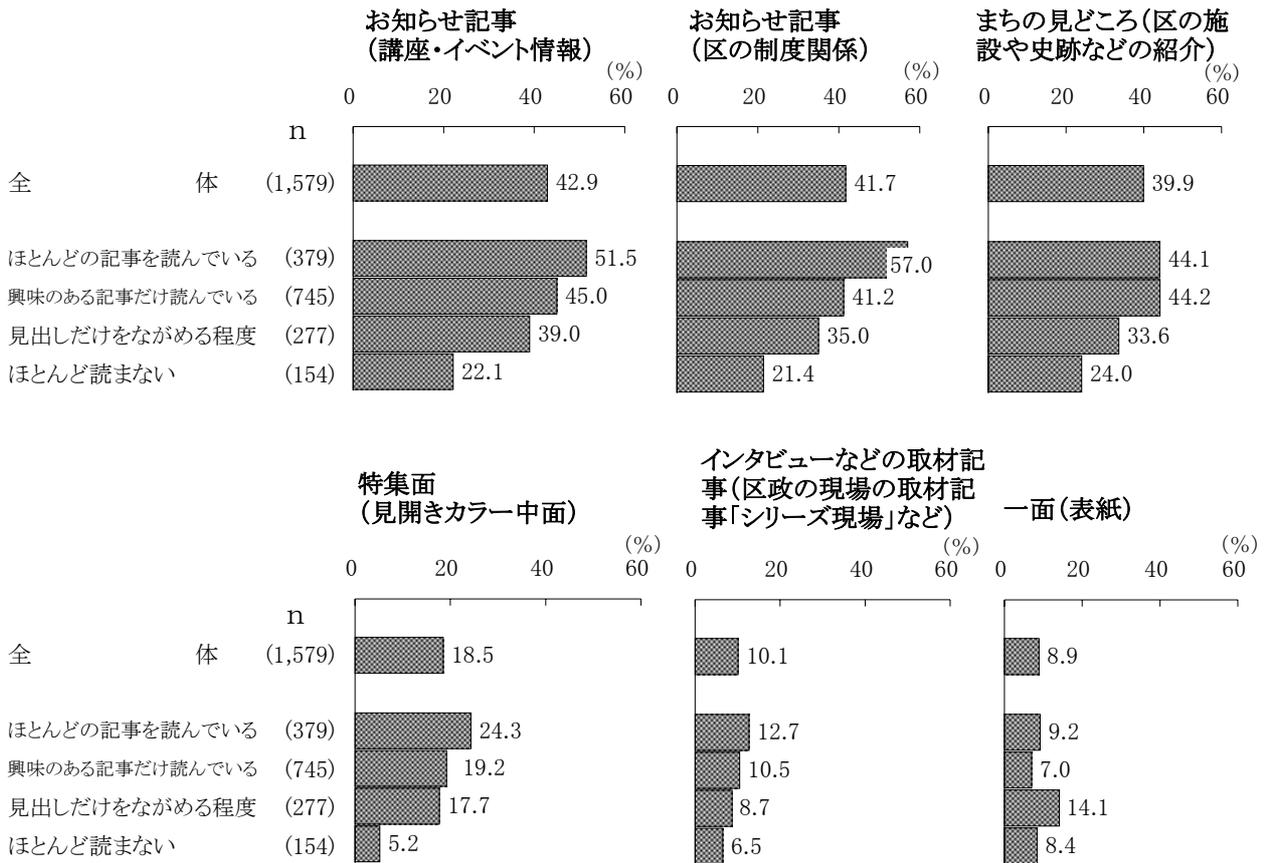
図 6-4-4 「あだち広報」で今後充実してほしい内容【上位6位】(区政への参加意向別)



上位6項目を「あだち広報」を読んでいる程度別にみると、図6-4-5のとおりである。

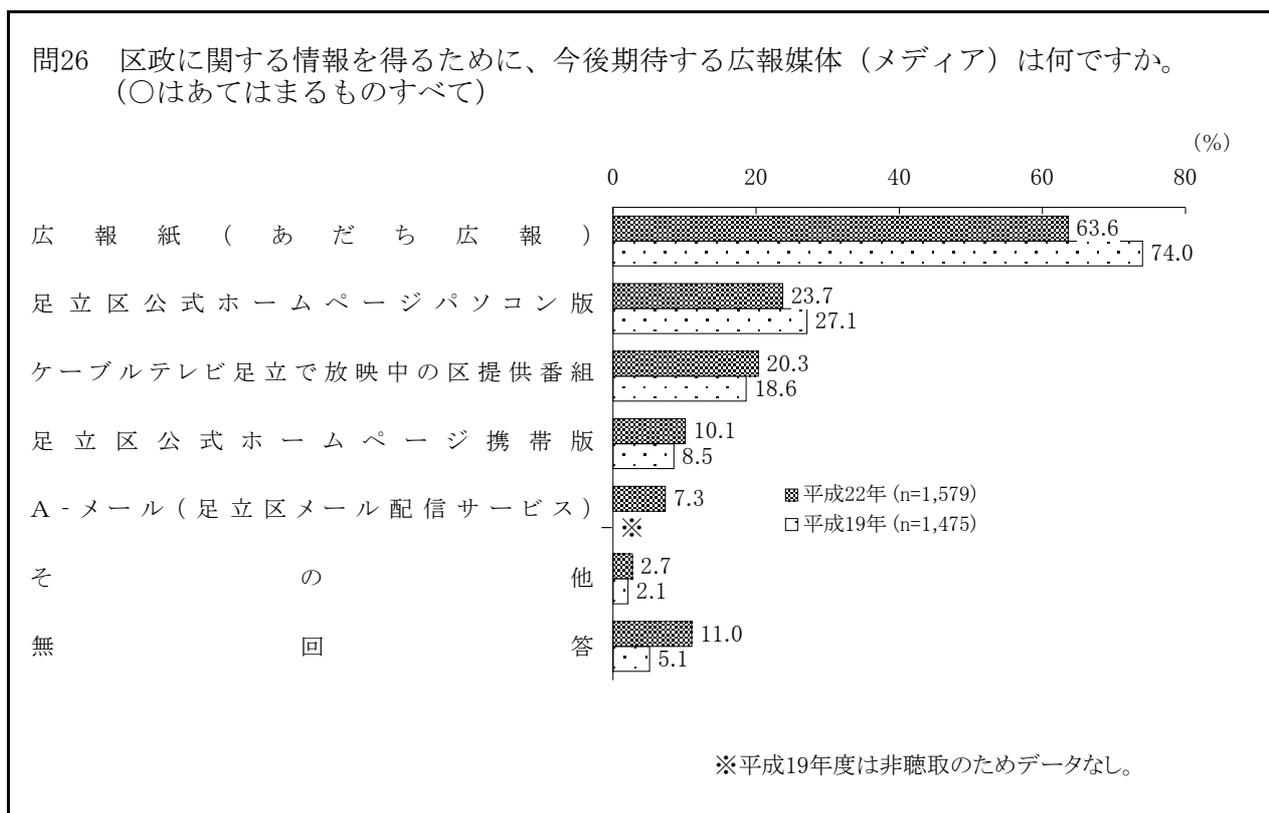
上位6項目に共通して、よく読んでいる層ほど各項目の充実を求める割合は上昇する傾向にある。「お知らせ記事(講座・イベント情報)」では「ほとんどの記事を読んでいる」層の51.5%が充実を求めており、他の項目においても「ほとんどの記事を読んでいる」層は他層より広報の充実を求める割合が高くなる傾向がある。

図 6-4-5 「あだち広報」で今後充実してほしい内容【上位6位】
(あだち広報を読んでいる程度別)



(5) 今後期待する広報媒体

■「あだち広報」が63.6%で最も高い

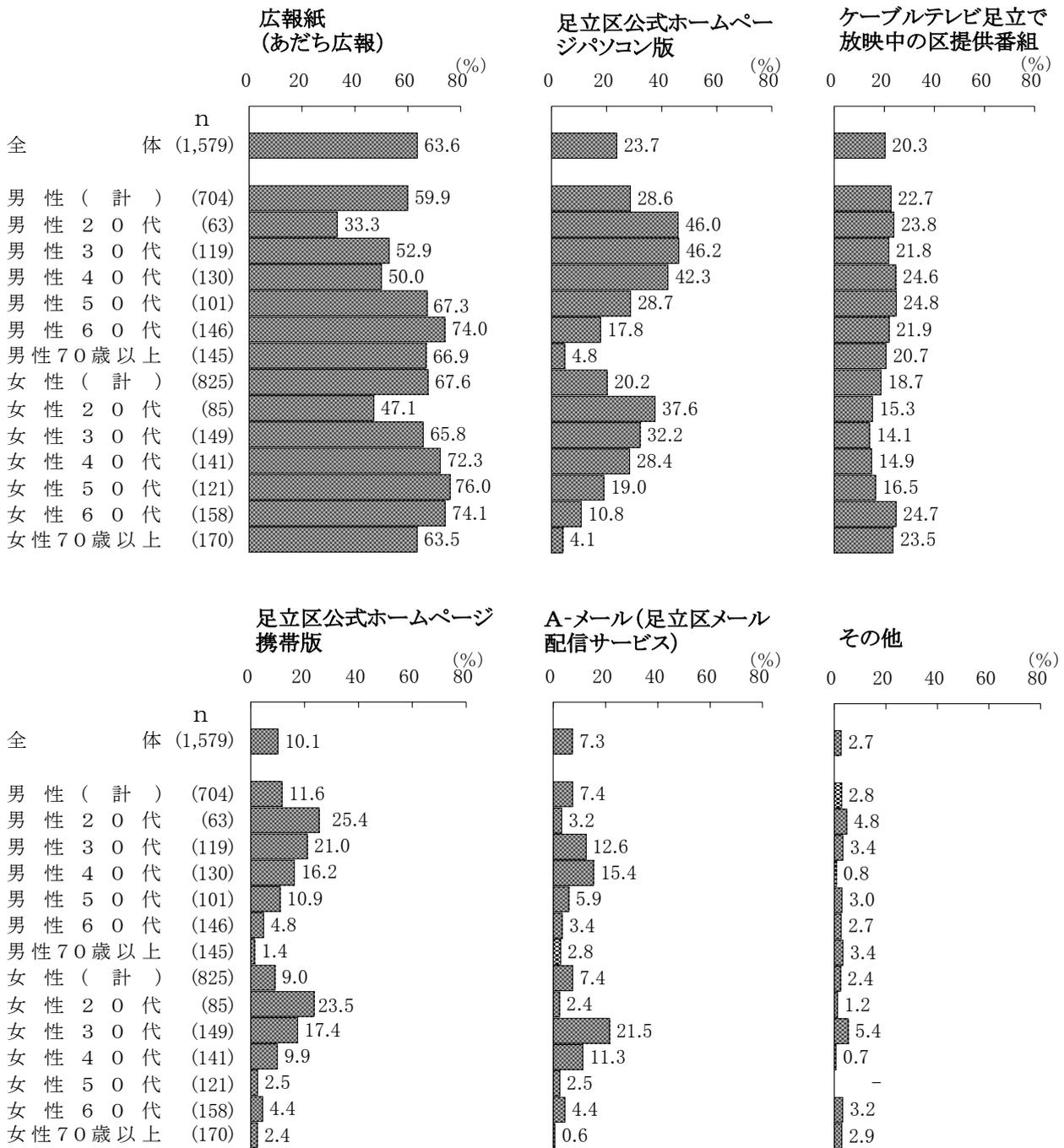


今後期待する広報媒体では、「広報紙（あだち広報）」が63.6%で最も高く、次いで「足立区公式ホームページパソコン版」が23.7%、「ケーブルテレビ足立で放映中の区提供番組」が20.3%と続いている。平成19年度調査と比較すると、「広報紙（あだち広報）」は10.4ポイント下降、「足立区公式ホームページパソコン版」では3.4ポイント下降している。

性・年代別にみると、図6-5-1のとおりである。

「広報紙（あだち広報）」では、全体的に男性よりも女性の方が割合が高く、男女とも年代が上がるにつれ割合も上昇する傾向にあり、男性では60代が74.0%で最も高く、女性では50代が76.0%で最も高くなっており、女性の40代、60代でも7割を超えて高い。一方、「足立区公式ホームページパソコン版」では全体的に女性よりも男性の方が割合が高く、男女とも年代が若くなるほど割合も上昇する傾向にある。男性では30代が46.2%で、女性では20代が37.6%で最も高く、男性では20代、40代でも4割を超え、高くなっている。また、同様に「足立区公式ホームページ携帯版」でも若い世代ほど割合が高く、男女とも20代が最も高くなっている。

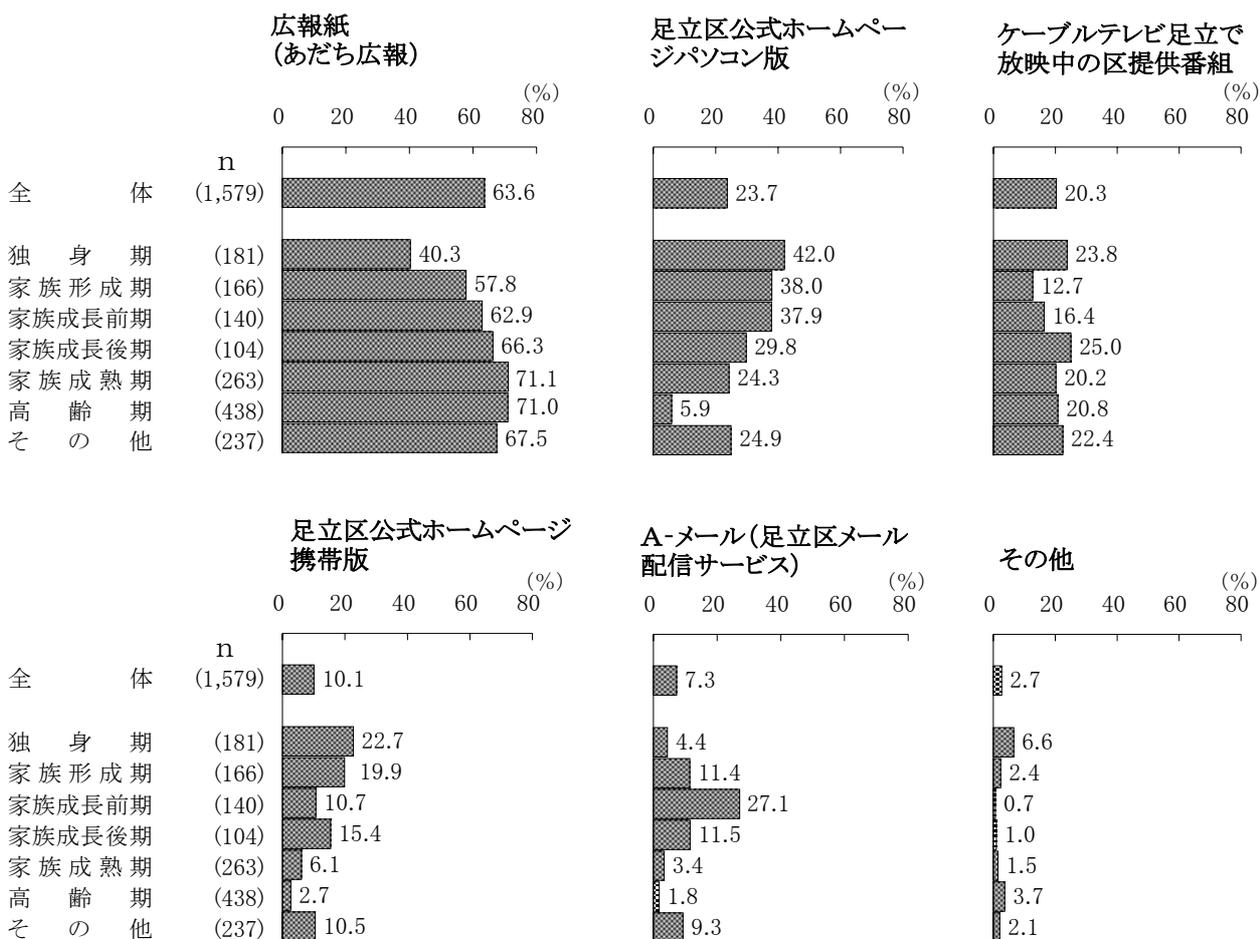
図 6-5-1 今後期待する広報媒体（性・年代別）



上位6項目をライフステージ別にみると、図6-5-2のとおりである。

「広報紙(あだち広報)」では、「家族成熟期」「高齢期」で71%台を示し、他のライフステージよりも高い。「足立区公式ホームページパソコン版」では「独身期」の42.0%が、「足立区公式ホームページ携帯版」においても「独身期」の22.7%が、最も高くなっている。また、「A-メール(足立区メール配信サービス)」では、「家族成長前期」が27.1%と最も高くなっている。「A-メール」には子どもの安心情報などの内容が含まれることから、小・中学生を子供にもつ子育て世代での期待が高いことがうかがえる。

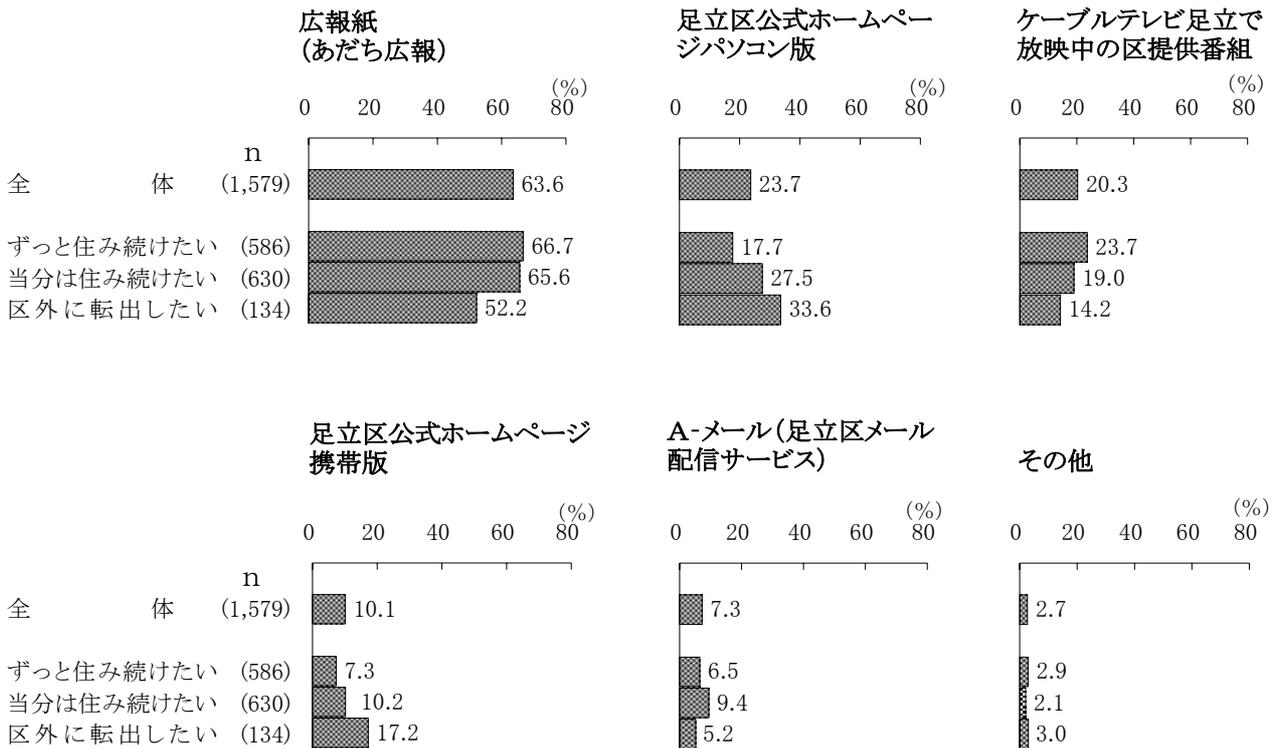
図 6-5-2 今後期待する広報媒体 (ライフステージ別)



上位6項目を定住意向別にみると、図6-5-3のとおりである。

「広報紙(あだち広報)」では定住意向が強い層ほど割合が高く、「ずっと住み続けたい」で66.7%と最も高く、「ケーブルテレビ足立で放映中の区提供番組」においても、同様の傾向が見られる。逆に、「足立区公式ホームページパソコン版」「足立区公式ホームページ携帯版」においては、「区外に転出したい」層で最も高くなっている。

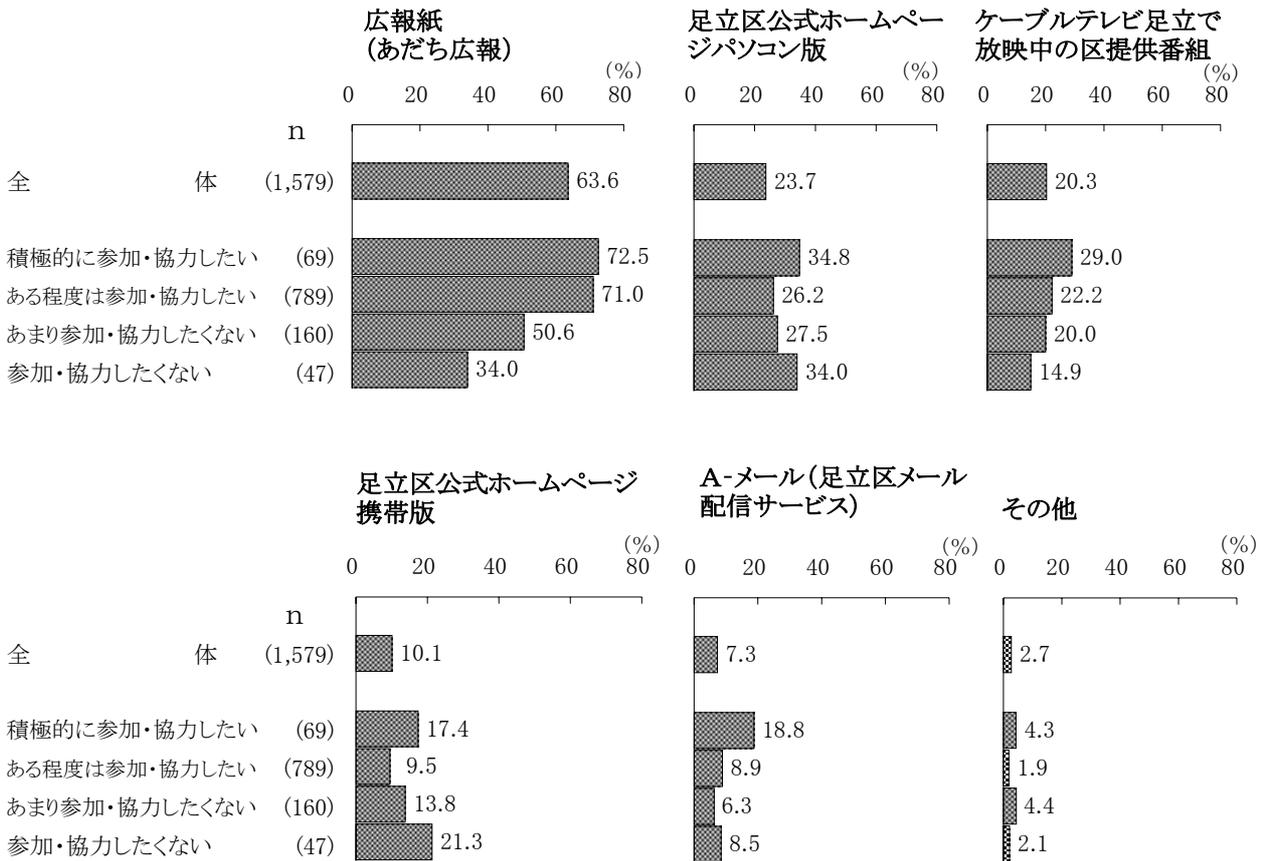
図 6-5-3 今後期待する広報媒体 (定住意向別)



上位6項目を区政への参加意向別にみると、図6-5-4のとおりである。

「広報紙(あだち広報)」や「ケーブルテレビ足立で放映中の区提供番組」「A-メール(足立区メール配信サービス)」では、参加意向が強くなるほど割合が上昇する傾向が見られ、それぞれ「積極的に参加・協力したい」で最も高くなっている。

図 6-5-4 今後期待する広報媒体 (区政への参加意向別)



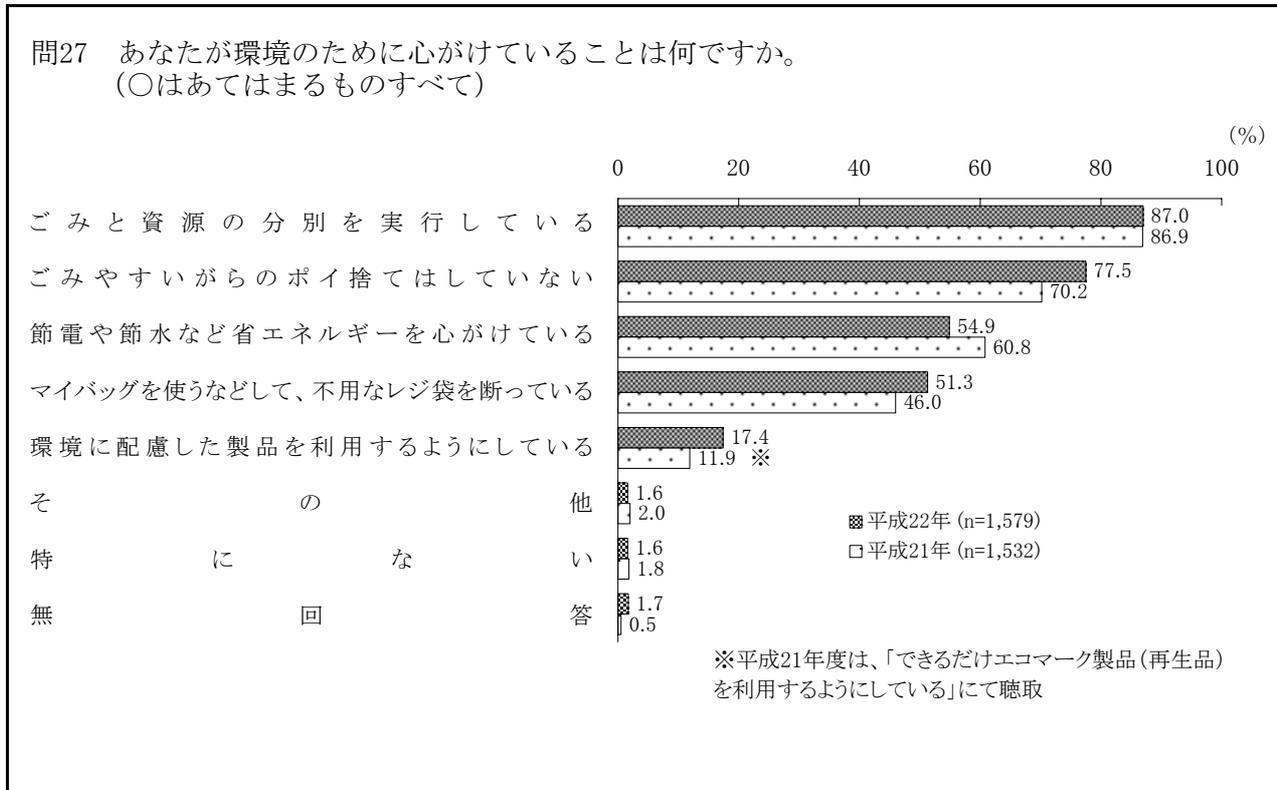
7 日 常 の 区 民 生 活

-
- (1) 環境のために心がけていること
 - (2) 災害に備えていること
 - (3) 「洪水など浸水被害」に備え意識していること
 - (4) 「クーリング・オフ」制度の認知度
 - (5) 「クーリング・オフ」制度の認知内容
-

7 日常の区民生活

(1) 環境のために心がけていること

■「ごみと資源の分別を実行している」が9割弱で最も高い

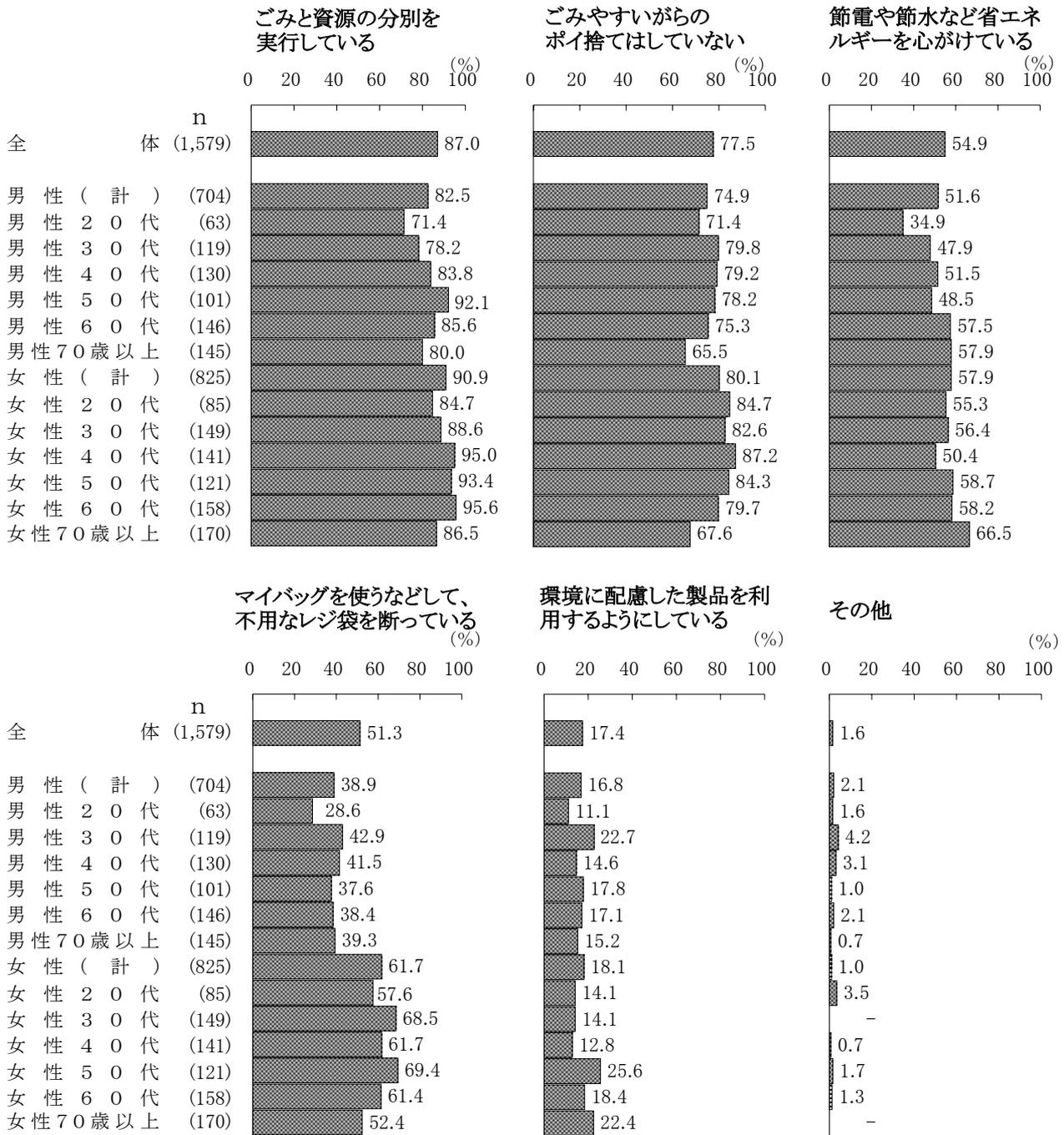


環境のために心がけていることでは、「ごみと資源の分別を実行している」が87.0%で最も高く、次いで「ごみやすいがらのポイ捨てはしていない」が77.5%、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」が54.9%となっている。平成21年度調査と比較すると、「ごみやすいがらなどのポイ捨てはしない」が7.3ポイント増、「マイバッグなどを使うなどして、不用なレジ袋を断っている」が5.3ポイント増の一方、「節電や節水など省エネルギーを心がけている」は5.9ポイント減となっている。

性・年代別にみると、図7-1-1のとおりである。

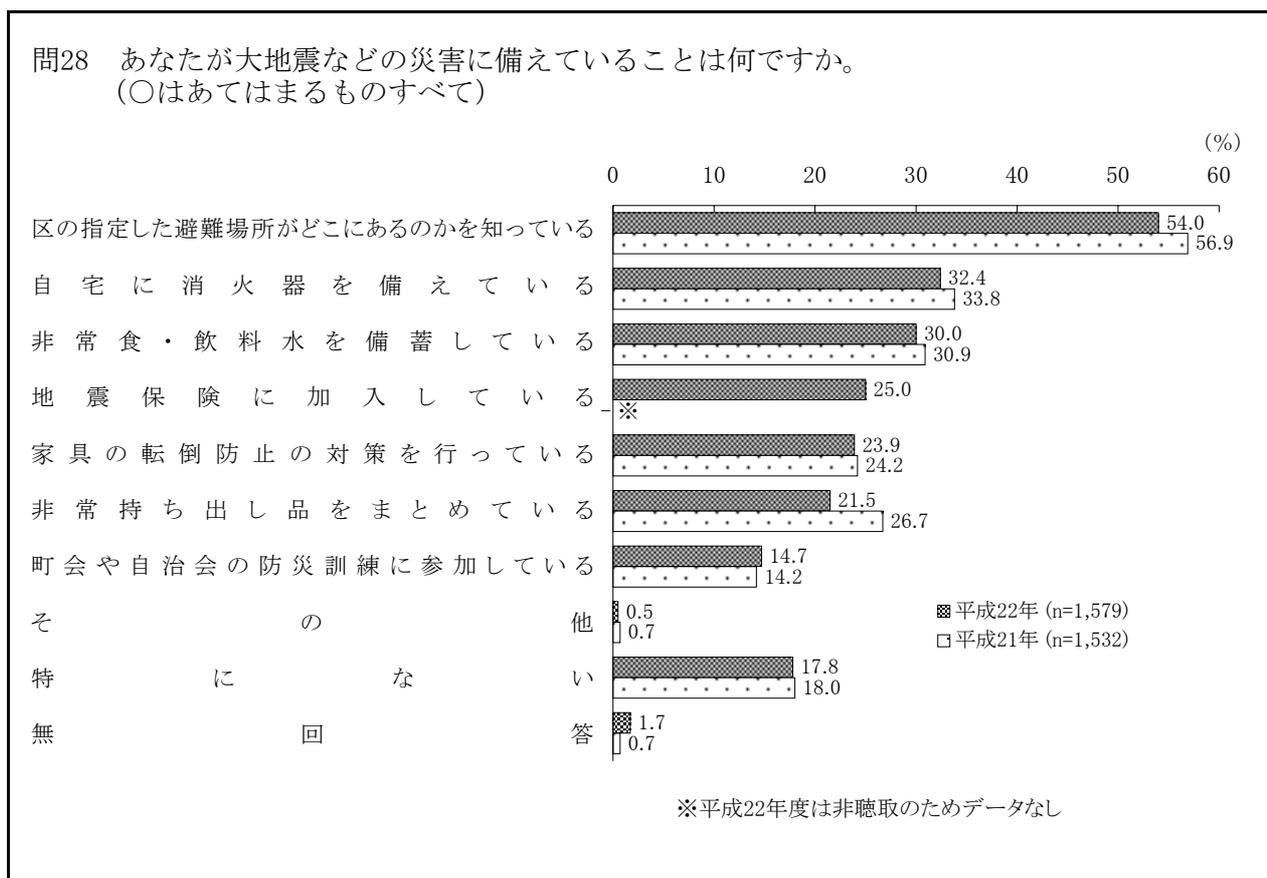
上位項目に共通して、全体的に女性の方が男性よりも高い傾向にあり、「ごみと資源の分別を実行している」では、女性60代の95.6%が最も高く、男性では50代の92.1%が最も高い。また、女性40代、50代でも90%を超えており、高くなっている。「ごみやすいがらのポイ捨てはしていない」では女性40代が87.2%で最も高くなっている。「節電や節水など省エネルギーを心がけている」では女性70歳以上が66.5%と唯一6割を超えている。「マイバッグなどを使うなどして、不用なレジ袋を断っている」では男性での実施率が4割以下である一方、女性ではどの層でも5割以上を示しており、特に女性30代、50代では69%前後と約7割にのぼり、他層よりも高くなっている。

図 7-1-1 環境のために心がけていること【上位6位】(性・年代別)



(2) 災害に備えていること

■「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」が54.0%で最も高い



災害に備えていることでは、「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」が54.0%で最も高く、次いで「自宅に消火器を備えている」が32.4%、「非常食・飲料水を備蓄している」が30.0%となっている。一方、「特にない」も17.8%にのぼっている。平成21年度調査と比較すると、「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」が2.9ポイント下降、「非常持ち出し品をまとめている」が5.2ポイント下降している。上位6項目について地域ブロック別にみると、図7-2-1のとおりである。

「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」では、第9ブロックで69.4%と最も高く、次いで第13ブロックの61.1%となっている。また、「自宅に消火器を備えている」では第2ブロックで41.6%と4割を超えて最も高く、「非常食・飲料水を備蓄している」では第4ブロックの38.9%が最も高くなっている。

上位6項目について性・年代別にみると、図7-2-2のとおりである。

「区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている」においては、全体的に女性の方が男性よりも割合が高く、男女とも年代が上がるにつれ割合も高くなる傾向がある。女性50代での66.9%が全世代の中で最も高く、女性60代以上でも6割を超えている。また、男性20代では25.4%と最も低く、2割程度しか避難場所を認知していない。「自宅に消火器を備えている」では、男性60代以上で40%台を示し、他世代よりも高い。

図 7-2-1 災害に備えていること【上位6位】(地域ブロック別)

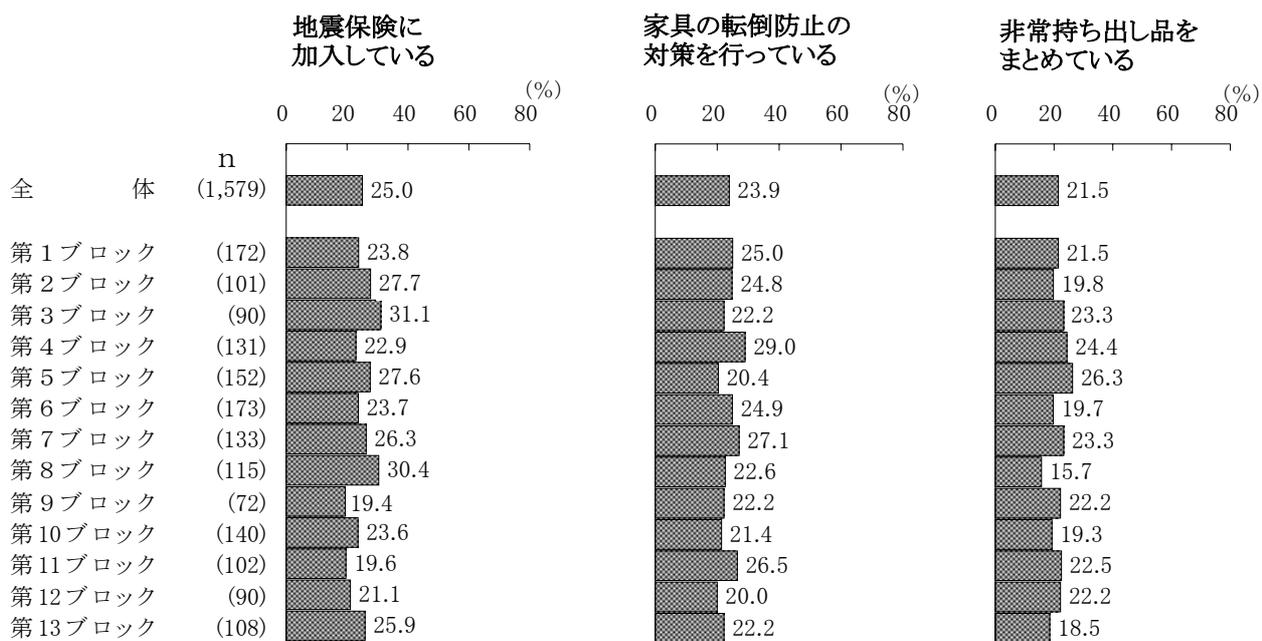
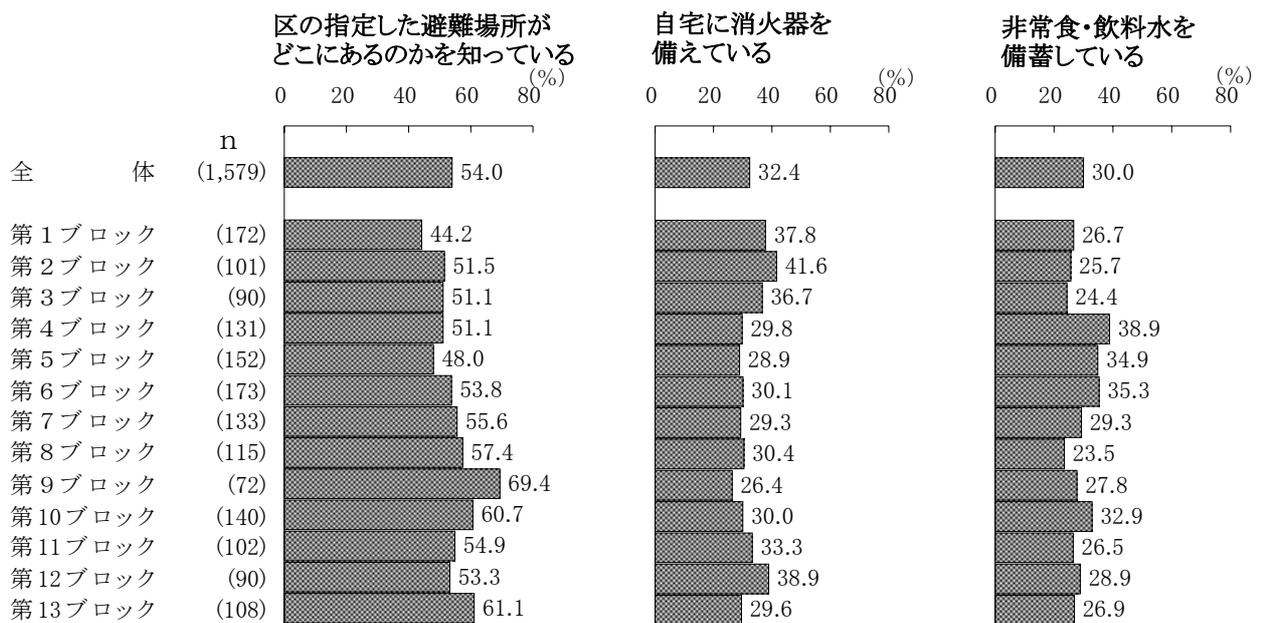
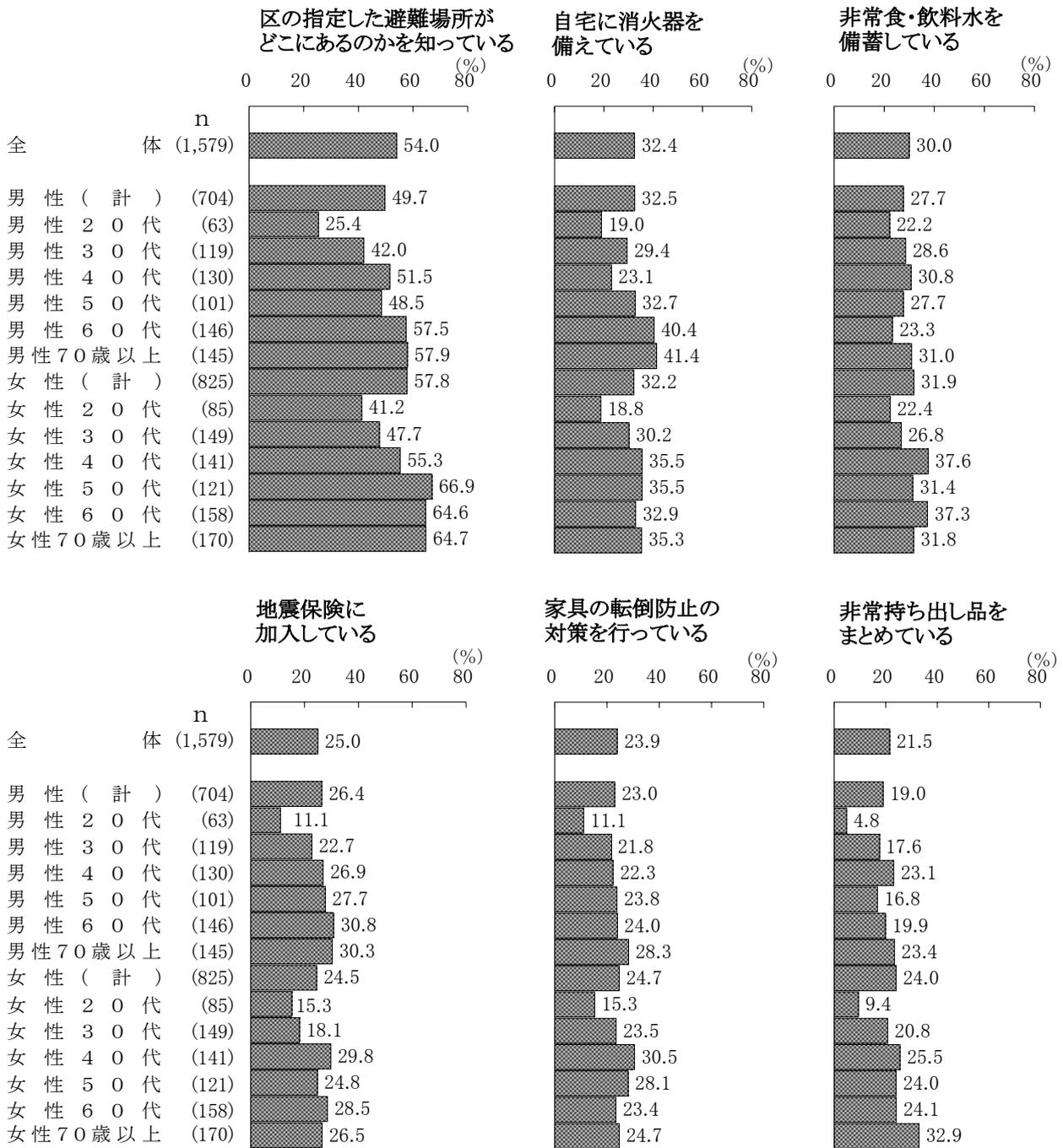
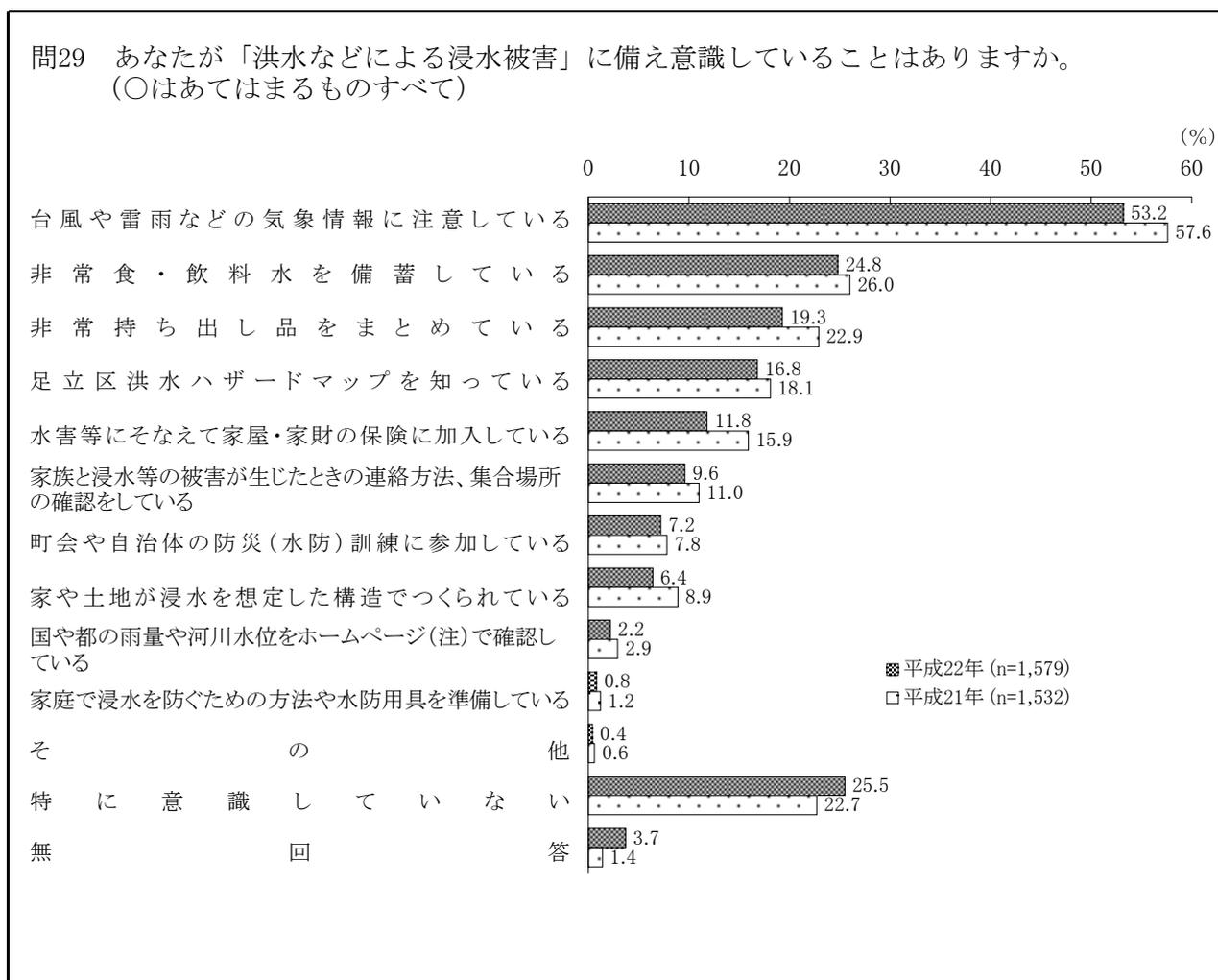


図 7-2-2 災害に備えていること【上位6位】(性・年代別)



(3) 「洪水など浸水被害」に備え意識していること

■「台風や雷雨はどの気象情報に注意している」が53.2%と最も高い



「洪水など浸水被害」に備え意識していることでは、「台風や雷雨などの気象情報に注意している」が53.2%で最も高く、次いで「非常食・飲料水を備蓄している」が24.8%、「非常持ち出し品をまとめている」が19.3%となっている。一方、「特に意識していない」は25.5%にのびている。

上位6項目について地域ブロック別にみると、図7-3-1のとおりである。

「台風や雷雨などの気象情報に注意している」では、第2ブロックでの63.4%が最も高く、6割台を示し、第13ブロック(59.3%)や第8ブロック(58.3%)でも6割弱を示している。「非常食・飲料水を備蓄している」では第4、第5ブロックで30%台と他ブロックよりもやや高い。

上位6項目について性・年代別にみると、図7-3-2のとおりである。

上位3項目では、全体的に女性の方が男性より実施率が高く、「台風や雷雨などの気象情報に注意している」では、男女とも年代が上がるにつれ実施率も高くなる傾向があり、女性60代では74.1%と7割を超えている。「非常食・飲料水を備蓄している」では女性40代(31.9%)、「非常持ち出し品をまとめている」では女性70歳以上(32.4%)が最も高くなっている。

図 7-3-1 「洪水など浸水被害」に備え意識していること【上位6位】(地域ブロック別)

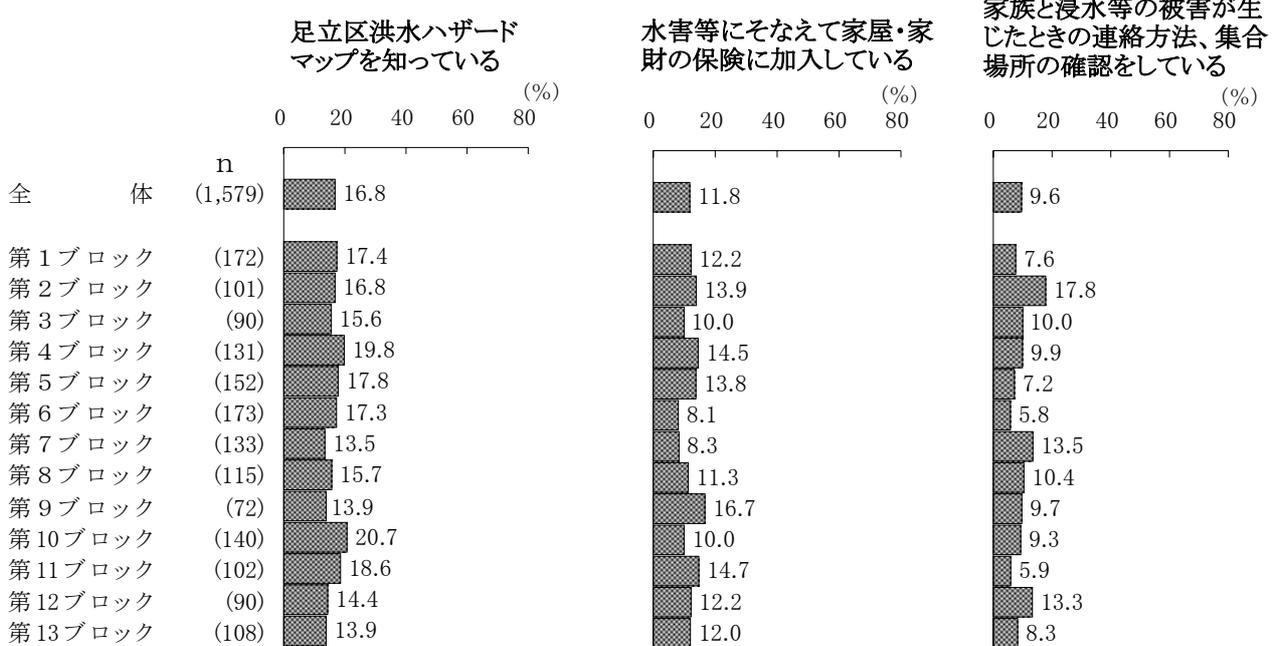
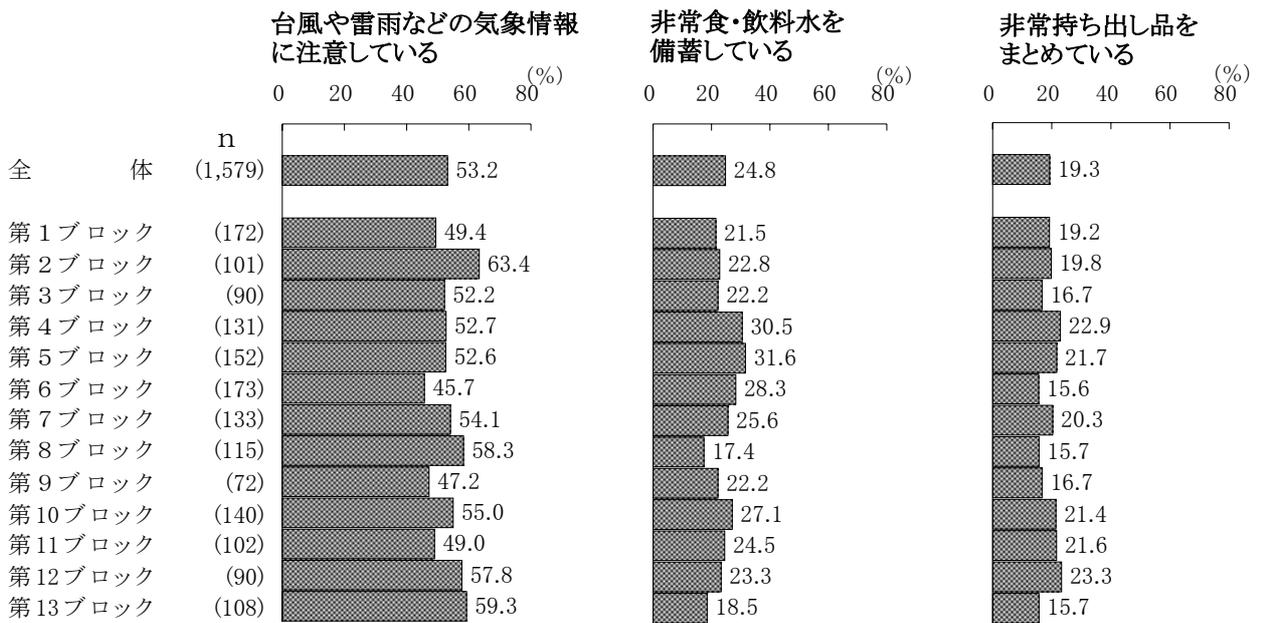
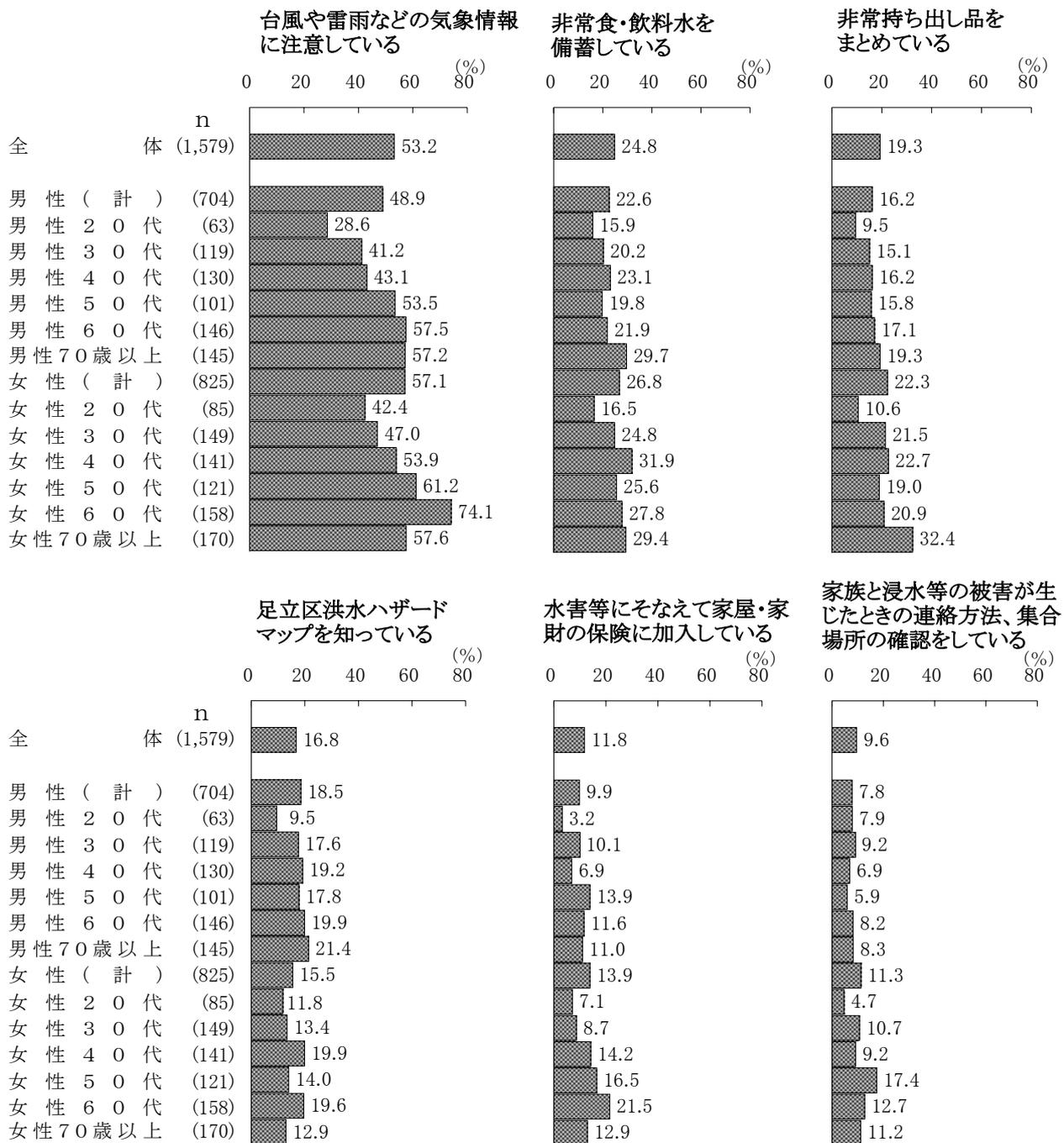


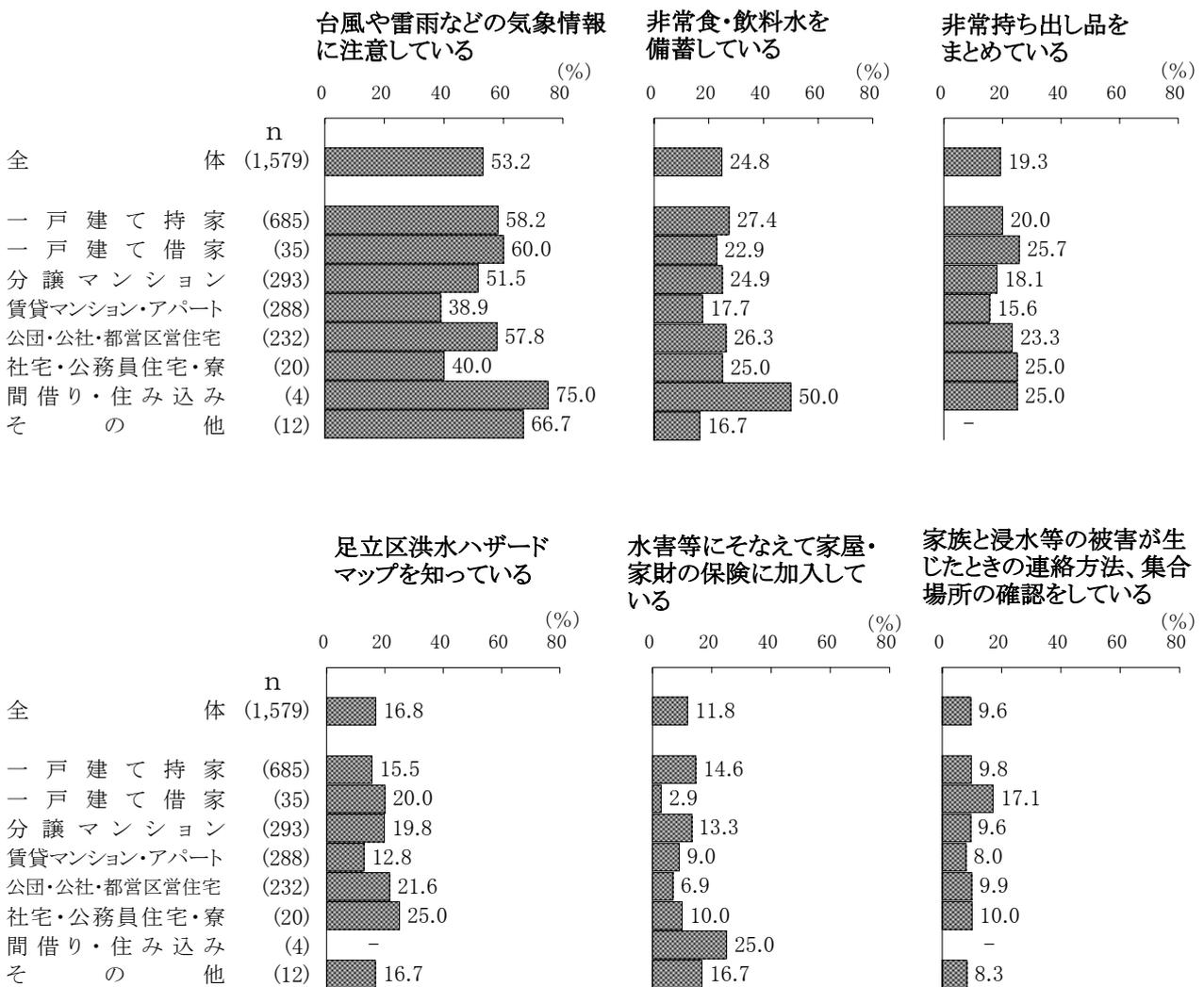
図 7-3-2 「洪水など浸水被害」に備え意識していること【上位6位】(性・年代別)



上位6項目について住居形態別にみると、図7-3-3のとおりである。なお、基数が少ないため、「間借り・住み込み」「その他」は分析から除外する。

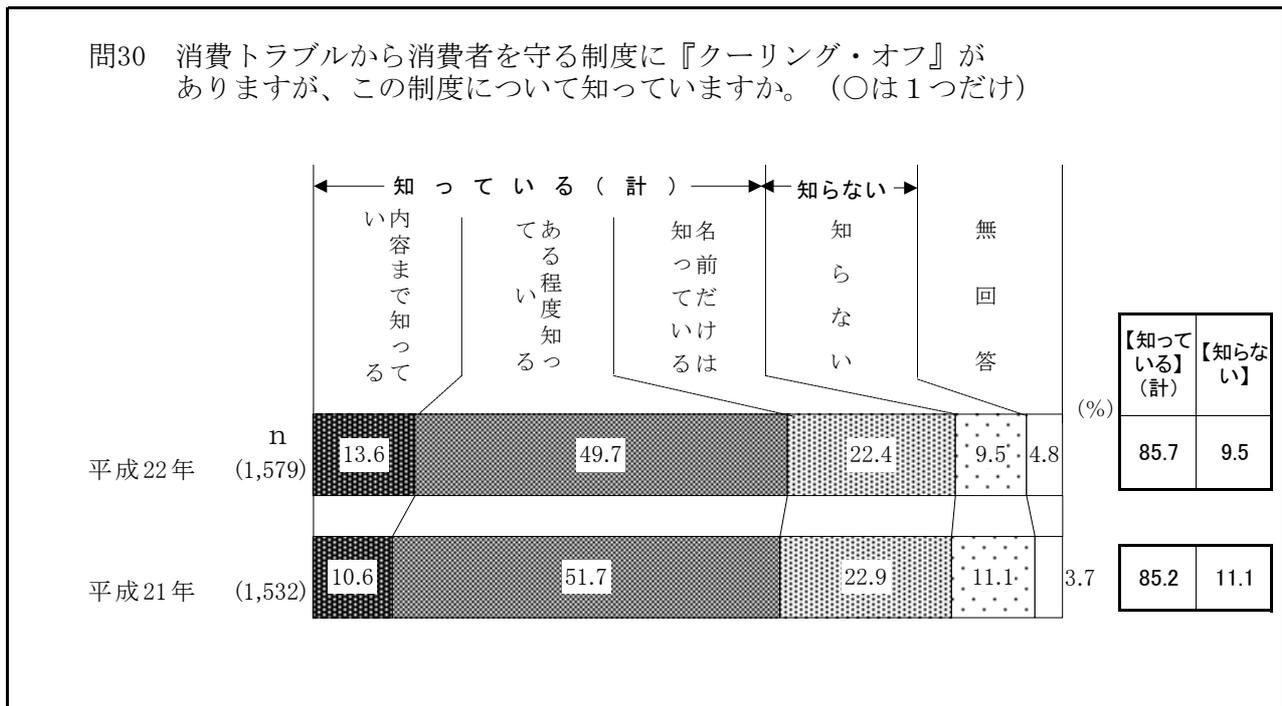
「台風や雷雨などの気象情報に注意している」では、「一戸建て借家」(60.0%)が最も高く、次いで「一戸建て持家」の58.2%が続いている。上位3項目においては「賃貸マンション・アパート」での割合が低くなる傾向にあり、賃貸形態の住居形態では意識がやや低いことが示唆された。

図 7-3-3 「洪水など浸水被害」に備え意識していること【上位6位】(住居形態別)



(4) 「クーリング・オフ」制度の認知度

■ 85.7%の区民が「クーリング・オフ」制度を知っている



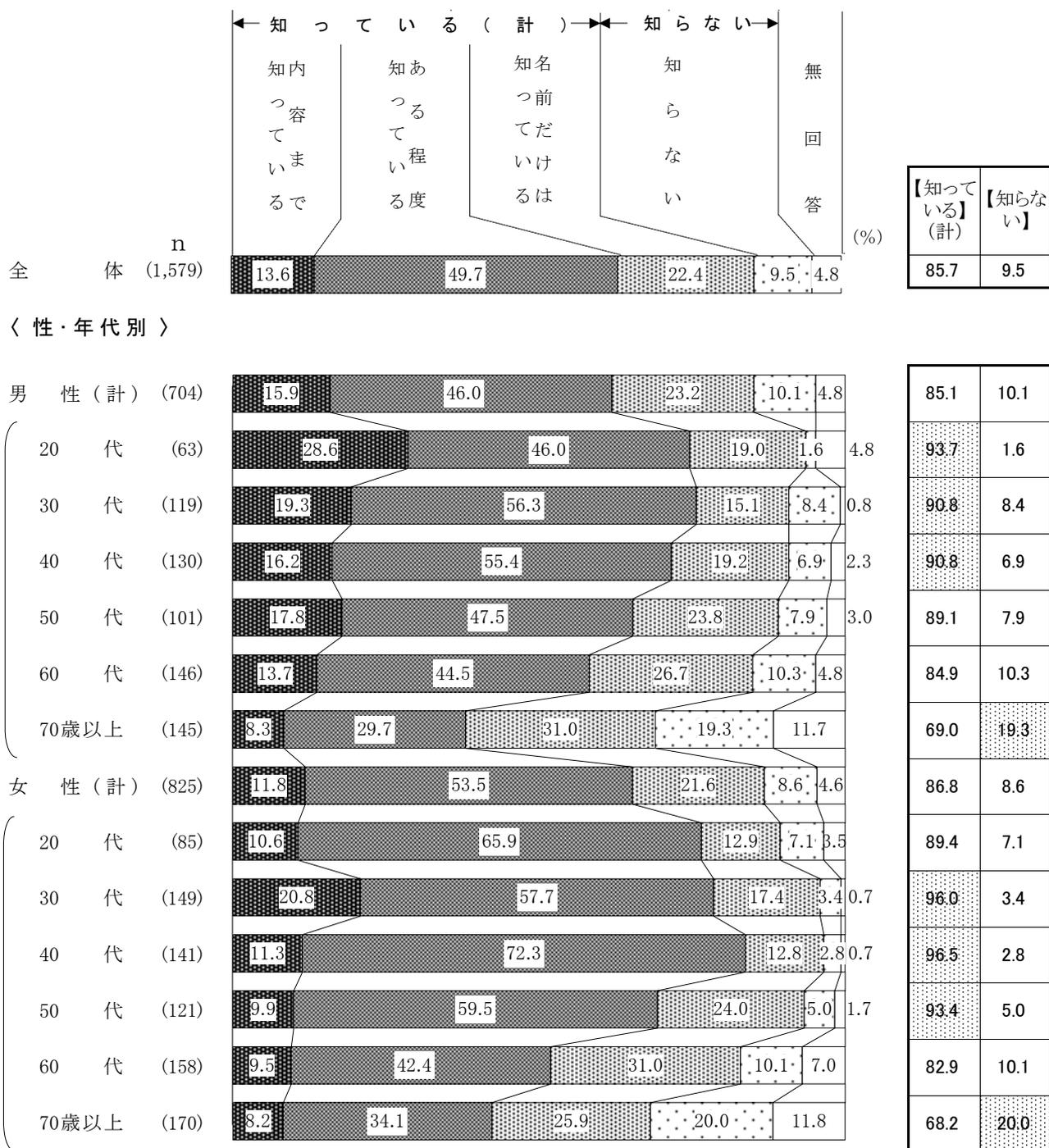
「クーリング・オフ」の認知度では、「ある程度知っている」が49.7%で最も高く、「内容まで知っている」(13.6%)と「名前だけは知っている」(22.4%)をあわせた《知っている》は85.7%となり、8割を超える区民は「クーリング・オフ」の制度を認知していることが示されている。

平成21年度調査と比較すると、認知度に大きな変化は見られない。

性・年代別でみると図7-4-1のとおりである。

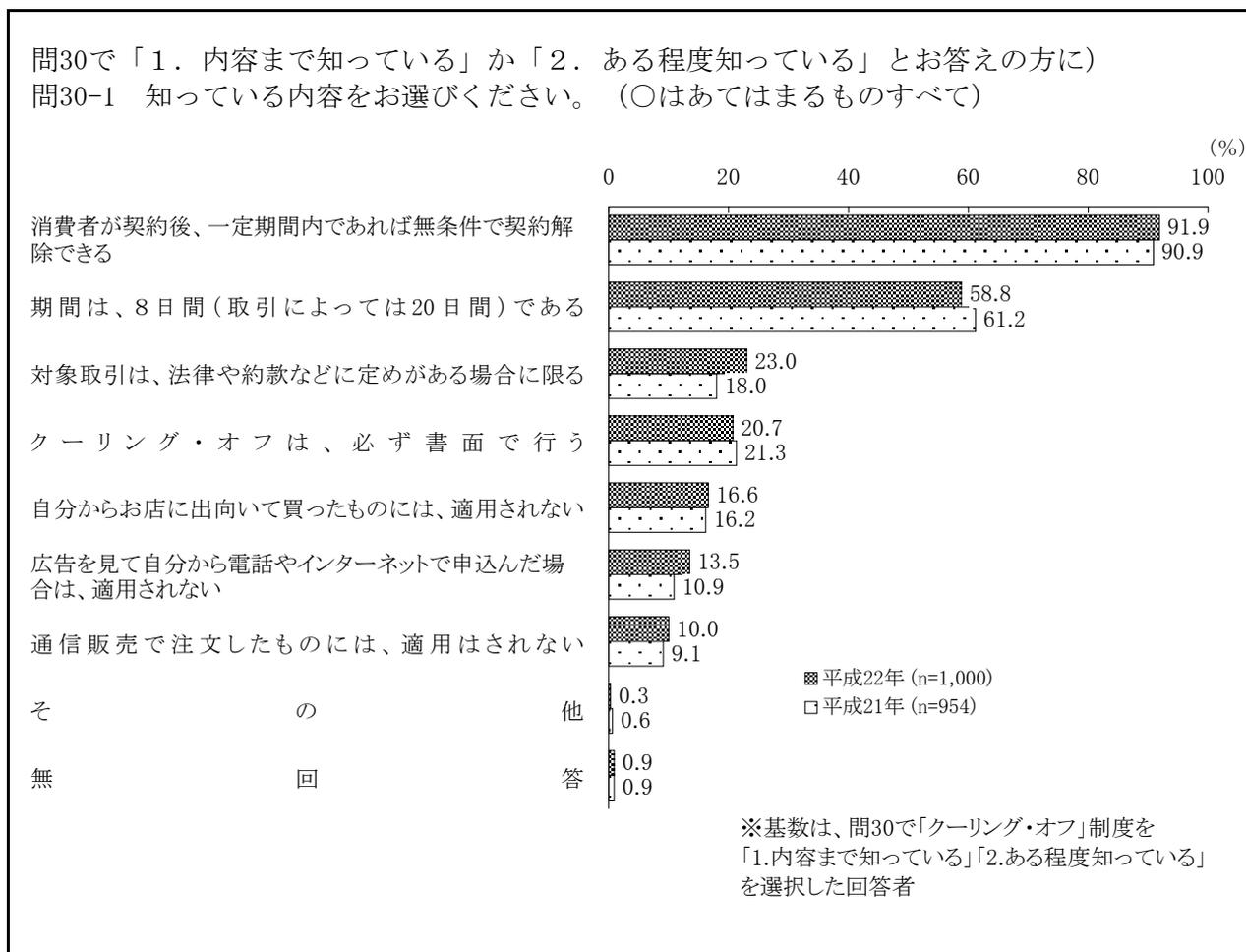
《知っている》の割合は男女ともに、やや若い世代の方が高い傾向にあり、男性では20代の93.7%が、女性では40代の96.5%が最も高く、女性30代(96.0%)や50代(93.4%)、男性30代、40代(90.8%)も9割を超え高くなっている。また、男女とも70歳以上で「知らない」が最も高く、それぞれ2割弱を示していることから、高齢者においては制度の認知度がやや低いといえる。

図 7-4-1 「クーリング・オフ」制度の認知度（性・年代別）



(5) 「クーリング・オフ」制度の認知内容

- 「消費者が契約後、一定期間内であれば無条件で契約解除できる」という内容は、制度の認知者の9割は知っている

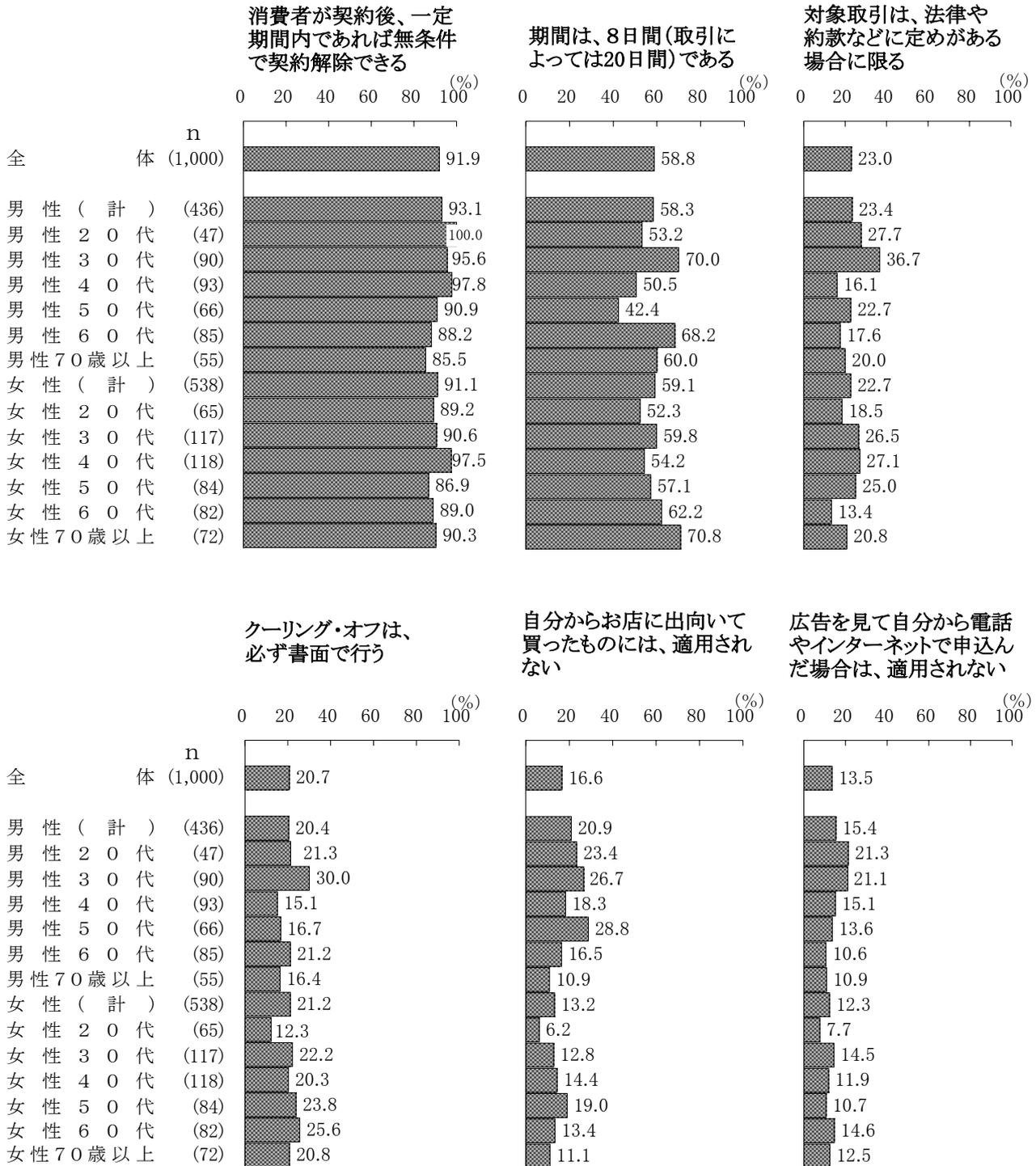


「クーリング・オフ」制度の認知内容では、「消費者が契約後、一定期間内であれば無条件で契約解除できる」が91.9%で最も高く、次いで「期間は、8日間(取引によっては20日間)である」が58.8%、「対象取引は、法律や約款などに定めがある場合に限る」が23.0%となっている。

上位6項目について性・年代別にみると、図7-5-1のとおりである。

「消費者が契約後、一定期間内であれば無条件で契約解除できる」においては、男性20代では100%に達しており、次いで男性40代(97.8%)が高くなっている。一方、女性では40代の97.5%が最も高くなっている。「期間は、8日間(取引によっては20日間)である」においては、男性では30代で70.0%、60代で68.2%と高くなっている。また、女性では70歳以上が70.8%と最も高い。また、「対象取引は、法律や約款などに定めがある場合に限る」においては、男性30代の36.7%が最も高くなっている。

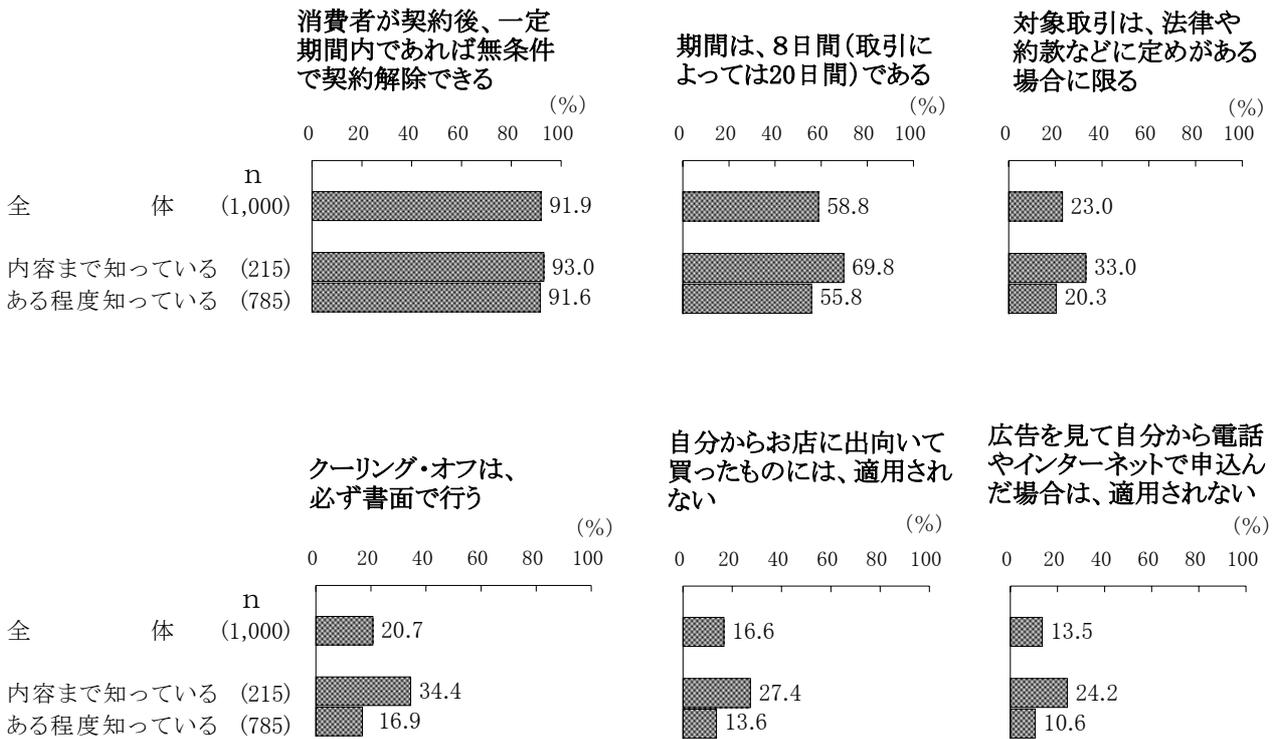
図 7-5-1 「クーリング・オフ」制度の認知内容【上位6位】(性・年代別)



上位6項目を、問30の結果である制度の認知度別にみると、図7-5-2のとおりである。

「消費者が契約後、一定期間内であれば無条件で契約解除できる」では、制度の認知度での大きな差はないが、その他の項目では、「クーリング・オフ制度の内容まで知っている」の割合が高くなり、「ある程度知っている」という層では制度の入り口的な部分の知識にとどまることが示されている。

図 7-5-2 「クーリング・オフ」制度の認知内容【上位6位】(制度の認知度別)



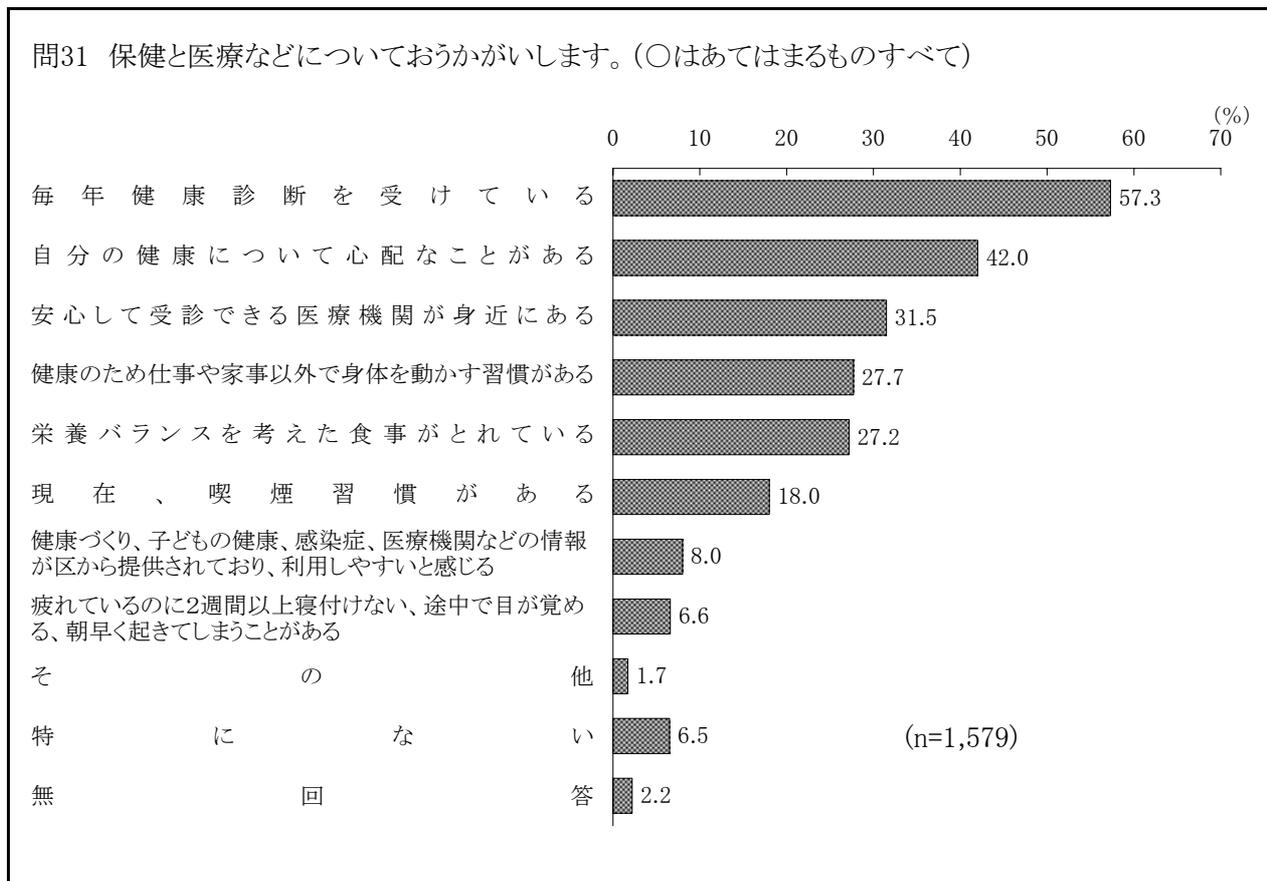
8 保健・医療/高齢者福祉施策

-
- (1) 保健と医療について
 - (2) 高齢者福祉施策の認知度
-

8 保健・医療/高齢者福祉施策

(1) 保健と医療について

■「毎年の健康診断を受けている」が57.3%で最も高い

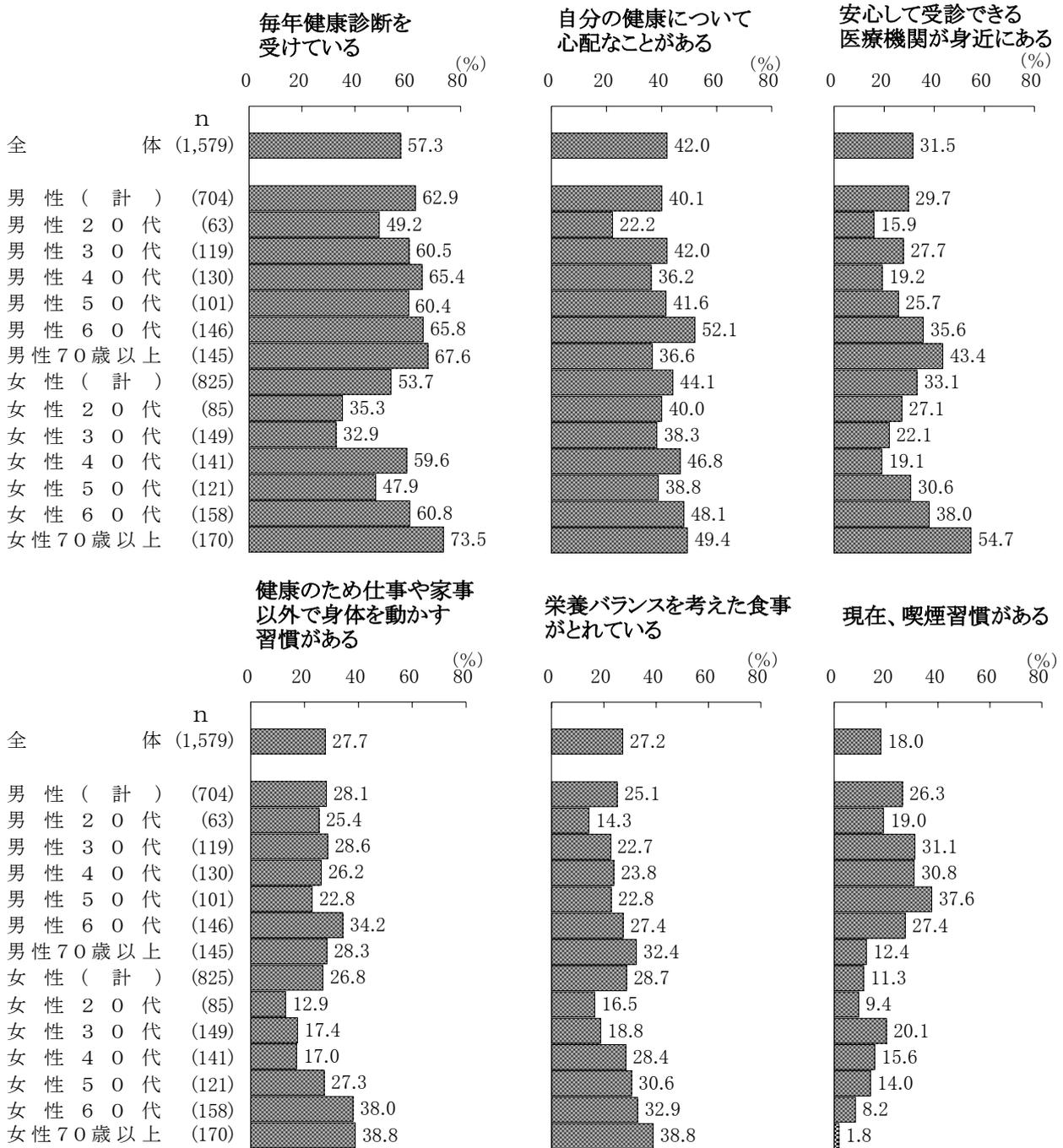


保健と医療については、「毎年健康診断を受けている」が57.3%で最も高く、次いで「自分の健康について心配なことがある」が42.0%、「安心して受診できる医療機関が身近にある」が31.5%と続いている。

上位6項目について性・年代別にみると、図8-1-1のとおりである。

「毎年健康診断を受けている」では、全体的に男性の方が女性よりも割合が高く、また、年代が上がるにつれ割合も上昇する傾向がある。男女とも70歳以上で最も高くなっており、女性70歳以上では73.5%を示し、7割を超えている。「自分の健康について心配なことがある」では、全体的に女性の方が男性よりも割合がやや高い傾向にあるが、男性60代で52.1%と5割を超えている。一方女性では70歳以上が49.4%で最も高い。「安心して受診できる医療機関が身近にある」においても、全体的に女性の方が高い傾向があり、年代が上がるにつれ割合も上昇する傾向がある。男女とも70歳以上で最も高くなり、女性70歳以上では54.7%と5割を超えている。「健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある」では、女性20代が12.9%と最も低く、「栄養バランスを考えた食事がとれている」でも、男性20代、女性の20代、30代が10%台と他の年齢層に比べて低くなっている。「現在、喫煙の習慣がある」では、全体的に男性の方が女性よりも割合が高く、男性50代で37.6%と最も高く、30代、40代でも30%を超えている一方で、男女とも20代は比較的低いことが示されている。

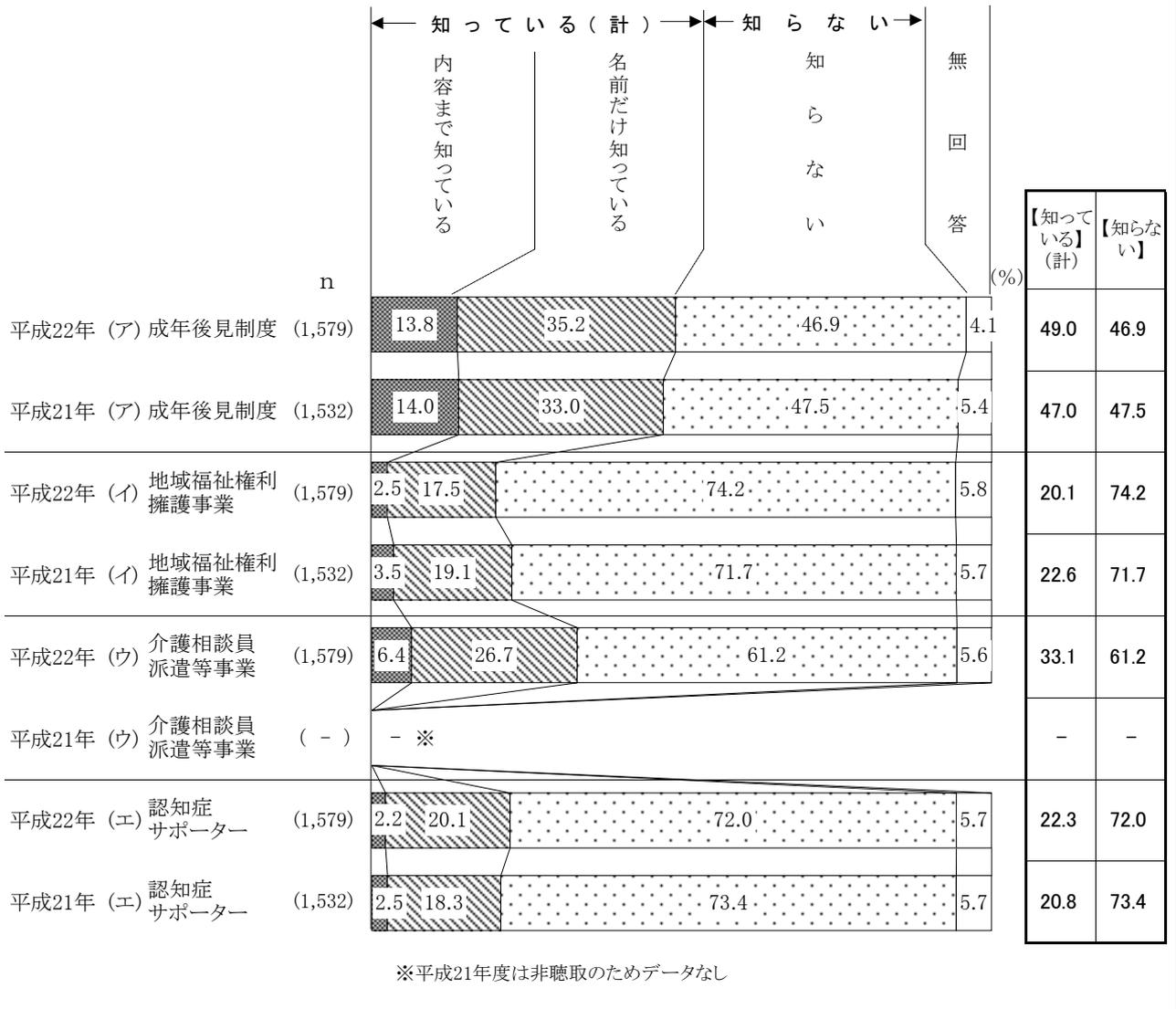
図 8-1-1 保健と医療について【上位6位】(性・年代別)



(2) 高齢者福祉施策の認知度

■ 「成年後見制度」に比べると他の施策の認知度は高いとはいえない

問32 高齢者の権利擁護に関して、区及び社会福祉協議会等が行っている次の取り組みについて知っていますか。(○は(ア)～(エ)それぞれヨコに1つずつ)



高齢者福祉に関する施策の認知度について、「(ア)成年後見制度」では「内容まで知っている」が13.8%で他施策よりも高く、「名前だけ知っている」の35.2%をあわせた《知っている》は49.0%を示し、5割弱の区民に認知されている。一方、「(イ)地域福祉権利擁護事業」では「知らない」が74.2%、「(エ)認知症サポーター」でも「知らない」が72.0%にのぼり、7割以上の区民に認知されていない。

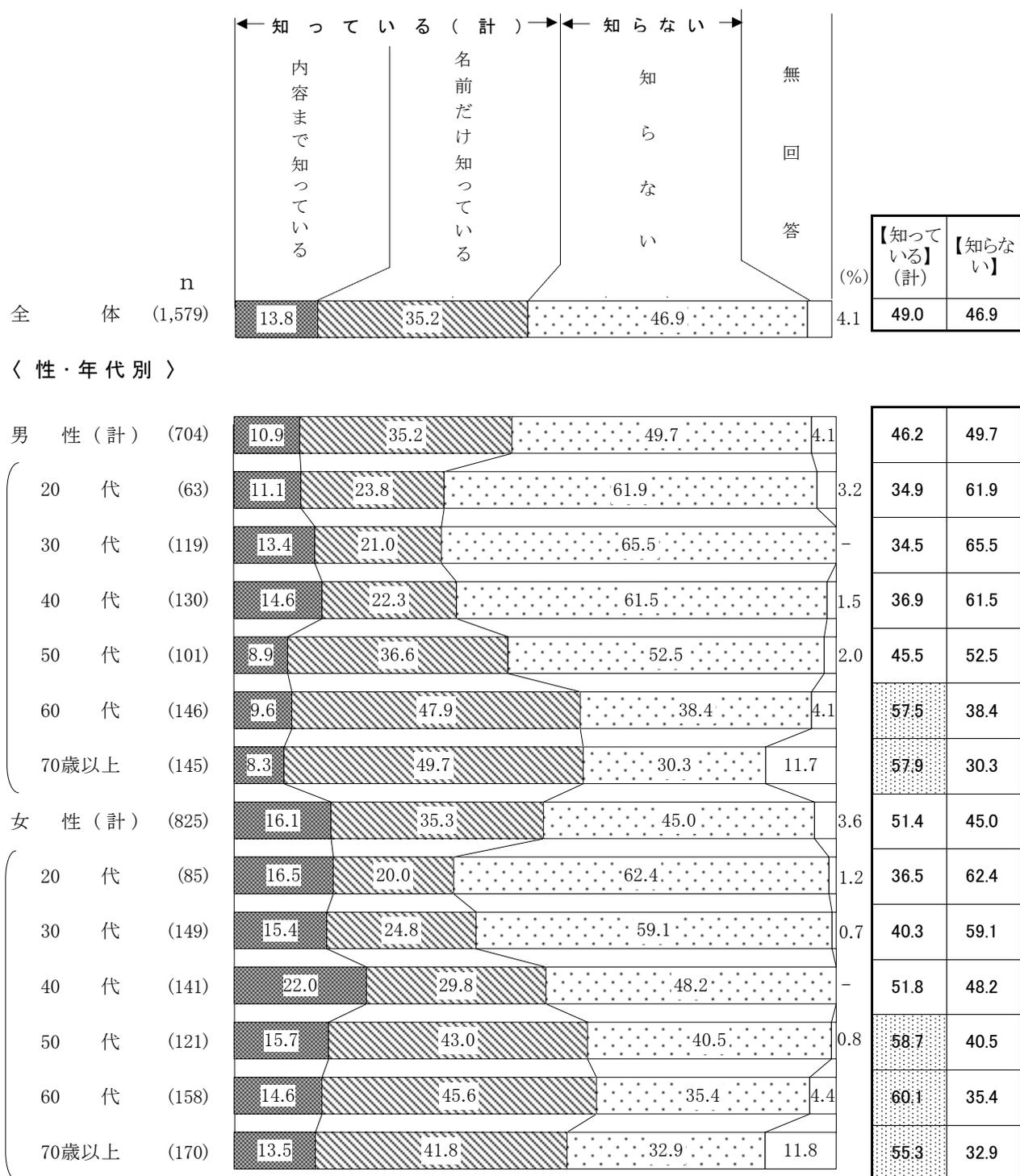
平成21年度調査の認知度と比較すると、《知っている》は「(ア)成年後見制度」は47.0%から49.0%へ2.0ポイント、「(エ)認知症サポーター」は20.8%から22.3%へ1.5ポイント上昇している。一方で、「(イ)地域福祉権利擁護事業」は22.6%から20.1%へ2.5ポイント下降している。

「(ア)成年後見制度」の認知度を性・年代別で見ると図8-2-1のとおりである。

全体的に男性よりも女性の方が認知度が高く、男女とも年代が上がるにつれ、《知っている》割合も上昇する傾向にある。女性60代では60.1%と6割を超え、最も高く、男性60代以上、女性50代、70歳以上の男性、女性でも6割近くと高くなっている。また、女性40代では「内容まで知っている」が22.0%と唯一2割を超え、理解度が高いことがうかがえる。

図 8 - 2 - 1 高齢者福祉施策の認知度（性・年代別）

(ア)成年後見制度

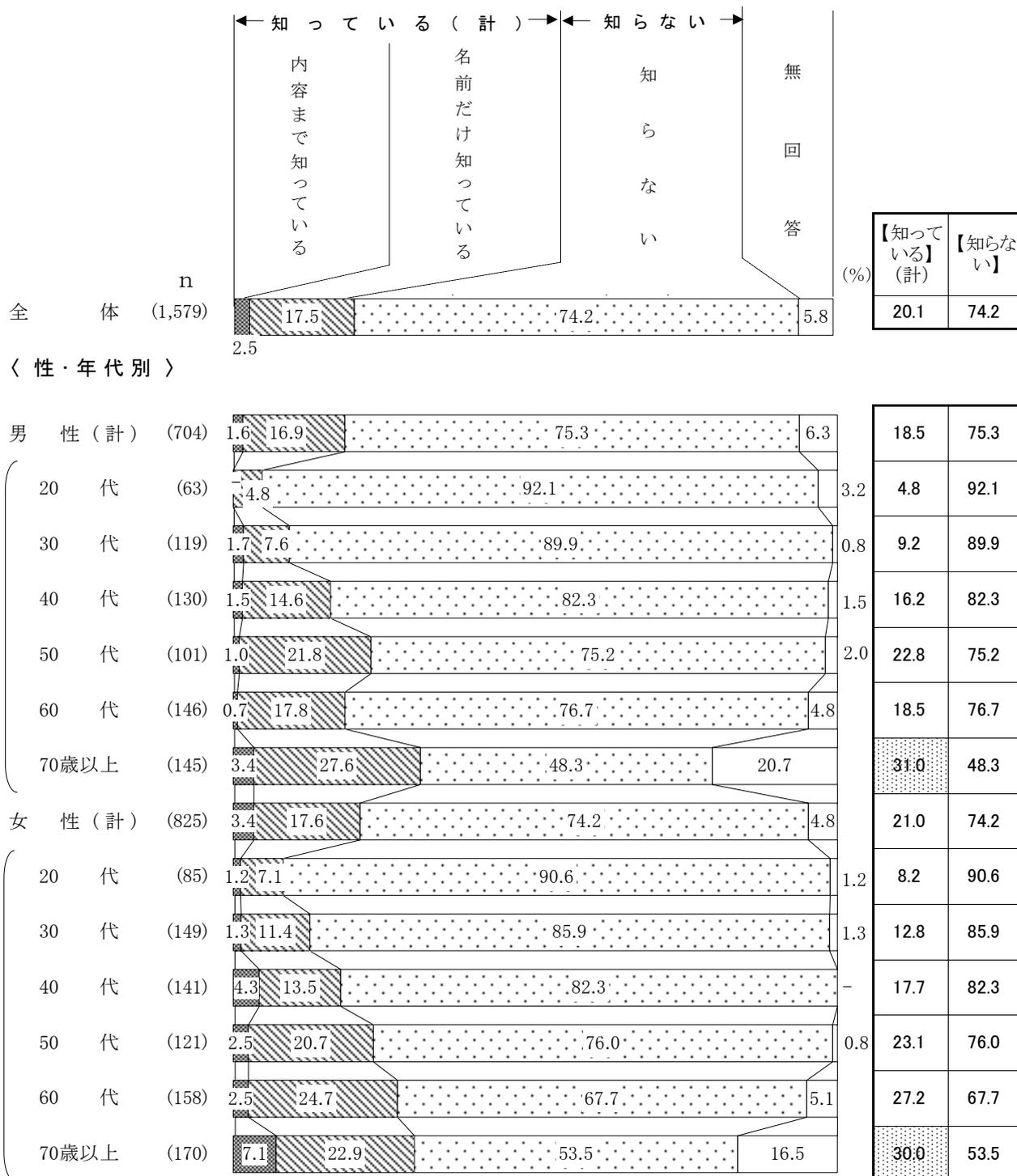


「(イ)地域福祉権利擁護事業」の認知度を性・年代別でみると図8-2-2のとおりである。

男女とも年代が上がるにつれ、《知っている》割合も上昇する傾向にあり、70歳以上でそれぞれ3割を超え、最も高くなっている。また、女性70歳以上では「内容まで知っている」が7.1%と最も高くなっている。

図 8 - 2 - 2 高齢者福祉施策の認知度（性・年代別）

(イ)地域福祉権利擁護事業

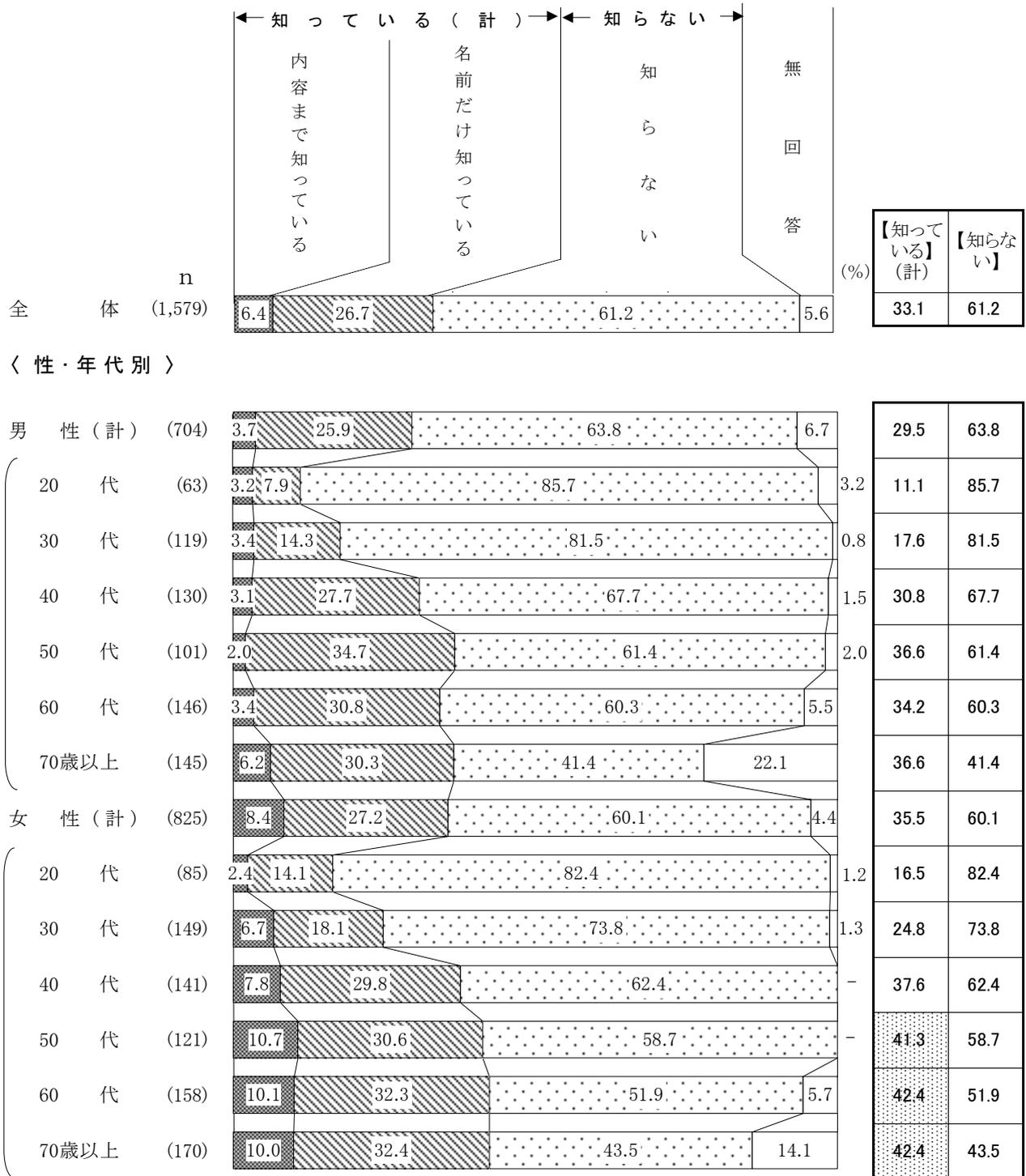


「(ウ)介護相談員派遣等事業」の認知度を性・年代別で見ると図8-2-3のとおりである。

全体的に男性よりも女性の方が認知度が高く、男女とも40代以上で認知度が上昇する傾向にある。女性50代以上では《知っている》の割合が4割を超え、高くなっている。

図 8 - 2 - 3 高齢者福祉施策の認知度（性・年代別）

(ウ)介護相談員派遣等事業

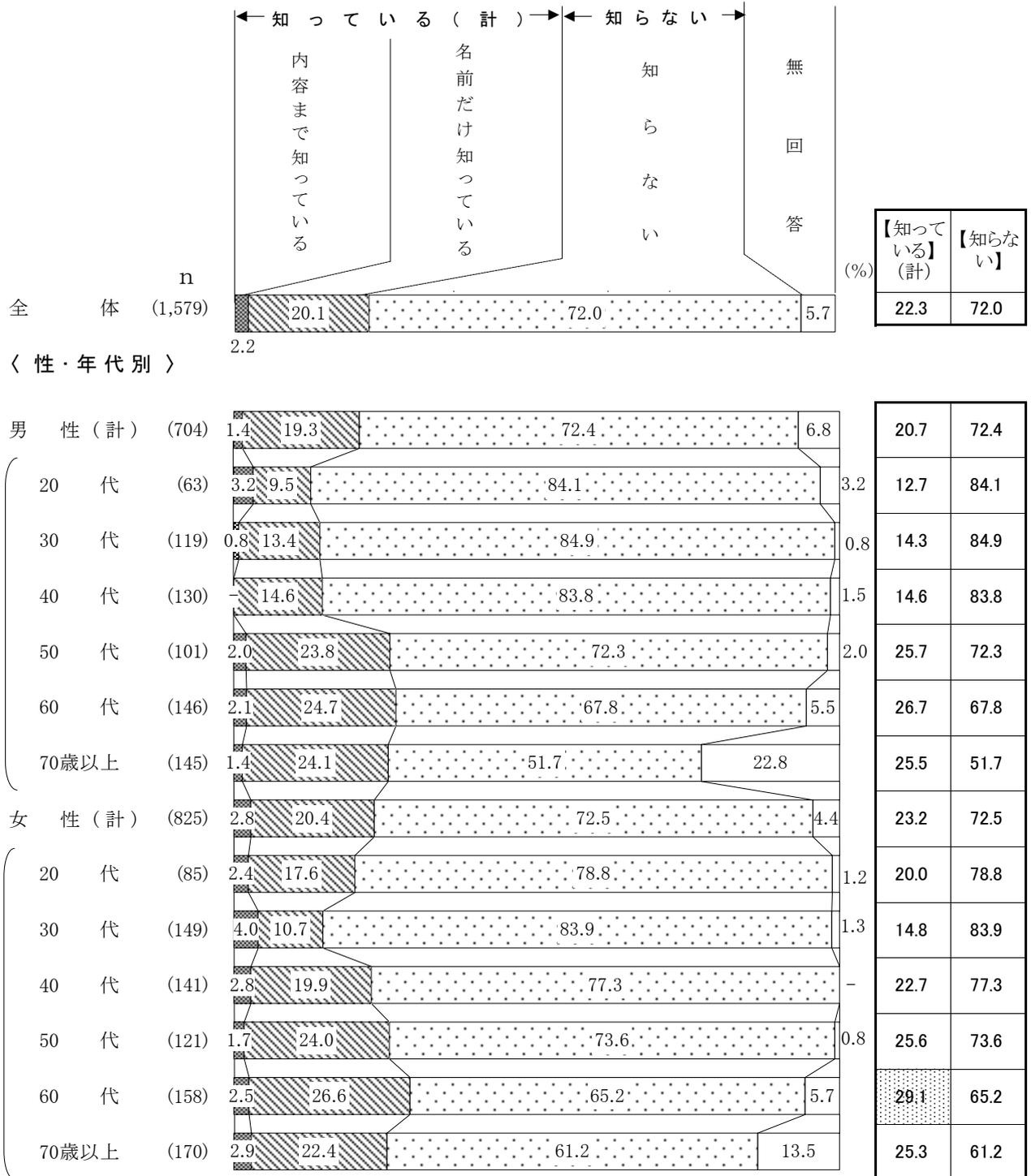


「(エ)認知症サポーター」の認知度を性・年代別で見ると図8-2-4のとおりである。

全体的に男性よりも女性の方が認知度がやや高く、男女とも年代が上がるにつれ、「知っている」割合も上昇する傾向にある。女性60代では29.1%と3割弱を示し最も高く、男性50代以上、女性50代、70歳以上でも25%を超え高くなっている。

図 8 - 2 - 4 高齢者福祉施策の認知度（性・年代別）

(エ)認知症サポーター



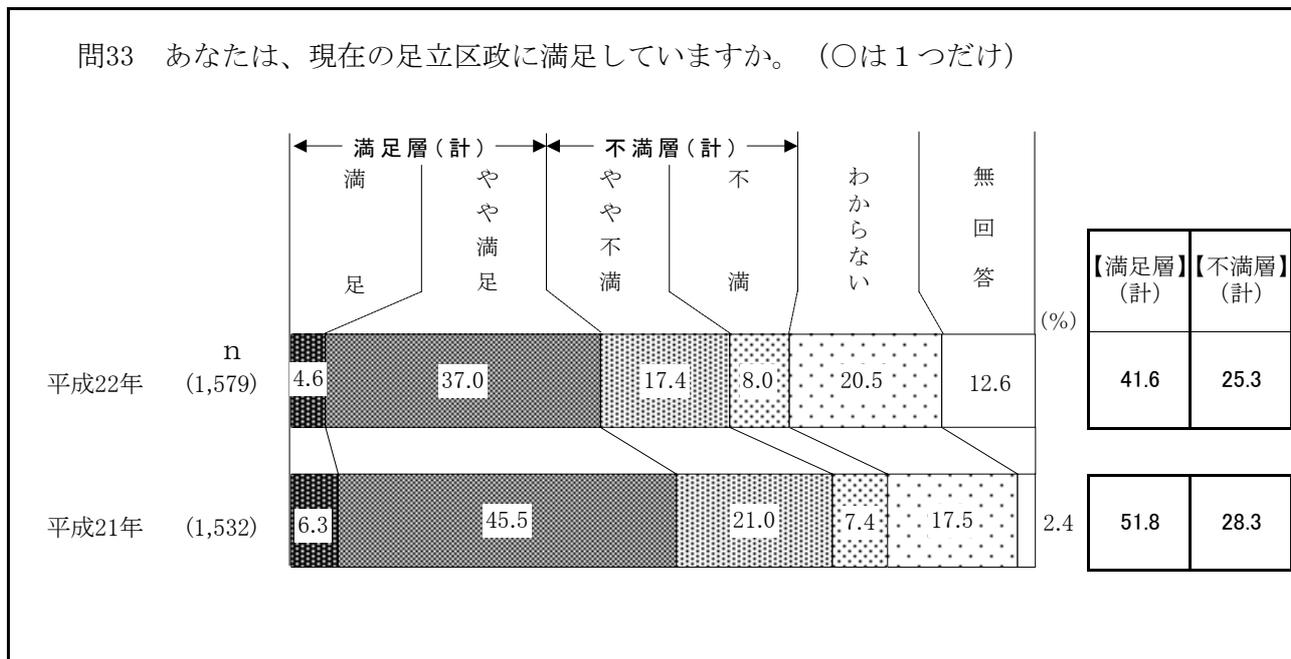
9 区 政

-
- (1) 区政に対する満足度
 - (2) 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み
 - (3) 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み
 - (4) 区の取り組みについての評価・印象
 - (5) 区政への参加・協力意向
-

9 区 政

(1) 区政に対する満足度

■ 《満足層》・《不満層》共に昨年より下降



区政に対する満足度について、「満足」が4.6%、「やや満足」が37.0%で、これらをあわせた《満足層》は41.6%である。また「不満」の8.0%と「やや不満」の17.4%をあわせた《不満層》は25.3%である。平成21年度調査と比較すると、《満足層》は51.8%から41.6%へ10.2ポイント下降しているとともに、《不満層》も28.3%から25.3%へ3ポイント下降している。

区政に対する満足度が平成21年度調査から10.2ポイント下降した背景として以下のことが考えられる。

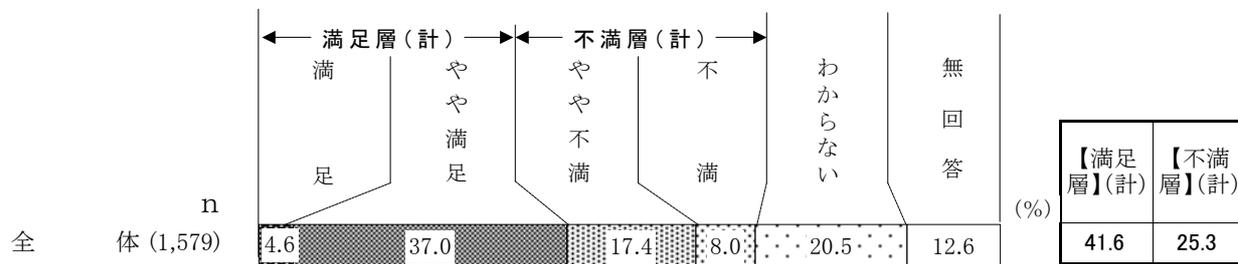
平成20年3月30日に新線(日暮里・舎人ライナー)が開業したが、21年の調査では新線開通による利便性の向上によって、開通したエリアに関わるブロックにおいて大きなポイントの上昇が見られた。しかし、22年の調査に関しては新線開通による利便性の向上が所与の条件となったため、平成21年に上昇したポイントからの下降が見られたことなどである。

また、22年度調査に関しては、「無回答」の割合も平成21年度調査よりも10.2ポイント上昇しており、そのことが満足層又は不満層の数値の低下に寄与している可能性がある。

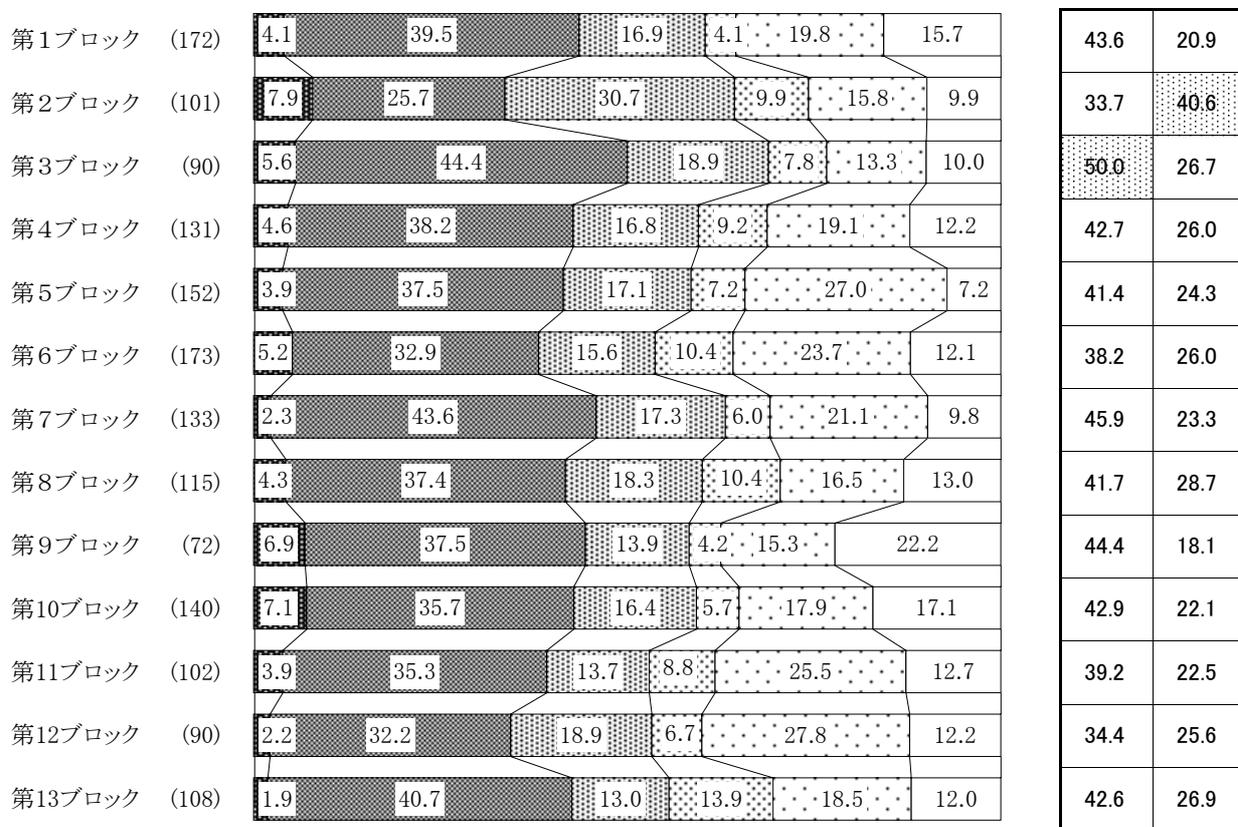
地域ブロック別にみると、図9-1-1のとおりである。

《満足層》は第3ブロック(50.0%)が最も高くなっており、5割にのぼっている。また、《不満層》は第2ブロック(40.6%)で最も高く、4割を超えている。

図 9-1-1 区政に対する満足度 (地域ブロック別)



〈 地域ブロック別 〉



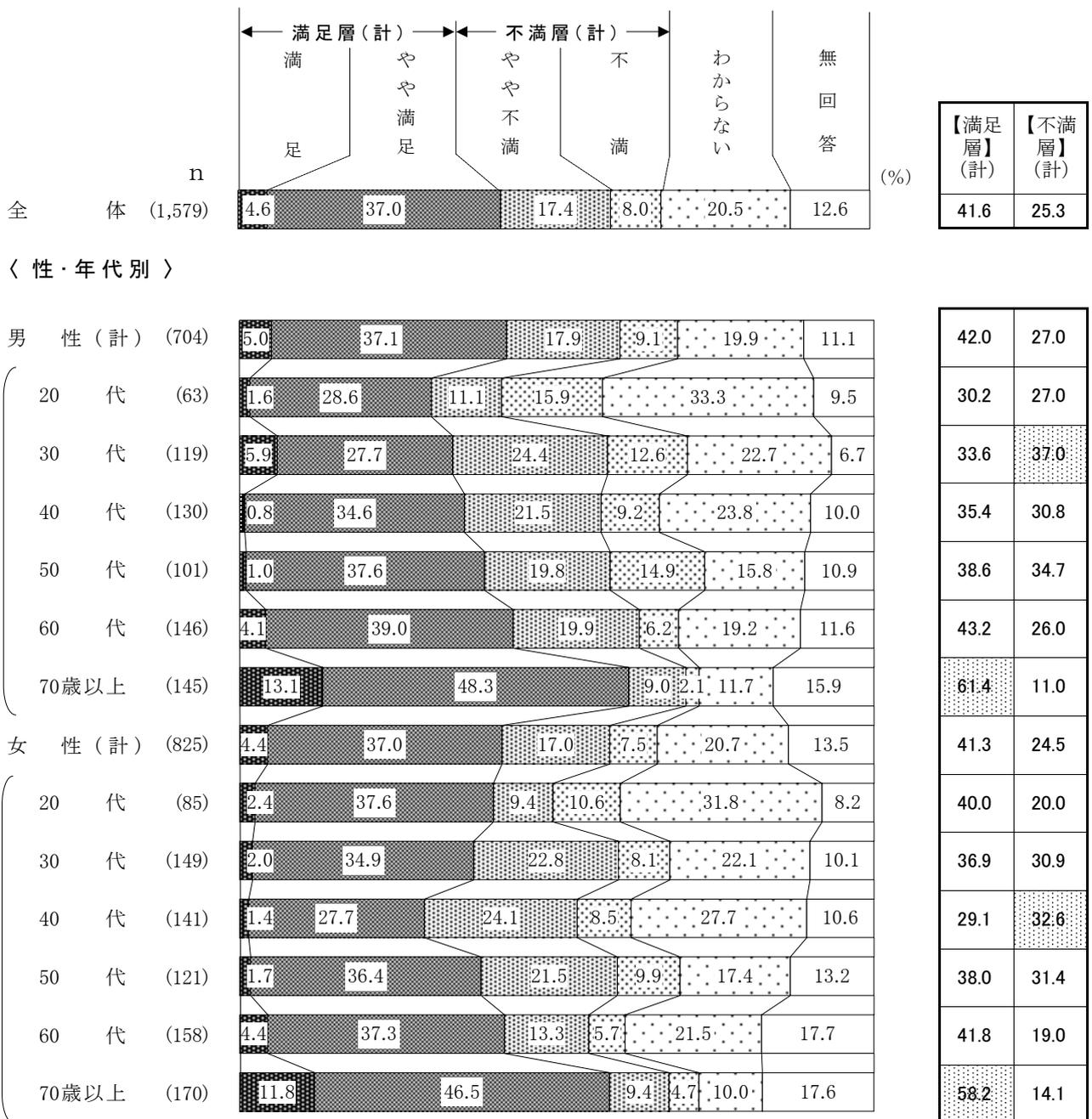
ブロック区分



性・年代別にみると、図9-1-2のとおりである。

《満足層》は男女とも年代が上がるにつれ割合も上昇する傾向にあり、男女とも70歳以上で最も高く、男性70歳以上で61.4%、女性70歳以上で58.2%と6割前後にのぼる。一方、《不満層》は全体的に男性の方が女性よりも割合が高い傾向があり、男性では30代の37.0%、女性では40代の32.6%が最も高くなっている。

図 9 - 1 - 2 区政に対する満足度（性・年代別）



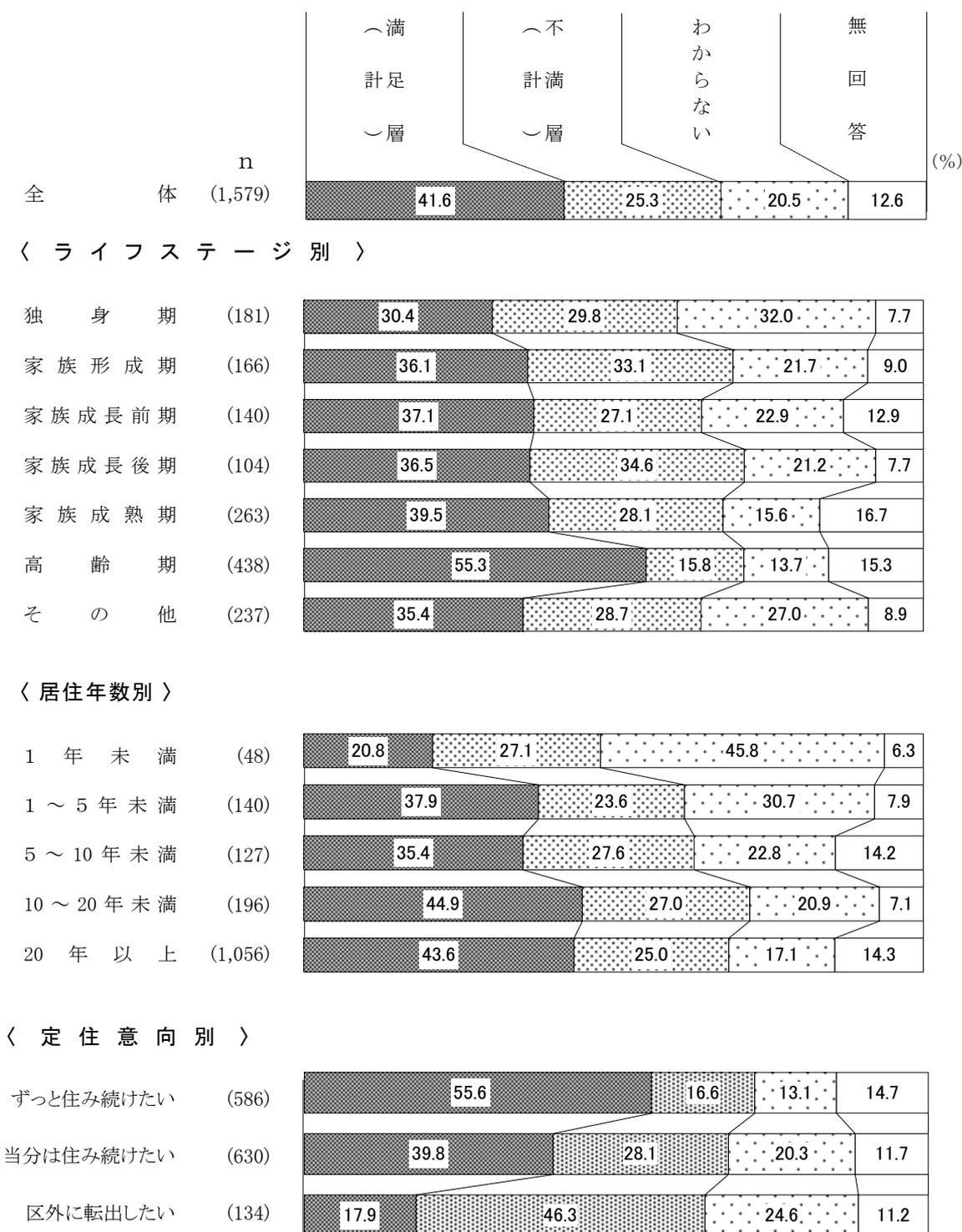
ライフステージ、居住年数、定住意向別にみると、図9-1-3のとおりである。

ライフステージ別でみると、《満足層》は「高齢期」で最も高く、55.3%と5割を超えている。一方、《不満層》は「家族成長後期」で34.6%、「家族形成期」で33.1%と高くなっている。

居住年数別でみると、《満足層》は居住年数が長くなるほど割合が上昇する傾向にあり、「10～20年未満」の44.9%が最も高く、次いで「20年以上」の43.6%となっている。

定住意向別でみると、《満足層》は定住意向が強くなるほど割合が上昇しており、「ずっと住み続けたい」では55.6%と5割を超えている。一方、「区外に転出したい」では《不満層》が46.3%と5割弱にのぼっている。

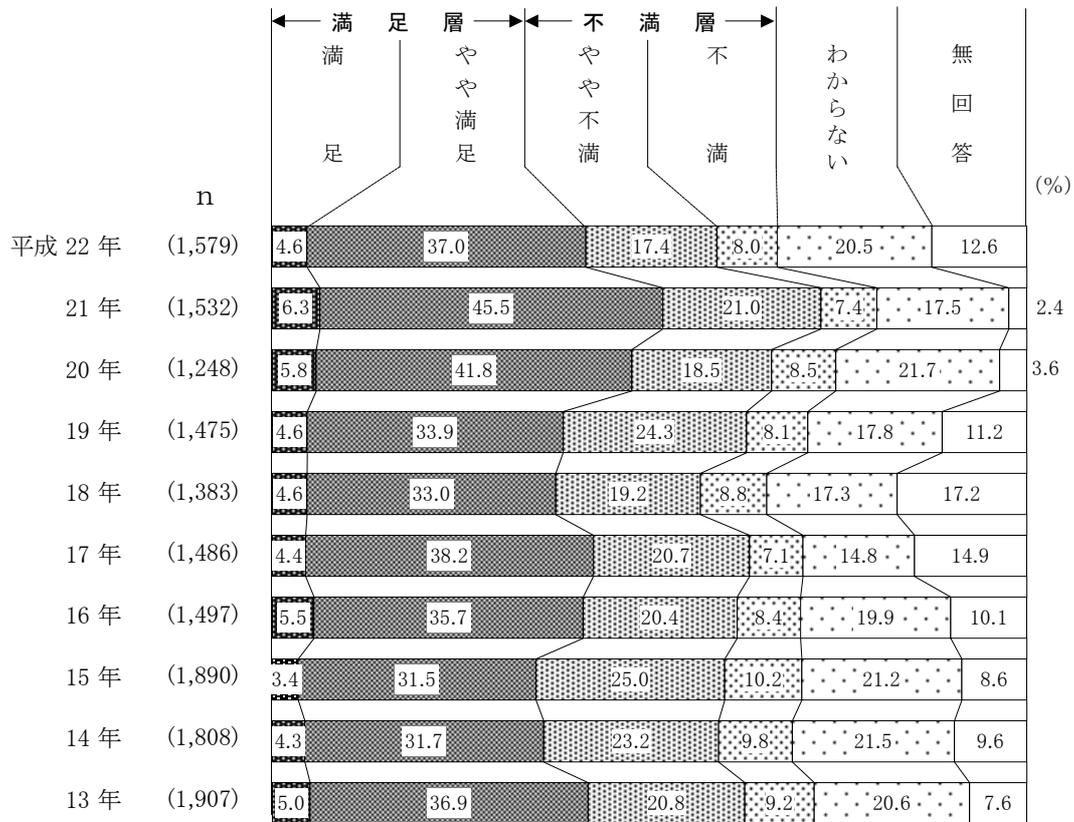
図 9-1-3 区政に対する満足度（ライフステージ、居住年数、定住意向別）



〈参考〉 区政に対する満足度の推移

(平成13年以降 郵送配布郵送回収法)

問 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。(○は1つ)

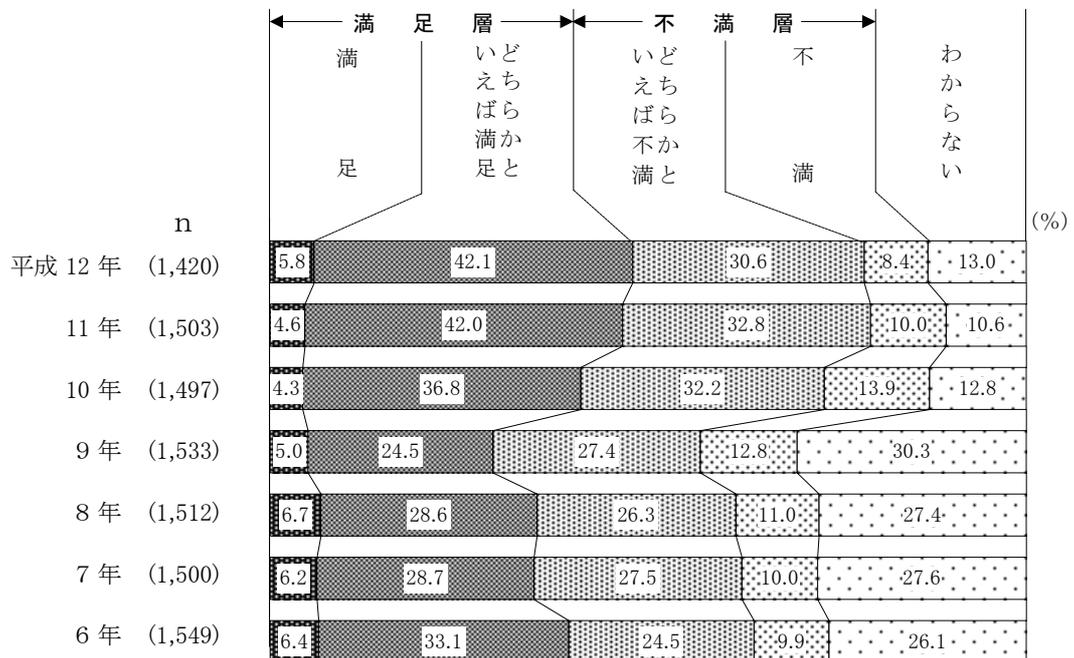


(注) 平成12年までと平成13年以降では、調査方法(平成12年までは訪問面接法、13年以降は郵送配布郵送回収法)、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

(平成12年まで 訪問面接法)

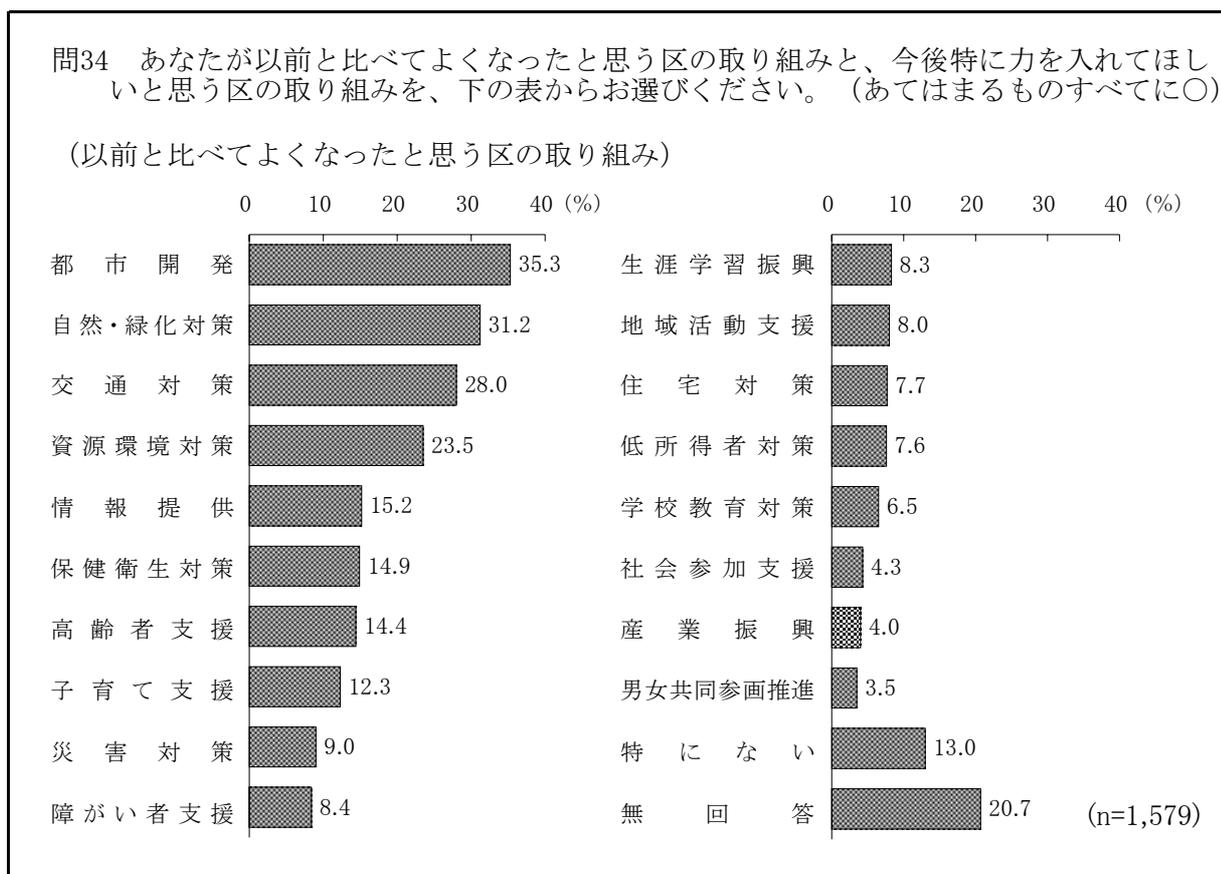
問 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。この中から1つお答えください。

(○は1つ)



(2) 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み

■ 「都市開発」、「自然・緑化対策」が30%を超えている



区の取り組み	内 容	区の取り組み	内 容
都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	生涯学習振興	文化・スポーツ活動の支援、施設の充実など
交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	住宅対策	良質な住宅の供給支援など
情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	低所得者対策	生活の援助や自立支援など
保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など
高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など
子育て支援	保育サービスや子育て相談の充実など	産業振興	商工業の支援、企業起しの支援、消費者対策など
災害対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど

以前と比べてよくなったと思う区の取り組みをあげてもらったところ、「都市開発」(35.3%)が最も高く、次いで「自然・緑化対策」(31.2%)、「交通対策」(28.0%)、「資源環境対策」(23.5%)、「情報提供」(15.2%)の順となっている。

地域ブロック別にみると、表9-2-1のとおりである。

各ブロックの第1位をみると、最も多いのは「都市開発」で8つのブロックで第1位にあげられている。「都市開発」で最もポイントが高いのは第3ブロックで50.0%と、5割を超えている。次いで「自然・緑化対策」が4つのブロックで第1位となっており、第2ブロック(43.6%)、第13ブロック(42.6%)が高くなっている。

表9-2-1 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み 上位5項目 (地域ブロック別) (%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,579	都 市 開 発 (35.3)	自 然・緑 化 対 策 (31.2)	交 通 対 策 (28.0)	資 源 環 境 対 策 (23.5)	情 報 提 供 (15.2)
第1ブロック	172	都 市 開 発 (37.8)	自 然・緑 化 対 策 (25.6)	交 通 対 策/ 資 源 環 境 対 策 (23.8)	保 健 衛 生 対 策 (16.3)	情 報 提 供 (14.5)
第2ブロック	101	自 然・緑 化 対 策 (43.6)	都 市 開 発 (38.6)	交 通 対 策 (29.7)	高 齢 者 支 援/ 資 源 環 境 対 策 (22.8)	情 報 提 供 (17.8)
第3ブロック	90	都 市 開 発 (50.0)	交 通 対 策 (40.0)	資 源 環 境 対 策 (27.8)	自 然・緑 化 対 策 (26.7)	保 健 衛 生 対 策 (20.0)
第4ブロック	131	都 市 開 発 (44.3)	自 然・緑 化 対 策 (29.0)	交 通 対 策 (20.6)	保 健 衛 生 対 策 (19.1)	資 源 環 境 対 策 (18.3)
第5ブロック	152	自 然・緑 化 対 策 (33.6)	都 市 開 発 (28.3)	資 源 環 境 対 策 (25.7)	交 通 対 策 (22.4)	情 報 提 供 (19.7)
第6ブロック	173	自 然・緑 化 対 策 (32.9)	交 通 対 策 (23.7)	都 市 開 発 (22.0)	資 源 環 境 対 策 (16.2)	高 齢 者 支 援 (11.6)
第7ブロック	133	都 市 開 発 (33.1)	自 然・緑 化 対 策 (31.6)	交 通 対 策 (29.3)	資 源 環 境 対 策 (24.8)	情 報 提 供 (16.5)
第8ブロック	115	都 市 開 発 (37.4)	交 通 対 策 (32.2)	自 然・緑 化 対 策/ 資 源 環 境 対 策 (25.2)	保 健 衛 生 対 策 (15.7)	子 育 て 支 援 (13.9)
第9ブロック	72	都 市 開 発 (30.6)	自 然・緑 化 対 策/ 資 源 環 境 対 策 (25.0)	交 通 対 策 (20.8)	保 健 衛 生 対 策 (16.7)	生 涯 学 習 振 興 (15.3)
第10ブロック	140	都 市 開 発 (32.9)	交 通 対 策 (26.4)	自 然・緑 化 対 策/ 資 源 環 境 対 策 (25.7)	情 報 提 供 (20.7)	保 健 衛 生 対 策 (17.9)
第11ブロック	102	都 市 開 発 (39.2)	自 然・緑 化 対 策 (38.2)	交 通 対 策 (31.4)	資 源 環 境 対 策 (30.4)	高 齢 者 支 援/ 保 健 衛 生 対 策 (15.7)
第12ブロック	90	交 通 対 策 (37.8)	都 市 開 発 (34.4)	自 然・緑 化 対 策 (27.8)	資 源 環 境 対 策 (23.3)	保 健 衛 生 対 策 (16.7)
第13ブロック	108	自 然・緑 化 対 策 (42.6)	都 市 開 発 (40.7)	交 通 対 策 (36.1)	資 源 環 境 対 策 (21.3)	子 育 て 支 援/ 情 報 提 供 (20.4)

ブロック区分



性・年代別にみると、表9-2-2のとおりである。

「都市開発」が男女ともに4つの年代で、「自然・緑化対策」が男女とも2つの年代で第1位になっている。

表9-2-2 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み 上位5項目（性・年代別）
(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体	1,579	都市開発 (35.3)	自然・緑化対策 (31.2)	交通対策 (28.0)	資源環境対策 (23.5)	情報提供 (15.2)
男性20代	63	都市開発 (41.3)	交通対策 (27.0)	自然・緑化対策 (19.0)	高齢者支援 (14.3)	情報提供 (11.1)
30代	119	都市開発 (44.5)	交通対策 (31.1)	自然・緑化対策 (21.8)	子育て支援 (18.5)	資源環境対策 (17.6)
40代	130	都市開発 (36.2)	交通対策 (32.3)	自然・緑化対策 (29.2)	資源環境対策 (21.5)	情報提供 (16.2)
50代	101	自然・緑化対策 (36.6)	交通対策 (32.7)	資源環境対策 (29.7)	都市開発 (27.7)	災害対策/ 情報提供 (14.9)
60代	146	都市開発 (31.5)	自然・緑化対策 (30.1)	交通対策 (23.3)	資源環境対策/ 保健衛生対策 (17.8)	情報提供 (16.4)
70歳以上	145	自然・緑化対策 (34.5)	都市開発 (33.1)	交通対策 (27.6)	資源環境対策 (26.9)	高齢者支援 (24.8)
女性20代	85	都市開発 (45.9)	交通対策 (29.4)	自然・緑化対策 (24.7)	資源環境対策 (20.0)	子育て支援 (16.5)
30代	149	都市開発 (38.3)	自然・緑化対策 (34.2)	交通対策 (24.8)	資源環境対策 (20.1)	情報提供 (18.1)
40代	141	都市開発 (29.8)	交通対策 (26.2)	自然・緑化対策 (25.5)	資源環境対策 (22.0)	子育て支援 (20.6)
50代	121	都市開発 (44.6)	自然・緑化対策 (42.1)	資源環境対策 (32.2)	交通対策 (28.9)	保健衛生対策 (20.7)
60代	158	自然・緑化対策 (36.1)	都市開発 (34.2)	資源環境対策 (29.1)	交通対策 (28.5)	保健衛生対策 (24.1)
70歳以上	170	自然・緑化対策 (34.1)	交通対策 (31.2)	都市開発 (28.8)	資源環境対策 (26.5)	高齢者支援 (25.3)

表9-2-3 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み 上位5項目の推移(対前年)

区の取り組み	平成22年の上位		平成21年の上位		平成22年と平成21年の差
	順位	%	順位	%	
都市開発	第1位	35.3	第1位	40.4	-5.1
自然・緑化対策	第2位	31.2	第3位	31.3	-0.1
交通対策	第3位	28.0	第2位	33.6	-5.6
資源環境対策	第4位	23.5	第4位	26.9	-3.4
情報提供	第5位	15.2	第6位	14.9	+0.3

以前と比べてよくなったと思う区の取り組みは平成21年度調査と比べると、「情報提供」以外の上位4位の項目はすべて下降している。また、平成21年では第6位だった「情報提供」が第5位となり、平成21年では第5位だった「保健衛生対策」は、平成22年では第5位までには入っていない。

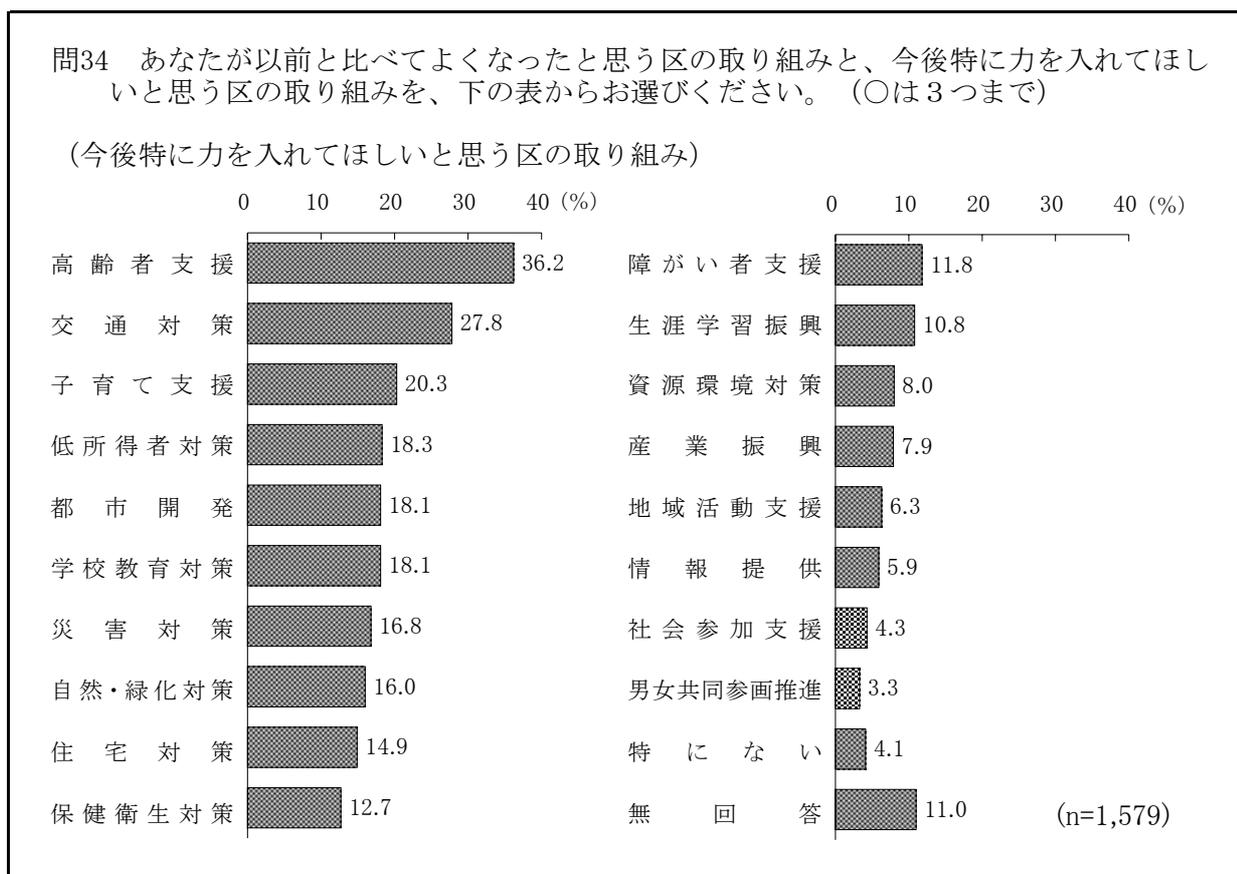
表9-2-4 以前と比べてよくなったと思う区の取り組み 上位5項目の推移(対平成13年)

区の取り組み	平成22年の上位		平成13年の上位		平成22年と平成13年の差
	順位	%	順位	%	
都市開発	第1位	35.3	第2位	27.6	+7.7
自然・緑化対策	第2位	31.2	第1位	31.5	-0.3
交通対策	第3位	28.0	第4位	19.8	+8.2
資源環境対策	第4位	23.5	第3位	26.5	-3.0
情報提供	第5位	15.2	第5位	17.3	-2.1

また、以前と比べてよくなったと思う区の取り組みを調査が始まった平成13年と比較すると、交通対策は8.2ポイント(21年と13年の比較では13.8ポイント)、都市開発は7.7ポイント(21年と13年の比較では12.8ポイント)と大きく上昇している。これは、この間につくばエクスプレス、日暮里・舎人ライナーの開通、西新井駅西口や新田地区などの再開発が進んだことなどが評価されているものと考えられる。

(3) 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み

■ 全体としては「高齢者支援」が1位だが、世代ごとに要望の順位は異なる



区の取り組み	内 容	区の取り組み	内 容
高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など
交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など
子育て支援	保育サービスや子育て相談の充実など	生涯学習振興	文化・スポーツ活動の支援、施設の充実など
低所得者対策	生活の援助や自立支援など	資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど
都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など
学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など
災害対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など
自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など
住宅対策	良質な住宅の供給支援など	男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど

今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを3つまであげてもらったところ、「高齢者支援」が36.2%と最も高く、次いで「交通対策」が27.8%、「子育て支援」が20.3%の順となっている。

地域ブロック別にみると、表9-3-1のとおりである。

全13ブロックのうち、11のブロックで「高齢者支援」が第1位にあげられている。一方、第7、第9ブロックでは、交通対策が第1位にあげられている。

表9-3-1 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み 上位5項目（地域ブロック別）

(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,579	高齢者支援 (36.2)	交通対策 (27.8)	子育て支援 (20.3)	低所得者対策 (18.3)	都市開発/ 学校教育対策 (18.1)
第1ブロック	172	高齢者支援 (34.3)	都市開発/ 子育て支援 (24.4)	災害対策 (22.1)	学校教育対策 (21.5)	自然・緑化対策 (20.9)
第2ブロック	101	高齢者支援 (34.7)	交通対策 (32.7)	子育て支援 (25.7)	都市開発 (21.8)	学校教育対策 (20.8)
第3ブロック	90	高齢者支援 (48.9)	交通対策 (25.6)	災害対策/ 低所得者対策 (22.2)	障がい者支援 (18.9)	住宅対策 (17.8)
第4ブロック	131	高齢者支援 (32.8)	交通対策 (26.7)	都市開発 (18.3)	低所得者対策 (16.8)	災害対策/ 子育て支援/ 学校教育対策 (15.3)
第5ブロック	152	高齢者支援 (40.8)	交通対策 (35.5)	子育て支援 (20.4)	都市開発/ 災害対策 (19.7)	自然・緑化対策 (17.1)
第6ブロック	173	高齢者支援 (31.2)	子育て支援 (24.3)	学校教育対策 (19.1)	都市開発 (18.5)	交通対策/ 自然・緑化 対策/ 低所得者対策 (15.0)
第7ブロック	133	交通対策 (33.8)	高齢者支援 (27.1)	学校教育対策 (21.8)	低所得者対策 (20.3)	都市開発/ 子育て支援 (18.0)
第8ブロック	115	高齢者支援 (35.7)	交通対策 (30.4)	低所得者対策 (26.1)	子育て支援 (22.6)	自然・緑化対策 (18.3)
第9ブロック	72	交通対策 (38.9)	高齢者支援 (30.6)	学校教育対策 (19.4)	低所得者対策/ 子育て支援 (18.1)	住宅対策 (16.7)
第10ブロック	140	高齢者支援 (36.4)	交通対策 (26.4)	住宅対策 (22.1)	都市開発 (18.6)	低所得者対策/ 学校教育対策 (16.4)
第11ブロック	102	高齢者支援 (38.2)	子育て支援 (25.5)	低所得者対策 (23.5)	交通対策 (22.5)	災害対策 (21.6)
第12ブロック	90	高齢者支援 (42.2)	交通対策 (36.7)	学校教育対策 (20.0)	子育て支援 (17.8)	低所得者対策 (16.7)
第13ブロック	108	高齢者支援 (44.4)	交通対策 (34.3)	子育て支援 (21.3)	保健衛生対策 (20.4)	災害対策/ 低所得者 対策/ 学校教育 (19.4)

ブロック区分



性・年代別にみると、表9-3-2のとおりである。

「高齢者支援」は男性では50代以上、女性では40代以上の年代で第1位にあげられている。「高齢者支援」の数値は、若い世代から中高年層に年代が上がるとともに上昇する傾向が見られる。「子育て支援」は女性20代、30代で第1位、男性30代でも2位にあげられている。「学校教育対策」は、男性40代、女性30代、40代で2位にあげられている。また、「交通対策」は男性の20代、30代、40代で第1位にあげられている。年代ごとに力を入れてほしいと思う取り組みに差があることが認識される。

表9-3-2 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み 上位5項目（性・年代別）

(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,579	高齢者支援 (36.2)	交通対策 (27.8)	子育て支援 (20.3)	低所得者対策 (18.3)	都市開発/ 学校教育対策 (18.1)
男性20代	63	交通対策 (41.3)	都市開発 (25.4)	子育て支援 (23.8)	住宅対策 (20.6)	高齢者支援 (19.0)
30代	119	交通対策 (40.3)	子育て支援 (35.3)	都市開発/ 学校教育対策 (31.1)	自然・緑化対策 (19.3)	高齢者支援 (15.1)
40代	130	交通対策 (30.8)	学校教育対策 (29.2)	高齢者支援 (28.5)	子育て支援 (26.2)	自然・緑化対策 (19.2)
50代	101	高齢者支援 (39.6)	都市開発 (30.7)	交通対策/自然・ 緑化対策 (21.8)	災害対策 (20.8)	低所得者対策 (19.8)
60代	146	高齢者支援 (50.0)	交通対策 (24.7)	低所得者対策 (22.6)	自然・緑化対策 (18.5)	子育て支援 (16.4)
70歳以上	145	高齢者支援 (46.9)	交通対策 (23.4)	低所得者対策 (20.7)	災害対策 (15.9)	自然・緑化対策 (15.2)
女性20代	85	子育て支援 (41.2)	交通対策 (30.6)	都市開発 (21.2)	保健衛生対策/ 学校教育対策 (20.0)	自然・緑化対策 (18.8)
30代	149	子育て支援 (48.3)	学校教育対策 (39.6)	交通対策 (32.9)	高齢者支援 (20.8)	都市開発 (18.1)
40代	141	高齢者支援 (30.5)	学校教育対策 (29.1)	交通対策 (28.4)	災害対策 (20.6)	生涯学習振興 (19.1)
50代	121	高齢者支援 (38.0)	交通対策 (27.3)	都市開発/ 住宅対策 (19.8)	低所得者対策 (19.0)	保健衛生対策 (18.2)
60代	158	高齢者支援 (57.0)	交通対策 (27.8)	災害対策 (24.1)	住宅対策 (23.4)	低所得者対策 (20.9)
70歳以上	170	高齢者支援 (50.0)	低所得者対策 (24.1)	障がい者支援 (18.2)	交通対策 (17.6)	災害対策 (15.9)

表9-3-3 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み 上位5項目（ライフステージ別）
(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,579	高齢者支援 (36.2)	交通対策 (27.8)	子育て支援 (20.3)	低所得者対策 (18.3)	都市開発/ 学校教育対策 (18.1)
独身期	181	交通対策 (39.8)	都市開発 (25.4)	高齢者支援 (23.2)	低所得者対策 (19.3)	子育て支援 (18.8)
家族形成期	166	子育て支援 (59.6)	交通対策 (32.5)	学校教育対策 (30.1)	自然・緑化対策 (21.7)	都市開発 (21.1)
家族成長前期	140	学校教育対策 (62.9)	子育て支援 (37.9)	交通対策 (28.6)	都市開発 (20.0)	高齢者支援 (17.9)
家族成長後期	104	交通対策 (36.5)	学校教育対策 (30.8)	高齢者支援 (27.9)	子育て支援 (20.2)	自然・緑化対策 (19.2)
家族成熟期	263	高齢者支援 (46.8)	交通対策 (27.4)	都市開発 (23.2)	災害対策 (20.5)	低所得者対策 (17.5)
高齢期	438	高齢者支援 (52.1)	低所得者対策 (24.0)	交通対策 (22.6)	災害対策 (16.7)	障がい者支援 (15.5)
その他	237	高齢者支援 (36.3)	交通対策 (24.1)	住宅対策 (21.9)	低所得者対策 (19.4)	都市開発/ 災害対策 (19.0)

表9-3-4 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み 上位5項目（居住年数別）
(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,579	高齢者支援 (36.2)	交通対策 (27.8)	子育て支援 (20.3)	低所得者対策 (18.3)	都市開発/ 学校教育対策 (18.1)
1年未満	48	都市開発 (39.6)	交通対策/ 子育て支援 (31.3)	保健衛生対策 (20.8)	生涯学習振興 (16.7)	災害対策/高齢者支援/ 低所得者対策/ 学校教育対策 (14.6)
1～5年未満	140	子育て支援 (33.6)	交通対策 (30.7)	都市開発 (25.0)	高齢者支援/ 学校教育対策 (22.9)	自然・緑化対策 (20.0)
5～10年未満	127	交通対策 (35.4)	子育て支援 (33.9)	都市開発/ 学校教育対策 (25.2)	高齢者支援 (22.8)	自然・緑化対策 (21.3)
10～20年未満	196	交通対策 (28.6)	高齢者支援 (26.5)	学校教育対策 (25.5)	子育て支援 (23.5)	都市開発 (17.9)
20年以上	1,056	高齢者支援 (42.4)	交通対策 (26.1)	低所得者対策 (20.2)	災害対策 (17.7)	子育て支援 (16.0)

ライフステージ別にみると、表9-3-3のとおりである。

「家族成熟期」、「高齢期」、「その他」では第1位が「高齢者支援」となっている一方、「家族形成期」では「子育て支援」、「家族成長前期」では「学校教育対策」が他のステージよりも高い割合で第1位にあげられている。

居住年数別にみると、表9-3-4のとおりである。

居住年数が「5～10年未満」、「10～20年未満」では第1位が「交通対策」となっており、「1年未満」では「都市開発」、「1～5年未満」では「子育て支援」、「20年以上」では「高齢者支援」が第1位にあげられている。

今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを昨年と比較すると、表9-3-5のとおりである。

全体では第1位と第2位の項目は変わらないが、第2位の「交通対策」は昨年よりもポイントが上昇している。また、「子育て支援」「都市開発」「学校教育対策」はポイント、順位とも昨年より上昇している。特に、「学校教育対策」は昨年よりも6.5ポイント上昇しており、順位も昨年の11位から今年第5位と大きく上がっている。また、今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを、調査が始まった平成13年と比較すると、「学校教育対策」、「低所得者対策」、「子育て支援」が、ポイント、順位とも上昇している。

表 9-3-5 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み 上位5項目の推移(対前年)

(%)

	平成22年の上位		平成21年の上位		平成22年と 平成21年の差
	順位	%	順位	%	
高 齢 者 支 援	第1位	36.2	第1位	38.3	-2.1
交 通 対 策	第2位	27.8	第2位	25.7	+2.1
子 育 て 支 援	第3位	20.3	第4位	18.0	+2.3
低 所 得 者 対 策	第4位	18.3	第3位	18.2	+0.1
都 市 開 発	第5位	18.1	第6位	16.8	+1.3
学 校 教 育 対 策	第5位	18.1	第11位	11.6	+6.5

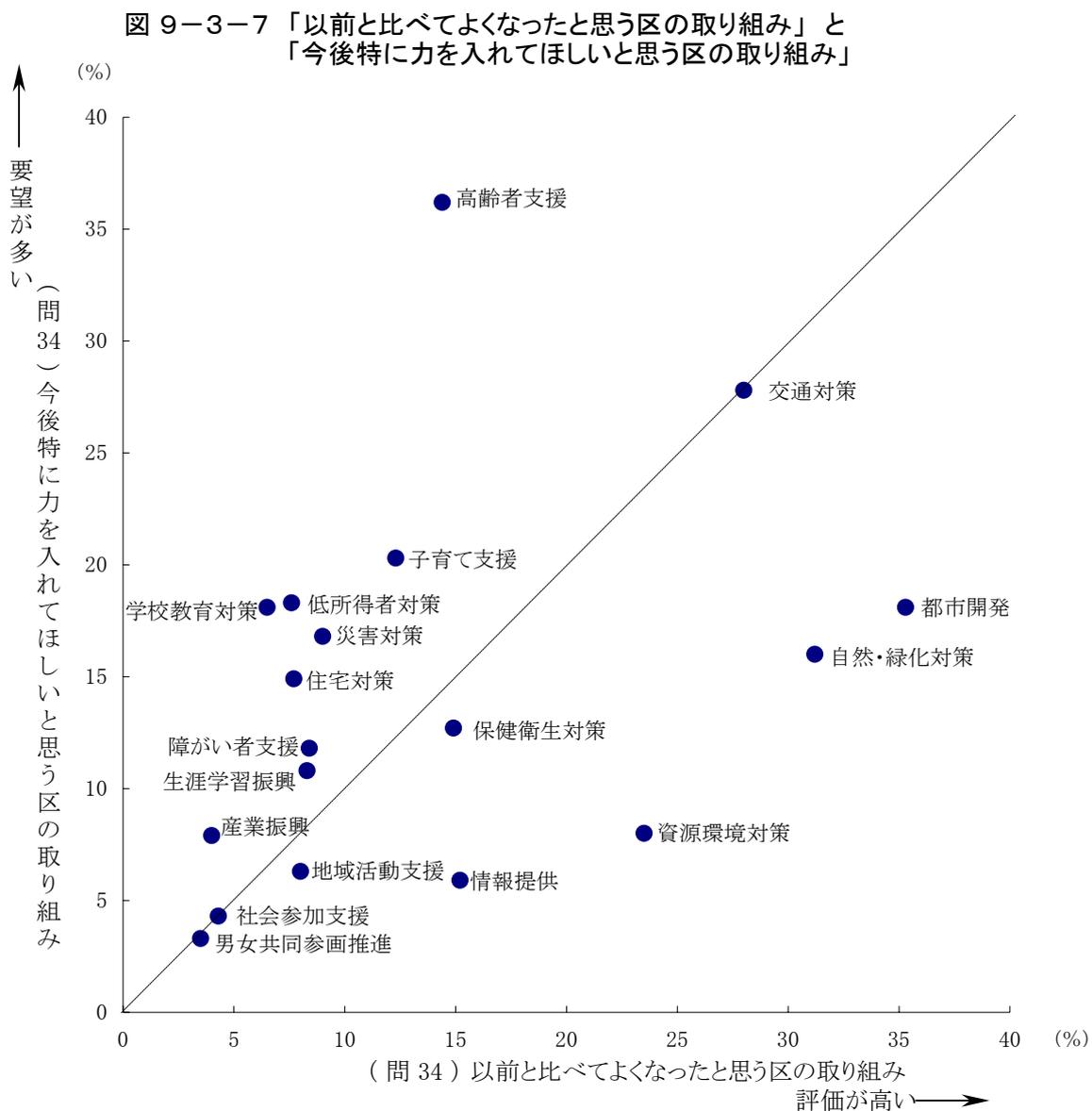
表 9-3-6 今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み 上位5項目の推移(対平成13年)

(%)

	平成22年の上位		平成13年の上位		平成22年と 平成13年の差
	順位	%	順位	%	
高 齢 者 支 援	第1位	36.2	第1位	35.9	+0.3
交 通 対 策	第2位	27.8	第2位	29.1	-1.3
子 育 て 支 援	第3位	20.3	第4位	16.8	+3.5
低 所 得 者 対 策	第4位	18.3	第8位	13.9	+4.4
都 市 開 発	第5位	18.1	第3位	16.9	+1.2
学 校 教 育 対 策	第5位	18.1	第9位	13.0	+5.1

問34の「以前と比べてよくなったと思う区の取り組み」(評価)と問34の「今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組み」(要望)を比較対照すると、図9-3-7のとおりである。

あくまで回答者全体としての割合であり、一定のバイアス(偏り)も考慮する必要があるが、都市開発(評価35.3%、要望18.1%)、自然・緑化対策(評価31.2%、要望16.0%)などは、今後力を入れてほしいと思う割合より以前と比べてよくなったと思う割合が大きい。また、交通対策(評価28.0%、要望27.8%)は、以前と比べてよくなったと思う割合も大きい。また、高齢者支援(評価14.4%、要望36.2%)や子育て支援(評価12.3%、要望20.3%)などは、以前と比べてよくなったと思う割合より今後力を入れてほしいと思う割合が大きいと見ることができる。



〈参考〉 今後力を入れてほしいと思う区の取り組みの推移

(平成13年以降 郵送配布郵送回収法)

問 あなたが、今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを次の中から3つまで選んでください。(○は3つまで)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成22年	1,579	高齢者支援 (36.2)	交通対策 (27.8)	子育て支援 (20.3)	低所得者対策 (18.3)	都市開発 / 学校教育対策 (18.1)
平成21年	1,532	高齢者支援 (38.3)	交通対策 (25.7)	低所得者対策 (18.2)	子育て支援 (18.0)	災害対策 (17.7)
平成20年	1,248	高齢者支援 (39.4)	交通対策 (24.5)	災害対策 (21.2)	自然・緑化対策 (18.1)	子育て支援 (17.0)
平成19年	1,475	高齢者支援 (39.1)	交通対策 (29.2)	災害対策 (22.2)	自然・緑化対策 (22.1)	都市開発 (19.9)
平成18年	1,383	高齢者支援 (34.8)	交通対策 (27.6)	災害対策 (20.2)	自然・緑化対策 (18.9)	子育て支援 (17.9)
平成17年	1,486	高齢者支援 (34.1)	交通対策 (30.0)	災害対策 (28.3)	子育て支援 (21.7)	自然・緑化対策 (18.7)
平成16年	1,497	高齢者支援 (38.5)	交通対策 (31.1)	子育て支援 (21.2)	自然・緑化対策 (19.6)	都市開発 (16.8)
平成15年	1,890	交通対策 (33.9)	高齢者支援 (33.1)	自然・緑化対策 (20.6)	都市開発 (20.0)	子育て支援 (19.8)
平成14年	1,808	高齢者支援 (36.6)	交通対策 (33.4)	都市開発 (20.4)	資源環境対策 (19.1)	自然・緑化対策 (18.0)
平成13年	1,907	高齢者支援 (35.9)	交通対策 (29.1)	都市開発 (16.9)	子育て支援 (16.8)	住宅対策 (16.7)

(注) 平成12年までと平成13年以降では、調査方法(平成12年までは訪問面接法、13年以降は郵送配布郵送回収法)、質問文、選択肢が異なるため、結果を単純に比較することはできない。

(平成12年まで 訪問面接法)

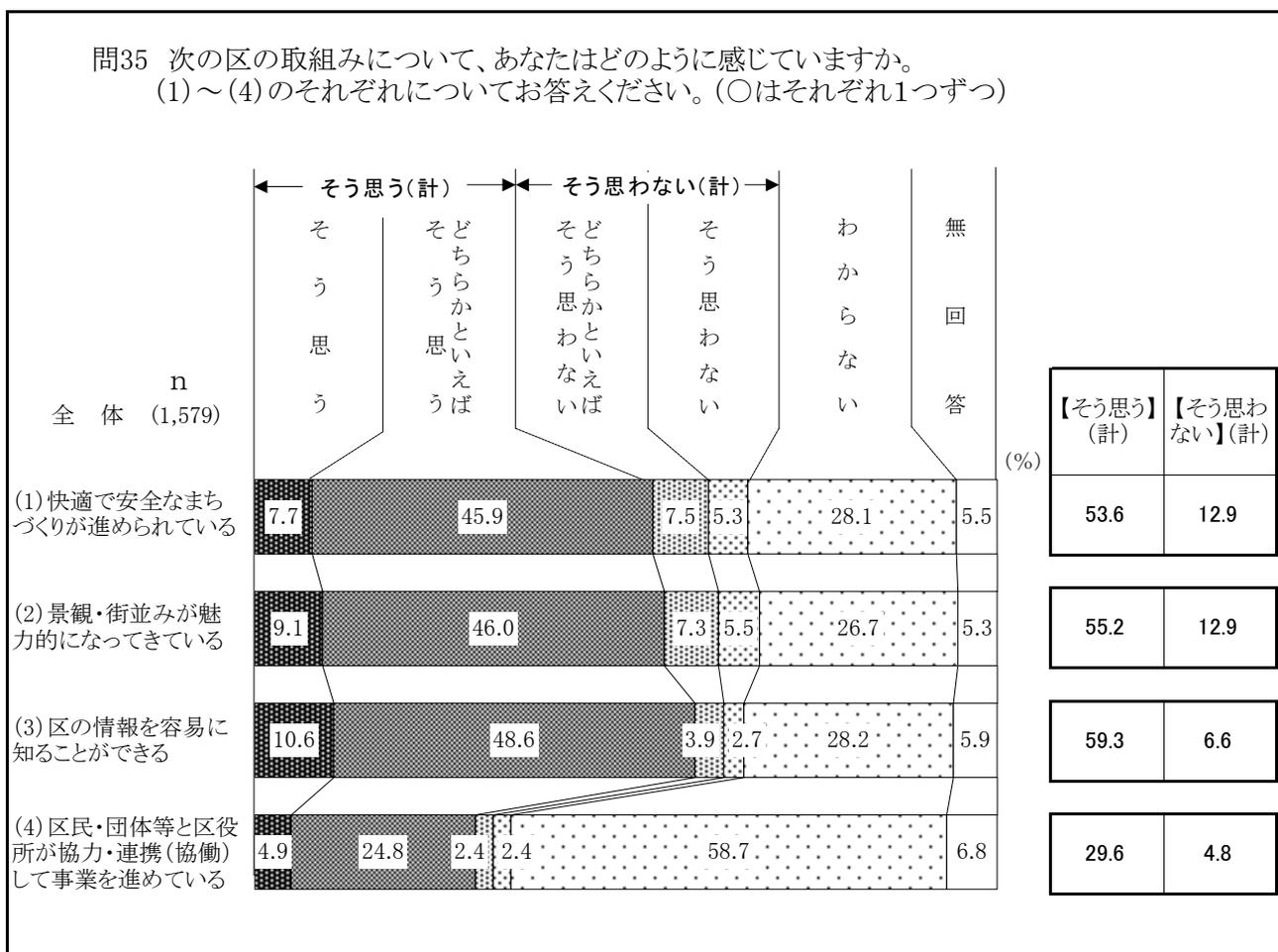
問 区で最も力を入れてやってほしい対策を、この中から2つまでお答えください。

(○は2つまで)
(%)

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成12年	1,420	高齢者福祉 (37.7)	保健医療の充実 (16.9)	ごみ・リサイクル 対策 (16.2)	交通網の整備 (10.7)	幼児・児童福祉 (9.5)
平成11年	1,503	高齢者福祉 (45.4)	保健医療の充実 (17.2)	ごみ・リサイクル 対策 (15.0)	幼児・児童福祉 (10.4)	交通網の整備 (9.8)
平成10年	1,497	高齢者福祉 (39.3)	保健医療の充実 (19.9)	交通網の整備 (12.6)	住宅対策 (10.8)	道路の整備 (9.2)
平成9年	1,533	高齢者福祉 (42.3)	保健医療の充実 (23.7)	交通網の整備 (12.2)	防災対策 (10.8)	住宅対策 (8.8)
平成8年	1,512	高齢者福祉 (43.9)	保健医療の充実 (20.0)	ごみ・リサイクル 対策 (16.5)	交通網の整備 (14.1)	住宅対策 (14.0)
平成7年	1,500	高齢者福祉 (36.9)	ごみ・リサイクル 対策 (16.3)	防災対策 (15.1)	交通網の整備 (13.0)	住宅対策 (12.1)
平成6年	1,549	高齢者福祉 (41.8)	ごみ・リサイクル 対策 (17.0)	住宅対策 (15.2)	交通網の整備 (14.3)	保健医療の充実 (13.2)

(4) 区の取り組みについての評価・印象

■ 約6割の区民が「区の情報を知ることができる」と感じている



区の取り組みについては、「(3) 区の情報を知ることができる」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた《そう思う》が59.3%を示し、約6割の区民が区の取り組みを評価していることを示している。また、「(2) 景観・街並みが魅力的になってきている」「(1) 快適で安全なまちづくりが進められている」においても、《そう思う》が5割を超えている。一方、「(4) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている」では「わからない」が58.7%にのぼっている。

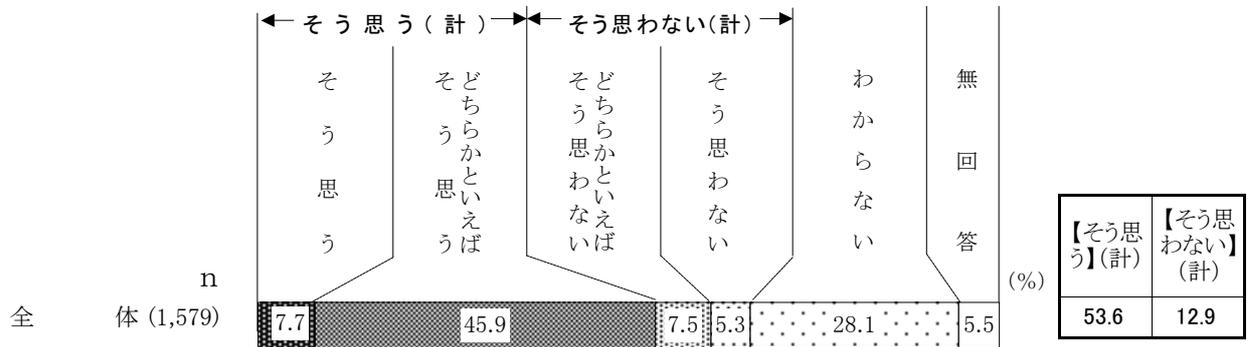
「(1) 快適で安全なまちづくりが進められている」を地域ブロック別で見ると図9-4-1のとおりである。

「(1) 快適で安全なまちづくりが進められている」では、第2、第3ブロックで《そう思う》が58%台を示し、第1、第8ブロックでも57%台と他ブロックより高い。一方、第5ブロックでは《そう思わない》が17.1%と最も高くなっている。また、同項目を性・年代別で見ると図9-4-2のとおりである。全体的に女性よりも男性の方が《そう思う》の割合が高く、男性20代で《そう思う》が61.9%と最も高くなっている。また、同項目を居住年数、定住意向、区政に対する満足度別で見ると図9-4-3のとおりである。

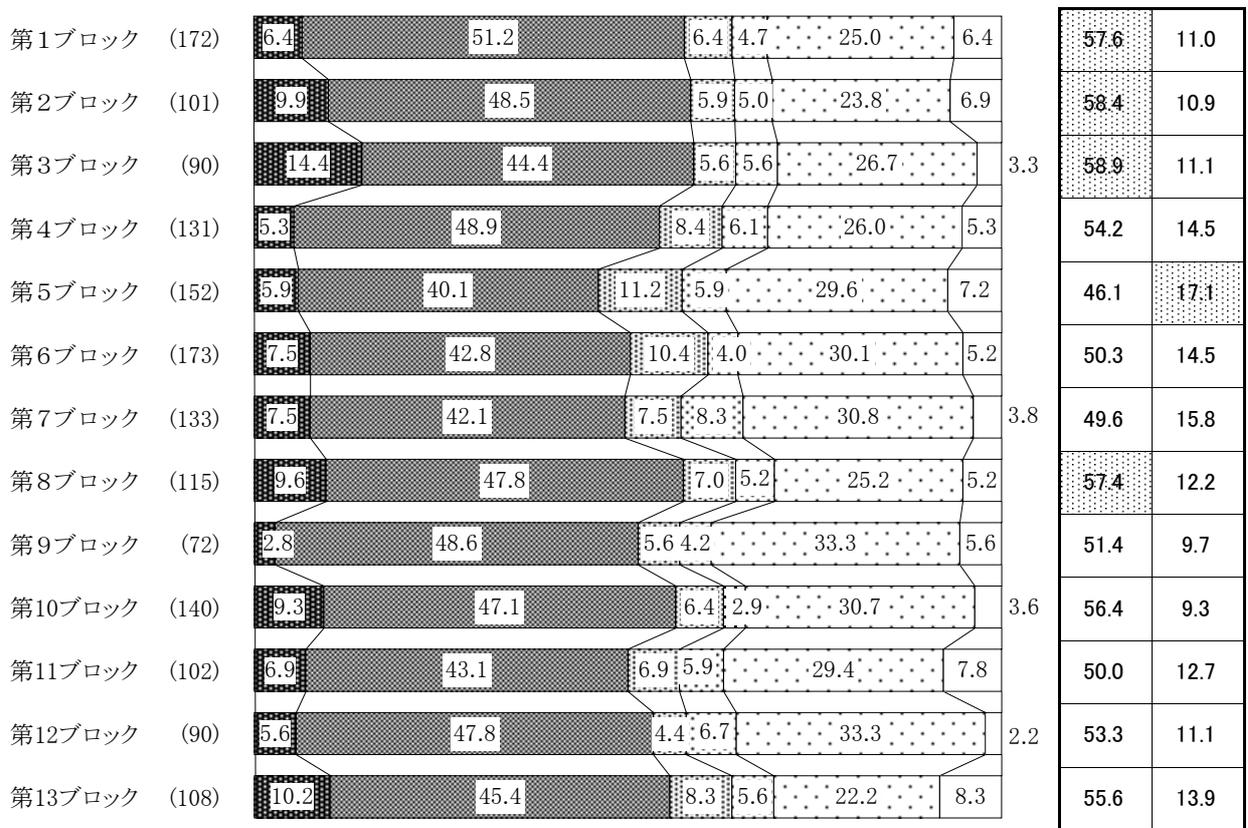
居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ、《そう思う》と答える割合が上昇しており、「20年以上」が54.9%と最も高くなっている。また、定住意向別では、定住意向が強くなるほど、《そう思う》と答える割合が上昇し、「ずっと住み続けたい」では《そう思う》は61.3%と6割を超えている。また、区政に対する満足度別では満足度が高いほど《そう思う》の割合は上昇する傾向があり、「満足」や「やや満足」で7割を超え、「満足」では「そう思う」の割合も37.5%と突出して高い。一方、「不満」では《そう思わない》が41.3%で最も高い。

図 9-4-1 区の取り組みについての評価・印象（地域ブロック別）

(1) 快適で安全なまちづくりが進められている



〈地域ブロック別〉



ブロック区分



図 9-4-2 区 の 取 り 組 み に つ い て の 評 価 ・ 印 象 (性 ・ 年 代 別)

(1) 快適で安全なまちづくりが進められている

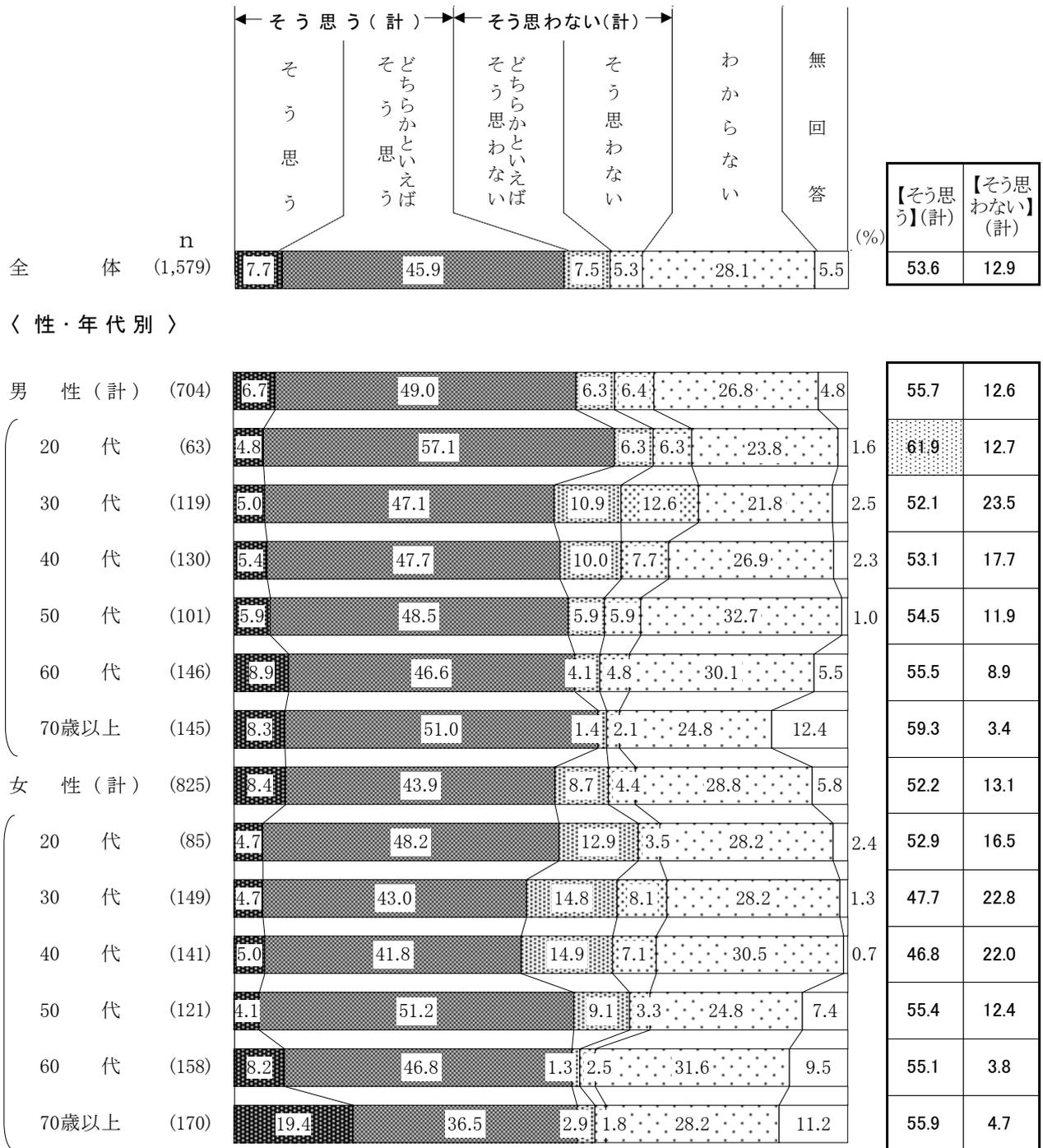
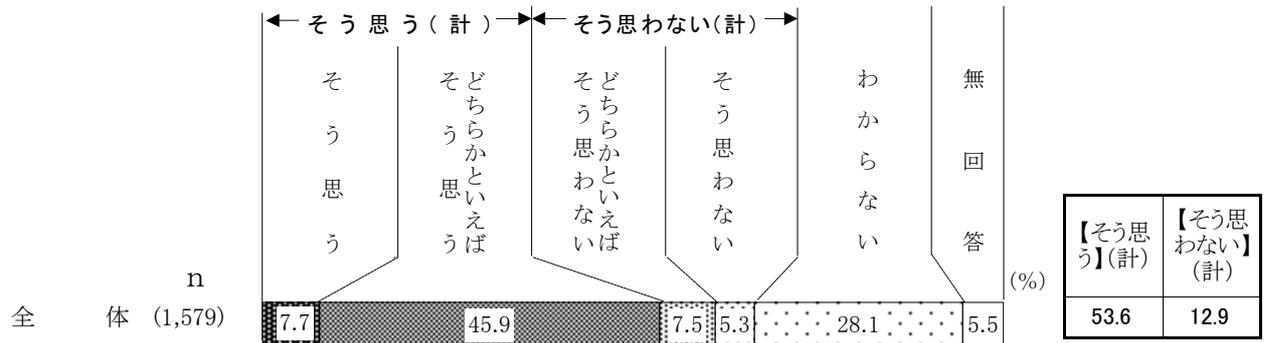
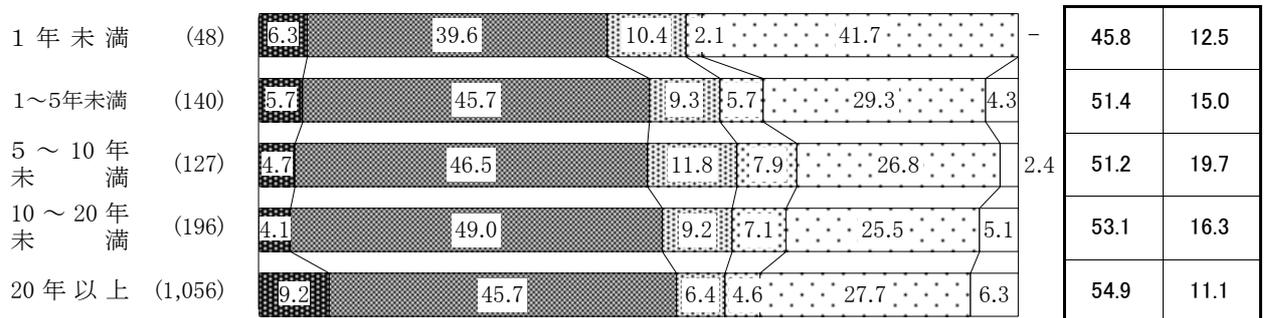


図 9-4-3 区の取り組みについての評価・印象（居住年数、定住意向、区政に対する満足度別）

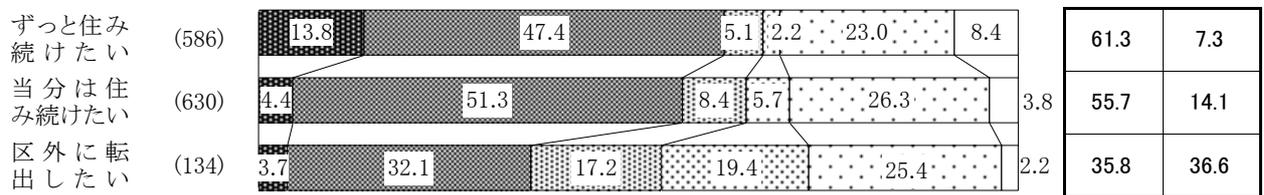
(1) 快適で安全なまちづくりが進められている



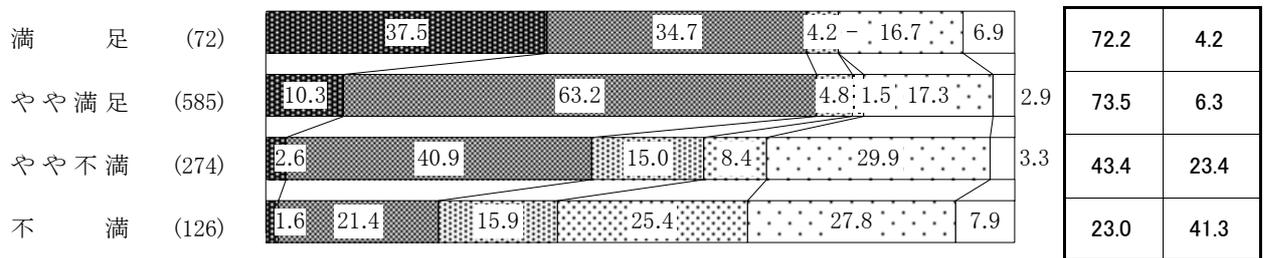
〈 居住年数別 〉



〈 定住意向別 〉



〈 区政に対する満足度別 〉

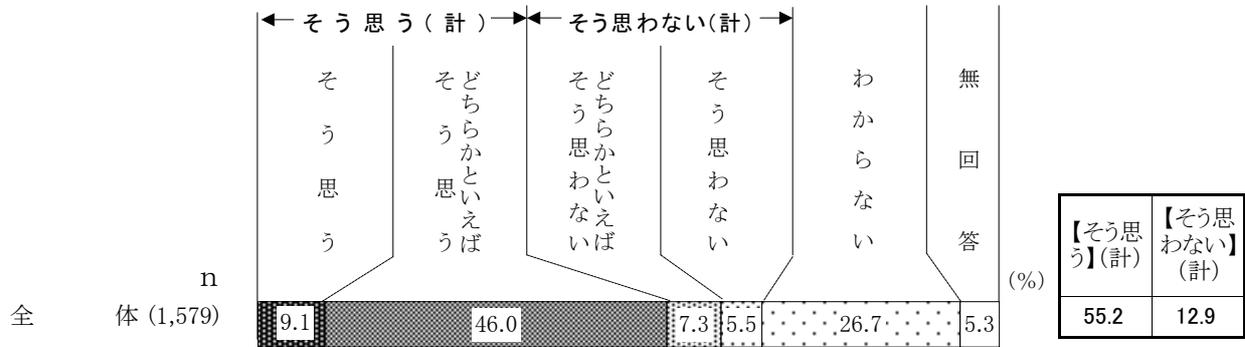


「(2) 景観・街並みが魅力的になってきている」を地域ブロック別で見ると図9-4-4のとおりである。

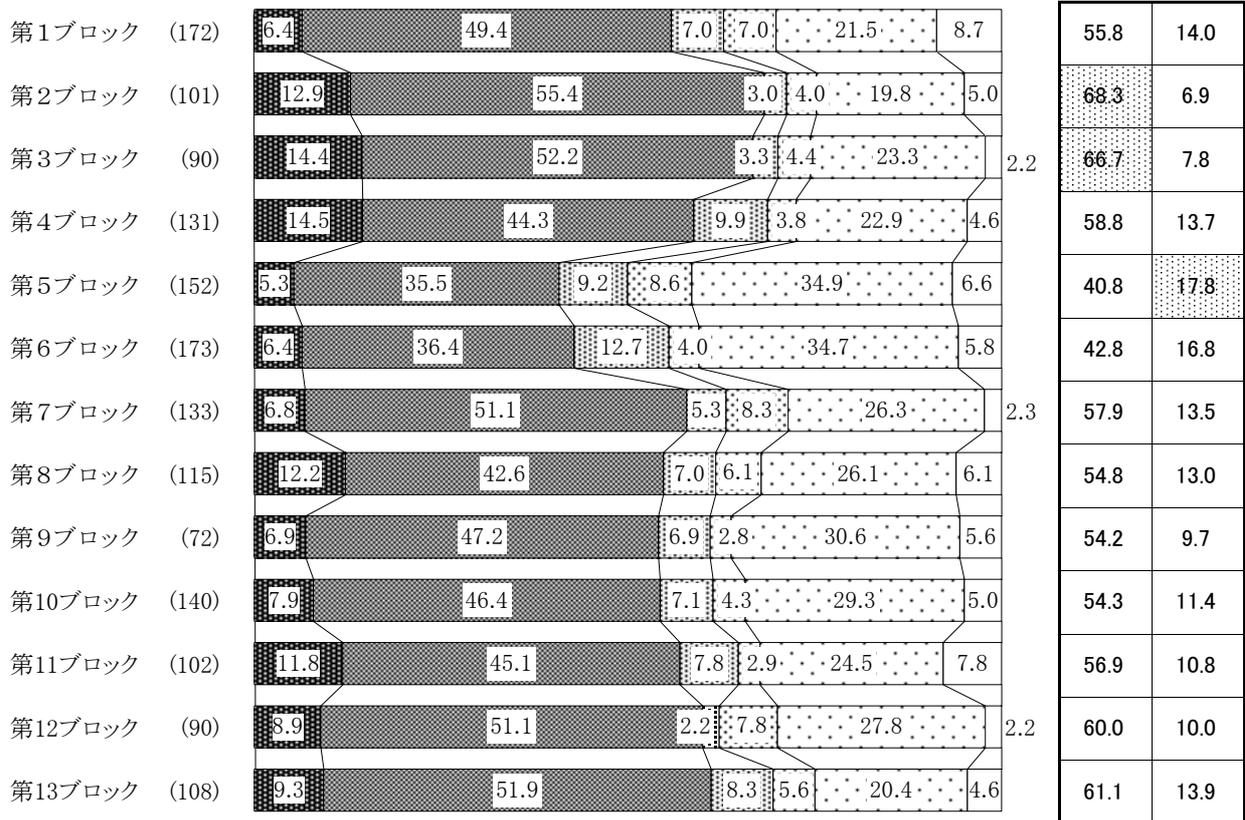
「(2) 景観・街並みが魅力的になってきている」では、第2、第3ブロックで《そう思う》が65%を超え、他ブロックより高い。一方、第5ブロックで《そう思わない》が17.8%で最も高くなっている。

図 9-4-4 区の取り組みについての評価・印象（地域ブロック別）

(2) 景観・街並みが魅力的になってきている



く 地域ブロック別



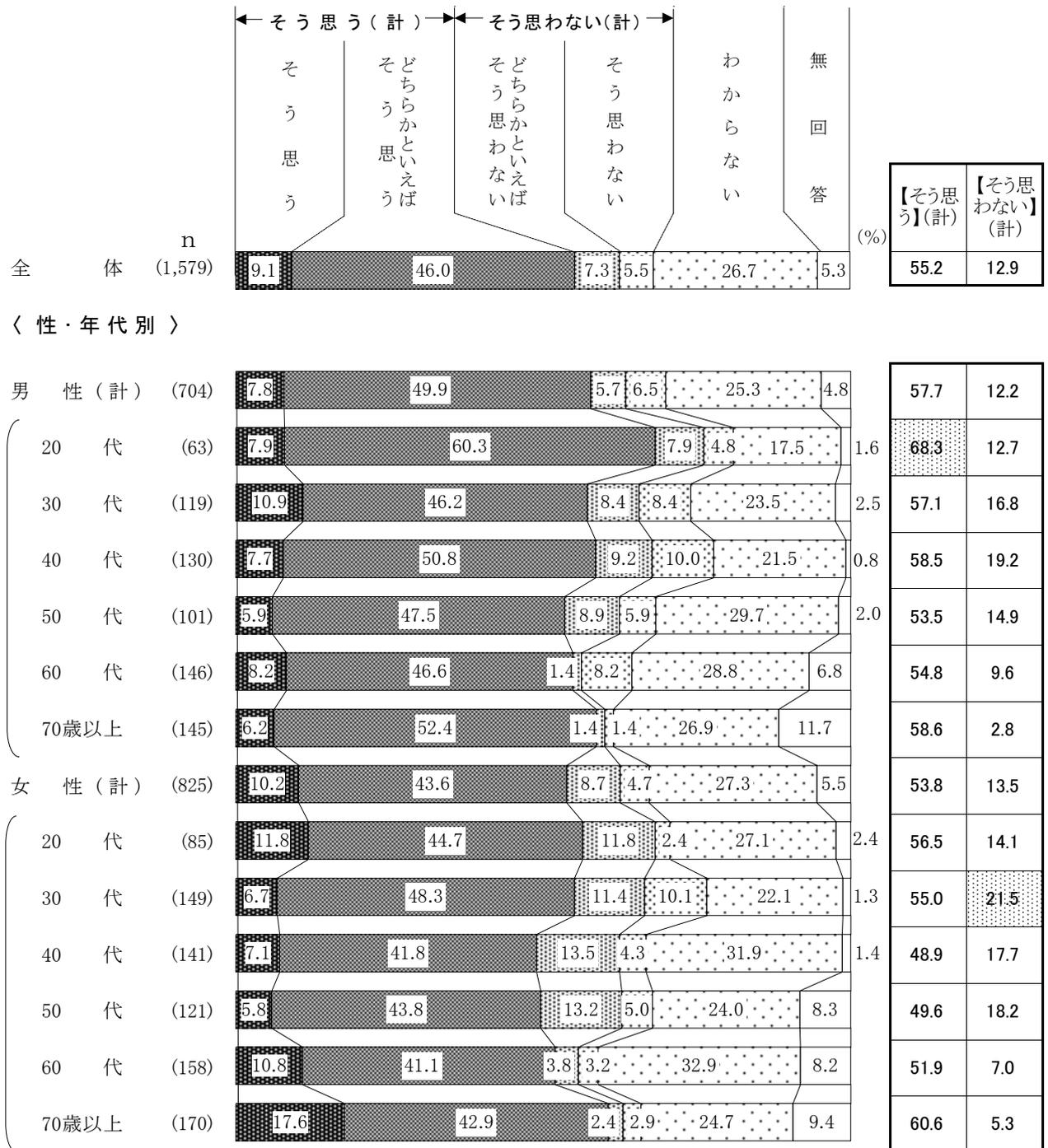
ブロック区分



「(2) 景観・街並みが魅力的になってきている」を性・年代別でみると図9-4-5のとおりである。全体的に女性よりも男性の方が《そう思う》とする割合が高い傾向があり、男性20代で《そう思う》が68.3%と最も高く、6割を超えている。一方、女性30代では《そう思わない》が21.5%と2割を超え、最も高い。

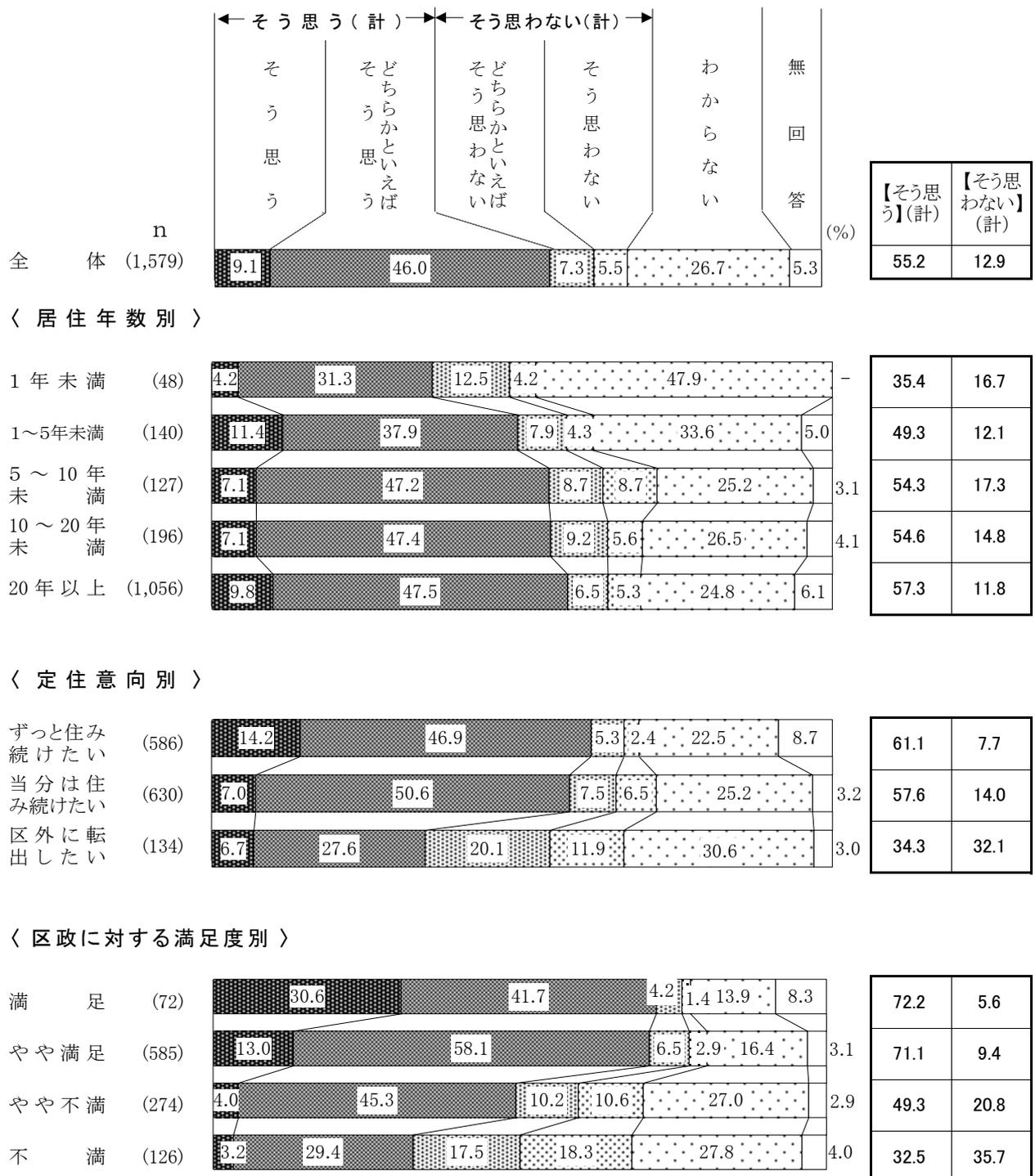
図 9-4-5 区 の 取 り 組 み に つ い て の 評 価 ・ 印 象 (性 ・ 年 代 別)

(2) 景観・街並みが魅力的になってきている



「(2) 景観・街並みが魅力的になってきている」を居住年数、定住意向、区政に対する満足度別でみると図9-4-6のとおりである。居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ、「《そう思う》」と答える割合が上昇しており、「20年以上」が57.3%と最も高くなっている。また、定住意向別では、定住意向が強くなるほど、「《そう思う》」と答える割合が上昇し、「ずっと住み続けたい」では《そう思う》が61.1%と6割を超えている。また、区政に対する満足度別では、満足度が高いほど《そう思う》の割合は上昇し、「満足」や「やや満足」では《そう思う》が7割を超え、「満足」では「そう思う」の割合も30.6%と突出して高い。一方「不満」では《そう思わない》が35.7%で最も高い。

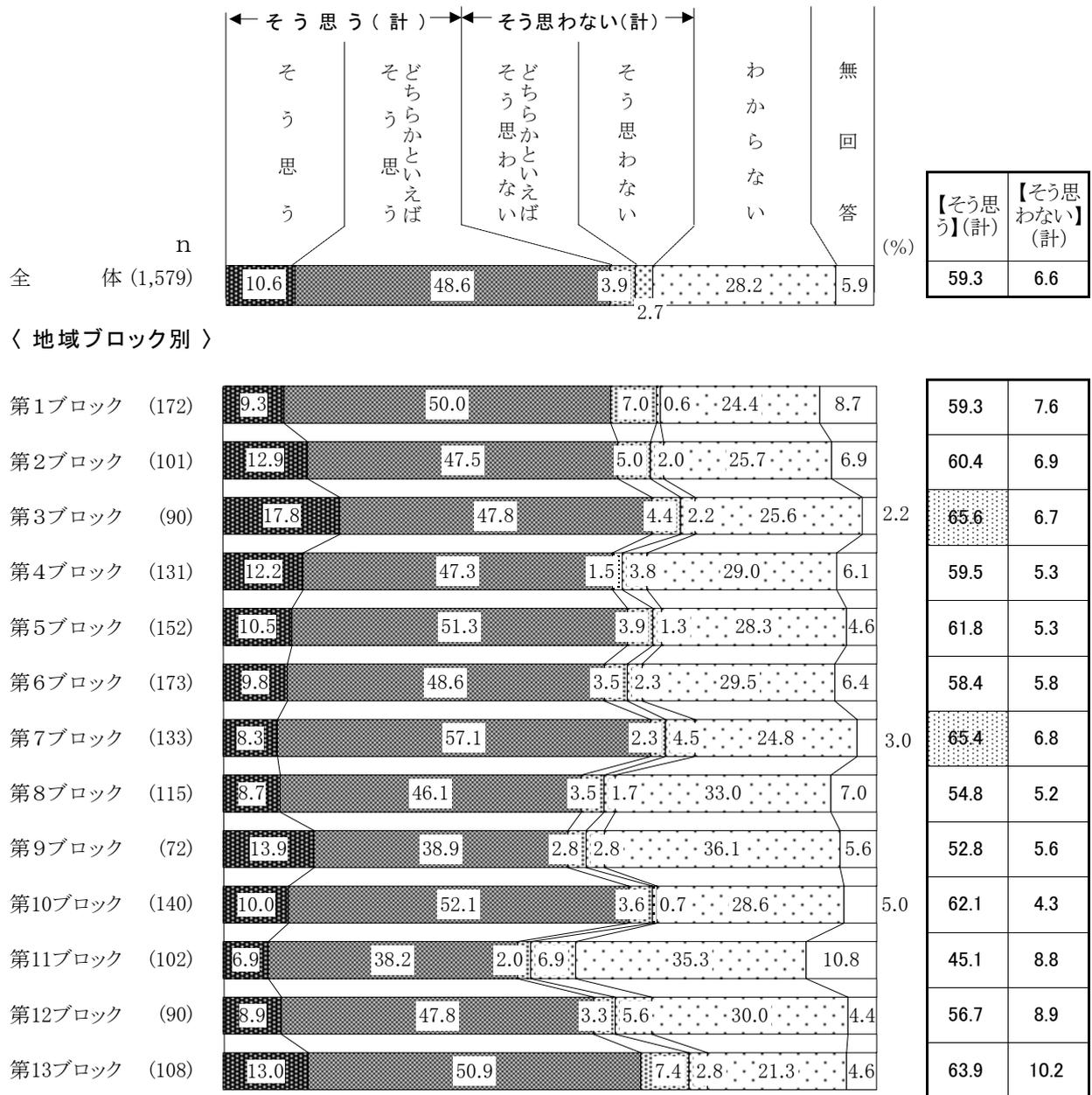
図 9-4-6 区の取り組みについての評価・印象（居住年数、定住意向、区政に対する満足度別）
(2) 景観・街並みが魅力的になってきている



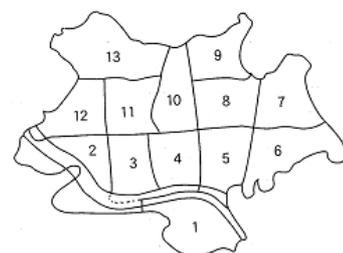
「(3) 区の情報を容易に知ることができる」を地域ブロック別で見ると図9-4-7のとおりである。
 「(3) 区の情報を容易に知ることができる」では、第3、第7ブロックで《そう思う》が65%台を示し、
 他ブロックより高い。

図 9-4-7 区の取り組みについての評価・印象（地域ブロック別）

(3) 区の情報を容易に知ることができる



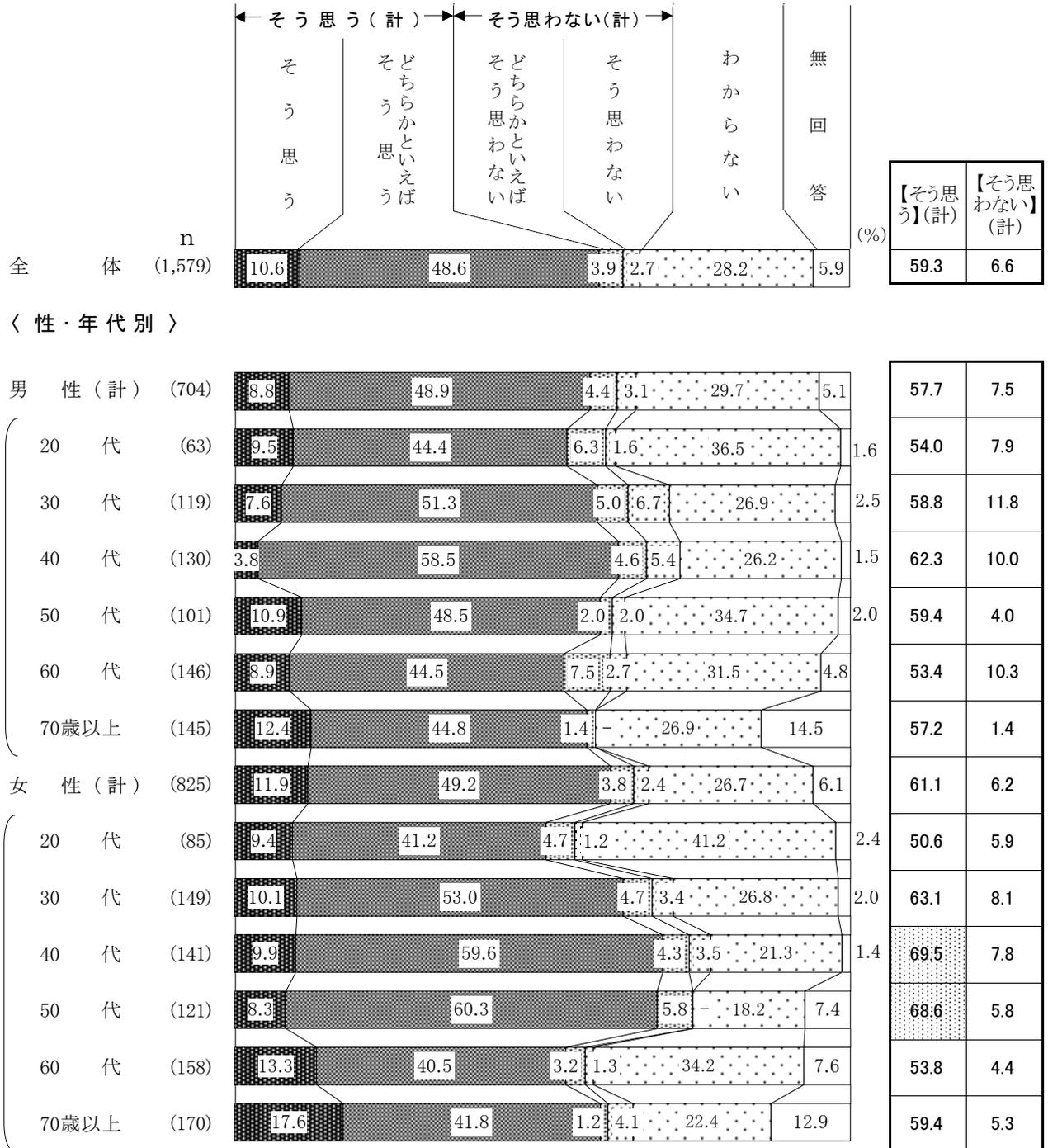
ブロック区分



「(3) 区の情報容易に知ることができる」を性・年代別で見ると図9-4-8のとおりである。全体的に男性よりも女性の方が《そう思う》とする割合が高く、女性40代、50代で《そう思う》が68～69%台を示し、他の層よりも高くなっている。

図 9-4-8 区 の 取 り 組 み に つ い て の 評 価 ・ 印 象 (性 ・ 年 代 別)

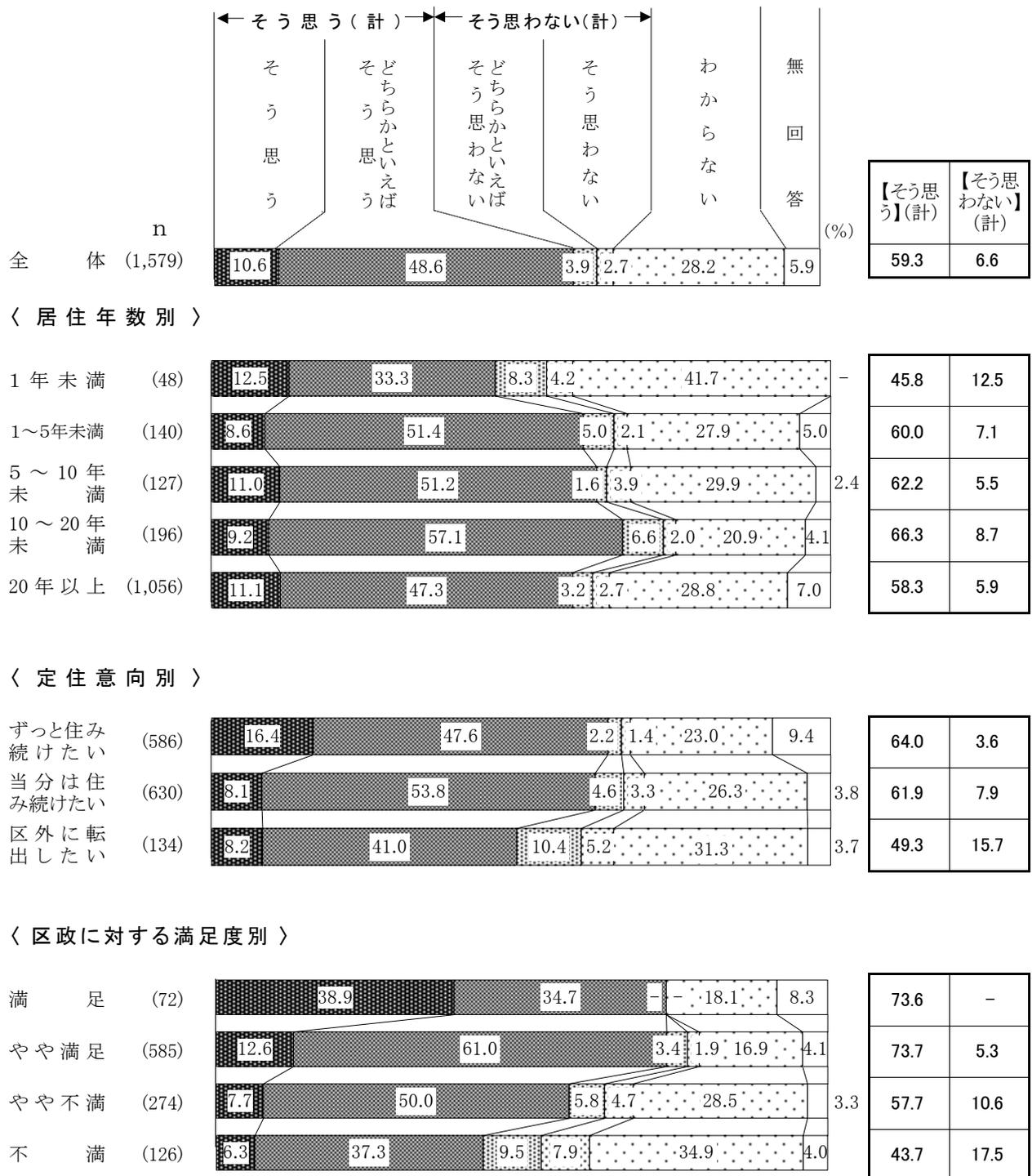
(3) 区 の 情 報 を 容 易 に 知 る こ と が で き る



「(3) 区の情報を容易に知ることができる」を居住年数、定住意向、区政に対する満足度別で見ると図9-4-9のとおりである。居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ、《そう思う》の割合が上昇する傾向があり、「10～20年未満」が66.3%と最も高くなっている。また、定住意向別では、定住意向が強くなるほど、《そう思う》と答える割合が上昇し、「ずっと住み続けたい」では《そう思う》は64.0%と6割を超えている。また、区政に対する満足度別では、満足度が高いほど《そう思う》の割合は上昇する傾向があり、「満足」や「やや満足」では7割を超え、「満足」では「そう思う」の割合も38.9%と突出して高い。一方「不満」では《そう思わない》が17.5%で最も高い。

図 9-4-9 区の情報に対する評価・印象（居住年数、定住意向、区政に対する満足度別）

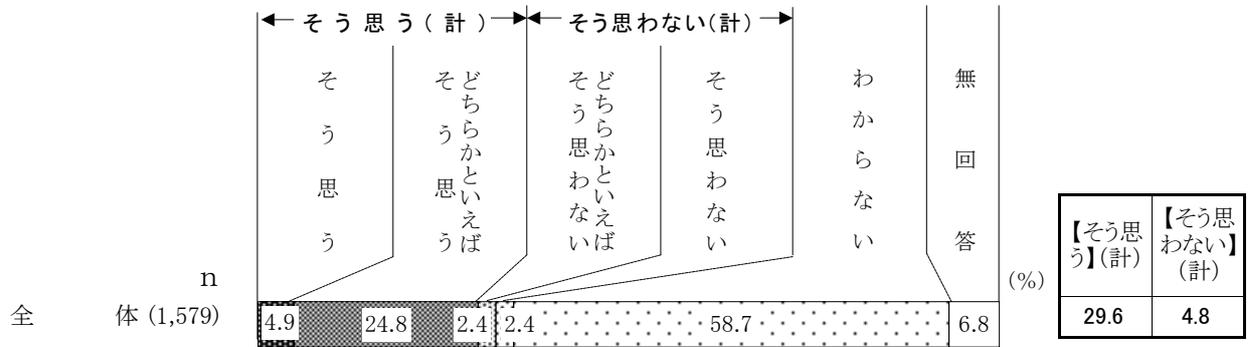
(3) 区の情報を知ることができる



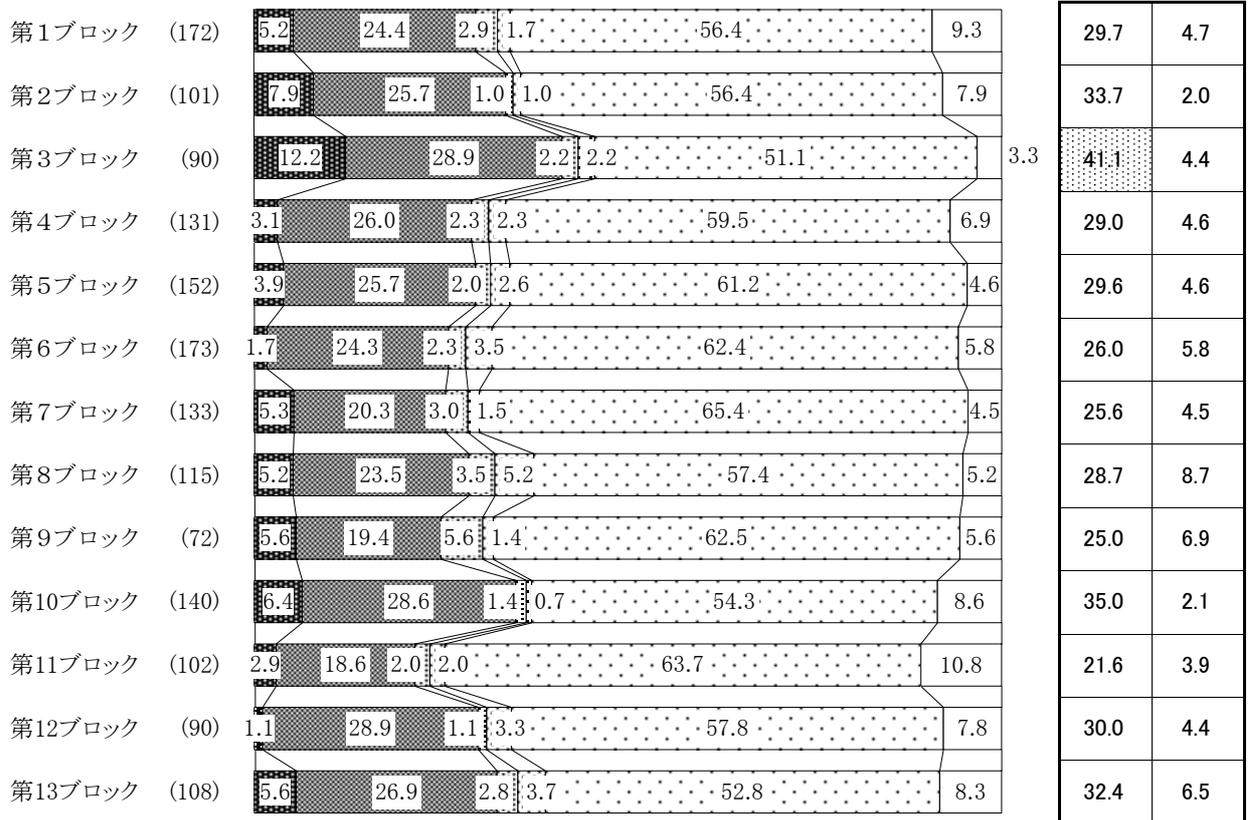
「(4) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている」を地域ブロック別で見ると図9-4-10のとおりである。「(4) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている」では、第3ブロックで《そう思う》が41.1%と、唯一4割を超え、突出して高い。

図 9-4-10 区の取り組みについての評価・印象 (地域ブロック別)

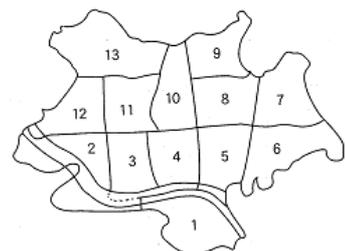
(4) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている



〈地域ブロック別〉



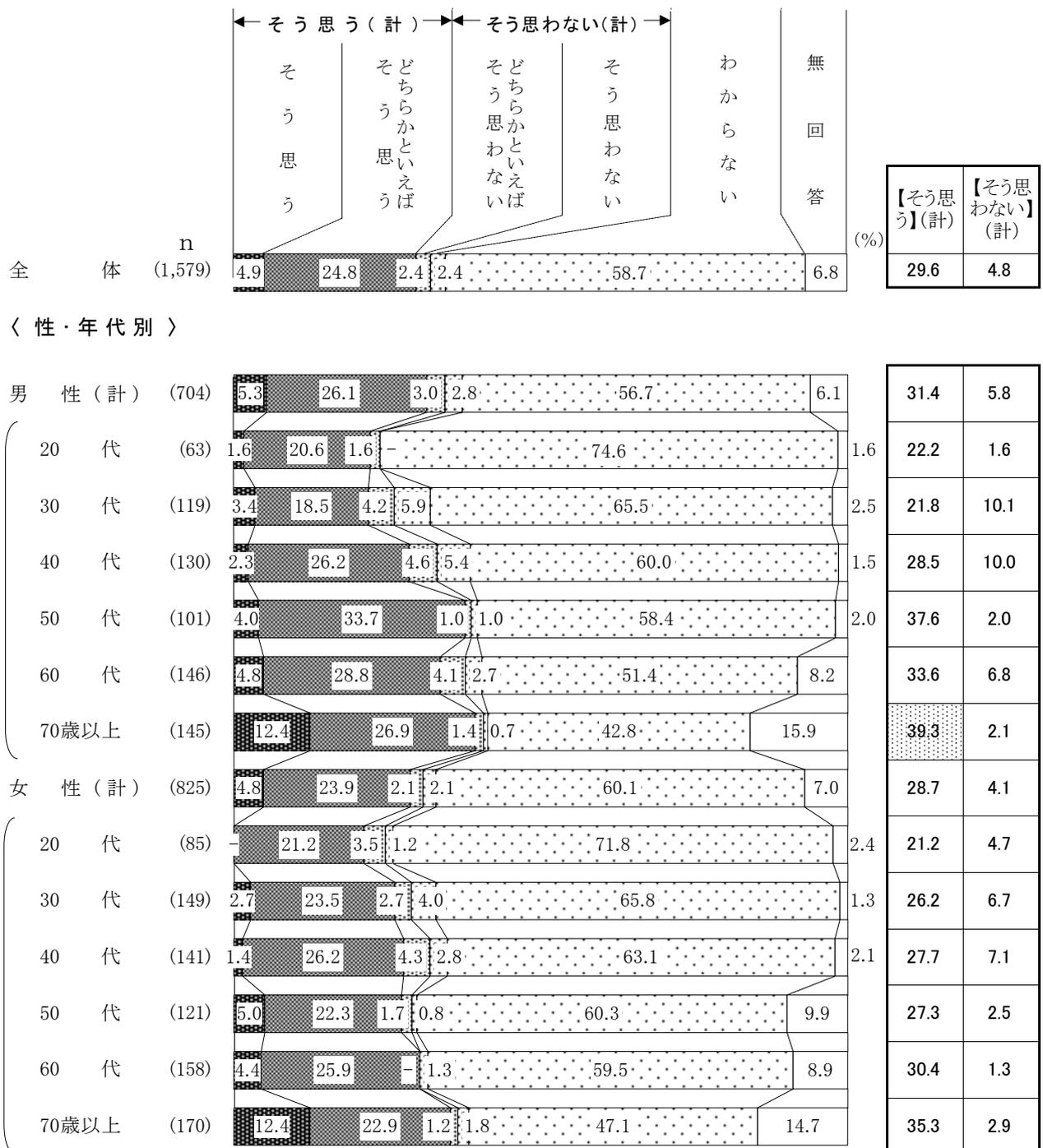
ブロック区分



「(4) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている」を性・年代別で見ると図9-4-11のとおりである。全体的に女性よりも男性の方が《そう思う》とする割合が高く、また男女とも年代が高くなるにつれ《そう思う》とする割合も高くなる傾向があり、それぞれ70歳以上で最も高くなっている。男性70歳以上では39.3%と約4割にのぼっている。一方、「わからない」は、若い世代ほど数値が高い傾向があり、男女とも20代は7割を超えている。

図 9-4-11 区の取り組みについての評価・印象(性・年代別)

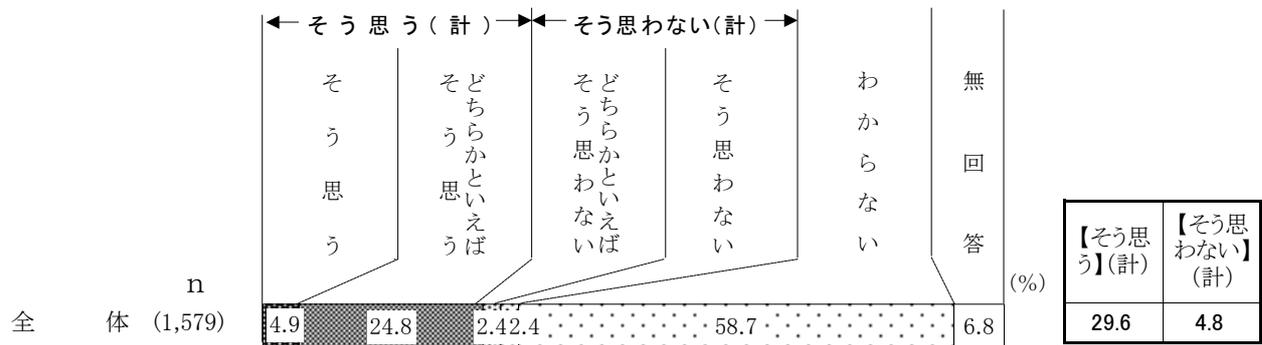
(4) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている



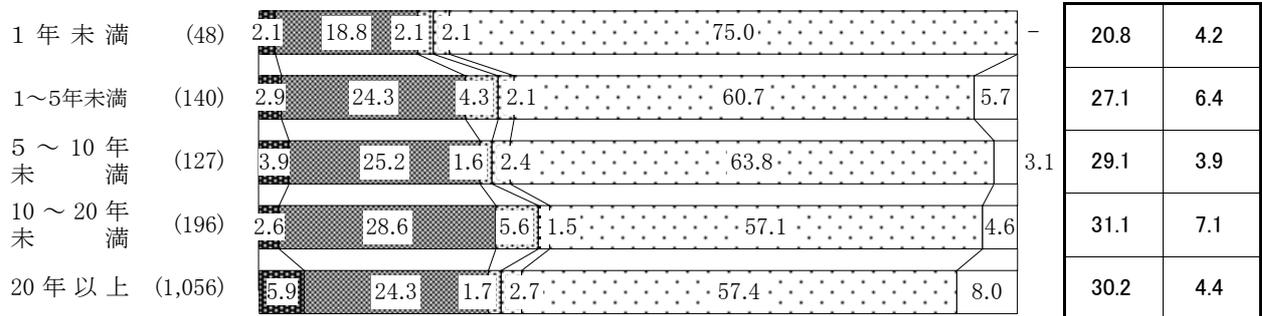
「(4) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている」を居住年数、定住意向、区政に対する満足度別でみると図9-4-12のとおりである。居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ、《そう思う》と答える割合が上昇する傾向があり、「10～20年未満」で31.1%と最も高くなっている。定住意向別では、定住意向が強くなるほど、《そう思う》と答える割合が上昇し、「ずっと住み続けたい」で《そう思う》は37.0%となっている。区政に対する満足度別では、満足度が高いほど《そう思う》の割合は上昇し、「満足」では50.0%と5割を示し、最も高い。「不満」では《そう思わない》が22.2%で最も高い。

図 9-4-12 区の取り組みについての評価・印象（居住年数、定住意向、区政に対する満足度別）

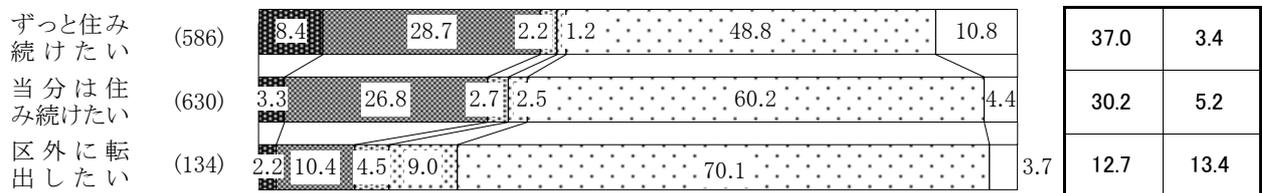
(4) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている



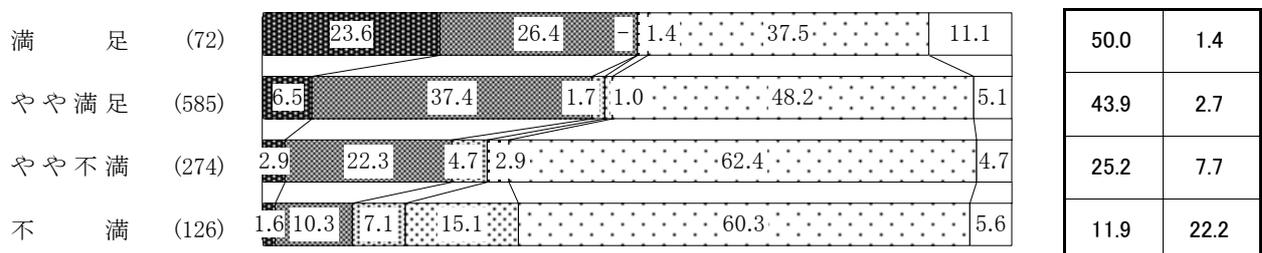
〈 居住年数別 〉



〈 定住意向別 〉

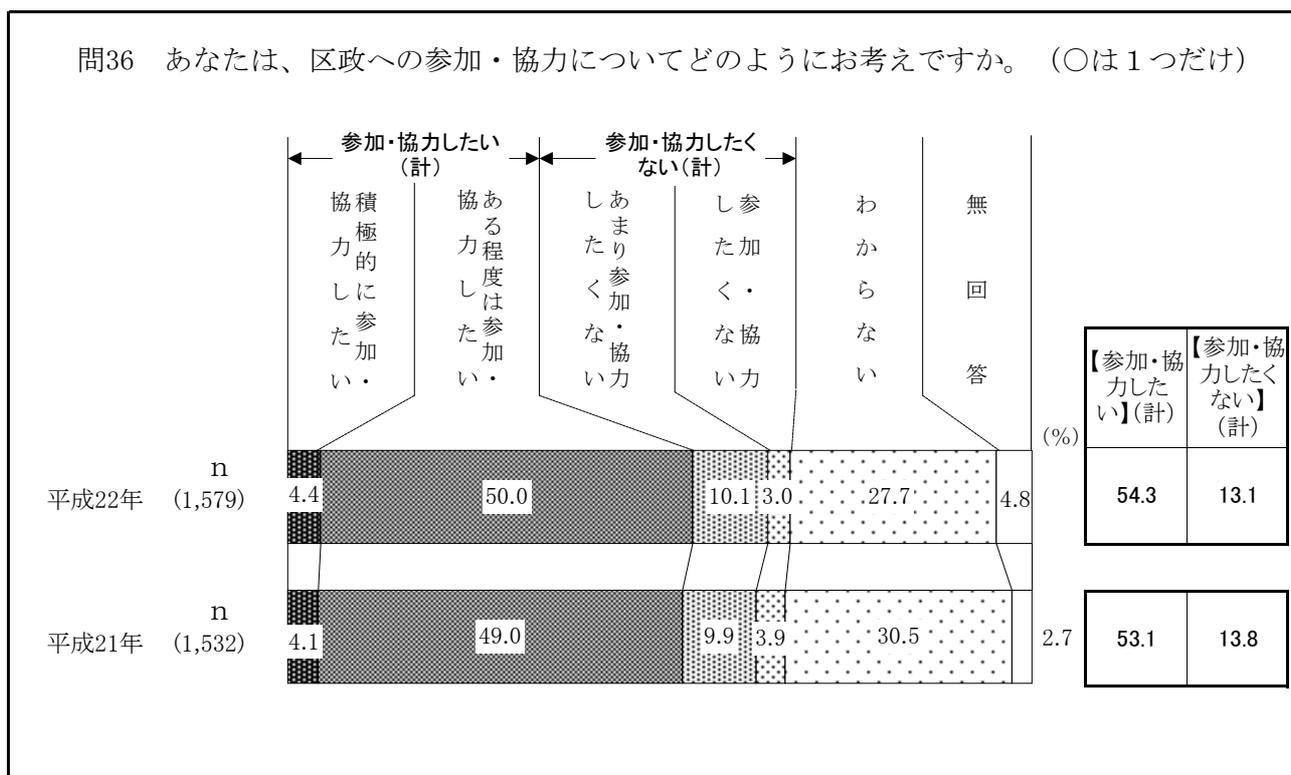


〈 区政に対する満足度別 〉



(5) 区政への参加・協力意向

■ 54.3%の区民は参加・協力意向あり

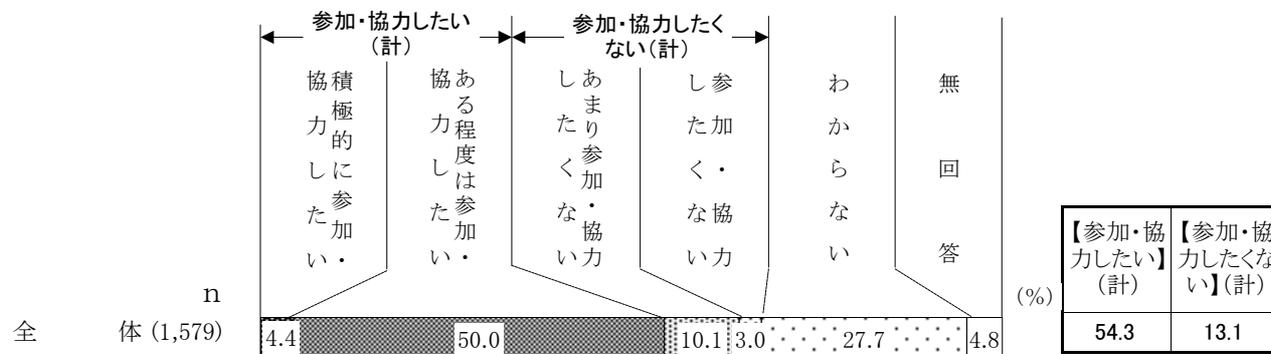


区政への参加・協力意向では、「積極的に参加・協力したい」が4.4%、「ある程度は参加・協力したい」が50.0%で、これらを合わせた《参加・協力したい》は54.3%である。また「参加・協力したくない」の3.0%と「あまり参加・協力したくない」の10.1%を合わせた《参加・協力したくない》は13.1%である。平成21年度調査との比較では、大きな差はみられない。

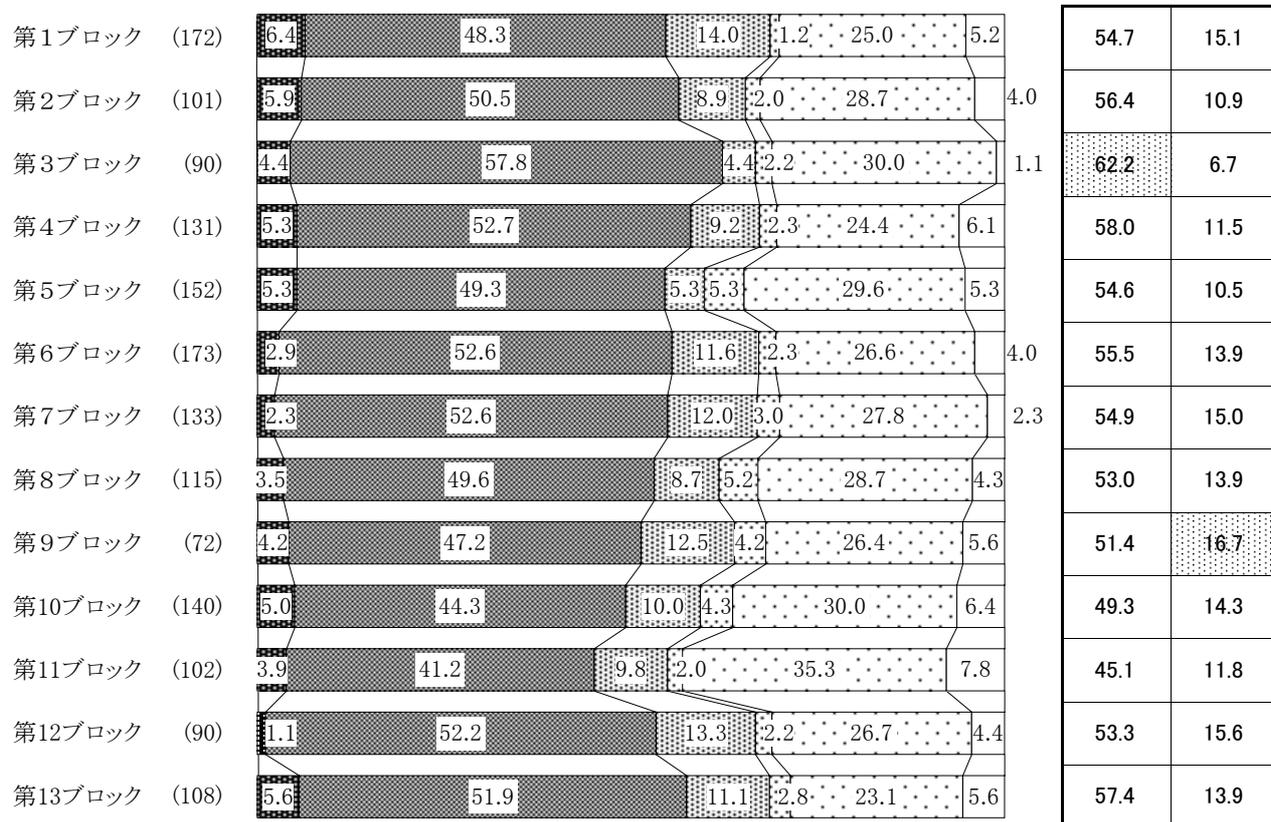
区政への参加・協力の意向について地域ブロック別にみると、図9-5-1のとおりである。

《参加・協力したい》は第3ブロック(62.2%)で最も高くなっており、6割を超えている。また、《参加・協力したくない》は第9ブロック(16.7%)で最も高くなっている。

図 9-5-1 区政への参加・協力意向（地域ブロック別）



く 地域ブロック別



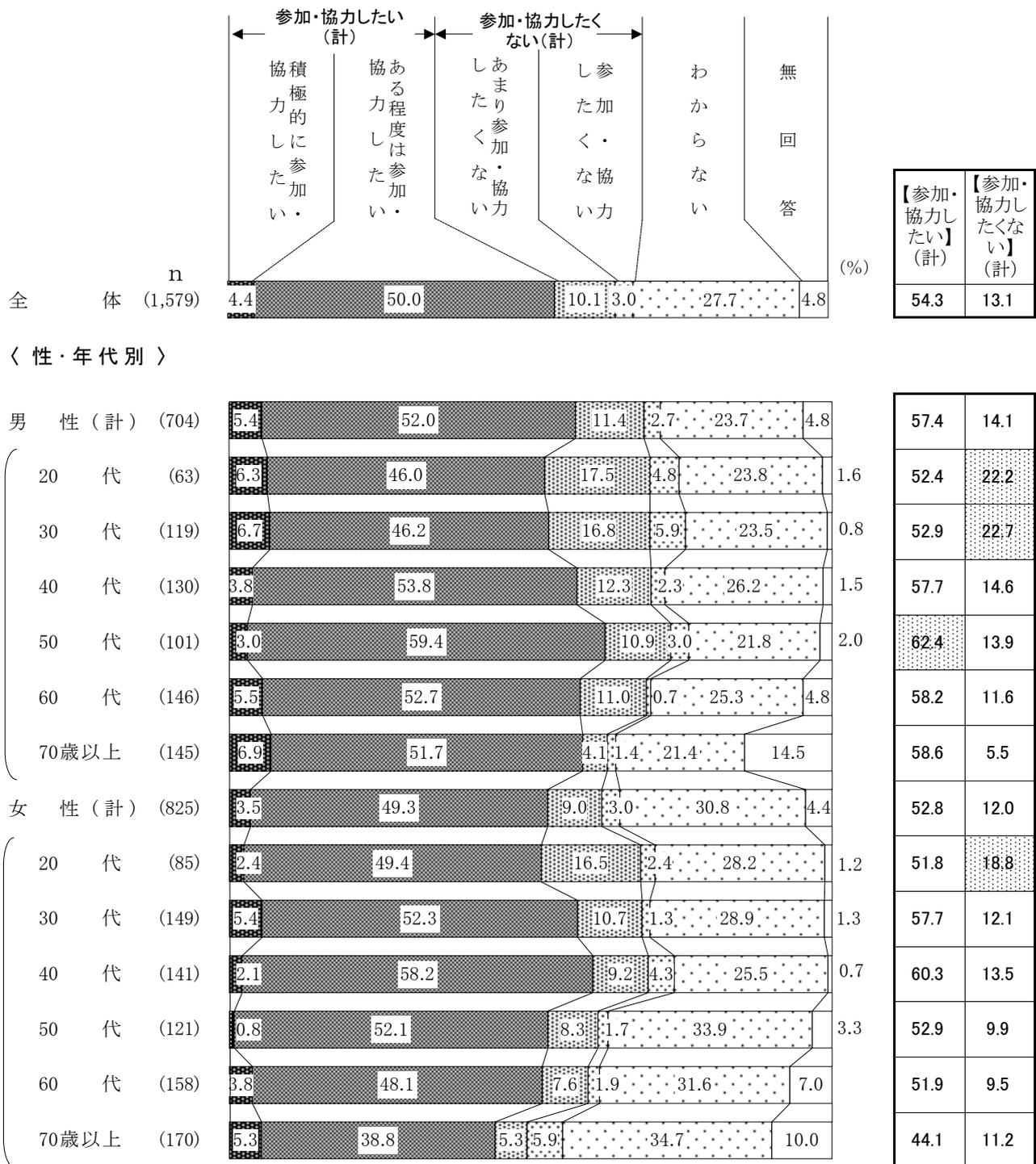
ブロック区分



性・年代別にみると、図9-5-2のとおりである。

《参加・協力したい》は全体としては女性よりも男性の方が割合が高いが、年代別に異なる傾向がある。男性は50代以上で女性よりも顕著に高くなっており、50代で62.4%と最も高くなっている。一方、女性では、30代、40代で男性よりも高くなっている。また、《参加・協力したくない》は若い世代で割合が高くなっており、男性では30代、女性では20代が最も高く、男性20代、30代で2割を超えている。

図 9 - 5 - 2 区政への参加・協力意向（性・年代別）

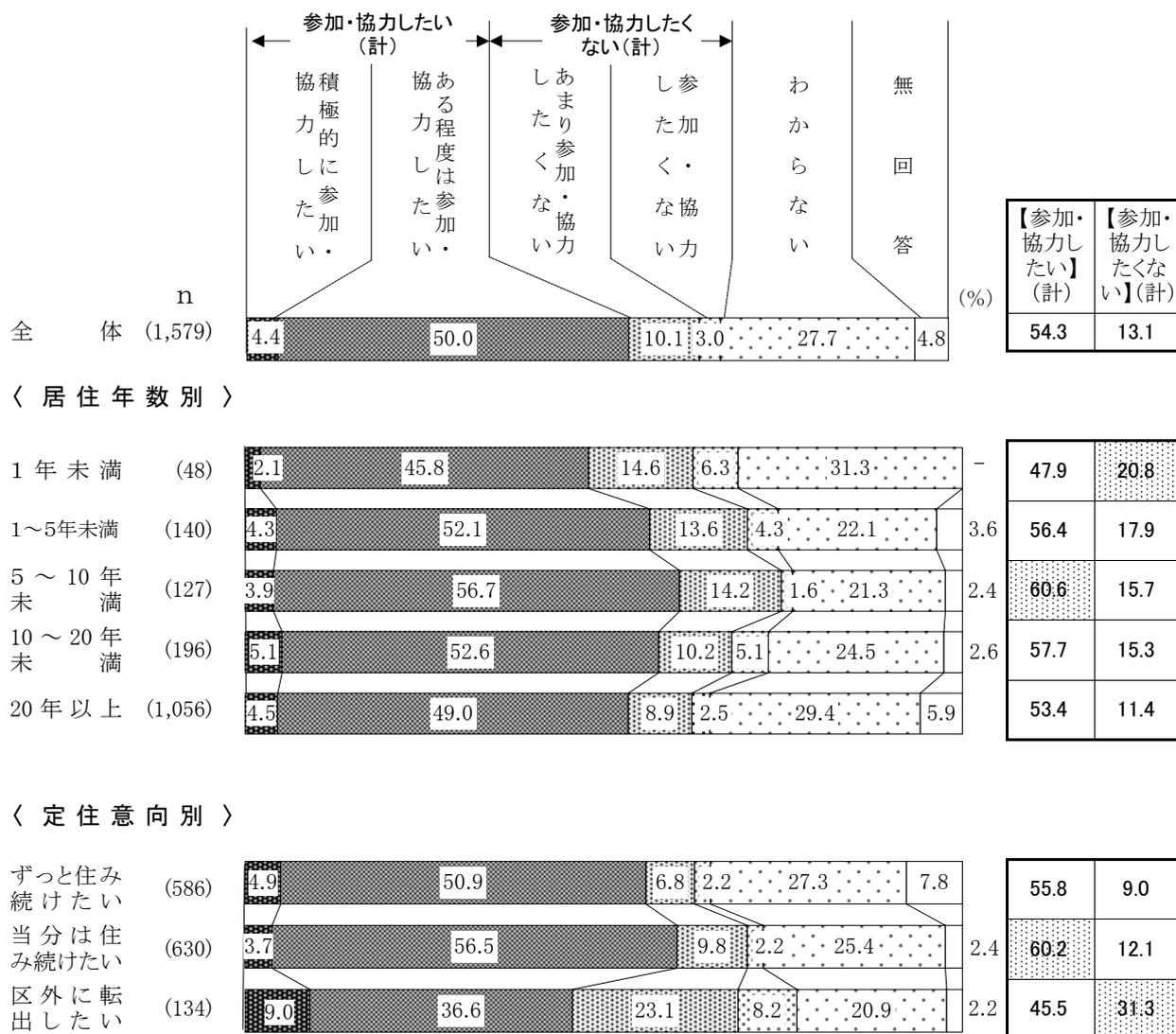


居住年数、定住意向別にみると、図9-5-3のとおりである。

居住年数別でみると、《参加・協力したい》は「5～10年未満」の60.6%が最も高くなっている。一方、《参加・協力したくない》では「1年未満」の20.8%が最も高い。

定住意向別でみると、《参加・協力したい》は「当分住み続けたい」で60.2%と最も高くなっている。一方、「区外に転出したい」では《参加・協力したくない》が31.3%と3割にのぼっている。

図 9 - 5 - 3 区政への参加・協力意向（居住年数、定住意向別）



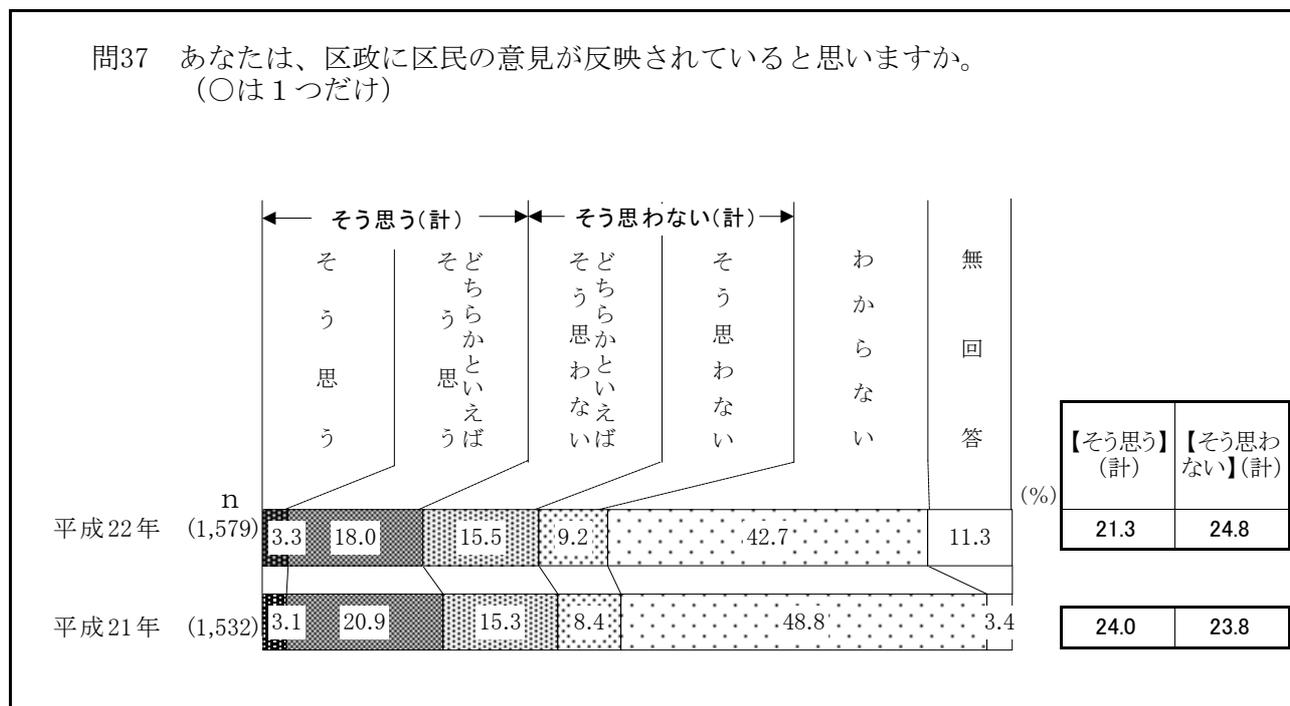
10 区政への区民の意見の反映

-
- (1) 区政への区民の意見の反映について
 - (2) 区政への区民の意見の反映について(各項目ごと)
 - (2)-2 区政への区民の意見の反映について(各項目ごと)
 - (3) 意見を言うことのできる場の利用意向
 - (4) 区政へ意見を言うことができる場を利用しようと思わない理由
-

10 区政への区民の意見の反映

(1) 区政への区民の意見の反映について

■ 区政に区民の意見が反映されていると思う割合は約2割



区政への区民の意見の反映については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた《そう思う》が21.3%、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた《そう思わない》が24.8%を示し、やや《そう思わない》の方が高くなっている。一方、「わからない」が42.7%にのぼっている。

平成21年度調査と比較すると、《そう思う》は2.7ポイント下降している。

地域ブロック別でみると図10-1-1のとおりである。

《そう思う》では、第8ブロックが最も高く、25.2%を示しており、次いで第13ブロックの25.0%となっている。《そう思わない》でも第8ブロックの31.3%が最も高く、次いで第3ブロック(31.1%)、第13ブロック(30.6%)となっている。

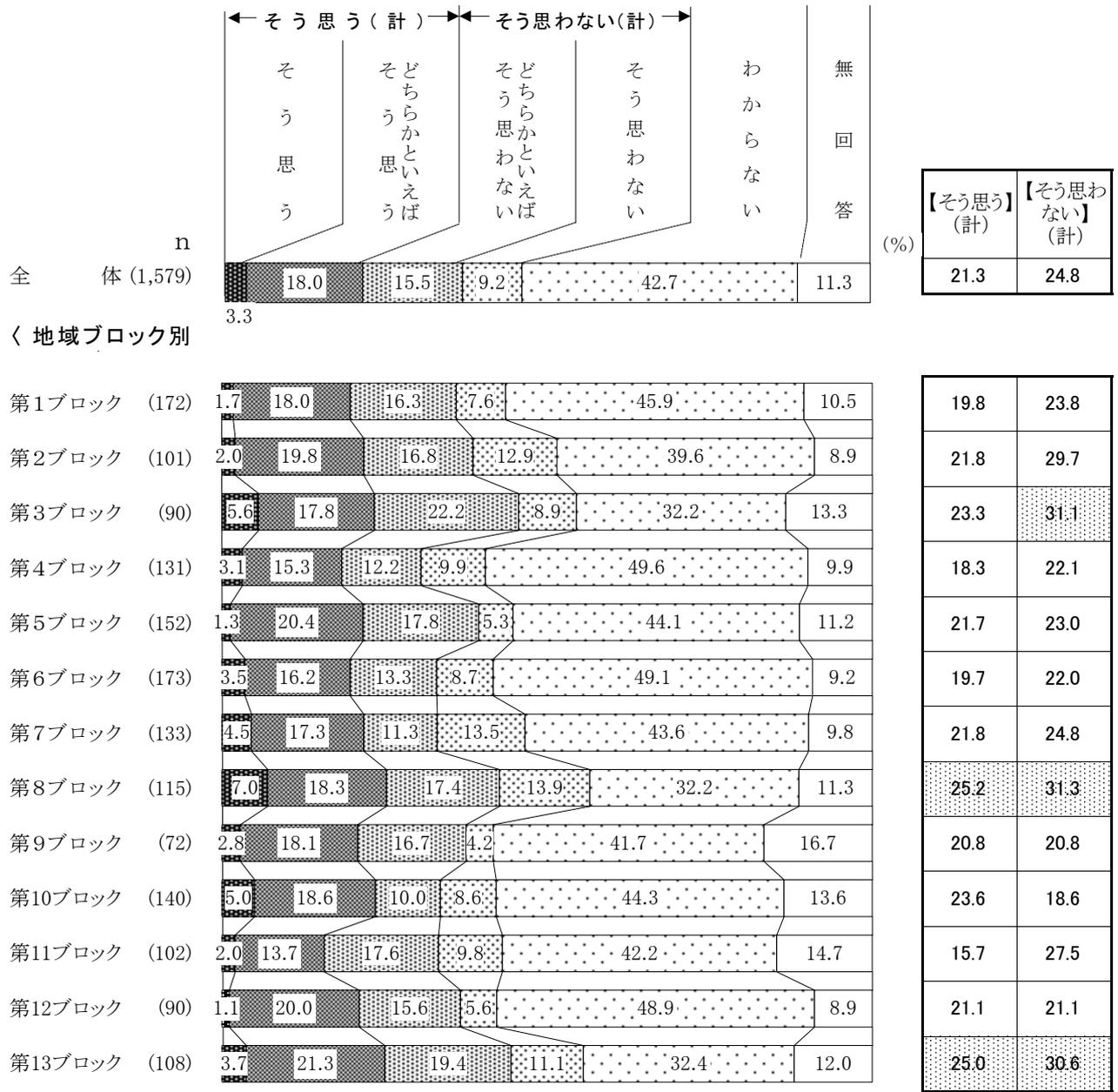
性・年代別でみると図10-1-2のとおりである。

《そう思う》の割合は年代が上がるにつれ高くなる傾向があり、男女とも70歳以上で最も高くなっており、それぞれ3割を超えている。また、《そう思わない》は全体的に男性の方が女性よりも割合が高く、男性の中では50代の36.6%が最も高く、次いで30代(35.3%)、20代(30.2%)となっている。女性では30代の30.9%が最も高くなっている。

居住年数、定住意向別でみると図10-1-3のとおりである。

居住年数別では、「20年以上」で《そう思う》の割合が23.0%と最も高く、「10～20年未満」では《そう思わない》の割合が30.6%と最も高くなっている。また、定住意向別では、定住意向が強くなるにつれ、《そう思う》と答える割合も上昇する傾向にあり、「ずっと住み続けたい」では29.2%と3割弱を示し、「区外に転出したい」では《そう思わない》が31.3%で最も高くなっている。

図 10-1-1 区政への区民の意見の反映について（地域ブロック別）



ブロック区分



図 10-1-2 区政への区民の意見の反映について（性・年代別）

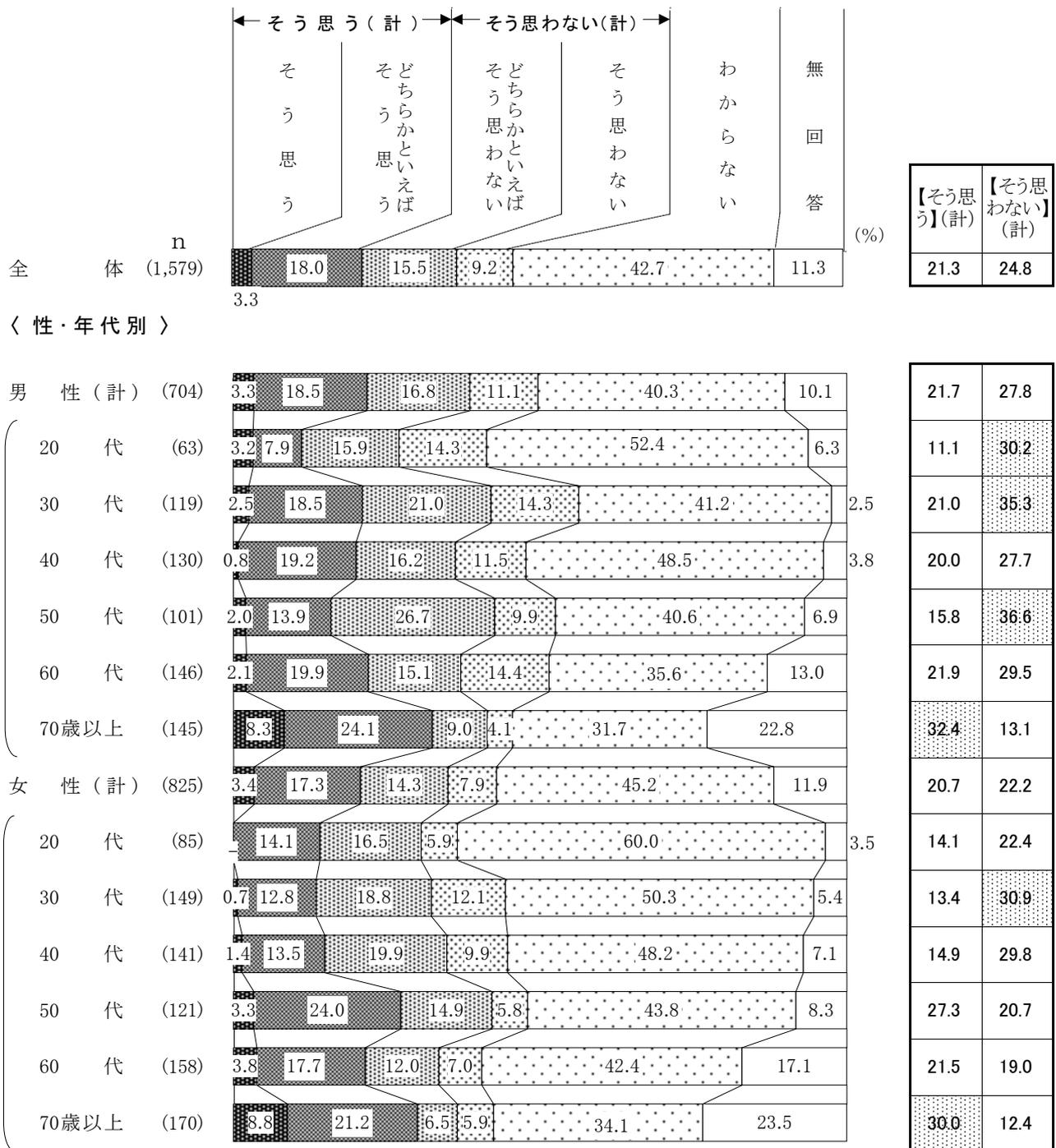
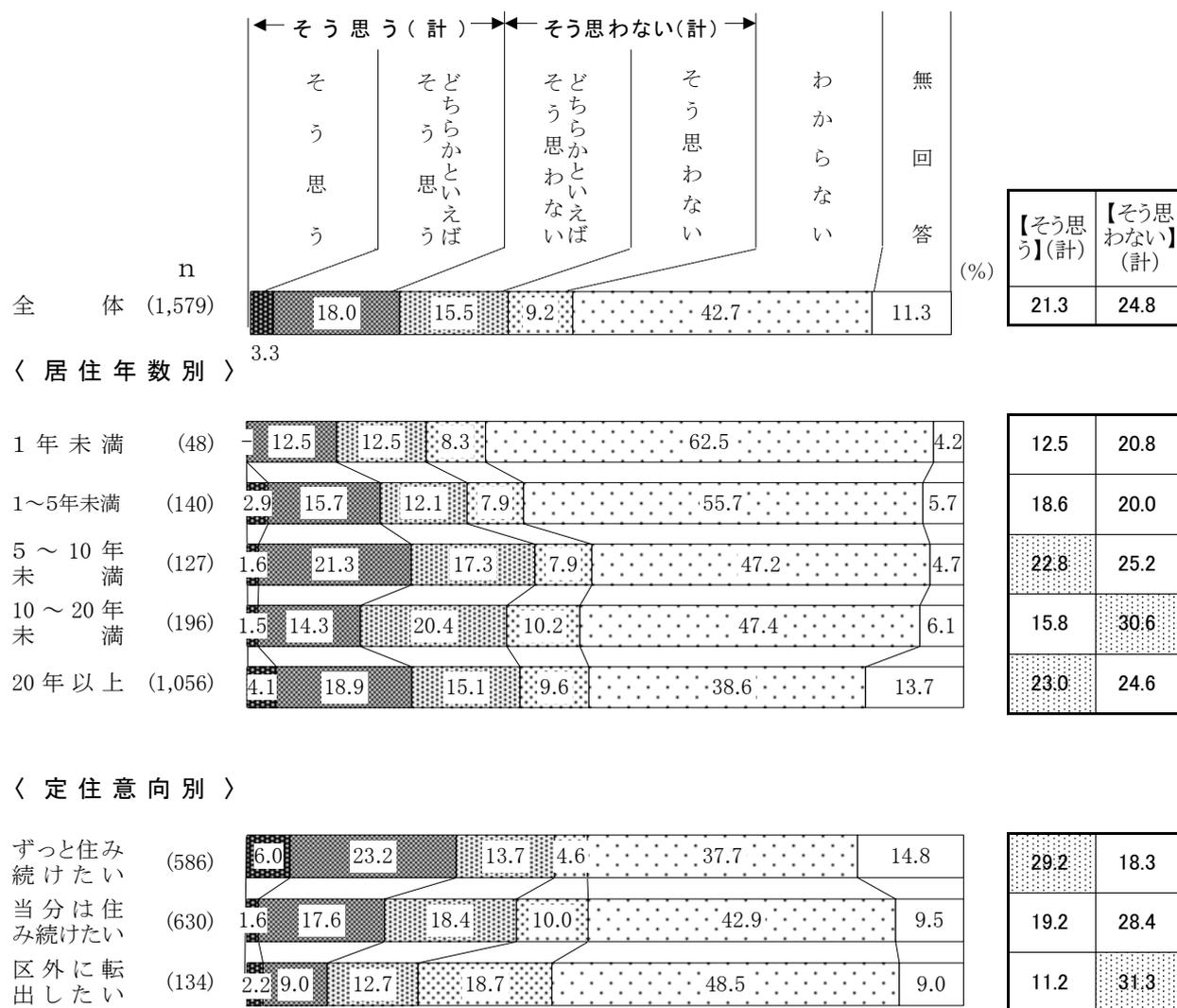
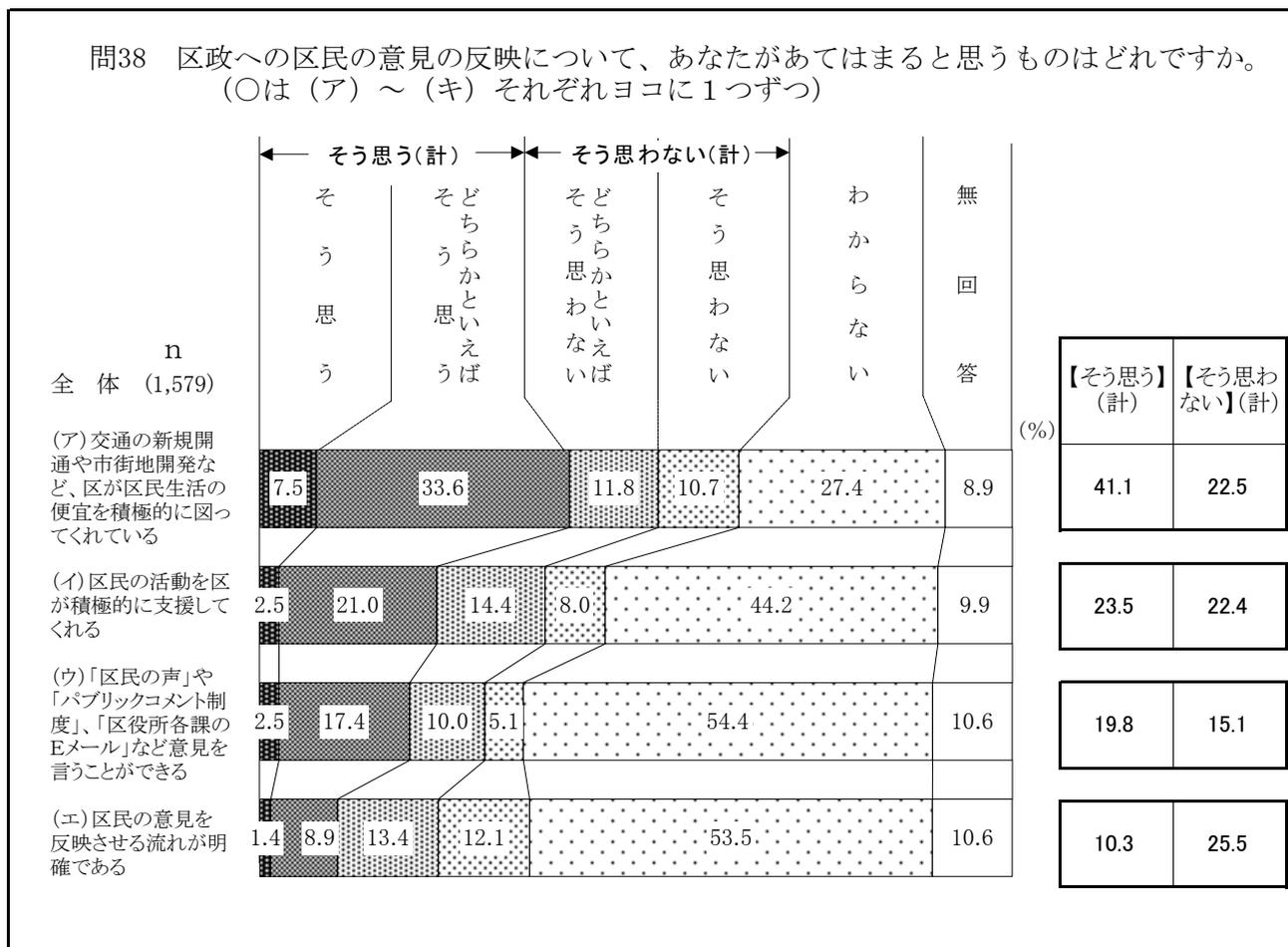


図 10-1-3 区政への区民の意見の反映について（居住年数、定住意向別）



(2) 区政への区民の意見の反映について(各項目ごと)

■ 4割の区民が区の都市開発の取り組みを評価



区政への区民の意見の反映については、「(ア) 交通の新規開通や市街地開発など、区が区民生活の便宜を積極的に図ってくれている」で、「《そう思う》」が41.1%を示し、都市開発の側面では4割の区民が区の取り組みを評価している。一方、「(ウ) 「区民の声」や「パブリックコメント制度」、「区役所各課のEメール」など意見を言うことができる」や「(エ) 区民の意見を反映させる流れが明確である」では、「わからない」が5割を超えている。

「(ア) 交通の新規開通や市街地開発など、区が区民生活の便宜を積極的に図ってくれている」を地域ブロック別でみると図10-2-1のとおりである。第3ブロックで《そう思う》が50%を超え、他ブロックよりも高くなっている。一方、第4、第7、第9、第10ブロックでは《そう思わない》が27%台を示し、他ブロックよりも高い。

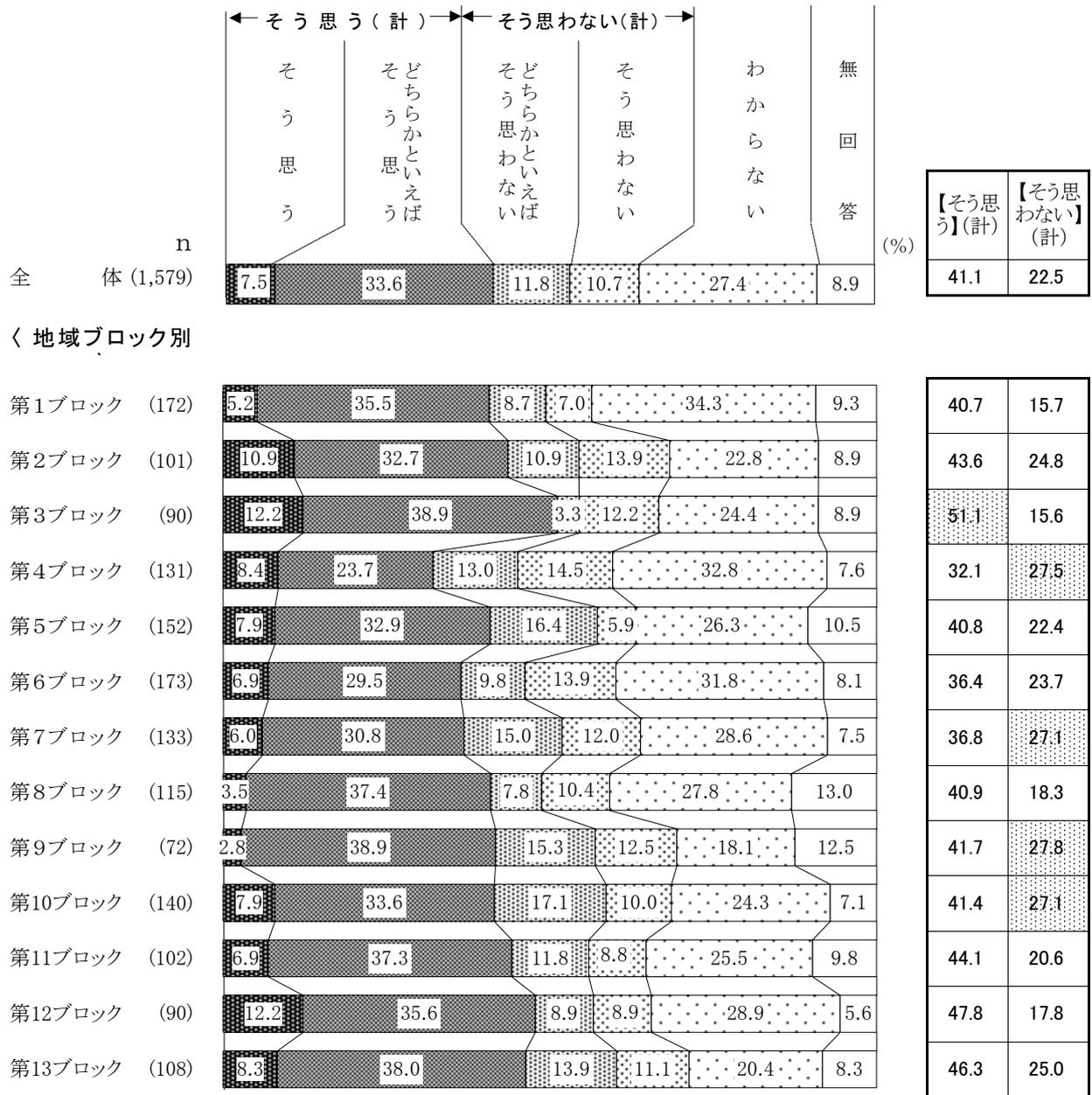
同項目を性・年代別でみると図10-2-2のとおりである。《そう思う》では、男性40代と女性70歳以上でそれぞれ50.0%と最も高くなっており、男性70歳以上でも48.3%と5割弱を示している。一方、《そう思わない》は、全体的に女性より男性の方が割合が高く、男性20代と50代では3割を超えている。

また、同項目を居住年数、定住意向別でみると図10-2-3のとおりである。

居住年数別では、5年未満の居住年数では《そう思う》の割合が低く、5年以上の居住年数では高くなる傾向があり、「5～10年未満」では48.0%にのぼる。また、定住意向別では定住意向が強くなるにつれ、《そう思う》と答える割合も上昇し、「ずっと住み続けたい」では49.0%と約5割で最も高くなっている一方、「区外に転出したい」では《そう思わない》が38.1%と最も高くなっている。

図 10-2-1 区政への区民の意見の反映について（地域ブロック別）

(ア)交通の新規開通や市街地開発など、区が区民生活の便宜を積極的に図ってくれている



ブロック区分



図 10-2-2 区政への区民の意見の反映について(性・年代別)

(ア)交通の新規開通や市街地開発など、区が区民生活の便宜を積極的に図ってくれている

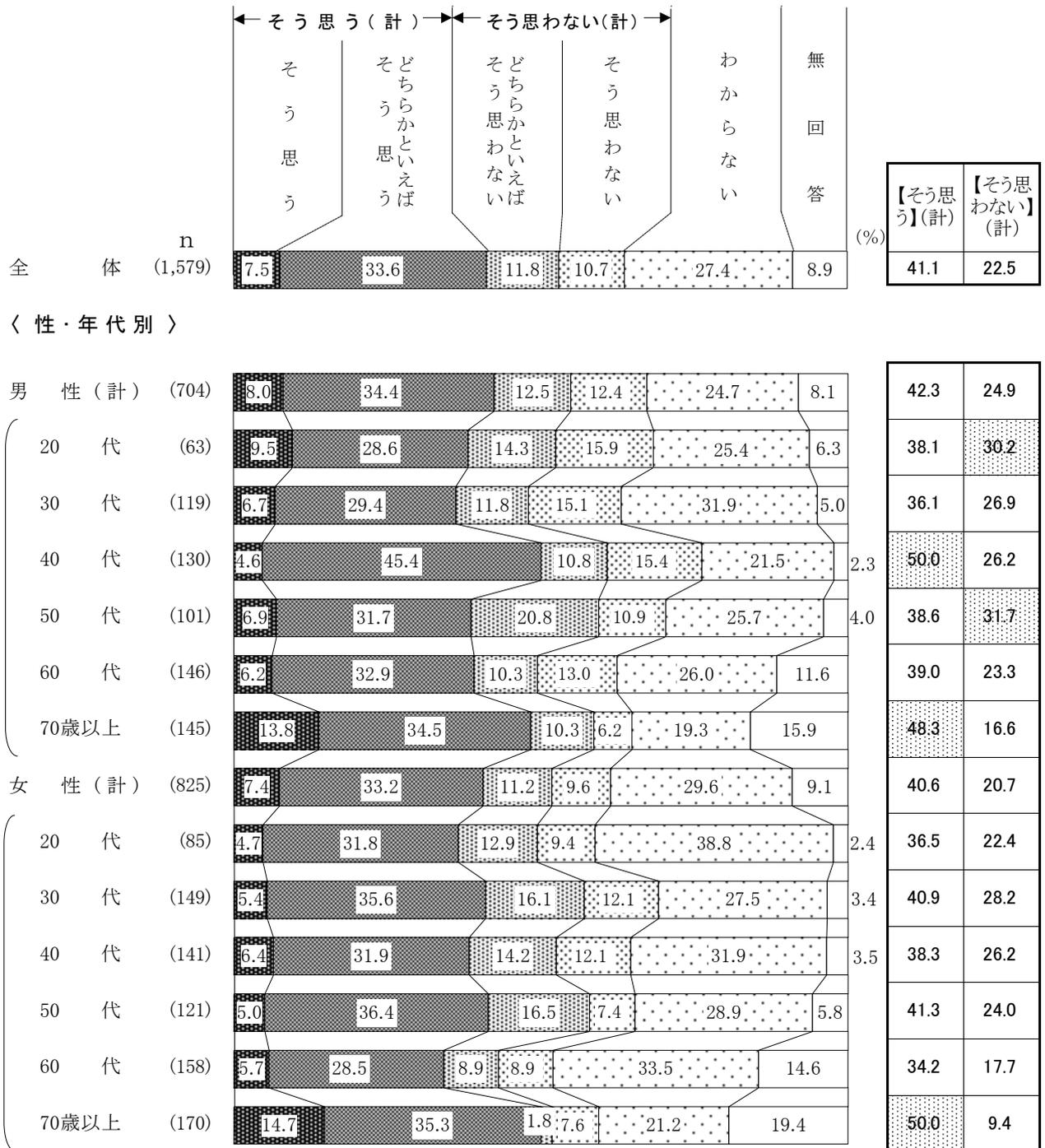
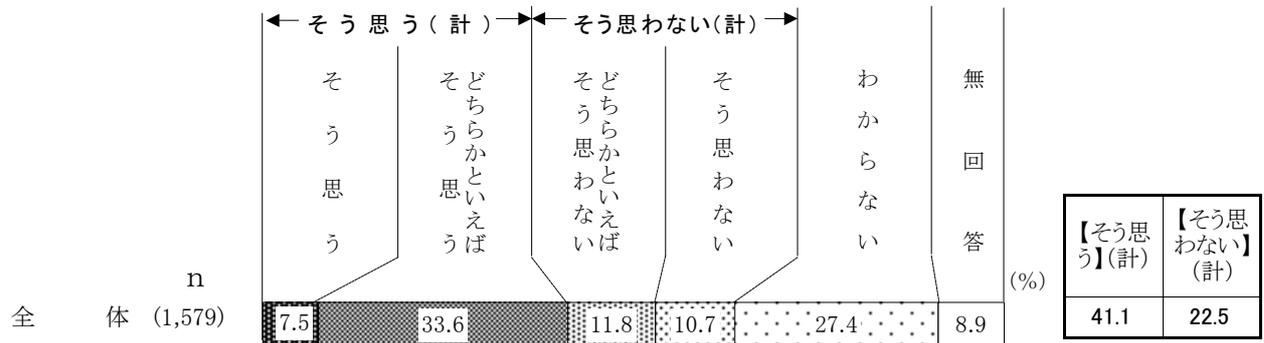
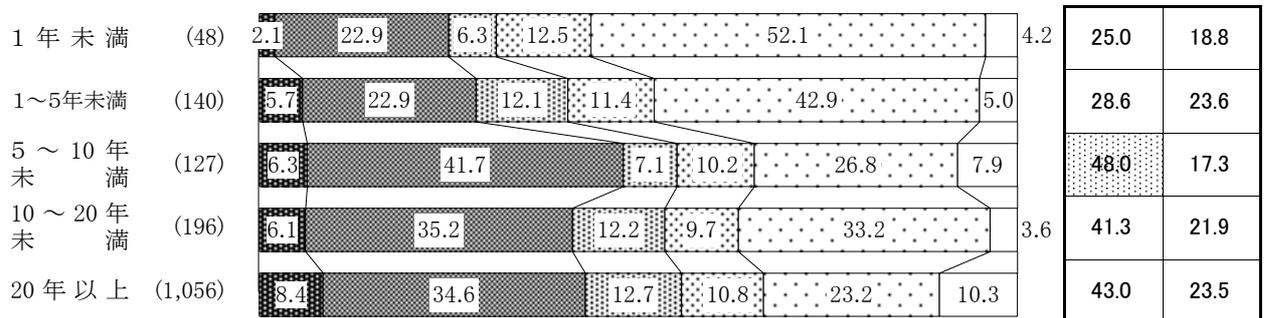


図 10-2-3 区政への区民の意見の反映について（居住年数、定住意向別）

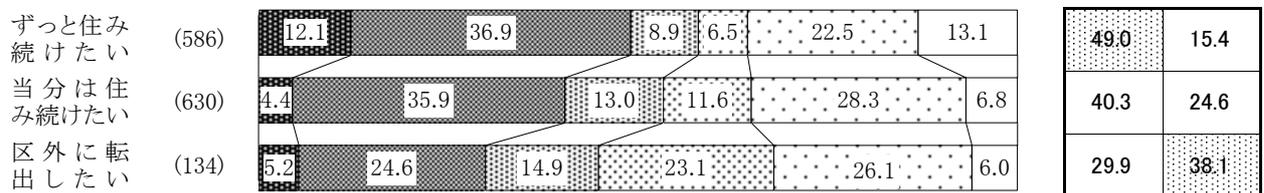
(ア)交通の新規開通や市街地開発など、区が区民生活の便宜を積極的に図ってくれている



〈 居住年数別 〉



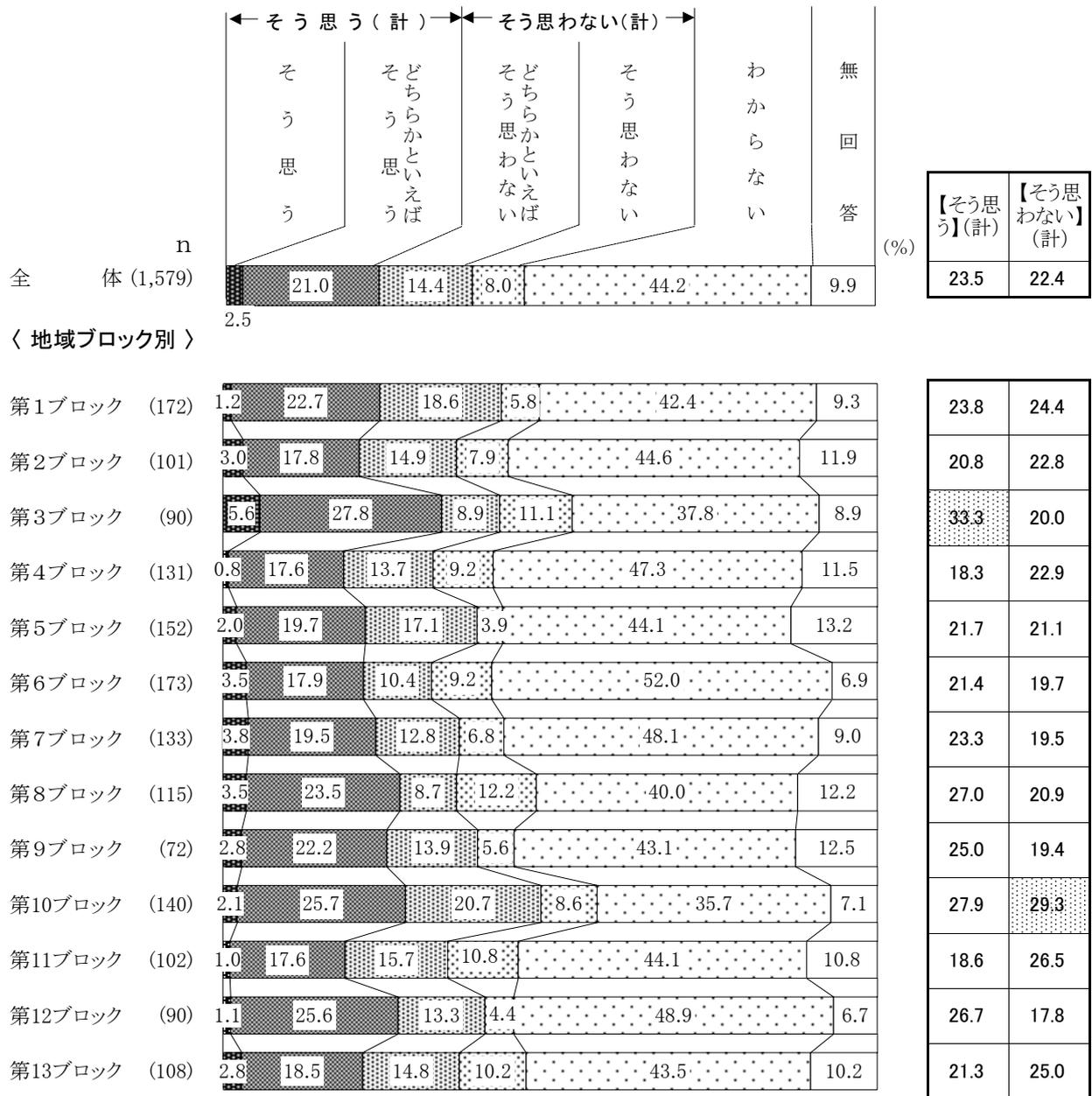
〈 定住意向別 〉



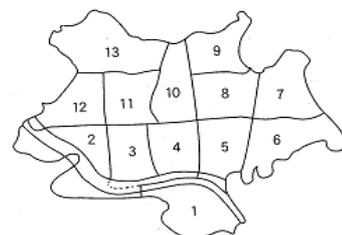
「(イ) 区民の活動を区が積極的に支援してくれる」を地域ブロック別で見ると図10-2-4のとおりである。第3ブロックで《そう思う》が30%を超え、最も高くなっている。一方、第10ブロックでは《そう思わない》が29.3%で最も高くなっている。

図 10-2-4 区政への区民の意見の反映について（地域ブロック別）

(イ) 区民の活動を区が積極的に支援してくれる



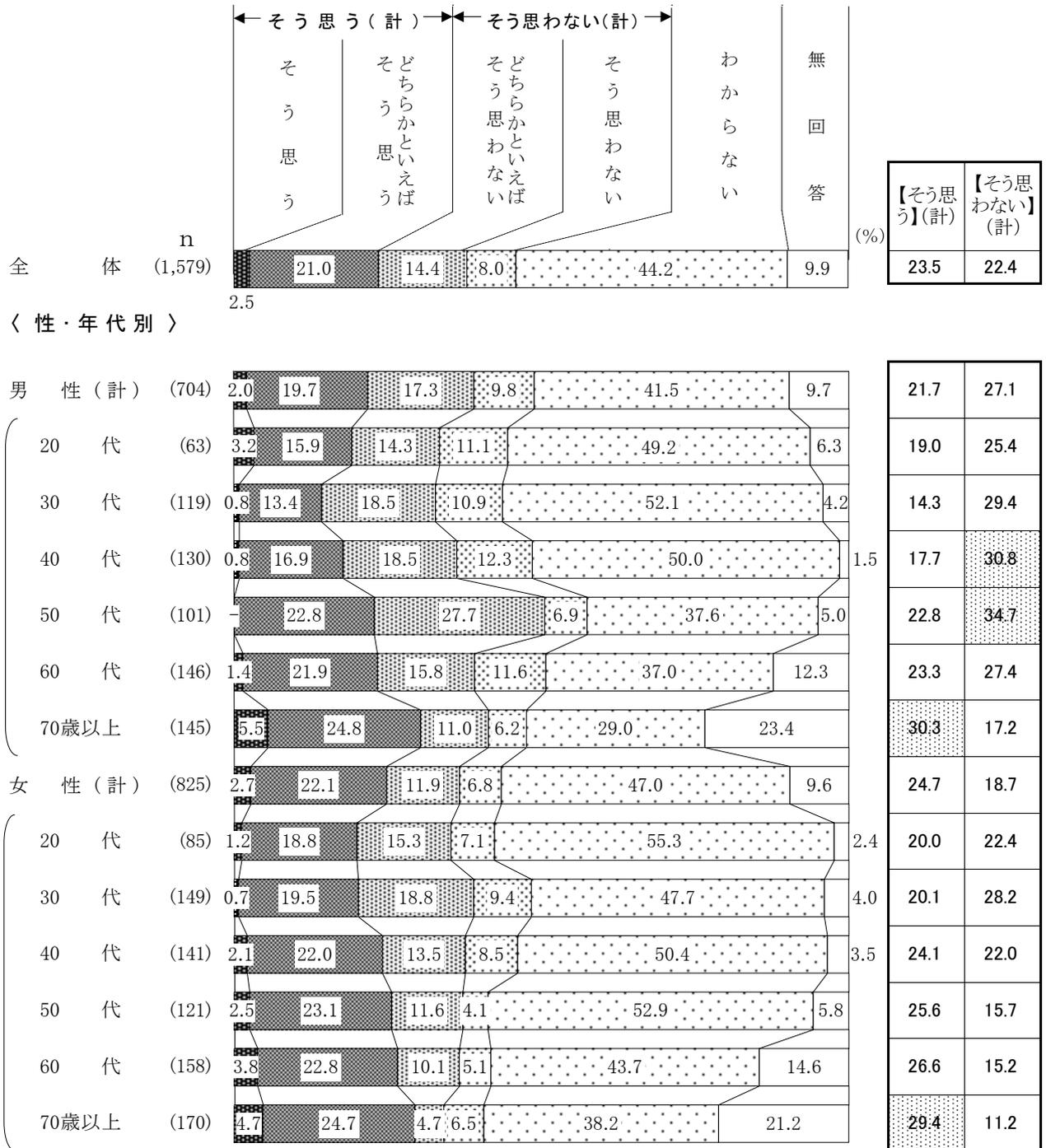
ブロック区分



「(イ) 区民の活動を区が積極的に支援してくれる」を性・年代別で見ると図10-2-5のとおりである。《そう思う》の割合は男女とも年代が上がるにつれ上昇する傾向があり、ともに70歳以上で最も高くなっており、それぞれ約3割程度となっている。一方、《そう思わない》は、全体的に女性より男性の方が割合が高く、男性40代と50代では3割を超えている。

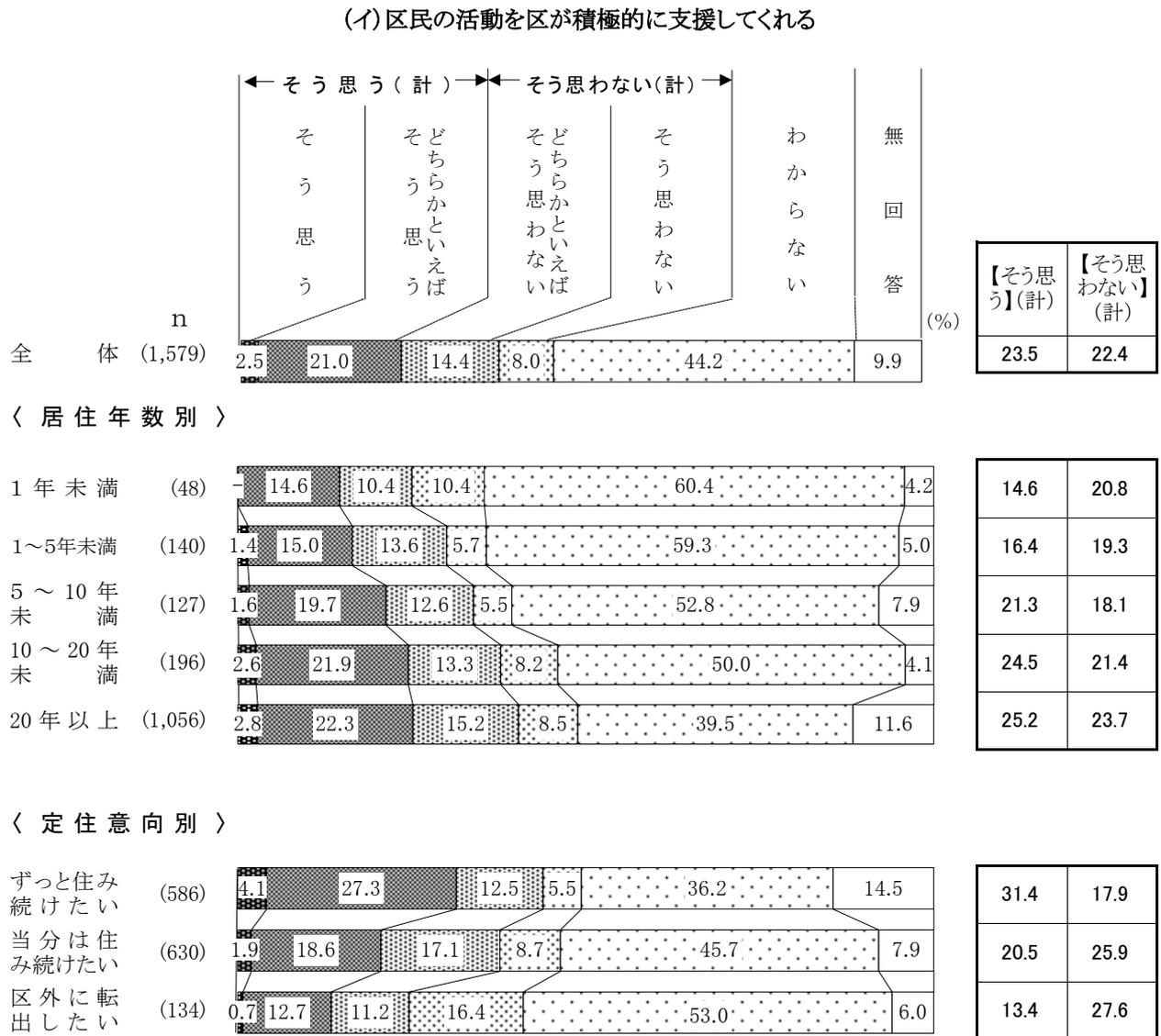
図 10-2-5 区政への区民の意見の反映について(性・年代別)

(イ) 区民の活動を区が積極的に支援してくれる



「(イ) 区民の活動を区が積極的に支援してくれる」を居住年数、定住意向別で見ると図10-2-6のとおりである。居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ《そう思う》と答える割合も上昇する傾向となり、「20年以上」で25.2%と最も高くなっている。また、定住意向別では定住意向が強くなるにつれ、《そう思う》と答える割合も上昇し、「ずっと住み続けたい」では31.4%で最も高くなっている。一方で、「区外に転出したい」では《そう思わない》が27.6%と最も高くなっている。

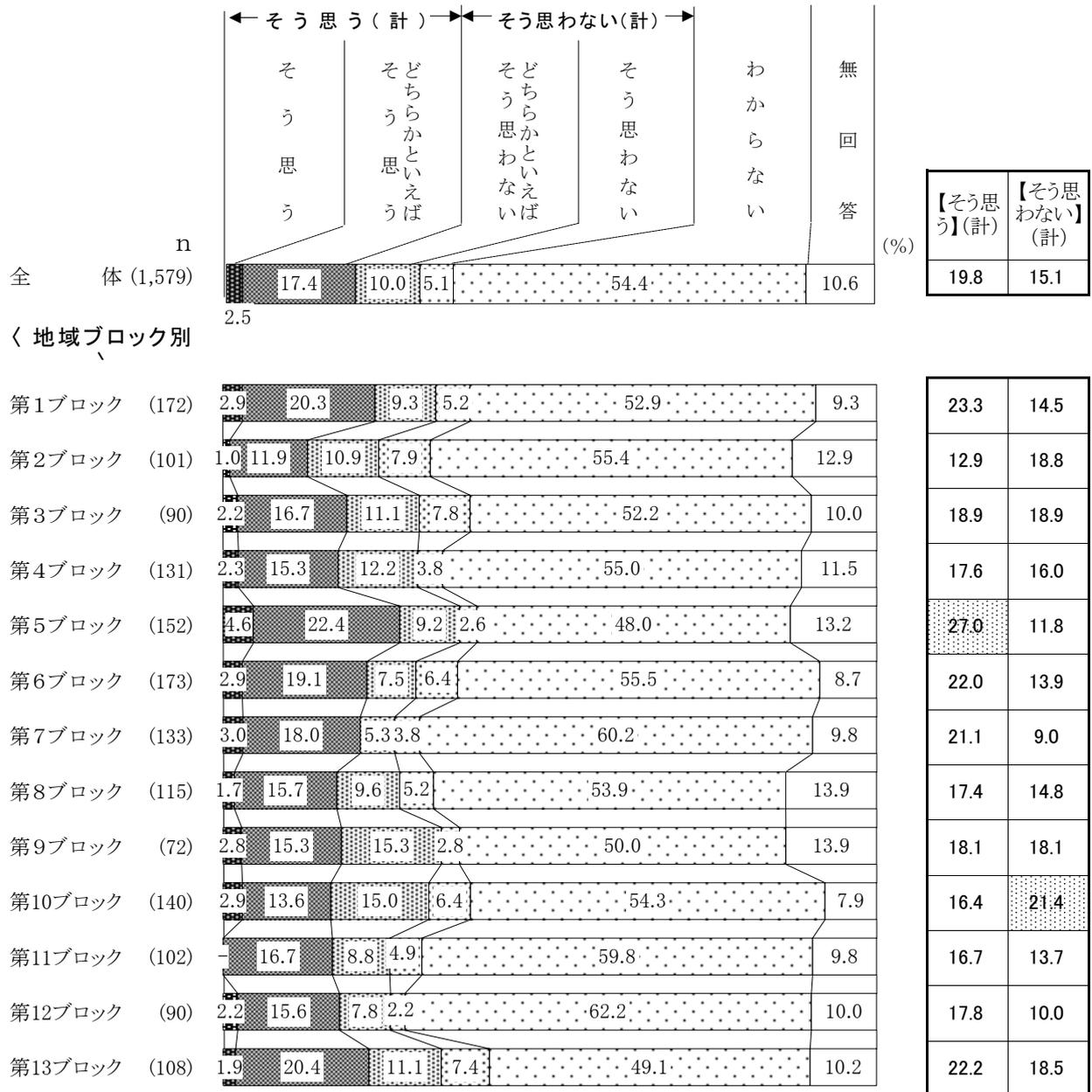
図 10-2-6 区政への区民の意見の反映について（居住年数、定住意向別）



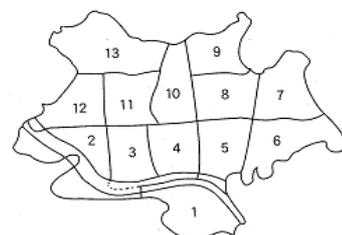
「(ウ)「区民の声」や「パブリックコメント制度」、「区役所各課のEメール」など意見を言うことができる」を地域ブロック別でみると図10-2-7のとおりである。第5ブロックで《そう思う》が27.0%を示し、最も高くなっている。一方、第10ブロックでは《そう思わない》が21.4%で最も高くなっている。

図 10-2-7 区政への区民の意見の反映について（地域ブロック別）

(ウ)「区民の声」や「パブリックコメント制度」、「区役所各課のEメール」など意見を言うことができる



ブロック区分

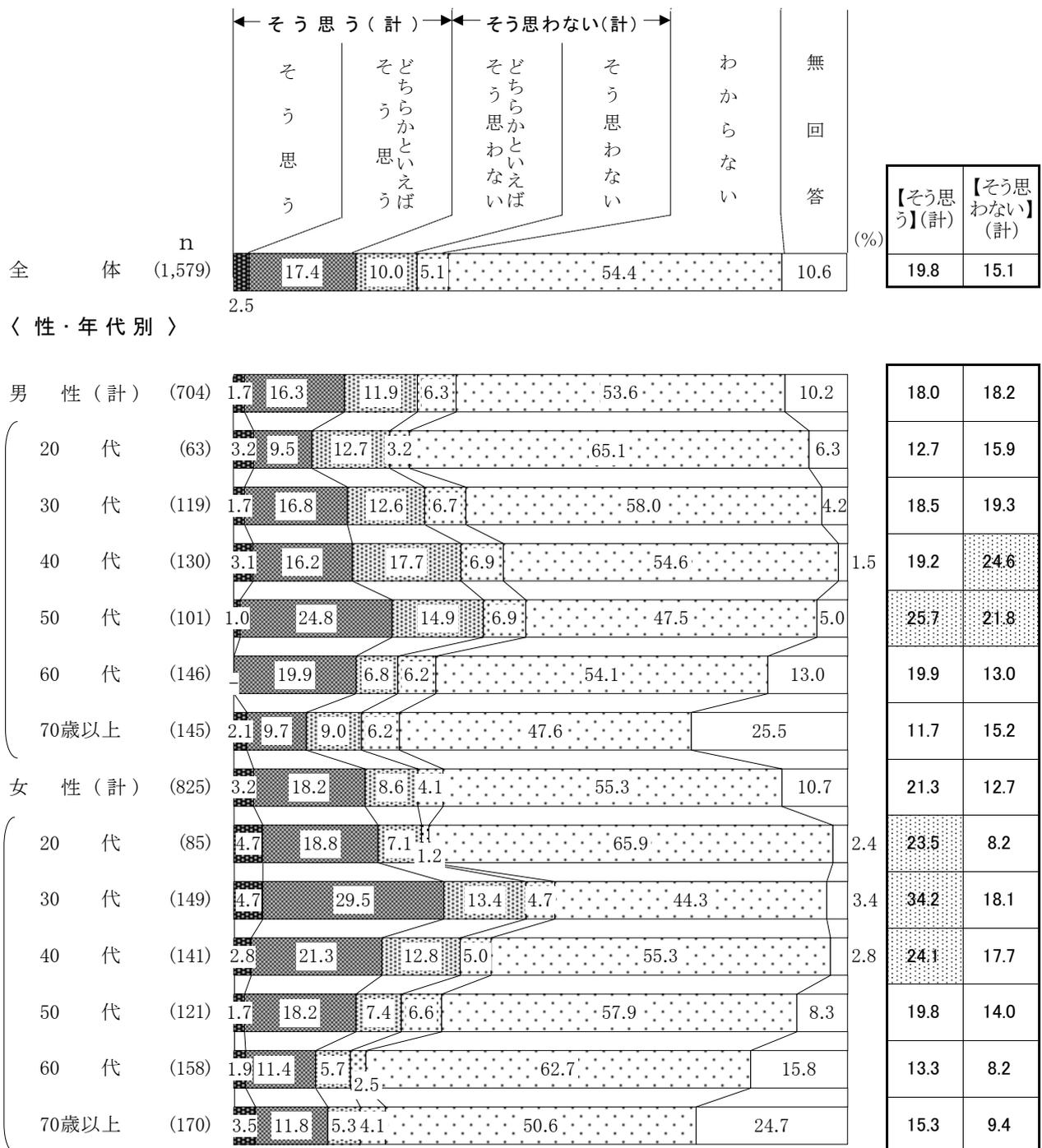


「(ウ)「区民の声」や「パブリックコメント制度」、「区役所各課のEメール」など意見を言うことができる」を性・年代別でみると図10-2-8のとおりである。《そう思う》の割合は男性では50代の25.7%、女性では30代の34.2%が最も高くなっており、女性20代、40代でも20%を超えており、全体的に女性の方が割合が高い。一方、《そう思わない》は、全体的に女性より男性の方が割合が高く、男性40代と50代では20%を超えている。

また、「わからない」の割合は、男女とも20代が65%を超えているが、男性50代、70代、女性の30代では40%台となっており、年代別に認知度に差があることが認識される。

図 10-2-8 区政への区民の意見の反映について(性・年代別)

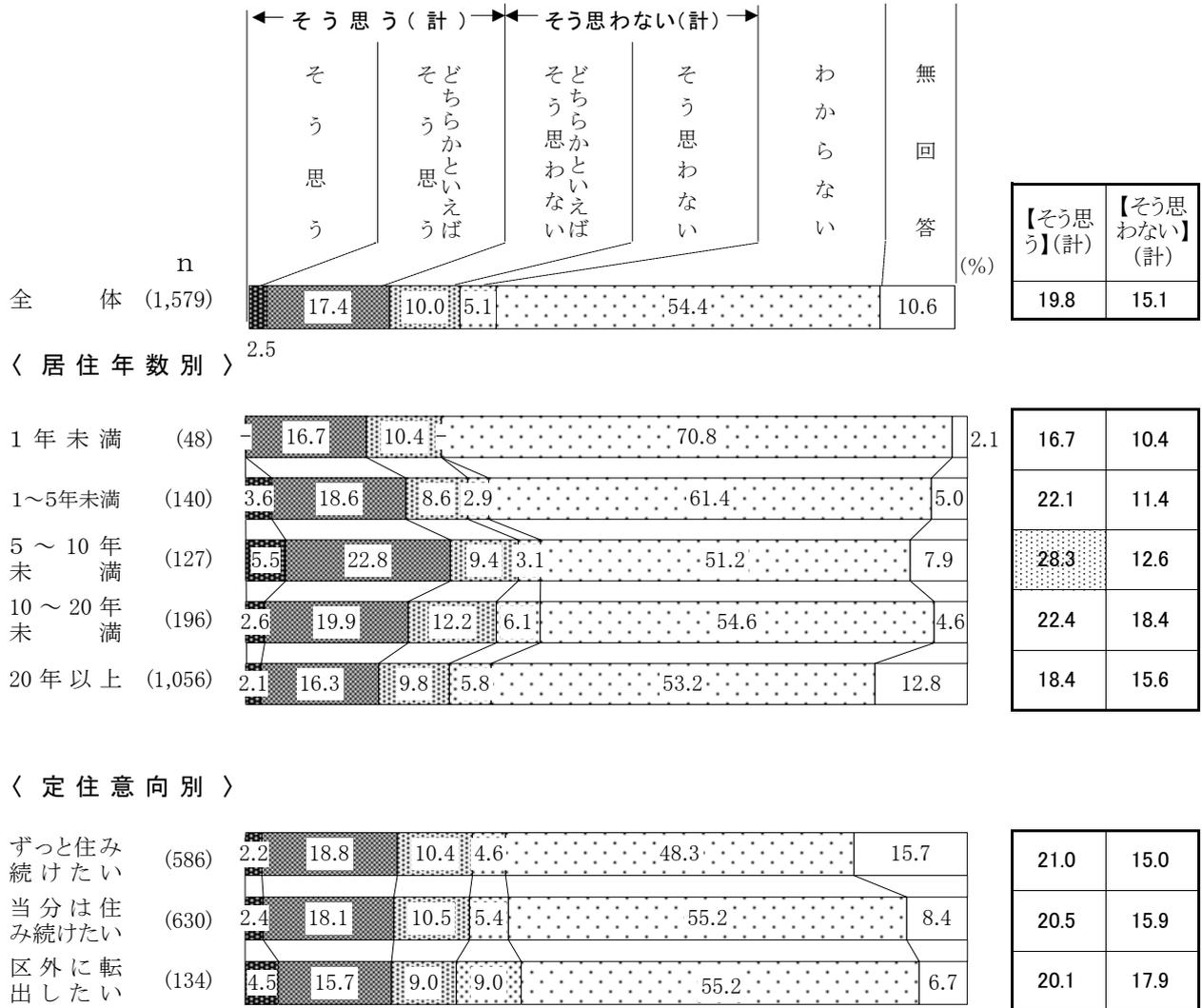
(ウ)「区民の声」や「パブリックコメント制度」、「区役所各課のEメール」など意見を言うことができる



「(ウ)「区民の声」や「パブリックコメント制度」、「区役所各課のEメール」など意見を言うことができる」を居住年数、定住意向別で見ると図10-2-9のとおりである。居住年数別では、「5～10年未満」で《そう思う》が28.3%で最も高くなっている。一方、定住意向別では各層で大きな差は見られない。

図 10-2-9 区政への区民の意見の反映について（居住年数、定住意向別）

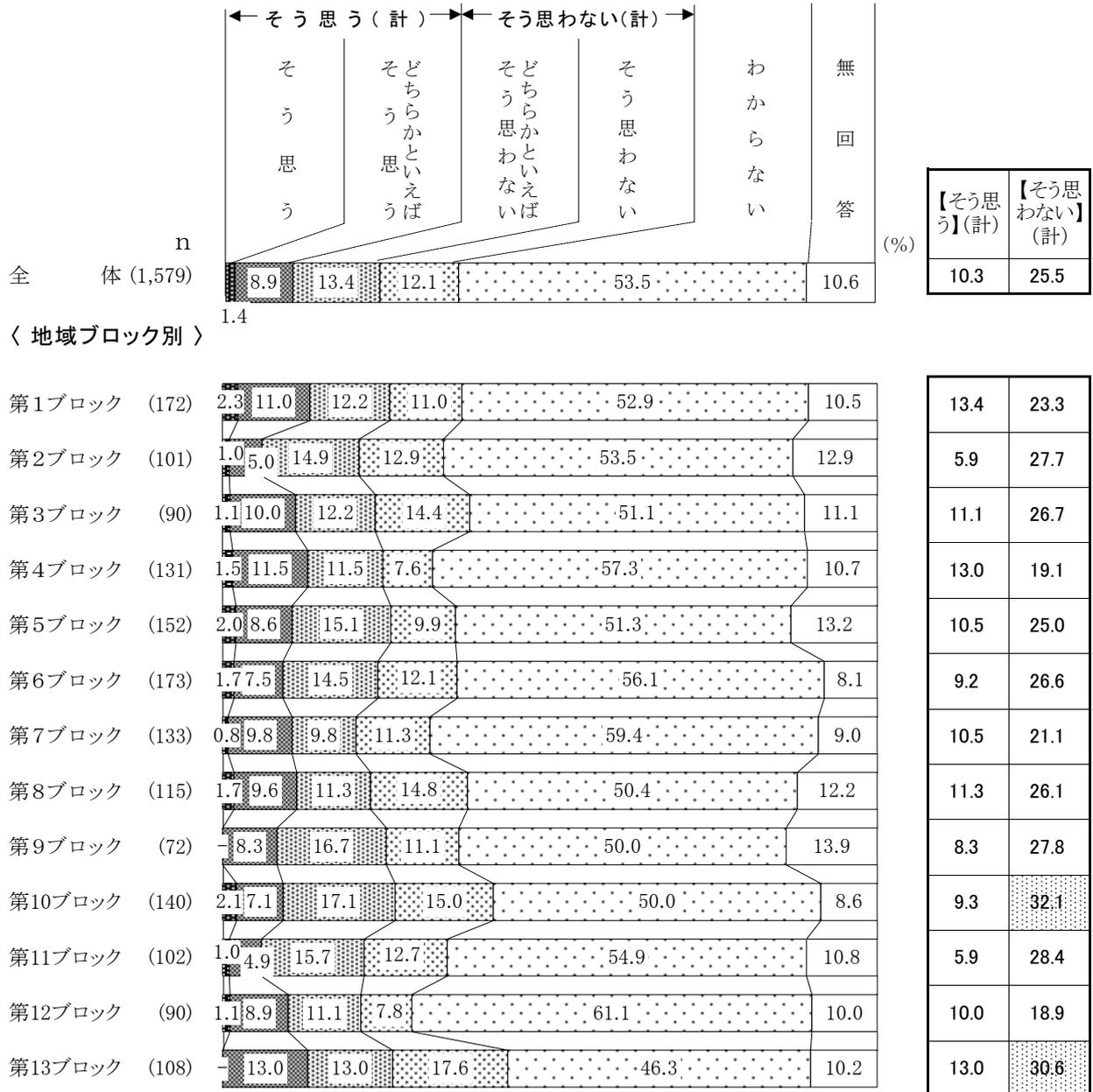
(ウ)「区民の声」や「パブリックコメント制度」、「区役所各課のEメール」など意見を言うことができる



「(エ) 区民の意見を反映させる流れが明確である」を地域ブロック別で見ると図10-2-10のとおりである。第10、第13ブロックで《そう思わない》がそれぞれ32.1%、30.6%を示し、3割を超え高くなっている。

図 10-2-10 区政への区民の意見の反映について（地域ブロック別）

(エ)区民の意見を反映させる流れが明確である



ブロック区分

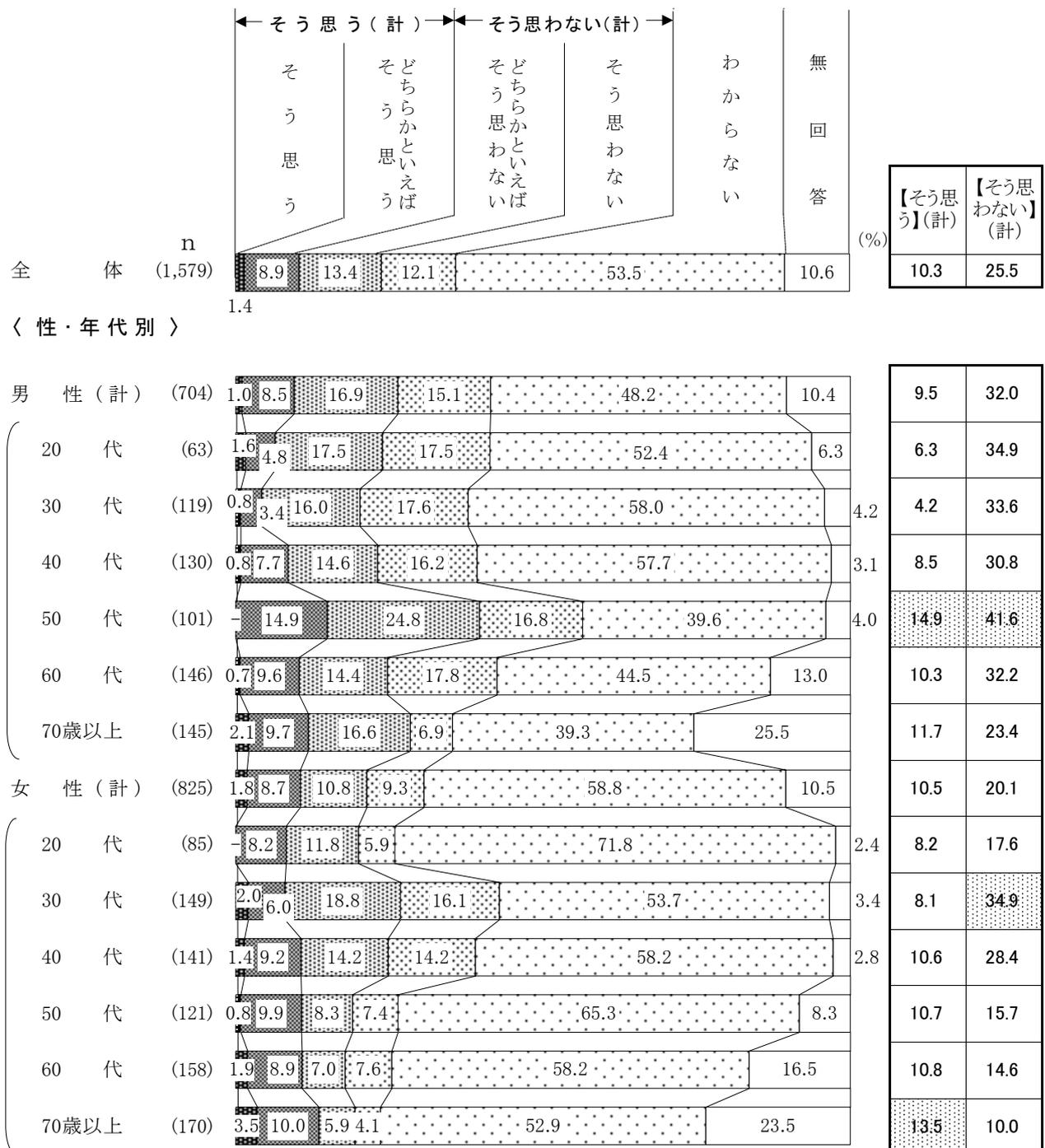


「(エ) 区民の意見を反映させる流れが明確である」を性・年代別で見ると図10-2-11のとおりである。《そう思う》の割合は男性では50代が14.9%、女性では70歳以上が13.5%でのとおり最も高くなっている。一方、《そう思わない》は、全体的に女性より男性の方が割合が高い傾向があり、男性50代では41.6%と4割を超えている。女性では30代の34.9%が最も高くなっている。

また、「わからない」の割合は、男性よりも女性の方が高い傾向があり、女性の20代では70%を超え、50代でも65%を超えている。

図 10-2-11 区政への区民の意見の反映について(性・年代別)

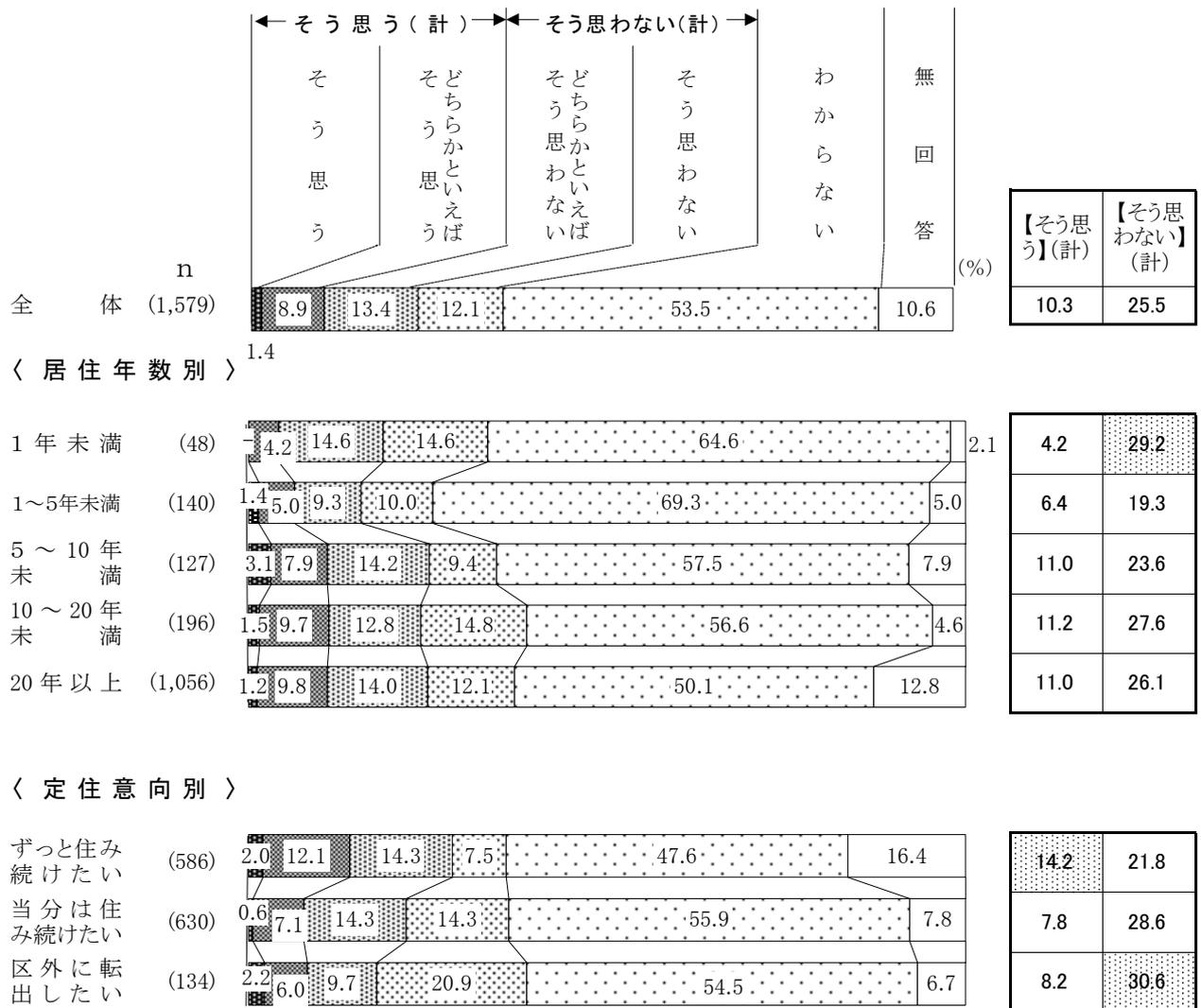
(エ)区民の意見を反映させる流れが明確である



「(エ)区民の意見を反映させる流れが明確である」を居住年数、定住意向別でみると図10-2-12のとおりである。居住年数別では「1年未満」で《そう思わない》が29.2%と最も高い。また、定住意向別では定住意向が強いほど、《そう思う》の割合が高くなる傾向があり、「ずっと住み続けたい」では14.2%で最も高い。一方、「区外に転出したい」では《そう思わない》の割合が30.6%と3割を超え、最も高くなっている。

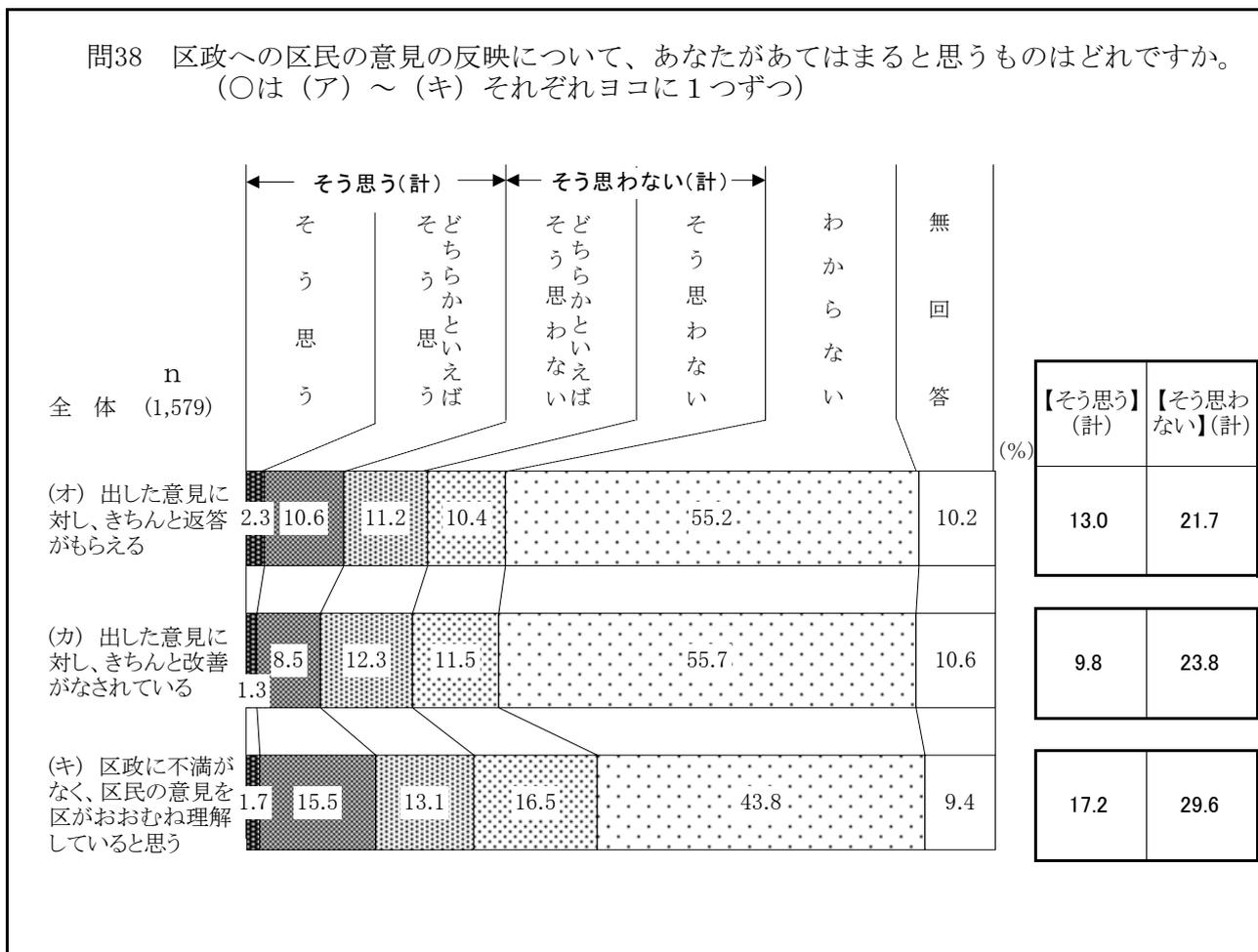
図 10-2-12 区政への区民の意見の反映について（居住年数、定住意向別）

(エ)区民の意見を反映させる流れが明確である



(2)－2 区政への区民の意見の反映について(各項目ごと)

■ 出した意見に対する区の対応に関連する項目では、「わからない」が約5割



区政への区民の意見の反映については、全体として肯定的な意見は少なく、「(キ) 区政に不満がなく、区民の意見を区がおおむね理解していると思う」では、「そう思わない」が29.6%を示している。また、「(オ) 出した意見に対し、きちんと返答がもらえる」や「(カ) 出した意見に対し、きちんと改善がなされている」では、「わからない」が5割を超えている。

「(オ) 出した意見に対し、きちんと返答がもらえる」を地域ブロック別で見ると図10-2-13のとおりである。第3ブロックでは「そう思う」が17.8%で最も高い。一方、第13ブロックで「そう思わない」が29.6%で、最も高くなっており、第2ブロック、第8ブロックでも25%を超えている。

また、同項目を性・年代別で見ると図10-2-14のとおりである。

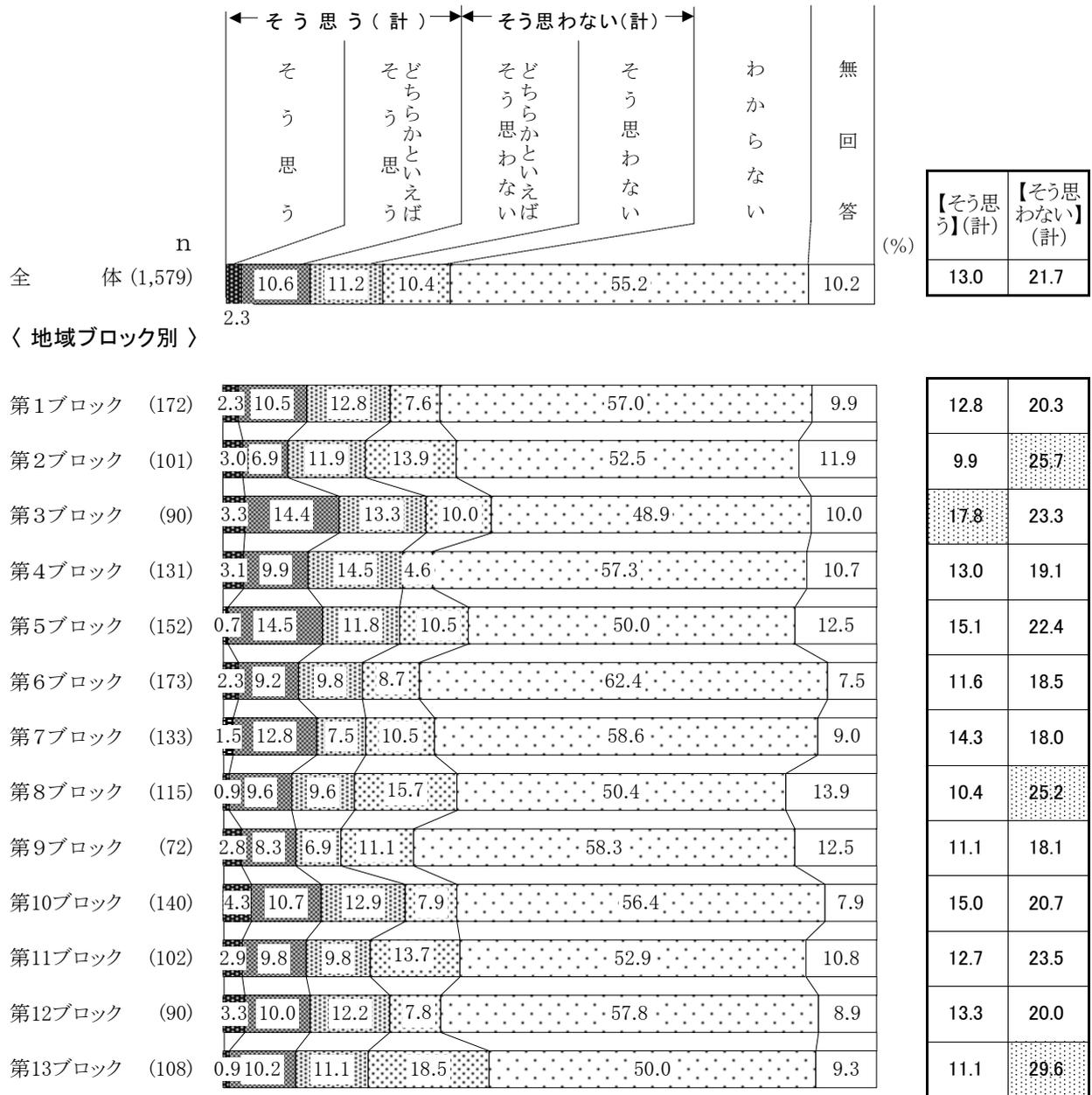
男女とも年代が上がるにつれ、「そう思う」の割合も上昇する傾向があり、男女とも70歳以上が最も高くなっている。一方、「そう思わない」は、全体的に女性より男性の方が割合が高く、男性50代では36.6%と唯一3割を超え、最も高くなっている。

また、同項目を居住年数、定住意向別で見ると図10-2-15のとおりである。

居住年数別では、居住年数が長くなるにつれ「そう思う」、「そう思わない」の割合がともに上昇する傾向があり、「20年以上」でそれぞれ最も高くなっている。また、定住意向別では定住意向が強くなるにつれ、「そう思う」と答える割合も上昇し、「ずっと住み続けたい」では17.1%と最も高くなっている。一方、「区外に転出したい」では「そう思わない」が28.4%と最も高くなっている。

図 10-2-13 区政への区民の意見の反映について（地域ブロック別）

(オ)出した意見に対し、きちんと返答がもらえる



ブロック区分



図 10-2-14 区政への区民の意見の反映について(性・年代別)

(オ)出した意見に対し、きちんと返答がもらえる

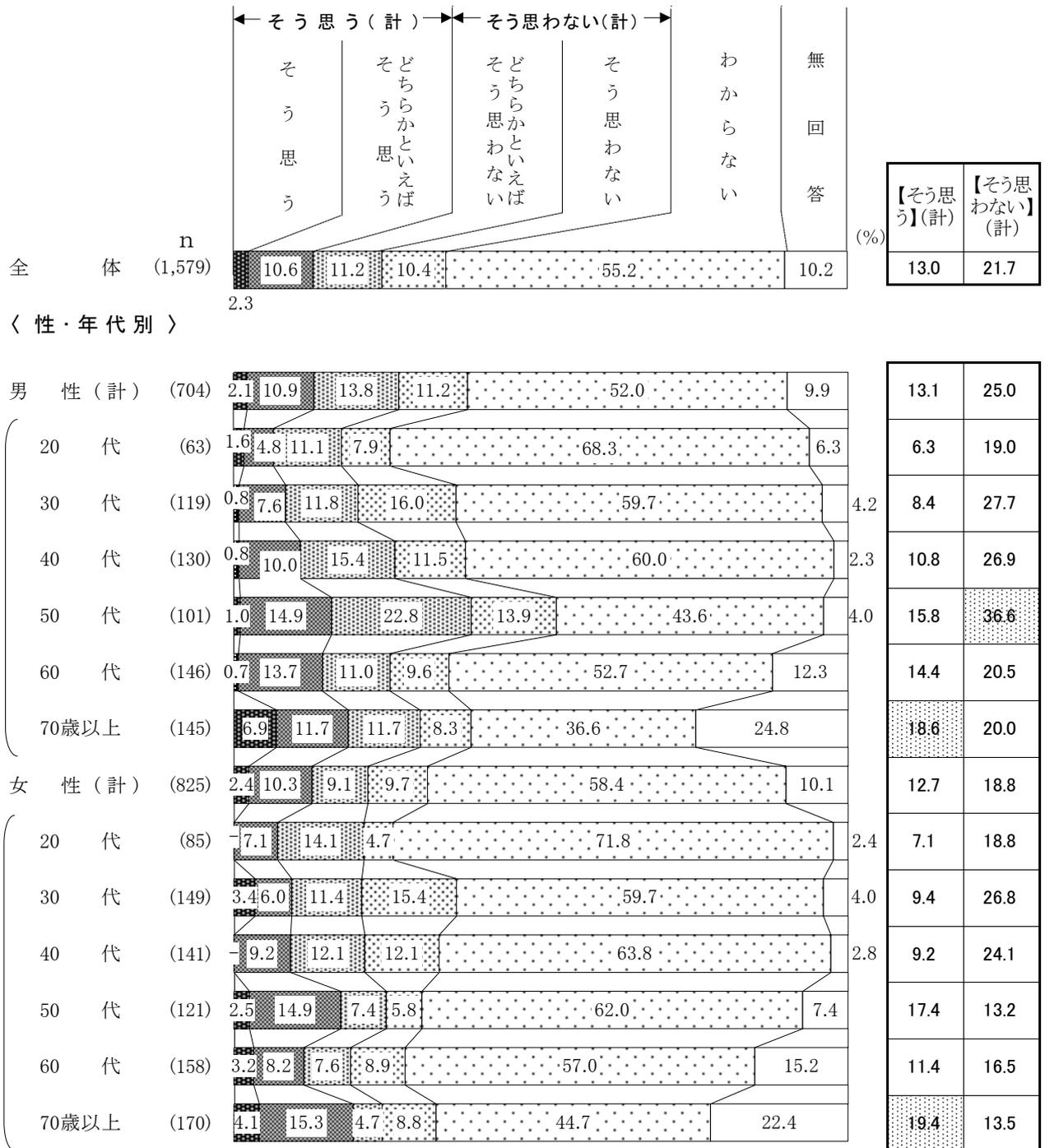
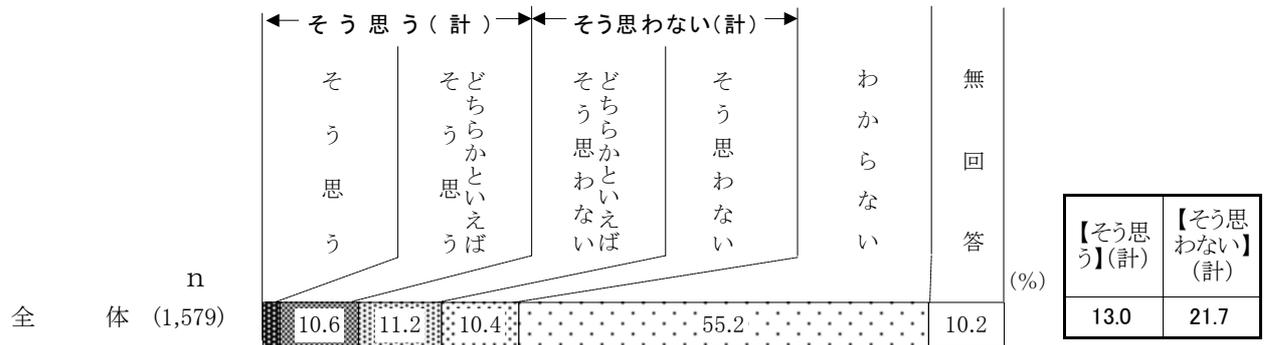
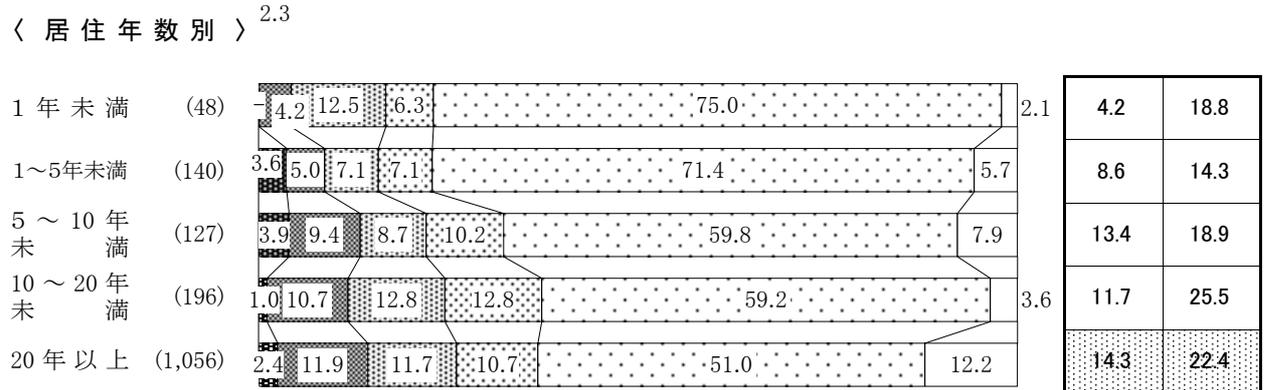


図 10-2-15 区政への区民の意見の反映について（居住年数、定住意向別）

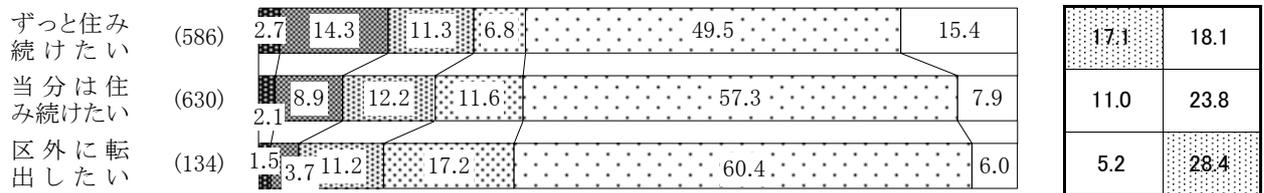
(オ) 出した意見に対し、きちんと返答がもらえる



〈 居住年数別 〉



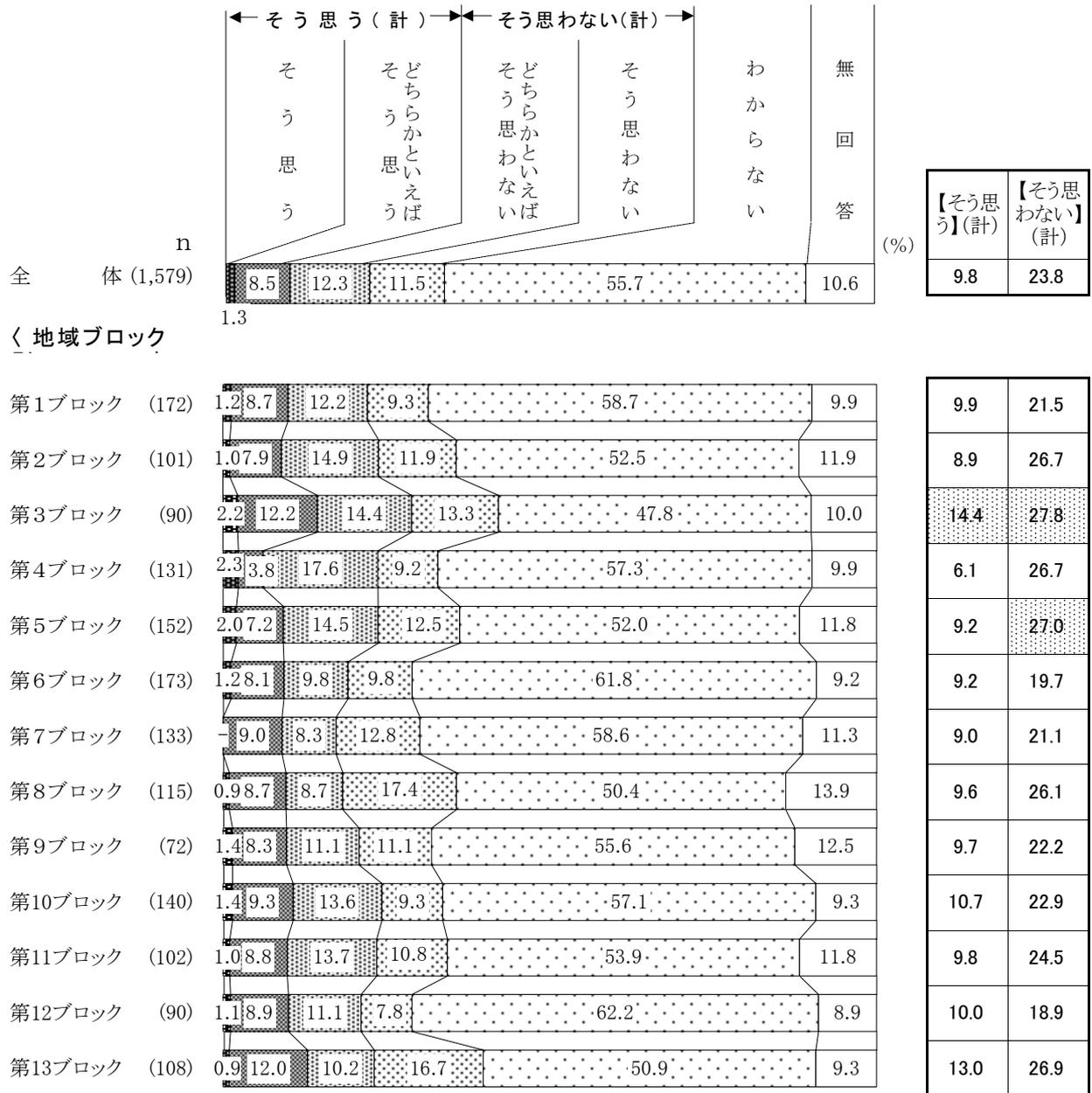
〈 定住意向別 〉



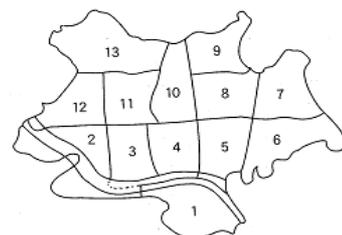
「(カ)出した意見に対し、きちんと改善がなされている」を地域ブロック別でみると図10-2-16のとおりである。第3ブロックで《そう思う》が14.4%を示し、最も高くなっている。一方で、第3、第5ブロックで《そう思わない》がそれぞれ27%台と最も高くなっている。

図 10-2-16 区政への区民の意見の反映について（地域ブロック別）

(カ)出した意見に対し、きちんと改善がなされている



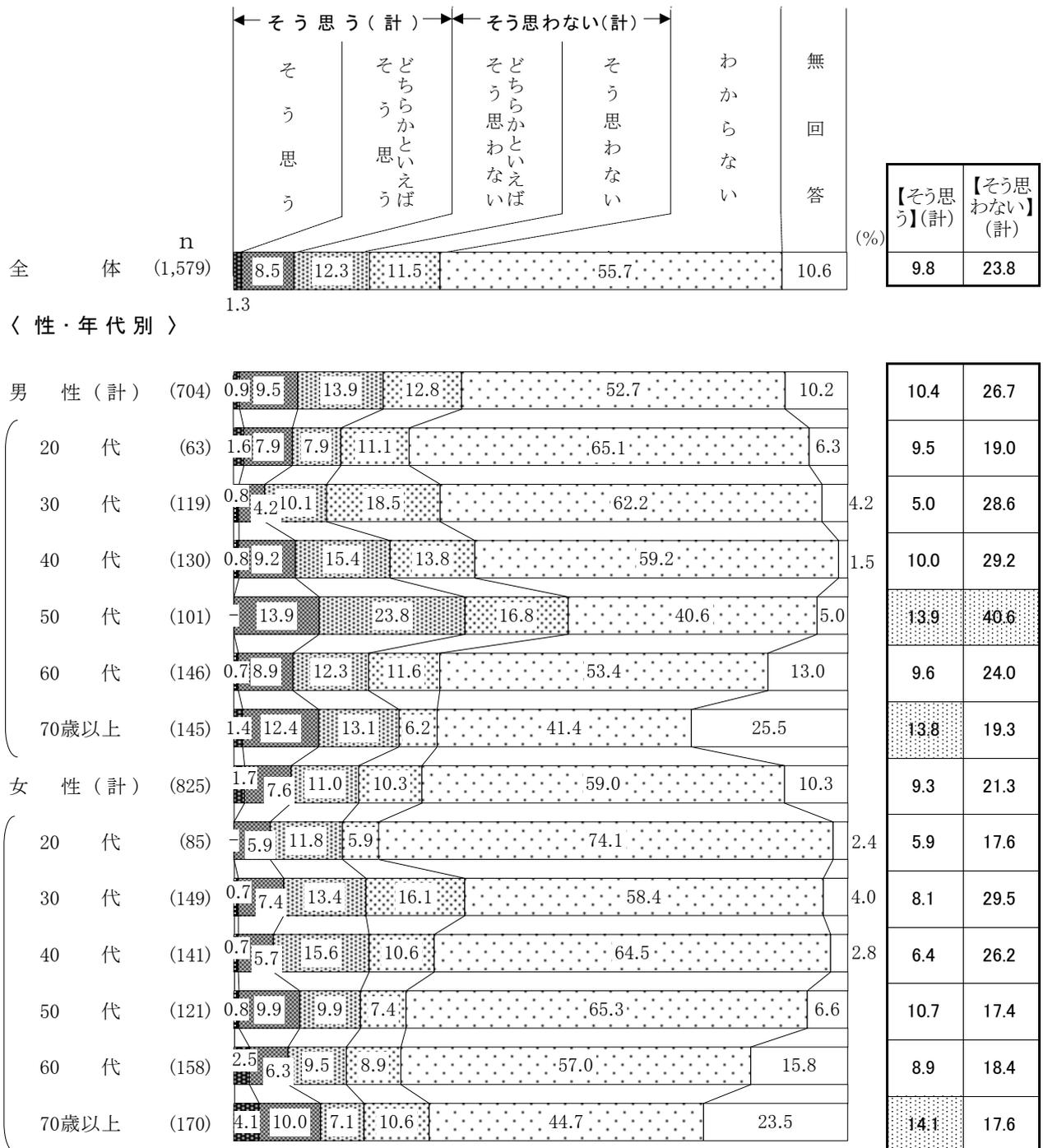
ブロック区分



「(カ)出した意見に対し、きちんと改善がなされている」を性・年代別でみると図10-2-17のとおりである。《そう思う》の割合は男性では50代で13.9%、70歳以上で13.8%と高く、女性では70歳以上の14.1%が最も高くなっている。一方、《そう思わない》は、全体的に女性より男性の方が割合が高く、男性50代では40.6%と4割を超えている。

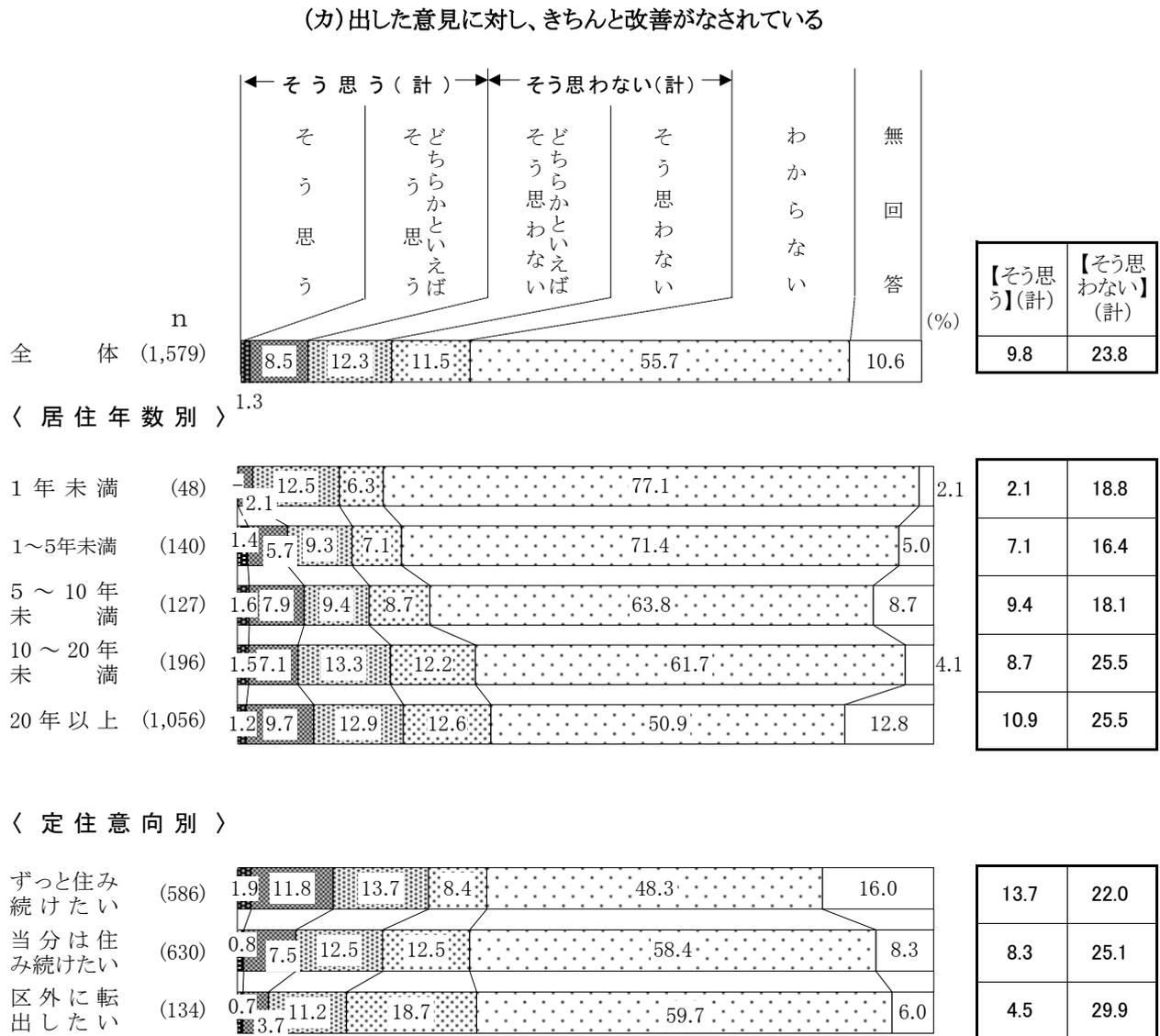
図 10-2-17 区政への区民の意見の反映について(性・年代別)

(カ)出した意見に対し、きちんと改善がなされている



「(カ)出した意見に対し、きちんと改善がなされている」を居住年数、定住意向別でみると図10-2-18のとおりである。居住年数別では大きな差はみられないが、居住年数が長くなるにつれ、《そう思う》、《そう思わない》の割合がともに増える傾向にある。また、定住意向別では、定住意向が強いほど《そう思う》の割合が高くなる傾向があり、「ずっと住み続けたい」では13.7%で最も高い。一方、「区外に転出したい」では《そう思わない》の割合が29.9%と約3割を示し、最も高い。

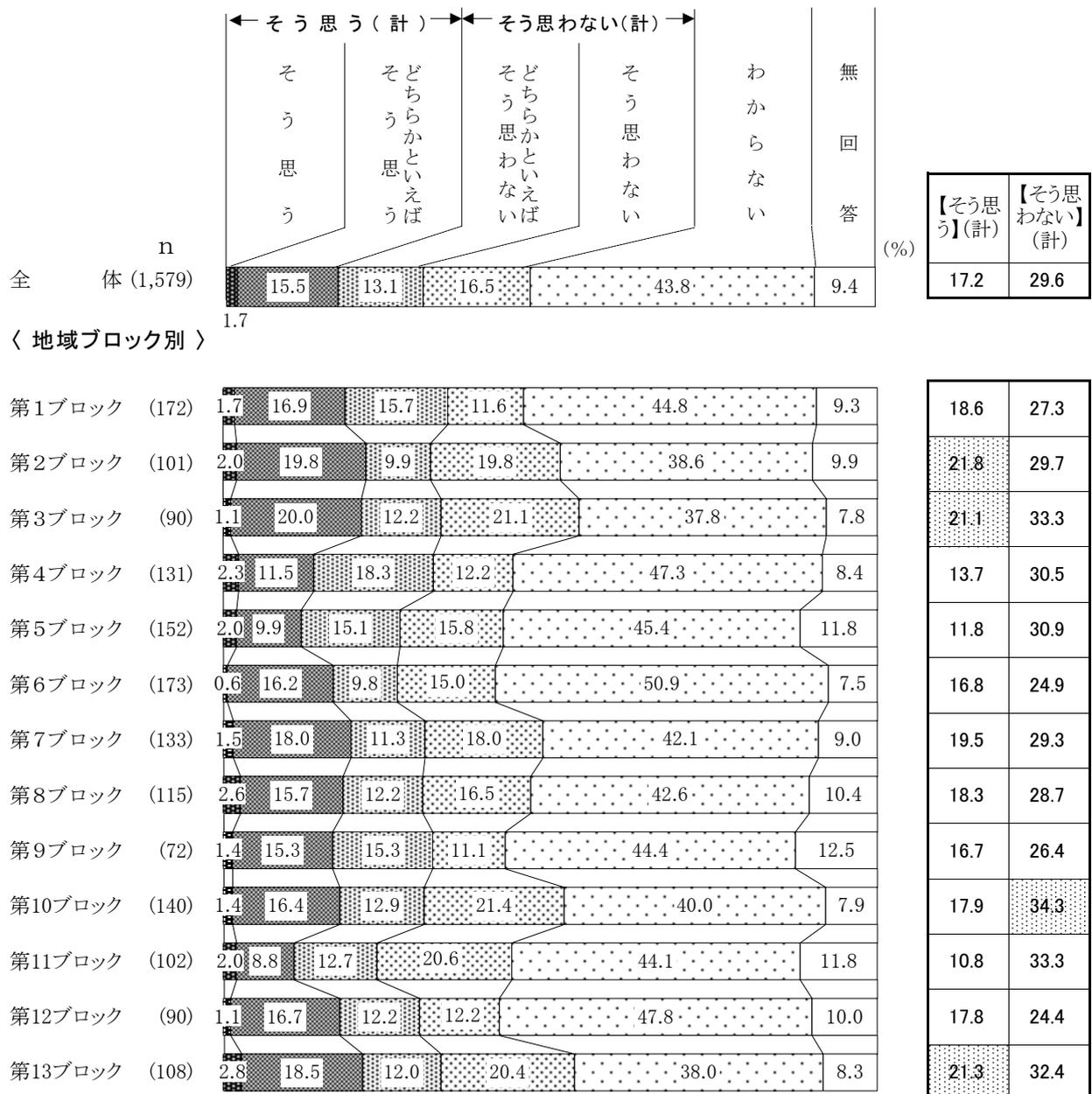
図 10-2-18 区政への区民の意見の反映について（居住年数、定住意向別）



「(キ) 区政に不満がなく、区民の意見を区がおおむね理解していると思う」を地域ブロック別でみると図10-2-19のとおりである。第2、第3、第13ブロックで《そう思う》が21%台と高くなっている一方で、第10ブロックでは《そう思わない》が34.3%と、最も高くなっている。

図 10-2-19 区政への区民の意見の反映について（地域ブロック別）

(キ) 区政に不満がなく、区民の意見を区がおおむね理解していると思う



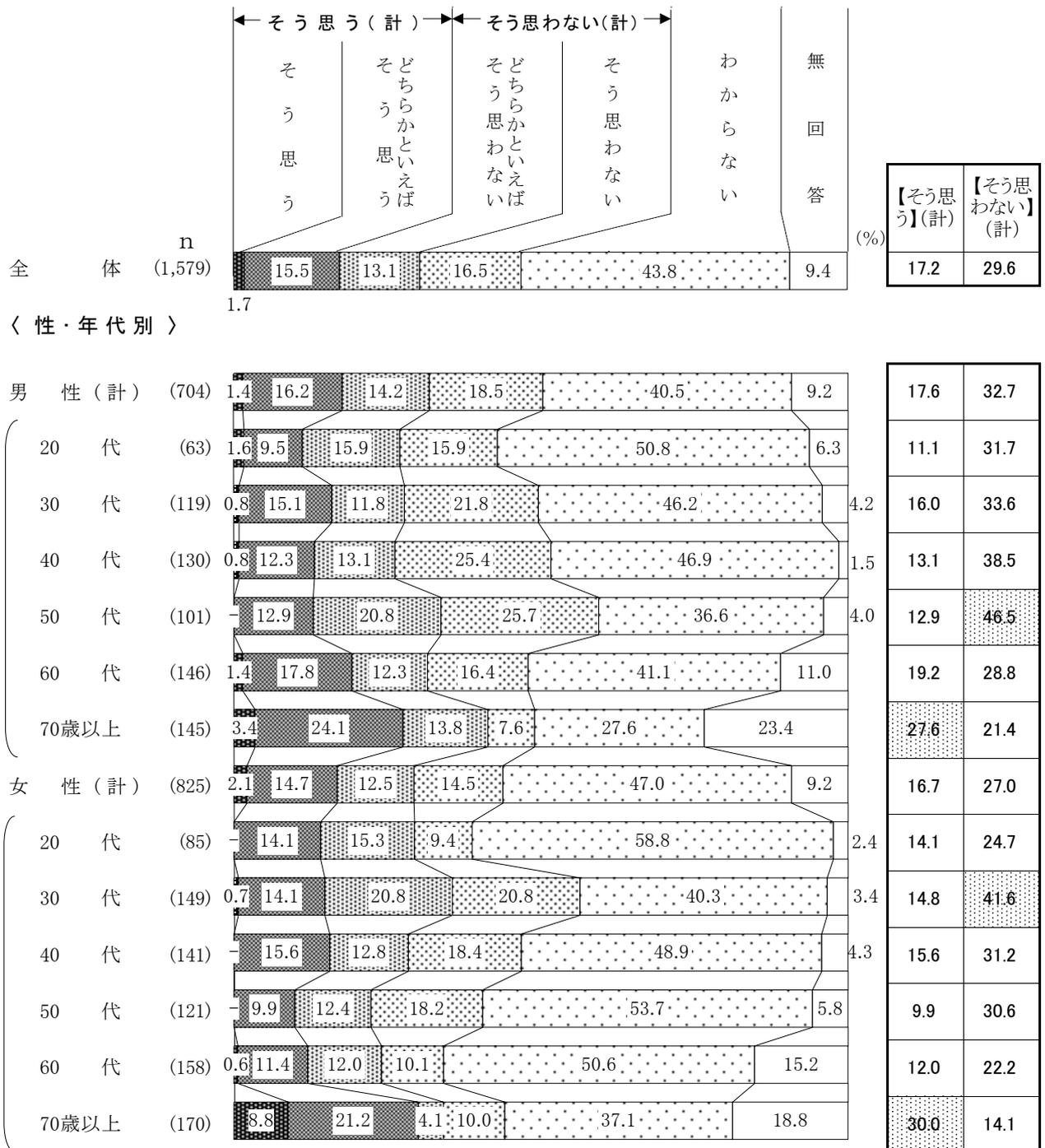
ブロック区分



「(キ)区政に不満がなく、区民の意見を区がおおむね理解していると思う」を性・年代別で見ると図10-2-20のとおりである。《そう思う》は男女とも70歳以上で最も高くなっている。一方、《そう思わない》においては、男性では50代の46.5%、女性では30代の41.6%がそれぞれ最も高くなっている。

図 10-2-20 区政への区民の意見の反映について(性・年代別)

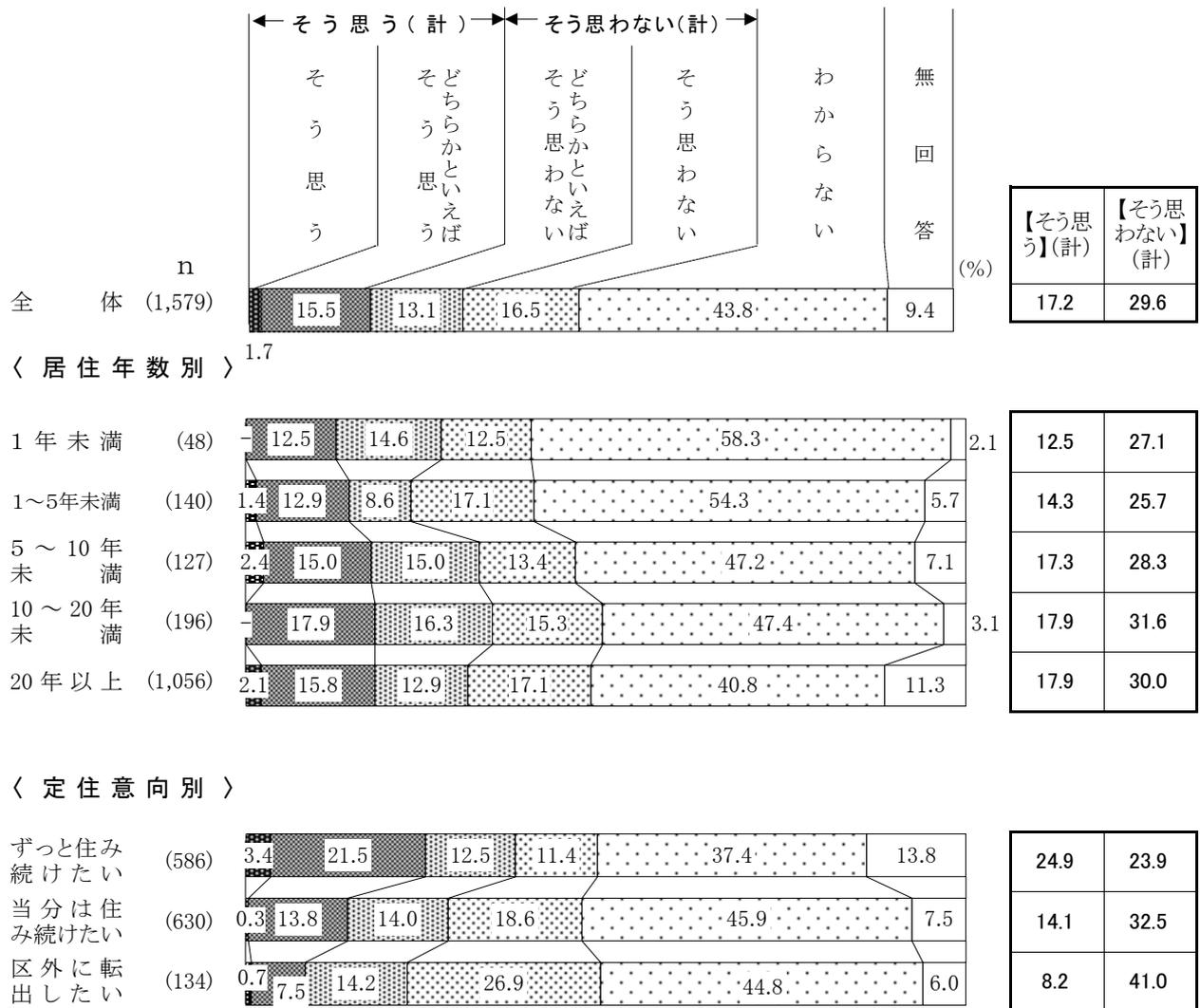
(キ)区政に不満がなく、区民の意見を区がおおむね理解していると思う



「(キ)区政に不満がなく、区民の意見を区がおおむね理解していると思う」を居住年数、定住意向別でみると図10-2-21のとおりである。居住年数別では、「《そう思う》」、「《そう思わない》」とも居住年数が長くなるにつれ、割合が増える傾向にある。「《そう思う》」では10年以上の居住年数で最も高い。「《そう思わない》」では「10～20年未満」で31.6%と最も高くなっている。また、定住意向別では、定住意向が強いほど「《そう思う》」の割合が高くなり、「ずっと住み続けたい」では24.9%で最も高い。一方、「区外に転出したい」では「《そう思わない》」の割合が41.0%と4割を超え、最も高い。

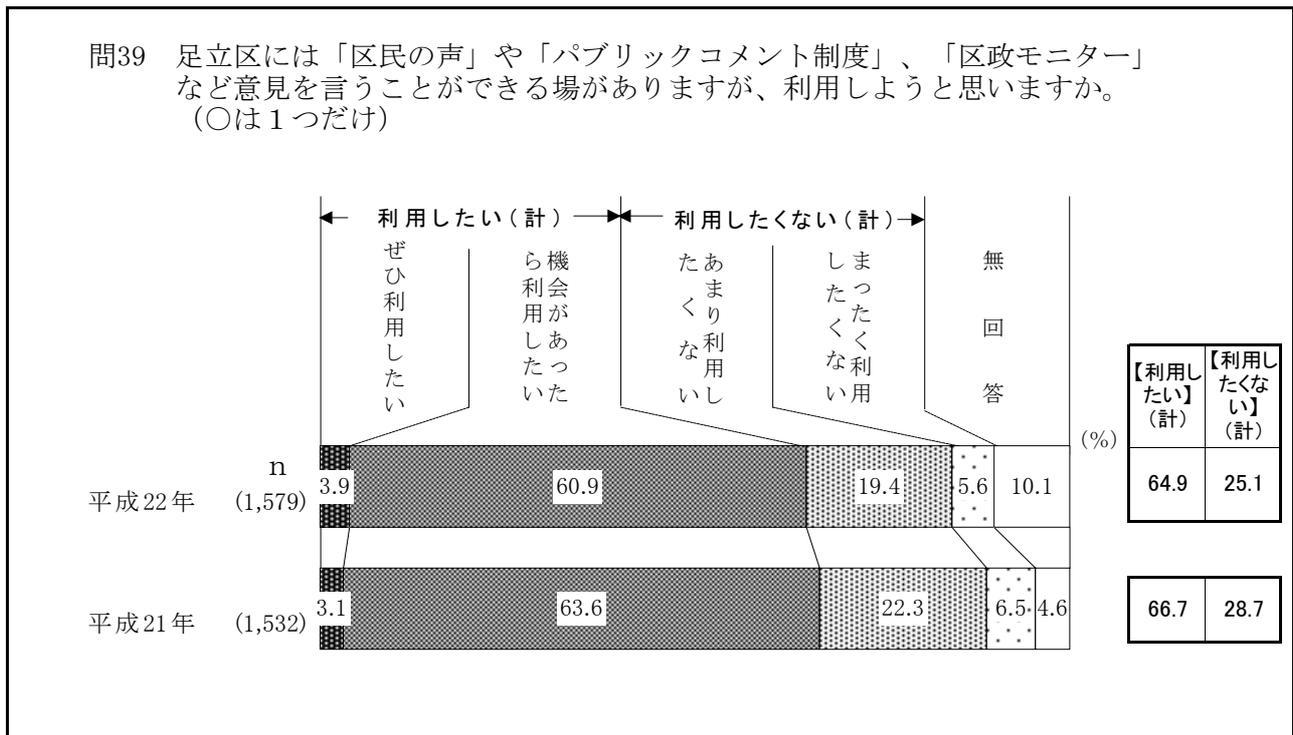
図 10-2-21 区政への区民の意見の反映について（居住年数、定住意向別）

(キ) 区政に不満がなく、区民の意見を区がおおむね理解していると思う



(3) 意見を言うことのできる場の利用意向

■ 約65%の区民が意見を言うことのできる場の利用意向がある



意見を言うことのできる場の利用意向では、「機会があったら利用したい」が60.9%で最も高く、「ぜひ利用したい」(3.9%)をあわせた《利用したい》は64.9%となっている。一方、「あまり利用したくない」と「まったく利用したくない」をあわせた《利用したくない》は25.1%となっている。

平成21年度調査と比較すると《利用したくない》は3.6ポイント下降している。

地域ブロック別で見ると図10-3-1のとおりである。

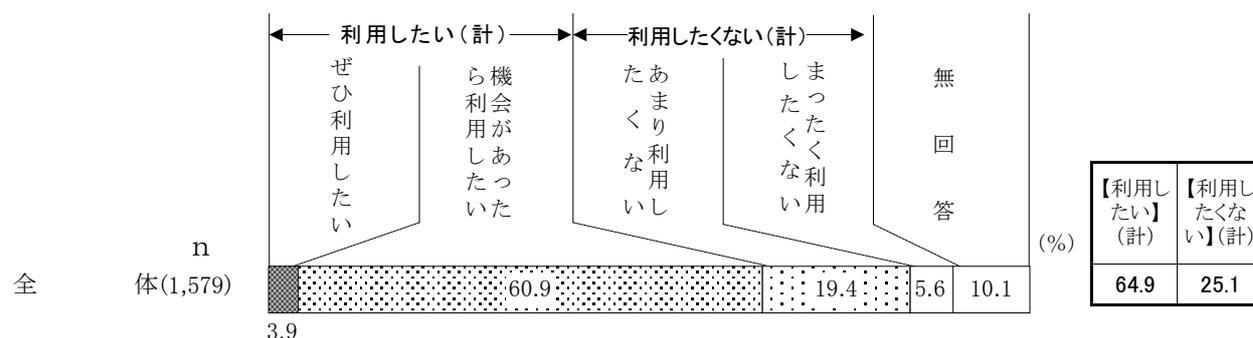
《利用したい》では第12ブロックにおいて70.0%と7割を超え、最も高くなっている。一方、第8ブロックでは《利用したくない》が33.9%と最も高くなっている。

性・年代別で見ると図10-3-2のとおりである。

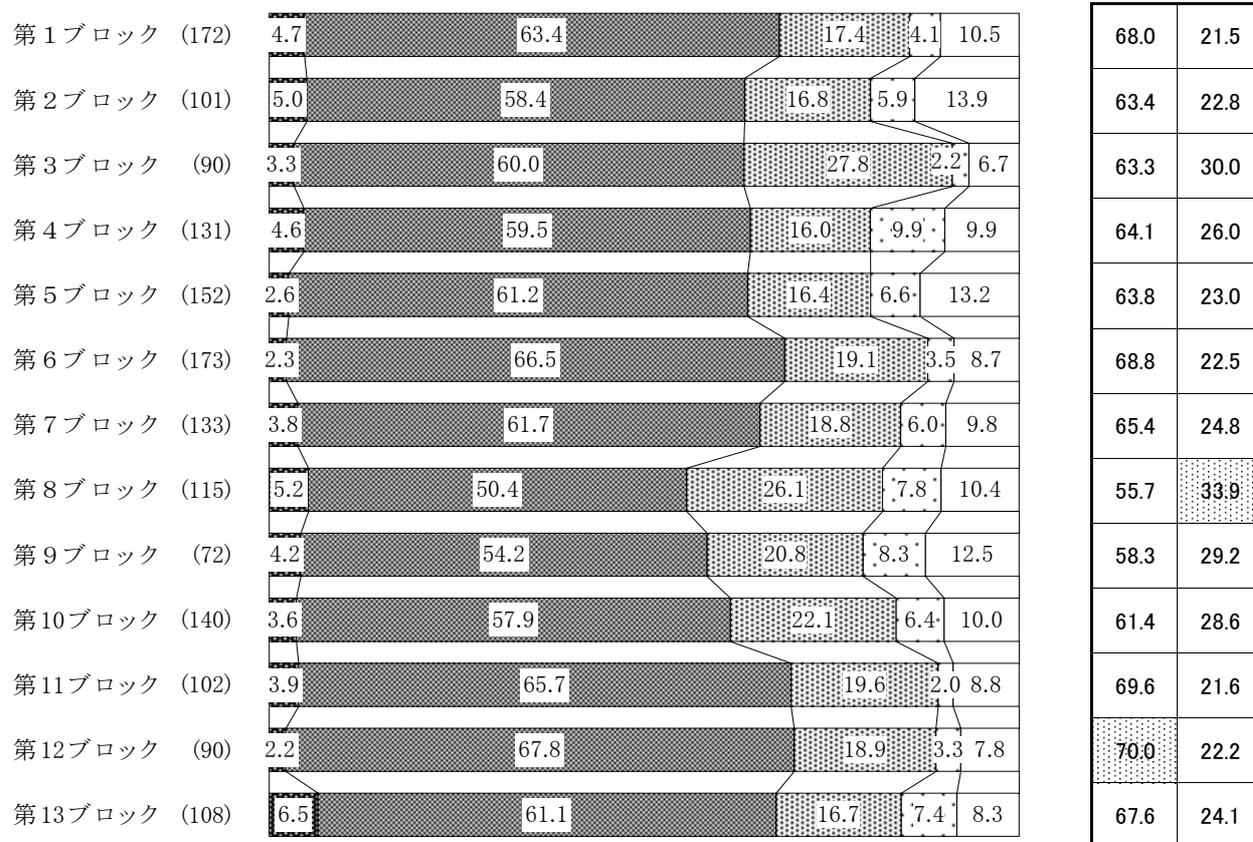
《利用したい》では、男性で40代の74.6%、女性で50代の71.9%がそれぞれ最も高く、男性30代、女性の30代、40代でも7割を超えており、中高年層での利用意向がやや高くなっている。一方、《利用したくない》は女性20代の32.9%が唯一3割を超え、全世代の中で最も高くなっている。

ライフステージ、居住年数、区政に区民の意見が反映されているかについての評価別で見ると図10-3-3のとおりである。ライフステージ別では「家族成長前期」で《利用したい》が77.9%と最も高く、「家族形成期」、「その他」でも7割を超えている。一方、《利用したくない》は「独身期」の32.0%が最も高くなっている。居住年数別で見ると、居住年数が短いほど《利用したい》割合は高くなる傾向があり、「1年未満」では81.3%を示し、最も高くなっている。区政に区民の意見が反映されているかについての評価別で見ると、区政に区民の意見が反映しているかについて「そう思う」では《利用したい》が76.9%で最も高い。また「そう思わない」では《利用したくない》が47.9%にのぼり、最も高い。区政に区民の意見が反映されていると思わない層では意見を言うことのできる場を利用しようとする意欲も薄いことがうかがえる。

図 10-3-1 意見を言うことのできる場の利用意向（地域ブロック別）



〈地域ブロック別〉



ブロック区分



図 10-3-2 意見を言うことのできる場の利用意向（性・年代別）

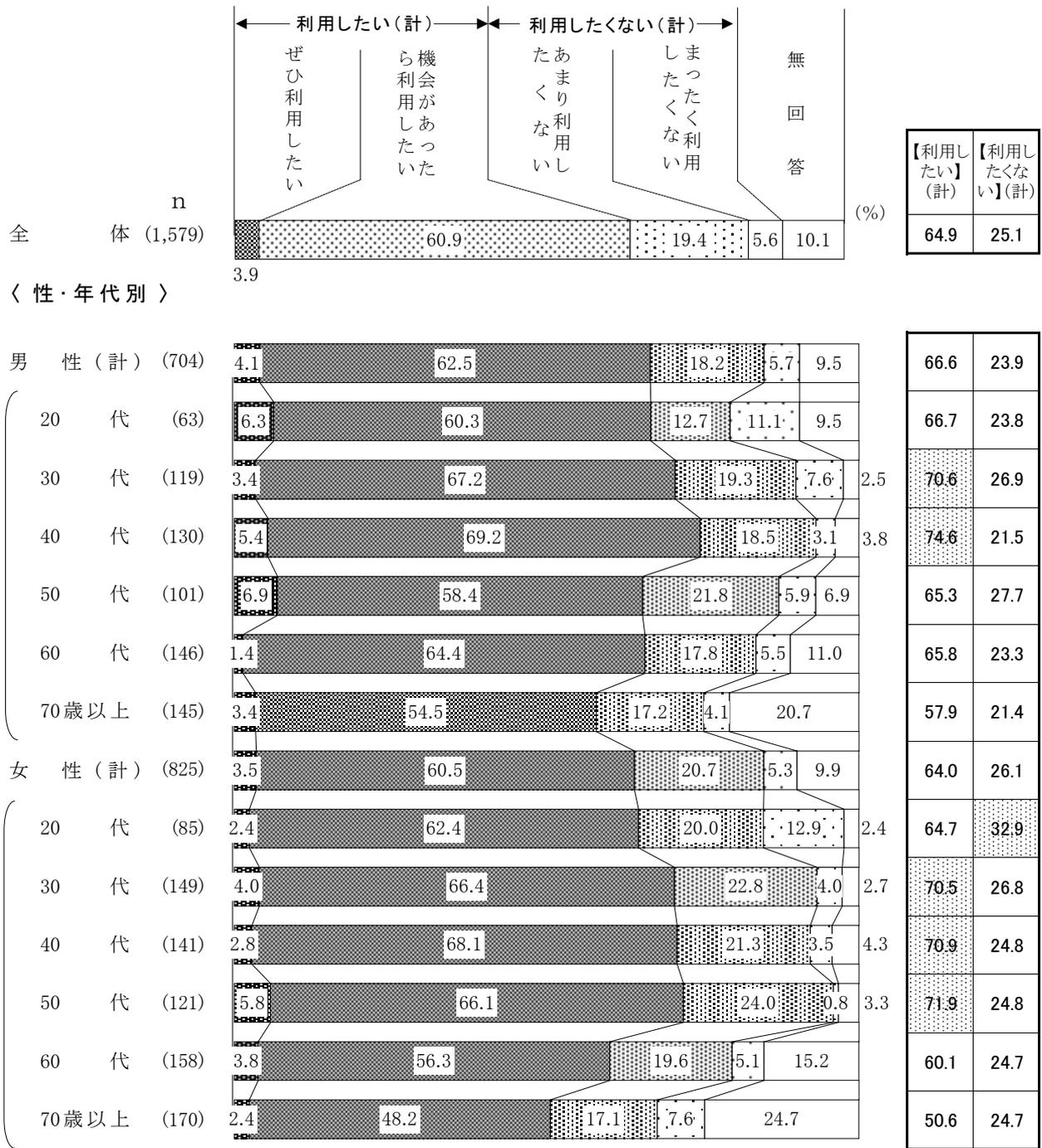
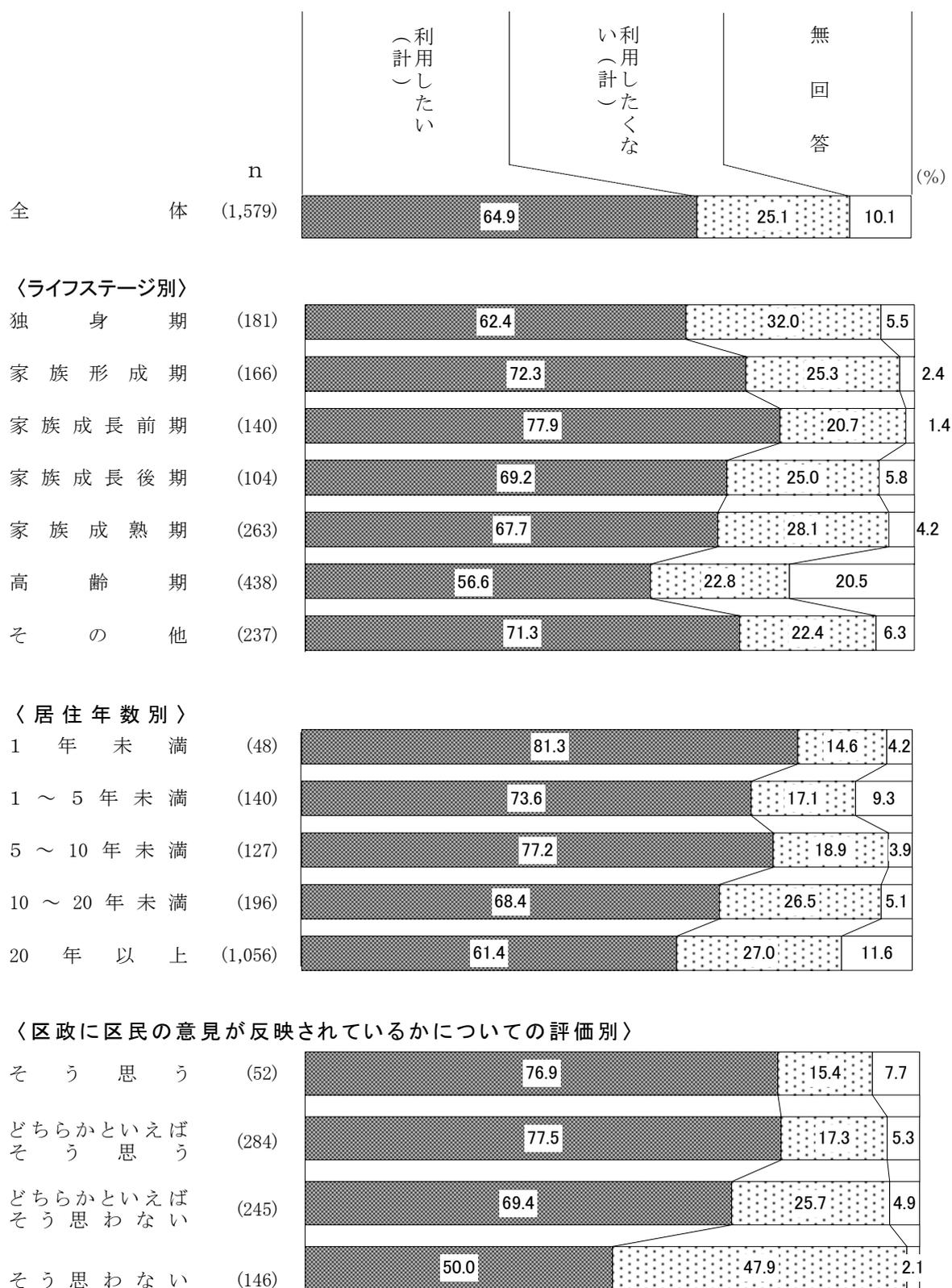
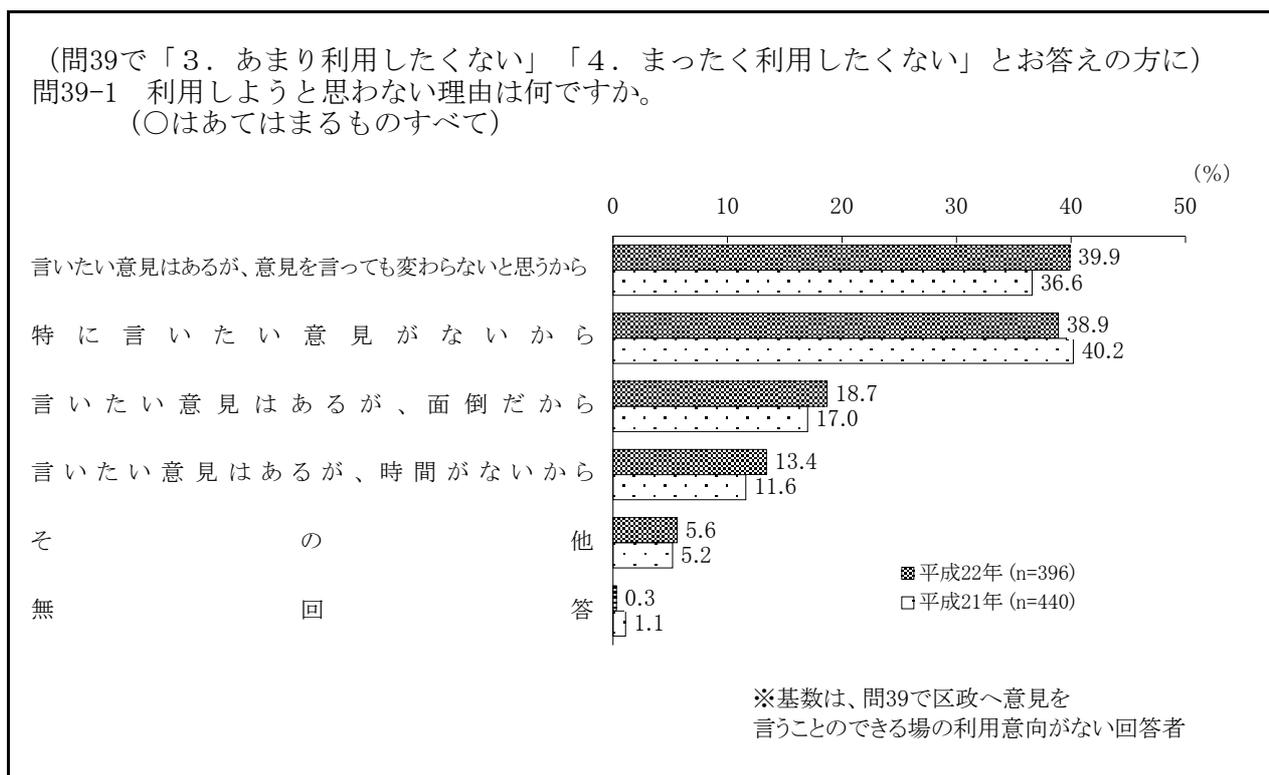


図 10-3-3 意見を言うことのできる場の利用意向
(ライフステージ別、居住年数別、区政に区民の意見が反映されているかについての評価別)



(4) 区政へ意見を言うことができる場を利用しようと思わない理由

■「言いたい意見はあるが、意見を言っても変わらないと思うから」が約4割で最も高い

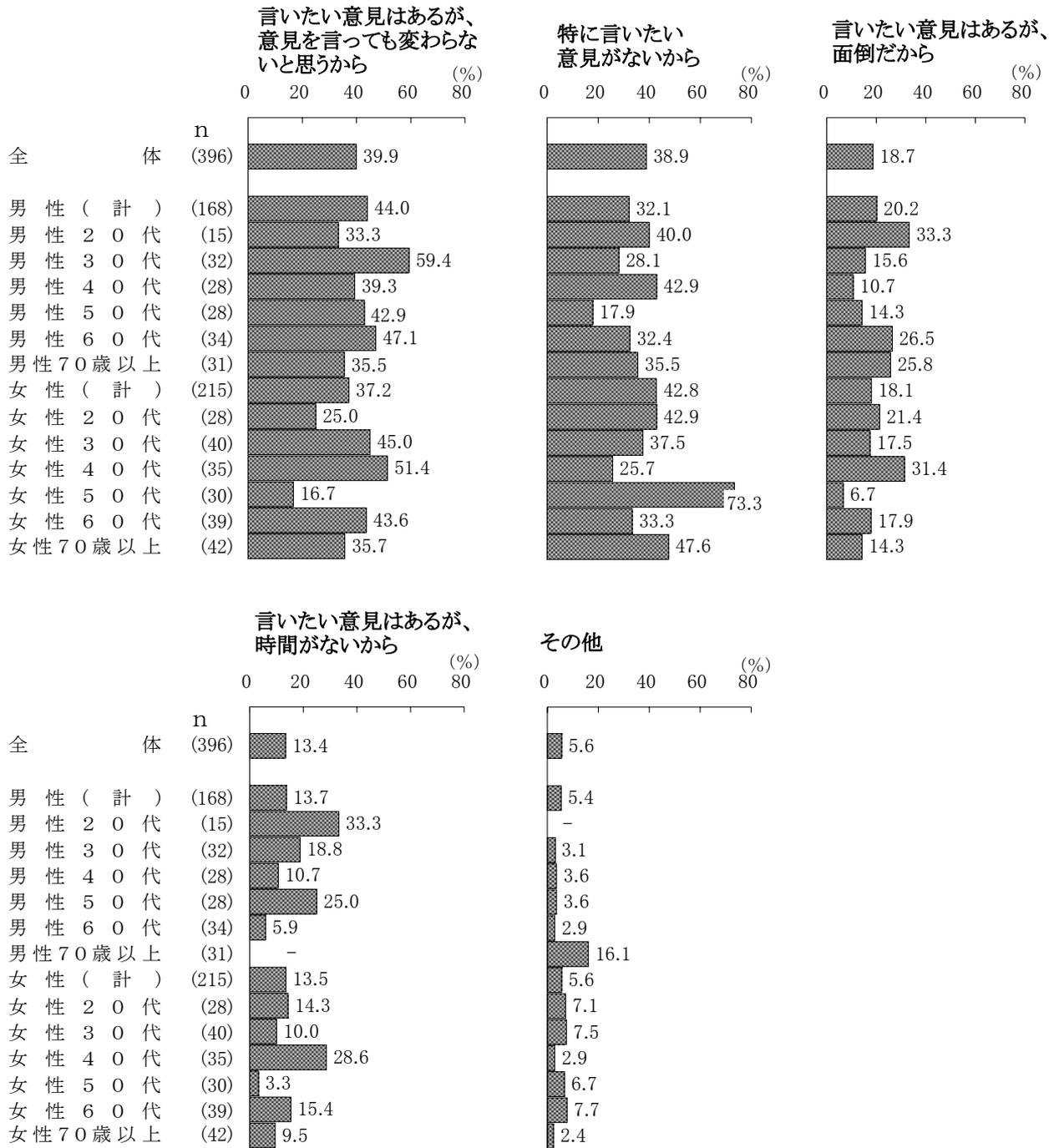


意見を言うことのできる場を利用しようと思わない理由では、「言いたい意見はあるが、意見を言っても変わらないと思うから」が39.9%で最も高く、次いで「特に言いたい意見がないから」が38.9%、「言いたい意見はあるが、面倒だから」が18.7%と続いている。平成21年度調査と比較すると、「言いたい意見はあるが、意見を言っても変わらないと思うから」は3.3ポイント上昇している。

性・年代別にみると、図10-4-1のとおりである。

「言いたい意見はあるが、意見を言っても変わらないと思うから」では、全体的に女性よりも男性の方が割合が高く、男性30代で59.4%と6割弱になり最も高く、女性では40代で51.4%と最も高くなっている。「特に言いたい意見がないから」では、全体的に男性よりも女性の方が割合が高く、女性50代で73.3%と突出して高い。

図 10-4-1 区政へ意見を言うことができる場を利用しようと思わない理由（性・年代別）



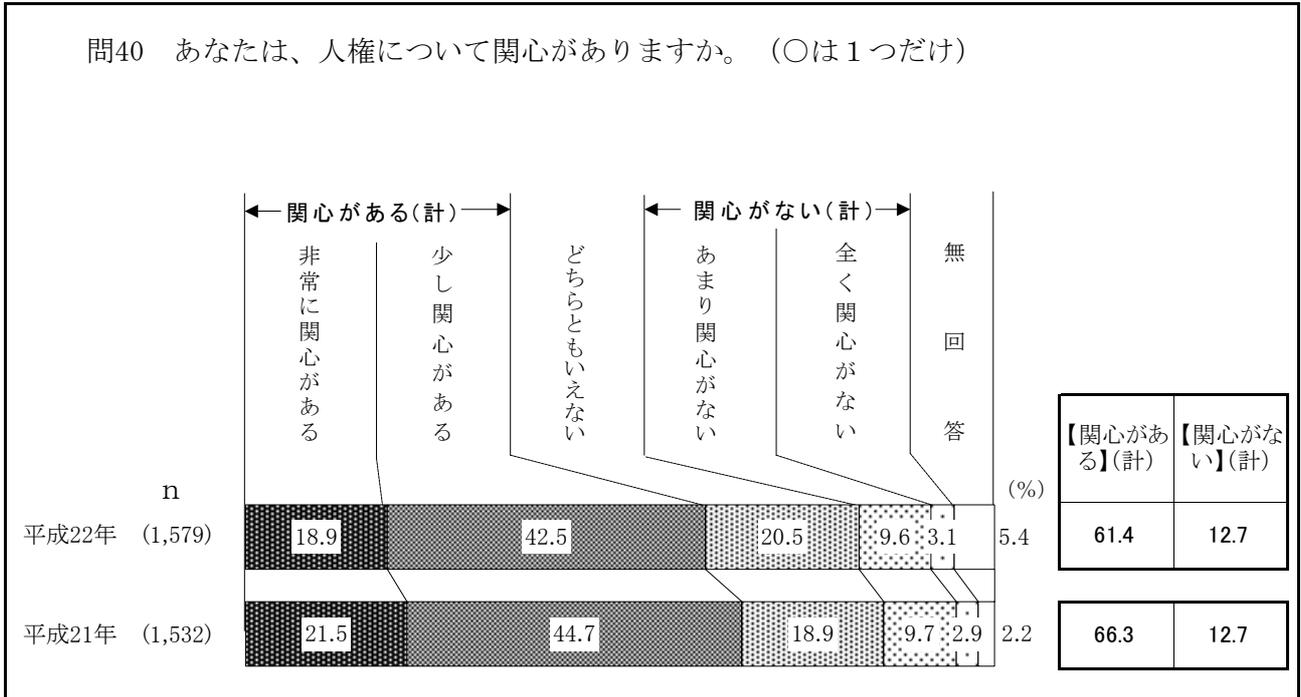
11 人 権

-
- (1) 人権についての関心
 - (2) 男女の地位の平等感/不平等を感じる場面
-

11 人権

(1) 人権についての関心

■ 約6割の区民が人権に関心を持っている



人権についての関心度は、「非常に興味がある」(18.9%)と、「少し興味がある」(42.5%)をあわせた《関心がある》は61.4%を示し、6割を超える区民が人権に関心を持っている。平成21年度調査と比較すると、《関心がある》は4.9ポイント下降している。

性・年代別でみると図11-1-1のとおりである。

《関心がある》は、全体的に女性よりも男性の方が割合が高く、男女とも40代で最も高くなっており、男性40代では7割を超えている。一方、《関心がない》は男性30代、女性70歳以上で最も高い。

職業、ライフステージ別でみると図11-1-2のとおりである。

職業別では、「勤め人(計)」で《関心がある》が65.5%で最も高くなっている。ライフステージ別では、「家族成長前期」で67.9%と最も高く、次いで「家族成長後期」で66.3%、「その他」が66.2%となっている。

一方、《関心がない》は「独身期」の16.0%が最も高い。

図 11-1-1 人権についての関心（性・年代別）

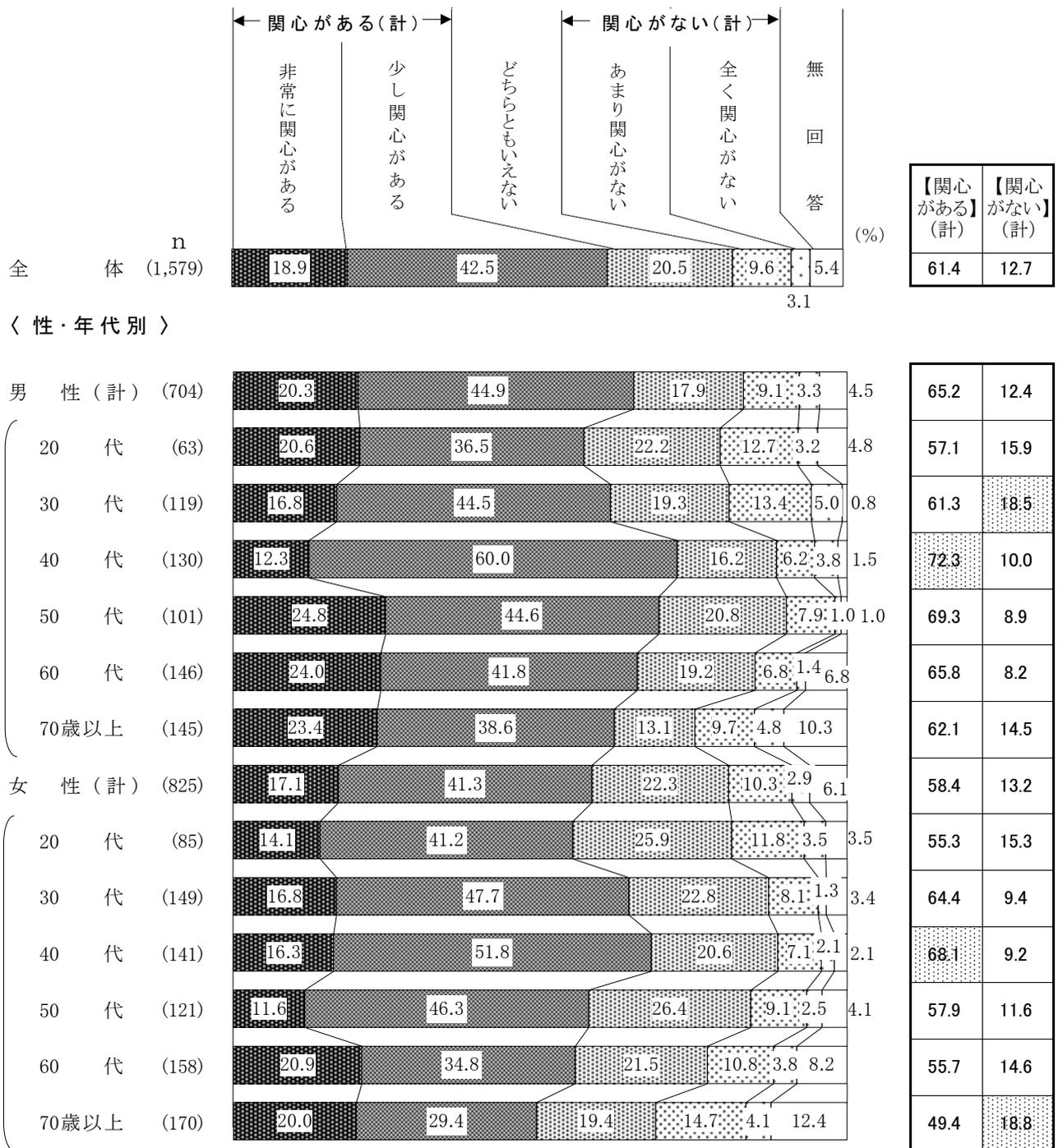
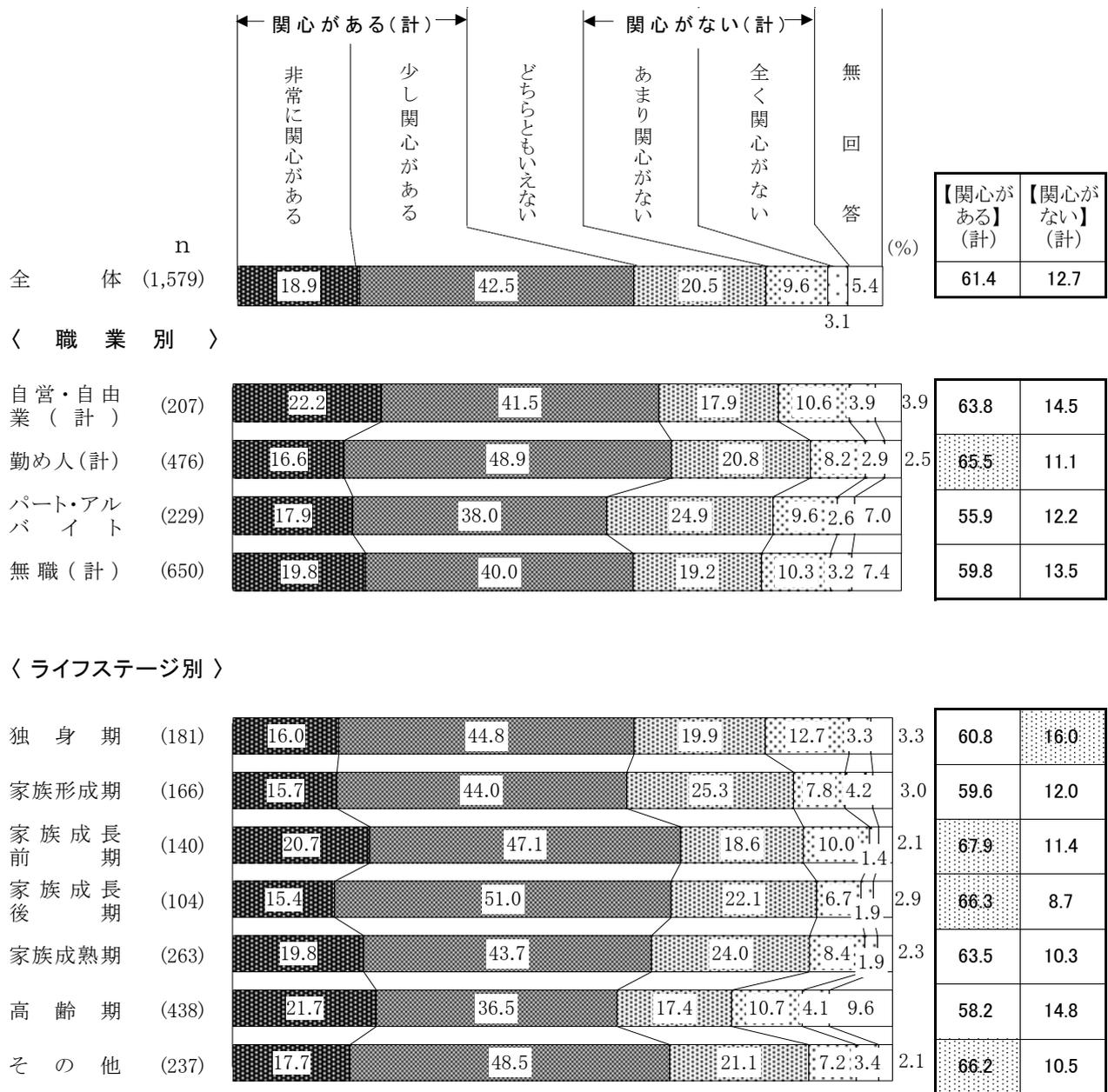


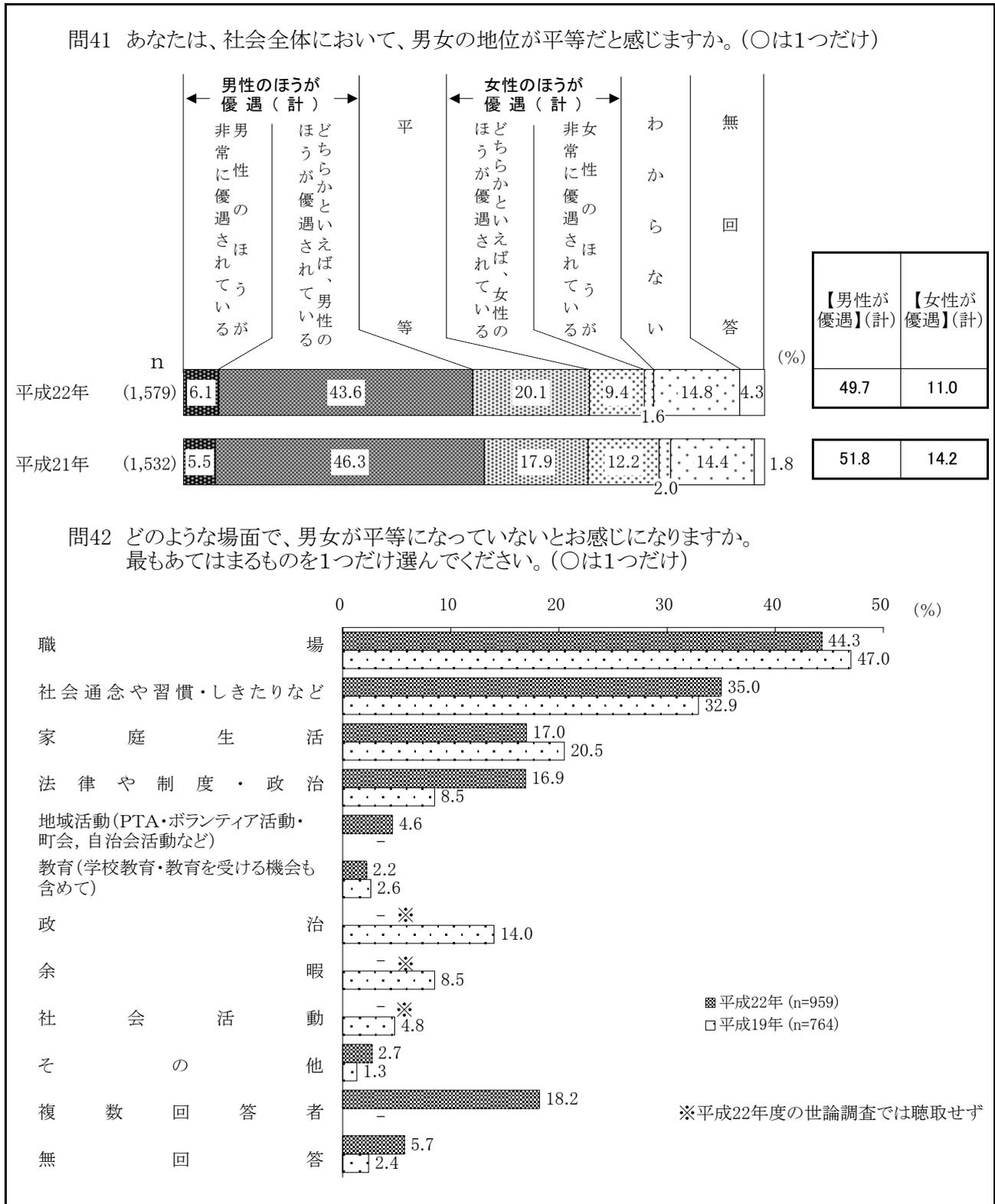
図 11-1-2 人権についての関心（職業、ライフステージ別）



(2) 男女の地位の平等感/不平等を感じる場面

■「男性のほうが優遇」が5割弱を占める

優遇されていると感じる場面で最も多いのは「職場」

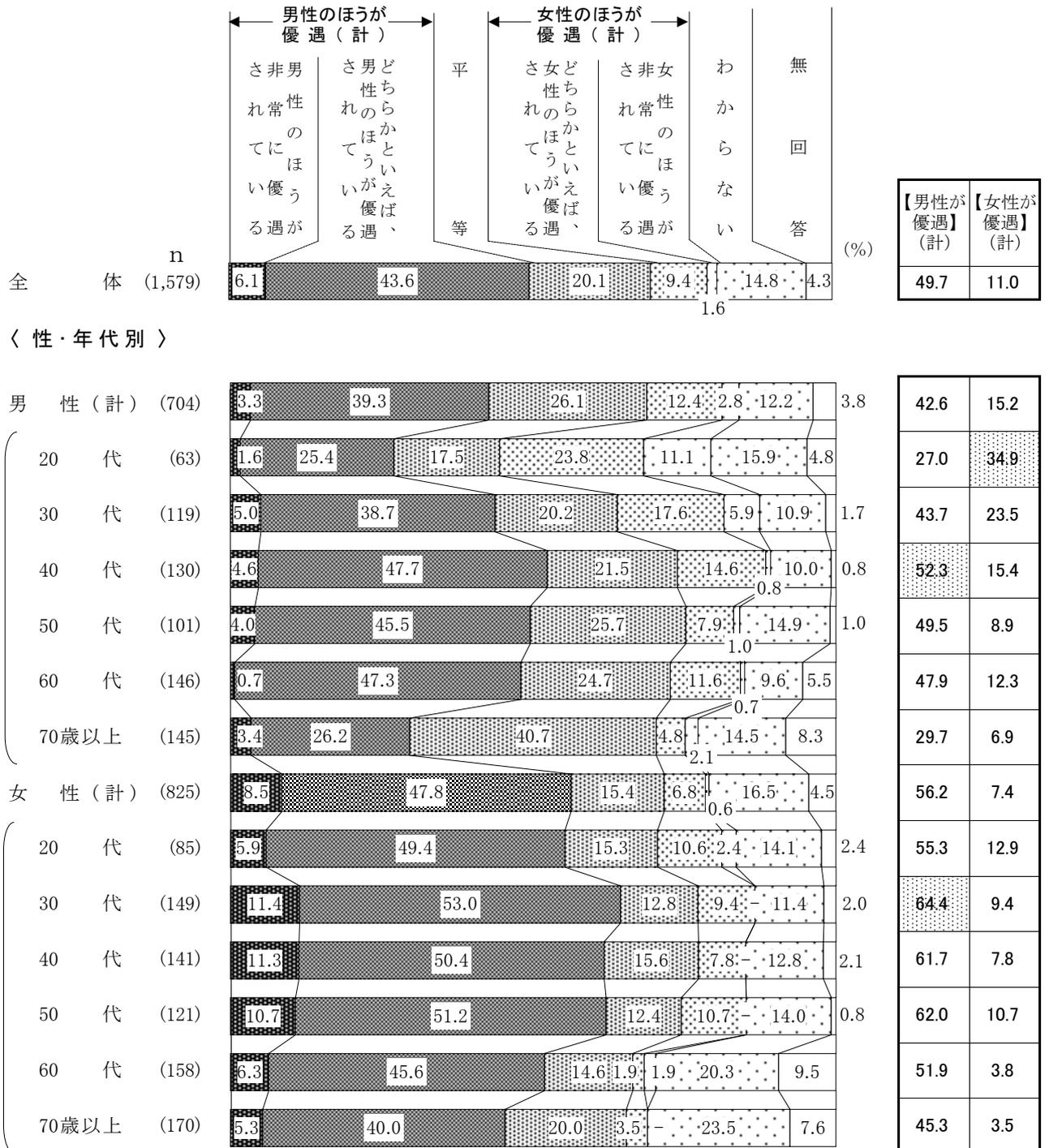


男女の地位の平等感に関しては、《男性のほうが優遇》が49.7%を占める一方で、《女性のほうが優遇》は11.0%にとどまった。また、「平等」は20.1%となっている。また、どちらかが優遇されていると答えた人に優遇されている場面について聞くと、「職場」が44.3%と最も高くなっており、次いで「社会通念や習慣・しきたりなど」が35.0%となっている。

性・年代別でみると図11-2-1のとおりである。

《男性のほうが優遇》では、すべての年代で男性よりも女性の方が割合が高く、女性では30代で64.4%と6割を超え、最も高くなっている。男性では40代の52.3%が最も高い。《女性のほうが優遇》では、全体的に女性よりも男性の方が割合が高く、男性20代では34.9%と最も高く、この層では《男性のほうが優遇》よりも高くなっている。

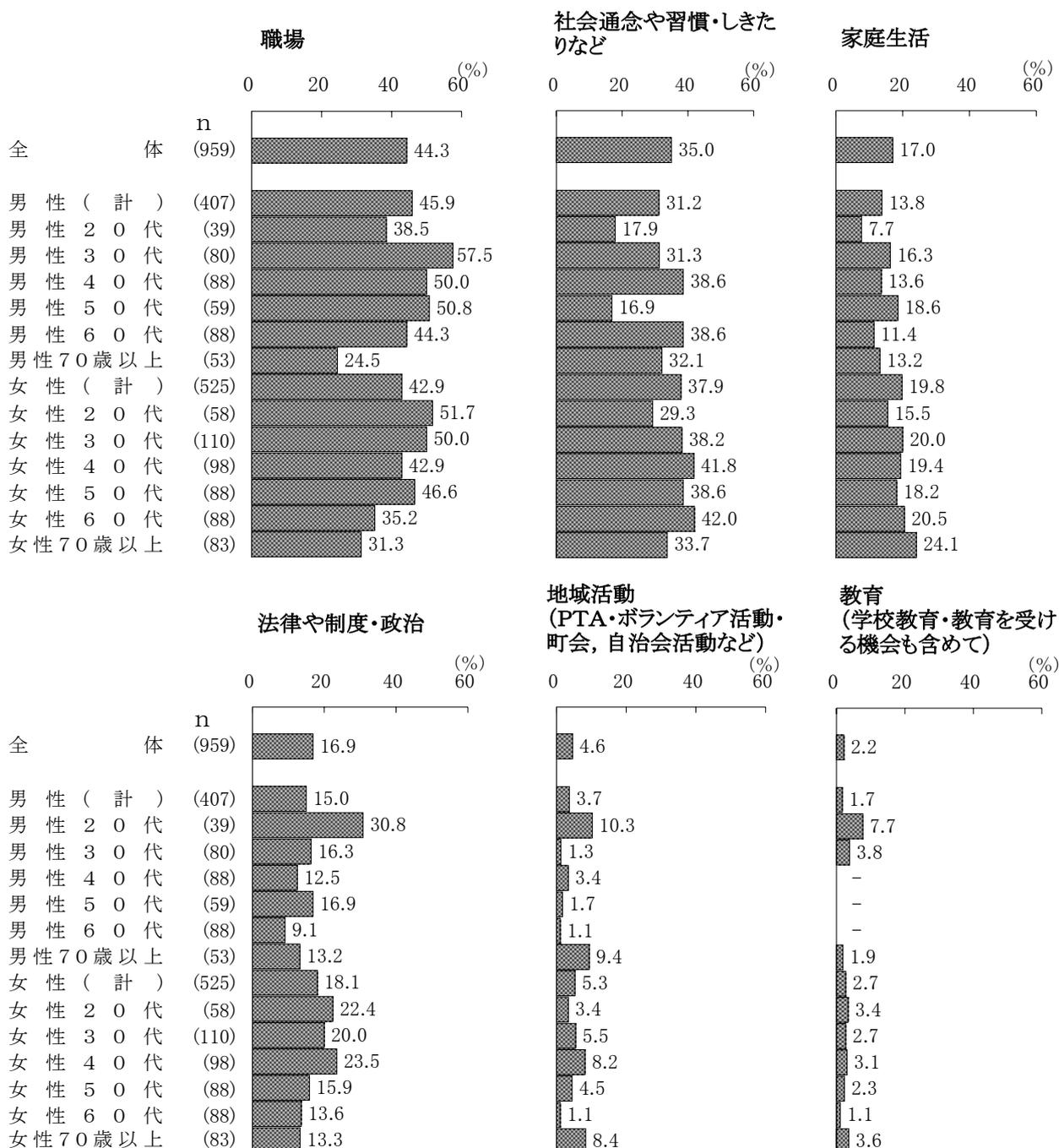
図 11-2-1 男女の地位の平等感（性・年代別）



男女の地位の不平等を感じる場面の上位6項目を性・年代別にみると、図11-2-2のとおりである。

「職場」では、全体的に女性より男性の方が割合が高くなる傾向があり、男性では30代、女性では20代が最も高く、男性30代では57.5%と6割弱にのぼる。「社会通念や習慣・しきたりなど」では、男性では40代、60代、女性では40代、60代が高く、女性の40代、60代では4割を超えている。また、「法律や制度・政治」では、全体的に男性より女性の方が割合が高いが、男性20代で30.8%と唯一3割を超え、やや突出している。

図 11-2-2 男女の地位の不平等を感じる場面【上位6位】(性・年代別)



IV 使用した調査票

第39回 足立区政に関する世論調査

～調査ご協力のお願い～

この調査は、区民の皆様のご意見や日頃感じていらっしゃることをお聞きし、今後の区政に役立てるため毎年実施しております。

調査にあたりまして、区内にお住まいの20歳以上の方々の中から無作為に3,000名を選ばせていただきました。

お聞かせいただいたご意見は、統計的にとりまとめます。そのためお名前や個別のご意見の内容などがそのまま公表されることは決してありませんので、ご安心ください。

また、このページの右上の「ブロックNo.」は、区内を13の地域に分けて分析する際の区別のため用いるもので、これによってお名前や住所が判明するということはありません。

なお、この調査のことは区のお知らせ『あだち広報8月25日号』に掲載されますので、ご覧ください。

ご多用のところ、誠に恐縮ではございますが、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成22年9月

足立区

ご記入にあたってのお願い

1. この調査の回答は、あて名のご本人がご記入くださるようお願いいたします。
2. ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
3. 回答は最初から1問ずつ、最後までお答えください。ただし、質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、()内等の指示・ことわり書きをよくお読みください。
4. お答えは、あてはまる番号に 印をつけてください。
5. 質問によって、 をつける数を「1つだけ」「あてはまるものすべて」などと指定しておりますので、その範囲内でお答えくださるようお願いいたします。
6. 「その他」にあてはまる場合は、()内にできるだけ具体的にその内容を記入してください。

ご記入が終わりましたら...

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、9月30日(木)までにご投函ください(切手を貼る必要はありません)。

なお、調査の内容、考え方、記入のしかたなどについて、わからないことがございましたら、下記までご連絡ください。

[調査主体] 足立区政策経営部広報室長付区民の声相談課
担 当：相談係
足立区中央本町1-17-1

[お問合せ先] お問い合わせコール あだち
3880-0039
(受付時間:午前8時～午後7時/年中無休)

[調査受託機関] 株式会社総合企画

この調査票は、無記名式となっています。お名前をご記入いただく必要はありません。

返信用封筒にも、ご住所・お名前をご記入いただく必要はありません。

調査結果は、統計的に処理します。お答えいただいた個人のお考えが公表されることはありませんので、ありのままをお答えください。

これからお聞きすることは、お答えいただく内容を統計的に分類するための質問です

F 1 あなたの性別は次のどちらですか。(は1つだけ)

1. 男性	44.6%	2. 女性	52.2%	無回答	3.2%
-------	-------	-------	-------	-----	------

F 2 あなたは何歳ですか。(は1つだけ)

1. 20～24歳	3.3%	5. 40～44歳	8.4%	9. 60～64歳	10.6%
2. 25～29歳	6.1%	6. 45～49歳	8.9%	10. 65～69歳	9.2%
3. 30～34歳	7.2%	7. 50～54歳	6.3%	11. 70～79歳	16.3%
4. 35～39歳	10.2%	8. 55～59歳	8.3%	12. 80歳以上	4.7%
				無回答	0.4%

F 3 あなたは足立区に住んで何年になりますか。(は1つだけ)

1. 1年未満	3.0%	3. 5～10年未満	8.0%	5. 20年以上	66.9%
2. 1～5年未満	8.9%	4. 10～20年未満	12.4%	無回答	0.8%

F 4 あなたのお住まい(住居)は次のどれにあたりますか。(は1つだけ)

1. 一戸建て持家	43.4%	5. 公団・公社・都営住宅・区営住宅	14.7%
2. 一戸建て借家	2.2%	6. 社宅・公務員住宅・寮	1.3%
3. 分譲マンション	18.6%	7. 間借り・住み込み	0.3%
4. 賃貸マンション・アパート	18.2%	8. その他()	0.8%
		無回答	0.6%

F 5 あなたの職業は次のどれにあたりますか。(は1つだけ)

1. 自営業・事業主	12.5%
2. 自由業(開業医、弁護士、作家、芸術家など)	0.6%
3. 事務職(一般事務職、オペレーターなど)	8.6%
4. 専門・技術職(勤務医師、研究者、技術者、裁判官など)	7.0%
5. 労務・サービス職(販売員、工場などの生産工程従業者、運転手など)	10.6%
6. 役員・管理職	3.9%
7. パート・アルバイト	14.5%
8. 主婦専業	18.3%
9. 学生	1.1%
10. 無職	18.4%
11. その他()	3.4%
無回答	1.1%

F 6 あなたの就労場所(就学場所)は次のどれにあたりますか。(は1つだけ)

1. 自宅	12.3%	4. 23区以外の東京、神奈川、千葉、埼玉	11.3%
2. 足立区内	31.8%	5. その他()	2.9%
3. 足立区外の東京22区	41.3%	無回答	0.4%

F 7 現在、一緒に暮らしているご家族は、あなたを含めて何人ですか。(は1つだけ)

1. 1人(一人暮らし)	14.1%	3. 3人	24.6%	5. 5人	6.8%
2. 2人	30.7%	4. 4人	19.4%	6. 6人以上	3.9%
				無回答	0.5%

F 8 あなたご自身は、この中のどれにあたりますか。「子ども」は同居・別居を問いません
(は1つだけ)

1. 独身	23.2%
2. 子どものいない夫婦	12.0%
3. 子どもがいる(一番上の子どもが小学校入学前)	7.1%
4. 子どもがいる(一番上の子どもが小・中学生)	8.9%
5. 子どもがいる(一番上の子どもが高校・大学生)	6.8%
6. 子どもがいる(一番上の子どもが学校卒業)	30.6%
7. その他()	8.2%
無回答	3.1%

次のページからも引き続きお答えください

お住まいの地域について、おうかがいいたします

問1 あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じる点は何ですか。

(はあてはまるものすべて)

1. 公園や緑が多い	44.0%	7. 体育施設(体育館やプールなど)が 利用しやすい	10.1%
2. 近所の人間関係がよい	23.6%	8. 通勤や通学などの交通の便がよい	35.0%
3. 文化施設(図書館やホールなど) が利用しやすい	19.8%	9. 医者や病院の便がよい	26.9%
4. 子育てや教育の環境が整っている	6.0%	10. 治安がよい	11.1%
5. 普段の買い物が便利	55.2%	11. その他()	2.1%
6. 物価が安い	26.9%	12. 特にな 無回答	8.9% 1.1%

問2 あなたのお住まいの地域について、暮らしにくいと感じる点は何ですか。

(はあてはまるものすべて)

1. 公園や緑が少ない	8.3%	7. 体育施設(体育館やプールなど)が 利用しにくい	22.1%
2. 近所の人間関係がわるい	7.3%	8. 通勤や通学などの交通の便がわるい	16.3%
3. 文化施設(図書館やホールなど) が利用しにくい	18.2%	9. 医者や病院の便がわるい	14.9%
4. 子育てや教育の環境が整っていない	7.1%	10. 治安がわるい	26.0%
5. 普段の買い物が不便	12.4%	11. その他()	5.8%
6. 物価が高い	5.1%	12. 特にな 無回答	20.6% 8.4%

(問2で「3.文化施設(図書館やホール
など)が利用しにくい」とお答えの方に)

問2-1 それでは、区の図書館について、
使いにくいと感じる理由は何ですか。
(はあてはまるものすべて)

1. 図書館のある場所が遠い	60.6%
2. 読みたい本がない	27.2%
3. 閲覧席が少なく、落ち着いて本 が読めない	21.6%
4. 子どもを連れて行きにくい (声を出すと注意されそう)	8.0%
5. 予約した本を受け取るのに日数 がかかる	5.6%
6. 図書館以外に予約した本を受け 取れる場所が少ない	5.2%
7. 図書館以外に本を返却できる場 所が少ない	12.5%
8. 閉館時間が早い	9.8%
9. 休館日が多い	3.5%
10. 職員の接客態度がよくない	6.6%
11. その他()	10.8%
無回答	0.0%

(問2で「7.体育施設(体育館やプー
ルなど)が利用しにくい」とお答えの方に)

問2-2 それでは、区の体育施設(体育館や
プールなど)について、使いにくい
と感じる理由は何ですか。
(はあてはまるものすべて)

1. 体育施設のある場所が遠い	69.6%
2. 施設が古く、快適でない	7.2%
3. 利用したい設備・器具がない	12.9%
4. 早朝・夜間など希望する利用 時間帯が合わない	9.5%
5. 個人で利用できない施設がある	6.0%
6. 利用手続・料金支払方法などに 手間がかかる	5.4%
7. 利用料金が低い	7.4%
8. スポーツ教室やイベントなど参 加したい事業が少ない	20.6%
9. どんな施設・事業があるのかわ からない	29.5%
10. その他()	6.9%
無回答	0.6%

(全員の方向へ)

問3 それでは、以上のことを踏まえてお聞きします。あなたは、あなたのお住まいの地域について、暮らしやすいと感じますか。(は1つだけ)

1. 暮らしやすい	23.9%	3. どちらかといえば暮らしにくい	11.0%
2. どちらかといえば暮らしやすい	61.7%	4. 暮らしにくい	2.1%
		無回答	1.3%

問4 あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか。(は1つだけ)

1. ずっと住み続けたい	37.1%	3. 区外に転出したい	8.5%
2. 当分は住み続けたい	39.9%	4. わからない	13.9%
		無回答	0.6%

(問4で「3. 区外に転出したい」とお答えの方に)

問4 - 1 区外に転出したいと思う理由は何ですか。(はあてはまるものすべて)

1. 持ち家でないから	23.9%	5. 交通の便が悪いから	36.6%
2. 家が手狭など居住環境が悪いから	20.9%	6. 治安が悪いから	38.1%
3. 保育施設など子育て環境が不十分だから	7.5%	7. 区のイメージがよくないから	45.5%
4. 小中学校教育の水準が不十分だから	22.4%	8. その他()	20.1%
		無回答	0.7%

足立区のイメージについておうかがいします

問5 次にあげるモノや事柄のうち、あなたにとって足立区に対する愛着や誇りにつながっているものは、何ですか。(は3つまで)

1. 足立区の象徴となるモニュメントなどのアート作品	0.3%
2. 足立区が明るい話題で報道番組・新聞・雑誌などに取り上げられること	10.8%
3. 区役所が区民向けにおこなっているイベントや説明会	5.1%
4. 足立区のロゴマークやキャッチフレーズ	0.8%
5. 区役所が作っている区の活動についての広報紙やホームページの情報	11.8%
6. 足立区や区でもっているキャラクター(ビュー坊やミリー・ドリー・リリーなど)	1.3%
7. 博物館やホールなどの文化施設	4.4%
8. 神社やお寺などの歴史的建造物	14.2%
9. 区民が作っているタウン情報誌やポスターなどの情報	4.3%
10. 足立の特産物や名産物	2.2%
11. 足立にある繁盛している飲食店	7.3%
12. 近隣やコミュニティなど人のつながり	10.1%
13. 定期的開催されるお祭りやイベント	13.9%
14. 川や森などの自然環境	13.6%
15. 町なみなどの風景	7.2%
16. 公園、地域学習センターなどの公共施設	16.9%
17. 足立区出身の著名人・タレント	7.7%
18. 映画やドラマに区内の場所が使われること	6.0%
19. 大学があること	3.5%
20. 様々なコンサートなどが開かれること	2.8%
21. 人から良いところに住んでいると言われること	3.5%
22. その他(具体的に)	5.3%
23. 特にない	27.9%
無回答	3.7%

問6 あなたの足立区に対する気持ちとして、以下の項目についてどの程度あてはまりますか。
 (は(ア)～(ウ)それぞれヨコに1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえ	そう思わない	わからない	無回答
回答例	(1)	2	3	4	5	
(ア) 足立区に愛着をもっている	22.9%	41.7%	10.1%	9.8%	8.9%	6.6%
(イ) 足立区に誇りをもっている	6.6%	23.2%	24.4%	21.3%	14.7%	9.8%
(ウ) 足立区を人に勧めたい	6.3%	22.8%	21.8%	19.9%	20.2%	8.9%

問7 あなたは、足立区のイメージ(印象)をこれまでよりも良くしたいと思いますか。
 (は1つだけ)

1. そう思う	54.1%	3. どちらかといえばそう思わない	1.2%
2. どちらかといえばそう思う	32.0%	4. そう思わない	1.5%
		5. わからない	7.2%
		無回答	4.0%

(問7で「3. どちらかといえばそう思わない」「4. そう思わない」とお答えの方に)

問7-1 足立区のイメージ(印象)をよくしたいと思わない理由を、どのようなことでも結構ですので、ご自由にご記入ください。

(全員の方へ)

問8 次にあげる区民と区に関わる活動の中で、あなたがこの1年間のうちに参加されたものは何ですか。(はあてはまるものすべて)

1. 町会や自治会、老人会、子ども会、PTAなどの活動	28.1%
2. ボランティアやNPO(民間の非営利活動の組織)などの活動	4.1%
3. 地域の文化サークルや体育サークルなどの活動	10.2%
4. 区の各種委員会や審議会、勉強会などの活動	2.0%
5. 区が主催する各種イベント、催し物	18.0%
6. その他()	1.8%
7. 特にない	50.2%
無回答	5.3%

次ページ問9へ

(問8で「7.特にない」以外をお答えの方に：ここ1年の間になんらかの活動に参加した方におうかがいします)

問9 どのような方法でその活動を知りましたか。(はあてはまるものすべて)

1. あだち広報・公社ニュースときめき	36.6%
2. ポスター	10.5%
3. 町会・自治会の回覧板	40.1%
4. ポストに投函されたチラシ	4.7%
5. 区民事務所や住区センターに置かれたチラシ	11.7%
6. 足立区ホームページ	3.0%
7. その他()	11.9%
無回答	22.6%

(全員の方へ)

問10 では今後、あなたが参加したいと思う活動はどれですか。(はあてはまるものすべて)

1. 町会・自治会の運営に関する活動	14.6%
2. 公園の清掃や住区センターの行事などに関する活動	10.3%
3. 子ども会など青少年の健全育成に関する活動	7.4%
4. スポーツ指導に関する活動	6.0%
5. 放課後子ども教室などの地元の小・中学校運営に関する活動	4.2%
6. 図書館ボランティアなどの地域学習に関する活動	5.9%
7. ボランティア清掃など住み続けたいまちをつくる活動	8.4%
8. 男女共同参画に関する活動	2.2%
9. 避難所運営などの災害対策に関する活動	6.6%
10. 防犯パトロールなどのまちの防犯に関する活動	7.7%
11. 障がい者の支援に関する活動	7.1%
12. 高齢者の支援に関する活動	12.7%
13. 自然や家族、地域の健康づくりを支援する活動	13.0%
14. 緑の普及啓発を行う緑の協力員など自然環境の保全に関する活動	7.1%
15. フリーマーケットやゴミの集団回収などの、資源のリサイクルなどに関する活動	11.0%
16. 子育てアドバイザーなど子育て支援に関する活動	6.8%
17. 伝統芸能の保護・継承に関する活動	5.8%
18. その他(具体的に	2.0%
19. 特にない	36.2%
無回答	6.6%

「ビューティフル・ウィンドウズ」運動についておうかがいします

問 1 1 あなたは、足立区が取り組んでいる「ビューティフル・ウィンドウズ運動()」という取り組みを知っていますか。(は1つだけ)

「ビューティフル・ウィンドウズ運動」とは「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑えようという足立区独自の運動です。区は、警視庁や区民のみなさんと協働して、まちの美化活動や防犯パトロールなどの取り組みを推進し、犯罪のない住みよいまちの実現をめざしています。

1. 知っており、活動を実践している	3.3%
2. 知っているが、特に何も行ってない	10.8%
3. 名前は聞いたことはあるが、内容はわからない	12.7%
4. 知らない(初めて聞いた)	69.7%
無回答	3.5%

問 1 2 あなたは以下に挙げたような「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の活動のうち、どのようなことを行っていますか。(はあてはまるものすべて)

1. まちの美化活動(ゴミ拾い、門掃きなど)	13.2%
2. 緑化活動(花壇づくり、グリーンカーテンの設置など)	7.1%
3. 鍵の取り替えや窓の強化など、家への侵入をしづらくする	9.3%
4. ひったくり防止ネットの使用や、バックを壁側に持つなどする	21.1%
5. ワンチャリ・ツーロック(自転車の鍵を2個にする)	6.5%
6. 防犯ブザーなどの防犯グッズを携帯する	3.0%
7. 玄関等に防犯カメラやセンサー等の機器を取り付ける	5.1%
8. 防犯パトロールなどのボランティアへの参加	3.5%
9. あいさつなどの声掛け運動	16.2%
10. 駐輪場の利用(自転車を放置しない)	30.0%
11. ペットの糞対策(ペットの糞を放置しない)	10.3%
12. その他()	3.0%
無回答	34.5%

▶ (問 1 2 で 3 ~ 8 のいずれかに該当した方に)

問 1 2 - 1 あなたが防犯対策を始めたきっかけは何ですか。(はあてはまるものすべて)

1. 治安が悪化したと感じたから	51.3%
2. 自分や家族、知人が被害にあった(あいそうになった)から	37.1%
3. 警察から防犯指導を受けたから	11.8%
4. いろいろな防犯設備があるのを知ったから	14.4%
5. その他()	8.4%
無回答	5.8%

(全員の方へ)

問13 あなたの住まいの地域について、今年に入ってから現在までの間、以下の項目についてどのように感じになりましたか。(は(ア)~(キ)それぞれヨコに1つずつ)

	減少	明らかに減っている	どちらかといえば減っている	以前と変わらない	どちらかといえば増えている	明らかに増えている	増加	無回答
回答例	→	1	2	(3)	4	5		
(ア) ゴミやタバコのポイ捨て	→	10.4%	36.7%	38.3%	4.1%	2.8%		7.7%
(イ) 放置自転車	→	10.5%	37.9%	34.5%	6.1%	2.2%		8.7%
(ウ) ひったくりや自転車の盗難	→	5.1%	24.4%	44.2%	8.7%	4.4%		13.1%
(エ) ペットの糞	→	6.8%	29.8%	38.4%	11.1%	6.6%		7.4%

	増加	明らかに増えている	どちらかといえば増えている	以前と変わらない	どちらかといえば減っている	明らかに減っている	減少	無回答
回答例	→	1	(2)	3	4	5		
(オ) まちなかの花や緑	→	6.2%	30.9%	49.9%	3.9%	0.8%		8.3%
(カ) あいさつなどの声掛け運動	→	1.6%	12.5%	67.1%	6.2%	3.0%		9.6%
(キ) 防犯パトロール	→	4.5%	24.7%	54.7%	5.1%	1.7%		9.4%

問14 あなたは、足立区の治安についてどのようなイメージを持っていますか。また、「3.どちらかといえば良くない」「4.良くない」を選んだ方は、その理由もお答えください。(は1つだけ)

1. 良い	3.7%	3. どちらかといえば良くない	29.3%
2. どちらかといえば良い	23.1%	4. よくない	16.6%
		5. わからない	20.6%
		無回答	6.6%

(理由について)

(全員の方へ)

問15 あなたやあなたの身近な人で、足立区内で実際に犯罪に巻き込まれたり、危険な目にあったりしたことはありますか。(は1つだけ)

1. 一度もない	39.6%
2. 自転車盗などの軽犯罪にのみあったことがある	50.0%
3. 重大な犯罪に巻き込まれたことがある	6.3%
無回答	4.1%

小・中学校教育についておうかがいします

問16 あなたは、小・中学校教育について関心がありますか。(は1つだけ)

1. 非常に関心がある	21.7%	3. どちらともいえない	19.8%	5. 全く関心がない	5.6%
2. やや関心がある	31.9%	4. あまり関心がない	14.5%	無回答	6.5%

問17 あなたは、足立区の小・中学校教育にどのようなイメージ(印象)を持っていますか。(は(ア)~(オ)それぞれヨコに1つずつ)

	そう思う	そど 思う か とい え ば	そど うち 思 わ か な い い え ば	そう 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
回答例 →	(1)	2	3	4	5	
(ア) 子どもたちの学力が高い →	1.1%	4.9%	20.8%	37.6%	25.1%	10.5%
(イ) 学校が子どもたちの学力向上に取り組んでいる →	2.8%	19.3%	18.7%	15.3%	33.6%	10.3%
(ウ) 子どもたちの体力が強い →	2.0%	11.8%	23.0%	21.0%	31.7%	10.5%
(エ) 部活動が活発に行われている →	6.2%	25.2%	15.3%	9.4%	33.2%	10.7%
(オ) 学校が地域に開かれている →	6.4%	23.9%	16.8%	10.6%	32.0%	10.3%

問18 あなたが、足立区の小・中学校教育で良くなってきたと思うことはなんですか。(は3つまで)

1. 基礎学力を身に付ける授業が充実してきた	4.3%
2. 子どもたちの学力が上がってきた	2.2%
3. 体験型の学習が充実してきた	7.7%
4. 大学と連携した区独自の授業が増えた	1.7%
5. 子どもたちの体力が上がってきた	2.7%
6. 部活動などで好成績を収める子どもが増えた	10.9%
7. 給食の質が上がった	10.8%
8. 幼稚園・保育園と小学校との連携が進んだ	4.1%
9. 学校が地域に開かれた存在になった	11.8%
10. 教育現場へのボランティアの参加が盛んになった	5.8%
11. その他(具体的に)	0.6%
12. 良くなってきたと思うことは特にない	11.6%
13. わからない	47.1%
無回答	10.2%

問19 足立区が行っている、教育に関する次の取り組みについて知っていますか。

(は(ア)～(エ)それぞれヨコに1つずつ)

	内容まで知っている	名前だけ知っている	知らない	無回答
(ア) 魚沼自然教室 足立区の全区立中学校で行われる自然教室。生徒たちは、新潟県魚沼市で田植えや稲刈りのほか、林業体験や登山、地域の方々と交流しながらの食文化体験など、様々な交流・体験を行う	6.5%	15.6%	70.9%	6.9%
(イ) 放課後子ども教室 次世代を担う児童の健全育成を支援することを目的として、地域の方々のご協力をいただき、放課後における小学校の校庭や教室、体育館等を活用した子どもたちの安全・安心な活動拠点(放課後の居場所)を確保・提供している	13.2%	22.1%	56.9%	7.8%
(ウ) おいしい給食の取り組み 自然の恵みや料理を作ってくれる人への感謝の気持ちや、給食の時間がより楽しく、心を豊かにすることができる「生きた教材」として、給食をもっとおいしく食べてもらうための取り組み	8.4%	17.4%	66.4%	7.9%
(エ) 開かれた学校づくり協議会 地域が学校を支えているという視点に立ち、校長が学校情報を積極的に開示し、地域の理解と意見や助言を得る場として各学校ごとに設置している協議会	10.3%	16.1%	65.7%	7.9%

郷土博物館についておうかがいします

問20 郷土博物館は、平成20(2008)年に、宿場模型や祭りの山車を飾っていた展示から、パソコンを置いたホールや都営住宅模型の展示などへ新しくしましたが、ご存知ですか。

(は1つだけ)

1. すでに郷土博物館に行ったので、知っている	4.9%
2. 郷土博物館に行っていないが、知っている	9.4%
3. 郷土博物館自体は知っているが、展示が新しくなったことは知らなかった	35.1%
4. 郷土博物館自体を知らない	46.7%
無回答	3.7%

問21 郷土博物館が現在行っている以下の事業の中で、あなたが今後期待するものは何ですか。期待するものを2つまでお選びください。(は2つまで)

1. 特別展・企画展	19.8%
2. 子ども向けイベント(工作教室など)	24.6%
3. 講座・講演会	11.2%
4. 史跡巡りなどの野外講座	18.7%
5. 講師派遣	2.2%
6. ホームページ等での資料の検索や情報公開の充実	13.6%
7. 博物館以外の場所での展示(出前展示)	7.9%
8. 郷土資料の収集と保存	17.8%
9. その他()	5.9%
無回答	21.9%

「あだち広報」についておうかがいします

問2 2 あなたは、「あだち広報」をどの程度読んでいますか。(は1つだけ)

1. ほとんどの記事を読んでいる	問2 3、問2 4へ	24.0%
2. 興味のある記事だけを読んでいる		47.2%
3. 見出しだけをながめる程度		17.5%
4. ほとんど読まない		9.8%
無回答		1.5%

(問2 2で「4. ほとんど読まない」とお答えの方に)

問2 2 - 1 「あだち広報」をほとんど読まない理由を、どのようなことでも結構ですので、ご自由にご記入ください。

(問2 2で「4. ほとんど読まない」以外にあてはまる方に：「あだち広報」を読んでいる方へ)

問2 3 「あだち広報」でよく読む内容はどのようなものですか。

以下の中から、よく読んでいると思う内容について上位3つまでお選びください。

(は3つまで)

1. 一面(表紙)	34.5%
2. 特集面(見開きカラー中面)	31.8%
3. お知らせ記事(区の制度関係)	51.8%
4. お知らせ記事(講座・イベント情報)	52.5%
5. まちの見どころ(区の施設や史跡などの紹介)	37.2%
6. インタビューなどの取材記事(区政の現場の取材記事「シリーズ現場」など)	8.6%
7. 投稿企画(携帯メールからの投稿写真を紹介する携帯deあだちなど)	1.7%
8. その他()	1.2%
無回答	8.9%

(問2 2で「4. ほとんど読まない」以外にあてはまる方に：「あだち広報」を読んでいる方へ)

問2 4 「あだち広報」の“読みやすさ”について、ご不満の点はありますか。

以下の中にご不満に思う点があれば、すべてお選びください。

(はあてはまるものすべて)

1. 活字が小さい	10.3%
2. 写真が小さい	5.8%
3. レイアウトがよくない	4.8%
4. カラーページが少ない	6.9%
5. 記事内容が難しい	1.8%
6. 全体の印象が堅い	15.1%
7. その他()	2.1%
8. 特にない	50.5%
無回答	19.4%

(全員の方へ)

問25 「あだち広報」で今後充実してほしい内容は何ですか。

(はあてはまるものすべて)

1. 一面(表紙)	8.9%
2. 特集面(見開きカラー中面)	18.5%
3. お知らせ記事(区の制度関係)	41.7%
4. お知らせ記事(講座・イベント情報)	42.9%
5. まちの見どころ(区の施設や史跡などの紹介)	39.9%
6. インタビューなどの取材記事(区政の現場の取材記事「シリーズ現場」など)	10.1%
7. 投稿企画(携帯メールからの投稿写真を紹介する携帯deあだちなど)	3.9%
8. その他()	4.7%
無回答	12.3%

問26 区政に関する情報を得るために、今後期待する広報媒体(メディア)は何ですか。

(はあてはまるものすべて)

1. 広報紙(あだち広報)	63.6%
2. ケーブルテレビ足立で放映中の区提供番組	20.3%
3. 足立区公式ホームページパソコン版	23.7%
4. 足立区公式ホームページ携帯版	10.1%
5. Aメール(足立区メール配信サービス)	7.3%
6. その他()	2.7%
無回答	11.0%

区民の方が日頃から心がけていることについておうかがいいたします

問27 あなたが環境のために心がけていることは何ですか。(はあてはまるものすべて)

1. ごみと資源の分別を実行している	87.0%
2. ごみやすいがらのポイ捨てはしていない	77.5%
3. マイバッグを使うなどして、不要なレジ袋を断っている	51.3%
4. 環境に配慮した製品を利用するようにしている	17.4%
5. 節電や節水など省エネルギーを心がけている	54.9%
6. その他()	1.6%
7. 特にない	1.6%
無回答	1.7%

問28 あなたが大地震などの災害に備えていることは何ですか。(はあてはまるものすべて)

1. 区の指定した避難場所がどこにあるのかを知っている	54.0%	6. 非常食・飲料水を備蓄している	30.0%
2. 家具の転倒防止の対策を行っている	23.9%	7. 地震保険に加入している	25.0%
3. 町会や自治会の防災訓練に参加している	14.7%	8. その他()	0.5%
4. 非常持ち出し品をまとめている	21.5%	9. 特にない	17.8%
5. 自宅に消火器を備えている	32.4%	無回答	1.7%

問 2 9 あなたが「洪水などによる浸水被害」に備え意識していることはありますか。

(はあてはまるものすべて)

1. 足立区洪水ハザードマップを知っている	16.8%
2. 町会や自治体の防災（水防）訓練に参加している	7.2%
3. 家庭で浸水を防ぐための方法や水防用具を準備している	0.8%
4. 非常持ち出し品をまとめている	19.3%
5. 非常食・飲料水を備蓄している	24.8%
6. 家や土地が浸水を想定した構造でつくられている	6.4%
7. 台風や雷雨などの気象情報に注意している	53.2%
8. 国や都の雨量や河川水位をホームページ（注）で確認している	2.2%
9. 家族と浸水等の被害が生じたときの連絡方法、集合場所の確認をしている	9.6%
10. 水害等にそなえて家屋・家財の保険に加入している	11.8%
11. その他（)	0.4%
12. 特に意識していない	25.5%
無回答	3.7%

（注）「川の防災情報」（国土交通省ホームページ）等

問 3 0 消費者トラブルから消費者を守る制度に『クーリング・オフ』がありますが、この制度について知っていますか。（ は1つだけ）

1. 内容まで知っている	13.6%	3. 名前だけは知っている	22.4%
2. ある程度知っている	49.7%	4. 知らない	9.5%
		無回答	4.8%

（問 3 0 で「 1 . 内容まで知っている」が「 2 . ある程度知っている」とお答えの方に）

問 3 0 - 1 知っている内容をお選びください。（ はあてはまるものすべて）

1. クーリング・オフ制度とは、消費者が契約してしまった後に、一定期間内であれば無条件で契約を解除できる	91.9%
2. クーリング・オフできる取引は、法律や約款などに定めがある場合に限る	23.0%
3. クーリング・オフ期間は、8日間（取引によっては20日間）である	58.8%
4. 広告を見て自分から電話やインターネットで申込んだ場合は、クーリング・オフできない	13.5%
5. 自分からお店に出向いて買ったものには、クーリング・オフが適用されない	16.6%
6. 通信販売で注文したものには、クーリング・オフの適用はされない	10.0%
7. クーリング・オフは、必ず書面で行う	20.7%
8. その他（)	0.3%
無回答	0.9%

保健・医療や高齢者福祉についておうかがいいたします

問3 1 保健と医療などについておうかがいします。(はあてはまるものすべて)

1. 自分の健康について心配なことがある	42.0%
2. 毎年健康診断を受けている	57.3%
3. 栄養バランスを考えた食事がとれている	27.2%
4. 健康のため仕事や家事以外で身体を動かす習慣がある	27.7%
5. 疲れているのに2週間以上寝付けない、途中で目が覚める、朝早く起きてしまうことがある	6.6%
6. 現在、喫煙習慣がある	18.0%
7. 健康づくり、子どもの健康、感染症、医療機関などの情報が区から提供されており、利用しやすいと感じる	8.0%
8. 安心して受診できる医療機関が身近にある	31.5%
9. その他()	1.7%
10. 特になし	6.5%
無回答	2.2%

問3 2 高齢者の権利擁護に関して、区及び社会福祉協議会等が行っている次の取り組みについて知っていますか。(は(ア)～(エ)それぞれヨコに1つずつ)

	内容まで知っている	名前だけ知っている	知らない	無回答
(ア) 成年後見制度 自分で十分な判断ができない人のために、後見人等を選任して本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守る制度です。	13.8%	35.2%	46.9%	4.1%
(イ) 地域福祉権利擁護事業 障がい者の物忘れ、認知症状がある高齢者の介護に関する契約や金銭管理の支援を、本人との契約によって行う事業です。	2.5%	17.5%	74.2%	5.8%
(ウ) 介護相談員派遣等事業 受入事業所に、定期的に訪問し、提供サービスの現状把握に努めるとともに、利用者の相談対応を行い、事業所の管理者や従事者と意見交換をする。	6.4%	26.7%	61.2%	5.6%
(エ) 認知症サポーター 認知症に対する正しい知識を得る認知症サポーター養成講座を受講し、認知症の方を地域で見守っていただくボランティアです。	2.2%	20.1%	72.0%	5.7%

足立区の区政についておうかがいたします

問33 あなたは、現在の足立区政に満足していますか。(は1つだけ)

1. 満足	4.6%	3. やや不満	17.4%	5. わからない	20.5%
2. やや満足	37.0%	4. 不満足	8.0%	無回答	12.6%

問34 あなたが以前と比べてよくなったと思う区の取り組みと、今後特に力を入れてほしいと思う区の取り組みを、下の表からお選びください。

区の取り組み	内容	以前と比べてよくなったこと (はあてはまるものすべて)	今後特に力を入れてほしいこと (は3つまで)
(1) 都市開発	開発・再開発、美しい街並みや景観づくりなど	35.3%	18.1%
(2) 住宅対策	良質な住宅の供給支援など	7.7%	14.9%
(3) 交通対策	道路や交通網の整備、交通安全対策など	28.0%	27.8%
(4) 自然・緑化対策	公園や緑地、河川の整備など	31.2%	16.0%
(5) 災害対策	防災活動の充実、都市の不燃化など	9.0%	16.8%
(6) 高齢者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、生きがい対策など	14.4%	36.2%
(7) 障がい者支援	在宅生活や介護の支援、施設の整備、就労支援など	8.4%	11.8%
(8) 低所得者対策	生活の援助や自立支援など	7.6%	18.3%
(9) 子育て支援	保育サービスや子育て相談の充実など	12.3%	20.3%
(10) 資源環境対策	省エネルギー、ごみ処理、リサイクルなど	23.5%	8.0%
(11) 保健衛生対策	健康づくり、健康診査、生活衛生など	14.9%	12.7%
(12) 学校教育対策	教育内容の充実、施設の改修など	6.5%	18.1%
(13) 生涯学習振興	文化・スポーツ活動の支援、施設の充実など	8.3%	10.8%
(14) 地域活動支援	町会・自治会活動の支援、青少年の健全育成など	8.0%	6.3%
(15) 社会参加支援	NPOやボランティアの育成や支援など	4.3%	4.3%
(16) 産業振興	商工業の支援、企業起こしの支援、消費者対策など	4.0%	7.9%
(17) 情報提供	広報やホームページなどによる区政情報の提供など	15.2%	5.9%
(18) 男女共同参画推進	男女が平等に社会参加できるしくみづくりなど	3.5%	3.3%
(19) 特にない		13.0%	4.1%
無回答		20.7%	11.0%

問35 次の区の実施について、あなたはどのように感じていますか。

(1)～(4)のそれぞれについてお答えください。(はそれぞれ1つずつ)
また、「3.どちらかといえばそう思わない」「4.そう思わない」を選んだ方は、その理由もお答えください。

(1) 快適で安全なまちづくりが進められている (は1つだけ)

1. そう思う	7.7%	→ (理由について)
2. どちらかといえばそう思う	45.9%	
3. どちらかといえばそう思わない	7.5%	
4. そう思わない	5.3%	
5. わからない	28.1%	
無回答	5.5%	

(2) 景観・街並みが魅力的になってきている (は1つだけ)

1. そう思う	9.1%	→ (理由について)
2. どちらかといえばそう思う	46.0%	
3. どちらかといえばそう思わない	7.3%	
4. そう思わない	5.5%	
5. わからない	26.7%	
無回答	5.3%	

(3) 区の情報を知ることができる (は1つだけ)

1. そう思う	10.6%	→ (理由について)
2. どちらかといえばそう思う	48.6%	
3. どちらかといえばそう思わない	3.9%	
4. そう思わない	2.7%	
5. わからない	28.2%	
無回答	5.9%	

(4) 区民・団体等と区役所が協力・連携(協働)して事業を進めている (は1つだけ)

1. そう思う	4.9%	→ (理由について)
2. どちらかといえばそう思う	24.8%	
3. どちらかといえばそう思わない	2.4%	
4. そう思わない	2.4%	
5. わからない	58.7%	
無回答	6.8%	

問36 あなたは、区政への参加・協力についてどのようにお考えですか。(は1つだけ)

1. 積極的に参加・協力したい	4.4%	4. 参加・協力したくない	3.0%
2. ある程度は参加・協力したい	50.0%	5. わからない	27.7%
3. あまり参加・協力したくない	10.1%	無回答	4.8%

区政への区民の意見の反映についておうかがいたします

問37 あなたは、区政に区民の意見が反映されていると思いますか。(は1つだけ)

1. そう思う	3.3%	4. そう思わない	9.2%
2. どちらかといえばそう思う	18.0%	5. わからない	42.7%
3. どちらかといえばそう思わない	15.5%	無回答	11.3%

問38 区政への区民の意見の反映について、あなたがあてはまると思うものはどれですか。

(は(ア)~(キ)それぞれヨコに1つずつ)

	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
回答例	1	(2)	3	4	5	
(ア) 交通の新規開通や市街地開発など、区が区民生活の便宜を積極的に図ってくれている	7.5%	33.6%	11.8%	10.7%	27.4%	8.9%
(イ) 区民の活動を区が積極的に支援してくれる	2.5%	21.0%	14.4%	8.0%	44.2%	9.9%
(ウ) 「区民の声」や「パブリックコメント制度」、「区役所各課のEメール」など意見を言うことができる	2.5%	17.4%	10.0%	5.1%	54.4%	10.6%
(エ) 区民の意見を反映させる流れが明確である	1.4%	8.9%	13.4%	12.1%	53.5%	10.6%
(オ) 出した意見に対し、きちんと返答がもらえる	2.3%	10.6%	11.2%	10.4%	55.2%	10.2%
(カ) 出した意見に対し、きちんと改善がなされている	1.3%	8.5%	12.3%	11.5%	55.7%	10.6%
(キ) 区政に不満がなく、区民の意見を区がおおむね理解していると思う	1.7%	15.5%	13.1%	16.5%	43.8%	9.4%

問39 足立区には「区民の声」や「パブリックコメント制度」、「区民モニター」など意見を言うことができる場合がありますが、利用しようと思いますか。(は1つだけ)

1. ぜひ利用したい	3.9%	3. あまり利用したくない	19.4%
2. 機会があったら利用したい	60.9%	4. まったく利用したくない	5.6%
		無回答	10.1%

(問39で「3. あまり利用したくない」「4. まったく利用したくない」とお答えの方に)

問39-1 利用しようと思わない理由は何ですか。(はあてはまるものすべて)

1. 特に言いたい意見がないから	38.9%
2. 言いたい意見はあるが、面倒だから	18.7%
3. 言いたい意見はあるが、時間がないから	13.4%
4. 言いたい意見はあるが、意見を言っても変わらないと思うから	39.9%
5. その他()	5.6%
無回答	0.3%

人権についてのお考えをおうかがいいたします

問40 あなたは、人権について関心がありますか。(は1つだけ)

1. 非常にある	18.9%	3. どちらともいえない	20.5%	5. 全くない	3.1%
2. 少しある	42.5%	4. あまりない	9.6%	無回答	5.4%

問41 あなたは、社会全体において、男女の地位が平等だと感じますか。(は1つだけ)

1. 男性のほうが非常に優遇されている	6.1%	4. どちらかといえば、女性のほうが優遇されている	9.4%
2. どちらかといえば、男性のほうが優遇されている	43.6%	5. 女性のほうが非常に優遇されている	1.6%
3. 平等	20.1%	6. わからない	14.8%
		無回答	4.3%

(「男性または女性が優遇されている」とお感じの方におたずねします)

問42 どのような場面で、男女が平等になっていないとお感じになりますか。
最もあてはまるものを1つだけ選んでください。(は1つだけ)

1. 家庭生活	17.0%
2. 職場	44.3%
3. 法律や制度・政治	16.9%
4. 教育(学校教育・教育を受ける機会も含めて)	2.2%
5. 地域活動(P T A・ボランティア活動・町会, 自治会活動など)	4.6%
6. 社会通念や習慣・しきたりなど	35.0%
7. その他()	2.7%
無回答	5.7%

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

ご記入がお済みになりましたら、まことにお手数ですが、このアンケート用紙と一緒に送りいたしました返信用封筒(切手を貼る必要はありません)に入れて9月30日(木)までにご投函ください。

第 39 回 足立区政に関する世論調査

2011年3月

発行 足立区政策経営部
広報室長付区民の声相談課
東京都足立区中央本町1-17-1
電話 03-3880-5111(代表)

実施 株式会社 総合企画
東京都台東区浅草橋1-7-2
岩崎ビル4階
電話 03-5829-6203(代表)



世論調査報告書の《概要版》、本編、《集計表》は足立区ホームページでご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.city.adachi.tokyo.jp> 足立区政策経営部広報室長付区民の声相談課